

福井県埋蔵文化財調査報告 第146集

福井城跡

— J R 北陸線外2線連続立体交差事業に伴う調査 —

第2分冊

— 遺物編 —

2015

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

例 言

1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターがJR北陸線外2線連続立体交差事業に伴い、平成12～14年度に実施した福井城跡(福井県福井市大手2丁目、中央1・2丁目所在)の発掘調査報告書である。ただし、第1分冊として遺構編を平成25年度に刊行しており、本書は遺物編となる。また、頁数多数のため遺物編本文と遺物写真図版・各種分析を第2・3分冊として分けた。

2 本書の編集は御嶽があたり、中原義史、御嶽、秋山綾子、岩田 隆、木村茉莉、網谷克彦、杉田 曜が分担して執筆した。分担は以下の通りである。

岩田 第1章第1・3・7・8節、第6章第1節 木村 第1章第2・4～6節

中原 第2章 網谷 第3章第1節 杉田 第3章第2節

秋山 第3章第3節 御嶽 第4・5章、第6章第2～4節、第7章

この他、寒川 旭(独立行政法人産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター)、丸山真史(奈良国立文化財研究所・当時)、藤澤珠織(青森中央学院大学)各氏から各種自然科学分析について玉稿をたまわり、附編として第3分冊に掲載した。

3 福井城跡に関するこれまでの成果の発表のうち、本書と齟齬のある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。

4 出土遺物(土器・陶磁器、金属製品、石製品)は、一部を除いて、デジタルトレースおよび写真撮影を株式会社総合文化企画(平成19年度)、株式会社文化財サービス(平成20・22年度)、株式会社イビソク(平成22・23年度)に委託した。このうち石製品は大型品を中心に図化作業も委託した。委託した図の校正・図版作成は河村、御嶽、中原、岩田、木村が行った。木製品については当センターにて実施し、本多が作成した図版を網谷が改編して掲載した。

5 木製品の一部は、平成20・21・23年度に株式会社吉田生物研究所に委託して保存処理を実施した。樹種同定と塗膜構造分析の報告は、複数のものを統合して附編に収めた。また、漆器碗の樹種同定については、福井県立恐竜博物館の協力を得た。

6 出土遺物のうち文字資料の判読は、木製品の墨書については佐藤 圭(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)、石製品については吉田 健(福井県文書館・当時)の両氏のご教示を得た。

7 本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。

8 遺物整理作業は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員が行った。

9 本書では柴田勝家の居城を北庄城、結城秀康入城以降を福井城とし、遺跡名としては北庄城の時期を含めて福井城跡と総称する。また、慶長6年(1601)の結城秀康の越前入国を以て近世とする。

目 次

第1章	土器・陶磁器	1
第1節	I 街区の土器・陶磁器	1
第2節	II 街区の土器・陶磁器	33
第3節	III 街区の土器・陶磁器	74
第4節	IV 街区の土器・陶磁器	114
第5節	V 街区の土器・陶磁器	139
第6節	三ノ丸地区の土器・陶磁器	154
第7節	北庄城期の土器・陶磁器	156
第8節	土師質皿	166
第2章	瓦	169
第1節	軒丸瓦	169
第2節	軒平瓦	172
第3節	軒棧瓦	175
第4節	丸・平・棧・道具瓦	175
第5節	軒瓦の年代および出土地点分布	178
第3章	木製品	181
第1節	出土木製品の概要	181
第2節	漆器椀類の漆絵	227
第3節	漆器椀類の樹種同定	233
第4章	金属製品	237
第1節	金属製品	237
第2節	鋳造関連遺物	255
第5章	石製品	270
第6章	その他の調査地点の遺物	323
第1節	城の橋通地点の土器・陶磁器	323
第2節	城の橋通地点の金属製品	326
第3節	城の橋通地点の石製品	326
第4節	高架側道4号線地点の石製品	331
第7章	まとめ	341

插图目次

第1图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-1①	2	第33图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑩	47
第2图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-1②	3	第34图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑪	48
第3图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-2・3・4	5	第35图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑫	49
第4图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-4(旧河川)①	7	第36图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑬	50
第5图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-4(旧河川)②	8	第37图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑭	52
第6图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-4(旧河川)③	9	第38图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑮	53
第7图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-4④	10	第39图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑯	54
第8图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5①	12	第40图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑰	55
第9图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5②	13	第41图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑱	56
第10图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5③	14	第42图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-2①	57
第11图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5④	16	第43图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-2②	58
第12图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑤	17	第44图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-2③	60
第13图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑥	18	第45图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-2④	61
第14图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑦	20	第46图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-3①	63
第15图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑧	21	第47图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-3②	64
第16图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑨	22	第48图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-3③	65
第17图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-5⑩	23	第49图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1①	75
第18图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-6①	24	第50图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1②	76
第19图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-6②	25	第51图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1③	78
第20图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅰ-6③	26	第52图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1④	79
第21图	土器・陶磁器	中之馬場南堀①	34	第53图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1⑤	80
第22图	土器・陶磁器	中之馬場南堀②	35	第54图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1⑥	81
第23图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1①	36	第55图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-1⑦	82
第24图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1②	37	第56图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-2①	84
第25图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1③	38	第57图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-2②	86
第26图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1④	39	第58图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-2③	87
第27图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑤	41	第59图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-2④	88
第28图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑥	42	第60图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3①	90
第29图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑦	43	第61图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3②	92
第30图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑧	44	第62图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3③	93
第31图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑨	45	第63图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3④	94
第32图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅱ-1⑩	46	第64图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑤	95
				第65图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑥	96
				第66图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑦	97
				第67图	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑧	98

第68図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑨	99	第99図	土器・陶磁器		
第69図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑩	100		屋敷地Ⅴ-3~5④	150	
第70図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑪	101	第100図	土器・陶磁器	三ノ丸・土橋	155
第71図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑫	102	第101図	土器・陶磁器	北庄城期①	158
第72図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-3⑬	103	第102図	土器・陶磁器	北庄城期②	160
第73図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-4①	105	第103図	土器・陶磁器	北庄城期③	161
第74図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅲ-4②	106	第104図	土器・陶磁器	北庄城期④	163
第75図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-1①	115	第105図	土師質皿の分類		168
第76図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-1②	116	第106図	軒丸瓦		170
第77図	土器・陶磁器			第107図	軒丸瓦・丸瓦		171
		屋敷地Ⅳ-2・3①	117	第108図	軒平瓦・平瓦		174
第78図	土器・陶磁器			第109図	軒棧瓦		176
		屋敷地Ⅳ-2・3②	118	第110図	平瓦・道具瓦・刻印拓影		177
第79図	土器・陶磁器			第111図	下駄の計測部位		181
		屋敷地Ⅳ-2・3③	119	第112図	下駄の各時期数量組成		181
第80図	土器・陶磁器			第113図	下駄①		183
		屋敷地Ⅳ-2・3④	120	第114図	下駄②		184
第81図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-3①	122	第115図	下駄③		185
第82図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-3②	123	第116図	下駄④		186
第83図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-3③	124	第117図	17遺構出土の箸の長さ		
第84図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-4①	125		その点数		191
第85図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-4②	126	第118図	無頭類柱の長・上端径分布		193
第86図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-4③	127	第119図	切庭の形態分類と計測部位		195
第87図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-4④	128	第120図	箸・棒状具・楊枝・掘い具		196
第88図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-5①	129	第121図	柱・切庭・折敷		197
第89図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-5②	130	第122図	蓋板・底板の径と各数量		199
第90図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-6①	131	第123図	蓋板・底板・桶・		
第91図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅳ-6②	132		指物柄杓・曲物・その他		204
第92図	土器・陶磁器	道路6・屋敷地Ⅴ-1	140	第124図	鋤頭部形略測図		205
第93図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅴ-1	141	第125図	櫛計測部位		206
第94図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅴ-2①	143	第126図	櫛・柄鏡箱・横槌・木槌・		
第95図	土器・陶磁器	屋敷地Ⅴ-2②	144		叩き板・棒状具・鍬		207
第96図	土器・陶磁器			第127図	漆器櫛類①		210
		屋敷地Ⅴ-3~5①	146	第128図	漆器櫛類②		211
第97図	土器・陶磁器			第129図	漆器櫛類③		212
		屋敷地Ⅴ-3~5②	148	第130図	漆器櫛類④		213
第98図	土器・陶磁器			第131図	漆器櫛類⑤		214
		屋敷地Ⅴ-3~5③	149				

第132図	漆器椀類⑥・搗粉木・自在鉤・ 砥石台・指物箱(二合栞)……………	215	第160図	容器類① 槽……………	271
第133図	刃物柄・楔・ヘラ・ 刷毛・物差・糸巻・傘轆轤・ 上水道継手・鋤頭部形・肘掛・ 箱形列物・舟形・羽子板……………	219	第161図	容器類② 盤……………	272
第134図	木釘・有孔円盤・玩具・人形 板状部材・把手・燭台・ 支脚・十字組物・その他……………	220	第162図	容器類③ 盤……………	273
第135図	棒状具略測図……………	221	第163図	容器類④ 盤……………	274
第136図	楔・刃物柄・ 木釘・蒲鉾形略測図……………	222	第164図	容器類⑤ 盤……………	275
第137図	棒状部材略測図……………	222	第165図	容器類⑥……………	277
第138図	板状部材略測図……………	223	第166図	容器類⑦……………	278
第139図	塊状部材略測図……………	223	第167図	容器類⑧ 鉢……………	279
第140図	墨書木製品1類 (付け札)略測図……………	224	第168図	容器類把手・その他……………	280
第141図	墨書木製品と 墨書や焼印のある蓋類……………	225	第169図	温石・火打石……………	280
第142図	漆器椀類の樹種顕微鏡写真……………	236	第170図	行火①……………	282
第143図	武器・武具①……………	238	第171図	行火②……………	283
第144図	武器・武具②……………	239	第172図	行火③……………	284
第145図	農工具……………	241	第173図	行火等……………	285
第146図	釘・鉸等……………	242	第174図	七輪・風炉……………	287
第147図	工具・吊金具・分銅等……………	243	第175図	焔炉・竈……………	288
第148図	引手金具・偏止金具等……………	245	第176図	井戸他……………	289
第149図	鍋・包丁等……………	246	第177図	手水鉢……………	290
第150図	匙・吊灯明皿等……………	247	第178図	搗臼・搗棒……………	290
第151図	矢立・鋸金具等……………	248	第179図	石臼①……………	292
第152図	簪等……………	249	第180図	石臼②……………	293
第153図	煙管①……………	251	第181図	硯①……………	294
第154図	煙管②……………	252	第182図	硯②……………	295
第155図	銭貨①……………	253	第183図	砥石①……………	296
第156図	銭貨②……………	254	第184図	砥石②……………	297
第157図	铸造関連遺物 铸造素材・鋳滓等……………	256	第185図	砥石③……………	298
第158図	铸造関連遺物 取鍋・埴塼……………	257	第186図	砥石④……………	299
第159図	铸造関連遺物 鋳型・羽口……………	258	第187図	石瓦①……………	301
			第188図	石瓦②……………	302
			第189図	石瓦③……………	303
			第190図	石瓦④……………	304
			第191図	石瓦⑤……………	305
			第192図	石瓦⑥……………	306
			第193図	石瓦⑦……………	307
			第194図	樋・建材……………	308
			第195図	灯籠……………	309
			第196図	石塔等……………	310
			第197図	重石・錘・軽石……………	312

第198図	将棋盤・人形・その他	313	第210図	4号線地点出土石製品 砥石	336
第199図	城の橋通地点出土 土器・陶磁器①	324	第211図	4号線地点出土石製品 石瓦	337
第200図	城の橋通地点出土 土器・陶磁器②	325	第212図	4号線地点出土石製品 石瓦・石塔類等	338
第201図	城の橋通地点出土金属製品	327	第213図	城ノ橋屋敷地の変遷	342
第202図	城の橋通地点出土銭貨	327	第214図	中之馬場屋敷地の変遷① (17世紀前葉)	344
第203図	城の橋通地点出土石製品 容器類・行火	328	第215図	中之馬場屋敷地の変遷② (17世紀中葉)	345
第204図	城の橋通地点出土石製品 井桁	329	第216図	中之馬場屋敷地の変遷③ (17世紀後葉～18世紀)	346
第205図	城の橋通地点出土石製品 硯・砥石・石瓦等	330	第217図	中之馬場屋敷地の変遷④ (19世紀)	346
第206図	4号線地点出土石製品 容器類	332	第218図	百間堀・三ノ丸・ 元割場の復元	349
第207図	4号線地点出土石製品 容器類・その他	333	第219図	松原屋敷地の変遷	354
第208図	4号線地点出土石製品 行火	334	第220図	「本多七左衛門」邸・ 「磯野」邸の位置	354
第209図	4号線地点出土石製品 石臼・硯等	335	第221図	名前の記された遺物	356

表 目 次

第1表	土器・陶磁器観察表 I 街区	27	第15表	平瓦・熨斗瓦観察表	180
第2表	土器・陶磁器観察表 II 街区	66	第16表	鬼瓦・留蓋観察表	180
第3表	土器・陶磁器観察表 III 街区	107	第17表	遺構別の下駄各器種出土数量	182
第4表	土器・陶磁器観察表 IV 街区	133	第18表	下駄観察表	187
第5表	土器・陶磁器観察表 V 街区	151	第19表	箸観察表	190
第6表	土器・陶磁器観察表 三ノ丸	156	第20表	指物柄杓観察表	192
第7表	土器・陶磁器観察表 中世	164	第21表	栓観察表	194
第8表	土師質皿の各系出現時期	167	第22表	切匙観察表	195
第9表	土師質皿各系別口径	167	第23表	単材型の形態分類と 各類の出土数量	198
第10表	軒瓦出土街区一覧	179	第24表	結合材型の形態分類と 各類の出土数量	199
第11表	軒丸瓦・烏丸・菊丸瓦観察表	180	第25表	年代が判明する遺構から出土した 蓋板・底板各類の時系列を考慮し	
第12表	軒平瓦観察表	180			
第13表	軒棧瓦観察表	180			
第14表	丸瓦・谷丸瓦観察表	180			

	た出土数量表	200	第59表	容器類観察表	314
第26表	単材型蓋板観察表	201	第60表	容器類把手・その他観察表	316
第27表	単材型底板観察表	201	第61表	温石・火打石観察表	316
第28表	単材型蓋底板観察表	202	第62表	調理具等観察表	316
第29表	結合材型蓋板観察表	202	第63表	行火観察表	317
第30表	結合材型蓋底板観察表	202	第64表	石臼観察表	318
第31表	曲物観察表	203	第65表	硯観察表	318
第32表	桶観察表	203	第66表	砥石観察表	319
第33表	櫛観察表	206	第67表	灯籠観察表	319
第34表	遺構別の漆器碗類各器種の 出土数量	208	第68表	石瓦観察表	320
第35表	漆器碗類観察表	216	第69表	桶・建材観察表	321
第36表	墨書・焼印一覧	226	第70表	石塔類観察表	321
第37表	箒観察表	226	第71表	その他の石製品観察表	321
第38表	使用樹種の割合	234	第72表	碁石観察表	322
第39表	漆器碗類樹種同定表	235	第73表	城の橋通地点出土 土器・陶磁器観察表	325
第40表	刀装具・武器観察表	259	第74表	城の橋通地点出土金属製品観察表	327
第41表	小柄小刀観察表	259	第75表	城の橋通地点出土銭貨観察表	327
第42表	武器観察表	260	第76表	城の橋通地点出土石製品観察表	331
第43表	弾丸観察表	260	第77表	4号線地点出土石製品観察表 容器類	339
第44表	農工具観察表	260	第78表	4号線地点出土石製品観察表 行火	339
第45表	釘・鏝・吊金具等観察表	261	第79表	4号線地点出土石製品観察表 硯	340
第46表	分銅・錘等観察表	262	第80表	4号線地点出土石製品観察表 砥石	340
第47表	引手金具・鍵等観察表	262	第81表	4号線地点出土石製品観察表 石瓦	340
第48表	鍋・包丁等観察表	263	第82表	4号線地点出土石製品観察表 その他	340
第49表	匙・皿等観察表	263	第83表	城ノ橋(調査地周辺)の 屋敷地名義の変遷	342
第50表	吊灯皿観察表	263	第84表	中之馬場(調査地周辺)の 屋敷地名義の変遷	347
第51表	矢立・水滴観察表	263	第85表	名前の記された遺物	350
第52表	火箸・鋸金具等観察表	264	第86表	松原(調査地周辺)の 屋敷地名義の変遷	354
第53表	簪・毛拵等観察表	264			
第54表	煙管観察表	265			
第55表	銭貨観察表	266			
第56表	鋳造関連遺物観察表 鋳造素材・鋳滓等	268			
第57表	鋳造関連遺物観察表 取鍋・埴塙	269			
第58表	鋳造関連遺物観察表 鋳型・羽口	269			

第1章 土器・陶磁器

連続立体交差事業(J R 福井駅地点)にかかる発掘調査で出土した陶磁器は16世紀末から近代初頭までコンテナバット約1,770箱と膨大な量であるが、紙面に限りがあるのでそのごく一部を報告する。遺物は街区・屋敷・遺構単位に整理したので、土器・陶磁器観察表・遺物実測図・遺物写真ともにそれに沿って遺構単位に編集した。本文ではその中から、比較的時期にまとまりのある遺構より出土した遺物群を中心に、生産地ごとに紹介する。

第1節 I 街区の土器・陶磁器

1 屋敷地 I-1 (第1・2図、第1表)

土坑4132(第1・2図) 近代のL字状の石列の下層にある土坑で、16世紀末の瀬戸・美濃製品をはじめ17世紀終り頃を下限とする唐津や伊万里等が出土した。

伊万里 見込に笹文を描く皿4132-3は口径に対して高台が小さく、見込は蛇ノ目状に軸刺ぎをして鉄錆を施す。17世紀中頃のものであろう。これに対して4132-1は広く低い高台が特徴で、腰は大きく張り、文様は瑞果文をシンプルに描く。17世紀末頃の製品であろう。蔓花を大きく描く鉢(4132-13)や、高台内の軸を刺ぎ取り鉄錆を塗った無文の青磁鉢(4232-14)もほぼ同じ時期とみられる。

唐津焼 大ぶりの呉器碗(4132-7)は鉄分の少ない白く細かい胎土を使用し、釉も光沢のある透明な灰釉を施した優品である。高台内は兜巾状で、畳付には砂目跡が残る。4132-8は17世紀後半に多く見られる普及品で、4132-7に比べると胎土もやや粗く、半透明釉は胎土を反映してやや褐色がかかる。4132-15は全体に鉄釉を施し、さらに口縁から頸部に掛けて藁灰釉をかけた花瓶である。4132-29は口縁部のみに鉄釉を施した播鉢で、口縁部の沈線より下全面に播目がある。底部は高台を持たず、回転糸切の跡を残す。口縁部を円くおさめるところから、Ⅲ期後半の製品であろう。

瀬戸・美濃焼 茶褐色の鉄釉を腰まで施した天目茶碗(4132-12)、灰釉を腰まで施した丸碗(4132-10)、志野釉が施された大振り碗(4132-4)が出土している。いずれも16世紀末～17世紀初め頃の製品であろう。

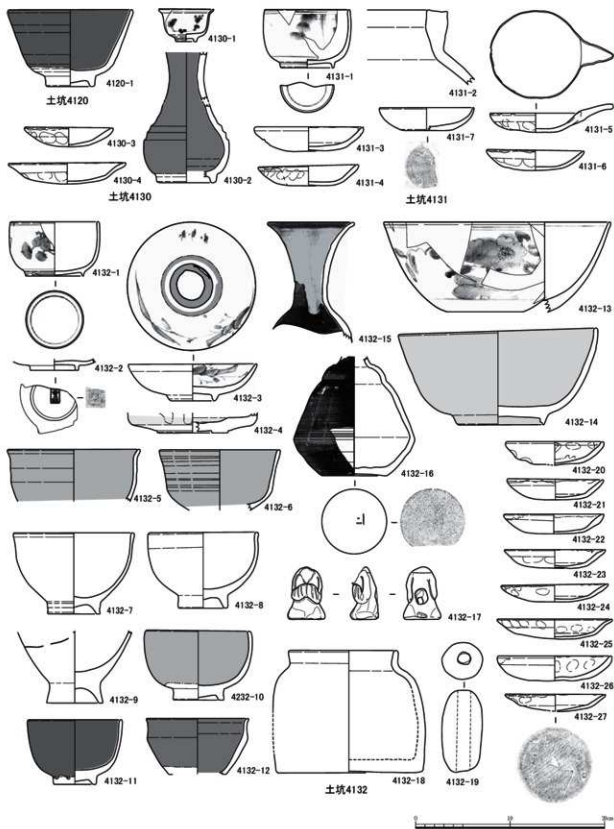
備前焼 4132-16は口縁部を欠くが、細かく粘りのある茶色の胎土から備前焼の花皿であろう。腰部が大きく張り、体部にはロクロ回転による櫛目を施す。全体に備前焼の出土例は少ない。

越前焼 播鉢(4132-28)は、口縁部まで全面に播目を施し、ほぼ全面にやや厚く鉄泥を塗った17世紀中頃から後半にかけての製品であろう。

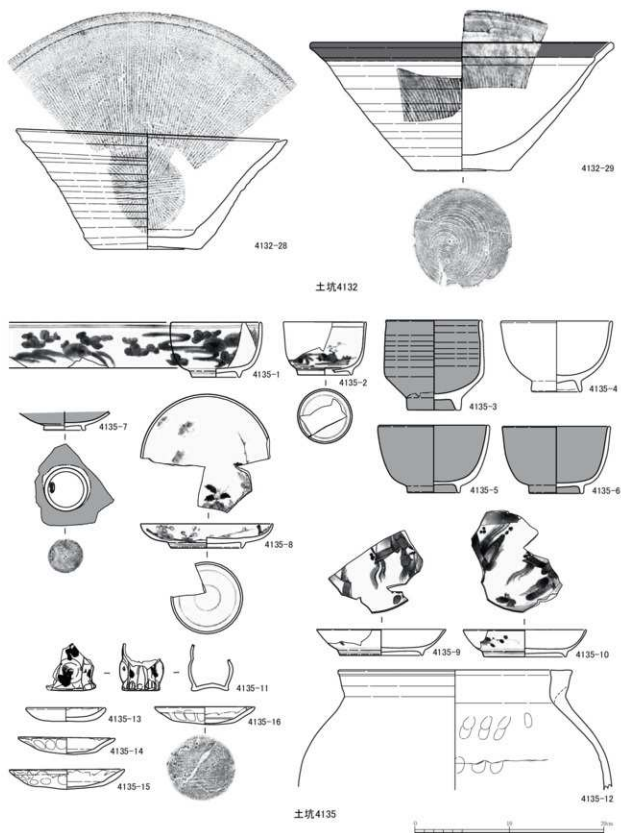
土師質土器 4132-18は、ロクロ成形による底部が平らな壺で、用途として火消し壺を想定した。土師質皿もまとまって出土した。器高が低く、見込と立ち上り部の境界に園縁をつけたD系2(4132-23～25・27)と、底部が円く、回しナデが見込中心まで届かないC系2(4132-20～22・26)が多い。

土坑4135(第2図) 近代の便所と推定される桶の下から見つかった土坑で、17世紀後半～18世紀前半にかけての遺物が出土した。

伊万里 4135-1は比較的大きな高台を有する腰張染付碗で、流水に草花文が描かれる。4135-2も大きな高台の腰張染付碗で遠景に船の山水文が描かれる。大きな高台を有する染付碗はこの時期に多い。蝶に梅花折れ枝文の色絵皿(4135-8)は、空間を活かして丁寧に描いた中級品以上の製品である。これに対して、4135-9・10は2枚とも同じ筆致で川岸を描く。数物のうちの2枚であろう。水滴(4135-



第1図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅰ-1① (縮尺1/4)



第2図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅰ-1② (縮尺1/4)

-11)は内型作りの犬で、緑と赤の文様は後から焼付けている。

唐津焼 唐津碗は半透明の灰釉を施した無地で大きく大ぶりなものが多い。この時期の碗は高台内の兜巾がほとんど目立たなくなる(4135-4)か、なくなる(4135-5・6)。筒碗(4135-3)は体部にロクロ口目を残し、白化粧土の上から灰釉をかける。

京焼 4135-7は薄く丁寧にロクロ引きした碗で、高台部を除いて半透明の灰釉がかかる。高台内には小判形の「清閑寺」の印が押されている。

土師質土器 4135-13は内型成形のG系を手捏ねしたH系の皿で、サイズは8cmと一般のH系に比べて小さい。4135-14～16は手捏ねのD系2で、形態は浅く口縁部が大きく外反する。立ち上り部を内側に親指、外側に曲げた人差指とで挟んでナデ調整を施す。その際、見込と立ち上り部境界に意識的に圏線を入れる。

2 屋敷地 I-2・3 (第3図、第1表)

この2軒の屋敷地は近代の擾乱が著しく遺構の残りが良くなかったので、まとめて紹介する。なお溝4101は屋敷地1と2との境界溝である。

伊万里 4104-1は型作りの染付水滴で、松に鶴がレリーフされている。4207-2は菊文の半筒碗、4207-1は蛸唐草文を施した高台が小さく低い半球碗で、いずれも18世紀後半以降に湯飲茶碗として使用された。4206-1は、基筒底の白磁皿で見込中央に花、周囲に雷文のような文様を型押ししている。

唐津焼 4101-3は口縁が外反する灰釉系の段皿で、見込に胎土目跡が残る。42123-1は鉄絵の上から半透明の灰釉を施した端反碗で、高台内が兜巾状になっていることから、17世紀前半の製品であろう。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(42123-2)はすっぽん口の返りが弱く、腰部以下が無釉であることから大窯IV～V期の製品であろう。

中国製陶磁器 4101-1は口縁が大きく外反し、見込の釉を環状に釉剥ぎした漳州窯の皿である。4101-2は龍泉窯の青磁碗で、見込に印花文がある。

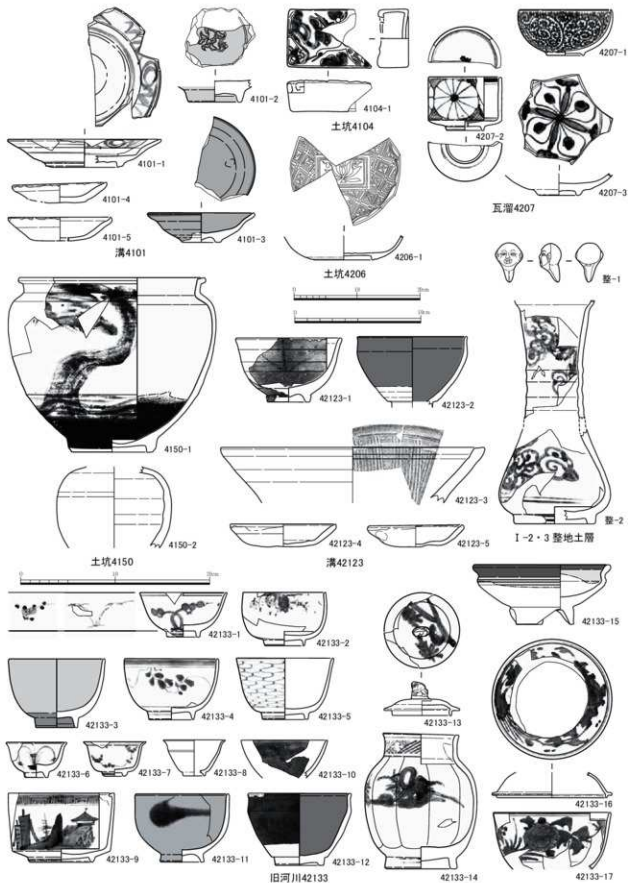
3 旧河川出土遺物 (第3～6図、第1表)

旧河川42133 屋敷地4と5の南半分は、近世初期には河川だった場所で、寛文9年(1669)の大火後、その時被災した焼土で埋められた。したがって出土した遺物は大量であるが、時間的には17世紀中葉以前のものに限られ、伊万里では大橋編年のⅡ期後半からⅢ期前半のものが多い。

伊万里 42133-1～5は17世紀中頃の碗類で、腰部以下に鉄錆を塗った青磁碗(42133-3)、口縁部に圏線を引き、体部に蔓草文を描く(42133-4)、横に長い重網目文(42133-5)は畳付に砂が熔着する。松竹梅を描く外反気味の小碗(42133-1)はやや古く、色絵碗(42133-2)は上絵付の色は失われているが、高台が薄いところからやや後出の製品と考える。

皿類42133-18～20は、口径に対して高台径が37%前後と小さく、器壁はやや厚い。また見込は釉が蛇ノ目状に剥ぎ取られている。文様は、圏線に「大」字状を3カ所に描く単純なもので呉須の発色も悪い。42133-21・25は高台部が小さく基筒底状になる。文様は不明で呉須の色も緑褐色と悪く、地色は灰色である。42133-22・23は輪花皿でやはり高台部が小さい。見込には柳が描かれ、呉須の色は青いが地色は灰色から抜け出ていない。見込に「福」、内側に変形四方樺と蔓草を描く皿(42133-26～28)は、地色も青味がかった白に近くなる。見込に松と梅を描く42133-30になると高台径は大きくなり、地の色もより白味が増す。これらは数枚～10枚単位で購入されていたものの一部であろう。

こうした数物の普及品に対して、中級品に属する鉢(42133-31)の場合は、山水の文様が丁寧に描か



第3図 土器・陶磁器 屋敷地1-2・3・4 (縮尺1/4、4150-1・42133-16・17は1/6、整-1は1/3)

れ、地も白く呉須は青く発色している。青磁皿(42133-32)は内面に葉をモチーフとした文様を彫り込む。高台は小さく、畳付は露胎で砂が多く熔着している。

42133-14はロクロ成形後体部に11面に成形した小型の染付壺で、体部には二景の山水を描く。蓋付だったらしく口縁部は軸を拭取っている。この壺も17世紀中頃の製品であろう。42133-9は船と楼台を描く香炉もしくは火入で、内部は露胎で底には細かく白い砂が付着し、畳付の軸は削り取っている。42133-16・17は鉢とその蓋で、いずれにも牡丹が描かれている。この種の蓋付鉢はこの時期に散見される。42133-36は2頭の龍を描く瓶で、ロクロ成形による器壁は厚く、畳付には砂が熔着する。

唐津焼 この時期の遺物群としては唐津焼が少ない。42133-11は、一筆施した銅緑釉の上から透明に近い灰釉をかけた碗で、高台内は兎耳状に削り込み、畳付には胎土目跡が残る。42133-37は腰部から高台部をいっきに削出した皿で、単純な線で草文を描いた後、褐色の灰釉を荒くかける。見込と畳付には砂目跡が残る。42133-40は1尺の大鉢で、内側に褐色の灰釉をかけた上に白化粧土を施す。その白化粧土を輪や波状に拭取り、さらに銅緑釉と褐釉を塗る。腰部以下は露胎で見込には6カ所砂目跡が残る。42133-15は香炉で、3カ所に切り目を入れた高く小さい高台が付く。軸は白化粧土を塗った口縁部付近にのみ緑釉を施す。42133-38はタタキ成形の瓶で内部の底部付近を除いて全面に鉄釉を施す。肩部に数条の櫛目がある。底部が大きくすわりの良い、いわゆる船底利である。

中国製陶磁器 この時期はまだ中国製陶磁器が残る。42133-34は口縁部に四方樺、見込に山水を描く染付小皿で、畳付には砂が熔着している。42133-35は口縁部が折縁状の白磁皿で、いずれも景德鎮窯の製品であろう。

瀬戸・美濃焼 この時期としては意外と少ない。42133-12は黒と茶色の鉄釉を二重掛けした天目茶碗で、器高があり高台も厚いところから連房Ⅱ期頃の製品であろう。

越前焼 42133-50・51はねじたて技法による壺と甕で、口縁部はロクロで整えている。壺の肩にはヘラによる窯印がある。いずれも外面には鉄泥をハケ塗る。なお甕は鉄泥に灰を混ぜていたのか、鉄泥の厚いところや釉溜りは白く発色している。42133-52・53もねじたて技法による搦鉢で、搦目は口縁部直下まで施される。口縁部の形態に違いがあり、前者はⅦ-1期で、後者はⅥ-2期であろう。

土師質土器 C系1(42133-42・43・45)、C系2(42133-44・46～48)、D系1(42133-49)の土師質皿が出土した。出土量ではC系2が多い。42133-41はC系2に把手を付けたものである。多くの土師質皿に灯芯跡や油カスが付着しているが、42133-47にはそれがない。

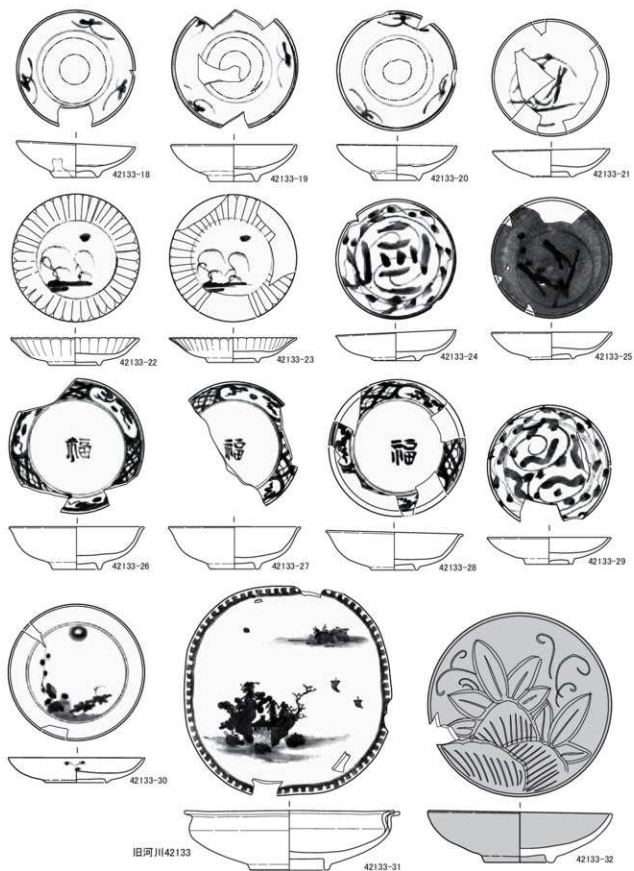
4 屋敷地4(第6・7図、第1表)

土坑4229(第7図) 屋敷地3との境界付近の土坑からの出土遺物群で、时期的には18世紀前半から近代を含み、やや幅がある。

伊万里 4229-1は白地に松に鶴と、赤地に牡丹唐草、丸に四方樺を描く色絵の段重である。4229-2は染付の火入であろうか。外面に枝花と菱垣文を描き、口縁内側は軸を拭取る。4229-4は外面に赤壁賦とその絵を描き、内面口縁部には蛸唐草を帯状に描く外反する鉢である。4229-6は脚が浮くいわゆる千鳥足の香炉である。4229-3は型紙による染付碗で、コバルトも濃く近代に属する。

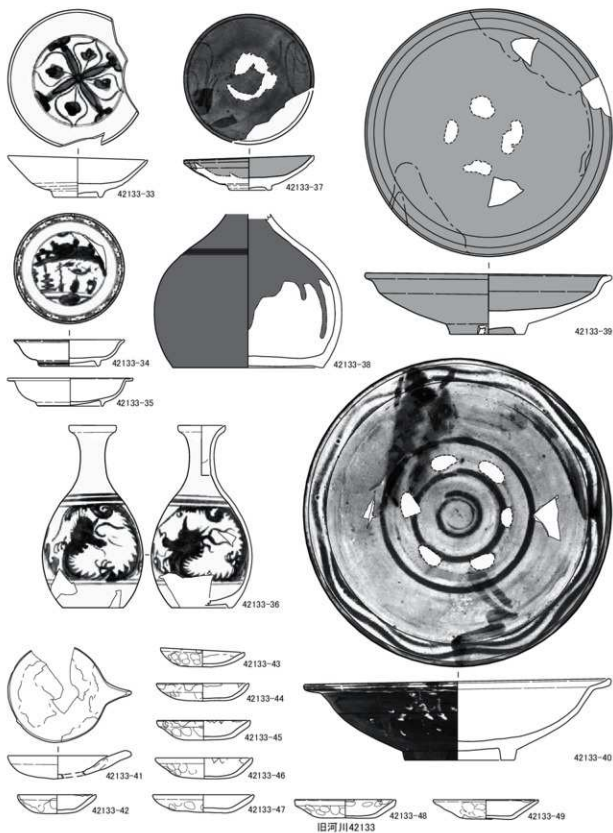
京・信楽焼 4229-7は口縁部下に梅花を白泥でイッチン風に盛り上げた後に錆絵で梅枝を描く。外は褐色の灰釉系、内は白色釉を施す。畳付部だけが露胎である。4229-11はロクロ成形による白磁灯明皿で、内側に油溜がある。4229-12もロクロ成形による信楽の灯明皿で、内面には灰釉系の軸が施される。

産地不明陶器 4229-8・9はいずれも産地不明の土瓶と土鍋で、指押え技法によって成形され、

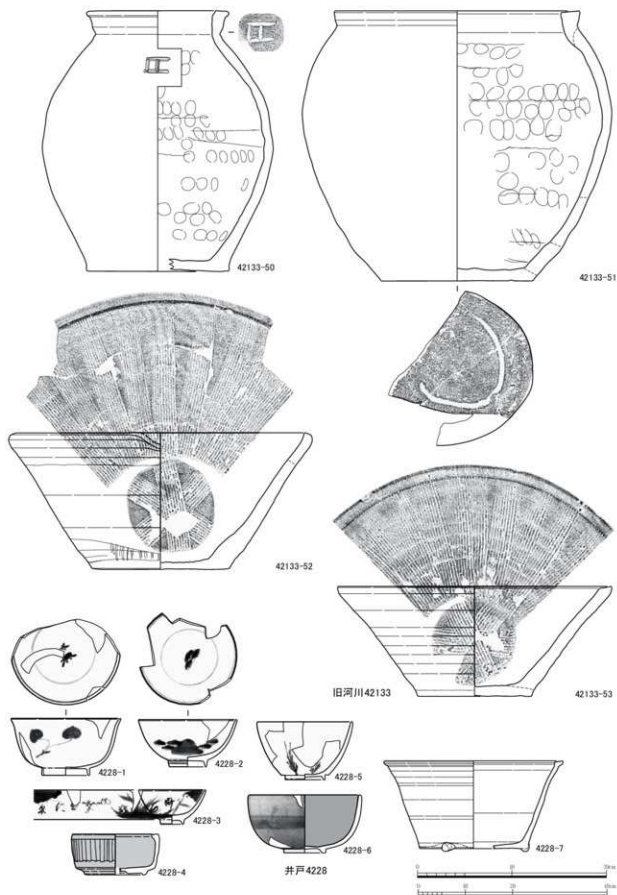


第4図 土器・陶磁器 屋敷地I-4(旧河川)①(縮尺1/4)

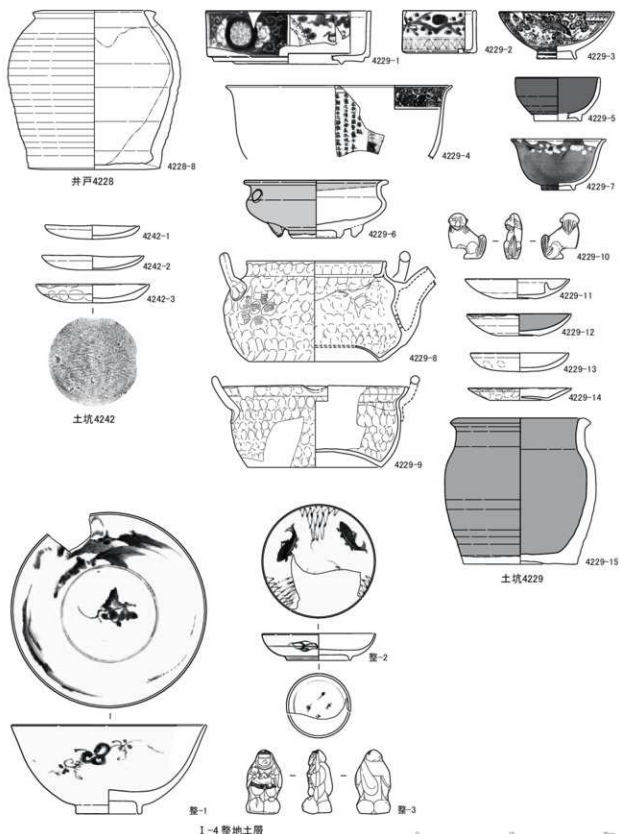




第5図 土器・陶磁器 星敷地Ⅰ-4(旧河川)②(縮尺1/4)



第6図 土器・陶磁器 屋敷地I-4(旧河川)③(縮尺1/4、4228-7は1/8)



第7図 土器・陶磁器 屋敷地1-4④(縮尺1/4、整-3は1/3)

底部は大きく内側にくぼむ。器壁は3mm前後と非常に薄く、焼成は良好で硬く焼き締まっている。土瓶・土鍋とも体部内側にだけ灰釉をかけて水漏れを防いでいる。あまり類例の無い土瓶と土鍋である。4229-15はロク口成形による小甕で、底部以外灰釉が施されている。無釉の底部には葎跡が残る。

土師質土器 4229-13は内型成形の土師質皿G系で、4229-14は手捏ねの土師質皿D系2と見られる。4229-10は型作りによる狷犬で、毛は型から取り出した後、ヘラで線刻して表現している。

5 屋敷地5 (第8～17図、第1表)

土坑4232(第8・9表) 建物I 5-1・2の西側にあり、18世紀後半～19世紀中頃の遺物が出土した。

伊万里 4232-1・2はコンニャク印判の半球碗で、コンニャク印判は福井城跡では18世紀中葉から19世紀前葉の遺構から多く出土する。4232-3・4は篋文もしくは竹文の半球碗で、口径が9cmに満たない碗や半筒碗(4232-9)は湯飲み茶碗であろう。これに対して高台が大きい広東碗(4232-5・6)は1780年頃から幕末近くまで流行した器形で、口径が11.5cmを越えることから飯茶碗であろう。4232-6の文様は清朝の影響を受けている。4232-11はくらわんか手の碗で、口径が12cm近くあり器壁も厚い。見込にコンニャク印判の五弁花文があり、漆継ぎの跡がある。4232-10は縦筋文の端反碗で焼継ぎの跡があり、19世紀前半頃の製品であろう。4232-8は碗蓋で、18世紀後半から蓋付の碗が増える。

4232-12はくらわんか手の皿で、内側に蔓草文、見込にコンニャク印判の五弁花文、高台内銘に満福がある。4232-15は口径が18.5cmの中皿で見込に松竹梅円形文、内側に菱文と松枝を描く。高台内にはハリ支えの痕がある。松竹梅円形文もこの時期に多く見られる。内側全面に水辺のサギをモチーフにした文様の端反皿(4232-14)は、外面の蔓草文が高台内にまで及んでいる。呉須の色がやや濃いところから近代に下がる可能性がある。口径が24.4cmの折縁皿(4232-16)は18世紀前半に遡る。

その他、蛇ノ目凹形高台の蛸唐草文の火入(4232-18)、草花文の油壺(4232-19)も出土している。

唐津焼 4232-21は白泥の凹縁を引いた上から薄い鼠色の灰釉を施した半球碗で、唐津IV期の製品であろう。この時期になると唐津焼が出土することは稀である。

京・信楽焼 4232-22・24は体部を縮めた腰折碗で、この時期比較的多く見られる。4232-22は錆絵の碗で、見込には印判があり、口縁部は錆鉄を回し口紅としている。4232-24は銅緑釉で篋文を描き、高台は露胎で幅が広い。4232-23は小杉形の碗で鉄と呉須で柳を描き、高台部は露胎である。4232-26・29は端反碗で、後者は白土と鉄絵で梅枝文を描く。4232-27は口縁の一部をくぼませた変形の鉢で、鉄・呉須・白土で蕨手文を描く。高台は露胎で幅が広い。

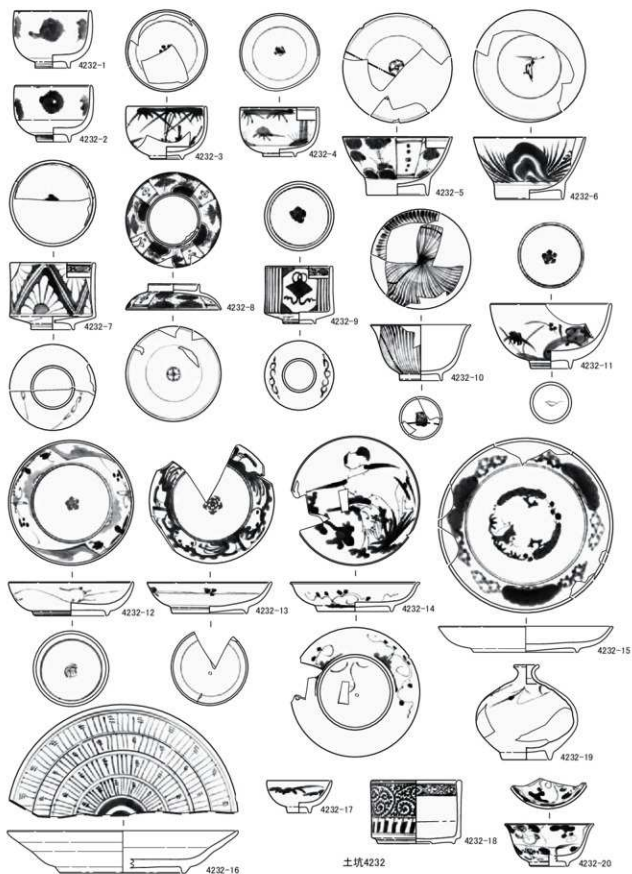
三田焼 青磁の角皿(4232-31)は、見込には雷文と牡丹文が型押しされている。この時期、産業振興の一環として先進地の技術を導入して焼物生産を開始した藩も多く、三田焼もそのひとつである。

萩焼 4232-28は体部に段を持つ小碗で、薄い褐釉の上から黄灰釉をかける。碗(4232-30)は黄灰釉を施した上から見込部分に飴釉を流す。いずれも高台部は露胎で高台内には「〇」字のようなヘラ削り痕を残す。これまでの福井城下の調査では萩焼の出土は少なく、珍しい例である。

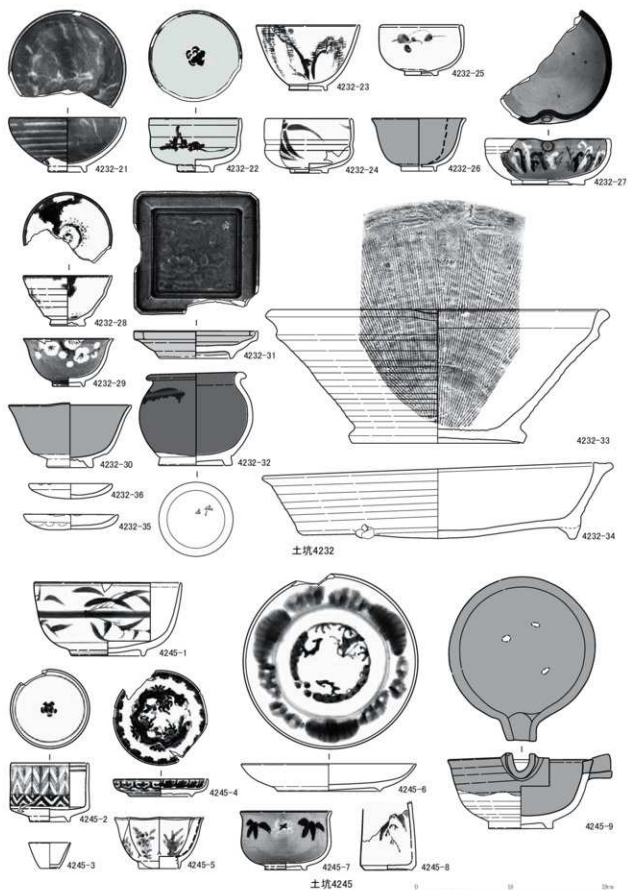
瀬戸・美濃焼 4232-32は高さ・口径とも10cm前後の小壺である。高台部を除いて飴釉を施した後、肩部の一部に鉄釉を流して景を作る。外面に唐草文を描く。染付端反碗(4232-20)もある。

越前焼 4232-33は播鉢で、横に広がった高台が付く。4232-34はロク口成形による水盤で底部に3ヵ所貼付脚がある。いずれも底部を除く全面に鉄泥を塗る。

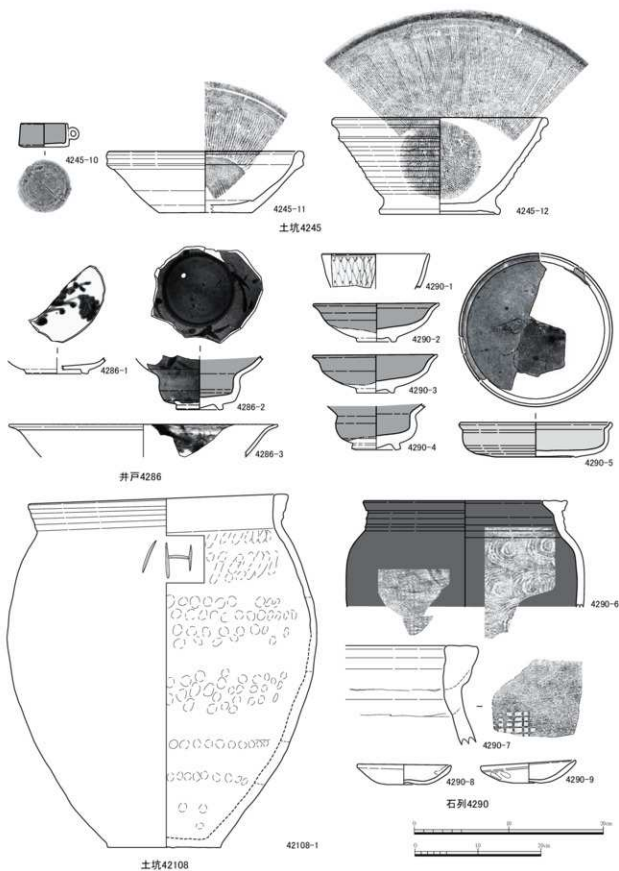
土師質土器 4232-35・36は内型成形によるG系の土師質皿で、この時期になるとG系土師質皿の割合が増加する。



第8図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅰ-5① (縮尺1/4)



第9図 土器・陶磁器 屋敷地I-5②(縮尺1/4)



第10図 土器・陶磁器 屋敷地I-5③ (縮尺1/4、4245-12・4286-3・42108-1は1/6)

石組溝4294(第11・12図) 石組溝から出土した17世紀中頃から後半にかけての遺物群である。

伊万里 口縁部に連続渦文、体部に松文を描く筒碗(4294-5)は17世紀前半の製品である。丸に菊文や丸に十字文を配する折縁皿(4294-6)は、器壁が厚く高台が小さいところからⅡ期の製品と見られる。

唐津焼 ロクロ成形後高台部を粗く削り出す灰釉段皿(4294-12)、溝縁皿(4294-13)は、福井城下では17世紀前半から中頃の遺構から多数出土する。灰釉瓶(4294-16)はタタキ成形後、回転台で形を整えている。内部は飴釉、外は灰釉を施す。4294-18は上部を欠くが、タタキ成形による甕である。器壁は非常に薄く3mmほどしかない。外面に2～3cm間隔に沈線を刻み、鉄泥をハケ塗りしている。4294-15もタタキ成形による小壺で、体部に2条の凸線があり、灰釉を流し掛ける。4249-19・20は口縁部だけに鉄釉を施す播鉢で、口縁部の形状は異なるが、いずれも17世紀中葉の製品である。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(4294-9・10)は、いずれも腰部以下が露胎であることや高台部の形状から連房Ⅰ～Ⅱ期の製品であろう。4294-11は形も天目茶碗とやや異なり、釉も唐津焼に似ているが、胎土は美濃のいわゆるもぐさ土に近い。4294-14は志野鉄絵皿で、高台内の削りは浅い。

中国製陶磁器 4294-1・2は慶應心の染付碗で、見込に十字花文、外面に退化した蔓唐草文を描く。漳州窯系の製品であろう。文様は同じであるが高台の削り方に精粗がある。4294-8は見込と高台部が露胎の碗で、文様は見込付近の圏線1本だけである。

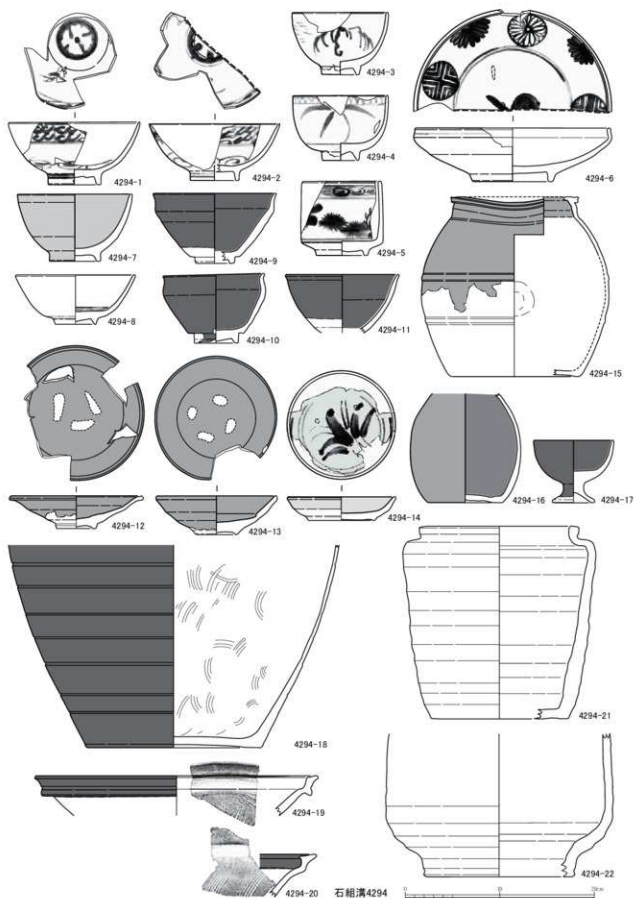
越前焼 4294-23はねじたて成形の甕で、内外面とも鉄泥をハケ塗りする。4294-24・25は口縁端部まで播目をつけたⅥ-2古の播鉢で、口縁部を24は水平にカットし、25は丸くおさめ片口をつける。

石組溝4220南側整地土層(第14～16図) 大量の木製品とともに多くの陶磁器が出土した。上下に分層できるが、全体として17世紀前半から中頃の遺物が多い。

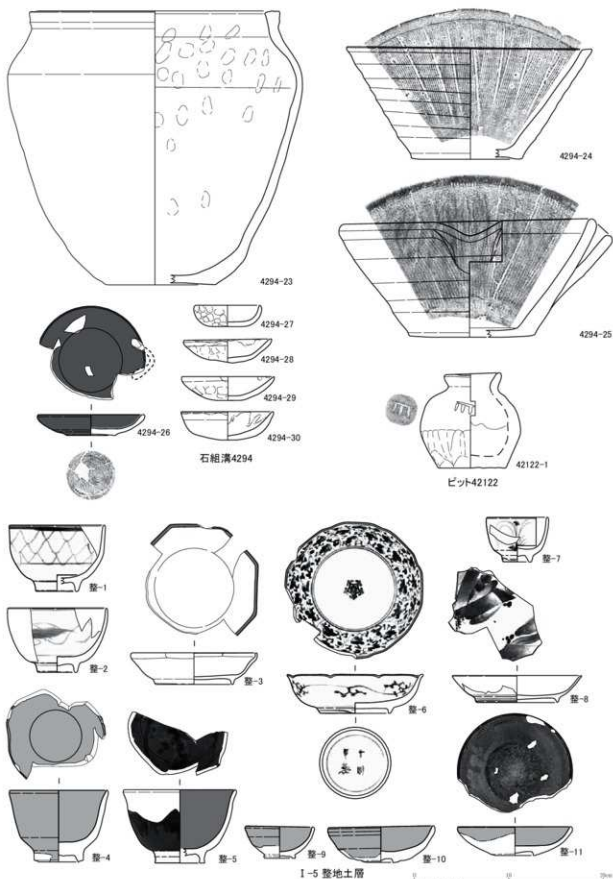
伊万里 半筒型の碗(4220m下-1～3)が目立ち、これらはⅡ-2期の製品と見られる。口縁と腰部の圏線内に崩れた唐草文の碗(4220m下-3)や口縁部に四方櫛、体部に牡丹唐草文の香炉(4220m下-4)は、中国製の染付碗の文様や構成を真似ている。4220m上-3は、同様の文様構成であるが、文様や器形からやや後出の感がする。半筒碗形で体部に縦の凹線を入れた(4220m下-1)もやや後出と考えられる。小坏(4220m上-2)もやや腰が張ることや高台の幅が広いこと以外は中国製の小坏とよく似ている。見込に菊文を描く(4220m上-4)や舟遊び文の皿(4220m下-12)は、高台が小さくⅡ期の特徴を示している。4220m下-11は口径25cm前後と推定される折縁の中皿で、山水文の描き方が日本風にこなれてきている。4220m下-13・14は松竹梅・山水文を描く瓶の口頸部で、文様構成や口縁部の形からⅡ期の製品と見られる。

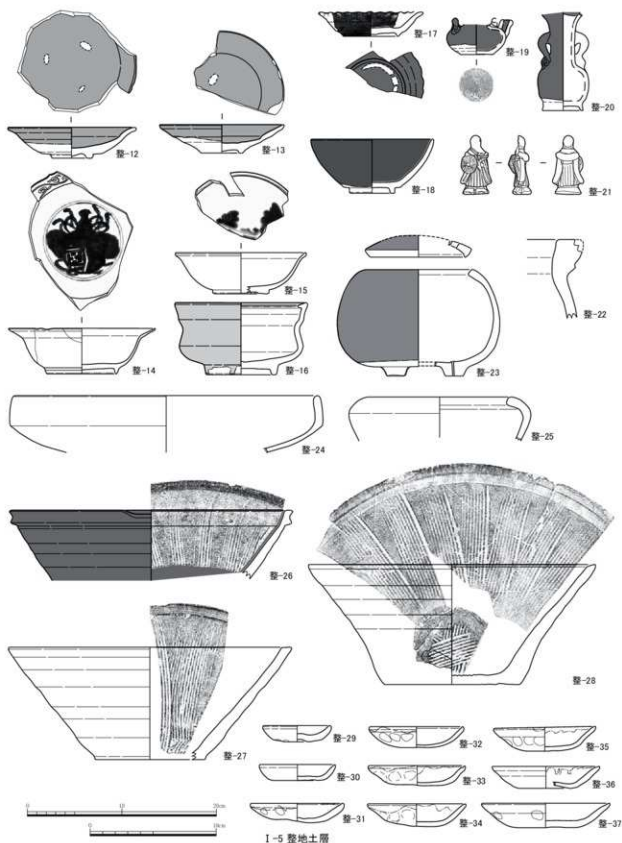
唐津焼 4220m下-15・17～26は口径が10.3～13.3cmほどの小皿で、器形的には丸皿・段皿等があるが、いずれも高台部を粗く削り出し、内側全面と外は腰部まで灰釉系をかける。4220m下-21は枇杷色をした釉がからいぎ状になる。4220m下-22～24は、内面に簡単な鉄絵を描く皿である。これらは福井城下でも17世紀前半ごろに数多く見られる。4220m上-9は口径が27cmほどの大皿で鉄の混じった灰釉を施し、見込には砂目跡が残る。4220m下-36はロクロ成形の鉄釉小瓶で、4220m下-10は手ひねり成形後外面をロクロで整えた鉄釉瓶である。4220m下-37～39は片口で、37はロクロ成形後灰釉、38はタタキ締め成形後洗鉄、39はロクロ成形後白泥を塗り一部を掻き落してさらに灰釉を施したものである。4220m下-40は口縁部に鉄釉を施した播鉢である。播鉢は越前焼が圧倒的に多いが、唐津の播鉢も散見される。

瀬戸・美濃焼 4220m下-5～8は連房Ⅰ～Ⅱ期の天目茶碗である。いずれも腰部以下が露胎で、高



第11図 土器・陶磁器 屋敷地 I-5 ④ (縮尺 1/4)





第13図 土器・陶磁器 屋敷地1-5⑥(縮尺1/4、整-21は1/3)

台部が大窯期に比べて大きい。4220m下-9は銅緑釉を施した丸碗で、高台の削り方は天目茶碗と変わらない。17世紀後葉までは瀬戸・美濃焼の天目茶碗が一定量出土する。4220m下-30は鉄絵に志野釉を施した小皿、4220m下-31は見込に大根を線刻し、葉の部分にタンパンを施した黄瀬戸鉢、4220m下-32はロクロ成形後口縁部を変形させた志野の鉢である。

越前焼 4220m上-14～16は播鉢で、播目は口縁端部まであり口縁端部がほぼ水平である。鉄泥が塗られていないところからVI期頃の製品であろう。4220m上-17は甕で口頸部が小さく立ち上り全面に鉄泥をハケ塗りする。

土師質土器 手捏ねで口縁部外側と見込中心部近くまで回しナデするC系1(4220m下-43、46～48・50)、回しナデが見込の中心部に達しないC系2(4220m下-45)、C系2と製作技法は似るが形がいびつなC系3(4220m下-44・49)。手捏ねで口縁部外側と内側の立ち上り部を挟みナデをし、その際見込と立ち上り部の境に意識的に圈線をつけるD系1(4220m下-51)が出土している。4220m下-43の見込には墨書がある。全体として出土量はC系が多い。

石組溝4220(第17図) 屋敷地5と6の境界溝で、自然石を使用した下層と笏谷石切石を使用した上層に分かれる。

伊万里 4220上-1は青磁碗で、全面施釉した後疊付の釉を拭取っている。疊付には砂が熔着している。4220上-8は大型青磁香炉で、体部に線刻の草花文がある。高台内は蛇ノ目凹削剥ぎとなっている。

唐津焼 4220下-4は鉄釉の腰折碗で、ロクロ成形後4カ所指で変形させている。4220下-2は灰釉碗で高台胎を大きく削り込む。端反碗(4220上-2)は、鉄分の多い胎土を使い粘度の低い釉をかける。天目茶碗は、4220下-3が瀬戸・美濃焼のそれと似た高台であるのに対し、4220上-3は高台が薄く、深く削り込まれている。皿類では基筒底状の灰釉皿(4220下-5)や盤状の灰釉皿(4220下-6)などがある。4220上-7は印花文に白土を象嵌した三島手の折縁盤で、高台が高く見込には砂目跡が残る。

瀬戸・美濃焼 銅緑釉の蕨手文菱花鉢(4220上-5)、鉄絵を施した志野の鉢(4220上-4)、底部に回転系切痕を残す灰釉皿(4220下-8)のほか、この溝から瀬戸・美濃焼製品があまり出土しなかった。

越前焼 4220上-9～11は播鉢で口縁部の形態は少し異なるが、17世紀中頃のVI-2期のものであろう。

土師質皿土器 手捏ねでナデ等の調整を施さないB系(4220下-11)、手捏ね後口縁外側と見込中心部近くまで回しナデをするC系1(4220下-13～16)、回しナデが見込の途中までのC系2(4220上-13・下-12)、上層ではK系(4220上-14・15)が見られる。基本的な製作技法はC系と同じであるが、外側の回しナデが立ち上りまで及ぶ。そのため底部と立ち上り部の境に稜が付く。

6 屋敷地6(第18～20図、第1表)

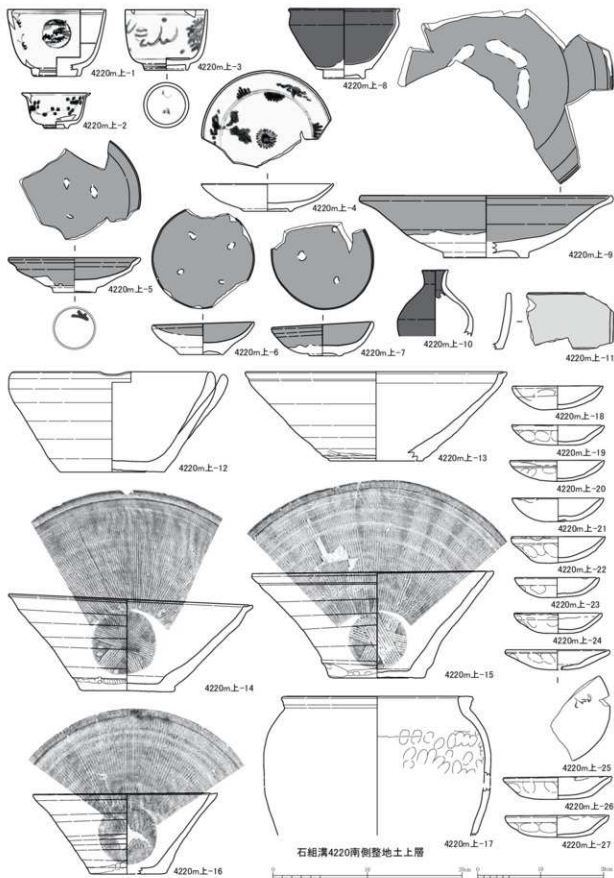
石垣4313(第18図) 町屋の南側石垣を埋めた整地土からの出土遺物である。

唐津焼 4313-1～3は唐津の灰釉系の小皿である。4313-1は基筒底状で、4313-3はロクロ成形後口縁をひだ皿状にする。4313-8は口径が30cmほどの灰釉系の鉢で、内側に部分的に鉄絵が施される。4313-4はタタキ成形による鉄釉瓶である。

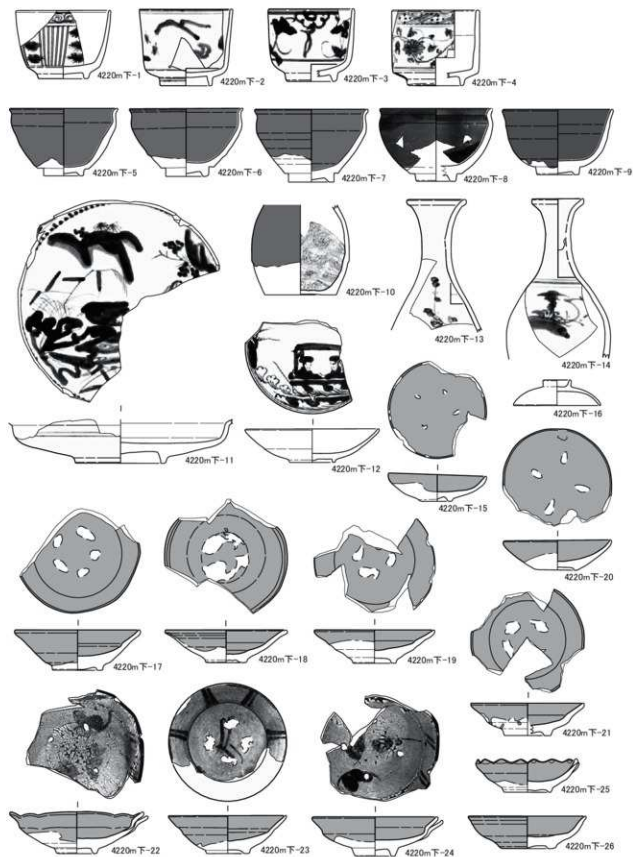
瀬戸・美濃焼 4313-6・7は鉄釉の小鉢で、口縁が垂直に立ち上がり、見込には鉄絵がある。4313-9は折縁の鉄釉鉢で全面に鉄泥が施されている。

整地土層出土の遺物(第19・20図) 屋敷地6は複数の町屋から成り、各屋敷地ごとに細かく整地されていた。

伊万里 整-4は口径が20cm程の染付鉢で、見込と外面に蓮池水鳥文を描く。整-18・19は青磁皿で、



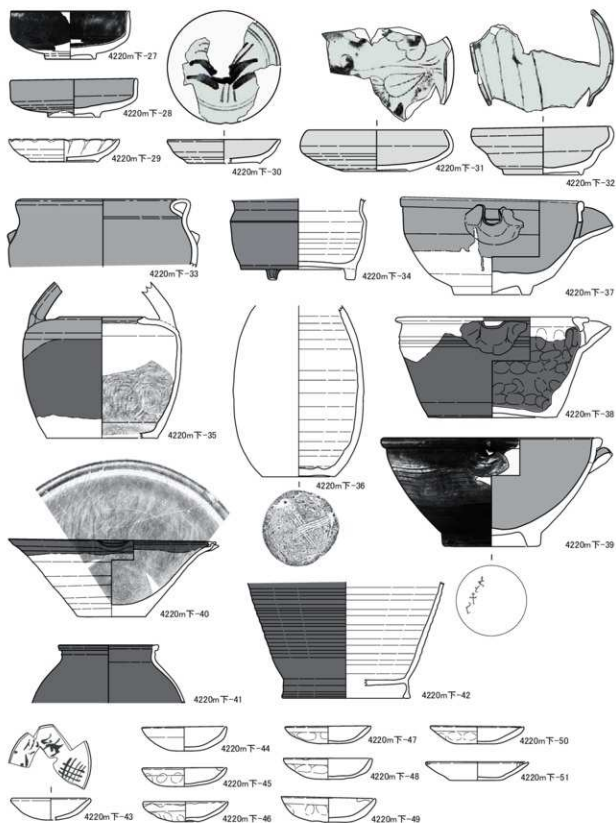
第14図 土器・陶磁器 屋敷地1-5㉔(縮尺1/4, 4220m上-13~17は1/6)



石組溝4220南側整地土下層

第15図 土器・陶磁器 屋敷地I-5⑧ (縮尺1/4)

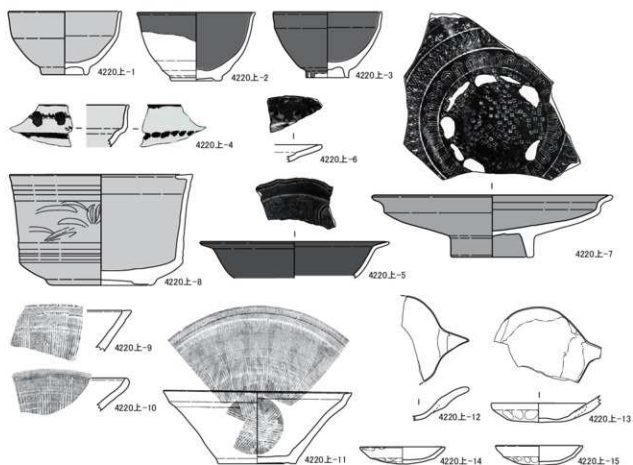




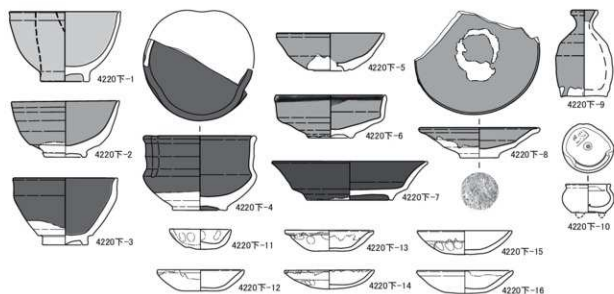
石組溝4220m南側整地土下層



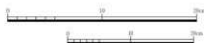
第16図 土器・陶磁器 屋敷地1-5㊟(縮尺1/4, 4220m下-40~42は1/6)



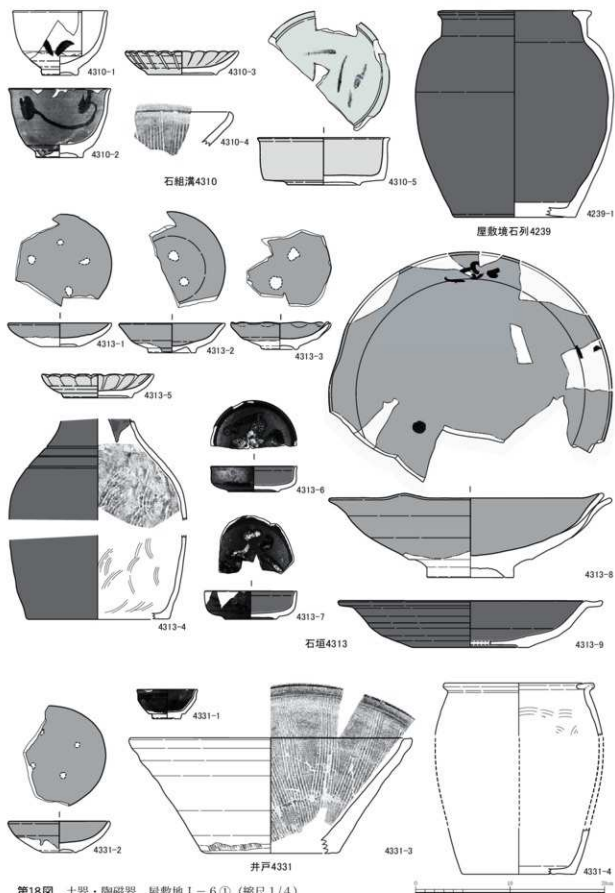
石組溝4220上層



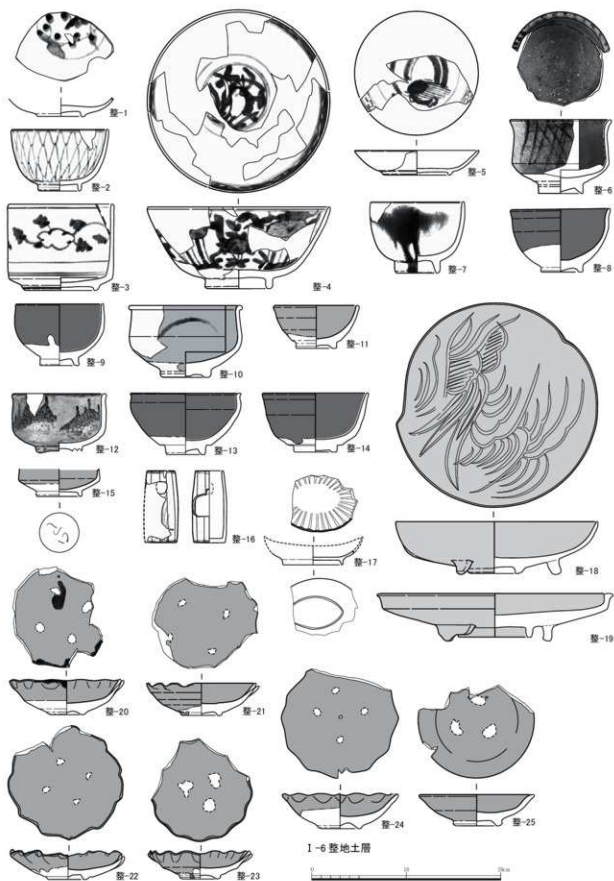
石組溝4220下層



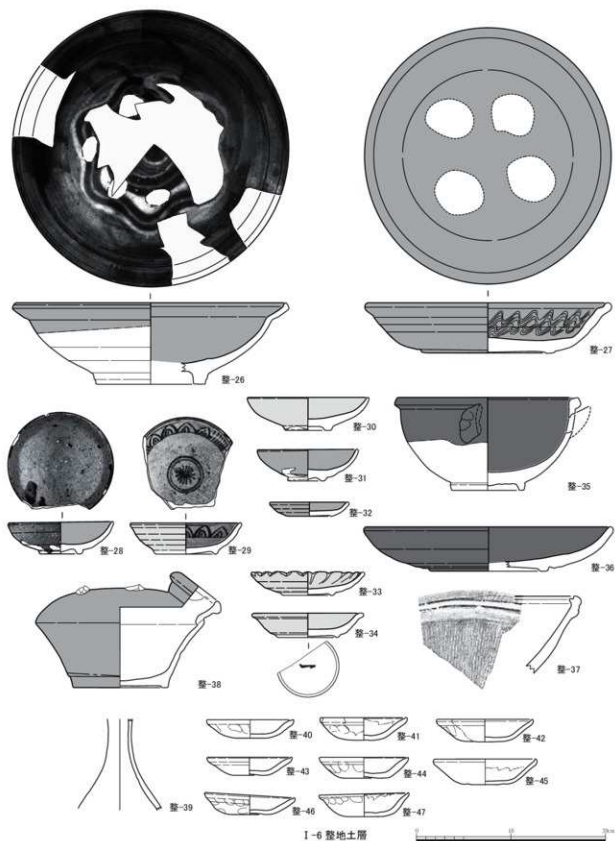
第17図 土器・陶磁器 屋敷地I-5㉔(縮尺1/4、4220上-9~IIは1/6)



第18図 土器・陶磁器 屋敷地1-6①(縮尺1/4)



第19図 土器・陶磁器 屋敷地I-6②(縮尺1/4)



第20図 土器・陶磁器 屋敷地I-6③ (縮尺1/4)

整一19は口縁部を少し変形させ見込に花文を刻む。いずれも貼付の脚が付く。

中国製陶磁器 整一3は筒形の蓋物で、外側には唐草文がある。整一5は見込に団意文を描く皿で一乗谷最末期から現れる。いずれも景德鎮系の製品である。

唐津焼 整一7は一部に緑釉をかけた上から黄色味のある半透明の釉をかける。整一26は直径が30cmほどの折縁鉢で内面にハケで白土を塗り、上から灰釉系の釉をかける。唐津のひだ皿や丸皿（整一30）など各種出土している。これらの小皿には灰釉系の釉が施され、見込に砂目跡が残るものもある。

京焼 整一12は軟質施釉陶磁器碗で高台部を持って緑釉を流した後、黄色味のある釉をかけている。

瀬戸・美濃焼 整一13は大窯期の天目茶碗で、整一14は連房期の鉄釉碗である。整一27は灰釉の大皿で櫛描の内側に波状文を施し、見込には備前の大皿を意識してか4カ所の牡丹餅がある。整一29は鉄絵の上から灰志野をかける。整一38は灰釉の尿瓶でおそらく19世紀頃のものであろう。

第1表 土器・陶磁器観察表 I 街区

I 街区 屋敷地 1

図面番号	器 種	陶磁器 産地・土器 土質・打文	口縁 直径	高さ	成形・調整	施釉・装飾・その他	備 考
41-01-1	皿	中国	13.2	2.3	口口口成形、陶土高台。	緑釉鉢、黄緑色に黄緑。	I・I前期
41-01-2	小鉢	伊万里	5.2	3.5	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-3	五右衛門	瀬戸・美濃	—	6.3	口口口成形、陶土高台。	黄釉、高台無縁。	中前期
41-01-4	大鉢	〇	19.2	2.1	手捏ね、口・口内口ナナ、外口唐文。	黄釉、高台無縁。	C系I
41-01-5	大鉢	〇	12.4	—	手捏ね、口・口内口ナナ、黄釉、外口唐文。	黄釉、高台無縁。	C系II
41-01-6	大鉢	伊万里	9.0	5.6	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-7	大鉢	瀬戸	11.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-8	大鉢	〇	10.6	—	手捏ね、口・口内口ナナ、黄釉、外口唐文。	黄釉、高台無縁。	C系I
41-01-9	大鉢	〇	19.6	—	手捏ね、口・口内口ナナ、黄釉、外口唐文。	黄釉、高台無縁。	C系II
41-01-10	大鉢	〇	18.3	—	手捏ね、口・口内口ナナ、黄釉、外口唐文。	黄釉、高台無縁。	C系III
41-01-11	大鉢	〇	11.0	5.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、高台無縁。	C系IV
41-01-12	大鉢	伊万里	9.4	6.1	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-13	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系I
41-01-14	大鉢	〇	13.6	4.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系II
41-01-15	大鉢	〇	7.5	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系III
41-01-16	大鉢	〇	14.0	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系IV
41-01-17	大鉢	〇	12.8	6.0	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系V
41-01-18	大鉢	〇	12.8	5.5	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系VI
41-01-19	大鉢	〇	11.6	5.2	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系VII
41-01-20	大鉢	〇	8.8	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系VIII
41-01-21	大鉢	〇	11.4	4.4	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系IX
41-01-22	大鉢	〇	10.0	4.5	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系X
41-01-23	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XI
41-01-24	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XII
41-01-25	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XIII
41-01-26	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XIV
41-01-27	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XV
41-01-28	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XVI
41-01-29	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XVII
41-01-30	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XVIII
41-01-31	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XIX
41-01-32	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XX
41-01-33	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXI
41-01-34	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXII
41-01-35	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXIII
41-01-36	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXIV
41-01-37	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXV
41-01-38	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXVI
41-01-39	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXVII
41-01-40	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXVIII
41-01-41	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXIX
41-01-42	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXX
41-01-43	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXI
41-01-44	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXII
41-01-45	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXIII
41-01-46	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXIV
41-01-47	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXV
41-01-48	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXVI
41-01-49	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXVII
41-01-50	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXVIII
41-01-51	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXIX
41-01-52	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXX
41-01-53	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXI
41-01-54	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXII
41-01-55	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXIII
41-01-56	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXIV
41-01-57	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXV
41-01-58	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXVI
41-01-59	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXVII
41-01-60	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXVIII
41-01-61	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXIX
41-01-62	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXX
41-01-63	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXI
41-01-64	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXII
41-01-65	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXIII
41-01-66	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXIV
41-01-67	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXV
41-01-68	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXVI
41-01-69	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXVII
41-01-70	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXVIII
41-01-71	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXIX
41-01-72	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXX
41-01-73	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXI
41-01-74	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXII
41-01-75	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIII
41-01-76	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIV
41-01-77	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXV
41-01-78	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVI
41-01-79	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVII
41-01-80	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVIII
41-01-81	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIX
41-01-82	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXX
41-01-83	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXXI
41-01-84	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXII
41-01-85	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIII
41-01-86	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIV
41-01-87	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXV
41-01-88	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVI
41-01-89	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVII
41-01-90	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVIII
41-01-91	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIX
41-01-92	大鉢	〇	10.7	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXX
41-01-93	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXXI
41-01-94	大鉢	〇	11.3	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXII
41-01-95	大鉢	〇	12.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIII
41-01-96	大鉢	〇	12.1	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXIV
41-01-97	大鉢	〇	10.6	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXV
41-01-98	大鉢	〇	11.5	12.7	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVI
41-01-99	大鉢	〇	10.4	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVII
41-01-100	大鉢	〇	10.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	C系XXXXXXVIII

I 街区 屋敷地 2・3

図面番号	器 種	陶磁器 産地・土器 土質・打文	口縁 直径	高さ	成形・調整	施釉・装飾・その他	備 考
41-01-1	皿	中国	16.2	8.2	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-2	大鉢	〇	15.2	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-3	大鉢	〇	11.4	6.2	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-4	大鉢	〇	10.5	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期
41-01-5	大鉢	〇	11.0	—	口口口成形、陶土高台。	黄釉、外口唐文。	前期

第1章 土器・陶磁器

1 街区 屋敷地 2・3

収録番号	題 名	収録国・地域 言語・文化	収録 日時	長さ (分)	高 速	成 形・調 整	編集・装飾・その他	備 考
4104-1	赤馬	伊方県 (長門県)	1984.9	6.2	1.9	製作中	空け、前に追加撮影	
4104-2	赤馬	伊方県 (長門県)	1984.9	12.9	1.9	ロケ已成形、高松山荘	後編、ロケ完了後、追加撮影	山内勝也
4104-3	赤馬	恵那郡 (長野県)		18.3		ロケ已成形、高松山荘	ロケ完了後、追加撮影	
4106-1	赤馬	伊方県 (長門県)		8.3	(2.6)	原研一、音調整	ロケ、ロケ完了後	
4107-1	半島狼	伊方県 (長門県)	1988	4.0	4.0	原研一、音調整	ロケ完了後、追加撮影(ロケ)	V 巻
4107-2	半島狼	伊方県 (長門県)	1988	4.0	4.0	原研一、音調整	ロケ完了後、追加撮影(ロケ)	V 巻
4107-3	半島狼	伊方県 (長門県)		4.5	(2.3)	ロケ已成形、高松山荘、原研一調整	空け、ロケ完了後、追加撮影(ロケ)	中国 7
4123-1	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	空け、追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-2	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-3	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-4	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-5	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-6	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津軽
4123-7	玄馬	伊方県 (長門県)		8.3	(2.6)	ロケ已成形、高松山荘	空け、ロケ完了後	津行前、中
4123-8	玄馬	伊方県 (長門県)	12.5	4.5	7.3	ロケ已成形、高松山荘、原研一調整	空け、追加撮影、音調整(追加)	津行前、中
4123-9	玄馬	伊方県 (長門県)	11.4	8.5	7.8	ロケ已成形、高松山荘、原研一調整	空け、追加撮影、音調整(追加)	津行前、中
4123-10	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津行前、中
4123-11	玄馬	青森 (津軽)	11.2	4.4	6.75	ロケ已成形、高松山荘、奥の	追加撮影、音調整(追加)	津行前、中

1 街区：屋敷地 4 (旧河川)

図面番号	図 種	断面・断面 詳細・白土	位置	高さ (m)	地 形・地 質	地盤・地脚・その他	備 考
423-1-1	断面	伊方里	2.5	4.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-2	断面	伊方里	8.8	8.1	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-3	断面	伊方里	10.2	4.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-4	断面	伊方里	10.0	4.8	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-5	断面	伊方里	10.0	4.9	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-6	断面	伊方里	6.4	2.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-7	断面	伊方里	6.6	2.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-8	断面	伊方里	6.2	3.2	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-9	断面	伊方里	11.0	6.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-10	断面	伊方里	6.0	14.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-11	断面	伊方里	9.8	4.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-12	断面	伊方里	10.9	5.1	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-13	断面	伊方里	—	3.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-14	断面	伊方里	8.0	7.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-15	断面	伊方里	14.6	6.8	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-16	断面	伊方里	10.0	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-17	断面	伊方里	12.6	6.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-18	断面	伊方里	13.4	3.1	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-19	断面	伊方里	12.7	4.8	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-20	断面	伊方里	12.4	4.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-21	断面	伊方里	13.6	5.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-22	断面	伊方里	13.3	3.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-23	断面	伊方里	12.7	4.9	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-24	断面	伊方里	12.8	4.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-25	断面	伊方里	14.3	5.2	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-26	断面	伊方里	14.0	5.1	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-27	断面	伊方里	13.1	5.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-28	断面	伊方里	13.1	5.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-29	断面	伊方里	14.0	5.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-30	断面	伊方里	22.2	8.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-31	断面	伊方里	22.2	8.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-32	断面	伊方里	14.8	3.2	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-33	断面	伊方里	11.7	6.5	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-34	断面	伊方里	13.2	7.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-35	断面	伊方里	5.0	9.4	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-36	断面	伊方里	13.8	6.6	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-37	断面	伊方里	20.1	8.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-38	断面	伊方里	26.1	9.0	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-39	断面	伊方里	32.6	11.7	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-40	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-41	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-42	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-43	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-44	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-45	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-46	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-47	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-48	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-49	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-50	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-51	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-52	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-53	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-54	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-55	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-56	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-57	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-58	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-59	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-60	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-61	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-62	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-63	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-64	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-65	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-66	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-67	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-68	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-69	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-70	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-71	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-72	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-73	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-74	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-75	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-76	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-77	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-78	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-79	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-80	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-81	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-82	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-83	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-84	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-85	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-86	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-87	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-88	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-89	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-90	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-91	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-92	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-93	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-94	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-95	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-96	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-97	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-98	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-99	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層
423-1-100	断面	伊方里	—	—	ウロロ成地、砂質粘土。	砂打、内方補強、横切補強あり。	1層

1 楼区 屋数地 4

図番番号	器 種	製造地・産地 ※器種・口花	寸法 直径 (m)	高さ	成形・調整	施染・装飾・その他	備 考	
4228-1	黒反碗	伊万里	11.0	5.1	6.0	口口口成形、滑出成形。	染付・外口文、口内無文。	内蔵
4228-2	黒反碗	伊万里	10.4	3.8	5.0	口口口成形、滑出成形。	染付・外口文、口内、見付。	内蔵
4228-3	黒反碗	伊万里	7.1	2.4	3.0	口口口成形、滑出成形。	染付・外口文、口内、見付。	内蔵
4228-4	香炉	伊万里	9.1	7.0	4.3	口口口成形、轆じ目出成形。	滑出。	内蔵
4228-5	花瓶 (紫・紅・黄)	伊万里	10.2	4.2	6.1	口口口成形、轆じ目出成形。	滑出、(不)装飾(轆じ目、高台無彫刻)。	小形器
4228-6	茶碗	伊万里	12.0	4.4	5.0	口口口成形、轆じ目出成形。	口内無文、滑出、高台無彫刻。	内蔵
4228-7	茶碗	伊万里	20.0	23.0	19.1	口口口成形、反転付。	口内無文、滑出、高台無彫刻。	内蔵
4228-8	茶碗	通江	13.0	14.0	16.8	口口口成形、底裏筋付、轆じ目出。	外口無彫刻。	内蔵
4228-9	湯提桶	伊万里	20.0	13.3	13.1	轆じ目、口口口、口口口成形、滑出(10cm)。	口内無文、滑出、高台無彫刻。	口口口・下口面内蔵
4228-10	湯提桶	伊万里	17.4	11.2	12.2	口口口成形、滑出成形。	口内、外口無文、口内、見付。	内蔵
4229-2	水入り	伊万里	7.8	7.8	4.5	口口口成形。	口内、外口無文、口内、見付。	内蔵
4229-3	手洗桶	伊万里	12.2	4.2	5.0	口口口成形、滑出成形。	口内(口口口上)、口内無文。	近代
4229-4	手洗桶	伊万里	24.0	17.2	17.2	口口口成形、滑出成形。	口内(口口口上)、口内無文、口内、見付。	近代
4229-5	湯反碗	瀬戸・伊万里	9.0	5.0	4.0	口口口成形、滑出成形、轆じ目。	滑出・外口無文、口内、見付。	高台付・内蔵
4229-6	香反碗	中国	15.0	3.0	6.2	口口口成形、滑出成形、轆じ目。	滑出、高台無彫刻。	内蔵
4229-7	黒反碗	京都・尾張	10.0	3.6	3.4	口口口成形、滑出成形。	滑出、(不)装飾(轆じ目・口口口)・見付。	内蔵

第1節 Ⅰ街区の土器・陶磁器

Ⅰ街区 屋敷地 4

図面番号	器 種	陶磁器・産地 土器類・打土	口徑	底径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
4229-8	土瓶	?	14.8	13.95	11.6	手ねり・タタキ成形。割作りの口縁部を接合。 注口・取手なし。器壁の肉厚が大。	-	断面等、直徑が大きい上、土質も同様の土器と同一作りの。
4229-9	土鍋	?	21.95	14.1	9.7	手ねり・タタキ成形。割作りの口縁部を接合。 注口・取手なし。器壁の肉厚が大。	-	-
4229-10	灯明台	信楽	11.0	4.5	3.1	ロウロ成形。	白釉、無飾。	白釉、無飾。
4229-12	灯明台	信楽	11.0	4.4	3.3	ロウロ成形。	内丹焼、無飾。	内丹焼、無飾。
4229-13	土鍋	?	10.3	-	2.0	ロウロ成形。	底面無飾。	底面無飾。
4229-14	土鍋	?	10.8	-	1.2	手ねり。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4229-15	湯	-	14.8	12.0	15.4	ロウロ成形。	白釉。	白釉。
4229-16	湯	伊万里	10.8	4.6	11.0	ロウロ成形。取り付。	白釉。	白釉。
4242-1	土鍋	?	10.0	-	1.6	内丹焼。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4242-2	土鍋	?	10.0	-	1.5	内丹焼。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4242-3	土鍋	?	12.0	-	3.0	内丹焼。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4242-4	土鍋	伊万里	20.6	8.8	10.4	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-5	湯	伊万里	12.0	8.8	2.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-6	湯	-	10.2	7.9	高し	取付なし。	白釉。	白釉。
4242-7	湯	伊万里	12.2	4.9	6.7	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-8	湯	伊万里	3.9	11.7	12.0	ロウロ成形。	白釉。	白釉。
4242-9	湯	伊万里	8.8	6.6	4.4	ロウロ成形。つまみ取付。	白釉。	白釉。
4242-10	湯	伊万里	8.8	8.0	10.0	ロウロ成形。取付。	白釉。	白釉。
4242-11	湯	伊万里	24.8	24.3	8.8	ロウロ成形。	白釉。	白釉。
4242-12	湯	伊万里	31.4	28.7	10.0	取付なし。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-13	湯	伊万里	11.4	5.1	4.8	ロウロ成形。口・内縁なし。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-14	湯	伊万里	32.6	-	7.0	取付なし。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-15	湯	伊万里	4.3	4.3	10.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-16	湯	伊万里	10.5	10.5	10.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4242-17	湯	伊万里	-	-	-	取付なし。取出高台。	白釉。	白釉。

Ⅰ街区 屋敷地 5

図面番号	器 種	陶磁器・産地 土器類・打土	口徑	底径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
4232-1	半瓦	伊万里	8.1	3.7	6.05	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-2	半瓦	伊万里	8.0	3.8	6.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-3	半瓦	伊万里	8.4	3.6	5.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-4	半瓦	伊万里	8.0	3.4	5.2	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-5	半瓦	伊万里	11.8	4.2	7.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-6	半瓦	伊万里	11.8	4.1	7.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-7	半瓦	伊万里	9.0	4.6	7.1	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-8	半瓦	伊万里	10.1	5.5	2.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-9	半瓦	伊万里	7.2	3.5	6.1	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-10	半瓦	伊万里	10.6	4.5	6.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-11	丸瓦	伊万里	11.8	4.1	6.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-12	丸瓦	伊万里	13.2	7.7	3.6	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-13	丸瓦	伊万里	13.2	7.8	3.3	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-14	丸瓦	伊万里	13.7	8.0	3.15	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-15	丸瓦	伊万里	13.0	7.8	3.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-16	丸瓦	伊万里	24.4	13.2	4.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-17	小鉢	伊万里	6.9	2.5	3.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-18	小鉢	伊万里	9.6	4.2	4.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-19	小鉢	伊万里	2.6	5.2	10.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-20	小鉢	伊万里	9.4	4.2	4.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-21	小鉢	伊万里	12.3	4.1	5.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-22	小鉢	伊万里	8.8	3.9	5.7	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-23	小鉢	伊万里	11.0	4.1	6.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-24	小鉢	伊万里	9.1	4.0	5.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-25	小鉢	伊万里	8.9	2.5	5.4	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-26	小鉢	伊万里	10.0	3.8	5.6	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-27	小鉢	伊万里	13.2	7.8	4.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-28	小鉢	伊万里	9.4	3.8	5.3	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-29	小鉢	伊万里	9.6	3.5	5.1	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-30	小鉢	伊万里	13.0	5.0	6.6	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-31	小鉢	伊万里	13.1	7.6	3.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-32	小鉢	伊万里	10.6	7.8	3.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-33	小鉢	伊万里	30.4	18.8	14.1	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-34	小鉢	伊万里	37.2	30.0	8.1	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4232-35	小鉢	伊万里	10.0	7.0	1.2	内丹焼。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4232-36	小鉢	伊万里	8.8	-	1.6	内丹焼。口・内縁なし。器壁不明。	底面無飾。	底面無飾。
4243-1	小鉢	伊万里	8.0	3.0	4.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-2	湯	伊万里	9.6	-	3.2	ロウロ成形。つまみ取付。	白釉。	白釉。
4243-3	湯	伊万里	7.2	3.2	6.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-4	湯	伊万里	10.6	7.8	3.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-5	湯	伊万里	15.6	7.8	3.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-6	湯	伊万里	8.3	4.3	6.2	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-7	湯	伊万里	4.3	2.0	6.2	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-8	湯	伊万里	10.0	6.6	1.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-9	湯	伊万里	9.4	4.3	4.4	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-10	湯	伊万里	18.4	10.8	2.9	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-11	湯	伊万里	9.6	4.4	8.2	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-12	湯	伊万里	5.2	6.2	7.6	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-13	湯	伊万里	15.3	8.0	6.8	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-14	湯	伊万里	5.0	5.3	2.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-15	湯	伊万里	20.8	9.8	6.5	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-16	湯	伊万里	24.8	18.8	15.3	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-17	湯	伊万里	-	6.6	11.7	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-18	湯	伊万里	-	5.0	10.7	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-19	湯	伊万里	43.5	13.2	13.2	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。
4243-20	湯	伊万里	11.4	-	13.0	ロウロ成形。取出高台。	白釉。	白釉。

第1章 土器・陶磁器

1 街区 屋敷地 5

図面番号	器 種	陶磁器・漆器 土器・白磁	口径 (cm)	高さ (cm)	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
42190-2	蓮文瓦	伊方	13.2	4.2	口口成形、彫出高付。	灰釉、無文以下無釉。	II期、蓮文焼。
42190-3	蓮文瓦	伊方	13.2	4.0	口口成形、彫出高付。	灰釉、無文以下無釉。	II期、蓮文焼。
42190-4	小鉢	伊方	—	5.1 (4.9)	口口成形、彫出高付、東市。	灰釉高、口縁、無文以下無釉。	IV期。
42190-5	蓮文鉢	伊方	16.2	8.7	口口成形、彫出高付。	無文高、口縁(縁部・タンパス)、大連文以下無文。	II期。
42190-6	茶	伊方	21.6	—	(11.3) タタキ成形、外(縁)目、内(背)背割。	内外面とも無釉。	17世紀前半。
42190-7	土器	伊方	—	—	(10.2) ねじりて成形。	無文以下彫出(縁部)、格子彫出。	IV期前半。
42190-8	土器	伊方	9.95	—	2.2 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	灰釉高。	C-8.1
42190-9	土師器	伊方	10.1	—	2.4 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	無文。	C-8.1
42194-1	浅平鉢	中国	13.8	5.6	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高、見(口)十字文。	西暦、4294-32
42194-2	浅平鉢	中国	13.8	5.2	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高、見(口)十字文。	伊賀焼、鎌倉期。
42194-3	茶碗	伊方	10.2	4.0	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高、高付(背)背割。	II期。
42194-4	茶碗	伊方	10.0	3.8	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高、高付(背)背割。	II期。
42194-5	茶碗	伊方	8.4	5.6	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高、高付(背)背割。	II期。
42194-6	茶碗	伊方	20.2	8.6	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高、高付(背)背割。	II期。
42194-7	茶碗	伊方	12.6	5.4	口口成形、彫出高付。	青釉、口縁縁取。	II期。
42194-8	茶碗	中国	12.6	4.3	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高、高付(背)背割。	IV期。
42194-9	茶碗	伊方・東市	13.0	4.2	口口成形、彫出高付。	鉄釉、無文以下無釉。	鎌倉・II期。
42194-10	茶碗	伊方・東市	10.7	4.7	口口成形、彫出高付。	鉄釉、無文以下無釉。	鎌倉・II期。
42194-11	茶碗	伊方・東市	12.0	—	(6.2) 口口成形、彫出高付。	鉄釉、無文以下無釉。	鎌倉・II期。
42194-12	茶碗	伊方	14.2	4.2	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	灰釉高、高付(背)背割。	II期。
42194-13	茶碗	伊方	12.8	4.6	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	灰釉高、高付(背)背割。	II期。
42194-14	茶碗	伊方・東市	11.4	4.0	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	灰釉高、高付(背)背割。	II期。
42194-15	茶碗	伊方	(13.5)	13.5	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	灰釉高、高付(背)背割。	II期。
42194-16	茶碗	伊方	—	7.8 (11.5)	タタキ成形、無文高付、東市、見(口)背割。	外(縁)高、口口成形。	II期。
42194-17	茶碗	伊方・東市	8.4	—	8.4 口口成形、彫出高付。	灰釉高、高付(背)背割。	II期。
42194-18	茶碗	伊方	—	18.6 (21.4)	タタキ成形。	外(縁)高、口口成形。	II期。
42194-19	茶碗	伊方	30.0	—	(4.2) 口口成形。	(口)鉄釉。	II期。
42194-20	茶碗	伊方	—	(4.3)	口口成形。	(口)鉄釉。	II期。
42194-21	茶碗	伊方	16.9	14.5	20.4 口口成形、口縁縁取(口)変形。	口口成形。	II期。
42194-22	茶碗	伊方	—	(16.1)	口口成形、口縁縁取(口)変形。	口口成形。	II期。
42194-23	茶碗	伊方	28.4	11.5	28.9 ねじりて成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-24	茶碗	伊方	11.2	11.9	ねじりて成形、口口口成形、口口口成形、口口口成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-25	茶碗	伊方	27.2	13.4	12.5 ねじりて成形、口口口成形、口口口成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-26	茶碗	伊方	11.4	5.2	口口成形、口口口成形、口口口成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-27	茶碗	伊方	9.8	—	2.2 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	灰釉高。	C-8.1
42194-28	茶碗	伊方	9.4	—	2.2 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	灰釉高。	C-8.1
42194-29	茶碗	伊方	9.8	—	2.2 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	灰釉高。	C-8.1
42194-30	茶碗	伊方	9.8	—	2.2 手ねじ、口・見返しナシ、外(縁)背割。	灰釉高。	C-8.1
42194-31	茶碗	伊方	11.4	16.0	35.4 ねじりて成形、口口口成形、口口口成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-32	茶碗	伊方	11.2	11.2	ねじりて成形、口口口成形、口口口成形。	内・外(縁)高。	II期。
42194-33	茶碗	伊方	10.7	5.5	口口成形、彫出高付。	鉄釉、高付(背)背割。	II期。
42194-34	茶碗	伊方	10.7	5.5	口口成形、彫出高付。	鉄釉、高付(背)背割。	II期。

1 街区 屋敷地 5 整地土器

図面番号	器 種	陶磁器・漆器 土器・白磁	口径 (cm)	高さ (cm)	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
整地器-1	茶碗	伊方	10.6	4.6	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高、見(口)十字文。	II期。
整地器-2	茶碗	伊方	10.6	4.2	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-3	茶碗	伊方	10.6	4.2	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-4	茶碗	伊方	10.6	4.2	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-5	茶碗	伊方	10.6	4.2	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-6	茶碗	伊方	14.4	7.5	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-7	茶碗	伊方	6.6	3.0	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-8	茶碗	伊方	13.7	8.7	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-9	茶碗	伊方	7.5	3.5	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-10	茶碗	伊方	11.3	5.8	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-11	茶碗	伊方	12.2	6.0	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-12	茶碗	伊方	13.8	4.2	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-13	茶碗	伊方	13.2	4.4	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-14	茶碗	中国	15.5	7.5	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-15	茶碗	伊方	13.8	6.0	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-16	茶碗	伊方	14.0	7.5	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-17	茶碗	伊方	11.0	5.8	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-18	茶碗	伊方	13.0	4.8	口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-19	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-20	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-21	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-22	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-23	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-24	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-25	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-26	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-27	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-28	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-29	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-30	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-31	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-32	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-33	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-34	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-35	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-36	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-37	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-38	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-39	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
整地器-40	茶碗	伊方	11.4	3.5	(3.7) 口口成形、彫出高付、東市、見(口)背割。	染付、外(縁)高。	II期。

1 街区 屋敷地 5 整地土器4220南側整地土器

図面番号	器 種	陶磁器・漆器 土器・白磁	口径 (cm)	高さ (cm)	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
4220m-1	茶碗	伊方	10.6	5.0	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高、見(口)十字文。	II期。
4220m-2	茶碗	伊方	7.2	3.8	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
4220m-3	茶碗	伊方	8.7	4.8	口口成形、彫出高付。	染付、外(縁)高。	II期。
4220m-4	茶碗	伊方	14.0	7.1	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
4220m-5	茶碗	伊方	14.0	7.1	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高。	II期。
4220m-6	茶碗	伊方	10.6	4.6	口口成形、彫出高付、高付(背)背割。	染付、外(縁)高。	II期。

第1節 1街区の土器・陶磁

1 街区 屋敷地 5 屋敷地満4220南側整地土層

図面番号	種 様	海図記号・基地 土曜記・灯台	口径 (cm)	高さ	成形・調整	軸差・監視・その他	備 考		
4220m-2-7	水堀	津波	10.8	3.5	6.6	ワタワ成焼、彫削直造、足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-8	水堀	津波	11.8	7.4	7.4	ワタワ成焼、彫削直造、足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-9	水堀	津波	26.8	9.0	6.6	ワタワ成焼、彫削直造、足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-10	水堀	津波	2.9	-	(7.6)	ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-11	水堀	津波	1.0	-	(7.6)	ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-12	片口目録	津波	21.8	11.0	10.6	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-13	津波	津波	41.6	15.0	14.1	ワタワ成焼、ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-14	津波	津波	33.8	12.0	12.5	ワタワ成焼、ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-15	津波	津波	38.4	14.8	16.9	ワタワ成焼、ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-16	津波	津波	29.3	12.15	12.8	ワタワ成焼、ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-17	津波	津波	30.8	-	(22.2)	ワタワ成焼、 彫削直造	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-18	水堀	津波	9.6	-	9.6	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-19	水堀	津波	0	-	2.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-20	水堀	津波	0	-	10.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-21	水堀	津波	0	-	9.2	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-22	水堀	津波	0	-	10.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-23	水堀	津波	0	-	9.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-24	水堀	津波	0	-	9.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-25	水堀	津波	×	11.1	-	2.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-26	水堀	津波	0	-	11.5	-	2.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁
4220m-2-27	水堀	津波	0	-	11.0	-	2.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁
4220m-2-28	水堀	津波	0	-	11.0	-	2.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁
4220m-2-29	水堀	津波	10.1	9.3	7.2	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-30	水堀	津波	9.9	5.5	8.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-31	水堀	津波	9.2	-	9.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-4	水堀	津波	9.3	5.9	8.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-5	水堀	津波	11.4	4.2	7.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-6	水堀	津波	12.0	4.5	7.3	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-7	水堀	津波	13.0	4.8	7.7	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-8	水堀	津波	12.0	4.7	7.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-9	水堀	津波	11.7	4.4	6.9	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-10	水堀	津波	7.6	0.9	5.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-11	水堀	津波	7.4	0.6	4.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-12	水堀	津波	1.425	-	3.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-13	水堀	津波	6.3	-	(13.0)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-14	水堀	津波	4.5	-	(13.0)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-15	水堀	津波	10.3	3.3	2.9	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-16	水堀	津波	9.2	つまみ	2.7	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-17	段目	津波	13.3	4.4	4.3	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-18	段目	津波	13.0	4.4	4.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-19	段目	津波	12.8	4.4	3.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-20	段目	津波	11.5	4.4	3.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-21	断頭部	津波	14.2	4.3	4.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-22	小断面	津波	12.5	4.6	4.0	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-23	断面	津波	12.4	2.2	4.2	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-24	段目	津波	12.0	4.9	3.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-25	断面	津波	10.9	5.0	3.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-26	断面	津波	12.5	6.0	3.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-27	断面	津波	12.5	5.6	3.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-28	断面	津波	13.5	5.5	4.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-29	断面	津波	11.7	7.3	2.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-30	断面	津波	12.0	7.0	2.6	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-31	断面	津波	14.5	6.8	4.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-32	断面	津波	14.6	8.4	5.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-33	断面	津波	16.5	12	5.2	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-34	断面	津波	16.5	12	(8.6)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-35	断面	津波	16.0	(11.0)	(16.5)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-36	断面	津波	17	(18.1)	(17.1)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-37	断面	津波	19.4	8.0	11.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-38	片口目録	津波	20.5	13.6	10.7	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-39	片口目録	津波	23.4	10.4	11.5	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-40	断面	津波	13.0	11.0	12.3	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-41	断面	津波	15.8	11.6	(12.0)	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-42	断面	津波	18.3	30.2	-	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁		
4220m-2-43	断面	津波	×	8.5	-	2.3	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-44	断面	津波	×	9.0	-	2.6	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-45	断面	津波	×	9.0	-	2.6	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-46	断面	津波	×	9.0	-	2.1	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-47	断面	津波	×	9.1	-	1.9	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-48	断面	津波	×	9.4	-	2.4	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-49	断面	津波	×	10.0	-	2.7	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-50	断面	津波	×	9.9	-	1.9	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	
4220m-2-51	断面	津波	×	11.0	-	1.9	ワタワ成焼、彫削直造、 足型目録	底縁無、 縦筋・縦筋以下無縁、 上縁	

1 街区 屋敷地環境調査

[illegible]

土器・陶磁器

1 街区 屋敷地 建築4220

調査番号	群 種	撮影地・撮影士・観望・日付	位置 (m)			成形・調整	軸差・装飾・その他	備 考
42520-2-5	小巻石	南緯	11.4	3.6	4.0	ウラコ成形成。南緯直列。	天板巻。口板巻。腰置口下板巻。	1
42520-2-6	小巻石	南緯	11.7	3.7	3.0	ウラコ成形成。南緯直列。	天板巻。口板巻。腰置口下板巻。	1
42520-2-7	巻石組	南緯・東経	16.5	9.1	4.1	ウラコ成形成。南緯直列。	天板巻。口板巻。腰置口下板巻。	2
42520-2-8	小巻石	南緯・東経	13.9	4.1	3.9	ウラコ成形成。南緯直列。	天板巻。口板巻。腰置口下板巻。	3
42520-2-9	小巻石	南緯	9.9	4.8	4.8	ウラコ成形成。南緯直列。	天板巻。口板巻。腰置口下板巻。	3
42520-2-10	小巻石	南緯	4.8	3.5	3.1	ウラコ成形成。	口板巻。腰置口下板巻。	3
42520-2-11	土曜置石	○	6.5	-	2.1	子板巻。	天板巻。口板巻。	3
42520-2-12	土曜置石	○	9.2	-	2.2	子板巻。口・足口板・ナギ。	天板巻。口板巻。	3
42520-2-13	土曜置石	○	9.4	-	2.4	子板巻。口・足口板・ナギ。	天板巻。口板巻。	3
42520-2-14	土曜置石	○	9.5	-	2.0	子板巻。口・足口板・ナギ。	天板巻。口板巻。	3
42520-2-15	土曜置石	○	10.2	-	2.5	子板巻。口・足口板・ナギ。	天板巻。口板巻。	3
42520-2-16	土曜置石	○	10.2	-	2.5	子板巻。口・足口板・ナギ。	天板巻。口板巻。	3

1 街区 屋敷地 6

[illegible]

第2節 II 街区の土器・陶磁器

肥前陶磁器がおもに出土しており、その時期はⅡ期からⅤ期が中心である。瀬戸・美濃焼は大窯期から連房式登窯期の天目茶碗等がある。そのほか、越前焼の鉢類及び甕や、京・信楽系陶器、輸入陶磁器等、広い範囲の遺物が確認できる。以下、代表的な遺構を中心に、屋敷地ごとに概要を述べる。

1 中之馬場南堀(第21・22図、第2表)

中之馬場南堀(堀3100)(第21・22図) 17世紀から近現代までの遺物が確認できるが、その多くは近代の埋め立ての際に混入したものである。以下、産地ごとに概要を述べる。

伊万里 染付の皿は、全てロクロ成形後に高台を削り出す。内面に圈線のみを描く3100-23は、高台内まで施釉し、見込には砂目積みの痕がある。3100-25は、全面に椿を描き透明釉を施す。一部に漆継ぎの痕跡が確認できる。小坏には、赤絵(3100-1)と染付(3100-2)がある。仏花瓶は、白磁で型作りのもの(3100-30)と、青磁釉を施したもの(3100-31)がある。また、染付の仏飯器(3100-14・15)や香炉(3100-29)等がある。

唐津焼 天目茶碗(3100-12)は高台内を兜巾状に成形し、高台以外に鉄釉を施釉する。断面には漆継ぎによる補修痕が確認できる。

瀬戸・美濃焼 碗(3100-13)はロクロ成形後に高台を削り出す。灰釉を施釉し、高台の軸葉をふき取る。ひさげ(3100-39)は灰釉で、漆継ぎの痕跡が残る。仏花瓶(3100-32)は肩部に沈線を巡らせる。鉄釉を施すが高台は無釉である。磁器では碗(3100-19)や皿(3100-22・27)がある。酸化コバルトを用いて型紙摺を施す。徳利(3100-33)はロクロで非常に薄く成形し、赤絵を施す。

在地系 通い徳利(3100-40)は、ロクロ成形後ナデで調整する。鉄釉後イッチン描きで「佐佳枝上町ハルタ」の文字を施す。明治期の製品である。

万古焼 急須(3100-37)はロクロ成形で、把手と注口を貼付ける。全体的に非常に薄い作りであり、蓋と身がセットで確認できる。近現代の製品である。

輸入陶磁器 中国製品の青磁香炉(3100-16)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。口縁部端部は厚く成形し、幅を作る。底部3カ所に脚を貼付ける。

その他 汽車土瓶(3100-43)は、型合わせて注口と耳を貼り付ける。全体に褐釉を施釉する。3100-41は風炉である。土師質で、脚部に穿孔があり、外面はヘラ等の工具で縦方向に丁寧な削り。漆継ぎによる補修の痕跡が確認できる。盃(3100-6)は白磁である。ロクロ成形後に高台を削り出し、口縁部はやや端反状になる。全体に薄い作りである。見込に緑・黒色で草花文を上絵付する。また、金泥も施すが、二次被熱を受けほとんど消えており、痕跡のみ確認できる。白磁の香炉(3100-34)は型成形で南瓜形に成形する。口縁端部に加飾が確認できるが欠損する。底部に柱状の脚が3点貼り付く。染付で「松風亭造」の文字を書く。

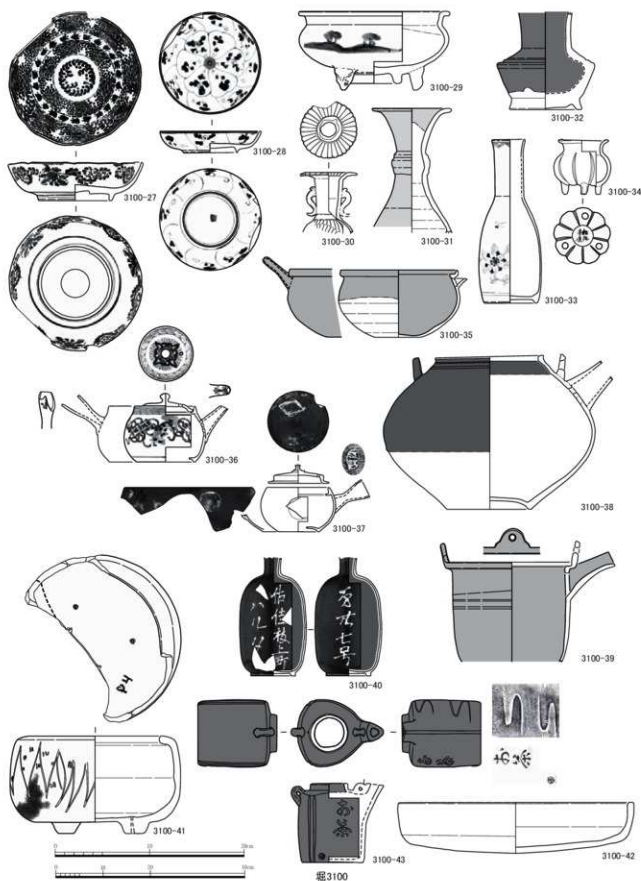
2 屋敷地Ⅱ-1(第23～41図、第2表)

土坑3134(第26～28図) 長辺10mを超え、深さは3mに近い。17世紀後葉の上層と、17世紀初頭から中頃までの下層に分けることができる。以下、層ごとに概要を述べる。

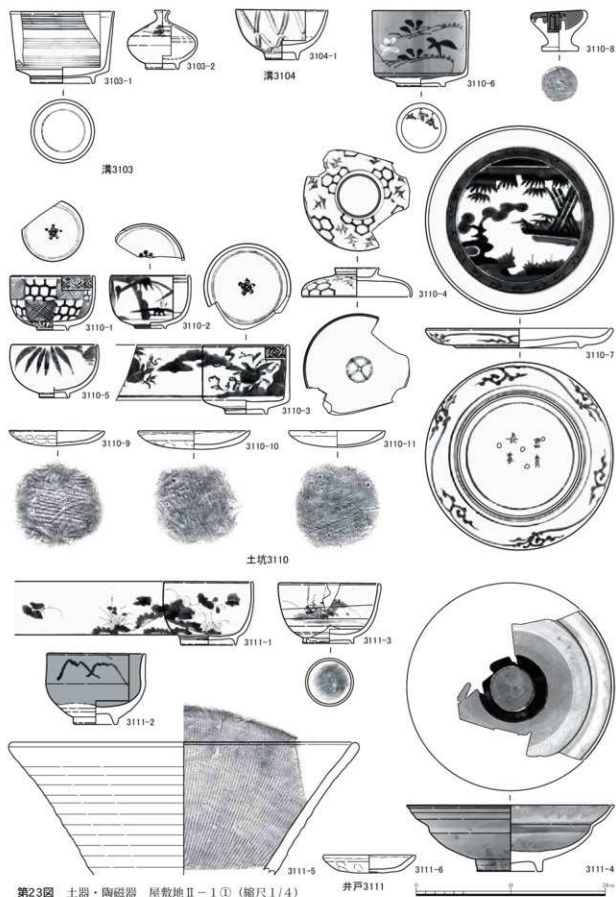
上層 伊万里には染付輪花鉢(3134上-11)がある。ロクロ成形後外面をヘラで縦方向に削り、見込はヘラ彫りで花を描く。内面は染付で菊花を施文する。染付皿(3134上-16)はロクロ成形後に高台を削り出し、竹に遠山を描く。唐津焼の灰釉碗(3134上-6)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、高台の畳付に砂が熔着する。体部はロクロによる削り調整の痕跡がある。描鉢(3134上-22)は削込高台で、



第21図 土器・陶磁器 中之馬場南堀① (縮尺1/4)



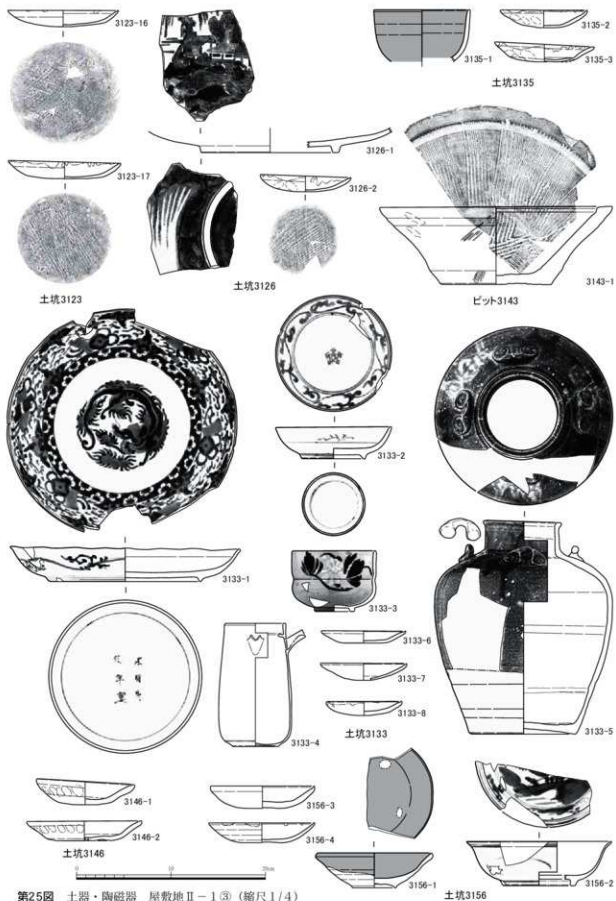
第22図 土器・陶磁器 中之馬場南堀② (縮尺 1/4, 3100-40は 1/8)



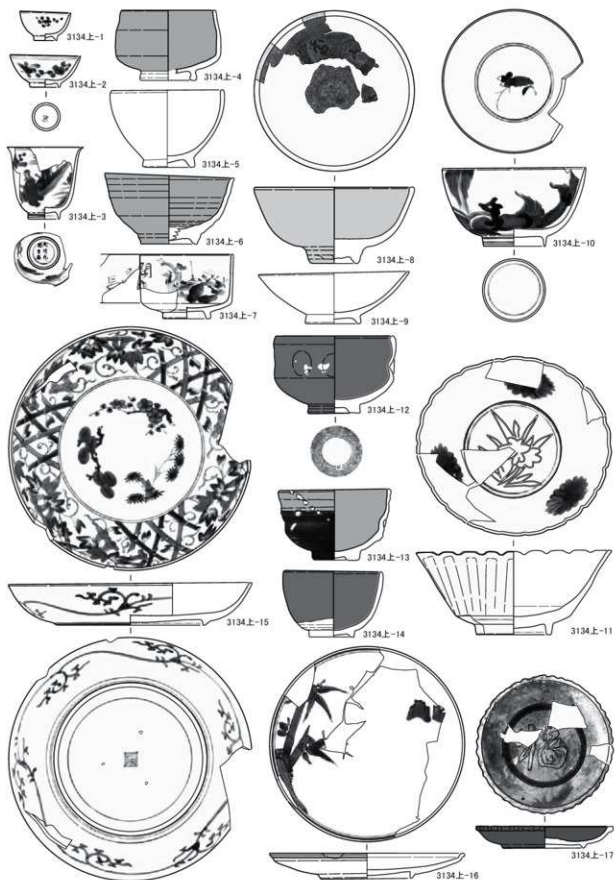
第23図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1① (縮尺1/4)



第24図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1② (縮尺1/4)



第25図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1③ (縮尺1/4)



第26図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1④ (縮尺1/4)

土坑3134上層



口縁部を内側に折り、口縁部にのみ鉄軸を施軸する。京焼の皿(3134上-19)は、軟質で銅緑釉を施軸する。見込に「寿」文を陽刻する。輸入陶磁器には鉢(3134上-8)がある。青磁で、内面にスタンプによる文様がある。高台は無軸である。

下層 伊万里の皿(3134下-4)は染付で、見込に松、雁等を描く。徳利(3134下-9)はロクロ成形後に高台を削り出し、染付で蝶を表す。唐津焼の鉄軸茶入(3134下-7)は、ロクロ成形で回転糸切痕を持つ。底部に判読不明の墨書がある。越前焼の描鉢(3134下-10)は、ねじたて成形後回転調整で仕上げる。外面に墨書が確認できる。

土坑31101(第29図) 16世紀末から17世紀初頭の瀬戸・美濃焼が確認できる。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(31101-1)は、鉄軸と薬灰釉で施軸する。黄瀬戸の皿(31101-2)は、ロクロ成形後ヘラで見込に草花文を彫り、灰釉と銅緑釉を施軸する。底部には輪トチンの痕が残る。

井戸3162(第29図) 18世紀後半の遺物が中心である。

伊万里 染付鉢(3162-1)がある。外面と見込に牡丹唐草文を描き、畳付の軸を剥ぎ取る。

京・信楽焼 皿(3162-5)は、ロクロ成形で高台は広い。体部は口縁部に向かい、わずかに立ち上がる。鉄絵で風景を描き、灰釉を施軸する。

越前焼 鉢(3162-6)はロクロ成形である。底部は欠損しているが、腰部から直立し、口縁部に向かいやや端反状になる。刷毛で鉄泥を塗り、褐釉を施軸する。

輸入陶磁器 端反小杯(3162-2)がある。染付で蔓唐草文を描く。景德鎮窯のもので、全体に透明釉を施軸するが、高台内は無軸である。

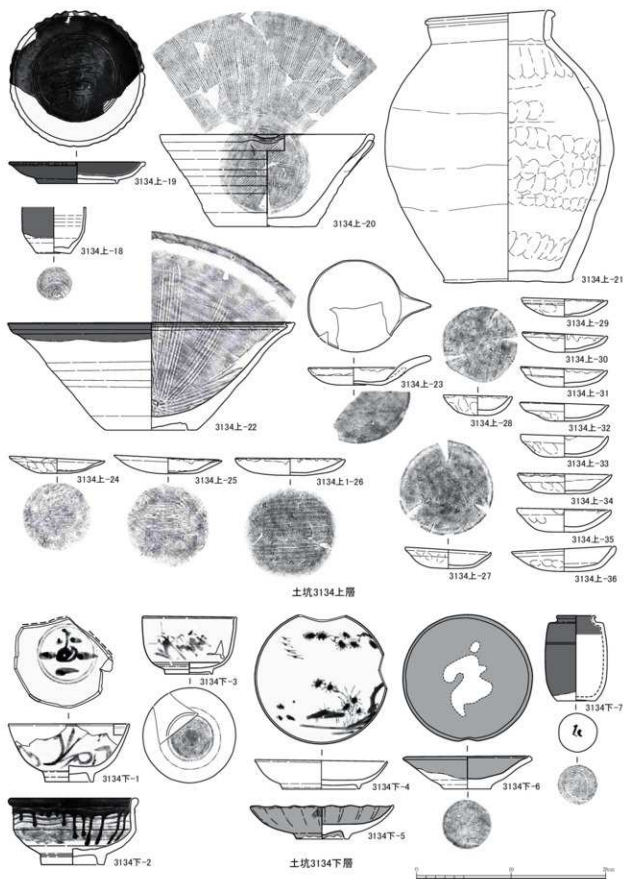
池3201(第31～34図) 上・中・下層に分けることができる。上層は訓練場造成の際の埋め立て土である。中層としたものは、池の廃絶時期と考える18世紀中頃の陶磁器が中心である。下層では17世紀前葉から中葉の遺物を確認した。以下、層ごとに概要を述べる。

上層 伊万里のコンニャク印判(3201-1・20・25・31)や、染付の筒碗、丸碗、広東碗、そば猪口等多くの器種が確認できる。唐津焼の描鉢(3201-56・57)は、高台があり、口縁部端部を外方に開くタイプである。鉄軸を施す。京・信楽焼では碗類(3201-45・47・54)がある。端反碗(3201-51)は、鉄絵と白土による絵付があり、見込にハマの痕跡を持つ。透明釉の碗(3201-46)は、ロクロ成形後、外面に2点の指押さえによる変形がある。灰釉灯明皿(3201-49)は、見込に3点の台付ハマの痕跡が残る。越前焼の鉢類(3201-59～62)は、18世紀後葉から19世紀の代表的なもので、鉄泥を塗布する。

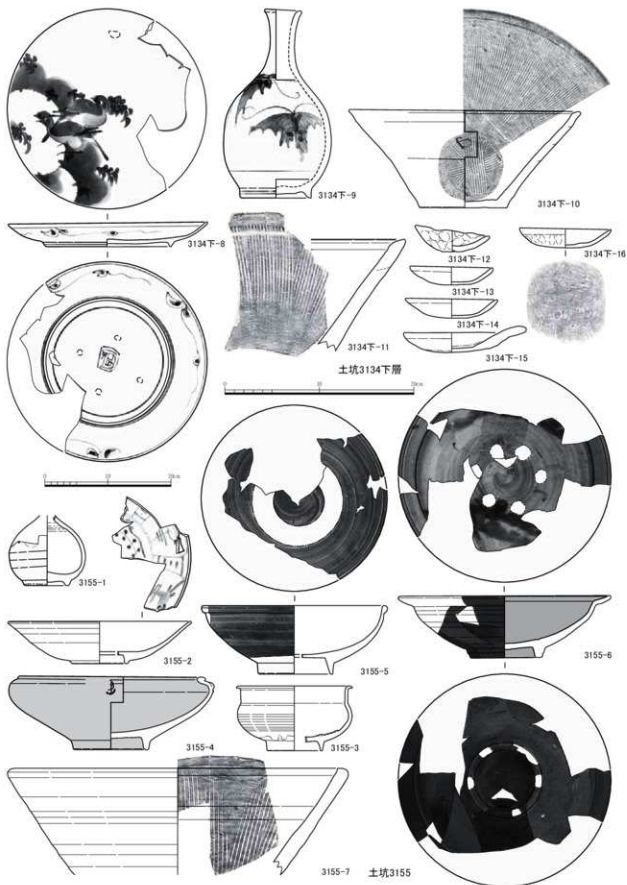
中層 唐津の碗(3201-65)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。薄い鉄絵で柳を描き、灰釉を施軸する。内面には漆の塊が入っており、その量から漆入れの容器に使用したものとする。水滴(3201-66)は京焼である。型押し成形で巻貝を表し、宝尽くを加飾する。染付で下絵付けした後、全体に灰釉を施軸する。3201-68は丹波焼の甕である。ロクロ成形後ナデ調整で、鉄泥と灰釉を流し掛ける。

下層 伊万里には染付皿(3201-72)がある。見込に雲文と五角文を施す。唐津焼には皿(3201-73)がある。削出高台で高台内を兜巾状に成形し、内面は白化粘土による刷毛目で波状文を描く。灰釉を全面に施軸するが、腰部以下は無軸である。また、畳付と見込に砂目積みの痕跡が残る。輸入陶磁器は、中国製品の皿(3201-70)と大皿(3201-71)がある。大皿は見込に染付で草花文を描き、底部に圈線一条を描く。高台には砂が熔着し、どちらも漆継ぎの痕跡が確認できる。

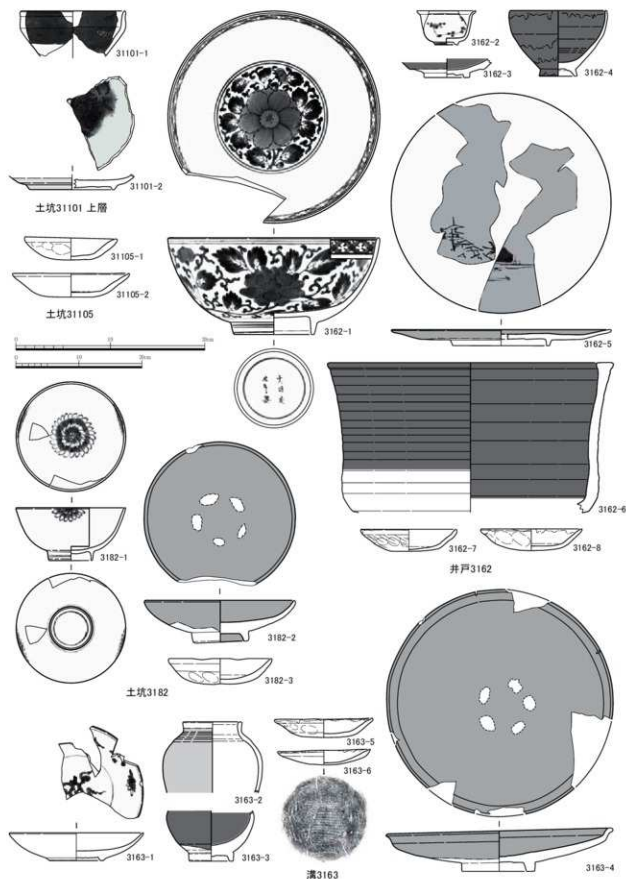
土坑3265(第36図) 17世紀後葉から18世紀前葉の幅広い時期の遺物が確認できる。また、二次被熱を受けたものも多い。



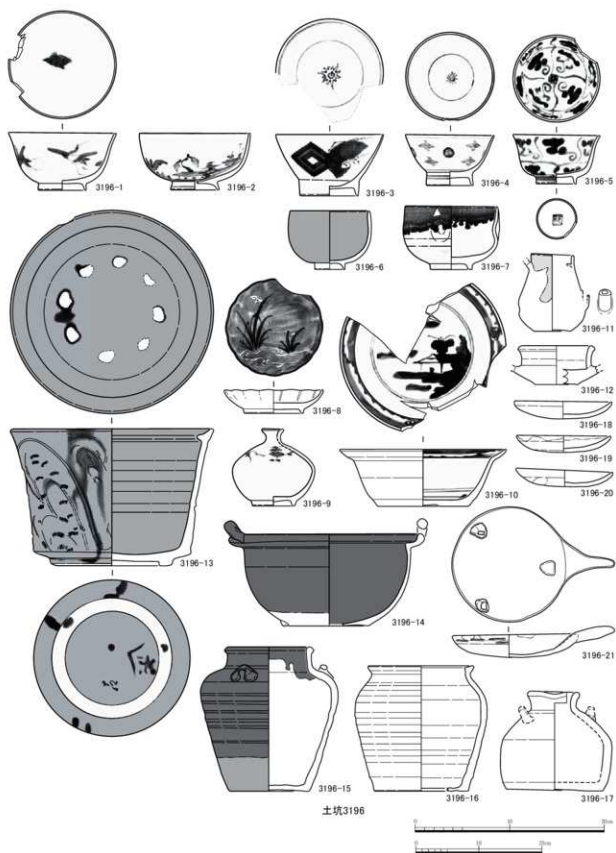
第27図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑤ (縮尺1/4)



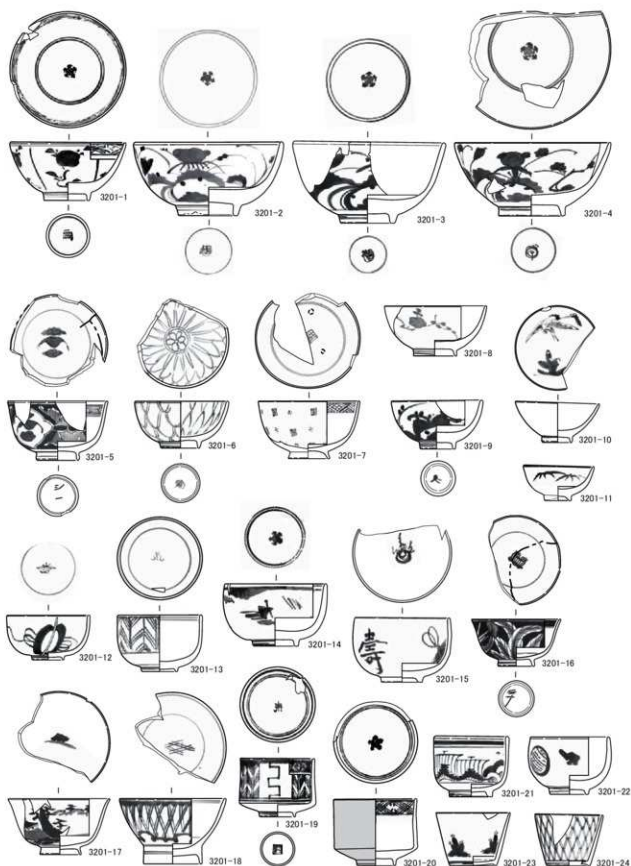
第28図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑥ (縮尺1/4, 3134下-10・3155-2・6は1/6)



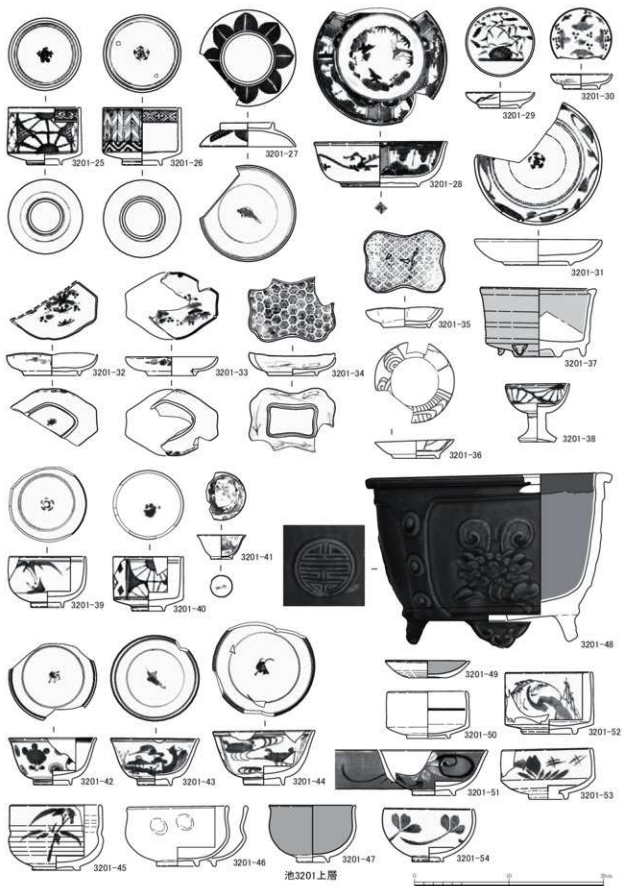
第29図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㉔ (縮尺1/4、3162-6は1/6)



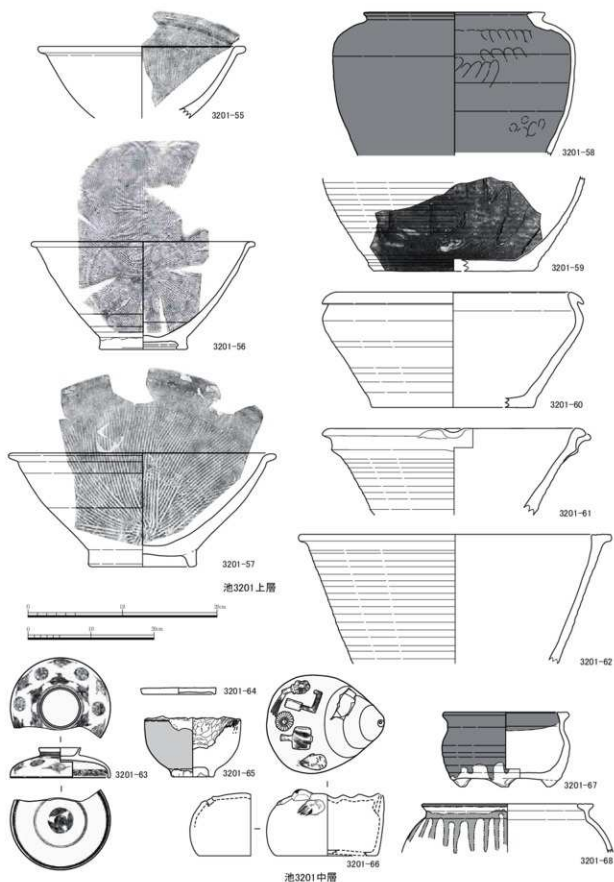
第30図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑧(縮尺1/4、3196-13は1/6)



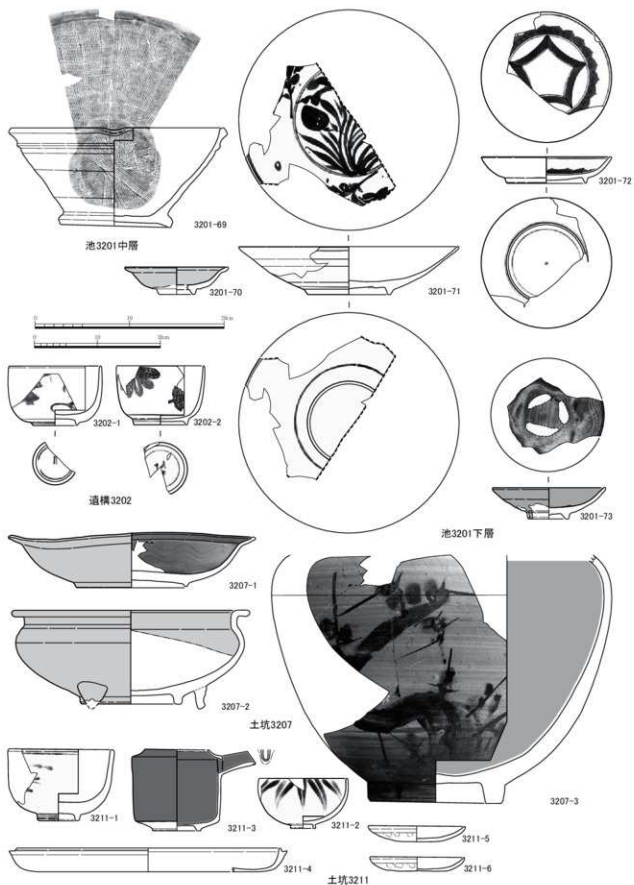
第31図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑤ (縮尺1/4)



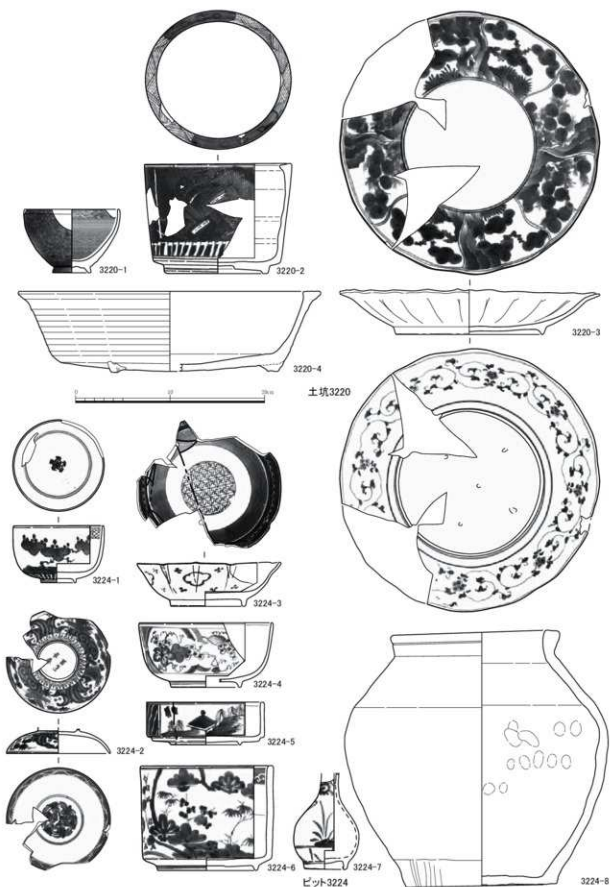
第32図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑨ (縮尺1/4)



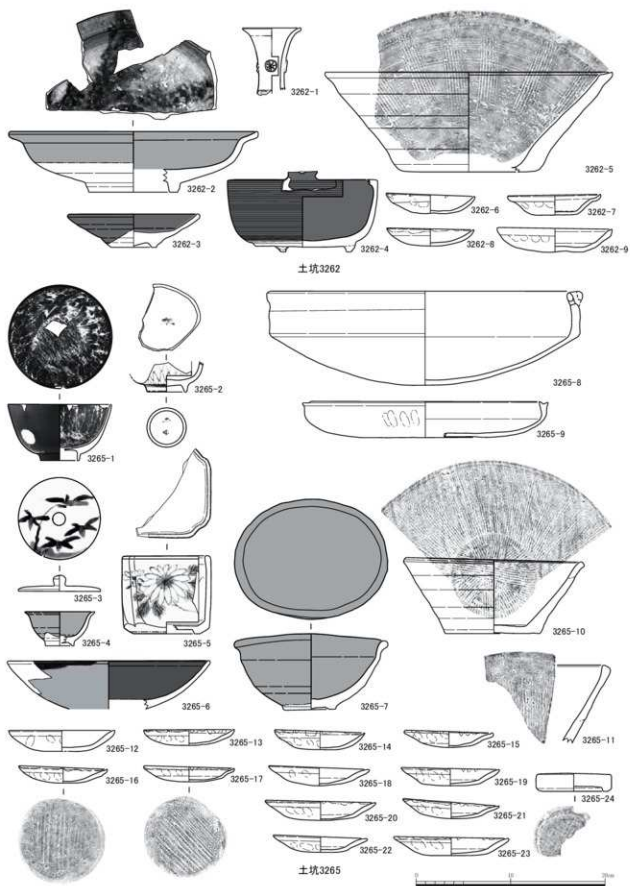
第33図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㊦ (縮尺1/4, 3201-56・58・68は1/6)



第34図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㉔ (縮尺1/4、3201-69・71・3207-1は1/6)



第35図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1 ⑤ (縮尺1/4)



第36図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1④(縮尺1/4)

伊万里 碗(3265-2)は染付で一重網目文を描く。高台内に染付で「太明」の文字を書く。

唐津焼 鉢(3265-7)がある。ロクロ成形後に意図的に口縁部を歪ませる。全体に灰釉を施すが、高台部は無釉である。打ち刷毛目の灰釉碗(3265-1)は、ロクロ成形で白泥がけ後灰釉を施す。

京焼 火入(3265-5)がある。板作りで貼り合せた後、隅切り状に成形する。白化粧後、染付で菊を描く。全体に透明釉を施軸するが、底部と内面は無釉である。口縁部に煙管を叩き付けた痕がある。

越前焼 播鉢(3265-10・11)は、ねじたて成形後回転調整を行う。17世紀初頭のものである。

土師質土器 炮烙(3265-8)は、板作りで吊り孔がある。側面にはススが付着する。

土坑3266(第37・38図) 17世紀後葉から18世紀前葉の遺物が中心である。

伊万里 17世紀初頭の皿(3266-1・2・6・8・9)があり、11枚以上が確認できる。高台が小さく、淡い染付が特徴である。稜花皿(3266-5)は芙蓉手である。口縁部端部を稜花状に型打ち成形し、高台内に染付で「大明口」の文字を書く。表面に二次被熱を受けた痕跡が残る。広東碗(3266-11)は染付で木と草を描く。漆継ぎ痕が確認できる。壺(3266-18)は染付で花束に蝶を描く。削出高台で畳付に砂が熔着する。3266-17は底部から肩にかけて大きく内湾する。淡い発色の染付で松を描く。

唐津焼 鉢(3266-22)はロクロ成形である。内面に銅緑釉を施軸し、外面に灰釉を施す。見込は蛇ノ目軸ハギで砂目痕が残る。

越前焼 播鉢(3266-32)は、ねじたて成形で、回転調整で仕上げる。口縁部は断面を三角形状にし、鉄泥を塗る。

その他 土師質土器の炮烙(3266-30)は、ロクロ成形で底部にヘラ削りがある。兎型の水滴(3266-19)は、型押し成形後貼合わせる。赤、緑、紫、茶の4色で上絵付する。瓦質の行火(3266-31)は、板作り成形である。外面は丁寧な磨きによって調整する。口縁部付近の2カ所に穿孔する。

輸入陶器 菊花皿(3266-27)は、型押し成形後に高台を貼り付け、青緑釉を施す。また、高台内は無釉であるが、鉄泥を塗布する。中国製品を模倣した南海地域の製品である。

池32127(第40図) 15世紀初頭の越前焼大甕(32127-5)を含むが、17世紀中頃の遺物が中心である。

伊万里 丸皿(32127-3)は染付で山水を描く。染付の小壺(32127-4)はロクロ成形である。口縁部のみ無釉であることから、蓋付きの壺と考える。

唐津焼 皿(32127-2)は、ロクロ成形で高台は基筒底に調整する。灰釉を施軸するが高台は無釉である。見込には胎土目積みの痕跡が3カ所確認できる。

越前焼 播鉢(32127-6)は、ねじたて成形後回転調整で仕上げる。7条の播目を施す。口縁部断面の形状から、17世紀前葉と考える。

3 屋敷地Ⅱ-2 (第42～45図、第2表)

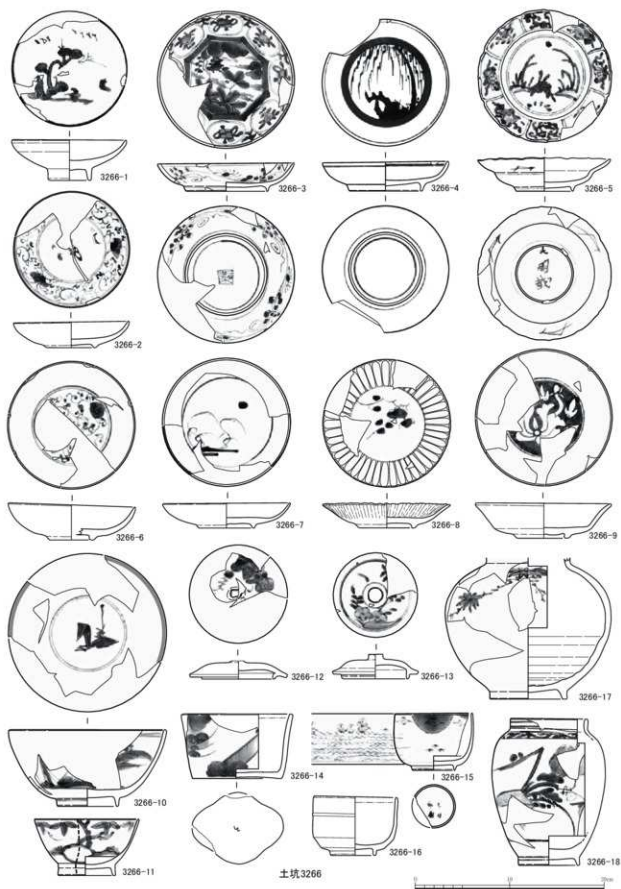
屋敷地境溝3205(第42図) 17世紀中頃から18世紀前葉の遺物を中心とする。

伊万里 染付の碗類(3205-3～7・14)、瓶(3205-16)等がある。皿(3205-9)の高台はやや小さい。染付で矢羽文を描き、見込は蛇ノ目状に釉薬を剥ぎ取る。水滴(3205-19・20)は、肥前系の磁器である。鶏型に型押し成形した後、貼り合せる。赤、緑色で顔と羽を上絵付で描く。

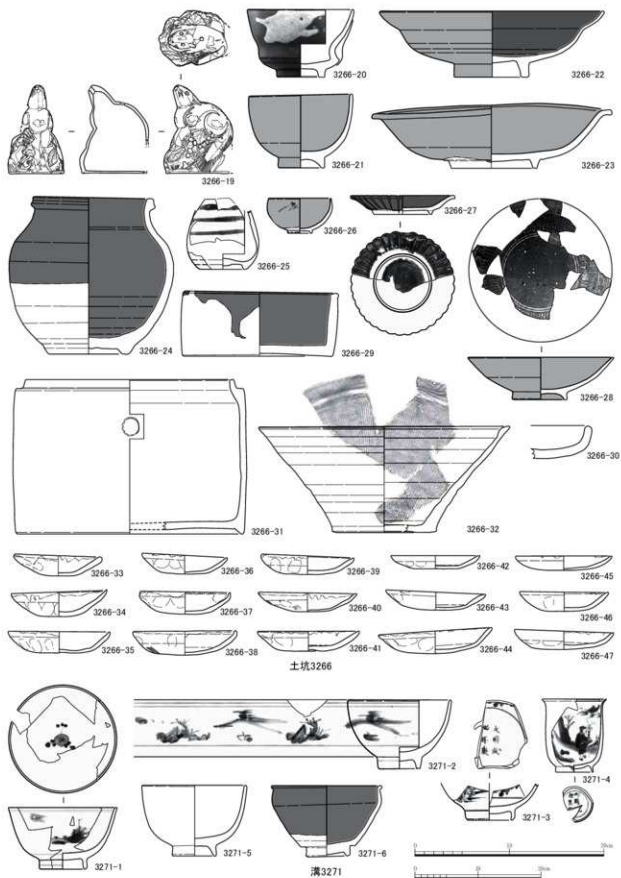
唐津焼 打ち刷毛目と波状文の灰釉碗(3205-13)等がある。高台内を兜巾状にした京焼風の碗(3205-11)や、呉器手碗(3205-15)は、どちらも透明釉を施軸する。

京・信楽焼 小皿(3205-17)は、型打ち成形で貼付高台である。鉄絵で紅葉を描き、灰釉を施す。

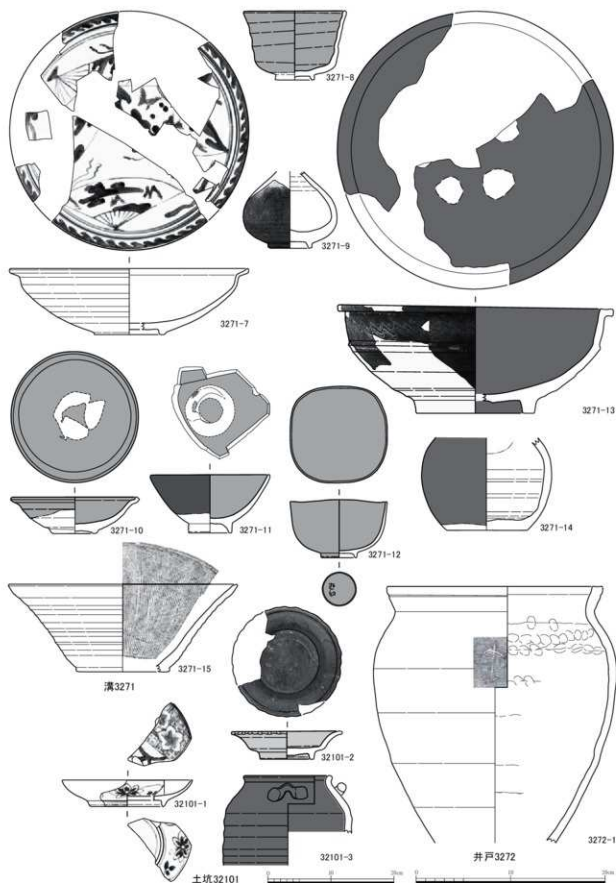
越前焼 播鉢(3205-21)は、口縁部の下に沈線の入るタイプで、17世紀前半のものである。



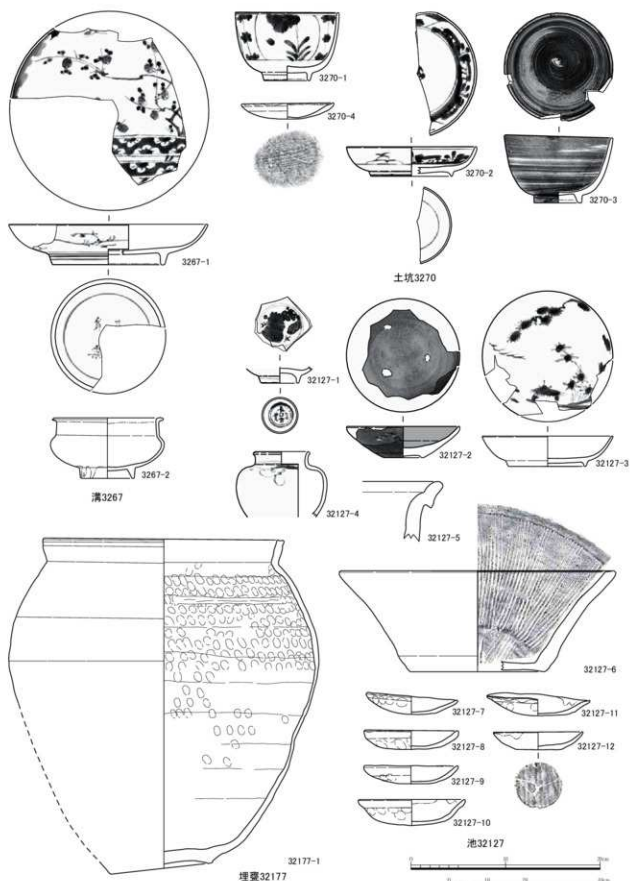
第37図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑤ (縮尺1/4)



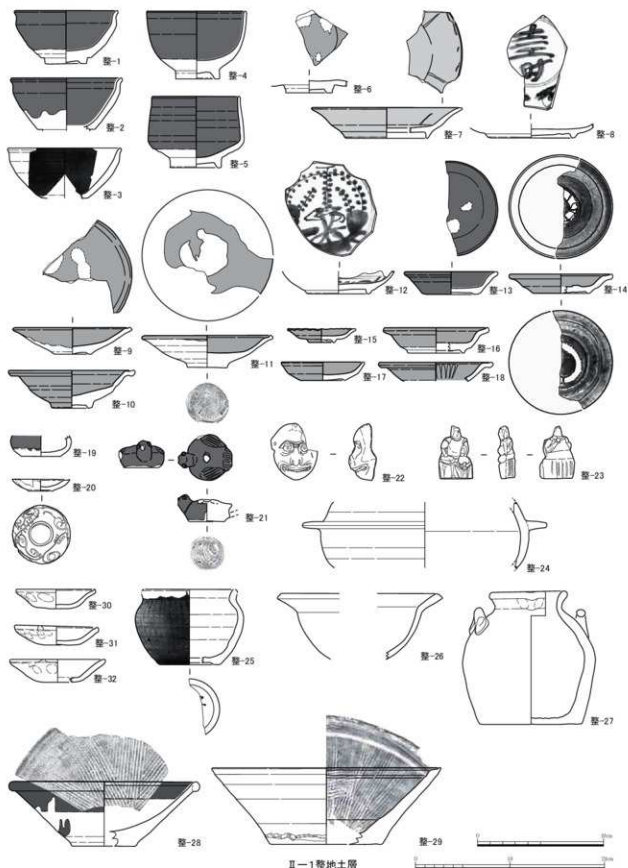
第38図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㉟(縮尺1/4、3266-32は1/6)



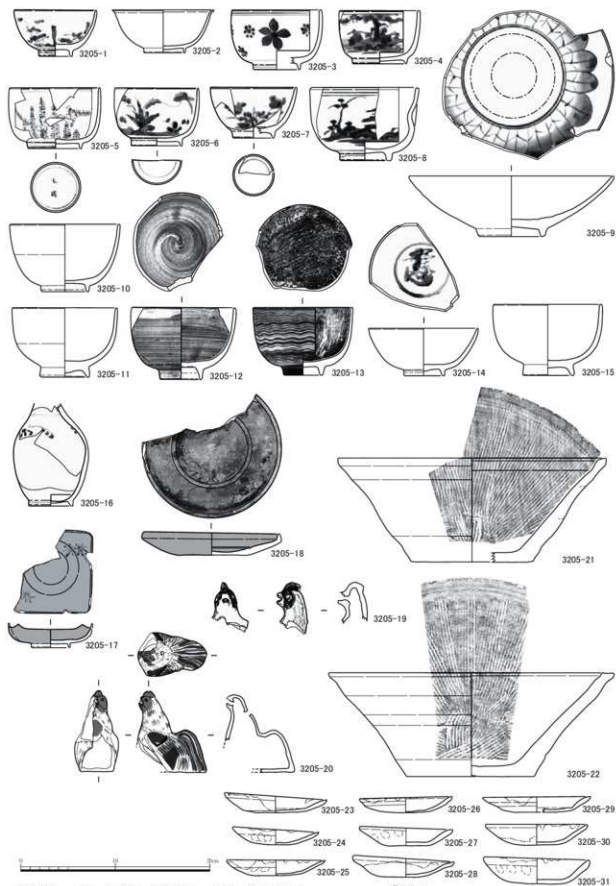
第39図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㊦(縮尺1/4, 3271-7・15・3272-1は1/6)



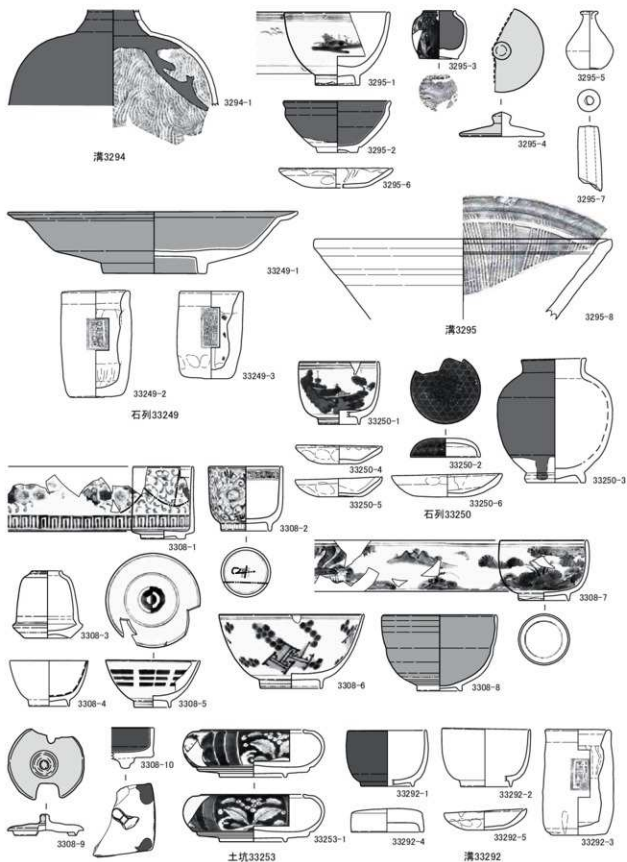
第40図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1㊟ (縮尺1/4、32177-1は1/10)



第41図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-1⑨(縮尺1/4、整-22・23は1/3)



第42図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-2① (縮尺1/4)



第43圖 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-2②(縮尺1/4)



溝3295(第43図) 17世紀中頃から後葉の溝である。後述する池3308の排水溝として機能する。

伊万里 丸碗(3295-1)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。畳付には砂が熔着する。染付で雷文と山水を描く。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(3295-2)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、鉄釉を施軸する。腰部以下無軸である。3295-3は、茶入である。ロクロ成形で底部に回転糸切痕が確認できる。鉄釉を施す。蓋(3295-4)は、ロクロ成形後つまみを貼付けた後、長石釉を施軸する。また、漆継ぎの痕跡が確認できる。

越前焼 播鉢(3295-8)がある。ねじたて成形で、9条の播目を付ける。時代はやや古く、朝倉期のものである。ほかに、在地系の土鍾(3295-7)がある。手づくね成形で穿孔がある。小瓶(3295-5)は、ロクロ成形である。被災の痕跡が確認できる。

池3308(第43図) 17世紀後半から19世紀の遺構であり、上層と下層で分けることができる。

伊万里の染付碗(3308-2)や、灰吹(3308-3)がある。九谷焼の色絵筒碗(3308-1)は、染付で欄干文を描き、朱で牡丹唐草文、緑で亀甲文を描く。焼継ぎの痕跡が残る。京・信楽焼の碗(3308-8)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、灰釉を施軸する。腰部以下は無軸である。唐津焼の向付(3308-10)は板作りである。脚部貼付け後、銅緑釉を施す。志野の灯明具蓋(3308-9)は、ロクロ成形で、芯出し部に2カ所切り込みを入れ、つまみを貼付ける。

土坑33254(第44図) 19世紀前葉のゴミ穴である。

伊万里 小坏(33254-6)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。上絵付を施す。広東碗(33254-1)は、染付で格子窓に樹木を描き、見込には十字文を描く。その他に、染付の小碗(33254-4)や蛇ノ目凹形高台の鉢(33254-9)等がある。

瀬戸・美濃焼 鉢(33254-7)は、ロクロ成形後ヘラ等の工具で縄目状の文様を加飾する。灰釉を施し、一部に鉄釉を施軸する。

京焼 向付(33254-8)は、型押し成形で高台を貼付ける。鉄と呉須で桐を描き、口縁部に口紅を施す。高台は無軸である。

在地系土器 風炉(33254-10)は、ロクロ成形後脚部を貼付ける。不明瞭だが体部にスタンプで施文する。カンテラ(33254-12)は土師質で、型合わせした後、注口を貼付ける。

溝33256(第44図) 17世紀後半から19世紀の遺物が確認できる。

伊万里 壺(33256-7)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。口縁部の釉を剥ぎ取り、蓋の付くタイプである。染付で外面に笹文を描く。

唐津焼 仏飯器(33256-11)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。鉄釉で脚部及び底部は無軸である。花瓶(33256-9)は、体部が残存するのみである。ロクロ成形で、褐釉と藁灰釉を施軸する。

越前焼 播鉢(33256-12)は、外面に重ね焼きの痕跡が残る。鉄泥を施す。

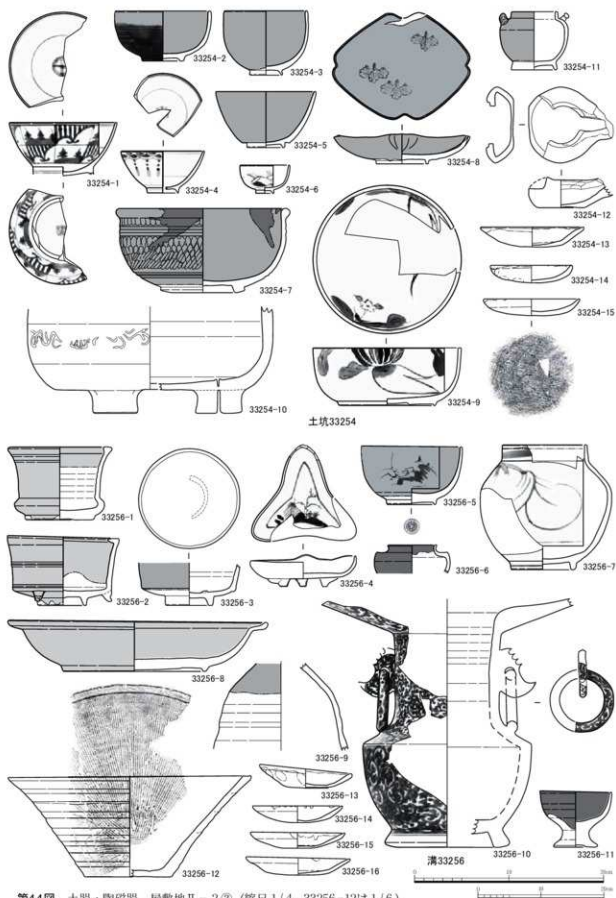
土坑33290(第45図) 17世紀初頭から前期の遺物が中心のゴミ穴である。

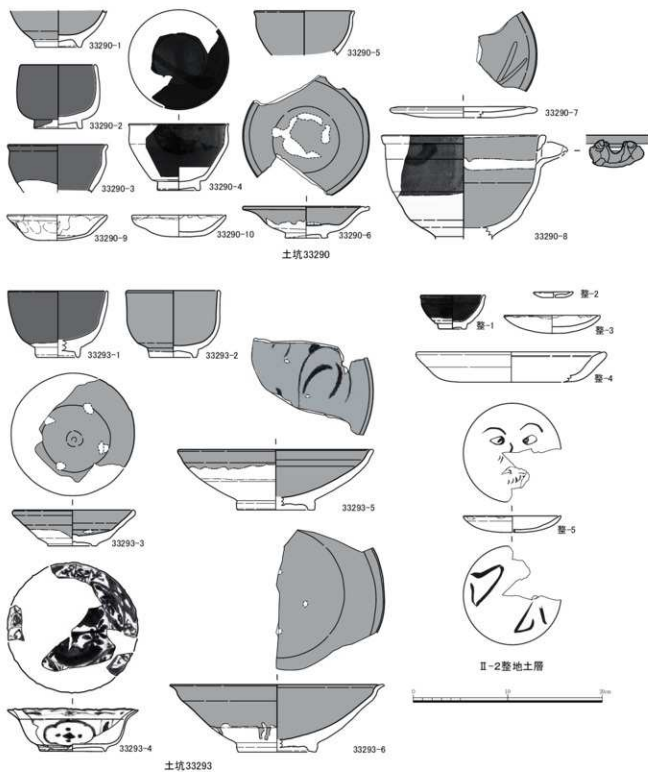
瀬戸・美濃焼 天目茶碗(33290-4)は鉄釉と褐釉を施す。高台は無軸である。登窯期に位置付ける。

唐津焼 鉢、皿等がある。片口鉢(33290-8)は鉄絵後灰釉を施軸する。水指蓋(33290-7)は、破片であるが上面にヘラによる加飾が確認できる。内面は無軸で、外面に灰釉を施軸する。皿(33290-6)は、ロクロ成形で灰釉を施軸し、腰部以下は無軸である。見込に砂目の痕跡が残る。

土坑33293(第45図) 17世紀初頭の遺物が中心である。

唐津焼 皿(33293-3・6)は灰釉を施軸し、胎土目積みの痕跡が残る。絵唐津皿(33293-5)は、鉄





第45図 土器・陶磁器 屋敷地II-2④ (縮尺1/4)

絵で柳を描き、腰部以下は無軸である。見込に胎土目積みの痕跡を残す。

瀬戸・美濃焼 丸碗(33293-1)がある。ロクロ成形後に高台を削り出す。底部は厚く、口縁部にかけてやや直立気味に成形する。鉄軸を施し、高台は無軸である。大窯Ⅳ期に分類できる。

輸入陶磁器 中国製品の染付鉢(33293-4)がある。ロクロ成形で、作りは薄く、口縁部端部を稜花状に成形する。見込は花蝶文を描き、外面は窓絵に花文を描く。

4 屋敷地Ⅱ-3 (第46～48図、第2表)

屋敷地境溝 3325(第46・47図) 北庄城期から続く溝である。屋敷地Ⅱ-2とⅡ-3の境界溝で、18～19世紀までの遺物を含む上層と、17世紀の遺物が中心の下層に分けることができる。

上層 肥前の広東碗(3325上-3)がある。ロクロ成形後に高台を削り出す。外面に竹林と雀を染付で描き、内面には草文を描く。鉢(3325上-11)は、染付で内面に山水を描き、外面に山を描く。底部は蛇ノ目凹形高台である。京・信楽焼には碗(3325上-5)がある。削出高台で浅く作る。染付と鉄絵で杉を描く。全体に灰軸系の軸を施軸する。伊万里の上絵皿(3325上-9)は型打ち成形である。染付で兎等を描き、朱で七宝を描く。口縁部端部に口紅を施す。他に、信楽焼の土瓶(3325上-12)、瀬戸・美濃焼の土鍋(3325上-15)、ミニチュアの土鍋(3325上-14)等がある。

下層 初期伊万里の碗(3325下-2)がある。外面にヘラ彫りによる縦筋を表す。染付で口縁部に波文を描き、「福」の文字を縦に並べる。高台内は無軸である。染付皿(3325下-1)は、浅い削出高台で、見込に花を描く。染付の発色は淡い。3325下-5は染付皿である。高台内にハリ支えの痕跡を残し、高台には砂が焙着する。仏花瓶(3325下-4)は染付で花を描く。口縁部から透明軸を施すが、肩部より底部までは鉄軸を施軸する。他に、京焼風の灰軸碗(3325下-6)、瀬戸・美濃焼の水注(3325下-3)、播鉢(3325下-7)等がある。

土坑3313(第47図) 19世紀中頃から近代の遺構である。瓦を多く含む。

伊万里 碗(3313-1)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。染付で、外面に波、魚、松、紅葉を描く。高台内には、「富貴長春」の銘が確認できる。

唐津焼 壺(3313-5)がある。ロクロ成形後に高台を削り出し、灰軸と鉄軸を施軸する。腰部以下無軸である。他に、植木鉢(3313-6)がある。ロクロ成形後に高台を削り出す。脚を貼付け、灰軸を施軸する。底部の穿孔は焼成後のものである。

京・信楽焼 端反小碗(3313-2)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。灰軸系の軸を施軸する。高台部は無軸であり、表面には貫入が確認できる。

信楽焼 鉢(3313-7)は、ロクロ成形で、灰軸と褐軸を流し掛ける。腰部以下は無軸である。底部に穿孔があり、植木鉢に転用したものとする。

池3315(第48図) 18世紀中頃から19世紀の遺物が確認できる。

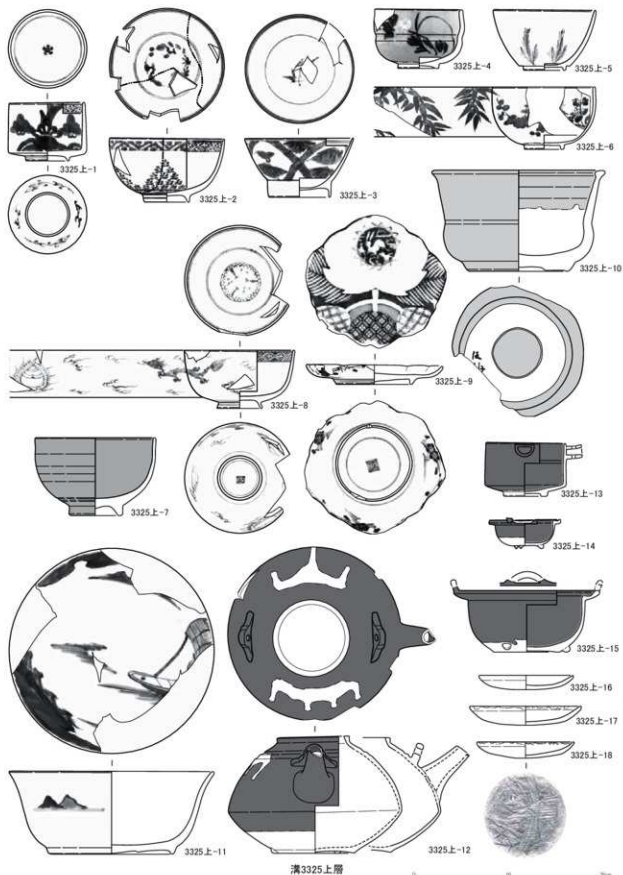
伊万里 染付丸碗(3315-1)は、器壁が厚く外面に二重網目文を描く。蓋(3315-3)は、つまみを削り出し、内側に鷺を描く。段重(3315-5)は染付で格子文を描く。

九谷焼 小坏(3315-4)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。白磁に朱で上絵付をし、書物を描く。

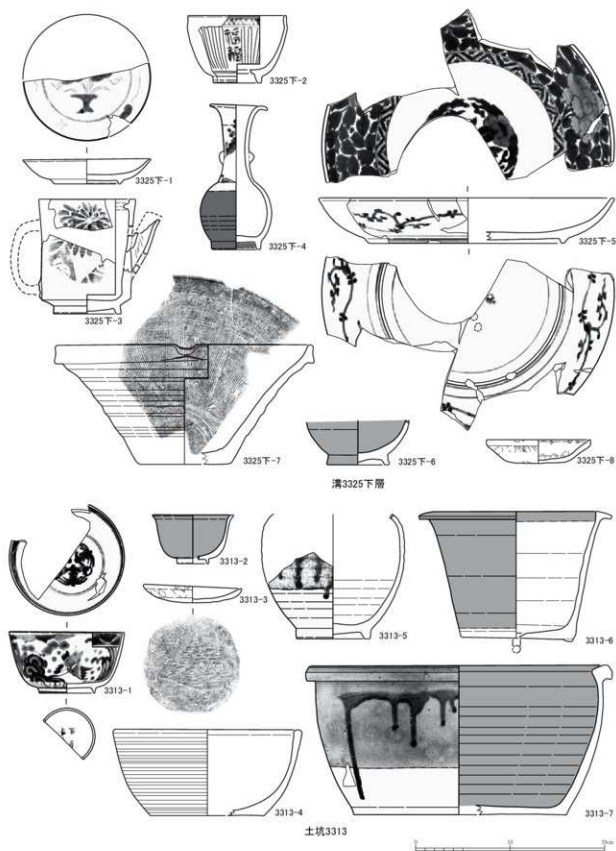
京焼系 合子(3315-9)は、平底状に整え透明軸を施す。底部に判読不明な墨書が確認できる。

瀬戸・美濃焼 蟹盥(3315-12)がある。板作りである。摺絵で流水文を描き、内外面に灰軸を施軸する。欠損しており長径等は不明である。

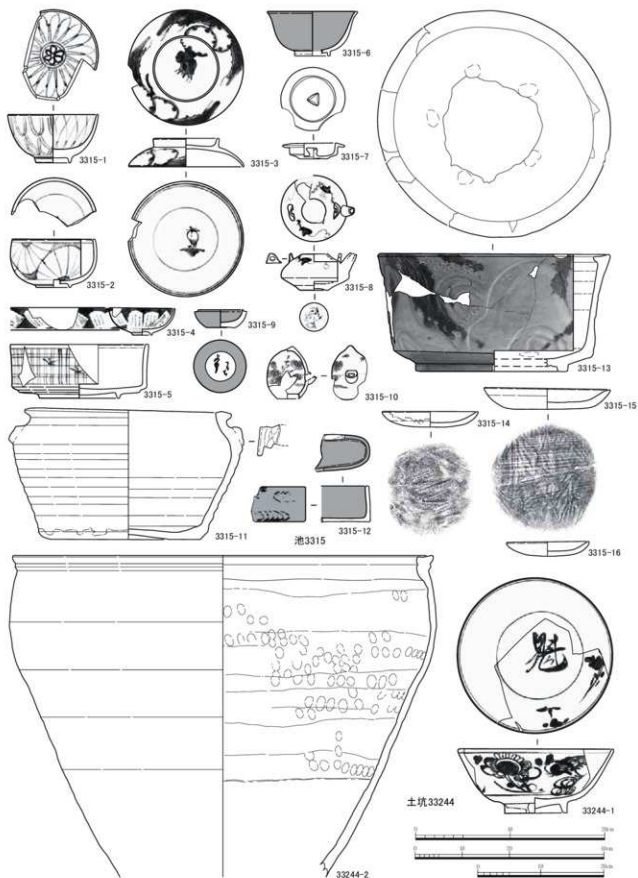
越前焼 鉢(3315-11)がある。ロクロ調整後、持ち手を2点貼付ける。口縁部は折り返し、やや分



第46図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-3① (縮尺1/4)



第47図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-3② (縮尺1/4)



第48図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅱ-3③(縮尺1/4、3315-13は1/6、33244-2は1/8)

厚く成形する。内外面に鉄泥を塗布する。

4 屋敷地Ⅱ-1 整地土層 (第41図、第2表)

整地土層出土の陶磁器は以下のとおりである。遺物量が膨大な為、大部分を割愛した。特徴的なものを中心に、生産地ごとに概要を述べる。

唐津焼 鉄釉皿(整-10・11)があり、Ⅱ期に分類できる。播鉢(整-28)は、口縁部を玉縁状に成形し、内外面の口縁部周辺にのみ鉄釉を施軸する。

瀬戸・美濃焼 築城前後のものも多く確認できる。天目茶碗(整-1～3)等がある。全て鉄釉で、大窯期のⅢ期からⅣ期にあたる。碗(整-5)は連房式登窯期のものである。ロクロ成形後に高台を削り出し、鉄釉と褐釉を施軸する。腰部以下は無釉である。皿(整-14～18)は、灰釉で大窯期のⅢ期からⅣ期にあたる。天目茶碗(整-1)はロクロ成形で、鉄釉を施軸する。鉄釉の油壺(整-19)は、ロクロ成形で底部に糸切痕が残る。鳥形水滴(整-21)は、ロクロ成形で、底部は回転糸切痕が残る。頭部と羽を貼付けた後に、外面に鉄釉を施軸する。

輸入陶磁器 李朝の皿(整-6)等がある。ロクロ成形で、灰釉を施軸する。底部と見込に砂目の痕跡が確認できる。欠損しており口径等は不明である。中国製の棧花皿(整-7)は、ロクロ成形後型押し成形し、青磁釉を施す。整-8は景德鎮窯の皿である。ロクロ成形後に高台を削り出す。高台は面取りをする。染付で見込に「寿」を描いた後、全体に透明釉を施す。欠損しており口径等は不明である。

その他 人形(整-23)は、型合わせて恵比寿を表し、灰釉を施軸する。面(整-22)は、型押し成形で猿の顔を表す。内外面ともに無釉である。どちらも17世紀から18世紀後葉のものとする。

第2表 土器・陶磁器観察表 Ⅱ街区

観 3100

図番番号	器 種	製造地・産地 土層別(口)	口径 (cm)	高さ (cm)	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考	
2100-1	小杯	伊万里	6.2	3.7	4.0	ロクロ成形。磨面高台。	茶色。外(施)に無釉。	Ⅳ期
2100-2	小杯	伊万里	7.0	2.8	4.2	ロクロ成形。磨面高台。	染付。外(施)。	Ⅳ期
3100-3	平鉢	京都・信楽	9.2	2.7	5.4	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)に無釉。	鎌倉期
3100-4	皿	—	6.6	2.5	3.1	ロクロ成形。磨面高台。	染付。内(山)に(茶)。	Ⅳ期
3100-5	碗	—	6.7	4.4	7.0	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-6	碗	—	7.1	3.5	3.0	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-7	碗	—	8.0	3.8	3.3	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-8	小杯	瀬戸	7.9	2.8	3.6	ロクロ成形。磨面高台。	染付。外(施)。	Ⅳ期
3100-9	平鉢	伊万里	8.0	3.9	3.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-10	平鉢	伊万里	15.4	5.0	6.6	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-11	平鉢	—	14.0	5.0	5.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-12	文様皿	唐津	11.4	4.4	7.1	ロクロ成形。磨面高台。変出。	鉄釉。高台部無釉。	Ⅳ期。青磁。後用器。
3100-13	灰釉皿	瀬戸・美濃	11.6	5.4	6.0	ロクロ成形。磨面高台。	鉄釉。高台部無釉。	Ⅳ期。青磁。後用器。
3100-14	文様皿	伊万里	8.4	3.9	5.6	ロクロ成形。	染付。外(施)。	Ⅳ期
3100-15	文様皿	伊万里	9.4	4.1	6.8	ロクロ成形。磨面高台。	染付。外(施)。	Ⅳ期
3100-16	文様皿	中国	7.4	3.0	3.0	ロクロ成形。磨面高台。磨面付(3ヵ所)。	青磁。外(施)。	Ⅳ期
3100-17	文様皿	伊万里	15.5	5.8	2.9	磨面付。変出。	青磁。外(施)。	Ⅳ期
3100-18	平鉢	瀬戸	11.6	3.7	4.5	—	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-19	平鉢	—	11.6	3.8	4.6	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-20	茶碗	—	13.2	3.5	6.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-21	茶碗	—	13.2	3.5	6.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-22	茶碗	—	13.2	3.5	6.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-23	茶碗	伊万里	13.8	3.6	3.7	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-24	茶碗	伊万里	12.3	3.9	4.9	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-25	茶碗	伊万里	12.4	12.1	4.5	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-26	茶碗	唐津	14.2	5.9	3.8	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-27	茶碗	唐津	13.5	7.5	4.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-28	茶碗	瀬戸・美濃	10.6	3.7	2.7	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-29	茶碗	瀬戸・美濃	16.0	—	—	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-30	茶碗	伊万里	6.0	—	(6.3)	磨面付。変出。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-31	茶碗	伊万里	6.4	—	(6.3)	磨面付。変出。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-32	茶碗	瀬戸・美濃	6.4	7.4	(10.2)	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-33	茶碗	—	3.5	5.4	17.3	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-34	茶碗	—	3.3	3.8	5.8	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-35	茶碗	—	12.3	4.8	7.1	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-36	茶碗	—	6.3	6.2	5.9	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-37	茶碗	—	6.3	6.2	5.9	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-38	茶碗	—	11.4	9.0	17.2	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-39	茶碗	—	12.8	—	(12.3)	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-40	茶碗	越前	—	9.8	(24.4)	ロクロ成形。磨面高台。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-41	風車	—	13.9	—	10.3	ロクロ成形。磨面付。変出。	鉄釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-42	茶碗	—	20.0	5.8	5.8	磨面付。変出。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期
3100-43	文様皿	—	6.3	8.4	6.2	磨面付。変出。	灰釉。外(施)。	Ⅳ期

第2節 Ⅱ街区の土器・陶磁器

Ⅱ街区 屋敷跡1

図面番号	器 種	陶磁器・産物 土器・瓦・磁器	寸法(㎝)	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考	
3103-1	飯筒	伊万里	11.0	4.5	2.8	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3103-2	飯筒	伊万里	1.6	3.4	6.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3104-1	鍋	伊万里	9.8	3.4	5.3	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3110-1	飯盛皿	伊万里	9.0	3.3	5.8	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、内(四方)、	Ⅳ～Ⅴ期
3110-2	小鉢	瀬戸・美濃	8.6	3.2	6.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、見(五曜)、	Ⅲ期
3110-3	平皿	伊万里	9.2	4.5	7.3	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、内(四方)、	Ⅳ期
3110-4	陶蓋	伊万里	11.6	7.2	3.1	ロクク成焼、つまみ削出、	染付、赤い顔料、見(十字花文、	Ⅲ期
3110-5	平皿	京都	9.1	3.2	5.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、見(十字花文、	Ⅲ期
3110-6	飯筒	京都	10.3	3.1	8.0	ロクク成焼、彫出高台、	通明焼、赤い顔料、白梅・緑松、高	高台内庫裏(有紋付、
3110-7	皿	伊万里	19.8	13.2	2.1	ロクク成焼、彫出高台、高台内(ハリ)支え、	内(有紋・松竹、見)松と竹、高台	内(有紋・松竹、見)松と竹、高
3110-8	茶碗	瀬戸・美濃	6.0	3.8	4.4	ロクク成焼、彫出高台、赤い、	赤い、赤い顔料、	全体にすずり付いて、
3110-9	土師器	○	10.1	-	1.7	内(有紋・松竹、見)松と竹、高台	赤い顔料、	全体にすずり付いて、
3110-10	土師器	○	11.9	-	1.8	内(有紋・松竹、見)松と竹、高台	赤い顔料、	全体にすずり付いて、
3110-11	土師器	○	10.2	-	1.7	内(有紋・松竹、見)松と竹、高台	赤い顔料、	全体にすずり付いて、
3111-1	飯盛皿	伊万里	9.2	5.3	6.8	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3111-2	茶碗	伊万里	10.1	4.5	7.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3111-3	茶碗	京都	10.4	5.4	6.4	ロクク成焼、彫出高台、	通明焼、赤い顔料、	Ⅲ期
3111-4	所縁鉢	伊万里	22.0	6.8	7.0	ロクク成焼、彫出高台、赤い、見(砂目、	通明焼、赤い顔料、内(有紋・松竹、	Ⅲ期
3111-5	鉢	瀬戸	13.6	0.1	-	ロクク成焼、彫出高台、	通明焼、赤い顔料、内(有紋・松竹、	Ⅲ期
3111-6	土師器	○	9.0	-	1.8	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-1	大皿	伊万里	27.2	16.4	4.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-2	大皿	伊万里	24.5	14.6	4.5	ロクク成焼、彫出高台、ハリ支え、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-3	樽形土師器	伊万里	7.1	4.1	1.95	ロクク成焼、彫出高台、赤い、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-4	そば餅皿	伊万里	6.7	3.7	8.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-5	平皿	伊万里	9.1	3.8	5.25	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-6	土師器	伊万里	8.0	4.0	2.1	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-7	飯盛皿	伊万里	12.2	4.9	7.65	ロクク成焼、彫出高台、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-8	飯盛皿	伊万里	10.8	4.2	6.7	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-9	飯盛皿	伊万里	11.4	8.8	6.4	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-10	茶碗	伊万里	11.7	5.2	7.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-11	茶碗	伊万里	12.0	-	18.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3123-12	土師器	○	10.0	-	1.7	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-13	土師器	○	9.8	-	1.7	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-14	土師器	○	9.8	-	1.8	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-15	土師器	○	9.7	-	1.6	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-16	土師器	○	11.7	-	1.7	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3123-17	土師器	○	11.9	-	1.9	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3124-1	茶碗	伊万里	-	14.0	0.1	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3126-1	皿	九谷	-	14.6	0.2	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3126-2	土師器	○	9.6	-	1.8	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3133-1	丸皿	伊万里	24.4	15.9	3.7	ロクク成焼、彫出高台、ハリ支え、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3133-2	丸皿	伊万里	13.3	6.75	3.4	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3133-3	飯盛皿	伊万里	9.0	4.1	6.4	ロクク成焼、彫出高台、トナリ、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3133-4	水注	瀬戸・美濃	6.5	4.8	13.0	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3133-5	四角鉢	伊万里	8.3	11.2	22.7	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3133-6	土師器	○	9.0	4.8	1.3	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3133-7	土師器	○	9.7	-	1.8	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3133-8	土師器	○	8.1	-	1.5	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-1	小鉢	伊万里	5.4	2.4	3.1	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-2	小鉢	伊万里	7.3	3.1	3.5	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-3	平皿	伊万里	8.0	3.2	7.6	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-4	飯盛皿	伊万里	8.8	5.3	7.4	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-5	飯盛皿	伊万里	11.8	5.2	8.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-6	丸皿	伊万里	13.5	6.0	7.5	ロクク成焼、彫出高台、高台(砂目、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-7	平皿	京都・伊万里	9.9	4.9	6.8	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-8	丸鉢	中国	16.8	5.0	8.1	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-9	平皿	伊万里	16.0	5.6	5.5	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-10	丸鉢	伊万里	15.2	6.5	8.5	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-11	飯盛皿	伊万里	20.6	7.8	8.9	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-12	飯盛皿	瀬戸・美濃	12.2	5.4	8.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-13	飯盛皿	瀬戸・美濃	11.6	4.6	7.5	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-14	皿	瀬戸・美濃	10.5	4.2	7.1	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-15	大皿	伊万里	25.8	15.6	4.5	ロクク成焼、彫出高台、ハリ支え、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-16	平皿	伊万里	20.4	9.3	2.8	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-17	飯盛皿	伊万里	14.4	8.5	2.2	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-18	茶碗	伊万里	3.5	(4.9)	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期	
3134-19	飯盛皿	京都	14.45	8.4	2.3	内(有紋・松竹、見)松と竹、高台	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-20	鉢	伊万里	21.2	10.3	9.7	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-21	茶碗	伊万里	13.7	13.7	28.9	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-22	鉢	伊万里	30.4	9.4	11.3	ロクク成焼、彫出高台、	染付、赤い顔料、	Ⅲ期
3134-23	土師器	○	13.0	-	3.1	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-24	土師器	○	10.1	-	1.8	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-25	土師器	○	11.4	-	2.0	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-26	土師器	○	11.7	-	2.2	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-27	土師器	○	9.1	-	2.3	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-28	土師器	○	7.3	-	2.2	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期
3134-29	土師器	○	9.1	-	2.0	手ねね、口・見(砂目・赤い、赤い顔料、	赤い顔料、	Ⅲ期

第1章 土器・陶磁器

B地区 屋敷地1

図面番号	器 種	陶磁器・漆器 土器・白磁	口径 (mm)	高さ (mm)	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考	
3134上-31	土師器皿	○	19.2	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-32	土師器皿	○	19.2	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-33	土師器皿	○	19.3	-	2.4	手ねね、口・内面ナデ、外面無。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-34	土師器皿	○	10.0	-	2.2	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-35	土師器皿	○	10.0	-	2.5	手ねね、口・内面ナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-36	土師器皿	○	11.1	-	2.7	手ねね、口・内面ナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-1	鉢	中国	32.9	5.1	6.1	口口成形、削出高台。	染付、赤い文様、足口赤。	漆器類
3134上-2	鉢	唐津	13.1	6.6	7.1	口口成形、削出高台。	口縁以下無釉、内面無釉。	IV期
3134上-3	甕・土師器	京都・信楽系	10.0	5.0	6.1	口口成形、削出高台。	無釉、外内面赤、高台内面無。	高台内(初期)通称
3134上-4	丸鉢	伊万里	14.1	8.1	3.1	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	染付、内(花・葉・鳥)。	II期
3134上-5	輪花鉢	唐津	15.2	5.5	3.5	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-6	土師器鉢	唐津	13.7	5.0	3.5	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-7	土師器鉢	唐津	4.2	6.1	9.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-8	土師器鉢	伊万里	21.1	12.2	2.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-9	土師器鉢	伊万里	3.9	7.5	20.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-10	土師器鉢	唐津	36.8	13.8	12.5	ねじりて成形、口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-11	土師器鉢	唐津	-	-	11.8	ねじりて成形、口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3134上-12	土師器鉢	○	7.9	-	2.8	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-13	土師器鉢	○	8.8	-	2.0	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-14	土師器鉢	○	9.8	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-15	土師器鉢	○	13.0	-	2.4	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3134上-16	土師器鉢	○	9.7	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-1	土師器鉢	唐津	10.2	-	15.3	口口成形。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-2	土師器鉢	○	9.2	-	1.9	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-3	土師器鉢	○	10.6	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-4	土師器鉢	唐津	23.0	10.6	8.2	ねじりて成形、口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-5	土師器鉢	○	10.8	-	2.7	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-6	土師器鉢	○	12.5	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-7	土師器鉢	伊万里	-	4.6	17.4	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-8	土師器鉢	伊万里	129.0	18.9	6.7	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-9	土師器鉢	伊万里	12.7	5.7	4.7	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-10	土師器鉢	伊万里	119.1	17.0	7.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-11	土師器鉢	伊万里	16.8	7.8	7.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-12	土師器鉢	伊万里	33.8	11.2	9.9	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-13	土師器鉢	伊万里	129.0	17.0	11.2	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-14	土師器鉢	伊万里	12.4	14.0	4.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-15	土師器鉢	伊万里	11.5	17.5	4.7	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-16	土師器鉢	伊万里	11.0	12.0	12.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-17	土師器鉢	伊万里	11.2	4.2	2.1	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-18	土師器鉢	伊万里	22.4	8.5	12.5	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-19	土師器鉢	伊万里	16.2	2.4	3.6	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-20	土師器鉢	伊万里	16.2	4.8	12.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-21	土師器鉢	伊万里	10.4	4.0	6.9	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-22	土師器鉢	伊万里	23.1	10.2	1.7	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-23	土師器鉢	伊万里	45.5	-	12.0	口口成形。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-24	土師器鉢	伊万里	10.4	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-25	土師器鉢	伊万里	10.7	-	2.3	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-26	土師器鉢	伊万里	14.3	5.6	2.9	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-27	土師器鉢	伊万里	6.2	-	17.3	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-28	土師器鉢	伊万里	9.8	-	4.6	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-29	土師器鉢	伊万里	23.9	7.6	4.6	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-30	土師器鉢	伊万里	10.6	-	2.3	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-31	土師器鉢	伊万里	9.8	-	2.1	手ねね、口・足回りナデ、外内面押入。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-32	土師器鉢	伊万里	11.5	4.4	5.6	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-33	土師器鉢	伊万里	15.7	5.7	4.4	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-34	土師器鉢	伊万里	10.1	5.7	3.7	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-35	土師器鉢	伊万里	11.1	5.5	2.5	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-36	土師器鉢	伊万里	11.4	5.0	6.1	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-37	土師器鉢	伊万里	11.8	5.0	6.0	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-38	土師器鉢	伊万里	11.4	6.1	6.5	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-39	土師器鉢	伊万里	9.4	4.8	5.4	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-40	土師器鉢	伊万里	9.2	4.2	5.2	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-41	土師器鉢	伊万里	8.4	3.1	6.2	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-42	土師器鉢	伊万里	9.8	4.4	6.7	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-43	土師器鉢	伊万里	10.5	6.2	2.5	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-44	輪花甕	伊万里	16.5	6.2	2.5	口口・打ねて成形、削出高台。	染付、内(葉・鳥)で高台の裏面、外面で赤い文様の点。	II期
3135上-9	甕・土師器	伊万里	2.3	4.3	8.2	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-10	土師器鉢	伊万里	17.6	9.6	6.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-11	土師器鉢	伊万里	4.5	3.9	8.2	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-12	土師器鉢	伊万里	8.2	4.6	5.1	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-13	土師器鉢	伊万里	32.6	19.6	21.7	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-14	土師器鉢	伊万里	20.7	8.4	8.7	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-15	土師器鉢	伊万里	9.5	8.5	15.2	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-16	土師器鉢	伊万里	11.2	10.0	13.2	口口成形。	底面赤褐色、口縁部黒色。	II期
3135上-17	土師器鉢	伊万里	10.3	-	-	ねじりて成形、口縁部ナデ、口口成形。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-18	土師器鉢	伊万里	10.3	-	1.9	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-19	土師器鉢	伊万里	10.0	-	1.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-20	土師器鉢	伊万里	10.3	-	1.9	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-21	土師器鉢	伊万里	12.0	-	3.3	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-22	土師器鉢	伊万里	10.3	-	4.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-23	土師器鉢	伊万里	10.3	-	9.0	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-24	土師器鉢	伊万里	18.0	-	2.4	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-25	土師器鉢	伊万里	12.3	4.8	6.2	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-26	土師器鉢	伊万里	15.9	6.2	12.8	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-27	土師器鉢	伊万里	16.2	5.8	8.7	口口成形、削出高台。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3
3135上-28	土師器鉢	伊万里	16.6	7.0	7.8	口口成形、削出高台、ハリ変え溝。	底面赤褐色、口縁部黒色。	C系3

第2節 Ⅱ地区の土器・陶磁器

Ⅱ地区 屋敷地1

図面番号	器種	陶磁器 土器・磁器	用途 付之	口径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
3201上-5	丸筒	伊万里	10.6	4.4	6.3	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外社内と横花部、口内(赤文、口内)。	V期、高台内(シ)口内、横花部。
3201上-6	丸筒	伊万里	10.6	4.0	5.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(一重劃目文、内)赤文、内面。	V期。
3201上-7	丸筒	伊万里	10.6	4.3	6.1	ロウロ成形、彫出高台、トチン跡。	染付、外(口内と横花部、内)内面。	V期。
3201上-8	丸筒	伊万里	10.6	4.4	6.3	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-9	小鍋	伊万里	9.7	3.5	5.2	ロウロ成形、彫出高台、厚す、口付時磨。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-10	小鍋	伊万里	8.9	3.0	4.4	ロウロ成形、彫出高台。	赤絵、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-11	小鍋	伊万里	7.5	2.9	3.8	ロウロ成形、彫出高台。	赤絵、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-12	小鍋	伊万里	8.8	3.7	4.8	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-13	小鍋	伊万里	8.7	3.6	6.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-14	湯瓶	伊万里	10.4	4.4	6.5	ロウロ成形、彫出高台、口付時磨。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-15	湯瓶	伊万里	10.4	4.3	6.85	ロウロ成形、彫出高台、口付時磨。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-16	湯瓶	伊万里	9.4	3.8	5.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-17	湯瓶	伊万里	10.6	4.2	5.9	ロウロ成形、彫出高台。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-18	湯瓶	伊万里	11.2	6.2	9.8	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-19	半筒碗	伊万里	7.9	3.8	6.2	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-20	半筒碗	伊万里	8.85	4.2	7.1	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-21	碗	伊万里	7.5	4.5	6.5	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-22	小鍋	伊万里	8.4	4.0	6.1	ロウロ成形、彫出高台、口付時磨、厚す。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-23	そば盛皿	伊万里	7.8	4.9	5.7	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-24	そば盛皿	伊万里	7.2	4.5	5.5	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-25	半筒碗	伊万里	7.7	3.8	6.1	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-26	半筒碗	伊万里	8.2	4.2	6.1	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-27	湯瓶	伊万里	10.2	つまみ 5.3	2.6	ロウロ成形、つまみ削出。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-28	湯瓶	伊万里	14.1	8.0	4.8	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、口内(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-29	小皿	伊万里	7.5	4.4	1.7	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-30	小皿	伊万里	6.5	3.9	1.6	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-31	小皿	伊万里	13.5	7.2	2.8	ロウロ成形、彫出高台、見(口内と横花部)。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-32	小皿	伊万里	9.6	6.0	2.4	ロウロ成形、彫出高台、口内。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-33	小皿	伊万里	—	—	2.0	口内、口内と横花部、口内。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-34	小皿	伊万里	9.05	5.0	2.4	口内、口内と横花部、口内。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-35	小皿	伊万里	8.15	4.9	2.2	口内、口内と横花部、口内。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-36	小皿	伊万里	8.4	4.8	2.0	口内、口内と横花部、口内。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-37	湯瓶	伊万里	12.3	4.9	7.2	ロウロ成形、彫出高台、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-38	湯瓶	伊万里	6.8	3.6	6.2	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-39	湯瓶	伊万里	7.9	3.1	5.4	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-40	湯瓶	伊万里	7.4	3.4	5.8	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-41	湯瓶	伊万里	5.1	2.2	2.6	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-42	湯瓶	伊万里	9.4	3.8	5.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-43	湯瓶	伊万里	9.4	3.6	5.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-44	湯瓶	伊万里	10.8	4.2	5.8	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-45	湯瓶	伊万里	9.8	3.0	6.9	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-46	湯瓶	伊万里	13.8	4.2	6.4	ロウロ成形、彫出高台、外(口内と横花部)による変形。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-47	湯瓶	伊万里	9.2	3.3	6.1	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-48	湯瓶	伊万里	26.1	—	18.1	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-49	湯瓶	伊万里	8.9	3.8	1.9	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-50	湯瓶	伊万里	8.6	4.6	5.0	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-51	湯瓶	伊万里	11.3	4.5	4.8	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-52	湯瓶	伊万里	9.1	5.2	6.55	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-53	湯瓶	伊万里	9.6	4.1	5.4	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-54	湯瓶	伊万里	9.5	3.2	5.65	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-55	湯瓶	伊万里	22.9	—	17.0	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-56	湯瓶	伊万里	13.0	14.1	12.1	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-57	湯瓶	伊万里	27.6	10.8	12.6	ロウロ成形、縮み口高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-58	湯瓶	伊万里	128.0	—	122.0	口内と横花部、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-59	湯瓶	伊万里	24.7	17.0	12.2	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-60	湯瓶	伊万里	23.9	—	19.1	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-61	湯瓶	伊万里	27.9	—	19.1	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-62	湯瓶	伊万里	33.1	—	13.0	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-63	湯瓶	伊万里	10.6	4.4	3.2	ロウロ成形、つまみ削出。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-64	湯瓶	伊万里	7.5	6.7	—	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-65	湯瓶	伊万里	10.1	4.2	6.0	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-66	湯瓶	伊万里	10.5	6.6	—	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-67	湯瓶	伊万里	13.0	11.0	4.9	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-68	湯瓶	伊万里	26.8	—	17.1	ロウロ成形、縮み口高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-69	湯瓶	伊万里	33.4	17.2	15.5	ロウロ成形、縮み口高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-70	湯瓶	伊万里	11.0	10.4	2.9	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-71	湯瓶	伊万里	35.0	13.2	7.6	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-72	湯瓶	伊万里	13.8	8.2	2.8	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-73	湯瓶	伊万里	12.0	4.2	3.3	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3201上-74	湯瓶	伊万里	9.6	4.4	6.5	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3202上-1	湯瓶	伊万里	9.0	5.2	6.3	ロウロ成形、彫出高台。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3202上-2	湯瓶	伊万里	8.9	17.4	8.7	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3202上-3	湯瓶	伊万里	25.2	10.5	10.5	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-1	湯瓶	伊万里	13.3	126.0	—	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-2	湯瓶	伊万里	10.0	4.0	7.6	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-3	湯瓶	伊万里	9.2	2.6	6.3	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-4	湯瓶	伊万里	6.8	5.0	8.6	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-5	湯瓶	伊万里	10.3	25.4	—	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-6	湯瓶	伊万里	10.3	4.3	1.7	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-7	湯瓶	伊万里	10.0	—	1.4	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-8	湯瓶	伊万里	116.2	4.0	6.7	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-9	湯瓶	伊万里	11.0	11.3	11.7	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-10	湯瓶	伊万里	27.5	15.7	4.8	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。
3211上-11	湯瓶	伊万里	132.0	132.0	8.4	ロウロ成形、彫出高台、口内と横花部。	染付、外(口内と横花部、内)口内。	V期。

第1章 土器・陶磁器

日南区 屋敷地1

図面番号	器 種	陶磁器・土器 土器・白磁	数量(個)	口径	高さ	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
3224-1	腰素面	伊万里	9.7	3.7	6.1	ロク口成形。削出高台。(意)砂磨着。	染付。外ノ欄文・横文。内ノ四方等。 ※(意)花文十高文。高台内 部ノ直高(長条)。	Ⅳ期
3224-2	陶器	伊万里	11.0	つまみ (4.0)	2.3	ロク口成形。つまみ削出。	染付。(内)連環文(意)・花文等。 ※(意)四方等。削出高台。	Ⅳ期
3224-3	模花瓦	伊万里	15.2	7.9	4.7	型作り。削出高台。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期。決壊中。
3224-4	鉢(唐付)	伊万里	14.2	7.4	6.9	ロク口成形。削出高台。高台内ナンナ。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-5	唐器	伊万里	12.5	7.5	4.5	ロク口成形。削出高台。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期。決壊中。
3224-6	大入	伊万里	14.2	15.0	11.1	ロク口成形。乾ノ目録ハ平高台。高台内砂磨着。	染付。(内)連環文(意)・花文等。 ※(意)四方等。削出高台。	Ⅳ期
3224-7	鉢	伊万里	13.0	4.5	11.02	ロク口成形。削出高台。砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-8	飯碗	唐津	12.9	16.0	26.8	ねじりて成形。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-9	仏式瓶	伊万里	6.2	-	(6.9)	ロク口成形。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-10	折縁鉢	唐津	26.4	9.4	6.4	ロク口成形。削出高台。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-11	平皿	唐津	14.0	4.8	3.5	ロク口成形。削出高台。染付。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-12	酒	唐津	15.9	10.5	7.6	ロク口成形。ケズリ。足附付。(内)トナリ。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-13	唐器	唐津	30.4	(14.0)	10.5	ねじりて成形。口内砂磨着。削出高台。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-14	土師器	○	9.4	-	1.12	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-15	土師器	○	9.8	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-16	土師器	○	9.2	-	1.9	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-17	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-18	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-19	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-20	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-21	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-22	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-23	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-24	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-25	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-26	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-27	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-28	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-29	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-30	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-31	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-32	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-33	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-34	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-35	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-36	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-37	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-38	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-39	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-40	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期
3224-41	土師器	○	12.1	-	2.3	手捏ね。(口・内)削しナリ。外ノ砂磨着。	染付。外ノ花文等。意・口内 横文等。	Ⅳ期

2節 II街区の土器・陶磁器

II 地区 屋敷地 1

調査番号	科 種	海抜・位置 土壌質・日照	水深(m)	深度	高さ	成育・調整	輪葉・葉脈・その他	備 考
3266-42	土壌質	○	19.41	—	茂 1.4	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、見方指ナナ、外方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3266-43	土壌質	○	10.5	—	2.2	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、見方指ナナ、外方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3266-44	土壌質	○	12.0	—	2.8	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、外方指ナナ、内方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3266-45	土壌質	○	10.0	—	2.8	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、外方指ナナ、内方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3266-46	土壌質	×	9.4	—	2.1	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、外方指ナナ、内方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3266-47	土壌質	×	10.3	—	2.0	子葉は、口・腹内ナナナ、葉脈、外方指ナナ、内方指ナナ	浅黄褐色	D系2
3267-1	丸葉	伊万里	(21.0)	11.9	4.3	口ワ成葉、葉面高凸。	葉白、肉厚軟弱・薄葉、高肉内葉・大葉型葉	葉面
3267-2	高卵	伊万里	11.7	5.7	6.4	口ワ成葉、葉面高凸。	肉厚、肉面・高肉厚葉	葉面の點形葉脈。
3270-1	高卵	伊万里	13.8	5.8	7.7	口ワ成葉、葉面高凸。	肉厚、肉面・高肉厚葉	葉面の點形葉脈。
3270-2	高卵	伊万里	13.8	5.8	7.7	口ワ成葉、葉面高凸。	肉厚、肉面・高肉厚葉	葉面の點形葉脈。
3270-3	丸葉	唐津	11.5	4.9	7.2	口ワ成葉、葉面高凸。	葉軟弱、肉・高肉ナナナ目。	葉面
3270-4	丸葉	唐津	11.5	4.9	7.2	口ワ成葉、葉面高凸。	葉軟弱、肉・高肉ナナナ目。	葉面
3271-1	短広葉	伊万里	(11.4)	8.7	6.5	口ワ成葉、葉面高凸。	葉白、高肉ナナナ、見方指。	葉面
3271-2	丸葉	伊万里	10.7	4.5	8.9	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線。	葉白、高肉厚葉	葉面
3271-3	丸葉	伊万里	—	(4.5)	—	口ワ成葉、葉面高凸。	葉白・高肉厚・縁・見方大明・高肉・高肉	葉面
3271-4	短	唐津	(6.7)	(0.8)	7.7	口ワ成葉、葉面高凸。	葉白、高肉厚葉	葉面
3271-5	高卵	唐津	10.9	4.6	7.5	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線。	葉白、高肉厚葉	葉面
3271-6	丸葉	唐津	12.2	4.0	7.5	口ワ成葉、葉面高凸。	葉白、高肉厚葉	葉面
3271-7	大葉	伊万里	(8.8)	11.1	10.5	口ワ成葉、葉面高凸、高肉目線葉。	葉軟弱、葉面・肉面・肉面	葉面
3271-8	輪切葉	唐津	10.9	4.2	7.3	口ワ成葉、葉面高凸。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉。	葉面
3271-9	高卵	唐津	11.3	4.6	9.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉。	葉面
3271-10	葉面高凸	唐津	13.1	4.5	9.9	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉。	葉面
3271-11	高卵	唐津	(12.4)	4.3	7.2	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-12	高卵	唐津	13.0	4.2	7.2	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-13	大葉	伊万里	29.1	11.3	11.5	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-14	葉・高肉・高肉	唐津	—	8.5	(9.8)	口ワ成葉、葉面高凸。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-15	葉面	唐津	36.4	14.7	13.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-16	高卵	伊万里	13.0	4.2	7.2	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-17	高卵	伊万里	12.7	4.6	4.1	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-18	高卵	伊万里	13.8	7.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-19	高卵	伊万里	13.8	7.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-20	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-21	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-22	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-23	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-24	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-25	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-26	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-27	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-28	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-29	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-30	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-31	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-32	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-33	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-34	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-35	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-36	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-37	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-38	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-39	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-40	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-41	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-42	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-43	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-44	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-45	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-46	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-47	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-48	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-49	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-50	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-51	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-52	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-53	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-54	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-55	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-56	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-57	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-58	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-59	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-60	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-61	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-62	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-63	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-64	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-65	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-66	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-67	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-68	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-69	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-70	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-71	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-72	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-73	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-74	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-75	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-76	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-77	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-78	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-79	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-80	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-81	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-82	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-83	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-84	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-85	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-86	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-87	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-88	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-89	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-90	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-91	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-92	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-93	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-94	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-95	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-96	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-97	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-98	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-99	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面
3271-100	丸葉	唐津	12.8	6.6	3.8	口ワ成葉、葉面高凸、葉面目線・高肉。	葉軟弱、葉面・高肉厚葉、肉内高肉葉。	葉面

且街区 屋數地： 整地土層

列車番号	種 別	発着駅・高千穂	高千穂	所要時間(分)	停車	通過・調整	輸送・乗降・その他	備 考
		上野駅・高千穂	高千穂		高千穂			
特快列車-1	大宮方面	高千穂・大宮	(10:0)	5.4	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-2	大宮方面	高千穂・大宮	(11:4)	4.4	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-3	大宮方面	高千穂・大宮	12.0	-	60.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-4	大宮方面	高千穂・大宮	13.0	-	7.6	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-5	大宮方面	高千穂・大宮	13.6	5.4	7.6	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-6	大宮方面	高千穂・大宮	14.0	4.9	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-7	大宮方面	高千穂・大宮	16.0	3.3	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-8	大宮方面	高千穂・大宮	16.6	0.1	0.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-9	大宮方面	高千穂・大宮	17.6	4.2	2.8	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-10	大宮方面	高千穂・大宮	18.4	3.5	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-11	大宮方面	高千穂・大宮	(13:3)	4.2	3.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-12	大宮方面	高千穂・大宮	14.0	6.8	62.4	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-13	大宮方面	高千穂・大宮	15.0	8.7	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-14	大宮方面	高千穂・大宮	(10:7)	(5:0)	2.1	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-15	大宮方面	高千穂・大宮	7.2	2.8	1.5	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-16	大宮方面	高千穂・大宮	8.7	2.7	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-17	大宮方面	高千穂・大宮	8.8	4.9	3.0	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-18	大宮方面	高千穂・大宮	(11:1)	-	52.0	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-19	大宮方面	高千穂・大宮	6.2	62.2	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-20	大宮方面	高千穂・大宮	6.1	3.2	3.9	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-21	大宮方面	高千穂・大宮	6.7	3.9	-	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-22	大宮方面	高千穂・大宮	7.1	3.8	4.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-23	大宮方面	高千穂・大宮	7.1	3.1	4.0	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-24	大宮方面	高千穂・大宮	7.2	4.1	4.7	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-25	大宮方面	高千穂・大宮	7.3	4.0	4.9	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-26	大宮方面	高千穂・大宮	7.4	4.0	5.0	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-27	大宮方面	高千穂・大宮	7.5	4.0	5.1	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-28	大宮方面	高千穂・大宮	7.6	4.0	5.2	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-29	大宮方面	高千穂・大宮	7.7	4.0	5.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-30	大宮方面	高千穂・大宮	7.8	4.0	5.4	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-31	大宮方面	高千穂・大宮	7.9	4.0	5.5	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-32	大宮方面	高千穂・大宮	8.0	4.0	5.6	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-33	大宮方面	高千穂・大宮	8.1	4.0	5.7	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-34	大宮方面	高千穂・大宮	8.2	4.0	5.8	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-35	大宮方面	高千穂・大宮	8.3	4.0	5.9	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-36	大宮方面	高千穂・大宮	8.4	4.0	6.0	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-37	大宮方面	高千穂・大宮	8.5	4.0	6.1	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-38	大宮方面	高千穂・大宮	8.6	4.0	6.2	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-39	大宮方面	高千穂・大宮	8.7	4.0	6.3	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面
特快列車-40	大宮方面	高千穂・大宮	8.8	4.0	6.4	高千穂駅、高千穂西口、	高千穂、高千穂西口、	大宮方面

屋敷地増減3205

調査番号	科 種	海抜(m) 土壌・石の 状態	水深(m)			成 形・調 整	施設・設備・その他	備 考
			口徑	高さ	長さ			
3205-1	小池	伊万里	8.8	3.5	4.9	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野
3205-2	湧出高	伊万里	10.8	4.3	4.5	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野
3205-3	伊万里	伊万里	9.2	4.8	6.6	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野
3205-4	伊万里	伊万里	8.6	5.6	5.6	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野
3205-5	伊万里	伊万里	9.6	5.6	6.4	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし(車輪)、高内高(太田)。	青野、津根之。
3205-6	伊万里	伊万里	8.8	5.3	6.1	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野
3205-7	伊万里	伊万里	9.2	5.3	6.4	口が完成、湧出高。	貸付、水口蓋なし。	青野

第1章 土器・陶磁器

屋敷地縄文2005

図面番号	器 種	陶磁器・漆器・土器類	口径	高さ	成形・調整	施装・装飾・その他	備 考	
3205-8	中 伊方	伊方	10.9	5.2	7.7	口口口成形。断面高。体部は下部等で押入れ。	陶器染付、外山丸。	IV期
3205-9	小 伊方	伊方	21.3	6.5	6.4	口口口成形。断面高。	染付、短欠文。短欠目縁ハナ。	IV期
3205-10	小 伊方	伊方	11.7	5.0	7.1	口口口成形。断面高。	通刷。	Ⅲ期
3205-11	大 伊方	伊方	11.2	5.0	7.1	口口口成形。断面高。染付。	通刷。	Ⅲ期
3205-12	大 伊方	伊方	10.9	4.4	7.6	口口口成形。断面高。	染付。内・外ハナ付。	Ⅲ期
3205-13	大 伊方	伊方	10.6	4.0	7.2	口口口成形。断面高。	染付。外ハナ付。内面ハナ付。	Ⅲ期
3205-14	大 伊方	伊方	11.8	4.2	5.0	口口口成形。断面高。	染付。短欠目縁ハナ。高台部無施。	IV期
3205-15	平口鉢	伊方	11.3	5.2	7.4	口口口成形。断面高。	口口口。高台部無施。	Ⅲ期
3205-16	小 伊方	伊方	4.6	4.6	4.6	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-17	小 伊方	伊方	8.6	3.8	2.0	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。高台部無施。	V期
3205-18	大 伊方	伊方	14.8	7.0	2.0	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-19	大 伊方	伊方	15.7	7.0	2.0	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-20	大 伊方	伊方	10.0	8.5	8.5	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-21	大 伊方	伊方	28.0	13.0	13.0	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-22	大 伊方	伊方	30.2	13.4	13.4	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-23	大 伊方	伊方	9.8	1.4	1.4	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-24	大 伊方	伊方	9.1	1.9	1.9	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-25	大 伊方	伊方	10.4	1.7	1.7	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-26	大 伊方	伊方	9.8	1.7	1.7	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-27	大 伊方	伊方	9.9	2.1	2.1	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-28	大 伊方	伊方	10.3	2.3	2.3	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-29	大 伊方	伊方	11.4	1.7	1.7	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-30	大 伊方	伊方	10.8	2.2	2.2	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期
3205-31	大 伊方	伊方	10.9	3.9	3.9	口口口成形。断面高。	染付。外山丸。	V期

日高区 屋敷地 2

図面番号	器 種	陶磁器・漆器 土器・白磁	口径	高さ	成形・調整	施装・装飾・その他	備 考	
3294-1	大 伊方	伊方	10.2	4.5	7.7	口口口成形。断面高。体部は下部で押	陶器染付、外山丸。	IV期
3294-2	大 伊方	伊方	11.4	4.2	5.5	口口口成形。断面高。高台部。	染付、断面下無施。	大正期→IV
3294-3	大 伊方	伊方	9.3	4.1	6.1	口口口成形。断面高。	通刷。	IV期
3294-4	大 伊方	伊方	9.0	2.5	6.6	口口口成形？ つまみ縁付。高台内口ケズリ。	左右無。高台内無施。	通刷並。
3294-5	小 伊方	伊方	1.9	2.5	2.1	口口口成形。	口口口。	IV期
3294-6	大 伊方	伊方	12.0	2.1	2.1	口口口成形。口内口付ナリ。内面押入。	口口口。断面下無施。	通刷並。
3294-7	大 伊方	伊方	9.6	2.4	1.0	口口口成形。口内口付ナリ。断面下無施。	口口口。	IV期
3294-8	大 伊方	伊方	15.0	6.1	6.1	口口口成形。口内口付ナリ。断面下無施。	口口口。	V期
3294-9	大 伊方	伊方	6.4	4.6	7.7	口口口成形。断面高。高台付砂着。	口口口。外山丸付断面高と三山文甲	通刷並。
3294-10	大 伊方	伊方	3.2	3.2	3.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-11	大 伊方	伊方	3.7	4.9	7.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-12	大 伊方	伊方	8.3	4.2	4.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-13	大 伊方	伊方	10.8	3.8	5.7	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-14	大 伊方	伊方	15.4	6.8	6.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-15	大 伊方	伊方	9.3	6.3	6.4	口口口成形。断面高。砂着。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-16	大 伊方	伊方	12.2	4.7	2.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-17	大 伊方	伊方	8.0	1.0	2.3	口口口成形。つまみ縁付。	口口口。断面下無施。	通刷並。
3294-18	大 伊方	伊方	21.1	6.9	10.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-19	大 伊方	伊方	10.9	6.6	6.6	口口口成形。断面高。高台付。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-20	大 伊方	伊方	7.1	5.4	11.3	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-21	大 伊方	伊方	9.8	9.8	9.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-22	大 伊方	伊方	8.5	4.3	6.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-23	大 伊方	伊方	7.4	2.2	2.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-24	大 伊方	伊方	6.9	6.2	13.5	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-25	大 伊方	伊方	9.15	-	2.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3294-26	大 伊方	伊方	9.2	-	2.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-1	大 伊方	伊方	10.5	6.8	5.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-2	大 伊方	伊方	11.4	16.4	15.3	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-3	大 伊方	伊方	10.2	4.4	5.3	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-4	大 伊方	伊方	9.0	3.5	6.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-5	大 伊方	伊方	8.8	3.3	4.4	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-6	大 伊方	伊方	10.0	4.0	6.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-7	大 伊方	伊方	5.3	1.9	3.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-8	大 伊方	伊方	18.4	6.8	6.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-9	大 伊方	伊方	13.9	5.5	3.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-10	大 伊方	伊方	10.7	10.2	6.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-11	大 伊方	伊方	126.0	20.2	11.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-12	大 伊方	伊方	5.0	4.8	6.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-13	大 伊方	伊方	11.0	4.7	5.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-14	大 伊方	伊方	11.0	2.1	2.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-15	大 伊方	伊方	8.7	-	1.9	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-16	大 伊方	伊方	11.0	7.3	1.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-17	大 伊方	伊方	11.8	5.0	7.4	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-18	大 伊方	伊方	-	4.9	4.3	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-19	大 伊方	伊方	-	2.2	2.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-20	大 伊方	伊方	10.7	5.0	6.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-21	大 伊方	伊方	9.0	9.0	13.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-22	大 伊方	伊方	25.0	15.0	5.2	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-23	大 伊方	伊方	12.4	-	10.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-24	大 伊方	伊方	19.0	19.0	19.0	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-25	大 伊方	伊方	7.6	4.4	4.4	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-26	大 伊方	伊方	38.6	13.0	16.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-27	大 伊方	伊方	9.8	-	3.5	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-28	大 伊方	伊方	1.8	-	1.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-29	大 伊方	伊方	10.0	-	1.7	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-30	大 伊方	伊方	11.0	-	1.9	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-31	大 伊方	伊方	4.8	16.0	-	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-32	大 伊方	伊方	8.0	5.1	6.8	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-33	大 伊方	伊方	10.6	-	15.1	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-34	大 伊方	伊方	7.4	-	7.4	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-35	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-36	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-37	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-38	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-39	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-40	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-41	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-42	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-43	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-44	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-45	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-46	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-47	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-48	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-49	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。
3295-50	大 伊方	伊方	10.6	-	10.6	口口口成形。断面高。	口口口。口内口付断面高。	通刷並。

第2節 Ⅱ街区の土器・陶磁器

Ⅱ街区 屋敷地2

図面番号	器 種	陶磁器・産地 土器類・文様	口徑	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
33290-5	碗	京都・伝承	10.6	-	(4.6)	ロク口成形。	灰緑。
33290-6	飯碗	京都・伝承	13.4	-	(1.4)	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33290-7	茶碗	京都・伝承	15.0	-	(1.2)	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33290-8	茶碗	奈良	17.4	-	11.0	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33290-9	土師器	○	10.6	-	2.7	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33290-10	土師器	○	10.0	-	2.2	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33291-1	茶碗	伊万里	8.3	5.3	6.0	削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33292-2	茶碗	伊万里	9.4	5.3	6.2	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33292-3	茶碗	伊万里	-	7.0	-	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33292-4	茶碗	伊万里	-	7.0	-	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33292-5	土師器	○	8.25	-	2.2	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-1	茶碗	京都・伝承	10.6	4.9	7.0	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-2	茶碗	奈良	9.5	4.9	7.1	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-3	茶碗	奈良	12.6	5.1	3.8	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-4	茶碗	伊万里	13.9	6.9	3.5	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-5	茶碗	奈良	20.6	8.0	6.4	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33293-6	茶碗	奈良	22.6	8.2	7.2	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-1	茶碗	京都・伝承	6.8	3.0	3.6	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-2	茶碗	伊万里	4.2	2.5	9.6	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-3	茶碗	○	10.2	-	1.9	削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-4	茶碗	○	20.2	-	1.2	削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-5	茶碗	○	5.3	-	1.8	削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。
33294-6	茶碗	京都・伝承	-	-	(4.7)	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。

屋敷地増設3325

図面番号	器 種	陶磁器・産地 土器類・文様	口 径	高 さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考	
3325-1	平碗	伊万里	8.1	4.5	6.2	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-2	茶碗	伊万里	12.2	4.8	6.8	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。横筋。
3325-3	茶碗	伊万里	11.6	6.4	6.3	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-4	飯付	信楽	9.4	4.3	6.3	ロク口成形。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	確認。
3325-5	小茶碗	京都・伝承	10.9	4.4	6.5	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-6	飯付	京都・伝承	10.8	4.0	6.6	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-7	茶碗	奈良	12.5	5.4	8.2	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-8	飯付	伊万里	11.7	4.7	6.2	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-9	椀	伊万里	14.4	8.0	2.1	削出高台。赤染。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-10	茶碗	伊万里	18.3	10.5	10.7	ロク口成形。削出高台。赤染。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-11	茶碗	伊万里	21.7	12.9	8.8	ロク口成形。削出高台。赤染。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-12	茶碗	伊万里	8.1	4.5	12.6	ロク口成形。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-13	茶碗	伊万里	8.5	4.4	10.7	ロク口成形。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-14	茶碗	伊万里	7.4	-	3.1	ロク口成形。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-15	茶碗	伊万里	15.4	7.0	5.0	ロク口成形。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-16	土師器	○	10.0	-	(1.2)	削出高台。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-17	土師器	○	11.8	-	2.0	削出高台。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-18	土師器	○	10.3	-	1.7	削出高台。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-19	茶碗	伊万里	12.4	6.9	9.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-20	茶碗	伊万里	10.4	5.0	7.15	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-21	茶碗	伊万里	10.0	-	1.2	削出高台。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-22	茶碗	伊万里	10.4	5.0	7.15	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-23	茶碗	伊万里	10.0	-	1.2	削出高台。削出高台。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-24	茶碗	伊万里	6.1	4.8	15.4	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-25	大皿	伊万里	31.0	20.0	4.8	ロク口成形。削出高台。高台砂目縁。赤染。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-26	茶碗	伊万里	-	6.0	(4.7)	ロク口成形。削出高台。赤染。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-27	茶碗	伊万里	26.7	-	12.6	ロク口成形。削出高台。赤染。取ノ子ナシ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3325-28	茶碗	伊万里	11.0	-	2.5	子板ね。口・内縁みず子。面縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。

Ⅱ街区 屋敷地3

図面番号	器 種	陶磁器・産地 土器類・文様	寸法(cm)		成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考	
			口徑	高さ				
3313-1	碗	伊万里	12.2	5.8	6.5	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-2	碗	京都・伝承	8.6	3.4	3.2	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-3	土師器	○	10.4	-	1.9	子板ね。口・内縁みず子。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-4	茶碗	奈良	20.0	13.0	1.9	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-5	茶碗	奈良	20.4	-	13.0	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-6	茶碗	奈良	20.4	-	13.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-7	茶碗	伊万里	32.4	22.5	15.8	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-8	茶碗	伊万里	9.6	3.6	3.1	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-9	茶碗	伊万里	8.8	3.6	3.1	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-10	茶碗	伊万里	12.2	7.0	7.0	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-11	茶碗	伊万里	7.0	2.0	2.9	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-12	茶碗	伊万里	14.5	8.5	6.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-13	茶碗	京都・伝承	9.6	3.7	4.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-14	茶碗	京都・伝承	6.6	2.9	1.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-15	茶碗	京都・伝承	2.7	3.0	3.8	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-16	茶碗	京都・伝承	4.7	3.0	1.9	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-17	茶碗	伊万里	-	-	(6.5)	内縁無施。注口縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-18	茶碗	伊万里	21.8	16.0	13.8	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-19	茶碗	伊万里	36.4	24.1	18.7	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-20	茶碗	伊万里	10.2	-	1.65	内縁無施。口・内縁みず子。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-21	茶碗	伊万里	13.4	-	2.3	内縁無施。口・内縁みず子。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3313-22	茶碗	伊万里	8.8	-	1.55	内縁無施。口・内縁みず子。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3314-1	丸鉢	○	16.2	6.6	6.8	ロク口成形。削出高台。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3314-2	大茶	備前	88.9	-	(67.0)	ねじりて板ね。ナデ。指折ナデ。ナマリ。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3314-3	茶碗	伊万里	(17.0) (39.3)	3.5	3.5	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。
3314-4	茶碗	伊万里	7.9	3.9	6.2	ロク口成形。削出高台。見・高台内砂目縁。	灰緑。胎土無施。高台内無施。	平造。

第3節 Ⅲ街区の土器・陶磁器

1 屋敷地Ⅲ-1 (第49～55図、第3表)

土坑3320(第49図) 近世末から明治初期にかけての土坑で、伊万里や瀬戸・美濃焼の端反染付碗のほか、型作りの土師質皿G系等が出土した。

伊万里 端反気味で素描の松竹梅文の清朝風の碗(3320-1)、干し網と草花文の広束碗(3320-6)、蛇ノ目凹形高台で見込に鯉の滝登りを描いた輪花皿(3320-9)、陶胎染付で松に草花文の丸皿(3320-8)等、18世紀後半以降の製品でまとまっている。鶴文の端反碗(3320-2)は、高台の形状から近代に下る。

唐津焼 大ぶりで呉須絵に透明釉を施した碗(3320-7)は、趣があり伝世されて来たものであろう。

瀬戸・美濃焼 高台が厚く、6区画に線割りした中に捻り牡丹草花文を描き込んだ染付端反碗(3320-4)は、同じ文様の蓋(3320-5)が付く。蓋が2点あり、数物として所有されていたと推定される。

越前焼 描目が細かく、外にロクロ痕を残す描鉢(3320-10)は、高台を持たないところから18世紀後半と推定される。

土師質土器 手捏めのC系の系譜を引く(3320-11・13)の他、内型成形によるG系(3320-14・15)も出土している。G系は口径が10cmのものと12cm前後のもの大小2種類あるが、3320-14は8.5cmと小型である。また3320-15は深さが約6mmとG系としてはやや深い。

便所3371(第49図) 土堀3304の際にある幕末から明治期の便所で、五徳と七厘が出土している。

土師質土器 七厘(3371-2)は板作りで、内部は耐熱を考慮して二重になっている。底部近くの正面には空気口がある。内側は下に向かって漏斗状に狭くなり、内側上部には鍋を受ける舌状の張り出しが3ヵ所ある。生産地は不明。3371-1は炉や火鉢等に使われた五徳で、輪状の底部から3本の脚が上に伸びる。脚上部は内側に折り曲げられている。脚に「深草套千」の刻印がある。

便所33171(第50図) 屋敷地の中央南寄りにある近世末から明治初期にかけての便所で、伊万里の蓋付碗や、越前焼水鉢、土師質の火鉢、型作りの土師質皿等が出土している。

伊万里 33171-1は外面が青磁釉の染付折縁鉢で、底部は蛇ノ目凹形高台である。見込には庭先が描かれ口縁部は波頭文が巡る。染付端反碗(33171-3)は器壁が薄く、内面に魚文、外面に波頭文と蝙蝠が描かれる。33171-2はその蓋で、中央に岩と波頭文、その周りに蝙蝠を配する。33171-4は近代にかかる色絵碗で、柳と花と蝶を呉須で描き、オレンジと緑・紫色の蝶や虫を焼き付けている。鶴首の染付徳利(33171-5)は、やや濁った呉須で砥部焼に通じる文様を描く。

信楽焼 染付皿(33171-6)は重ね焼きのため見込の釉を蛇ノ目状に拭取る。文様は荒い二重網目文である。33171-7は灰黒系の火入である。腰部から下の底部は露胎で見込にはビン跡が残る。

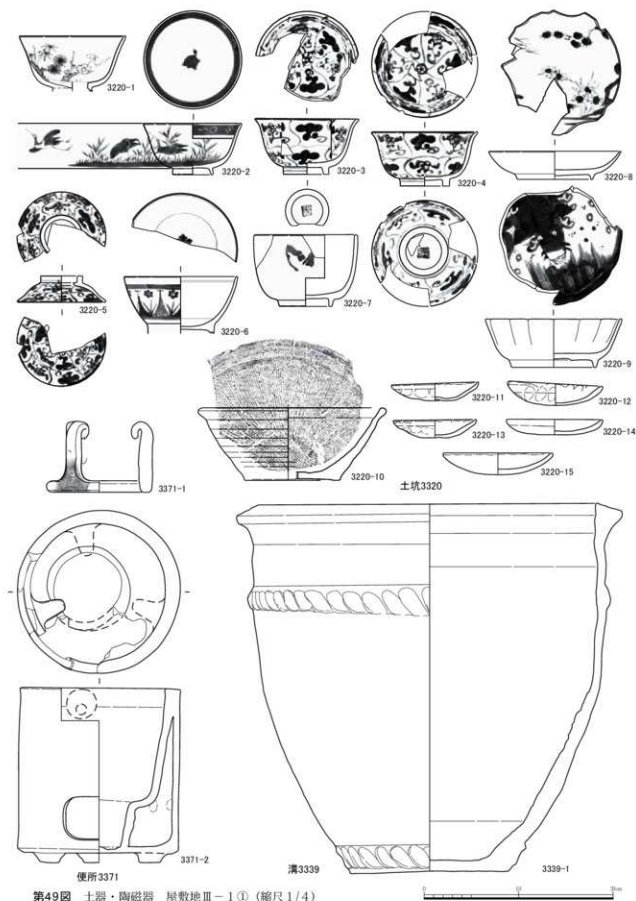
唐津焼 描鉢(33171-8)は、口縁部の返りが三角形で、口縁部の内外に鉄釉が施される。時期は17世紀前半であろう。

越前焼 水鉢(33171-10・11)が出土している。いずれもロクロ成形で内外面に鉄泥が塗られている。

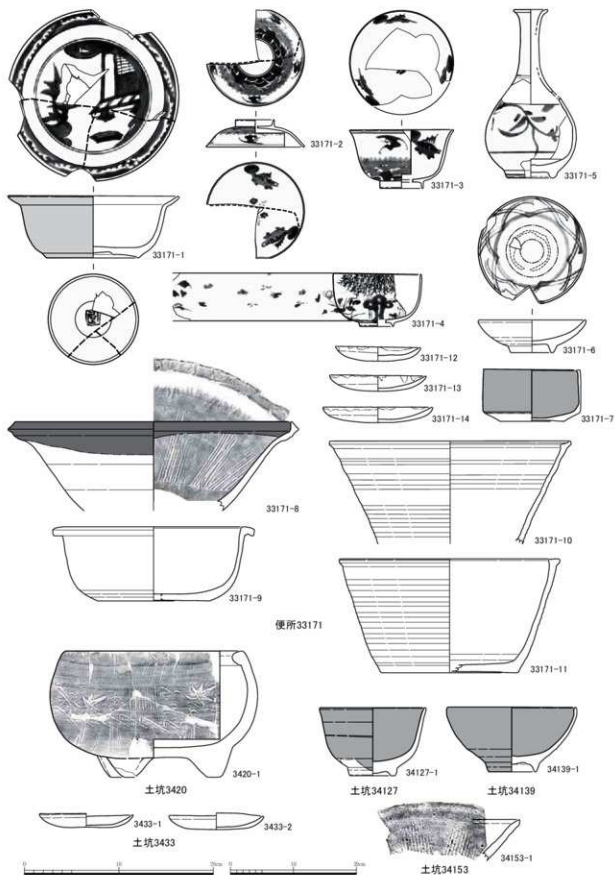
土師質土器 33171-9はロクロ成形による火鉢で、外側は丁寧にヘラ削りされている。後に底部が穿孔されているところから、植木鉢に転用されたのであろう。土師質皿(33171-12・13・14)は型成形によるG系で、サイズは9.0cm(3寸)、10.2cm(3寸5分)、11.6cm(4寸)の3種類がある。

土坑33238(第51図) 土堀3304の際にある幕末頃の土坑で、伊万里の優品が出土している。

伊万里 33238-1は大ぶりの端反の色絵鉢で、見込の牡丹と内外面の圓線が染付である以外、緑と黄色と灰色で草花文を、赤で唐草文や四ツ菱を上絵付している。焼継ぎの跡がある。染付折縁鉢



第49図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1① (縮尺1/4)



第50図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1②(縮尺1/4、33171-9~11は1/6)

(33238-2)は蛇ノ目凹形高台で、無釉部分には砂が熔着している。見込に湖畔の山水を手馴れた筆致で描き、外面は青磁釉が施されている。この鉢にも焼縫ぎの跡がある。

唐津焼 33238-5は灰釉の鈐鉢で、高台部は無釉である。

瀬戸・美濃焼 小ぶりの染付端反碗(33238-3)は、見込に渦文、外面に崩れた草花文を描く。呉須の色は鮮やかでこの時期の瀬戸の特徴が現れている。

京焼 33238-4は端反鉢で、いわゆる軟質施釉陶器に含まれる。内面は緑釉が施され、外面は白釉の上に椿を描く。火を受けて全体に釉がかせている。

土坑3449(第51図) 17世紀後葉から18世紀中頃の土坑で伊万里水滴・白磁壺などが出土している。

伊万里 3449-1は9cm四方の板作りの水滴で、上面に押押しの草花文様に呉須を塗る。3449-2は、口縁に返りがあり、内面が無釉であるところから香炉と推定した。

土師質土器 火鉢(3449-4)は、ロクロ成形後、内側に折り曲げた口縁外側に格子目の印を4カ所押す。底部には貼付け脚が3カ所付く。外面は底部も含めて全体にスガが付着している。土師質皿(3449-5・6)は見込との境に意識的に園線をつけたD系2である。

土坑34109(第52図) 大量の瓦が投棄されており、寛文大火(1669年)後の土坑と推定した。その時期の伊万里も多く出土したが、上層に18世紀代の遺物が混じる。

伊万里 内側に2本の園線だけの染付皿(34109-11)、見込に蓮池、内面に千鳥を描く染付皿(34109-12)は、高台が小さく器壁がやや厚い17世紀中頃のもので、老木に飛鳥文の碗(34109-2)や吹き墨技法による梅に鶯文の小皿(34109-14・15)等もほぼ同時期であろう。内面に鹿と紅葉を描く染付皿(34109-10)は、それより少し後の17世紀後半頃のものである。外面に山水を描く碗(34109-3)もほぼ同時期か。それに対して菊に矢羽を組合せた碗(34109-1)や竹に松ぼっくりと梅を描く(34109-5)は、18世紀後半まで下がる。牡丹に蝶文様の瓶(34109-8)は焼成時の大きな傷があるが、商品として流通している点が注目される。青磁では竹籠をモチーフにした花瓶(34109-16)や3脚を持つ筒型の香炉(34109-6)があり、これらは17世紀後半頃ものと思われるが、重ね焼きのため見込の釉を蛇ノ目状に掻き取った皿(34109-13)は18世紀後半頃のものであろう。

唐津焼 この時期としては唐津焼が少ない。34109-17は鉄釉に菊の印花を散らす。34109-18は頭から胴部に段を持つ鉄釉の仏花瓶である。ロクロ目と胴部の窪みを意匠にした鉢(34109-7)もある。

瀬戸・美濃焼 34109-21は鉄釉水指で、濃い鉄釉を部分的に二重がけしている。他に底部に回転糸切の跡を残す皿があるだけで、瀬戸・美濃焼も少ない。

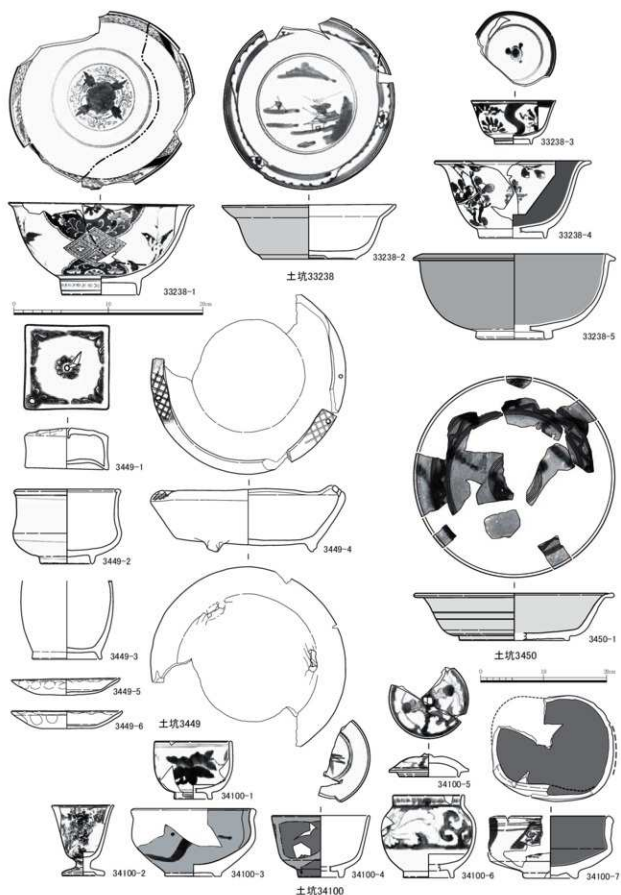
輸入陶磁器 34109-19は中国南部もしくは東南アジア製の壺の蓋であろう。胎土は須恵質で銅緑釉と白い釉をかけ分ける。その他に16世紀前半に遡る青磁碗も出土している。

越前焼 内湾気味の挿鉢(34109-26)と片口の挿鉢(34109-25)がある。いずれも17世紀前半頃のものである。

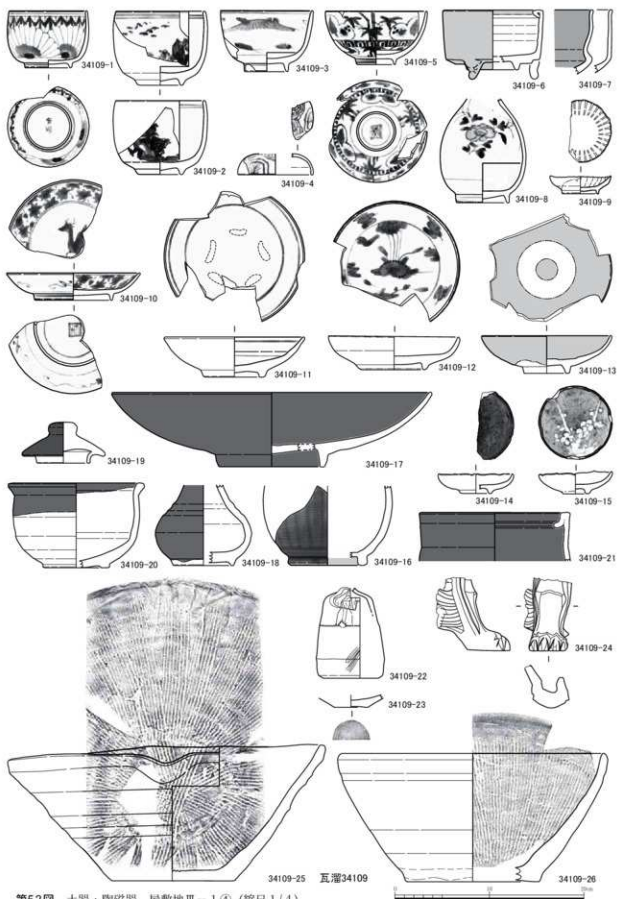
産地不明陶器 34109-20は筒形で、焼成が甘く土器に近い。口縁部と外面上半分に鉄渋釉を施す。用途としては火入を想定した。34109-22は竹を意匠にした一輪挿しである。破損した後、鉄片を入れてお歯黒壺として使用している。34109-24は焼締陶器の狛犬の足である。

土坑34198(第53・54図) 被災した遺物が多く混じることから、17世紀後半頃の遺物群であろう。

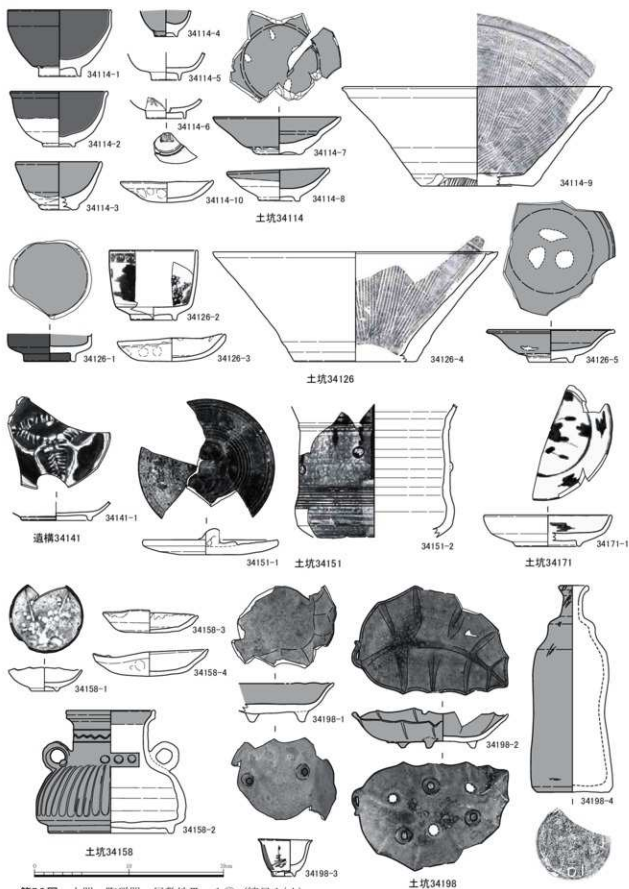
伊万里 青磁輪花皿(34198-1)は型打ち成形で平面形は四角を呈し、脚を貼付ける。焼成が甘く十分磁器化していない。火を受けて釉がかせる。端反小杯(34198-3)は、「寿」を3カ所に呉須で描き、間に



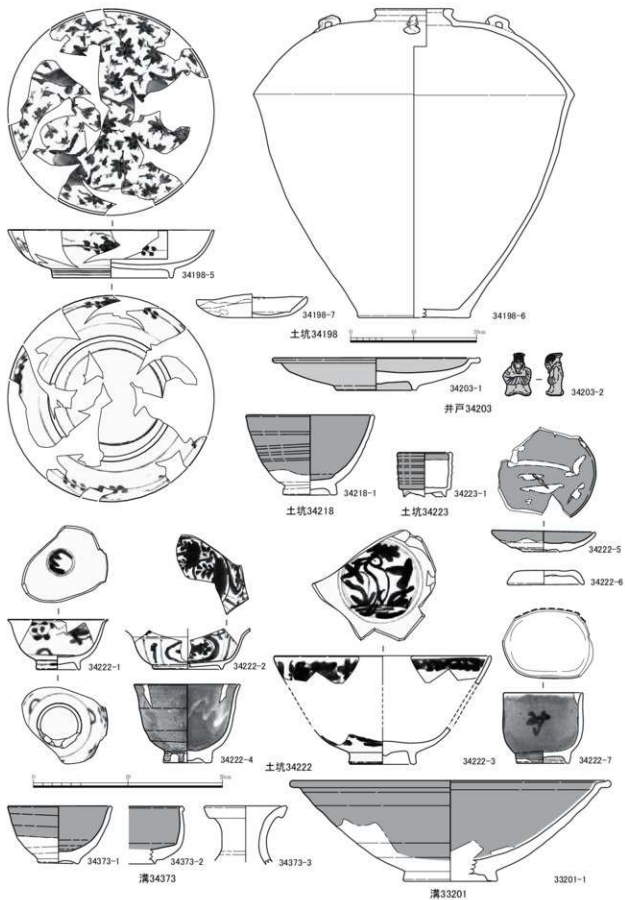
第51図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1③ (縮尺1/4、3449-4・3450-1は1/6)



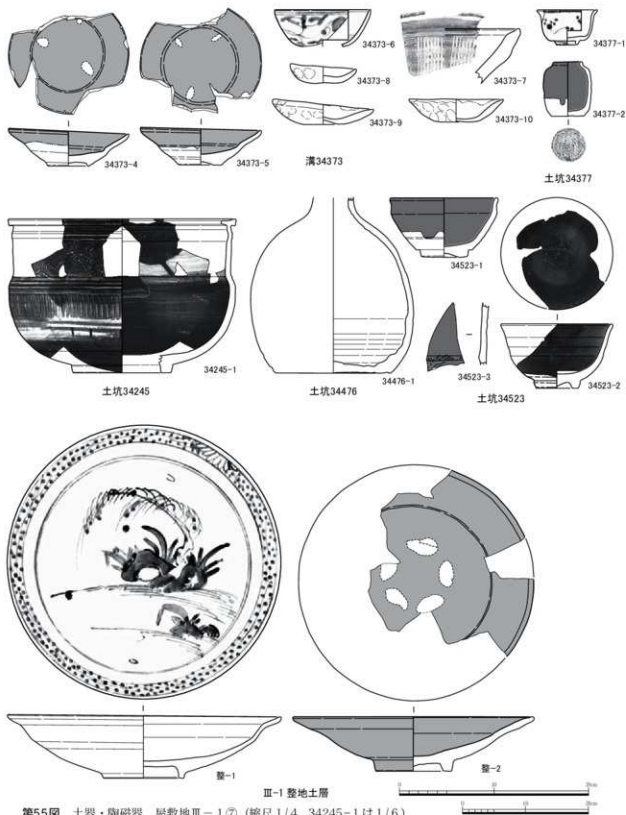
第52図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1④ (縮尺1/4)



第53図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1⑤ (縮尺1/4)



第54図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1⑥(縮尺1/4、34I98-6は1/6)



第55図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-1⑦(縮尺1/4、34245-1は1/6)

縦方向のノミ筋を入れる。高台部は露胎で初期伊万里の技法を継承する。34198-5は紅葉を散らした間に鹿を描く和風文様の染付皿で、高台内に1ヵ所ハリ支えがある。17世紀後半頃の製品であろう。

瀬戸・美濃焼 34198-2は木の葉形の型打ちの灰軸皿で、底部には3足の脚が貼り付けられ、葉脈を表現する等写実的に作られている。5枚一緒に出土しており、組物として所有されていたのであろう。

備前焼 34198-4は、頸部が2段の徳利でロクロ成形後体部を歪ませている。体部には火樺のあとが残り、底に窯印がある。

中国製陶磁器 34198-6は口頸部が小さく、大きく張った肩は稜を持つ鉄軸壺である。肩部上面には耳が4つ貼り付けられている。中国南部あたりから南蛮物として輸入されたものであろう。

土坑34222(第54図) 屋敷地の北寄りにある土坑で、17世紀前～中頃の遺物がまとまって出土した。

伊万里 34222-7は、内側が白磁で、外側の青磁に呉須で文様を描く。器形はロクロ成形後楕円状に歪ませている。

唐津焼 34222-4は高台が厚く口径の割に高さのある端反碗で、白く半透明の灰軸を施す。34222-5は基筒底足の灰軸丸皿で、見込は文様状に軸を拭取っている。

中国製陶磁器 染付鉢(34222-2)は器壁が薄く、細かい筆で草花文様の輪郭を描き、中をダミ筆で埋めている。景德鎮窯の製品で、文様と口縁が外反する器形から獸面文鉢の一群であろう。この一群は多くないが17世紀前半の遺構から一定量出土する。見込が水草文のような染付鉢(34222-3)は畳付に砂が付着している。端反碗(34222-1)とともに漳州窯の製品である。

2 屋敷地Ⅲ-2 (第56～59図、第3表)

土坑3407(第56図) 屋敷地西端にある18世紀以降の土坑。18世紀後半以降のものが多い。

伊万里 色絵碗(3407-1)は、広東碗風の高台を持つ。圏線だけが染付で、細い線の輪郭内を白色や薄茶・緑色の色絵具で塗りつぶす。絵具の色合いがいわゆる色絵の色とは異なる。こうした特徴から近代の製品であろう。3407-2は小杯で外は矢羽文である。染付皿(3407-3)は、ロクロ成形後口縁部を稜花に切り整え、見込には藤を描く。

唐津焼 3407-5は大振りな唐津碗で、透明な灰軸をかけた上に白泥を塗る。时期的には古い。代々伝えられてきた茶碗であろう。3407-6は胴部に鉄絵の草花文を描く灰軸土瓶で、内側と底部が露胎となっている。注口の付き方や下部が少し膨らむ形態から18世紀前半頃の製品であろう。

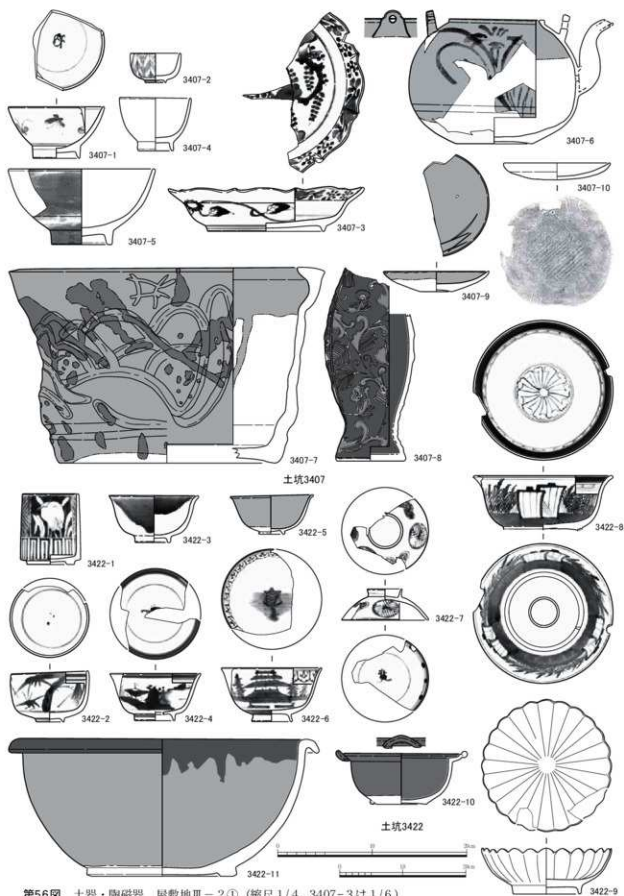
瀬戸・美濃焼 水鉢(3407-7)は、ロクロ成形後丸ノミで文様を彫り、灰軸をかけた上から鉄軸をハケ塗りする。

輸入陶磁器 3407-8は型押しして唐草文をつけた4枚の粘土板を貼り合わせた花瓶で、地には緑釉、唐草には褐色の釉を施す。おそらく中国南部の製品であろう。

土坑3422(第56・57図) 19世紀前半を中心とした時期の伊万里や瀬戸の端反碗が多く出土した。

伊万里 3422-1は染付の筒碗でサギが描かれる。端反碗(3422-6)はやや大ぶりで高台が外に開く。外面に城郭、見込に船が描かれている。3422-7は清朝風の碗蓋、3422-8は蛇ノ目凹形高台の染付鉢で、外面は帆掛船、見込は捻菊文である。3422-9は白磁菊花皿でロクロ成形後型押しして作られる。染付大皿(3422-12)はロクロ成形後口縁を輪花状に整え、内側全体に山水画を描いている。高台内には7ヵ所ハリ支え跡がある。この大皿は17世紀後半頃の製品で、高級品の部類に入り大事に扱われてきたものであろう。他に陶胎染付の半筒碗(3422-2)が出土している。

唐津焼 3422-11は全体に灰軸をかけ、上から口縁部に青緑釉を二重がけした水鉢である。



第56図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-2① (縮尺1/4、3407-3は1/6)

瀬戸・美濃焼 染付端反碗(3422-4)は澄んだ色の呉須で樓閣と山水文を描く。端反碗(3422-3)は口縁部から呉須を流しがける。

京・信楽焼 3422-5は透明の灰釉系端反碗で、高台部は露胎である。

産地不明陶器 大小2種類の鉄釉土鍋(3422-10・13)が出土している。両側に持手の耳を貼り付け、外側腰部以下が露胎になる。土鍋は18世紀後半以降よく見られ、七厘の普及と関係するのであろう。

土坑34136(第57図) 土層3339の下にある土坑で17世紀中葉まで遡る。伊万里はまだ少ない。

伊万里 染付皿(34136-1)は厚手で高台が小さい初期伊万里である。見込には砂目跡が残る。

唐津焼 くすんだ枇杷色を呈する灰釉系碗(34136-2)は、高台脇の釉がかいらぎ状になる。灰釉皿(34136-5)は薬灰釉の上から口縁部に褐釉を施す。腰部以下は露胎。天目茶碗(34136-3)は、釉色は瀬戸・美濃焼のそれとほとんど変わらないが、手取りが重く高台の削り方から唐津と判断した。片口鉢(34136-6)は黄褐色の灰釉を施す。外面は腰部以下露胎で、底部は基筒底状である。34136-7は3足の貼付け脚を持つ火入で、内面は露胎、外面には鉄泥の上から灰釉と鉄釉をかける。

瀬戸・美濃焼 34136-4は鉄釉の丸碗で、褐色の鉄釉の上に黒色の鉄釉を景色として施す。

中国製陶磁器 染付皿(34136-8)は大きく厚い高台を有し、疊付に砂が熔着する。見込には水草文がある。34136-9はいわゆる赤絵皿である。花と軸を赤で、葉を緑で描く。疊付には砂が熔着する。

土師質土器 土師質皿はC系1(34136-11～13・15)に、器高が低く見込の圈線を意識したD系2(34136-14)が混じる。

土坑34197(第58図) 上層は撹乱により時期が多少混じりあうが、下層からは17世紀前葉の遺物群が出土した。

唐津焼 丸碗(34197-1)は透明の灰釉が全面に施され、疊付だけが無釉である。34197-3は器壁が厚く、高台部の削りも粗雑な灰釉碗である。天目茶碗(34197-2)は、いわゆるすっぽん口の折り返しが強く、高台の削りが丸い。茶色の鉄釉は縮む。丸皿(34197-4)は、腰部以下を残して灰釉を施し、さらに口縁部にカーキ色の灰釉をかける。見込に胎土目跡が残る。34197-5は直径15cmとやや大きめの丸皿で、高台内は兜布状である。灰釉下に鉄絵を描く。

土師質土器 下層からは土師質皿D系1(34197-6・7)とC系1(34197-8)が出土。上層からはD系2やC系2も出土している。

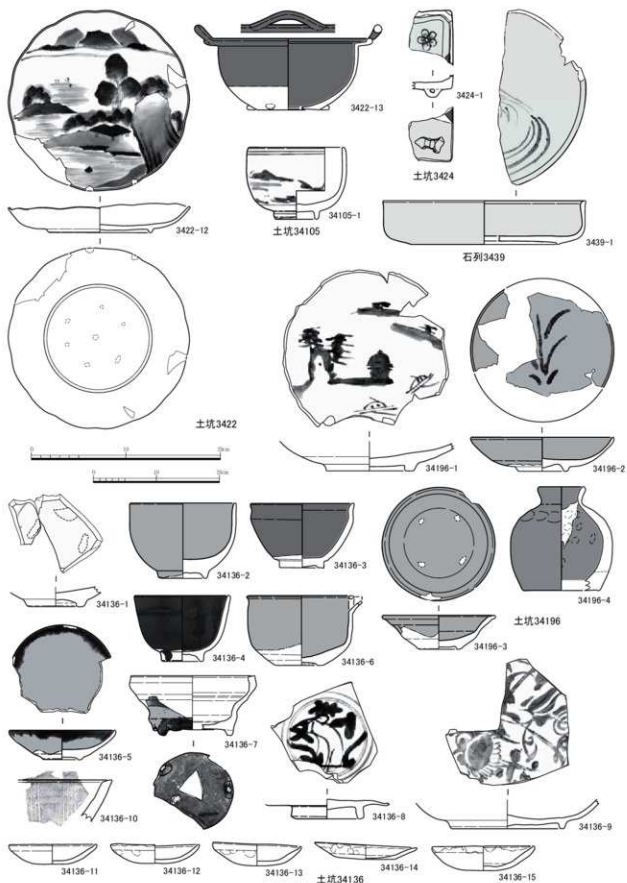
土坑34702(第58・59図) 溝34170と溝3425の間にある土坑。初期伊万里や中国製陶磁器、天目茶碗等17世紀前半の遺物が目に付くが、主体は17世紀中葉から後半まで下がる。

伊万里 染付半筒碗(34702-1)は17世紀中ごろの初期伊万里である。松(竹)梅を描き、疊付の釉を削り取る。これに対し同じ染付半筒碗(34702-2)は、疊付の釉を拭取り、口縁端部が口紅になっているところからやや後出のものと考え。文様は柳と若松であろうか。34702-3は端反碗で、体部にヘアで縦筋を入れる例は初期の伊万里に多い。「福」の字が縦に3字並ぶ。

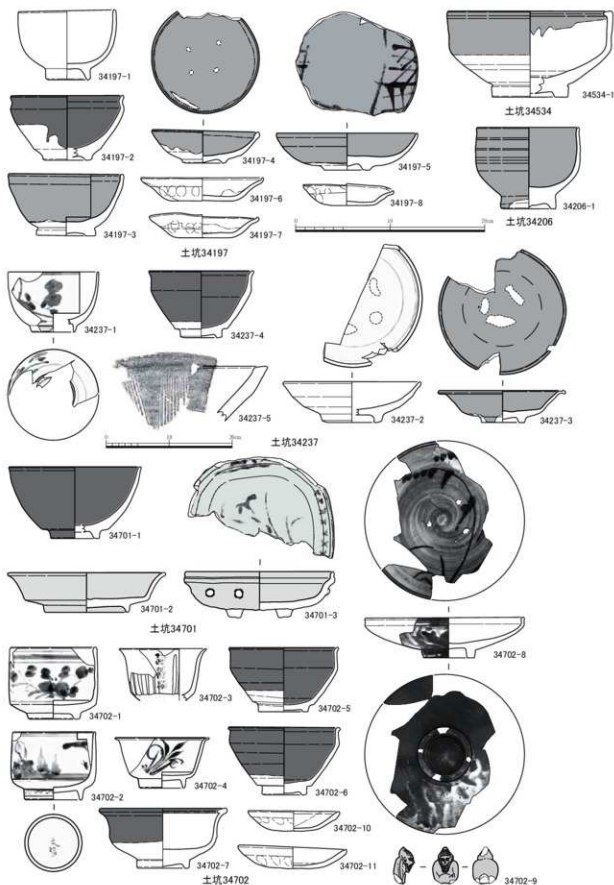
唐津焼 34702-7は鉄釉香炉で、内面と外面の腰部以下が露胎である。ロクロ成形や削りは碗・皿に比べて丁寧に作られている。二彩大皿(34702-8)は、薄紫の灰釉の上からロクロを回転させながら白泥を施し、さらに鉄釉と銅緑釉で草花文を描く。17世紀前葉の所産であろう。34702-12は底部が大きく、口頸部を絞った船徳利で、タタキ成形後鉄釉を施す。

中国製陶磁器 染付端反碗(34702-4)は、疊付の釉を削り取っているところから中国製と判断した。

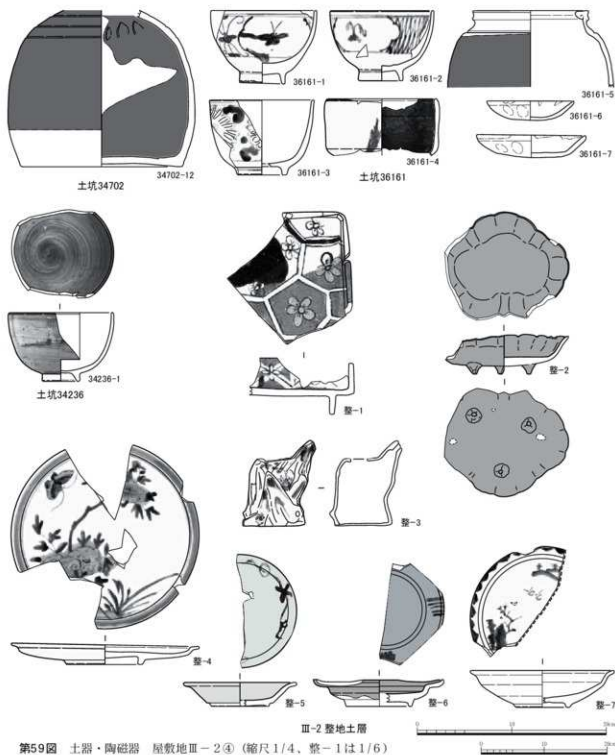
土師質土器 土師質皿(34702-10・11)はC系1とD系1で、一乗谷の土師質皿に似たものが多い。



第57図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-2② (縮尺1/4、3422-12・3439-1は1/6)



第58図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-2③ (縮尺1/4、34702-8は1/6)



第59図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-2④ (縮尺1/4、整-1は1/6)

土坑36161(第59図) 17世紀後半頃と推定される土坑で、伊万里が多く唐津焼は少ない。

伊万里 36161-3はやや大ぶりの染付碗でロクロ成形後、菊花状のノミを入れる。高台内に砂が少量熔着する。36161-1・2は絵柄が異なるが構図が同じで、窓に蝶や柳を描く。これら3点の染付碗は17世紀後半に位置づけられる。

唐津焼 36161-5は鉄軸壺でタタキ成形後口縁部をロクロで仕上げる。内部と口頸部は露胎である。

京焼 36161-4は、いわゆる軟質施釉陶器の茶碗で、ロクロ成形後内部を軽く削る。外面は白化粧土後、透明釉をかけて黄緑色の若松を描き、口縁端部から内は鉄軸を薄くかける。漆継ぎの痕がある。

土師質土器 土師質皿D系1(36161-7)とC系1(36161-6)が出土している。

3 屋敷地Ⅲ-3(第60～72図、第3表)

土坑3344(第60図) 屋敷地の東北にある幕末期の土坑で、攪乱を受けて近世前期の遺物も混じる。

伊万里 3344-2は見込に鹿が描かれる染付皿で、高台径が12.5cmと広いがハリ支え痕がないことから、18世紀中頃以降の製品であろう。見込に重ね焼きの痕があり、灰等も熔着している。

唐津焼 3344-3は白土ハケ目の上に透明釉を施した碗で、17世紀中頃に遡る。

九谷焼 3344-1は直径19.4cm程の色絵中皿で、見込に川と橋、岸に松と庵を描き、その周囲を8つに区画して草花文と唐草文を交互に配置する、芙蓉手を変化させた文様構成となっている。染付部分は8つの区画線と草花文の一部等限られた部分だけで、他は松の緑色と幹の茶色、地面の黄土色等、対象に近い色が使われている。色使い等から19世紀に下る皿であろう。同じ皿がもう一枚一緒に出土しているが、こちらは火を受けて色が剥落している。これらの皿は中級品以上で、客用に何枚か用意されていたものであろう。

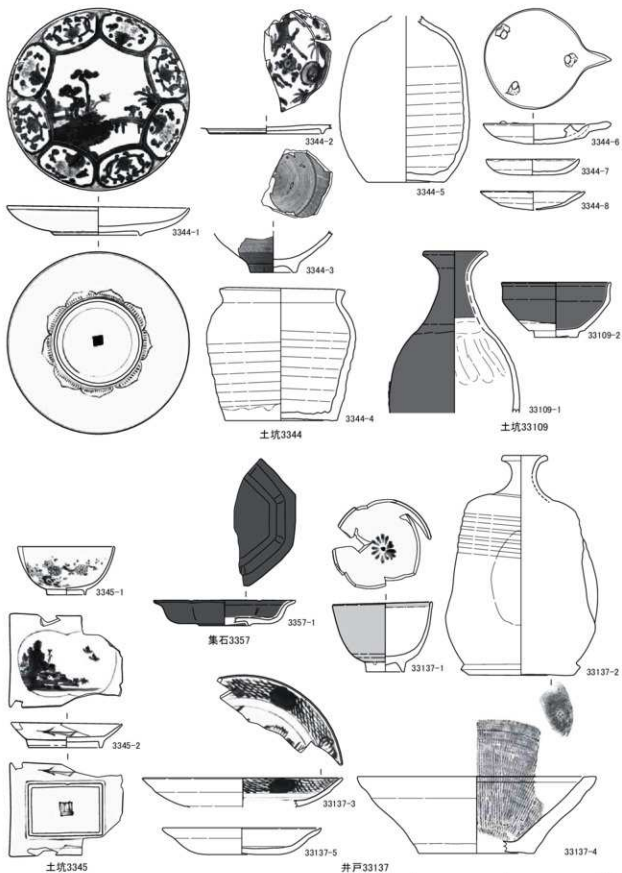
越前焼 3344-4はロクロ目を意識した小壺で、鉄泥を厚めに掛けている。3344-5もロクロ成形の瓶で、器壁は薄く、火表に自然釉がかかるが、鉄泥は施されていない。

土師質土器 3344-6はG系をまねて手捏ねしたH系に、把手と灯明皿を受ける突起を付けた受皿である。この種の受皿は18世紀後葉以降に現れる。3344-7は内型成形によるG系の灯明皿で18世紀後半、3344-8はD系2の灯明皿で、先の2点に比べると古い。

土坑3408(第61～66図) 明治になって何らかの区画整理のために掘られた大土坑で、18世紀後半から幕末にかけての様々な陶磁器が大量に出土した。近代にかかる遺物も混じる。

伊万里 菊文や矢羽文の半球碗(3408-1～2)の他、それらと文様が共通する半球碗(3408-6・8・9)がある。この時期、湯飲として使用された茶碗が多数出土している。竹文(3408-13)、水魚文(3408-14)、鳥居文(3408-15)等の広東碗も多い。全体的に18世紀後半以降のものがほとんどであるが、二重網目文碗(3408-10)等やや古いものも混じる。こうした湯飲茶碗は普及品であるが、外に樓閣を中心とした山水を描く筒碗(3408-11)は、内面にも山水文様があって中級品といえよう。七宝文に若松を配した(3408-42)や瑞果文を配した(3408-41)等、この時期になると碗蓋も多く見られる。

鶴に若松(3408-49)、輪花皿で船(3408-50)、蛇ノ目凹形高台で松文(3408-46)の皿等直径10.5cm～11.5cmの皿の多くは、銘々皿として使用されたものであろう。直径14.6cmと一回り大きく、草陰に兎を描く皿(3408-43)は、何枚か組で購入されたらしく同じものが2枚出土している。迫力のある龍(3408-60)、図案化した栗の枝(3408-61)、田舎の屋敷を中心とした山水画(3408-62)等を描いた大皿は30cm前後あり、いわゆる尺皿である。見込に海岸風景を描き、口縁部は墨弾きによる菱形文を連ねる八角皿(3408-63)も作りや文様の描き方が丁寧で、大皿とおなじく大事に扱われた皿であろう。



第60図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3① (縮尺1/4)

赤の四方樺と染付の草木文の色絵角皿(3408-44)は、見込の上絵付はかせて不明であるが、明治に下る可能性がある。

鉢類では清朝風の八角鉢(3408-66)のほか、蛇ノ目凹形高台で見込に岩、内側に8区画に割って竹文や草花文を配する輪花皿(3408-67)等は普及品であるが、見込に龍、口縁部に逆蛸唐草、外面に赤壁賦とその情景を描く輪花鉢(3408-59)は作り、文様とも丁寧で、中級武士の所有品としては高級品の部類に入るだろう。この時期、碗と同じく鉢蓋(3408-73～75)も増えてくる。

色絵徳利(3408-81)は肩部の花文に金を使用し、胴部には鶴に松竹を描く。小型の徳利(3408-80)は、頸部に蛸唐草、胴部に松竹梅を描く。二つの徳利とも吉祥文様が描かれている。青磁香炉(3408-79)や青磁仏飯器(3408-82)、染付仏飯器(3408-83)等の仏具や染付火入(3408-86)等、様々な種類のものが出土している。

唐津焼 この時期になると唐津焼の碗・皿類はほとんど見られないが、大皿・大鉢は少数ではあるが出土する。大皿・大鉢類は使用頻度も少なく、高価でもあったことから大切に扱われてきたのであろう。3408-72は直径が33.5cmの大鉢で、白土の波状ハケ目文を施す。18世紀前半頃の製品と思われる。またハケ目碗(3408-33)は17世紀後半頃の製品で、茶器として伝えられてきたものであろう。梅枝文様の徳利(3408-77)、白灰釉と鉄釉を上下で掛け分けた徳利(3408-78)は唐津焼と推定した。幕末から明治にかけての製品であろう。

土瓶はロクロで薄く挽く技術やそろばん玉状の形状等共通する点が多い。3408-92は外面が鉄釉、3408-93は細かく貫入が入る透明な灰釉が施される。鉄釉土瓶(3408-94)は先述の2点の胴径が15.5cm前後なのに対して、胴径が23.5cmと一回り大きい。18世紀後半～幕末にかけての製品と推定される。ちろり(3408-99)も形状やロクロの挽き方が土瓶と似るところから唐津焼と推定した。

瀬戸・美濃焼 18世紀後半以降、瀬戸・美濃焼が増加する傾向にある。3408-21は笹文の陶胎染付で見込には退化した五弁花文がある。内と外で灰釉と鉄釉をかけ分けた陶器碗(3408-24)も含めて、これらは18世紀後半頃の製品である。呉須絵灰釉碗(3408-22)は高台部が露胎で、京焼をまねたものであろうか。飛雲文の碗(3408-20)、海を描く山水文の碗(3408-26)、草花文の碗(3408-27)、鳳凰文の碗(3408-28)は、いずれも端反碗で完全に磁器化おり19世紀以降の製品である。色絵端反碗(3408-29)、青磁に柳文を焼き付けた碗(3408-25)は明治以降の製品であろう。

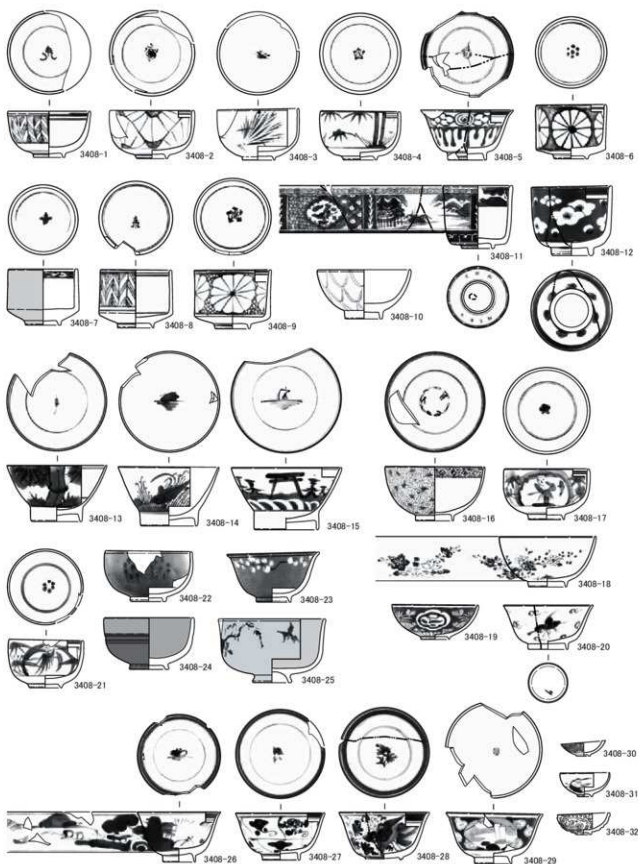
土鍋4点(3408-95～98)は、作りや釉が全く同じでサイズが違うだけである。ロクロ成形で耳を貼り付け、底を残して鉄釉を施す。3408-97は直径が5.5cmほどしかなく実用品かと疑うほど小さい。火鉢(3408-102)はロクロ成形後底部の両側に耳と龍を貼り付け、緑釉をかける。

京焼 碗・皿は意外と少なく、3408-23は白土と錆絵で折枝梅花文を描き透明釉をかけた端反碗である。火入(3408-85)は、ロクロ成形後入り隅状に変形させ、透明釉を施した上に笹と梅を描く。

信楽焼 3408-71は、見込に白泥と鉄絵で菊花文様を描く八角鉢である。

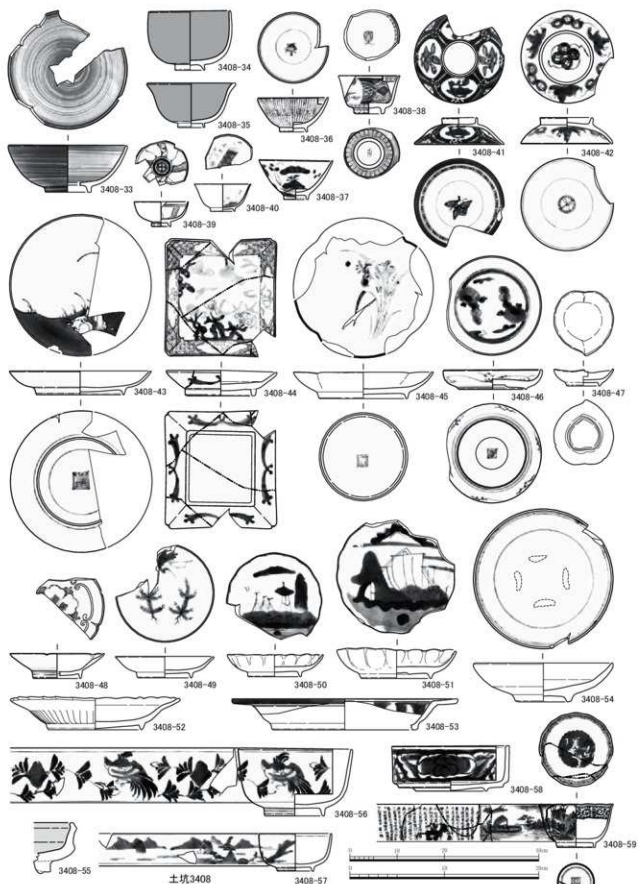
越前焼 播鉢(3408-108)は片口が付き、細い播目が全面に入るが、高台はまだ付かない18世紀後半のものである。播鉢(3408-109)は播目がさらに細くなり、高台が付く19世紀のものである。風炉(3408-104・105)は脚の形は異なるが、いずれも上端に火口を切り、外に鉄泥・灰釉を塗る。小壺(3408-106)はロクロ目を意識的に残し、鉄泥をかける。

土師質・瓦質土器 七厘(3408-110)は直方体のような形状で、耐熱のため二重になっている。正面に火口があり、内側はさな台と鍋受けが作られている。明治期の編さん物ではあるが、松岡の城下のは

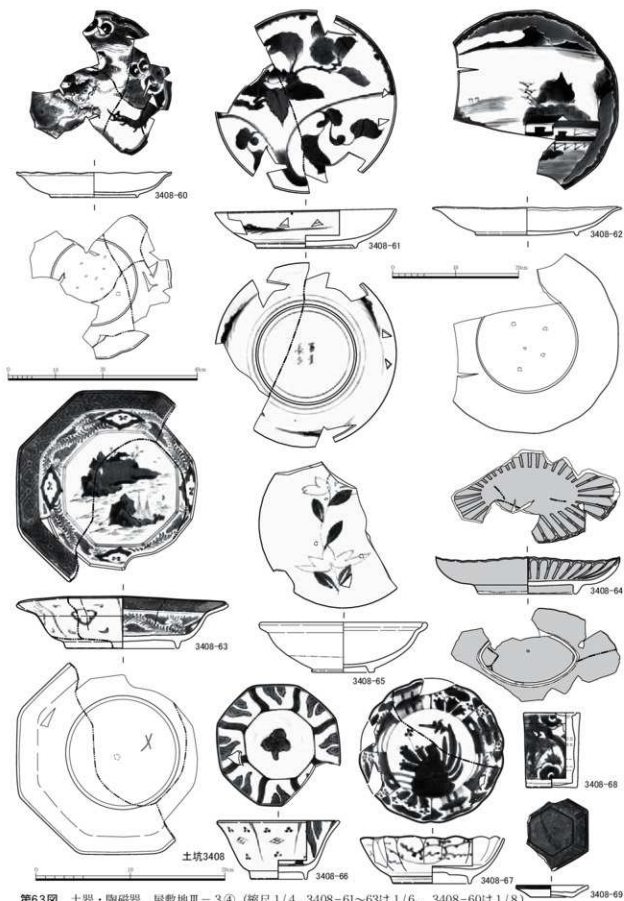


土坑3408

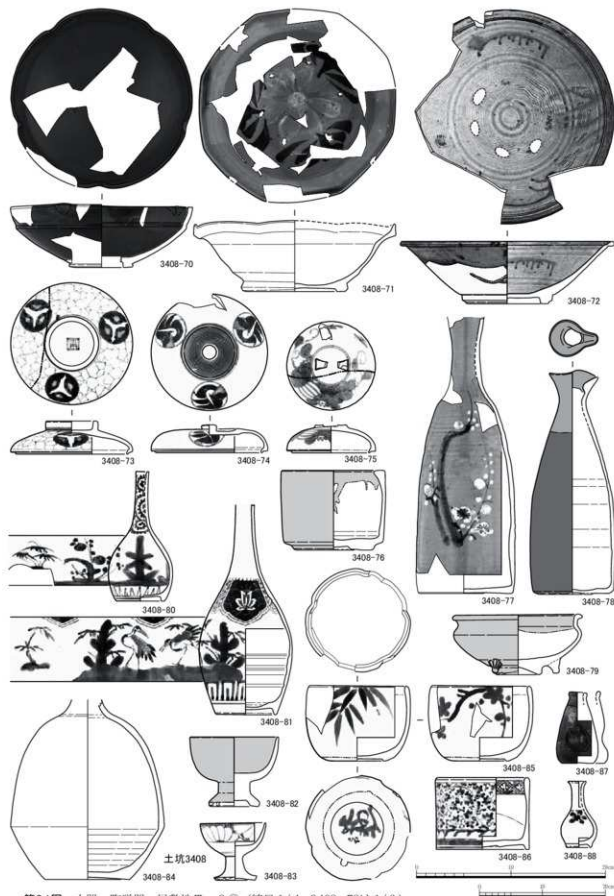
第61図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3② (縮尺1/4)



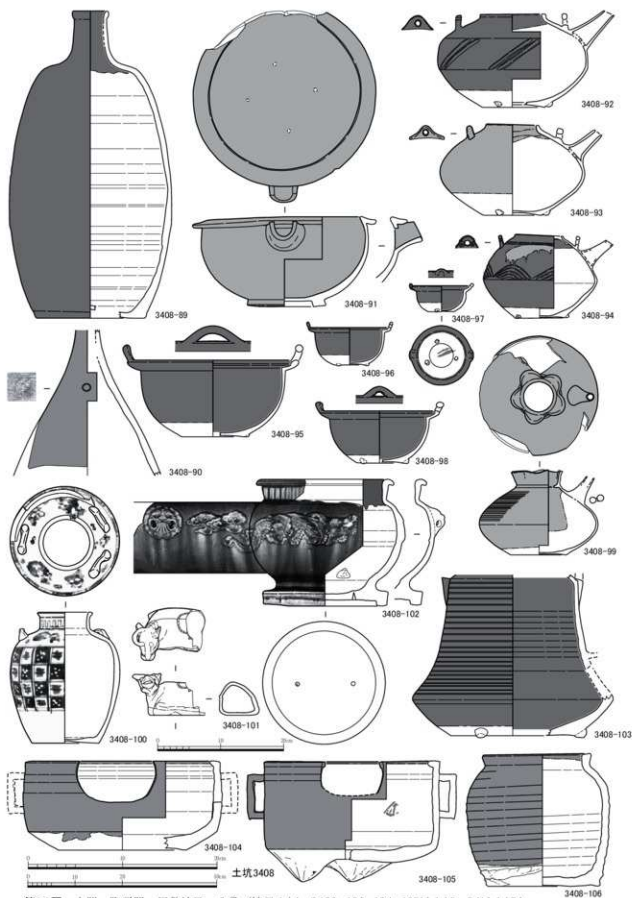
第62図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3③(縮尺1/4、3408-59は1/8)



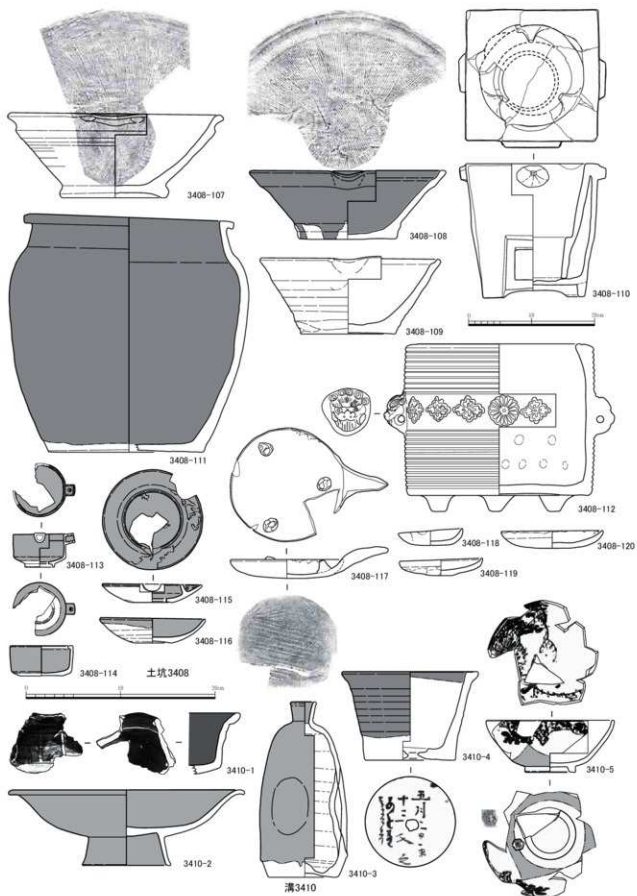
第63図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3④ (縮尺1/4、3408-61~63は1/6、3408-60は1/8)



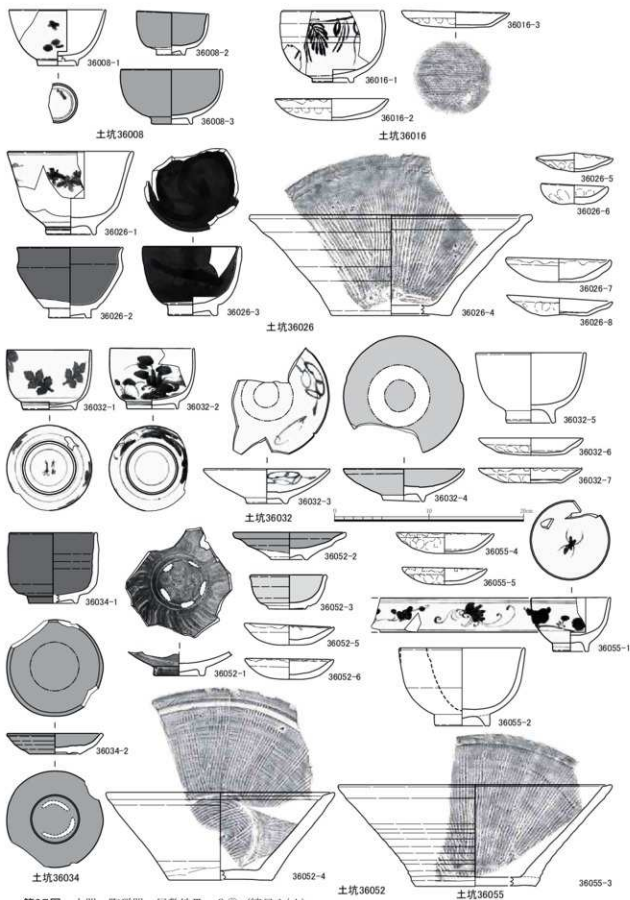
第64図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3⑤ (縮尺1/4, 3408-72は1/6)



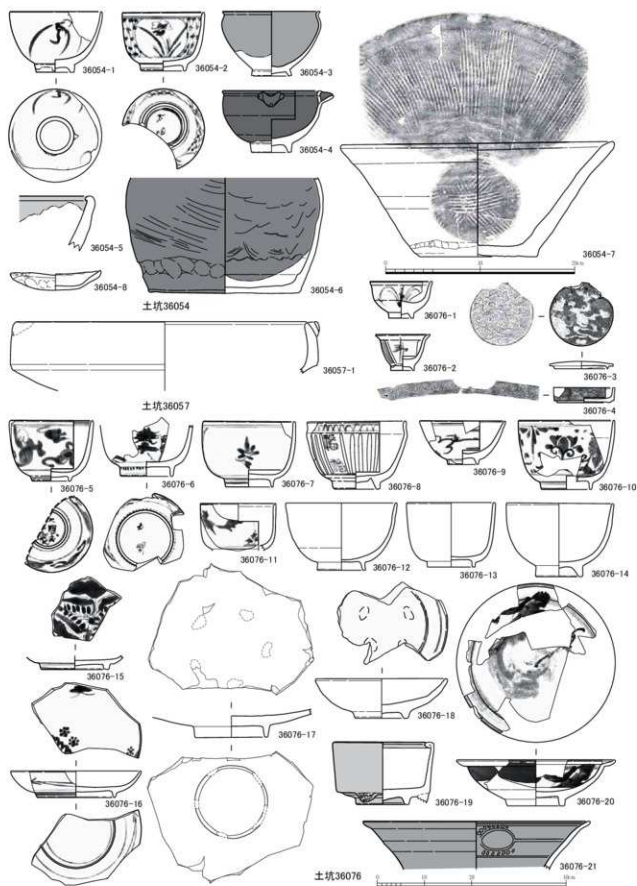
第65図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3⑥ (縮尺1/4、3408-102・104・105は1/6、94は1/8)



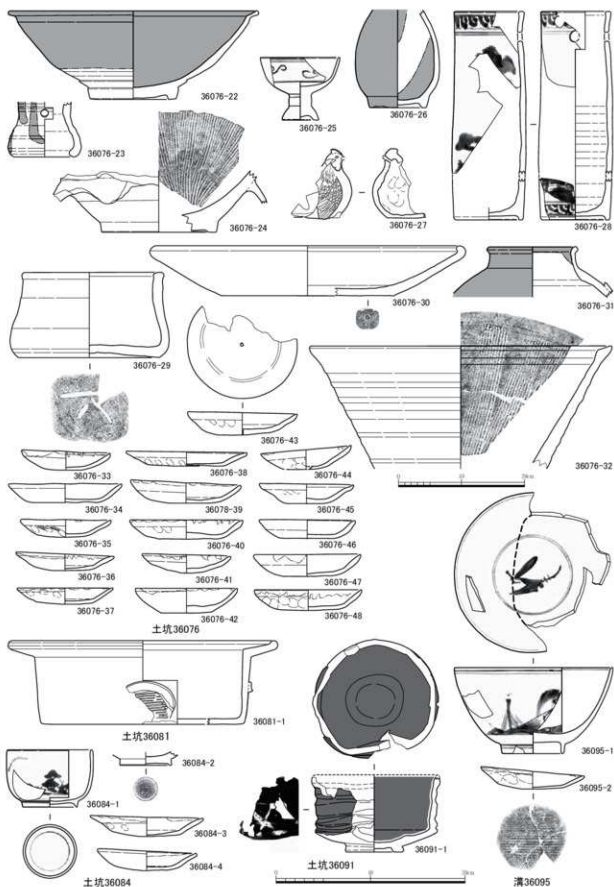
第66図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3㉔ (縮尺1/4、3408-107・110・111・113は1/6)



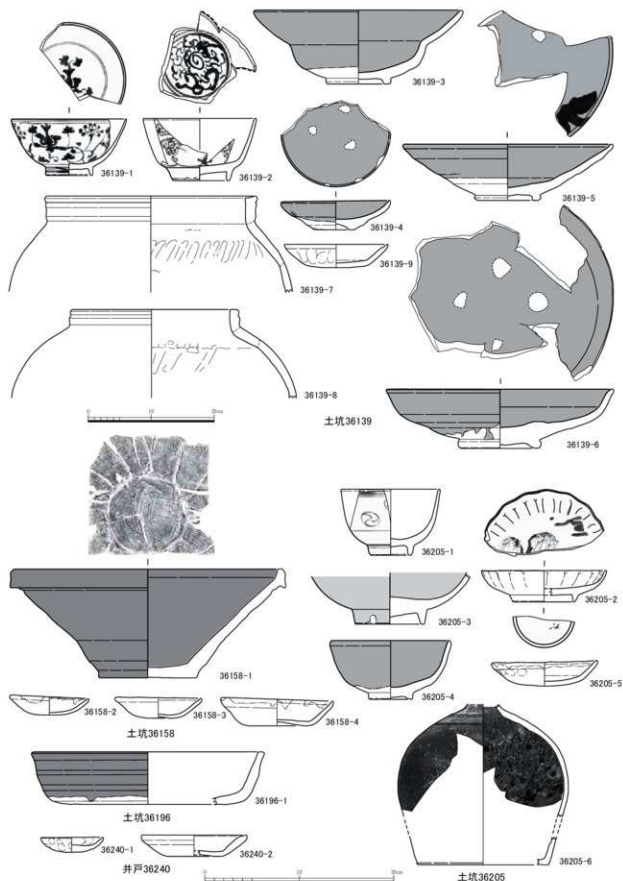
第67図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3⑧(縮尺1/4)



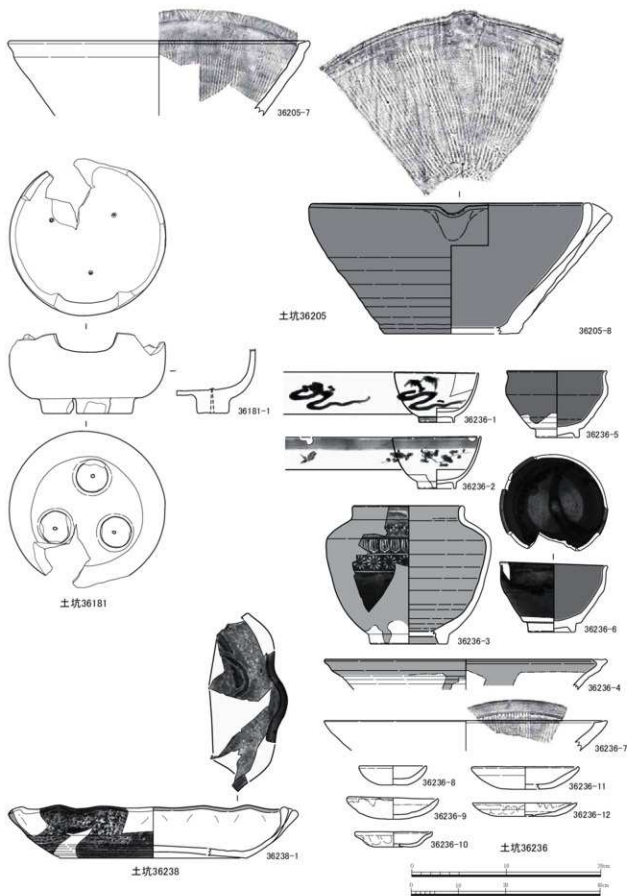
第68図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3㉔ (縮尺1/4, 36076-20は1/8)



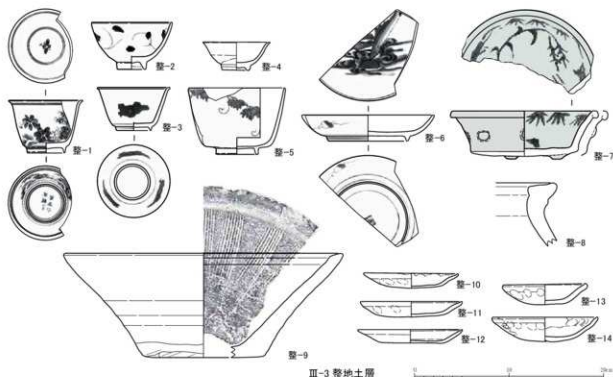
第69図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ・30 (縮尺1/4、36076-22・30・36081-1は1/6)



第70図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3⑩ (縮尺1/4, 36196-1・36139-7・8は1/6)



第71図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3㉔ (縮尺1/4、36181-1は1/8)



第72図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-3③ (縮尺1/4)

ずれて七厘等を焼いていた記録があり、これらの七厘はそうした在地の焼物であろうか。土師質皿は、内型成形のG系(3408-120)と、その形をまねた手捏ねのH系(3408-119)がほとんどである。受皿(3408-117)もG系に把手と灯明皿を受ける突起を付けたものである。

3408-112は瓦質の火鉢で、輪積み成形後、外側は回転台によるヘラ調整と筋目を付ける。裝飾として獅子の把手を貼付け、菱花と菊の印花を押す。

土坑36032(第67図) 17世紀後半から18世紀前半ごろの土坑で、時期的にもまとまっている。

伊万里 36032-1は外面にコンニャク印判で葉文を散らす。36032-2は外面に水草文を描く染付碗である。この2点は文様の施し方は異なるが、高台が広い腰張碗で形もよく似ている。36032-3は高台部から直線的に開く染付皿で内側の文様は崩れている。見込は重ね焼きのため、蛇ノ目状に釉を剥ぎ取っている。36032-4も見込の釉を剥ぎ取った青磁皿である。18世紀になるとこうした大量生産の製品が増える。

唐津焼 36032-5は高台が高く、灰釉系の釉が施された17世紀中頃の碗である。

土坑36054(第68図) 17世紀後半頃の土坑である。

伊万里 36054-1は崩れた柳文の染付碗、36054-2は網目文と窓内に草花文の腰張染付碗である。

唐津焼 36054-3は高台が小さいすっぽん口の碗で、用途としては鬚碗が想定される。36054-4は鉄釉の片口碗で、醤油や酒等の小出しに多用された。36054-6はタタキ成形による壺で器壁は薄く、錆釉が施される。

越前焼 搦鉢(36054-7)は搦目が口縁最上部まで施され、口縁下の沈線がなくなった17世紀中ごろの製品である。焼きが甘く下部の搦目が磨滅している。

土坑36076(第68・69図) 17世紀段階には屋敷地4の南西隅もしくは屋敷地2の北西隅にあったゴミ穴で、屋敷地割りが変わって路地の下となった。

伊万里 天目茶碗形で体部に縦の筋目を入れ、「福」字を縦に重ねた碗(36076-8)、やや厚手で高台内に「大明」の銘がある碗(36076-6)、草花文の坏(36076-1)、「寿」字文端反坏(36076-2)のような初期伊万里が出土している。しかし出土量としては、花唐草文碗(36076-10)や、高台内にハリ支えがあり、内側に蝶と花を散らし、外に松葉文を描く皿(36076-16)、口縁と底部に変形波状文、体部に山水を描く掛花生(37076-28)のように、もう少し後の17世紀後半から18世紀にかかるとみられる製品のほうが多い。

唐津焼 透明な灰釉を施した大ぶりの呉器碗(36076-14)や、白化粧土によるハケ目文碗(36076-12)、ロクロ挽きが丁寧で体部に呉須絵を施した京風碗(36076-13)等、17世紀後半の製品が多い。36076-17は白く精製した胎土に透明釉を施した皿で、見込に砂目跡が5カ所残る。36076-20は直径30cmを越える二彩手大皿で、白化粧土のハケ目に鉄釉と銅緑釉を施す。36076-22は胎土が荒い灰釉大鉢である。

備前焼 36076-30は、直径50cmもある大鉢で、内部は見込を残して自然釉がかかり、火澤の跡がある。なお、36076-29はロクロ成形による建水であろう。胎土はやや荒く、火表になった側は自然釉がかかる。

土師質土器 36076-44・45は見込中央部まで回しナデ痕が残るC系1で、36076-36～38・46・47は見込と立ち上り部の境界に圈線が残るD系2である。36076-40は圈線がほとんどないD系3で、ロクロ成形のR系(36076-42)やK系(36076-41)もある。

4 屋敷地Ⅲ-4(第73・74図、第3表)

土坑3348(第73図) 屋敷地の北西隅にある18世紀前葉から中葉にかけてのゴミ穴である。

伊万里 蛇ノ目凹形高台で外に漢詩を書いた大ぶりの湯飲(3348-1)や、内側に松竹梅文を描いたやや深めの皿(3348-12)等、18世紀中葉以降の製品が多い。

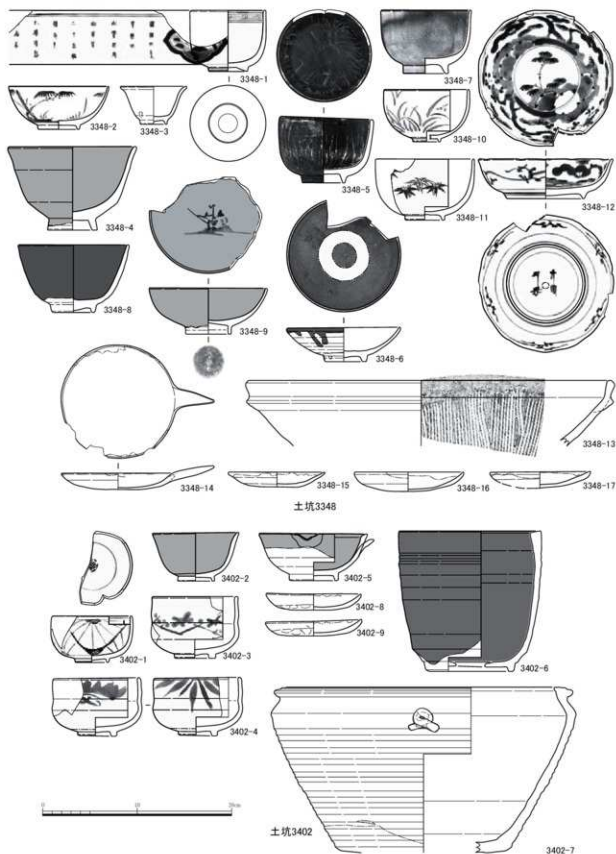
唐津焼 3348-4は高台が高く、大ぶりで端反気味の呉器碗である。3348-5は鉄釉の上からハケで白土化粧した現川窯の製品である。緑釉皿(3348-6)は、見込の釉を蛇ノ目状に削り取っている。なお、この青緑色の釉は土瓶等にも使われている。

京焼 3348-9は見込に呉須で山水文を描いた浅碗、3348-10は透明な灰釉の上に赤と緑で上絵付の草花文を施した碗で、小さい無釉の高台が付く。碗(3348-11)は呉須と鉄錆で笹文を描いた上から透明釉を施す。

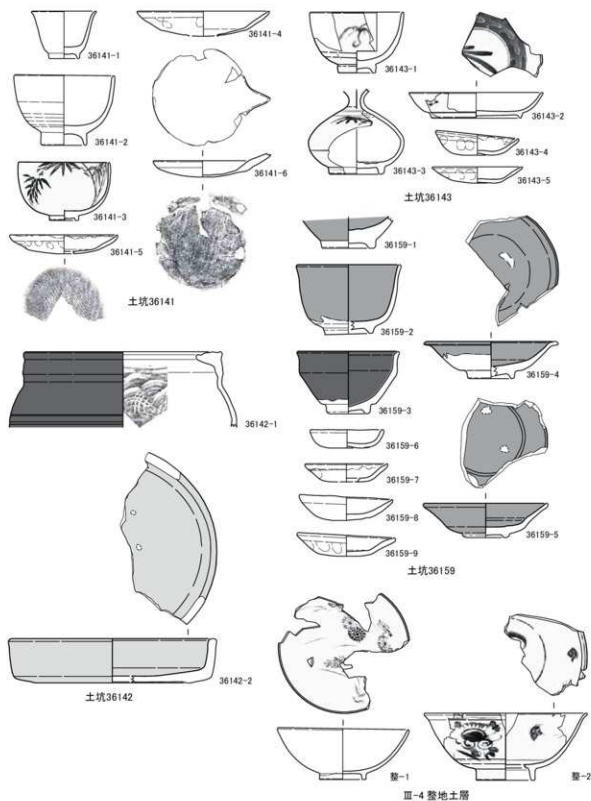
瀬戸・美濃焼 3348-2は松竹梅文の浅めの碗である。十分磁器化せず、呉須の色も薄く濁っている。

越前焼 鉢鉢(3348-13)は口縁下に凸帯が付く19世紀前半頃の製品である。

土師質土器 3348-15・16は内型成形のG系で、口縁部には挟みナデ、見込には横ナデ痕がある。3348-14はG系に把手を付けたものである。3348-17は、G系の形をまねて手握ねで成形したH系である。



第73図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-4① (縮尺1/4)



第74図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅲ-4② (縮尺1/4)

第③段 三
耳街区 屋数地1

-107-

第3節 旧街区の土器・陶磁器

第 2 版 第 2 次印刷

図面番号	材 種	取組む工法・用途・得意	口径	長さ (m)	形状・調整	組立・調整・その他	備 考
33136-1	丸	伊豆 井原					
33136-2	丸	伊豆 井原	(12.2)	66.1	12.2	ウタ口成形、断面直交、呼び目録。	全付、内口無縁。
33136-3	大目丸鋼	伊豆 井原	(11.6)	4.2	6.9	ウタ口成形、断面直交。	全付、高付無縁。
33136-4	丸鋼	伊豆 井原	(10.2)	4.2	7.0	ウタ口成形、断面直交。	全付(三重付)。
33136-5	丸鋼	伊豆 井原	(11.3)	4.2	3.1	ウタ口成形、断面直交。	全付、高付口無縁。
33136-6	片状鋼	伊豆 井原	(11.6)	6.0	4.4	ウタ口成形、断面直交、圧入調整。	全付、高付口無縁。
33136-7	大目丸鋼	伊豆 井原	(13.2)	8.3	6.3	ウタ口成形、断面直交。	全付、高付口無縁。
33136-8	丸鋼	伊豆 井原	(11.6)	4.2	7.8	ウタ口成形、断面直交、調整時調整。	全付、高付口無縁。
33136-9	丸鋼	伊豆 井原	(11.3)	8.1	(2.7)	ウタ口成形、断面直交、調整時調整。	全付、高付口無縁。
33136-10	片状鋼	伊豆 井原			(4.1)	おしえて調整、圧入調整、調整時調整。	全付。
33136-11	大目丸鋼	伊豆 井原	9.3	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-12	丸鋼	伊豆 井原	9.4	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-13	大目丸鋼	伊豆 井原	9.4	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-14	大目丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-15	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-16	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-17	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-18	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-19	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-20	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-21	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-22	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-23	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-24	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-25	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-26	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-27	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-28	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-29	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-30	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-31	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-32	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-33	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-34	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-35	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-36	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-37	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-38	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-39	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-40	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-41	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-42	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-43	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-44	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-45	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-46	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-47	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-48	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-49	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-50	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-51	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-52	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-53	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-54	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-55	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-56	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-57	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-58	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-59	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-60	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-61	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-62	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-63	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-64	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-65	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-66	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-67	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-68	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-69	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-70	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-71	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-72	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-73	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-74	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-75	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-76	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-77	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-78	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-79	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-80	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-81	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-82	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-83	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-84	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-85	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-86	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-87	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-88	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-89	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-90	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-91	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-92	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-93	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-94	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-95	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-96	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-97	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-98	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-99	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。
33136-100	丸鋼	伊豆 井原	10.8	—	—	圧入、圧入調整、圧入調整時調整。	全付。

區街區 屋數地

調査番号	群 種	所在地・所在地 土質・地代	法長 (m)		深さ	成形・調整	施装・装飾・その他	備 考
3344-1	Ⅲ	九谷	19.3	9.25	3.1	口口成形、磨面凸出。	忌色、矢射す。見山(青・赤・黒・黄・緑)。	2枚出土。
3344-2	Ⅲ	伊万里		(11.6)		口口成形、磨面凸出。	忌色、矢射す。	
3344-3	Ⅲ	伊万里		(4.8)		口口成形、磨面凸出。	忌色、矢射す。	
3344-4	Ⅲ	小浜	11.6	11.6	13.9	口口成形、磨面凸出。	忌色、矢射す。	正副
3344-5	Ⅲ	奥津			8.0	口口成形、口面内側作付で平削り。	忌色。	
3344-6	石部型	○	13.5	5.5	2.1	下掘り。(口)内底ナナリ。磨面。	明色。	
3344-7	石部型	○	9.0	3.5	1.7	下掘り。(口)内底ナナリ。磨面。	明色。	
3344-8	石部型	○	11.0	4.2	2.0	下掘り。(口)内底ナナリ。磨面。	明色。	
3345-1	平盤型	伊万里	10.1	(4.1)	5.1	口口成形、磨面凸出。	明色。	
3345-2	角盤型	伊万里	11.6	7.8	2.6	磨面。	明色。	
3346-1	小浜	伊万里	8.0	3.2	4.5	口口成形、磨面凸出。	明色。	
3346-2	小浜	伊万里	11.0	3.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
3347-1	Ⅲ	伊万里	14.6	8.4	5.2	口口成形、磨面凸出。磨面、口面内側作付、口面。	明色。	
335109-1	Ⅲ	奥津	16.8	17.1	10.0	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335110-1	大形	奥津	11.6	4.5	3.0	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-1	大形	伊万里	10.0	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-2	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-3	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-4	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-5	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-6	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-7	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-8	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-9	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-10	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-11	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-12	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-13	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-14	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-15	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-16	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-17	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-18	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-19	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-20	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-21	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-22	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-23	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-24	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-25	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-26	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-27	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-28	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-29	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-30	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-31	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-32	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-33	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-34	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-35	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-36	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-37	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-38	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-39	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-40	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-41	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-42	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-43	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-44	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-45	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-46	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-47	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-48	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-49	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-50	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-51	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-52	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-53	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-54	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-55	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-56	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-57	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-58	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-59	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-60	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-61	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-62	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-63	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-64	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-65	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-66	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-67	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-68	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-69	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-70	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-71	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-72	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-73	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-74	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-75	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-76	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-77	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-78	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-79	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-80	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-81	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-82	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-83	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-84	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-85	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-86	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-87	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-88	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-89	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-90	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-91	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-92	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-93	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-94	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-95	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-96	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-97	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-98	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-99	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	
335127-100	大形	伊万里	10.6	4.0	2.4	口口成形、磨面凸出。	明色。	

第1章 土器・陶磁器

品名 数量 3

図面番号	品 種	陶磁器 産地 土器類 土行	口徑	高さ	底径	高さ	成形・調整	胎土・裝飾、その他	備 考
3408-6	半圓筒	伊万里	7.6	3.6	5.75		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-7	半圓筒	伊万里	7.4	3.8	5.9		口で成形、彫削高台。	染付、内(四方條、見)コンシヤ、外(青文)。	V
3408-8	半圓筒	伊万里	7.6	3.8	6.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文)。	V
3408-9	半圓筒	伊万里	8.2	3.6	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(朱書文、見)下藩五文。	V
3408-10	丸筒	伊万里	10.0	3.7	5.2		口で成形、彫削高台、登り段。	染付、外(一重圓文)。	V
3408-11	半圓筒	伊万里	7.4	3.4	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無、底に鐵ノ目。	V
3408-12	半圓筒	伊万里	8.6	4.2	7.4		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍、見)龍高台。	V
3408-13	半圓筒	伊万里	10.5	5.2	6.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-14	半圓筒	伊万里	10.7	5.9	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(朱書文、見)土曜無。	V
3408-15	半圓筒	伊万里	11.7	6.6	6.9		口で成形、彫削高台。	染付、外(朱書文、見)土曜無。	V
3408-16	丸筒	伊万里	10.6	3.9	5.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍の字文)土曜無。	V
3408-17	半圓筒	瀬戸	9.0	3.8	5.4		口で成形、彫削高台。	染付、外(四方條、見)土曜無。	V
3408-18	半圓筒	伊万里	10.0	4.0	5.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍、見)土曜無。	V
3408-19	半圓筒	伊万里	9.2	3.1	3.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(花文、見)土曜無、底に鐵ノ目。	V
3408-20	半圓筒	瀬戸	9.5	4.1	4.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-21	半圓筒	瀬戸・土曜	7.7	3.3	5.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-22	半圓筒	瀬戸・土曜	9.2	3.1	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-23	半圓筒	瀬戸	9.8	3.5	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍文、見)土曜無。	V
3408-24	半圓筒	瀬戸	7.2	4.0	5.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍文、見)土曜無。	V
3408-25	半圓筒	瀬戸	11.4	4.0	7.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(龍文、見)土曜無。	V
3408-26	半圓筒	瀬戸	9.85	3.5	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-27	半圓筒	瀬戸	9.4	3.9	5.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-28	半圓筒	瀬戸	9.6	3.6	5.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-29	半圓筒	瀬戸	10.25	4.0	5.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-30	半圓筒	瀬戸	4.7	1.4	1.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-31	半圓筒	伊万里	9.2	3.6	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-32	半圓筒	伊万里	5.55	1.7	3.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-33	半圓筒	瀬戸	12.6	4.9	5.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-34	半圓筒	瀬戸・土曜	9.6	3.1	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-35	半圓筒	瀬戸	9.0	3.6	5.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-36	半圓筒	伊万里	7.5	3.0	3.6		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-37	半圓筒	伊万里	7.8	2.6	4.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-38	半圓筒	伊万里	6.4	2.9	4.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-39	半圓筒	伊万里	5.6	2.6	7.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-40	半圓筒	伊万里	5.9	1.6	2.9		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-41	半圓筒	伊万里	9.4	3.6	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-42	半圓筒	伊万里	9.9	5.2	2.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-43	半圓筒	伊万里	15.0	9.2	2.5		口で成形、彫削高台、ハリ支え。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-44	半圓筒	伊万里	11.5	7.3	3.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-45	半圓筒	伊万里	(14.8)	9.3	2.8		口で成形、彫削高台、ハリ支え。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-46	半圓筒	伊万里	10.5	7.2	3.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-47	半圓筒	伊万里	6.5	4.5	1.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-48	半圓筒	伊万里	10.0	5.0	2.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-49	半圓筒	伊万里	10.4	5.6	2.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-50	半圓筒	伊万里	10.2	5.2	2.4		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-51	半圓筒	伊万里	12.6	7.5	3.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-52	半圓筒	中国	18.0	9.8	3.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-53	半圓筒	中国	24.0	13.0	3.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-54	半圓筒	伊万里	14.8	5.1	4.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-55	半圓筒	伊万里	5.4	5.4	5.4		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-56	半圓筒	伊万里	12.1	6.3	7.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-57	半圓筒	伊万里	7.7	3.9	4.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-58	半圓筒	伊万里	12.5	7.5	4.9		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-59	半圓筒	伊万里	15.8	7.8	9.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-60	半圓筒	大正	(32.4)	(18.0)	5.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-61	半圓筒	伊万里	28.5	15.6	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-62	半圓筒	伊万里	29.6	16.0	4.6		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-63	半圓筒	伊万里	(52.4)	(13.7)	5.6		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-64	半圓筒	伊万里	(12.9)	(11.8)	(4.7)		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-65	半圓筒	伊万里	29.8	7.6	6.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-66	半圓筒	伊万里	15.0	5.8	6.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-67	半圓筒	伊万里	13.2	8.1	5.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-68	半圓筒	伊万里	6.0	5.1	7.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-69	半圓筒	伊万里	(7.0)	4.4	1.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-70	半圓筒	伊万里	19.4	(6.6)	6.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-71	半圓筒	伊万里	21.4	10.6	7.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-72	半圓筒	伊万里	(53.4)	(14.2)	9.9		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-73	半圓筒	伊万里	12.9	5.3	3.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-74	半圓筒	伊万里	11.0	1.8	3.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-75	半圓筒	伊万里	8.0	—	3.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-76	半圓筒	伊万里	11.0	8.0	8.5		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-77	半圓筒	伊万里	9.2	—	4.2		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-78	半圓筒	伊万里	5.15	7.3	23.7		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-79	半圓筒	伊万里	13.2	4.5	6.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-80	半圓筒	伊万里	1.3	—	1.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-81	半圓筒	伊万里	—	—	22.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-82	半圓筒	伊万里	9.4	4.8	7.4		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-83	半圓筒	伊万里	7.0	4.5	8.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-84	半圓筒	伊万里	—	—	8.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-85	半圓筒	伊万里	10.3	5.1	8.1		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-86	半圓筒	伊万里	10.0	9.8	7.6		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-87	半圓筒	伊万里	1.85	—	7.0		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-88	半圓筒	伊万里	1.9	3.7	7.3		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V
3408-89	半圓筒	伊万里	3.9	11.4	30.8		口で成形、彫削高台。	染付、外(青文、見)土曜無。	V

3.3節 旧街区の土器・陶磁器

田源深 廖静怡

演目番号	科 種	施設・演出 ・装飾・打合	口 役	身長 (cm)	高 さ	成 績・調整	施設・試演・その他	備 考
3408-90	土瓶	津浦		15.5	9.7	口役成順。	赤役。	丸の須田。
3408-91	土瓶	津浦	15.4	8.7		口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-92	土瓶	津浦	6.8	10.2	10.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-93	土瓶	津浦	7.5	9.7	9.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-94	土瓶	津浦	10.0	10.2	17.5	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-95	土瓶	津浦	11.7	9.6	9.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-96	土瓶	津浦	8.4	3.1	4.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-97	土瓶	津浦	6.3	2.3	2.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-98	土瓶	津浦	11.0	10.4	6.5	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-99	土瓶	津浦	5.4	5.9	9.0	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-100	土瓶	津浦	3.7	3.7	6.1	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-101	土瓶	津浦	4.7	4.7	7.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-102	土瓶	津浦	21.8	19.6	21.0	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-103	土瓶	津浦		13.0	17.2	口役成順。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-104	土瓶	津浦	30.9	29.0	14.1	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-105	土瓶	津浦	22.0	26.5	16.1	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-106	土瓶	津浦	11.2	11.1	14.1	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-107	土瓶	津浦	33.0	18.4	13.5	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-108	土瓶	津浦	16.8	10.1	7.3	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-109	土瓶	津浦	19.0	9.8	8.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-110	土瓶	津浦	21.0	16.1	21.3	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-111	土瓶	津浦	33.2	24.5	37.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-112	土瓶	津浦	18.1	18.9	9.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-113	土瓶	津浦	8.0	4.5	5.3	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-114	土瓶	津浦	6.7	4.5	3.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-115	土瓶	津浦	10.6	4.2	2.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-116	土瓶	津浦	11.2	4.2	2.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-117	土瓶	津浦	12.0	3.4	16.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-118	土瓶	津浦	6.8		1.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-119	土瓶	津浦	8.8		8.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-120	土瓶	津浦	10.8		1.9	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3408-121	土瓶	津浦	11.4	6.8	9.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-1	土瓶	津浦	11.4	6.8	9.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-2	土瓶	津浦	12.0	3.4	16.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-3	土瓶	津浦	6.8		1.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-4	土瓶	津浦	8.8		8.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-5	土瓶	津浦	10.8		1.9	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-6	土瓶	津浦	11.4	6.8	9.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-7	土瓶	津浦	11.4	6.8	9.2	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-8	土瓶	津浦	12.0	3.4	16.7	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-9	土瓶	津浦	6.8		1.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-10	土瓶	津浦	8.8		8.8	口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-11	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-12	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-13	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-14	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-15	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-16	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-17	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-18	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-19	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-20	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-21	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-22	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-23	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-24	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-25	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-26	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-27	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-28	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-29	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-30	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-31	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-32	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-33	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-34	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-35	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-36	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-37	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-38	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-39	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-40	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-41	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-42	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-43	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-44	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-45	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-46	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-47	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-48	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-49	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-50	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-51	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-52	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-53	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-54	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-55	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-56	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-57	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-58	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-59	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-60	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-61	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-62	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-63	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-64	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-65	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-66	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-67	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-68	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-69	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-70	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-71	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-72	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-73	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-74	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-75	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-76	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-77	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-78	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-79	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-80	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-81	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-82	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-83	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-84	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-85	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-86	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-87	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-88	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-89	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-90	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-91	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-92	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-93	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-94	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-95	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-96	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-97	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-98	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-99	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-100	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-101	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-102	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-103	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-104	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-105	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-106	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-107	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-108	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-109	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-110	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-111	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-112	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-113	土瓶	津浦				口役成順。津浦直。見上子勝。	赤役。赤役成順。	丸の須田。
3410-114	土瓶	津浦						

第1章 土器・陶磁器

第Ⅱ区 第Ⅱ地 3

[illegible]

第3節 Ⅲ街区の土器・陶磁器

Ⅲ街区 屋敷地 3

図面番号	器 種	発掘層・遺構・土層記号・付記	口徑	底径	高さ	成形・調整	施装・装飾・その他	備 考
3348-9	埴輪	掘削	29.6	11.2	11.6	ねたて成形、目録18番。		V-3区、目録19番。
3348-10	土師器皿	○	10.6	7.0	1.8	手ねね、口・内底みずナ、敷板、外1部押入。	灰褐色、	Ⅱ-2区、目録19番。
3348-11	土師器皿	○	10.6	7.0	1.8	手ねね、口・内底みずナ、敷板、外1部押入。	灰褐色、	Ⅱ-2区、目録19番。
3348-12	土師器皿	○	10.9	6.9	1.4	手ねね、口・内底みずナ、敷板、外1部押入。	灰褐色、	Ⅱ-2区、目録19番。
3348-13	土師器皿	×	9.0	-	2.2	手ねね、口・内底みずナ、敷板押入。	灰褐色、	Ⅱ-2区、目録19番。
3348-14	土師器皿	○	11.2	-	2.7	手ねね、口・内底みずナ、敷板押入。	灰褐色、	Ⅱ-2区、目録19番。

Ⅲ街区 屋敷地 4

図面番号	器 種	発掘層・遺構・土層記号・付記	口徑	底径	高さ	成形・調整	施装・装飾・その他	備 考
3348-1	陶丸瓶	伊方里	8.0	4.2	6.4	ロウロ成形、削出高台、蛇ノ目高台。	染付、外1部青・赤(山水)、口内文。	Ⅳ区、目録19番。
3348-2	浅半球碗	伊方里	10.6	4.4	4.5	ロウロ成形、削出高台。	染付、口・底竹葉。	Ⅳ区。
3348-3	小杯	伊方里	7.0	2.8	4.0	ロウロ成形、削出高台、高台1部磨着。	口・底。	Ⅳ区。
3348-4	瀬灰鉢	南津	13.6	5.2	8.8	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、高台部無縁。	Ⅳ区。
3348-5	丸瓶	南津	9.8	4.6	7.0	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、外内面に白化粧土施し磨け、灰褐色。	Ⅳ区。
3348-6	丸瓶	南津	12.0	4.3	3.6	ロウロ成形、削出高台、蛇ノ目磨ハナ。	内1部緑、外灰褐色、高台部無縁。	Ⅳ区。
3348-7	浅半球碗	南津	9.6	4.9	6.7	ロウロ成形、削出高台、高台1部磨着。	灰褐色、手ねね施し磨け。	Ⅳ区。
3348-8	大目茶碗	瀬戸・美濃	11.8	4.4	7.1	ロウロ成形、削出高台。	口・底、磨け口・底。	Ⅳ区。
3348-9	浅半球碗	京都・信楽	12.4	4.8	4.9	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、白化粧土、蛇ノ目磨ハナ、高台内1部磨(高台部無縁)。	Ⅳ区。
3348-10	半球碗	京都・信楽	10.0	3.0	5.5	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、白化粧土、外1部文(上緑付・赤・青・緑)、高台部無縁。	Ⅳ区。
3348-11	半球碗	京都・信楽	10.4	4.2	6.5	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、白化粧土、外1部文(上緑付・赤・青・緑)、高台部無縁。	Ⅳ区。
3348-12	皿	伊方里	14.25	8.2	4.2	ロウロ成形、削出高台、口縁模花文、ハナ文、高台1部磨着。	口・底、内1部青、外1部青、高台の縁(太明字)。	Ⅳ区、漆磨着。
3348-13	飯鉢	掘削	(39.0)	-	(6.9)	ロウロ成形、口・底みずナ、目録19番。		Ⅳ区。
3348-14	土師器皿	○	12.0	-	2.5	内底磨、口・底みずナ、敷板、蛇ノ目磨。	灰褐色、	Ⅳ区。
3348-15	土師器皿	○	10.1	(4.8)	1.5	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3348-16	土師器皿	×	11.8	-	2.0	内底磨、口・底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3348-17	土師器皿	○	10.7	-	1.2	手ねね、口・底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3348-18	丸瓶	南津	13.0	5.8	8.0	ロウロ成形、削出高台、高台1部磨着。	透明緑、外1部(内)。	Ⅳ区。
3402-1	瀬灰鉢	伊方里	9.7	3.65	5.0	ロウロ成形、削出高台。	染付、外1部文、蛇ノ目磨(五等文)、口・底。	Ⅳ区。
3402-2	瀬灰鉢	京都・信楽	9.2	3.95	5.2	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、口・底、磨け口・底。	Ⅳ区。
3402-3	瀬灰鉢	京都・信楽	9.2	4.4	6.8	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、外1部模花(上緑付・赤・緑・青・赤)、高台部無縁。	Ⅳ区。
3402-4	瀬灰鉢	京都・信楽	9.4	4.2	6.3	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、外1部文(上緑付・赤・緑)、高台部無縁。	Ⅳ区。
3402-5	片口鉢	瀬戸	11.5	4.9	5.1	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、外1部半磨着。	Ⅳ区。
3402-6	深鉢	瀬戸	15.0	9.4	15.1	ロウロ成形、削出高台、口縁溝部に砂目磨。	灰褐色、外1部半磨着。	Ⅳ区。
3402-7	鉢	掘削	31.0	(18.6)	17.3	ロウロ成形、削出高台。	口・底、磨け口・底。	Ⅳ区。
3402-8	土師器皿	○	10.2	-	1.8	内底磨、口・内底みずナ、敷板状。	灰褐色、	Ⅳ区。
3402-9	土師器皿	○	10.4	-	1.8	内底磨、口・内底みずナ、敷板状。	灰褐色、	Ⅳ区。
3405-1	瀬灰鉢	伊方里	8.7	3.1	6.1	ロウロ成形、削出高台。	染付、外1部(口・底、草文、蛇ノ目磨)。	Ⅳ区。
3405-2	ひだ茶碗	瀬戸・美濃	12.6	6.1	7.7	ロウロ成形、削出高台、輪郭部に茶碗、飯付高台。	灰褐色、	Ⅳ区。
3405-3	茶碗	瀬戸・美濃	13.6	13.8	4.2	飯付。	灰褐色、	Ⅳ区。
3405-4	浅鉢	伊方里	2.5	3.3	7.7	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、	Ⅳ区。
3405-5	鉢	伊方里	21.2	9.4	8.5	ロウロ成形、削出高台、高台1部磨着。	染付、内1部文、口・底磨。	Ⅳ区。
3414-1	小杯	伊方里	6.8	2.2	5.0	ロウロ成形、削出高台、高台1部磨着。	口・底。	Ⅳ区。
3414-2	浅半球碗	南津	10.6	4.5	7.8	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、	Ⅳ区。
3414-3	半球碗	京都	9.7	3.0	6.2	ロウロ成形、削出高台、高台内面高台。	透明緑、外1部赤・竹文(上緑付・青・緑)、口・底。	Ⅳ区。
3414-4	土師器皿	○	11.8	-	2.0	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-5	土師器皿	×	(14.0)	-	(2.6)	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-6	土師器皿	○	10.4	-	(2.5)	手ねね、内・外1部(口・底)敷板、蛇ノ目磨。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-7	茶碗	南津	(21.0)	-	(8.0)	夕奈半成(口・底みずナ)、灰褐色。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-8	鉢	南津	22.0	16.6	4.7	夕奈半成、削出高台、口・底磨。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-9	丸瓶	肥後	10.0	3.8	6.4	ロウロ成形、削出高台。	染付、高台部無縁。	Ⅳ区。
3414-10	皿	伊方里	14.2	9.4	2.7	ロウロ成形、削出高台。	染付、内1部磨。	Ⅳ区。
3414-11	深鉢	伊方里	-	5.4	9.0	ロウロ成形、削出高台。	染付、外1部文、口・底磨。	Ⅳ区。
3414-12	土師器皿	×	8.8	-	2.6	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-13	土師器皿	×	9.6	-	1.7	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-14	皿	南津	-	5.4	3.3	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、高台部無縁。	Ⅳ区。
3414-15	瀬灰鉢	南津	11.1	5.1	7.4	ロウロ成形、削出高台、口・底磨、高台内面磨。	灰褐色、高台部無縁。	Ⅳ区。
3414-16	大目茶碗	瀬戸・美濃	10.6	4.0	6.6	ロウロ成形、削出高台。	灰褐色、口・底磨。	Ⅳ区。
3414-17	片口鉢	南津	14.2	4.6	3.9	ロウロ成形、削出高台、口・底磨。	灰褐色、口・底磨。	Ⅳ区。
3414-18	片口鉢	南津	15.7	5.9	3.8	ロウロ成形、削出高台、口・底磨。	灰褐色、口・底磨。	Ⅳ区。
3414-19	土師器皿	×	(7.8)	-	1.95	手ねね、口・底。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-20	土師器皿	○	(8.8)	-	1.9	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-21	土師器皿	×	9.8	-	2.65	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-22	土師器皿	×	10.4	-	2.5	手ねね、口・内底みずナ、敷板。	灰褐色、	Ⅳ区。
3414-23	浅半球碗	京都	13.9	4.9	5.3	ロウロ成形、削出高台。	透明緑、外1部文(上緑付・赤・緑・青・赤)、高台部無縁。	Ⅳ区。
3414-24	瀬灰鉢	年間	17.2	6.2	7.1	ロウロ成形、削出高台、口・底磨。	灰褐色、外1部磨、高台部無縁。	Ⅳ区。

第4節 IV街区の土器・陶磁器

IV街区は、調査区の範囲が屋敷地の中心ではなく、全体に遺構および遺物が少ないが、他の街区と同様に、肥前や瀬戸・美濃系の陶磁器が多く確認できる。以下、17世紀から19世紀の遺構を中心に、屋敷地ごとに概要を述べる。

1 屋敷地IV-1 (第75・76図、第4表)

土坑5107(第75図) 17世紀後半から18世紀前半の遺物が確認できる。

上層 伊万里の碗(5107上-1)などがあり、染付で一重網目文を描く。京・信楽焼の碗(5107上-2)は、透明釉施軸後上絵付で亀甲文を描く。

下層 肥前磁器の碗(5107下-1・3)がある。ロクロ成形後に高台を削り出し、器壁は厚い。5107下-3は染付で、外面に菊と松を描く。坏(5107下-2)は、口縁部が外方に反る。染付で蘭を描き、高台は砂が付着する。美濃焼の織部向付(5107下-7)は、型押し成形で、脚部を貼付ける。鉄絵を描いた後に灰釉を施軸し、銅緑釉を部分的に流し掛ける。

2 屋敷地IV-2・3 (第77～80図、第4表)

土坑3550(第77図) 17世紀初頭から後葉の遺物が中心であるが、時期幅はやや広くなる。

唐津焼 碗(3550-2)は呉器手である。ロクロ成形後に高台を削り出し、高台内を兜巾状に成形する。白化粧土を塗布した後、灰釉を施軸する。畳付は無軸である。

瀬戸・美濃焼 丸皿(3550-5)は削出高台で、鉄絵を描いた後に長石釉を施軸する。見込と高台内にピンの痕跡が残る。小坏(3550-4)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、長石釉を施軸する。向付(3550-3)は、筒形でロクロ成形である。鉄絵を描いた後、長石釉を内外面に施軸する。

輸入陶磁器 中国製品の稜花鉢(3550-6)は、ロクロ成形後、口縁部は端反で、稜花状に成形する。染付で内面は花鳥文や獣を描き、窓絵を外面に施す。

土坑5196(第79図) 大火後の17世紀後半から18世紀後半の遺物が中心である。

伊万里 碗や油壺などがある。蓋付碗(5196-2)は白磁で胴部に凸線が巡る。透明釉を施軸するが、口縁部から内面の中ほどまでは無軸である。筒碗(5196-1)は染付で格子と雲を描く。焼成時に歪み、楕円形になる。輪花鉢(5196-3)は、ロクロ成形後型押しを行い、花卉を表す。やや青味のある白磁釉を施軸する。油壺(5196-8)は、ロクロ成形の白磁である。畳付のみ無軸で、砂が熔着する。表面には二次被熱を受けた痕跡が残る。

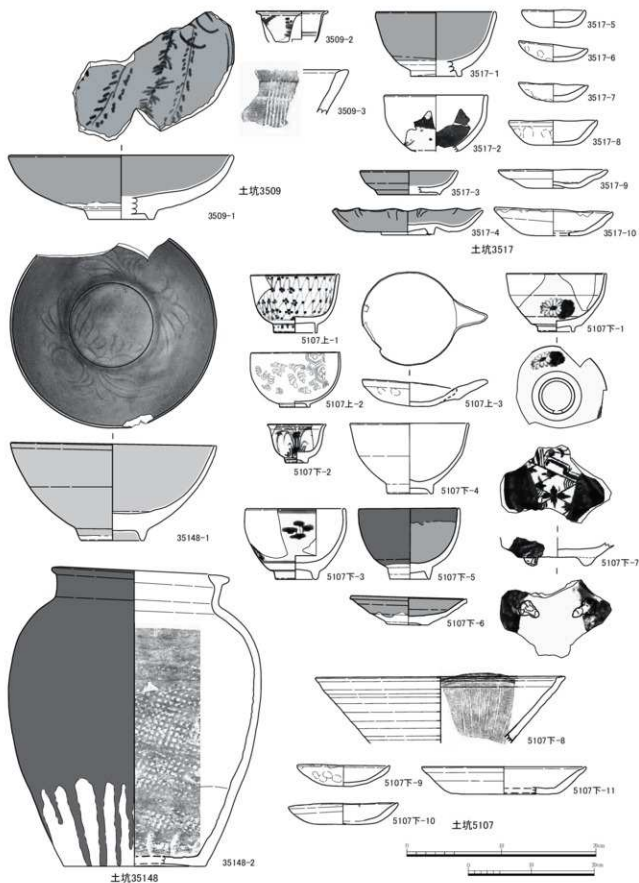
唐津焼 碗類がある。丸碗(5196-6)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。鉄渋を塗布した後、灰釉系の釉薬を施軸する。高台は無軸である。呉器手碗(5196-5)は、灰釉を全体に施軸するが、畳付のみ無軸で砂が熔着する。灰吹(5196-10)は、口縁部端部に煙管を叩き付けた痕跡が残る。内面にはススが確認できる。香炉(5196-9)は畳付の広い輪高台である。筒形で口縁部は浅く折り返し、緑釉と藁灰釉を施軸する。内部と腰部以下は無軸である。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(5196-7)と四耳壺(5196-12)などがある。天目茶碗は、鉄釉で腰部以下は無軸である。大窩Ⅲ期に位置付ける。四耳壺は、ロクロ成形後線刻文様を施す。肩部に耳を貼り付け、外面は鉄釉を施軸する。

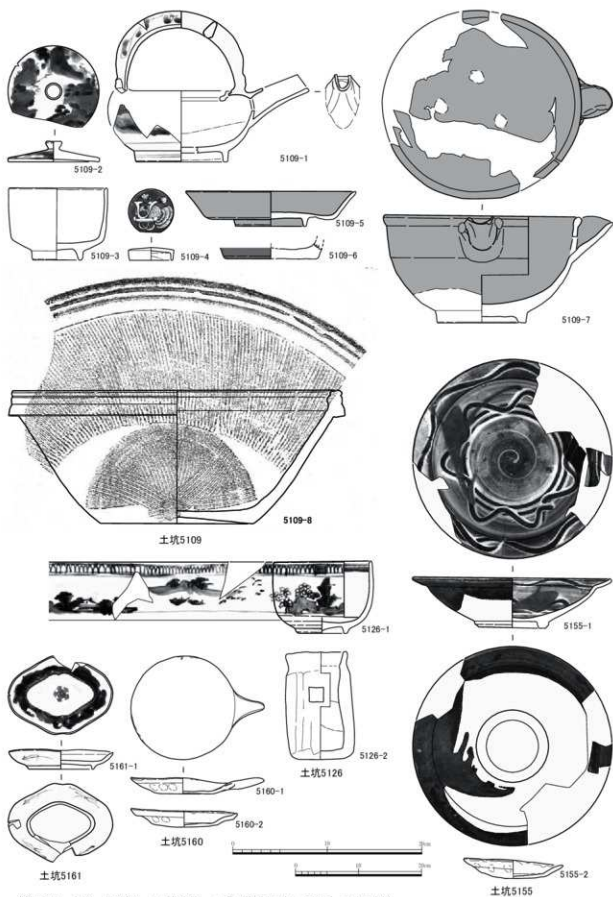
輸入陶磁器 中国製品の白磁輪花皿(5196-11)は、型押しで輪花状に形成する。透明釉を施す。

3 屋敷地IV-2・3整地土層 (第80図、第4表)

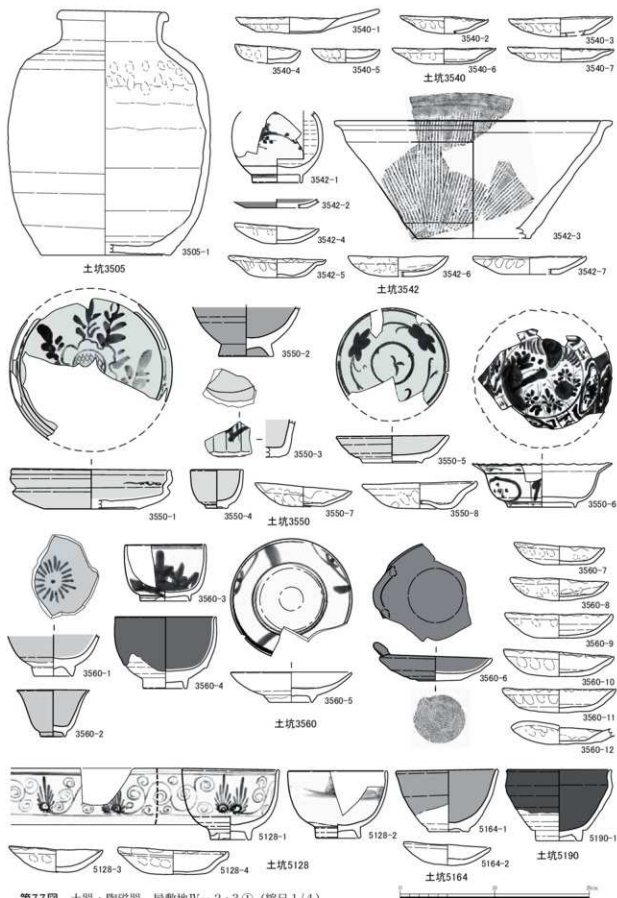
整-6は萩焼の碗である。ロクロ成形後切り高台で2ヵ所に切り込みがある。全体に灰釉を施軸する。



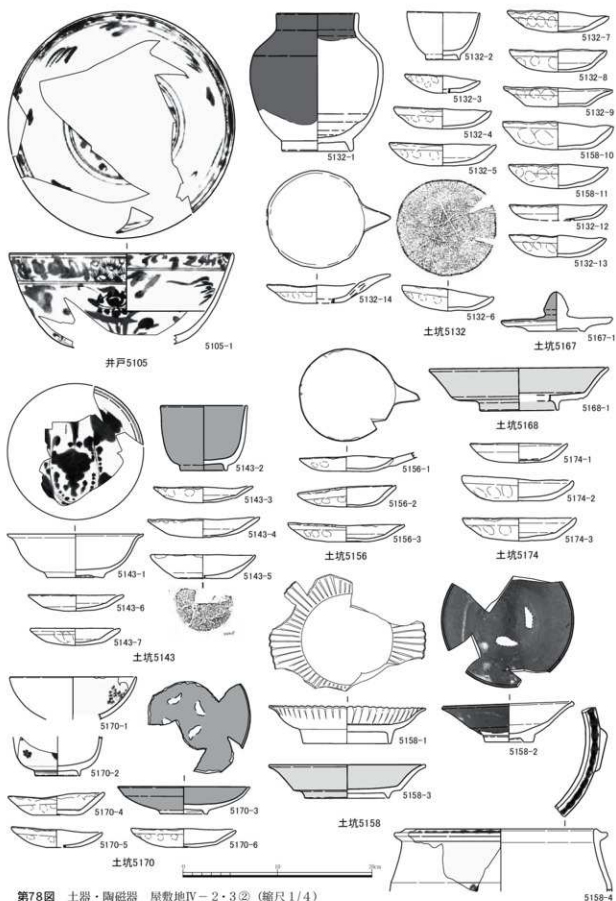
第75図 土器・陶磁器 屋敷地IV-1① (縮尺1/4, 5107下-8は1/6)



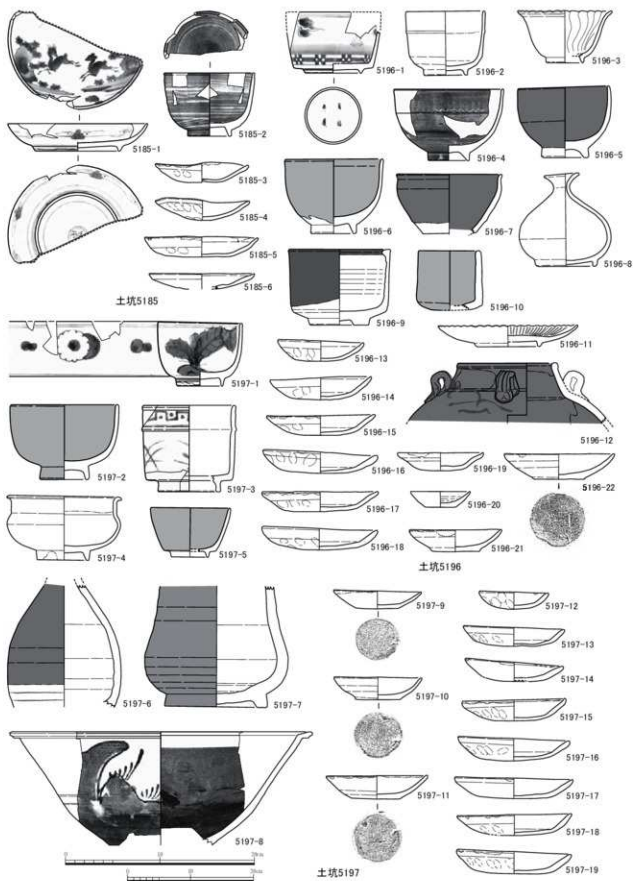
第76図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-1② (縮尺1/4、5155-1は1/6)

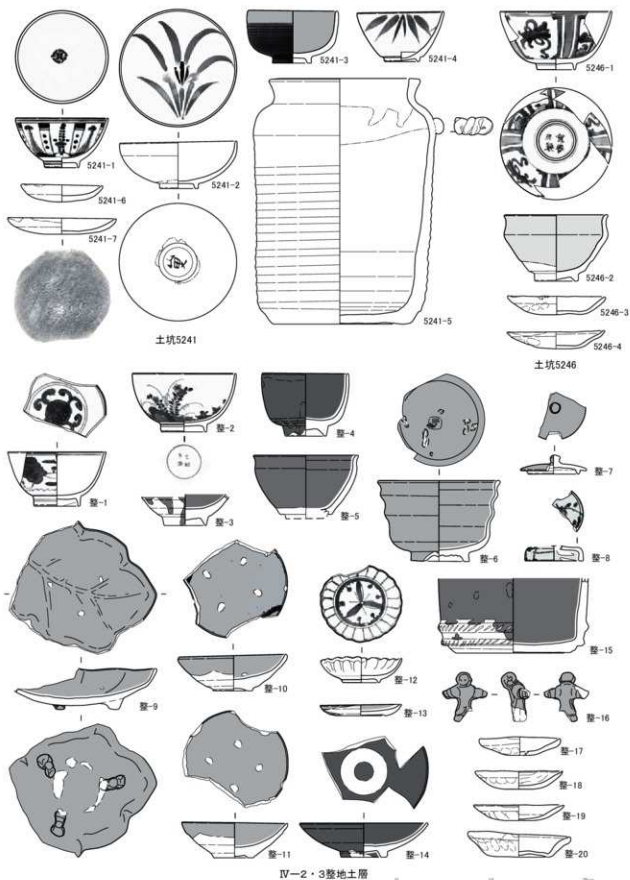


第77図 土器・陶磁器 屋敷地IV-2・3① (縮尺1/4)



第78図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-2・3② (縮尺1/4)





高台内は植物の灰化した繊維が熔着し、見込には銘がある。整-9は皿である。型打ち成形で葉を表し、御深井釉を施す。内面は布目が確認できる。見込にはビンの痕跡が2点残る。底部は半環足を3点貼付ける。底部に輪トチンの痕跡も確認できる。整-15は緒桶である。ロクロ成形後鉄釉を流し掛ける。見込に3点のビン痕があり、腰部に縄目を模したヘラ描きがある。整-12は伊万里の染付皿で、ロクロ成形後菊型に成形する。見込には三方割銀杏文と菊の花弁を描く。この文様は17世紀後半に多く確認できる。

4 屋敷地IV-3 (第81～83図、第4表)

土坑3535(第81図) 17世紀初頭の遺物がまとまって確認できるが、伊万里は含まない。

瀬戸・美濃焼 丸皿(3535-3)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。全面に灰釉を施釉する。端反皿(3535-4)は、ロクロ成形で長石釉を施釉し、高台内に3点のビン痕が残る。向付(3535-1)は、鼠志野である。ロクロ成形後口縁部を広く四方に変形させ、口縁部四隅はヘラ切りによる加飾が確認できる。底部に脚を貼付ける。掻き落として草文、枯木を表し、長石釉を施す。底部と見込に3点のビン痕が残る。

越前焼 搦鉢(3535-2)は、ねじたて成形後回転調整で仕上げる。搦鉢は8条で、口縁部端部の断面形状は三角形である。

土坑3569(第81・82図) 17世紀初頭の遺物を中心に確認するが、伊万里は含まない。

唐津焼 天目茶碗(3569-3・4)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、鉄釉と灰釉を流し掛ける。向付(3569-8)は、ロクロ成形後に口縁部を変形させる。鉄絵を施した後、灰釉を施釉する。鉄絵大鉢(3569-10)は、ロクロ成形で、腰部から口縁部に向かい外反する。側面に2点の把手を貼付ける。全体に灰釉を施すが、底部は無釉である。

瀬戸・美濃焼 端反皿(3569-1)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。長石釉を施し、高台内にトチンの痕跡が残る。黒織部杓茶碗(3569-7)は、ロクロ成形後ヘラ削りで調整する。白土による白化粧と、黒釉を施釉する。鉄絵も確認できるが、破片であるため文様は不明である。

越前焼 搦鉢は、口縁部端部が三角形のもの(3569-12)と、口縁部端部が内湾するもの(3569-13)がある。ねじたて成形後回転調整で仕上げる。

土坑35152(第82・83図) 17世紀初頭の遺物が中心である。中でも絵唐津を多く確認した。

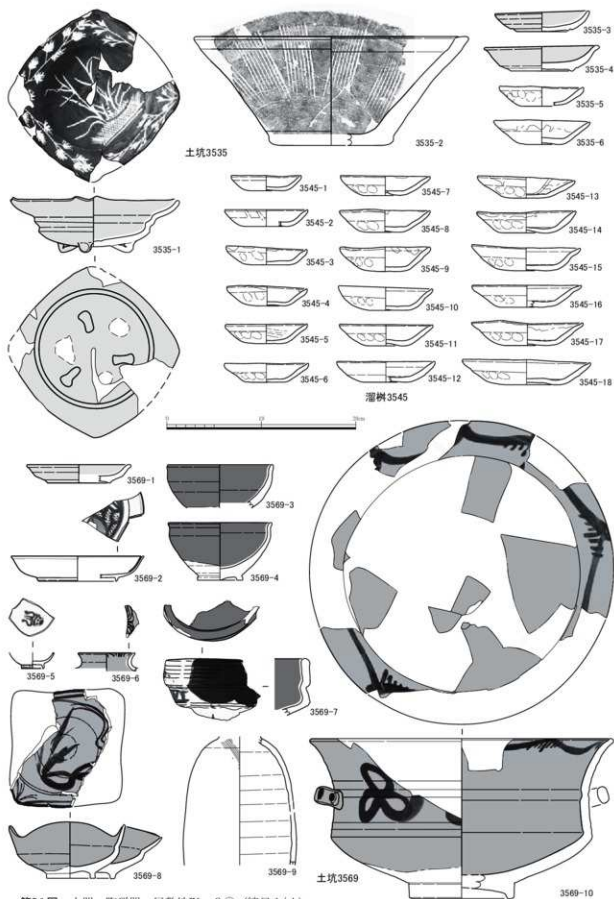
唐津焼 鉄絵の端反碗(35152-1)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。腰部から丸みを持ってやや直立し、口縁部に向かう。灰釉を施釉するが、腰部以下無釉である。盃(35152-2)は、灰釉系の釉薬を施釉する。灰釉丸皿(35152-3)は斑唐津である。向付(35152-4)は、口縁部端部が欠損しているため、形状は不明であるが、ロクロ成形後に口縁部を変形させる。鉄絵で草花を描き、高台付近まで灰釉を施釉する。大皿(35152-7)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。直径約40cmを超えるが、口径に対して高台径11.6cmと小さい。白化粧後鉄絵を施し、透明釉を施釉する。

瀬戸・美濃焼 折縁皿(35152-5)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。灰釉を全体に施釉し、見込と高台内に輪トチンの痕跡を残す。鼠志野の向付(35152-6)は、ロクロ成形後脚部を貼付ける。鉄釉を掻き落とし、草花または枯木を表す。脚部まで長石釉を施釉する。底部にビン痕を2点確認する。

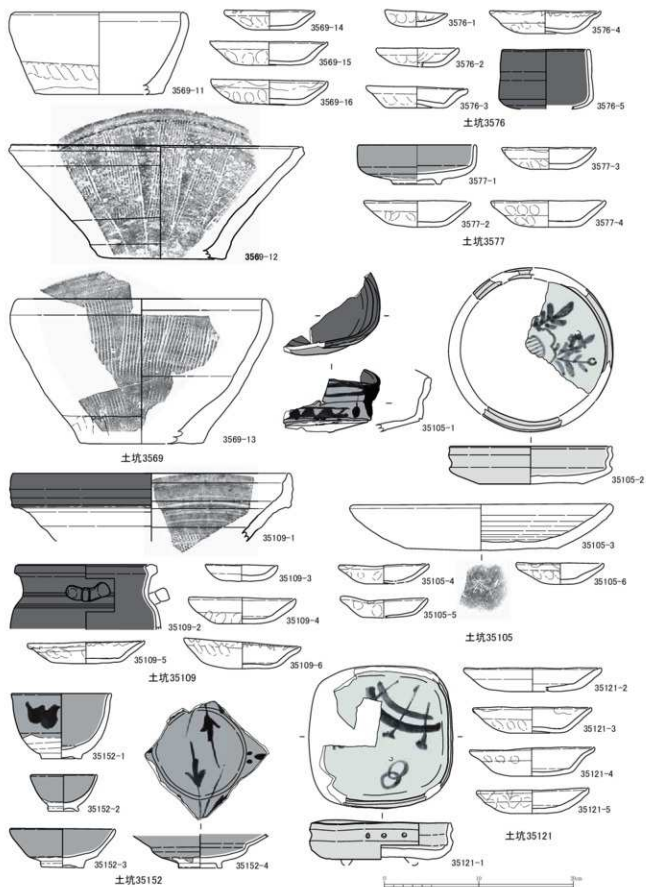
5 屋敷地IV-4 (第84～87図、第4表)

土坑5202(第84図) 上層は18世紀後半から19世紀の遺物が確認できるが、18世紀後半のものが中心である。近代の染付も混在する。

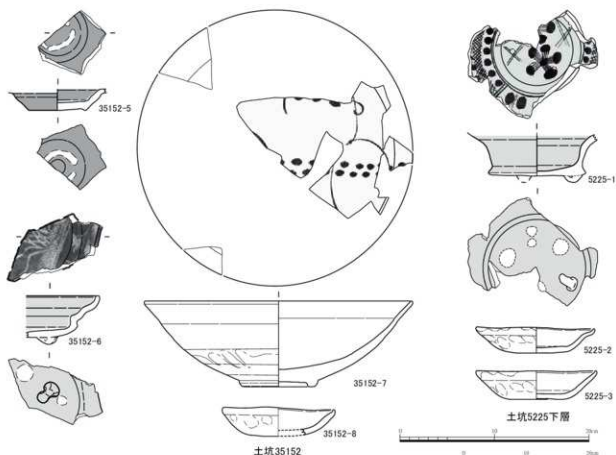
伊万里 丸碗(5202-1)がある。染付で、外面に松と梅を描き、見込に手描きの五弁花文を描く。折縁



第81図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-3① (縮尺1/4)



第82図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-3② (縮尺1/4)



第83図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-3③ (縮尺1/4、35152-7は1/6)

大皿(5202-3)は芙蓉手である。断面に焼継ぎの痕跡が残る。大皿(5202-10)はロクロ成形で、高台を広く作る。染付で松・竹・梅を描き、草花文を施す。丁寧な墨弾きの技法を用いており、19世紀前半に位置付ける。高台内には染付で「富貴長春」の銘がある。

瀬戸・美濃焼 小坏(5202-5)は高台内を浅く削り出す。灰釉を施釉し腰部以下は無釉である。

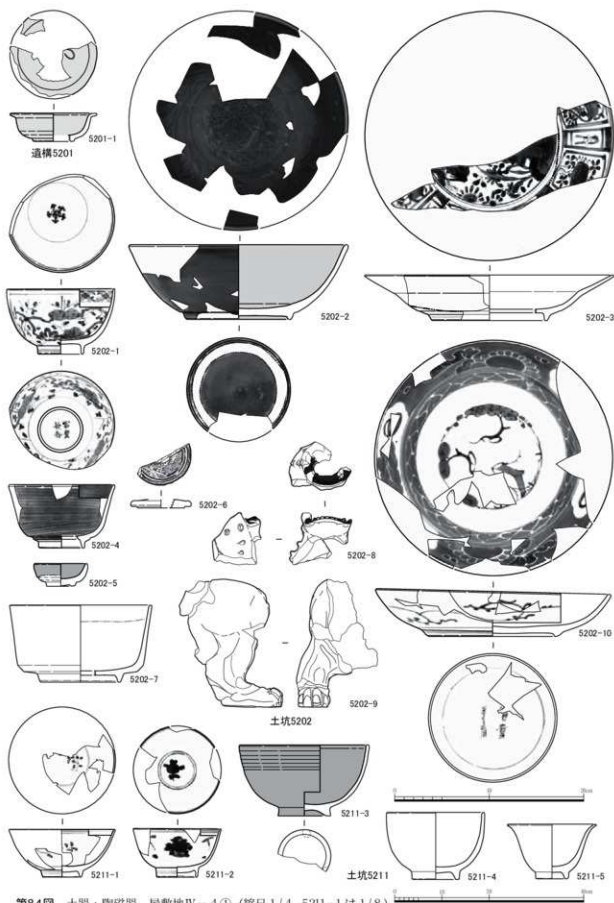
輸入陶磁器 中国製品の青磁大鉢(5202-2)は、ロクロ後型打ち成形で、見込に陽刻を施し、内面はヘラ形りで施文する。高台内も青磁釉を施すが、高台の内側に沿って一巡するように釉を剥ぎ取る。無釉の部分は鉄様の発色があり、焼台の跡が残る。

その他 狗犬(5202-8・9)がある。陶質で手づくね成形である。欠損が著しく、残存状態は悪いが、部分的に鉄泥が確認できる。二次被熱を受けた際の変色が確認できる。焼塩壺蓋(5202-6)は、ロクロ成形後削り調整である。上面に刻印が確認できる。

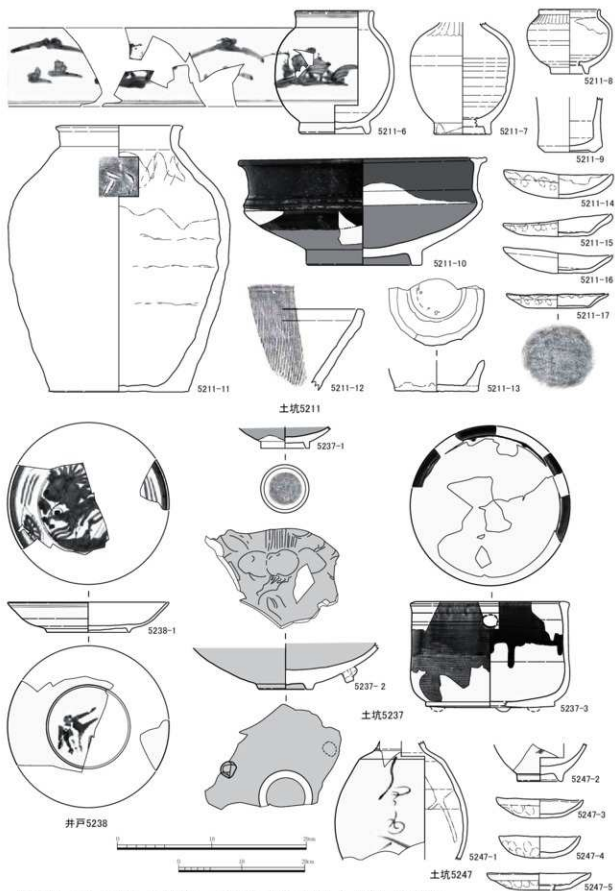
土坑5211(第84・85図) 19世紀が中心のまとまりと、17世紀後半から18世紀前半のまとまりに分けることができる。以下、年代ごとに概要を述べる。

19世紀 伊万里の大鉢(5211-1)は口径22cmを超える。ロクロで成形し、染付で藤、蔓唐草文などを描く。白磁の小碗(5211-5)は口縁部を端反状に成形する。唐津焼には灰釉碗(5211-4)などがある。貫入のある呉器手碗で、一部銅緑釉が掛かるが、赤く発色する。畳付に目痕が確認できる。

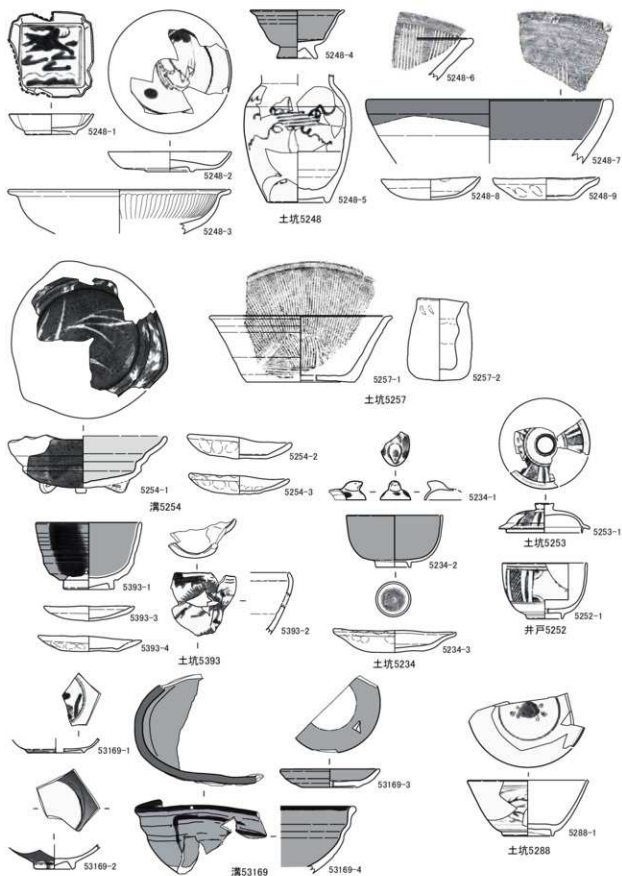
17～18世紀 伊万里の染付小壺(5211-6)があり、山水と船を描く。底部に砂が熔着する。小壺(5211-8)は、白磁で肩部にノミによる削りがある。瓶(5211-7)は白磁である。頸部と口縁部は欠損



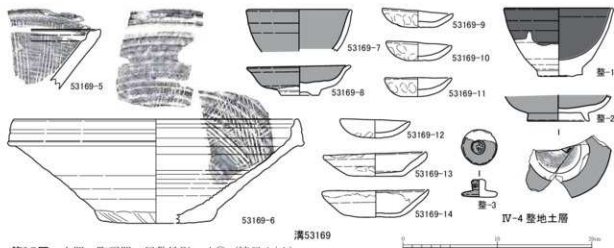
第84図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-4① (縮尺1/4、5211-1は1/8)



第85図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-4② (縮尺1/4、5238-1・5237-3は1/6)



第86図 土器・陶磁器 屋敷地IV-4③ (縮尺1/4)



第87図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-4④ (縮尺1/4)

する。透明釉を施軸するが、底部は無釉である。瀬戸・美濃焼の向付(5211-9)は筒形で、長石釉を施軸する。越前焼の壺(5211-11)は、ねじたて成形で、頸部から口縁部にかけて直立する。全体に鉄泥を施す。

土坑5248(第86図) 17世紀前半から後半の遺物が中心である。

伊万里 角皿(5248-1)は、型打ち成形後、高台を貼り付ける。染付で鳳凰と雲文、山などを描く。欠損部の断面に漆継ぎの痕跡が残る。染付皿(5248-2)は高台が低く、底部は焼成の際に焼け歪む。表面に二次被熱を受けた痕跡がある。壺(5248-5)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、頸部に蓮弁文と、体部に不明瞭な宝文を染付で描く。内面には透明釉を施軸する。青磁大鉢(5248-3)はロクロ成形である。内面にヘラ彫りで縦筋と牡丹を表す。口縁部端部は折り返し、斜め方向の工具痕が残る。坏(5248-4)はロクロ成形で、高台は高く削り出す。また高台内を兜巾状に成形する。胎土は緻密でよく焼締まり、やや磁器質である。体部は腰部から逆ハの字に広がり、口縁端部でさらに広がる。全体に灰釉を施軸し、畳付は目痕が残る。

6 屋敷地Ⅳ-5 (第88・89図、第4表)

土坑5401(第88図) 19世紀中頃の遺物をまとめて確認した。

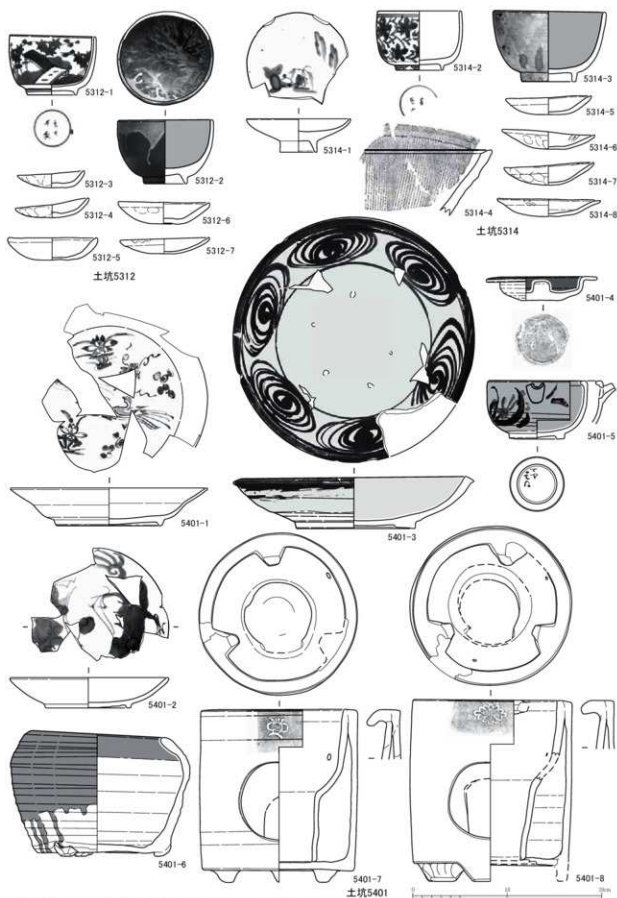
瀬戸・美濃焼 土瓶蓋(5401-4)はロクロ成形で底部に回転糸切痕が残る。内面は無釉で、外面は緑釉を施す。皿(5401-3)はロクロ成形後に高台を削り出す。内面に鉄絵で渦状の馬の目を描き、口縁部端部の内外面に鉄釉を施軸する。全体に長石釉を施し、腰部以下は無釉である。見込にピン痕が残る。

信楽焼 片口鉢(5401-5)は、ロクロ成形後、注口を貼付ける。草花文を描き、灰釉を施す。高台内は墨書で「□□七月」の文字が確認できる。

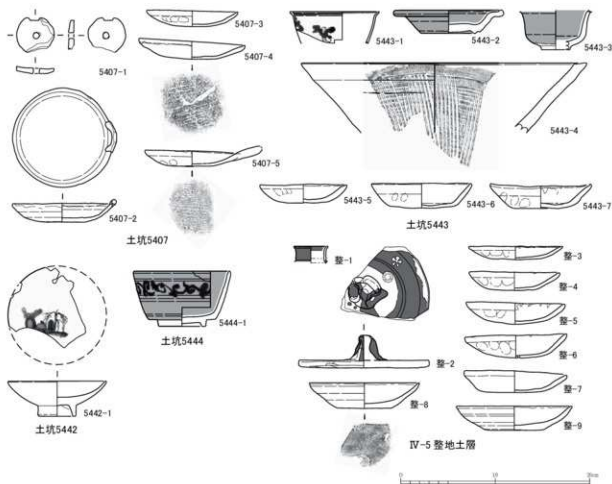
越前焼 火消し壺(5401-6)は、ねじたて成形後回転調整で、底部に脚を3点貼付ける。外面に、口縁部から鉄泥を流し掛ける。内面は、部分的にススが附着する。

輸入陶磁器 中国の上絵付皿(5401-1)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、透明釉を施軸する。赤、緑、黄色の色絵で花、鳥文などを描く。また、同種の器形と文様のものが3個体以上確認できることから、揃いの皿であったことが分かる。漳州窯の染付皿(5401-2)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。高台が浅いため、底部中央に砂が熔着する。見込は染付で竜などの獣文を描く。

その他 土師質土器には七厘(5401-7・8)がある。板作り後、貼り合せて成形する。外面はヘラ磨



第88図 土器・陶磁器 屋敷地IV-5① (縮尺1/4)



第89図 土器・陶磁器 屋敷地IV-5② (縮尺1/4)

きで調整する。口縁部付近に刻印があり、それぞれ梅花文と花菱を表す。

土坑5443(第89図) 17世紀初頭の遺物が中心である。

唐津焼 小碗(5443-3)はロクロ成形後に高台を削り出す。腰部からやや直立し、口縁部端部に向かい端反状に成形する。灰釉を施釉するが高台は無釉である。

瀬戸・美濃焼 折縁皿(5443-2)はロクロ成形後に高台を削り出す。見込は無釉で灰釉を施す。

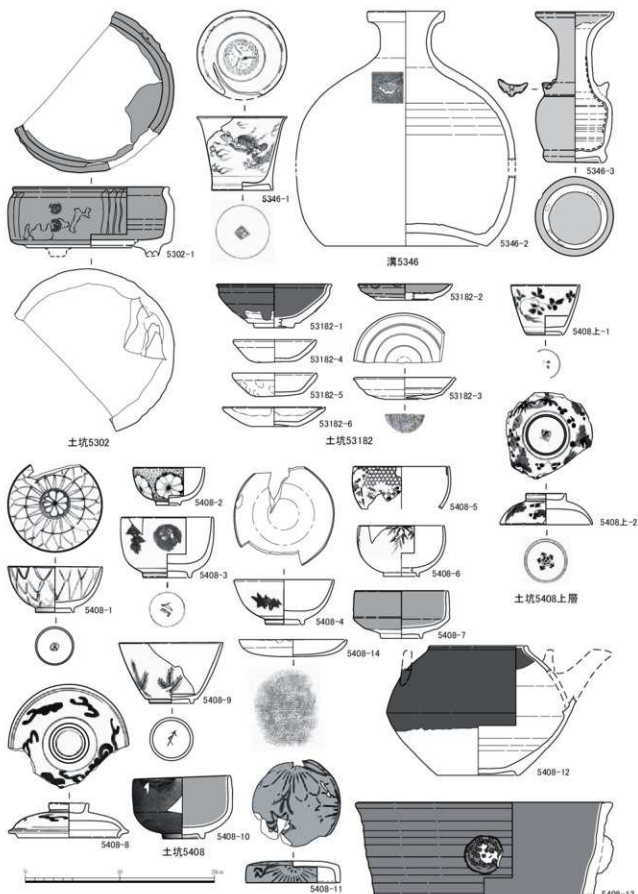
越前焼 挿鉢(5443-4)は、ねじたて成形後回転調整を行う。口縁部まで8条の挿目を入れる。

輸入陶磁器 中国製の碗(5443-1)はロクロ成形である。口縁部端部はくびれがあり端反状になる。外面は染付で唐子を描く。腰部以下が欠損する。

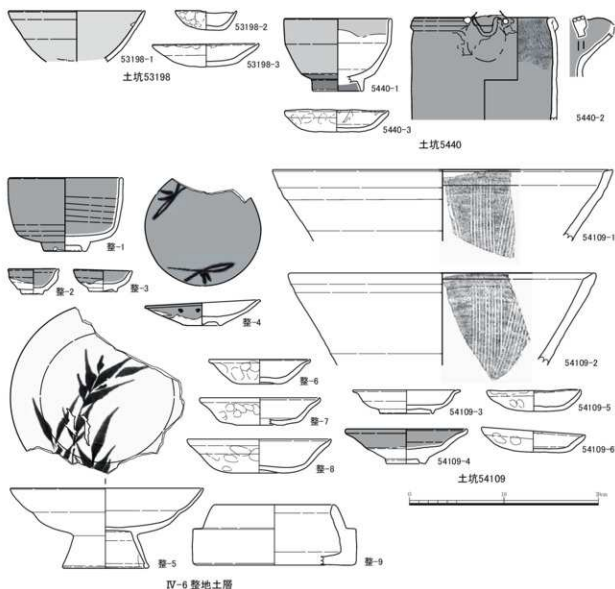
7 屋敷地IV-6 (第90・91図、第4表)

屋敷地境溝5346(第90図) 19世紀の溝である。

伊万里 筒碗(5346-1)はロクロ成形である。口縁部はやや端反で、畳付には砂が熔着する。染付で宝珠雲竜文を描き、器壁を薄く成形する。花生(5346-3)はロクロ成形後に高台を削り出す。青磁釉を施釉する。漆継ぎ痕が確認できる。



第90図 土器・陶磁器 屋敷地Ⅳ-6① (縮尺1/4)



第91図 土器・陶磁器 屋敷地IV-6② (縮尺1/4)

土坑53182(第90図) 17世紀初頭の遺物を中心とした遺構である。

瀬戸・美濃焼 平天目茶碗(53182-1)はロクロ成形後に高台を削り出す。腰部以下無釉で、鉄釉を施す。灰砂丸皿(53182-2)は高台を削り込む。見込は内ハゲで、底部に輪トチンの痕跡が残る。

土坑5408(第90図) 18世紀後半の遺物が中心である。くらわんか碗等も含む。

伊万里 染付碗(5408-1・2)がある。全体に器壁が厚く、小さい作りである。5408-3・4はコンニャク印判で紅葉や鶴などを施す。染付の蓋(5408上-2)はロクロ成形で、つまみ部分を削り出す。染付で散らし草花文を描き、見込に五弁花文を描く。5408-8は返りのある蓋である。染付で雲文を描く。返り部分は無釉である。他に、染付で蔓唐草を描いたそば猪口(5408上-1)などがある。

瀬戸・美濃焼 碗(5408-10)はロクロ成形で、灰釉に一部錆釉を施す。土瓶(5408-12)はロクロ成形後に高台を削り出し、注口と取手を貼付ける。内面に透明釉を施釉し、外面には青緑釉を施す。

京・信楽焼 碗(5408-5・6)はロクロ成形後に高台を削り出す。体部は丸みを持つ。灰釉系の釉薬を施釉し、青、緑等の上絵付で文竹等を描く。5408-7は碗である。ロクロ成形後に高台を削り出す。腰部から口縁部にかけて直立する。全体に灰釉を流し掛ける。合子蓋(5408-11)は鉄絵で菊を描く。

越前焼 鉢(5408-13)は口クロ成形後ナデ調整する。一部に装飾を貼付け、鉄泥を塗布する。

土坑53198(第91図) 17世紀初頭の遺構である。唐津や瀬戸の天目茶碗、志野碗などが確認できる。

瀬戸・美濃焼 平茶碗(53198-1)はロクロ成形である。長石釉を施すが、釉の縮れが確認できる。腰部以下は無釉である。

土坑5440(第91図) 17世紀中頃から後葉の遺物を多く含む。

伊万里 天目型の碗(5440-1)がある。ロクロ成形後に高台を削り出す。外面に青磁釉を施し、内面は透明釉を施釉する。高台部は鉄釉を施す。

唐津焼 片口深鉢(5440-2)がある。タタキ締めた後口クロで調整し、口縁部端部を片口状にする。

灰軸系の軸葉を施す。

土坑54109(第91図) 17世紀初頭から前葉の遺構である。

唐津焼 皿(54109-4)はロクロ成形後に高台を削り出す。見込と疊付に砂目積みの痕跡が確認できる。釉薬は灰釉であり、腰部以下には施釉しない。

越前焼 摺鉢は、ねじたて成形である。8条(54109-1)と10条(54109-2)の摺目を施す。

第4表 土器・陶磁器観察表 IV街区

[illegible]

第4節 IV街区の土器・陶磁器

IV 地区 屋敷地 2・3

[illegible]

IV 阶段 假数地 3

図面番号	器 種	陶磁器・産物 土質・文様	法量 (cm)			成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
			口徑	底徑	高さ			
35.35-1	内付	瀬戸・美濃	(18.1)	7.2	5.9	口タロ成形後、口縁変形、トシチ跡、貼貼付。	志志野、内割れ様。面に枯木(原田 様式落し)。	大器Ⅶ類
35.35-2	鉢鉢	瀬戸	(29.0)	(10.8)	11.5	ねじり成形、植付8条。		Ⅶ-2古

第1章 土器・陶磁器

IV地区 屋敷地 3

図面番号	種 類	陶磁器・産地 土器・瓦・瓦葺	口縁	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・装飾	施装・装飾・その他	備 考
3535-3	丸瓶	瀬戸・美濃	10.0	5.5	2.2	口口成形。押出高台。トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3535-4	小瓶	瀬戸・美濃	12.2	6.6	2.2	口口成形。押出高台。トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3535-5	土師器	瀬戸・美濃	(8.9)	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3535-6	土師器	〇	(10.2)	—	2.5	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-1	土師器	〇	(7.4)	—	(14.3)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3545-2	土師器	〇	(6.4)	—	(1.9)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3545-3	土師器	〇	8.6	—	2.0	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3545-4	土師器	〇	8.6	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3545-5	土師器	〇	8.6	—	2.0	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3545-6	土師器	〇	9.0	—	2.0	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-7	土師器	〇	9.5	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-8	土師器	〇	9.6	—	2.3	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-9	土師器	〇	9.6	—	2.6	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-10	土師器	〇	(10.0)	—	(2.0)	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-11	土師器	〇	9.9	—	2.3	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-12	土師器	〇	(10.0)	—	(2.3)	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-13	土師器	〇	10.3	—	2.4	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-14	土師器	〇	10.5	—	2.3	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-15	土師器	〇	11.2	—	(2.0)	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-16	土師器	〇	11.6	—	2.3	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-17	土師器	〇	11.8	—	2.5	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3545-18	土師器	〇	13.6	—	2.7	手捏ね。口・内面ミナナ。底面。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-1	土師器	瀬戸・美濃	(11.0)	(6.7)	2.0	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-2	土師器	中国	(14.0)	(6.2)	2.7	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-3	土師器	中国	(16.0)	(4.7)	2.7	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-4	土師器	中国	(11.0)	(4.8)	6.1	口口成形。押出高台。変形。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-5	土師器	中国	(6.0)	2.3	—	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-6	土師器	瀬戸・美濃	—	(6.0)	—	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-7	土師器	瀬戸・美濃	12.8	5.05	5.9	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-8	土師器	瀬戸・美濃	13.6	5.5	16.9	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-9	土師器	瀬戸・美濃	33.3	5.5	16.9	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-10	土師器	瀬戸・美濃	(12.0)	(11.0)	8.7	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-11	土師器	瀬戸・美濃	37.0	—	12.1	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-12	土師器	瀬戸・美濃	(26.0)	(12.0)	15.3	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-13	土師器	瀬戸・美濃	(8.0)	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-14	土師器	〇	(12.5)	—	2.5	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-15	土師器	〇	(12.4)	—	2.8	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-16	土師器	〇	(12.4)	—	1.9	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-17	土師器	〇	(8.0)	—	2.0	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-18	土師器	〇	(11.0)	—	2.4	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-19	土師器	〇	(11.8)	—	(2.4)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-20	土師器	〇	9.4	—	(6.3)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-21	土師器	〇	(12.0)	5.0	4.2	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-22	土師器	〇	11.4	—	2.8	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-23	土師器	〇	(10.0)	—	2.9	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-24	土師器	〇	(12.2)	—	2.8	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-25	土師器	瀬戸・美濃	17.3	10.7	4.0	口口成形。押出高台。トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-26	土師器	瀬戸・美濃	27.9	16.2	4.9	口口成形。押出高台。トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
3549-27	土師器	瀬戸・美濃	10.6	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-28	土師器	〇	9.3	—	2.0	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-29	土師器	〇	9.3	—	2.3	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-30	土師器	〇	(9.4)	—	(7.2)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-31	土師器	瀬戸・美濃	(29.4)	—	(6.0)	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-32	土師器	瀬戸・美濃	(7.7)	—	(18.2)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-33	土師器	〇	(11.4)	—	2.8	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-34	土師器	〇	(12.4)	—	2.4	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-35	土師器	〇	(12.4)	—	3.3	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-36	土師器	〇	(12.4)	—	3.3	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-37	土師器	瀬戸・美濃	(15.2)	—	5.2	口口成形。押出高台。高台内トナリ縁。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-38	土師器	〇	(14.0)	—	(2.3)	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	C系1
3549-39	土師器	〇	6.8	—	2.7	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-40	土師器	〇	13.2	—	3.1	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-41	土師器	〇	11.8	—	2.1	手捏ね。口・内面ミナナ。外口面押入。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-42	土師器	伊万里	(6.3)	(4.4)	6.3	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-43	土師器	伊万里	26.5	13.0	8.0	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-44	土師器	伊万里	10.3	4.2	7.5	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-45	土師器	伊万里	(10.0)	4.3	6.9	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-46	土師器	伊万里	(7.1)	3.15	(3.0)	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-47	土師器	伊万里	(11.0)	4.5	(4.2)	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-48	土師器	伊万里	4.6	1.4	4.6	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-49	土師器	伊万里	19.0	12.0	4.8	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-50	土師器	伊万里	11.2	4.7	6.7	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-51	土師器	伊万里	11.2	3.0	2.4	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-52	土師器	伊万里	6.4	2.4	6.4	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-53	土師器	伊万里	13.0	(8.4)	8.2	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-54	土師器	伊万里	(11.0)	—	(13.3)	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-55	土師器	伊万里	12.8	—	3.0	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1
3549-56	土師器	伊万里	12.8	—	3.0	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	D系1

IV地区 屋敷地 4

図面番号	種 類	陶磁器・産地 土器・瓦・瓦葺	口縁	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・装飾	施装・装飾・その他	備 考
5201-1	土師器	瀬戸・美濃	11.4	4.8	6.9	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-1	丸瓶	伊万里	11.4	4.8	6.9	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-2	丸瓶	伊万里	23.2	11.0	7.9	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-3	土師器	伊万里	26.4	12.0	4.8	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-4	土師器	伊万里	11.2	4.7	6.7	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-5	土師器	瀬戸・美濃	6.2	3.0	2.4	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-6	土師器	伊万里	6.4	2.4	6.4	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-7	土師器	伊万里	13.0	(8.4)	8.2	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-8	土師器	伊万里	(11.0)	—	(13.3)	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-9	土師器	伊万里	12.8	—	3.0	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡
5202-10	土師器	伊万里	24.8	13.5	8.1	口口成形。押出高台。	黄褐色。見出し縁二重。	大塚遺跡

第4節 IV街区の土器・陶磁器

IV街区 屋敷地4

調査番号	群 種	発掘層・出土 土層記・付花	口径	底径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考	
5211-1	陶	伊万里	22.4	8.1	10.1	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(藤、外)蔓草草、雲(7)類形あり。	IV層	
5211-2	陶	中国	9.3	4.4	5.1	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。		
5211-3	古銅	唐津	13.8	5.6	7.5	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、金銀模。	III層	
5211-4	古銅	唐津	10.4	5.0	7.1	ロウロ成形、削出成形。	染付、金銀模(虎・虎口)、貫入。		
5211-5	土師器(土)	伊万里	9.3	3.1	5.8	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、金銀模(虎・虎口)無縁。	IV層	
5211-6	土	伊万里	8.7	7.0	13.0	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、山吹文。		
5211-7	土	伊万里	—	6.2	1.07	ロウロ成形、削出成形。	染付、白(雲、高台内)無縁、刷目。		
5211-8	小壺	伊万里	6.5	4.0	5.8	ロウロ成形、削出成形。	白(刷、刷)ノミによるナズ、高台内無縁。		
5211-9	面引	美濃	—	5.4	(6.8)	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	大塚Ⅴ～Ⅶ層	
5211-10	鉢	唐津	26.3	12.3	11.4	ロウロ成形、削出成形、見(砂)目跡。	染付、見(花、見)蓮華、長文(文、見)蓮華、雲(雲)以上無縁。	IV層	
5211-11	鉢	越前	13.4	14.8	28.2	ねじりて成形。	染付、見(花)あり。	Ⅱ-2層、刷(ヘラ)貫き染付、Ⅲ-2層	
5211-12	皿鉢	越前	—	—	(8.3)	ねじりて成形。ロウロ調整、刷目5条。	染付、見(花、見)蓮華。		
5211-13	水甕	越前	—	—	8.9	(8.3)	ねじりて成形、削出成形。	白(刷)無縁。	
5211-14	土師器皿	○	11.0	—	3.0	手ねね。口・内(内)ナズ、外(外)ねね。	—	C系3	
5211-15	土師器皿	○	11.6	—	2.4	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、外(外)ねね。染付痕。	染付痕。	D系3	
5211-16	土師器皿	○	11.6	—	2.8	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、外(外)ねね。染付痕。	染付痕。	D系2	
5211-17	土師器皿	○	10.8	6.5	1.6	手ねね。口・内(内)ナズ、外(外)ねね。	染付痕。	D系2	
5214-1	古銅皿	伊万里	10.2	5.0	5.6	原形ナズ、馬。	染付。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-2	土師器皿	越前	10.2	3.7	5.6	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、高台内無縁。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-3	土師器皿	越前	12.0	—	2.5	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、外(外)ねね。	染付、高台内無縁。	D系2	
5214-4	土師器皿	大井	22.2	10.8	4.9	ロウロ成形、削出成形。	染付、白(雲、高台内)無縁、刷目(刷、刷)。	D系2	
5214-5	土師器皿	越前	—	5.1	(9.3)	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-6	土師器皿	伊万里	5.6	—	(4.9)	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-7	土師器皿	伊万里	25.2	20.5	17.4	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-8	土師器皿	中国	25.6	13.0	4.8	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-9	土師器皿	伊万里	—	4.7	(4.0)	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-10	土師器皿	伊万里	8.6	—	3.3	手ねね、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-11	土師器皿	伊万里	9.2	—	2.2	手ねね。口・内(内)ナズ、外(外)ねね。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-12	土師器皿	伊万里	11.0	—	1.8	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-13	土師器皿	伊万里	9.0	5.7	3.2	手ねね、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-14	土師器皿	伊万里	13.0	4.9	3.1	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-15	土師器皿	伊万里	23.8	—	(4.7)	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-16	土師器皿	伊万里	10.0	4.2	3.1	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-17	土師器皿	伊万里	—	6.6	(13.0)	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-18	土師器皿	伊万里	26.2	—	(6.7)	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-19	土師器皿	伊万里	10.5	—	2.4	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-20	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.4	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-21	土師器皿	伊万里	9.0	3.5	5.0	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-22	土師器皿	伊万里	8.0	—	3.1	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-23	土師器皿	伊万里	17.0	—	6.0	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-24	土師器皿	伊万里	11.1	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-25	土師器皿	伊万里	10.7	—	2.2	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-26	土師器皿	伊万里	10.0	11.6	7.1	ねじりて成形。ロウロ調整、刷目5条。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-27	土師器皿	伊万里	5.3	—	8.8	ねじりて成形。ロウロ調整、刷目5条。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-28	土師器皿	中国	13.0	5.6	7.0	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-29	土師器皿	唐津	13.4	5.7	8.35	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-30	土師器皿	唐津	10.5	5.4	6.8	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-31	土師器皿	伊万里	11.2	3.4	7.1	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-32	土師器皿	伊万里	—	—	(6.5)	削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-33	土師器皿	伊万里	9.6	—	1.6	手ねね。口・内(内)ナズ、外(外)ねね。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-34	土師器皿	伊万里	10.8	—	1.7	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-35	土師器皿	伊万里	—	5.8	—	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-36	土師器皿	伊万里	10.6	6.0	2.0	ロウロ成形、削出成形、高台内(砂)痕。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-37	土師器皿	伊万里	14.0	—	(8.5)	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-38	土師器皿	伊万里	—	—	(6.4)	ねじりて成形。ロウロ調整、刷目5条。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-39	土師器皿	伊万里	30.2	11.8	11.0	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-40	土師器皿	伊万里	11.2	—	(4.5)	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-41	土師器皿	伊万里	4.0	3.1	3.2	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-42	土師器皿	伊万里	7.5	—	2.0	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-43	土師器皿	伊万里	7.0	—	3.1	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-44	土師器皿	伊万里	7.0	—	2.0	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-45	土師器皿	伊万里	7.4	—	2.0	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	Ⅲ層Ⅱ	
5214-46	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-47	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-48	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-49	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-50	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-51	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-52	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-53	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-54	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-55	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-56	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-57	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-58	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-59	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-60	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-61	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-62	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-63	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-64	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-65	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-66	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-67	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-68	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-69	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-70	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-71	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-72	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-73	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-74	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-75	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-76	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-77	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-78	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-79	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-80	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-81	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-82	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-83	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-84	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-85	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-86	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-87	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-88	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-89	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-90	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-91	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-92	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-93	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-94	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-95	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-96	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-97	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-98	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-99	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-100	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-101	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-102	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-103	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-104	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-105	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-106	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5214-107	土師器皿	伊万里	11.0	—	2.6	手ねね。口・内(内)ナズ、蓋縁、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	D系2	
5									

IV街区 屋敷地5

調査番号	群 種	発掘層・遺物 土層記・付花	口徑	底径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
5303-1	土師器	伊万里	15.4	5.5	6.45	ロウロ成形、削出成形、見(砂)目跡、外(外)ねね。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-1	土師器	伊万里	9.1	5.1	6.4	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-2	土師器	唐津	10.1	4.7	6.8	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-3	土師器	伊万里	7.1	—	1.8	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-4	土師器	伊万里	7.8	—	2.1	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-5	土師器	伊万里	9.9	—	3.4	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-6	土師器	伊万里	9.7	—	2.4	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5312-7	土師器	伊万里	9.5	—	1.7	手ねね。削出成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華、高台内(砂)痕。	IV層
5314-1	土師器	伊万里	(11.0)	4.0	3.6	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	IV層
5314-2	土師器	伊万里	(8.4)	5.0	6.3	ロウロ成形、削出成形、磨り目跡。	染付、見(花、見)蓮華。	IV層
5314-3	土師器	唐津	12.0	5.7	7.6	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	IV層
5314-4	土師器	唐津	38.0	—	(6.9)	ロウロ成形、削出成形。	染付、見(花、見)蓮華。	IV層
5314-5	土師器	伊万里	9.0	—	2.0	手ねね。口・内(内)ナズ、外(外)ねね。	染付、見(花、見)蓮華。	IV層

第1章 土器・陶磁器

IV地区 屋敷地 5

図面番号	種 類	陶磁器・土器 土器目・打文	口径 (cm)	高さ (cm)	成 形・装 飾	釉薬・装飾・その他	備 考
5314-6	土師器	○	9.8	-	2.1	手ねね、口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5314-7	土師器	○	9.5	-	2.4	手ねね、口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5314-8	土師器	×	10.5	-	1.8	手ねね、口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-1	折敷	中国	20.8	10.9	4.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-2	灰皿	中国	16.8	9.0	3.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-3	灰皿	中国	25.5	19.6	5.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-4	土師器	中国	11.8	1.8	2.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-5	片貝	信濃	10.6	5.9	6.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-6	灰皿	中国	14.0	18.2	13.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-7	土師器	中国	18.6	16.2	18.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-8	土師器	中国	16.8	16.5	19.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-9	土師器	中国	18.4	16.0	0.8	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-10	土師器	中国	13.6	5.4	1.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-11	土師器	中国	9.8	1.8	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-12	土師器	中国	11.2	-	2.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-13	土師器	中国	12.4	-	1.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-14	土師器	中国	12.8	5.1	5.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-15	土師器	中国	10.5	3.9	3.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-16	土師器	中国	9.5	-	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-17	土師器	中国	11.8	5.9	2.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-18	土師器	中国	8.2	3.0	(4.5)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-19	土師器	中国	10.6	-	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-20	土師器	中国	9.7	-	2.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-21	土師器	中国	10.8	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-22	土師器	中国	11.0	-	2.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-23	土師器	中国	10.2	5.2	6.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-24	土師器	中国	10.1	-	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-25	土師器	中国	10.1	-	2.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-26	土師器	中国	10.6	-	2.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-27	土師器	中国	10.9	-	2.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-28	土師器	中国	11.9	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-29	土師器	中国	11.6	-	2.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2
5401-30	土師器	中国	12.4	-	2.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系2

IV地区 屋敷地 6

図面番号	種 類	陶磁器・土器 土器目・打文	口径 (cm)	高さ (cm)	成 形・装 飾	釉薬・装飾・その他	備 考
5302-1	土師器	中国	16.6	17.0	17.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5304-1	土師器	中国	9.5	6.5	7.8	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5306-1	土師器	中国	8.2	17.2	24.8	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5306-2	土師器	中国	8.2	16.8	6.0	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-1	土師器	中国	12.2	4.2	4.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-2	土師器	中国	10.0	5.8	1.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-3	土師器	中国	10.8	4.2	2.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-4	土師器	中国	9.5	-	2.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-5	土師器	中国	9.5	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-6	土師器	中国	10.8	-	2.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-7	土師器	中国	14.4	-	(5.4)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-8	土師器	中国	4.5	-	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5318-9	土師器	中国	11.3	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-1	土師器	中国	7.3	3.8	5.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-2	土師器	中国	9.7	2.1	3.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-3	土師器	中国	10.0	4.1	4.9	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-4	土師器	中国	7.6	2.5	4.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-5	土師器	中国	9.8	5.0	6.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-6	土師器	中国	10.6	4.0	4.8	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-7	土師器	中国	10.2	-	(4.3)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-8	土師器	中国	9.0	3.8	4.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-9	土師器	中国	9.2	4.3	5.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-10	土師器	中国	10.7	4.0	3.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-11	土師器	中国	11.0	4.6	6.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-12	土師器	中国	10.3	4.5	6.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-13	土師器	中国	10.0	-	2.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-14	土師器	中国	10.5	8.7	(13.7)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-15	土師器	中国	27.2	-	(10.1)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-16	土師器	中国	11.2	-	1.8	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-17	土師器	中国	11.5	5.2	7.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-18	土師器	中国	15.0	-	-	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-19	土師器	中国	11.2	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-20	土師器	中国	13.5	8.1	2.9	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-21	土師器	中国	36.0	-	-	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-22	土師器	中国	32.5	-	-	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-23	土師器	中国	11.5	5.8	2.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-24	土師器	中国	13.0	4.4	3.7	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-25	土師器	中国	10.1	-	2.1	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-26	土師器	中国	11.2	-	2.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-27	土師器	中国	12.3	4.6	7.9	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-28	土師器	中国	6.4	3.9	2.2	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-29	土師器	中国	6.2	3.0	2.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-30	土師器	中国	12.5	4.9	2.5	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-31	土師器	中国	26.5	9.2	8.3	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-32	土師器	中国	10.8	-	2.4	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-33	土師器	中国	12.8	-	2.9	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-34	土師器	中国	15.0	-	3.6	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1
5408-35	土師器	中国	13.0	6.5	(17.3)	口口成。断面高。口・内面紅土ナリ、外無装飾。	灰褐色陶 C系1

第5節 V街区の土器・陶磁器

V街区は、屋敷地境溝や土坑より、17世紀から19世紀中頃までの陶磁器が出土した。肥前系の陶磁器が大半を占めるが、京・信楽系陶器や瀬戸・美濃焼、輸入陶磁器などを確認した。以下、代表的な遺構を中心に、屋敷地ごとに概要を述べる。

1 道路6 (第92図、第5表)

土坑5446(第92図) 道路6の中央部にある、17世紀初頭の土坑である。

唐津焼 鉢(5446-1)はロクロ成形後に高台を削り出す。高台から大きく逆ハの字状に開き、腰部でほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は欠損しており、器高は不明である。灰釉を施釉し、腰部以下は無釉である。5446-2は稷花皿である。ロクロ成形で、口縁部端部を變形させる。一部に鉄絵を施し、全体に灰釉を施釉する。

2 屋敷地V-1 (第92・93図、第5表)

土坑61025(第92図) 18世紀後半から19世紀中頃の遺物が中心である。

伊万里 染付小碗(61025-2)はロクロ成形である。体部はやや直立し、口縁部端部は端反状に開く。外面は素描で壺と渦を描き、見込は松竹梅の円形文を描く。段重(61025-3・4)は蓋と身二段が確認できる。いずれもロクロ成形で、蓋はつまみを貼付ける。染付で巻物を描き、赤、緑、金色の上絵付を施す。

瀬戸・美濃焼 皿(61025-7)はロクロ成形後に高台を削り出す。口縁部周辺に鉄絵で馬の目文を描く。高台以外に長石釉を施釉する。見込には5点のピン痕が残る。土瓶(61025-5)は、ロクロ成形後に把手と注口を貼付ける。腰部まで白釉を施し、染付で草花文を描く。部分的に緑釉を施釉し、内面は鉄絵を塗る。盤(61025-8)は瓦質で直径30cmを超える。ロクロ台で成形した後、ナデ調整で仕上げる。磁器では、端反碗(61025-1)と小皿がある。小皿(61025-6)は、型押し成形で草花文を表す。内面に染付を塗布する。

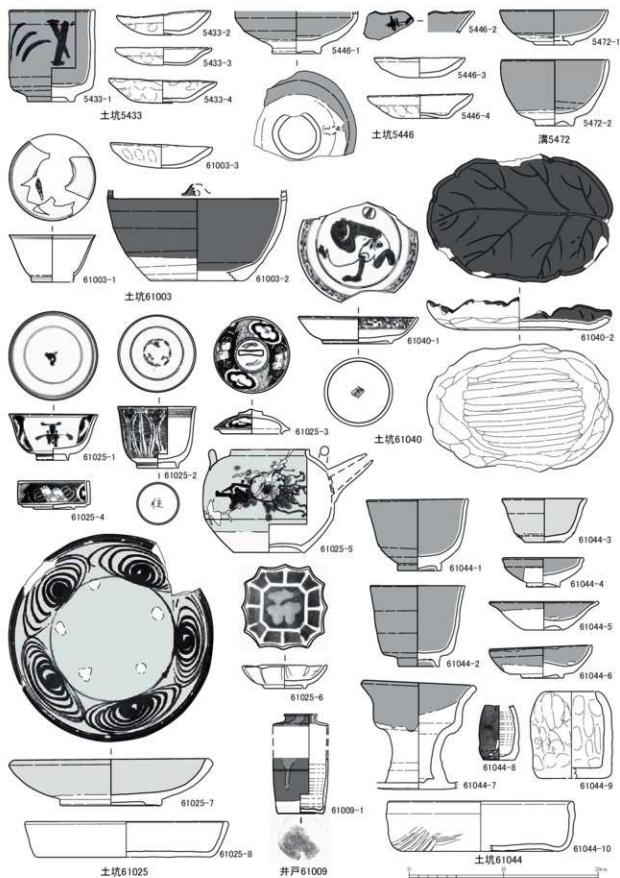
土坑61044(第92・93図) 一辺2mを超える遺構で、17世紀初頭から後葉までの遺物が確認できる。唐津・美濃・越前などが中心である。伊万里は含まない。

唐津焼 碗(61044-2)は、ロクロ成形で体部はやや直立する。全面に灰釉を施し、畳付は砂が熔着する。小皿(61044-4)は、ロクロ成形後に高台を削り出し、全体に厚みを持つ。高台から腰部は逆ハの字状に開き、口縁部は直立する。内面から腰部に灰釉を施釉する。皿(61044-6)はロクロ成形で高台を削り出す。高台は低く、底部に厚みがある。内面から腰部まで灰釉を施釉し、口縁部端部は鉄絵を施す。見込には、4点の胎土目積みの痕跡が確認できる。鉢(61044-11)はロクロ成形後に高台を削り出す。高台から斜め上方に立ち上がり、腰部から口縁部に向かいやや直立する。口縁部端部は端反状に成形する。側面に把手を2点貼付ける。鉄絵で簡略化した花を描く。全体に灰釉を施釉するが、腰部以下は無釉である。

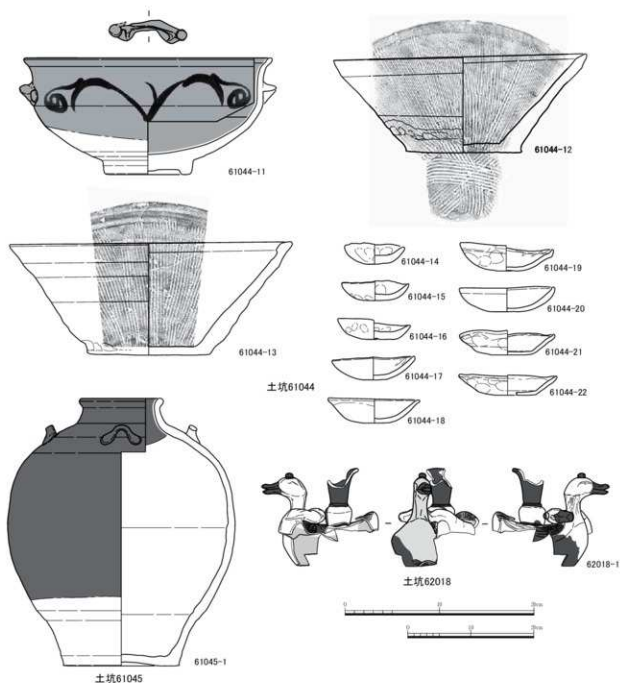
瀬戸・美濃焼 黄瀬戸小瓶(61044-8)は、ロクロ成形で、底部に回転糸切痕が確認できる。灰釉施釉後一部緑釉を点じる。内面は無釉である。小坏(61044-3)はロクロ成形後、浅く高台を削り出し、長石釉を全体に施釉する。壺(61044-9)は土師質である。手づくね後、指押で調整する。口縁部端部は内湾する。

京焼 茶道具の灰器(61044-10)がある。陶製である。器壁は薄手で、よく焼締まる。底部は平坦で、外面にはタタキの痕跡が残る。表面には焼成のムラが確認できる。

越前焼 播鉢は、ねじたて成形後回転調整で仕上げる。17世紀前半のもの(61044-12)は口縁部端部



第92図 土器・陶磁器 道路6・屋敷地V-1 (縮尺1/4、61025-8は1/6)



第93図 土器・陶磁器 屋敷地V-1 (縮尺1/4、62018-1は1/6)

を引き上げるタイプである。挿目は8条である。腰部には切り離しの際の縄目が付く。17世紀中葉のもの(61044-13)は口縁部に段が付く。10条の挿目を施す。花瓶(61044-7)はロクロ成形で高坏状である。口縁部周辺にのみ灰釉を流し掛ける。脚部は無釉で平底である。欠損しているため詳細は不明である。

土坑61045(第93図) 17世紀中頃から後葉の遺構である。図化したもの以外では、伊万里・唐津・越前焼等が確認できる。

瀬戸・美濃焼 61045-1は茶壺である。ロクロ成形後、耳を4ヵ所に貼付ける。口縁部から腰部まで褐釉を流し掛ける。胎土はやや粗い。

土坑62018(第98図) 17世紀後葉にあたる大火後の遺構である。

輸入陶磁器 交趾焼の水注(62018-1)を1点図化した。型成形で水鳥を表す。外面は緑釉と黄色釉の二彩である。内面は部分的に錆釉が流れる。外面は全面施釉するが、二次被熱を受けたと考える変色が確認できる。

3 屋敷地V-2 (第94～96図、第5表)

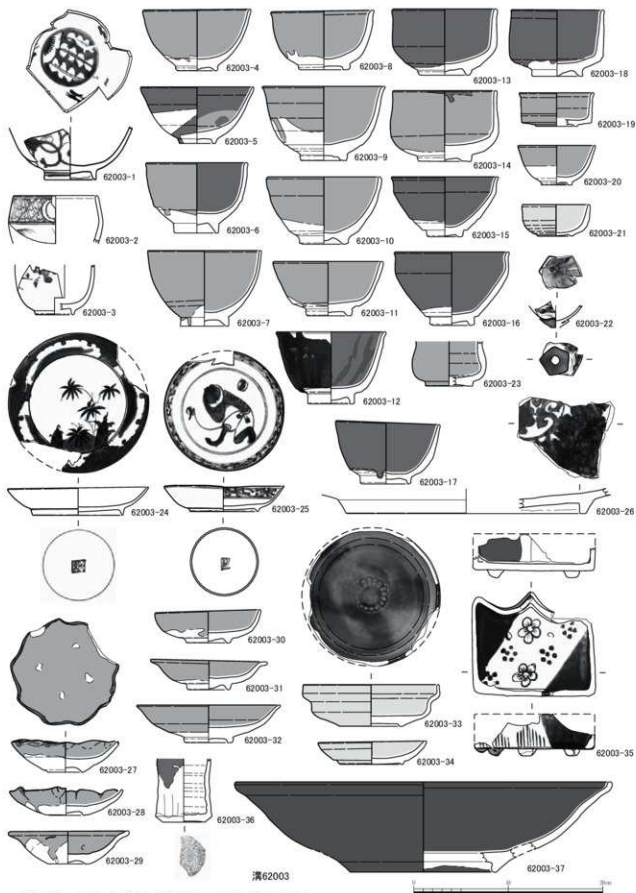
屋敷地境溝62003(第94～96図) 17世紀から19世紀までの遺物を含み、肥前系の陶磁器が中心である。17世紀の瀬戸・美濃焼なども確認できるが、輸入陶磁器に17世紀初期のものが多い。

伊万里 碗(62003-2)は、ロクロ成形で体部は外方に開くが、口縁部に向かいやや内弯気味に立ち上がる。染付で窓絵と四方櫓を描く。初期伊万里に分類できる。色絵碗(62003-3)は、口縁部は欠損しているが、白磁に緑、赤色等で草花文を描く。丸皿(62003-24)は、墨弾きの技法を用いて草花文を施す。見込は染付で竹と菊を描く。全面施釉するが畳付は無釉である。高台内にハリ支えの痕跡が残る。

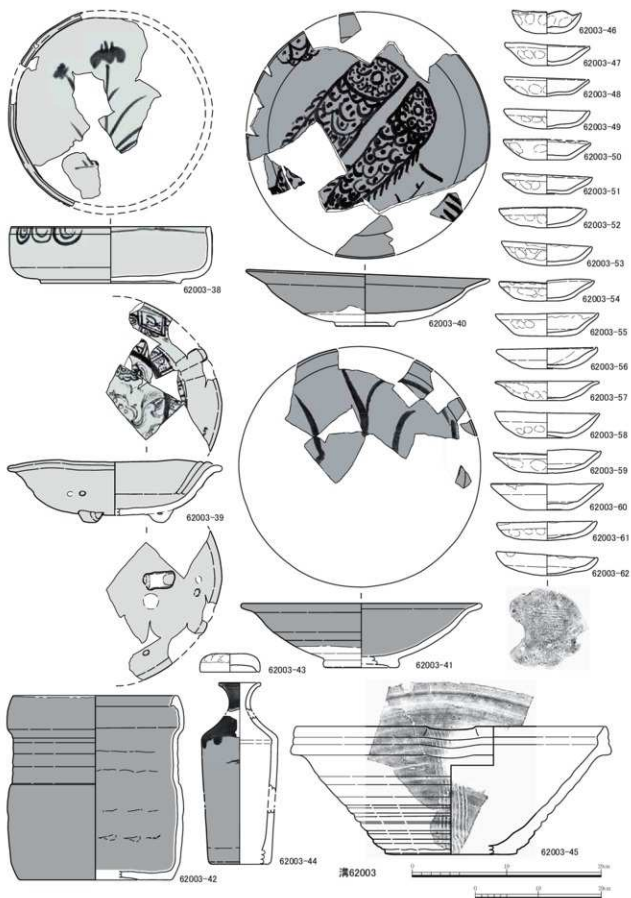
唐津焼 碗類は、全てロクロ成形後に高台を削り出す。丸碗(62003-5)は、内面に褐釉と灰釉を施釉する。他に、灰釉で高台内を兜巾状に成形するもの(62003-4)などがある。碗には、鉄釉と藁灰釉を施した朝鮮唐津(62003-6)や、飴釉で腰部は張り、口縁部にかけて直立するタイプ(62003-13)などがある。他に、高台以外に藁灰釉を施した斑唐津(62003-8)などがある。半筒碗(62003-18)は、腰部から口縁部に向かってほぼ直立する。高台以外に鉄釉を厚く施釉し、一部白濁した藁灰釉を施す。呉器手碗(62003-7)は、灰釉で高台部は無釉である。腰折碗(62003-14)は、ロクロ成形で腰部を膨らませ、体部から口縁部はほぼ直立する。削出高台で底部は厚い。底部以外に灰釉を施釉し、口縁部は鉄釉を施す。皿類には、青唐津丸皿(62003-30)がある。ロクロ成形で高台内は兜巾状に削り出す。灰釉を施し、腰部以下は無釉である。青味を帯びた釉薬の発色が特徴的である。端反皿(62003-29)は、碁笥底に成形し、長石釉を施釉する。腰部以下は無釉で、全体に二次被熱を受けた痕跡が残る。ひだ皿(62003-28)は、ロクロ成形後、工具で口縁部にひだを作る。見込には胎土目積みの痕跡が残る。また、口縁部端部に鉄釉を施すもの(62003-27)もある。小坏(62003-20)は、灰釉で腰部以下に鉄泥を施す。畳付に3点の砂目積み痕が残る。62003-40は皿である。ロクロ成形後に高台を削り出す。口縁部の直径約34cmに対し、高台径が8.2cmと小さい作りである。見込には鉄絵で双鱼文を描く。灰釉系の釉薬を底部以外に施釉する。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗は、鉄釉を施釉し、腰部以下無釉である。大窯期に分類できるもの(62003-15)と、連房式登窯期に分類できるもの(62003-16)がある。丸皿(62003-34)は長石釉を施釉する。高台内は無釉で、見込にピンの痕跡が残る。二次被熱を受け釉薬が変色する。口縁部端部にのみミスが付着する。大鉢(62003-38)はロクロ成形後に高台を削り出す。体部はほぼ直立し、盤に近い形状である。見込に鉄絵で菖蒲を描き、口縁部外面に三連の半円文を描く。全面に長石釉を施釉する。脚付大鉢(62003-39)は、ロクロ成形後に内面を花卉風に変形させる。内外面には、部分的に円形浮文状の装飾を貼り付ける。底部は、貼り付けた脚部が1ヵ所残存する。内面には、鉄絵で獅子、雲文、宝等を描く。長石釉は全体に厚く施釉し、装飾を覆うほどである。底部にはピン痕が残る。黄瀬戸鉢(62003-33)は、見込に菊花文を印花し、灰釉を施した後、タンパンを点じる。瓶(62003-23)は、ロクロ成形で平高台である。回転糸切痕を残す。灰釉を施すが底部は無釉である。大窯期に分類できる。織部の徳利(62003-44)は、ロクロ成形で、口縁部と肩部に緑釉を塗布する。体部に鉄絵を施すが、欠損のため文様は不明である。

越前焼 播鉢(62003-64・65)は、17世紀初頭から中頃のもので、ねじたて成形後回転調整で仕上げ



第94図 土器・陶磁器 屋敷地V-2① (縮尺1/4)



第95図 土器・陶磁器 屋敷地V-2② (縮尺1/4、62003-38~41は1/6)

る。水鉢(62003-63)は、ロクロ成形後体部を楕円形に変形させる。底部は不定方向の荒いナデ調整を行い、外面に鉄泥を塗布する。

備前焼 播鉢(62003-45)は、ロクロ成形で口縁部を厚く折り返し、一部片口状に成形する。播目は8条が確認できるが密に施さない。胎土はきめ細かく、焼き締まる。体部にはロクロ挽きの痕跡が残る。

輸入陶磁器 景德鎮窯の皿(62003-25)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。高台は低く、体部は腰部から斜め上方に立ち上がる。染付で四方禪と人獣文を描き、高台内は染付で描かれた渦福が確認できる。また、土坑61040からも同一の皿(61040-1)が出土した。漳州窯系の碗(62003-1)は、染付で見込に草花文を描き、外面は唐草文を描く。高台は砂が熔着する。大皿(62003-26)は、赤褐色の胎土で内外面に白化粧土を塗布した後、見込に染付で牡丹唐草文を描く。外面は透明釉のみ確認できる。高台内は無釉で、畳付には砂が均一に熔着する。瑠璃釉折縁大皿(62003-37)は、削出高台で、畳付からゆるやかに外反し、口縁部端部を折り返す。全体に白化粧土を施し、高台内以外に瑠璃釉を施軸する。畳付には砂が熔着する。漳州窯系の脚付坏(62003-22)は、染付で見込に俯瞰の花を線描し、外面は池と蓮の葉を描く。腰部に尊弁を模した胎土を貼付け、上絵付で緑色を塗布する。見込に灰が付着する。

4 屋敷地V-3～5(第96～99図、第5表)

土坑6301(第96図) 19世紀から近代の遺物を含む。長辺27m、短辺8mの大地坑である。19世紀前半の遺物が中心である。図化したものの以外では、土瓶や酒徳利、盃などが出土した。

伊万里 6301-1は皿である。ロクロ成形後、型打ちで楕円形を尖らせたアワビ状に成形する。見込は染付で貝や海藻を描く。内面の口縁部付近に蛸唐草文を部分的に描く。口縁部端部は口紅を施す。外面は体部に波文を描く。底部は角福を染付で描く。ハリ支えの痕跡を確認できる。

瀬戸・美濃焼 6301-2は向付である。ロクロ成形後、方形に変形させる。見込は鉄絵を施す。底部は脚を貼付ける。全体に長石釉を施軸する。

土坑6305(第96図) 17世紀初頭の遺物が中心であり、伊万里は混在しない。

唐津焼 碗(6305-3)は、高台を浅くハの字状に削り出す。飴釉を施軸するが、高台は無釉である。見込に使用痕を確認できる。小坏(6305-2)は高台内を兜巾状に削り出す。灰釉を全体に施軸し、高台部は無釉である。花瓶(6305-9)は肩部より下を欠く。ロクロ成形で口縁部は大きく開き、端部にやや厚みをもたせる。内外面に灰釉を施軸する。

瀬戸・美濃焼 香茶碗(6305-10)は、ロクロ成形後に体部全体を変形させて成形する。内外面に黒釉を施す。表は白抜きで文様を施すが、破片のため不鮮明である。

越前焼 播鉢(6305-11)は、ねじたて成形後回転調整で仕上げる。播目は8条で、口縁部端部は三角形状に成形する。

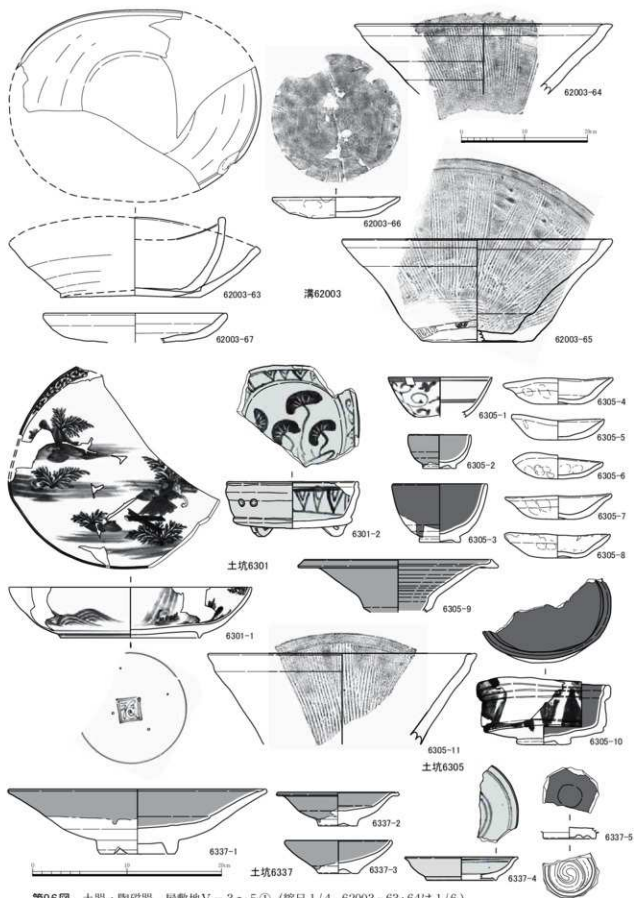
土坑6337(第96・97図) 17世紀前葉から後葉の遺構である。

伊万里 青磁鉢(6337-10)は、見込に彫り文様で花を表す。畳付以外に青磁釉を施軸し、断面に漆継ぎによる補修痕が確認できる。

唐津焼 碗(6337-7)は、鉄釉を施軸し、腰部以下無釉である。6337-8はロクロ成形の碗で、口縁部にくびれを作り、天目型に成形する。全体に灰釉を施し、高台内も施軸する。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(6337-6)は、鉄釉と柿釉を重ね掛け、腰部以下無釉である。

越前焼 播鉢(6337-9)は、ねじたて成形後回転調整を行う。口縁部の断面は三角形状で、播目は9条である。



第96図 土器・陶磁器 屋敷地V-3~5① (縮尺1/4, 62003-63・64は1/6)

土坑6353(第97図) 17世紀中頃から後葉の遺構である。白天目などの特徴的な遺物が多く、この時期の遺構の中では伊万里焼が少ない。

唐津焼 6353-3はロクロ成形で面取りをした高台を持つ。腰部は大きく膨らみ、口縁部に向かい直立する。灰釉の後葉灰釉を施し、畳付に胎土目の痕跡が残る。搦鉢(6353-8)は、ロクロ成形で口縁部を内側に折るように成形する。全体的に無釉で、口縁部のみ鉄泥を塗布する。焼成はやや甘く、もろい。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗は全て連房式登窯期のものである。6353-1は、鉄釉と柿釉を流し掛ける。6353-2と6353-4は、白化粧後灰釉を施した白天目茶碗である。ロクロ成形で、腰部以下は釉薬を削り取る。茶入(6353-6)はロクロ成形で肩部はやや丸みを持つ。口縁部内側まで鉄釉を施釉する。底部は欠損する。

越前焼 搦鉢(6353-7)は、ねじたてロクロ成形で口縁部端部の形状は三角形である。小片のため掘目の数は不明である。

土坑63139(第97図) 17世紀中頃から後葉の遺構である。唐津焼、瀬戸・美濃焼、備前焼などが確認できる。

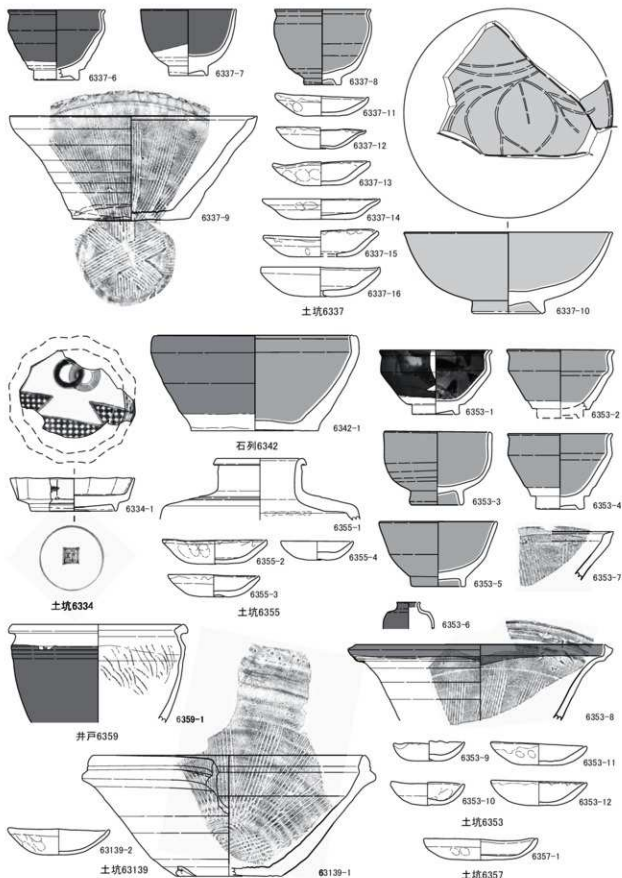
備前焼 搦鉢(63139-1)は、ロクロ成形で体部にやや丸みを持つ。口縁部は厚く折り返し、片口状に成形する。掘目は8条である。

土坑6369(第98・99図) 17世紀後葉の遺構である。伊万里は大型の製品も多く、雑器が少ない。越前焼の大甕類は、破片数から4個体以上を含むと考える。また、二次被熱を受けたものも確認できる。

伊万里 碗はロクロ成形後に高台を削り出す。染付で草花文や芭蕉、椿などを描く(6369-1・3・5)。底部がやや厚手の染付碗(6369-6・7)は、寿文や、草花文を描く。端反碗(6369-8)は白磁である。ロクロ成形で、底部から口縁部まで均一に薄く挽き上げる。外面に二次被熱を受けた痕跡がある。鉢類には、片口鉢(6369-9)がある。ロクロ成形後片口部を貼付ける。外面に染付で松を描く。脚付鉢(6369-22)は、口縁部端部は端反状で、底部は蛇ノ目高台である。腰部に三点の脚を貼付ける。外面は蔓唐草文を描き、見込は花を描く。筒形大鉢(6369-23)はロクロ成形後に高台を削り出す。体部に染付で山水を描き、透明釉を施釉する。口縁部と畳付は釉薬を剥ぎ取る。表面に二次被熱を受ける。折縁鉢(6369-11)は、白磁である。口縁部をやや外反させ、くびれを作る。畳付は無釉である。小壺(6369-10)はロクロ成形で高台のみ無釉である。染付で鋸歯文と葡萄を描く。6369-24は脚付蓋物である。蓋と身があり、蓋はロクロ成形で返りをもつ。全体に白化粧土を塗布し、外面は瑠璃釉を施す。身は、ロクロ成形で全体に白化粧土を塗布し、外面に瑠璃釉を施釉する。内面には透明釉を施釉するが、底部は無釉である。金泥による上絵付を施すが、二次被熱を受け変色する。

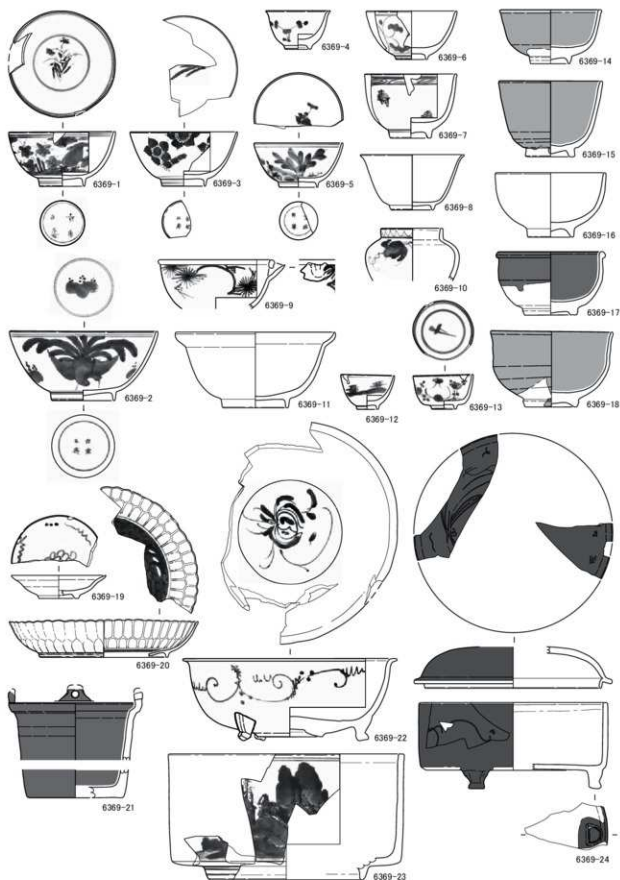
唐津焼 腰張碗(6369-14)がある。灰釉で口縁部端部に鉄釉を施す。腰部以下は無釉である。丸碗(6369-15)は、ロクロ成形で腰から口縁部まで直立気味に立ち上がる。削出高台で、高台内は兜巾状に成形する。灰釉を施釉するが、腰部以下は無釉である。罌器手碗(6369-16)は、ロクロ成形後に高台を削り出す。全面に施釉し、畳付のみ無釉である。6369-17は鉢である。ロクロ成形で口縁部を玉縁状に成形する。鉄釉を施釉する。ひさび(6369-21)は、ロクロ成形で把手部を貼付ける。鉄釉と薬灰釉を施す。

越前焼 大甕は、ねじたて成形である。鉄泥を刷毛で塗布するもの(6369-25)と、内外面に鉄泥を塗るもの(6369-26)がある。また、それぞれ窯印が確認できる。搦鉢(6369-27)は、ねじたて成形で、回転調整で仕上げる。口縁部の断面は三角形に成形する。掘目は口縁部直下から横方向に密集して引く。



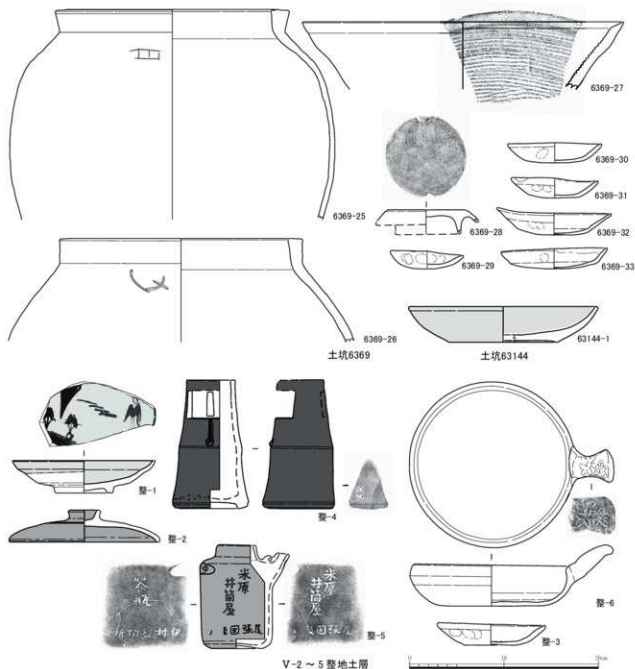
第97図 土器・陶磁器 屋敷地V-3～5② (縮尺1/4)





第98図 土器・陶磁器 屋敷地V-3~5③ (縮尺1/4)

土坑6369



第99図 土器・陶磁器 屋敷地V-3～5④ (縮尺1/4、6369-25・26は1/6)

輸入陶磁器 中国製品の坏(6369-13)がある。ロクロ成形後に高台を削り出し、腰部から口縁部にかけてほぼ直立する。染付で花を描いた後、透明釉を施釉するが、高台内は無釉である。他に、大皿(6369-20)がある。ロクロ成形後型押しで二重花卉を表す。全体に薄く、繊細な作りである。染付で渦文を施し、透明釉を全体に施釉するが、畳付のみ釉を剥ぎ取る。

その他 土師質土器(6369-28)は、ロクロ成形で底部には回転糸切痕が残る。焼成は甘い。

土坑63144(第99図) 17世紀初頭の遺構である。図化したものの他に、唐津焼の水指や大皿が確認できる。

瀬戸・美濃焼 63144-1は丸皿である。ロクロ成形後、底部は丁寧に削る。やや内面に削り込むが、平高台に近い形状である。全体に長石釉を施軸する。

4 屋敷地V-2～5整地土層(第99図、第5表)

整-4は、陶製の掛花生である。ロクロ成形後高台を基筒底に削る。竹を模し、外面は緑釉を施す。内面は透明釉を施軸する。背面は一部、金具を掛けるためのヘラ等による穿孔がある。また、体部には竹の芽や根などの丁寧な加飾が確認できる。瀬戸・美濃焼には、鉄絵に灰軸の皿(整-1)のほかに、行平鍋の蓋(整-2)がある。ロクロ成形後つまみを削り出す。灰軸を施軸するが、口縁部の接点のみ無軸である。表面には二次焼成の痕跡が確認できる。整-5は汽車土瓶である。近現代の磁器製品で型作りである。「伊村製陶所」「米原井筒屋」「尾張国口口」「茶瓶」の文字が確認できる。側面に吊り下げ用の穿孔があり、注口が付く。整-6は炮烙である。ロクロ成形で、取手を貼付け、印花を施す。

第5表 土器・陶磁器観察表 V街区

V街区 道路9・整地地1

図面番号	器種	陶磁器・産地 土器・磁器・産地	口径	通高 (cm)	高さ	成形・調整	釉薬・装飾・その他	備 考
6433-1	陶製瓶	瀬戸	9.6	4.9	3.6	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。内面英文(読取)。	I・V期
6433-2	土師器皿	×	9.6	-	2.5	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。	C(系)
6433-3	土師器皿	×	10.2	-	1.8	手捏ね。口・内削りナズ。削磨。外削り削入。	灰軸釉。	D(系)
6433-4	土師器皿	×	12.0	-	2.7	手捏ね。口・内削りナズ。削磨。外削り削入。	灰軸釉。	D(系)
6446-1	鉢	南津	5.3	-	-	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。腹部以下無軸。	I・II期
6446-2	鉢	南津	-	4.0	-	ロクロ成形。	灰軸釉。内面無軸。	I・V期
6446-3	土師器皿	○	8.7	-	2.4	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。	C(系)
6446-4	土師器皿	○	11.4	-	2.6	手捏ね。口・内削りナズ。削磨。外削り削入。	灰軸釉。	C(系)
6472-1	丸皿	南津	11.6	4.2	3.7	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。腹部以下無軸。	I・II期
6472-2	丸皿	南津	9.5	4.3	2.6	ロクロ成形、削出高台。削磨。	灰軸釉。腹部以下無軸。	I・II期
81003-1	小甕	中国	4.5	4.2	5.0	ロクロ成形、削出高台。	茶絵。外削り削入。	外削り削入。茶絵。
81003-2	土瓶	瀬戸・美濃	19.0	9.8	(9.7)	ロクロ成形。	鉄絵。腹部以下鉄絵ハズレ。灰軸釉。	灰軸釉。
81003-3	土師器皿	○	10.8	-	(10.7)	手捏ね。口・内削りナズ。	灰軸釉。	C(系)
81009-1	茶入	瀬戸・美濃	3.3	4.8	-	ロクロ成形。底削り削入。	茶絵。腹部以下鉄絵ハズレ。灰軸釉。	茶絵。腹部以下鉄絵ハズレ。灰軸釉。
81020-1	湯洗鉢	瀬戸	9.4	3.4	4.9	ロクロ成形、削出高台。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-2	小甕	伊万里	8.3	4.4	6.5	ロクロ成形、削出高台。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-3	段重甕	伊万里	8.0	2.6	2.6	ロクロ成形。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-4	段重	伊万里	7.6	4.3	3.0	ロクロ成形。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-5	土瓶	-	8.4	7.0	10.9	ロクロ成形後、注口・肥子接合。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-6	土瓶	瀬戸	9.0	4.5	2.5	底削り削入。削出高台。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-7	土瓶	瀬戸	21.6	10.8	5.0	ロクロ成形。較ノ目高台。内削り削入。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81025-8	土瓶	瀬戸・美濃	32.5	27.2	5.8	削磨。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81040-1	皿	中国	12.7	7.2	2.8	ロクロ成形、削出高台。底削り削入。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81040-2	皿(茶入)	中国	19.1	13.6	3.4	内削り削入。外削り削入。	茶絵。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-1	土瓶	南津	10.8	4.2	2.5	ロクロ成形、削出高台。削磨。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-2	土瓶	南津	10.0	4.3	8.7	ロクロ成形、削出高台。削磨。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-3	小甕	瀬戸・美濃	9.0	4.2	4.7	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-4	土瓶	南津	8.3	3.6	3.1	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-5	湯瓶	南津	11.6	4.0	3.0	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-6	湯瓶	南津	10.9	4.4	2.5	ロクロ成形、削出高台。削磨。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-7	湯瓶	南津	12.7	(18.4)	11.6	ロクロ成形。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-8	小甕	瀬戸・美濃	3.4	(5.8)	1.0	ロクロ成形。底削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-9	土師器皿	南津	5.3	6.5	0.9	外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-10	土師器皿	南津	19.8	18.4	(5.3)	底削り削入。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-11	土師器皿	南津	26.3	9.2	17.3	ロクロ成形、削出高台。削磨。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-12	湯瓶	南津	26.8	12.3	10.3	削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-13	湯瓶	南津	29.8	12.1	11.9	削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-14	土師器皿	南津	8.6	-	3.1	手捏ね。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-15	土師器皿	南津	7.1	-	3.1	手捏ね。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-16	土師器皿	南津	7.7	-	2.0	手捏ね。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-17	土師器皿	南津	11.1	-	2.4	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-18	土師器皿	南津	9.3	-	2.7	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-19	土師器皿	南津	9.9	-	2.7	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-20	土師器皿	南津	11.0	-	2.6	手捏ね。口・内削りナズ。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-21	土師器皿	南津	10.1	-	2.6	手捏ね。口・内削りナズ。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-22	土師器皿	南津	10.3	6.3	2.8	手捏ね。口・内削りナズ。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-23	土師器皿	南津	9.0	12.3	(5.3)	底削り削入。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-24	小甕	瀬戸・美濃	5.5	4.0	5.5	ロクロ成形、削出高台。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-25	湯瓶	瀬戸・美濃	12.2	9.0	5.0	ロクロ成形。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
81044-26	湯瓶	中国	12.6	8.8	3.6	削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
82018-1	鳥雲水注	中国	長 18.5	幅 13.9	高(15.3)	内削り削入。底削り削入。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。
整地地-1	水注	中国	(17.2)	(6.2)	7.05	ロクロ成形、削出高台。削磨。外削り削入。	灰軸釉。外削り削入。	V期。底削り削入。

第1章 土器・陶磁器

V南区 屋敷地境溝6003

図面番号	器 種	陶器名・産地 土器名・灯台	口径	底径	高さ	成形・調整	施文・装飾・その他	備 考
62003-1	瓶	中国	-	5.5	(5.6)	口口成形。削山高台。焼付模範。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-2	小瓶	伊万里	9.0	4.2	(5.1)	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-3	瓶	伊万里	-	4.2	(5.3)	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-4	丸瓶	唐津	11.8	4.2	6.5	口口成形。削山高台。染付。焼付模範。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-5	丸瓶	唐津	12.0	3.8	6.0	口口成形。削山高台。見上げ口縁。	内口流文。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-6	丸瓶	唐津	10.8	4.8	7.5	口口成形。削山高台。焼付模範。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-7	二瓶	唐津	12.0	5.1	8.0	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-8	丸瓶	唐津	11.0	5.3	6.3	口口成形。削山高台。焼付模範。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-9	丸瓶	唐津	13.0	4.8	7.9	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-10	丸瓶	唐津	12.2	5.2	7.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-11	丸瓶	唐津	11.7	4.8	5.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-12	丸瓶	唐津	11.6	4.9	7.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-13	丸瓶	唐津	11.2	5.2	7.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-14	丸瓶	唐津	11.0	5.6	8.0	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-15	丸瓶	唐津	11.3	3.8	6.4	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-16	丸瓶	唐津	12.0	5.6	7.7	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-17	丸瓶	唐津	10.8	4.7	6.5	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-18	丸瓶	唐津	9.8	3.4	7.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-19	小瓶	唐津	9.8	4.4	3.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-20	小瓶	唐津	6.2	3.3	4.2	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-21	小瓶	唐津	7.2	3.8	3.4	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-22	瓶	中国	-	(2.3)	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。	
62003-23	瓶	唐津	-	5.0	(4.7)	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-24	丸瓶	伊万里	14.9	9.5	3.0	口口成形。削山高台。高台内流文。ハタ文入。	染付。内口流文。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-25	瓶	中国	12.7	7.2	2.8	口口成形。削山高台。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-26	大瓶	中国	25.4	(2.7)	口口成形。削山高台。焼付模範。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。	
62003-27	二瓶	唐津	11.4	3.8	3.5	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-28	丸瓶	唐津	12.0	3.6	3.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-29	丸瓶	唐津	12.4	4.3	3.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-30	丸瓶	唐津	11.7	4.7	3.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-31	丸瓶	唐津	12.4	4.6	3.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-32	丸瓶	唐津	12.5	4.0	4.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-33	丸瓶	唐津	11.6	4.6	4.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-34	丸瓶	唐津	11.5	6.6	2.5	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-35	丸瓶	唐津	-	12.8	4.4	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-36	丸瓶	唐津	11.8	4.4	(6.7)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-37	二瓶	唐津	40.0	25.6	(9.8)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-38	大瓶	唐津	32.0	22.0	8.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-39	大瓶	唐津	30.2	8.0	8.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-40	大瓶	唐津	29.0	8.0	8.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-41	二瓶	唐津	38.5	10.2	9.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-42	二瓶	唐津	17.2	16.0	19.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-43	二瓶	唐津	6.4	-	2.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-44	二瓶	唐津	4.4	6.0	(1.9)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-45	二瓶	唐津	32.0	12.0	13.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-46	二瓶	唐津	2.2	2.3	2.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-47	二瓶	唐津	9.0	-	2.4	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-48	二瓶	唐津	9.0	-	2.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-49	二瓶	唐津	9.0	-	2.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-50	二瓶	唐津	9.0	-	2.2	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-51	二瓶	唐津	9.0	-	2.2	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-52	二瓶	唐津	9.0	-	2.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-53	二瓶	唐津	9.0	-	2.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-54	二瓶	唐津	9.0	-	2.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-55	二瓶	唐津	9.0	-	2.4	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-56	二瓶	唐津	9.0	-	2.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-57	二瓶	唐津	9.0	-	2.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-58	二瓶	唐津	9.0	-	2.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-59	二瓶	唐津	9.0	-	2.5	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-60	二瓶	唐津	9.0	-	2.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-61	二瓶	唐津	9.0	-	2.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-62	二瓶	唐津	9.0	-	2.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-63	二瓶	唐津	9.0	-	7.2	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-64	二瓶	唐津	41.0	-	10.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-65	二瓶	唐津	13.6	11.1	11.0	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-66	二瓶	唐津	13.6	-	2.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-67	二瓶	唐津	13.6	-	3.1	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
62003-68	二瓶	唐津	13.6	-	(6.8)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。

V南区 屋敷地境溝3～5

図面番号	器 種	陶器名/産地 土器名・灯台	口径	底径	高さ	成形・調整	施文・装飾・その他	備 考
6301-1	瓶	伊万里	長 25.7	5.4	5.4	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-2	二瓶	唐津	12.2	5.8	5.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-3	二瓶	唐津	11.0	5.3	5.3	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-4	二瓶	唐津	11.0	4.3	(4.3)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-5	二瓶	唐津	6.5	3.4	3.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-6	二瓶	唐津	10.1	4.2	6.7	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-7	二瓶	唐津	11.5	-	2.8	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-8	二瓶	唐津	9.6	-	(2.7)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-9	二瓶	唐津	9.6	-	2.7	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-10	二瓶	唐津	11.1	-	2.7	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-11	二瓶	唐津	11.0	-	2.7	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-12	二瓶	唐津	21.2	-	(5.8)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-13	二瓶	唐津	14.2	-	5.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6301-14	二瓶	唐津	28.8	-	(9.8)	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6334-1	多岐瓶	伊万里	13.1	9.0	3.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6332-1	二瓶	唐津	27.0	6.9	6.9	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。
6332-2	二瓶	唐津	12.6	4.0	3.6	口口成形。削山高台。染付。	染付。外口流文。口口流文。	伊万里。

第5節 V街区の土器・陶磁器

V街区 屋敷地3～5

図面番号	器 種	表裏面・文様 土師器・土花	口径	底径	高さ	成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
6337-3	丸瓶	南唐	11.0	4.0	3.5	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-4	丸瓶	南唐	12.0	4.0	3.4	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-5	陶の器台	南唐・赤土	-	3.4	(1.2)	ロウロ成。削出成。高台内一周。磨目跡。	灰緑。高台以下無釉。	Ⅰ期
6337-6	大目玉瓶	南唐・赤土	10.3	4.8	7.4	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-7	小瓶	南唐	10.0	4.0	7.0	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-8	大目玉瓶	南唐	12.7	3.8	8.0	ロウロ成。削出成。高台内一周。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-9	鉢	南唐	26.1	12.3	11.1	ねじり成。ロウロ成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-10	鉢	伊万里	21.6	7.2	8.6	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6337-11	土師器皿	○	9.2	-	2.4	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6337-12	土師器皿	○	9.2	-	2.3	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6337-13	土師器皿	○	10.4	-	2.6	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6337-14	土師器皿	○	12.4	-	(2.2)	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6337-15	土師器皿	○	12.2	-	3.9	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6337-16	土師器皿	-	(12.6)	-	(3.1)	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6342-1	鉢	南唐	21.4	13.4	19.1	ねじり成。	内・外(口)ナデ。外(口)削入。	Ⅰ期
6353-1	大目玉瓶	南唐・赤土	11.9	4.9	6.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-2	大目玉瓶	南唐・赤土	11.4	-	(6.5)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-3	大目玉瓶	南唐・赤土	11.4	5.4	7.4	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-4	大目玉瓶	南唐・赤土	11.1	5.2	8.0	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-5	大目玉瓶	南唐	12.6	5.8	6.9	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-6	大目玉瓶	南唐	2.4	-	(1.8)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-7	大目玉瓶	南唐	2.4	-	(1.8)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-8	大目玉瓶	南唐	28.0	-	(8.0)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6353-9	大目玉瓶	○	7.5	-	3.1	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-10	大目玉瓶	○	4.8	-	2.5	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-11	大目玉瓶	○	12.0	-	2.5	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-12	大目玉瓶	○	10.2	-	2.7	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-13	大目玉瓶	○	8.0	-	(6.5)	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-14	大目玉瓶	○	10.9	-	2.6	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-15	大目玉瓶	○	9.6	-	2.4	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-16	大目玉瓶	○	9.6	-	2.6	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-17	大目玉瓶	○	12.1	-	3.3	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6353-18	大目玉瓶	○	18.0	-	(10.4)	ロウロ。タテナデ。内(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-1	丸瓶	伊万里	11.3	4.8	5.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-2	丸瓶	伊万里	15.7	6.7	7.4	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-3	丸瓶	伊万里	10.2	4.6	5.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-4	小瓶	中国	6.8	2.6	4.1	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-5	丸瓶	伊万里	9.4	4.0	4.7	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-6	丸瓶	伊万里	9.4	3.2	5.1	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-7	丸瓶	伊万里	9.8	4.3	6.8	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-8	丸瓶	伊万里	11.0	2.2	5.9	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-9	丸瓶	伊万里	11.9	-	(5.2)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-10	小瓶	伊万里	6.6	-	(3.6)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-11	丸瓶	伊万里	16.8	6.8	8.0	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-12	小瓶	伊万里	5.7	2.2	3.7	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-13	小瓶	中国	6.4	2.6	3.7	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-14	丸瓶	南唐	10.4	4.1	5.7	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-15	丸瓶	南唐	10.7	5.1	6.0	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-16	丸瓶	南唐	11.4	4.6	6.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-17	丸瓶	南唐	11.0	5.5	6.7	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-18	丸瓶	南唐	13.8	5.4	8.1	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-19	小瓶	伊万里	10.0	4.2	5.5	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-20	丸瓶	中国	20.0	13.6	9.8	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-21	小瓶	南唐	14.0	9.8	-	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-22	丸瓶	伊万里	22.7	7.0	8.7	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-23	丸瓶	伊万里	25.0	16.6	13.3	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-24	丸瓶	伊万里	19.6	-	(10.4)	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-25	丸瓶	南唐	36.6	-	(33.2)	ねじり成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-26	丸瓶	南唐	38.6	-	(16.1)	ねじり成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-27	丸瓶	南唐	34.0	-	(12.1)	ねじり成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
6359-28	土師器皿	○	8.3	-	(2.5)	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-29	土師器皿	○	7.8	-	3.0	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-30	土師器皿	○	10.0	-	3.0	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-31	土師器皿	○	9.2	-	3.2	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-32	土師器皿	○	12.0	-	2.9	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
6359-33	土師器皿	○	11.2	-	3.2	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
63139-1	丸瓶	南唐	26.8	11.6	12.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63139-2	丸瓶	南唐	11.0	-	3.9	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
63144-1	丸瓶	南唐・赤土	20.0	11.6	3.8	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-1	丸瓶	南唐	14.6	4.4	4.8	ロウロ成。削出成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-2	丸瓶	南唐	15.1	4.0	3.4	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-3	丸瓶	南唐	16.0	3.4	3.4	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-4	丸瓶	南唐	11.3	3.4	3.4	手ねね。内・外(口)ナデ。外(口)削入。	褐色。口削入文。	Ⅰ期
63141-5	丸瓶	南唐	5.1	7.7	13.7	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-6	丸瓶	南唐	4.0	5.4	11.0	泥しより成。磨目跡。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期
63141-7	丸瓶	南唐	16.5	11.5	6.5	ロウロ成。削出成。	灰緑。磨目以下無釉。	Ⅰ期

第6節 三ノ丸地区の土器・陶磁器（第100図、第6表）

三ノ丸地区の遺構は、ピットや土坑が大半を占める。遺物の時期は、北庄城期が中心で、近世の遺物量は極端に少ない。以下、出土遺構および整地土層に分けて概要を述べる。

土坑811 瀬戸・美濃焼の皿(811-2)がある。ロクロ成形で底部は碁箱底に成形する。全体に鉄釉を施軸する。

土坑828 越前焼の播鉢(828-1)がある。ねじたて成形後ロクロで調整する。口縁部は強いナデでやや段が付く。底部外面には、切り離しの際に付いた縄目が残る。播目は10条が確認できるが、見込は摩滅し、長期間使用していたことが分かる。断面にススが付着しており、割れた状態で二次被熱を受けたと考える。また、口縁部が一部欠損する以外はほぼ完形である。詳細は遺構編に掲載した。

三ノ丸東石垣 三東-1は台子の蓋である。型成形で鳥を表す。胎土はきめ細かい。首から上が欠損しているため、種類は不明である。表面と断面に二次被熱を受けた痕跡がある。

三ノ丸南石垣 三南-1は片口播鉢である。ねじたて成形後回転調整を行う。調整後に口縁部を指押えで変形させ、片口状にする。焼成は甘く、素焼きに近い。15世紀に位置付ける。

三ノ丸枳形石垣下 三枳-1は、瀬戸の皿である。ロクロ成形後平高台を削り出す。口縁部端部は面取りし、底部には回転糸切痕が確認できる。全体に灰釉を施軸する。

土橋整地土 瀬戸・美濃焼の染付碗(土-1)がある。陶胎染付である。ロクロ成形後に高台を削り出し、印判による花文を施す。乗燭(土-2)はロクロ成形である。底部は平高台であり、回転糸切痕が確認できる。見込に芯出しを貼付け、鉄釉と錆釉を施軸する。底部は無釉である。また、底部に貫通しない孔が1ヵ所確認できるが、用途は不明である。

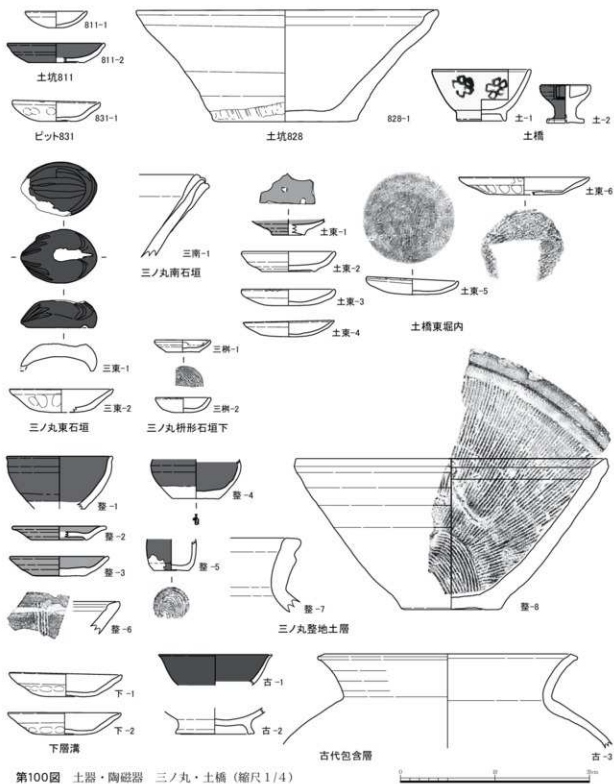
土橋東堀内 土東-2は瀬戸・美濃焼の皿である。ロクロ成形後に高台を削り出す。全体に白化粧土を施し、灰釉を全面に施軸する。高台内に輪トチンの痕跡が確認できる。輸入陶磁器には、李朝期の皿(土東-1)がある。残存状態が悪く、口径は不明である。ロクロ成形後に高台を削り出す。畳付はほとんど削らず、平高台に近い状態である。見込と高台に砂目積みの痕跡が残る。

整地土層 整地土層より出土した遺物について、以下、産地ごとに概要を述べる。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(整-1)は大窯期のもので、ロクロ成形である。鉄釉と錆釉を流し掛ける。腰部以下無釉で、高台は欠損する。整-2は灰釉の皿である。ロクロ成形である。白化粧土を塗布する。灰釉を施軸するが、見込は無釉で、外面は全て施軸する。また、高台内に輪トチンの痕跡が残る。整-3は皿である。灰釉を施軸するが、見込は無釉である。二次焼成を受けた痕跡が確認できる。整-4は茶入である。ロクロ成形で、腰部以下は丁寧なケズリ調整を行う。鉄釉を施軸するが腰部以下無釉で、内面の釉薬は縮れる。底部には回転糸切痕が残る。整-5は茶入である。上部は欠損するが、ロクロ成形である。底部は回転糸切痕が確認できる。鉄釉を施軸する。

越前焼 播鉢(整-8)は、ねじたて成形後に回転調整を行う。体部に切り離しの際の縄目が付く。鉄泥は塗布せず、口縁部端部の断面形状は三角形である。整-6は播鉢である。整-7は甕である。どちらも小片であるため、法量は不明である。

その他 中・近世以外の遺物では、緑釉陶器と須恵器がある。図化した古代の遺物は、全て包含層で確認した。古-1は緑釉陶器である。ロクロ成形後丁寧なナデで調整する。底部は欠損しており、全体の法量は不明である。須恵器には碗と甕がある。古-2は碗の底部である。上部は欠損している。古-3は甕の口縁部である。肩部以下は欠損している。



第6表 土器・陶磁器觀察表 三ノ丸
三ノ丸地區

調査番号	群 種	出露層・産地 土層位・打込	口徑 直径 (cm)	高さ	成 形・調整	施装・裝飾・その他	備 考		
831-1	土師質皿	×	6.6	2.1	1) 手板ね、口・内径ナナ、外口縁平縁。	底面凹。	見取ナ。		
831-2	土師質皿	×	10.4	2.8	2) 口口成縁、器口各1点、器底面。	底縁。	大塚市。		
831-3	土師質皿	×	9.35	1.2	1) 手板ね、口・外口縁ナナ、外口・外唇ナナ。	底面凹。	○産 見取縁、内一筋縁。 土層位不明。		
832-1	土師鉢	越前	32.1	15.3	11.8	ねたて成形、口口口成縁、内口縁10条。			
土師惣持鉢	1	陶	瀬戸・美濃	10.5	5.3	5.5	口口口成縁、器口出高。	透明陶、白化粧土、赤印文(文、赤)。 底縁。	透明青閑 底面凹。
土師惣持鉢	2	美濃	瀬戸・美濃	5.5	3.9	4.0	口口口成縁、器口口成縁、見取足し匙付。	底縁、鉢縁、底無縁、未貫通の孔。	底面凹。
土師惣持鉢	3	土師質	瀬戸・美濃?	15.8	5.7	7.9	内口成縁、器口。	底縁。	底面?被焼。
土師惣持鉢	4	土師質皿	×	(11.0)	1	(2.5)	手板ね、内・外口縁ナナ。	底面褐色、ゆがみあり。 口縁の口縁筋を挟みナナ。	○産 見取ナ。
土師惣持鉢	5	土師鉢	越前	-	1	(2.0)	ねたて成形、口口口成縁。	赤褐色土、片口状。	14世紀
土師惣持鉢	6	土師質	李朝	-	3.5	(1.7)	口口口成縁、器口出高、足、器口縁。	底縁。	底面ナ。
土師惣持鉢	7	土師質	瀬戸・美濃	10.0	5.6	2.1	口口口成縁、器口出高、高台内口ナナ縁。	底縁、全面施焼。	大塚市、スズ付。
土師惣持鉢	8	土師質皿	×	10.0	-	1.9	1) 手板ね、内・内径ナナナ、見取ナナ。外口縁ナナ。	底縁、全面施焼。	○産
土師惣持鉢	9	土師質	×	9.6	-	1.7	2) 手板ね、内・内径ナナナ、見取ナナ。外口縁ナナ。	褐色、縁き細まる。	○産
土師惣持鉢	10	土師質皿	×	9.8	-	1.7	1) 手板ね、内・内径ナナナ、見取ナナ。外口縁ナナ。	褐色、口縁。	○産、高台内口縁状のシヨ。
土師惣持鉢	11	土師質	×	13.8	-	2.0	2) 手板ね、内・内径ナナナ、見取ナナ。器口、外口縁ナナナ。底縁凹縁。	底縁、口縁。	○産
土師惣持鉢	12	土師質	×	8.0	-	1.8	口口口成縁、口口面取り、外口縁系器口平縁ナナ。	自然釉付着。	○産、内・外口縁状のシヨ。
土師惣持鉢	13	土師質皿	×	7.9	-	2.1	手板ね、器口ナナ。	底縁、口縁。	大塚市、スズ付。
土師惣持鉢	14	土師質	瀬戸・美濃	11.2	-	(5.6)	口口口成縁、器口ナナナ。	底縁、口縁、器口、外口縁ナナ。	大塚市。
土師惣持鉢	15	土師質	瀬戸・美濃	10.4	5.6	1.3	口口口成縁、器口出高、高台内口ナナ縁。	底縁、口縁、器口、外口縁ナナ。	大塚市。
土師惣持鉢	16	土師質	瀬戸・美濃	10.4	5.6	(4.2)	口口口成縁、器口口成縁、器口口ナナナ。	底縁、器口は下縁、内口縁屈折する。	○産
土師惣持鉢	17	土師質	瀬戸・美濃	-	3.7	(3.3)	器口縁。	底縁。	○産
土師惣持鉢	18	土師質	越前	-	10.0	8.0	ねたて成形。	底縁。	V-30
土師惣持鉢	19	土師質	越前	35.0	16.3	15.9	ねたて成形、口口口成縁、器口ナナナ。	底縁、口縁、器口、外口縁ナナ。 (底縁褐色(底面)) (口縁褐色(底面)) (口縁)	V-20、器口1厚縁。 ○産
土師惣持鉢	20	土師質	×	12.0	-	3.3	1) 手板ね、口・内径ナナナ、外口・外唇ナナ。	底縁、口縁、器口、外口縁ナナ。 (底縁褐色(底面)) (口縁)	V-30
古代白磁器	1	陶(緑釉青磁)	-	(12.0)	-	(3.3)	焼成土、陶材ナナ。	灰白色。胎土断面厚。0.1mm程度の 黒色、0.5-1.0mmの黒色の粉粒多 く含む。0.1mm程度の黒色の微砂少 く含む。	
古代白磁器	2	陶(黒釉青磁)	-	-	8.3	-	焼成土や砂。	内面、緑褐色。外面、緑褐色面。胎 土断面厚。1mm前後の砂粒(口・底 面)多量に含む。2mm前後の白色の小 石を含む。	
古代白磁器	3	陶(黒釉青磁)	-	(12.3)	-	(9.6)	焼成土や砂。		

第7節 北庄城期の土器・陶磁器（第101～104図、第7表）

近世の第Ⅱ・Ⅲ街区の下層に、柴田勝家築城から結城秀康入国までの北庄城期の道路や溝等が残っていた。しかし、福井城築城時に大きく改変されたこと、またこの時期は約30年間と短く、しかも領主が短期間に交代したこともあって、遺物量そのものはあまり多くない。

溝31126(第101図) 屋敷地Ⅰにある溝からの出土遺物で、瀬戸・美濃焼や朝鮮製碗、越前焼の壺・掃鉢や土師質皿等がある。

瀬戸・美濃焼 31126-1は艶のある鉄釉碗で、よく似た碗が遺構31109から出土している。31126-2・3は灰釉の折縁皿で、31126-3は内側に丸ノミによる削りを施し、見込は重ね焼きのため輪状に釉を剥ぎ取っている。31126-2は見込を無釉とする。いずれも大窯Ⅲ期の製品である。31126-4は灰釉丸皿で見込にカタバミの印花がある。

朝鮮製陶磁器 31126-5はロクロで無造作に引き上げた平碗で、灰釉系の乳白色の釉を施す。見込には重ね焼きのための砂目跡が残る。31126-6は蕎麦茶碗系の平碗である。この時期の大坂城の出土状況からすれば、白磁皿等の朝鮮製陶磁器がもう少し出土しても不思議ではないが、意外と少ない。

越前焼 31126-7は越前焼編年VI-1期に相当する播鉢で、口縁下に沈線が残る。焼きが甘く播目の下半分はすっかり摩滅している。31126-8はいわゆるお歯黒壺で、肩部にH字の窯印がある。器壁

が厚いのがこの時期の特徴である。

土師質土器 手捏ね成形後ナデを施さないB系(31126-9)、手捏ね成形後、親指を見込中央付近まで入れ人差し指で口縁部に回しナデを施すC系(31126-10・11)、見込端まで入れた親指と口縁部に当てた人差し指で挟むようにナデを施すD系(31126-12)がある。このためD系は見込と立ち上りの境界に圈線が出る。

土坑31117 (第101図) 屋敷地Ⅱにある重なり合った土坑から出土した遺物群で、越前焼播鉢・甕、瀬戸・美濃焼の天目茶碗や灰軸折縁皿等が出土した。

越前焼 31117-1は口縁部内側の沈線が消滅したⅥ-2期の段階の播鉢である。31117-2はまだ鉄泥が塗られていないⅥ-1の段階の小型の甕である。

瀬戸・美濃焼 31117-3は内剥ぎの灰軸折縁皿で、口縁にヘラ描きの沈線が3本巡る。31117-5は高さが低くなった段階の天目茶碗で、濃い釉と薄い釉を二重にかけする。大窯Ⅲ～Ⅳ期の所産であろう。

土坑31122 (第101図) 屋敷地Ⅱにある土坑から出土した遺物群で、瀬戸・美濃焼の天目茶碗、灰軸端反皿の他、軟質施軸陶器も出土している。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(31122-1)は器高が低くなった大窯Ⅱ～Ⅲ期のもので、灰軸端反皿(31122-2)も同時期のものである。

軟質施軸陶器 31122-3は細片で被災しているが、軟質施軸陶器であろう。胎土は細かく赤褐色を呈する。外は白土化粧した上に半透明釉を施し、内側は銅緑釉系の濃い緑色の釉が施されている。

溝32166・32167 (第102図) 屋敷地ⅡとⅢの境界溝で、天目茶碗、灰軸折縁皿、越前焼播鉢等がある。土師質皿B系がまとまって出土した。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(32167-3・4)は腰部に渋鉄を塗らなくなった大窯Ⅲ～Ⅳ期の所産であろう。折縁皿には鉄軸(32167-1)と灰軸(32167-2)のものがある。丸皿(32166-3)は見込が内ハゲであるが、32166-2は見込も施釉されており、大窯Ⅱ期のものか。

越前焼 播鉢(32167-5・6)は、口縁下の沈線が形骸化したⅥ-2期のものと見られる。

土師質土器 32167-8～13は手捏ね成形後ナデ調整を施さないB系の皿で、10個体以上まとまって出土した。これら一群には灯明皿としての使用痕が認められない。

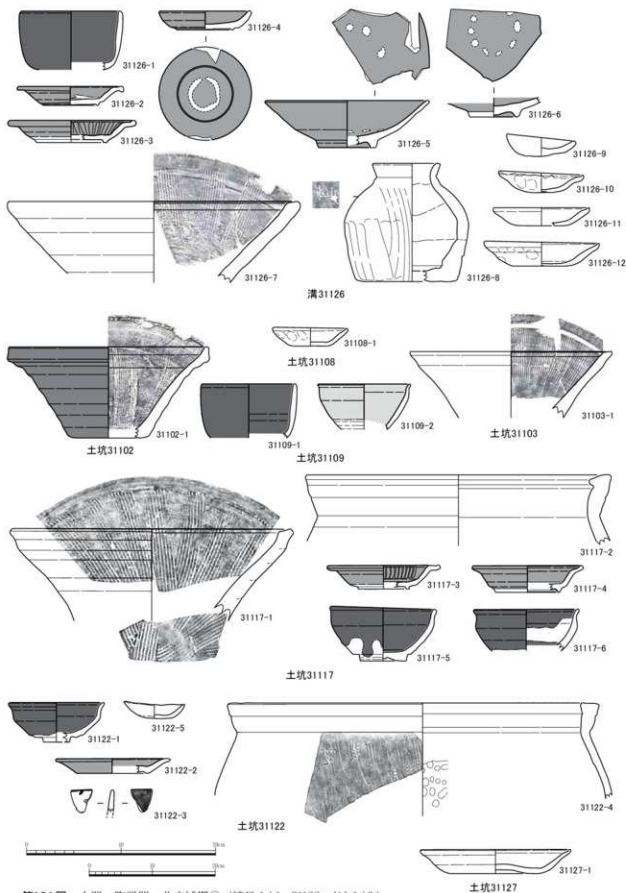
側溝3325 (第102・103図) 道路2の西側溝下層から出土した遺物群で、16世紀後葉のものが多い。

中国製品 3325-1は漳州窯系の染付碗で、疊付、高台内の釉を削り取っている。青磁桜花皿(3325-2)は、ロクロ成形後押してさらに口縁端部を削り取って桜花にしている。龍泉窯の製品である。

瀬戸・美濃焼 鉄軸碗(3325-4)は内側にロクロ目が残り、鉄軸の上から灰釉を二重にかけしている。3325-5はほぼ同時期の天目茶碗で、腰部から高台部にかけて渋鉄が施されている。3325-8は鉄軸小皿で口径が7.7cmしかない。灰軸丸皿(3325-10・11)は見込が内ハゲで、3325-9も被災して釉がかせているが、見込中央部が高くなっているところから、内ハゲの皿であろう。灰軸折縁皿(3325-6)は見込に菊花の印花がある。これら鉄軸碗・皿、灰軸皿類は大窯Ⅲ～Ⅳ期の製品であろう。

越前焼 播鉢(3325-12)は播目が口縁下の沈線で止まる16世紀中葉、播鉢(3325-13)は沈線が退化し播目が口縁端部まで伸びる16世紀後葉のものである。いずれも焼成が甘く、播目の下半分が摩擦している。壺(3325-14)は口縁部の返りの状況から16世紀後葉のものと考えられる。

土師質土器 3325-15～17はC系1、3325-18はD系1で、一乗谷朝倉氏遺跡の土師質皿の製作技術を受け継いでいる。3325-19は土師質皿の底を円く打ち欠き、中央に穴を開ける。その穴に芯を通



第101図 土器・陶磁器 北庄城期① (縮尺1/4, 31122-4は1/6)

して使用する灯明皿の芯押えである。

側溝34372 (第103図) 道路2の西側溝からの出土遺物群である。

中国製陶磁器 34372-1は染付端反皿で、高台部が無釉で見込も重ね焼きのため蛇ノ目状に釉を拭取っている。漳州窯の製品である。

瀬戸・美濃焼 天目茶碗(34372-2)は高さが低く、腰部以下が無釉の大窯Ⅲ期の製品である。34372-4は釉がかせているが、黄瀬戸の鉢であろう。他に鉄釉皿(34372-3)等が出土している。

越前焼 播鉢(34372-5)は、口縁下の沈線がほとんどなくなったⅥ-1期頃のもので、焼成は甘い。

信楽焼 34372-6は、直径が36cm程の掬鉢である。長石の粒を含む信楽特有の胎土で、内側に白く自然釉が降りかかっている。一度割れたのか漆継ぎの痕がある。他に備前焼壺も出土している。

側溝34371 (第103図) 道路2の東側溝からの出土遺物群である。

中国製陶磁器 34371-1は中国龍泉窯の青磁端反皿である。この手の皿は一乗谷朝倉氏遺跡でも古い時期に属する。

唐津焼 34371-7は、小さめではあるが厚くやや高い高台を有する碗で、高台内は兜巾状に削り込まれている。釉は鉄釉に灰釉を混ぜたものを高台部以外の全面に施し、その上に盛り上がった白い釉がかかっている。

瀬戸・美濃焼 灰釉折縁皿(34371-5)、灰釉丸皿(34371-2)はいずれも見込が内ハゲとなっている。天目茶碗(34371-4)は、褐色と黒色の釉を二重にけしている。鉄釉大皿(34371-6)は碁笥底で、釉は光沢のある鉄釉ではなく美濃の播鉢と同じ種類の渋鉄を施している。

越前焼 大甕(34371-8)は口縁部が肥厚せず、播鉢(34371-10)も播目の間隔が広いことから、これらは15世紀後葉の所産であろう。これに対し播鉢(34371-9)は、播目が口縁まで伸びてきていることから16世紀末の製品である。

土師質土器 B系(34371-12)、C系1(34371-13)、D系1(34371-14・15)は、形態や製作技法が一乗谷のB・C・Dによく似ている。

側溝34244 (第103図) 道路2の東側溝からの出土遺物群である。

中国製品 青磁端反皿(34244-1)は器壁が厚く、疊付も施釉されており、15世紀に遡る龍泉窯の製品である。

唐津焼 34244-2は直径8.8cm程の小型の鉄釉皿で、高台を含めた底部は無釉となっている。

瀬戸・美濃焼 34244-3は高台部が低い丸皿で大窯Ⅲ期の所産であろう。34244-4は鉄釉水注で、腰部以下は露胎、底は回転ヘラ切りである。茶入として使用されることもある。

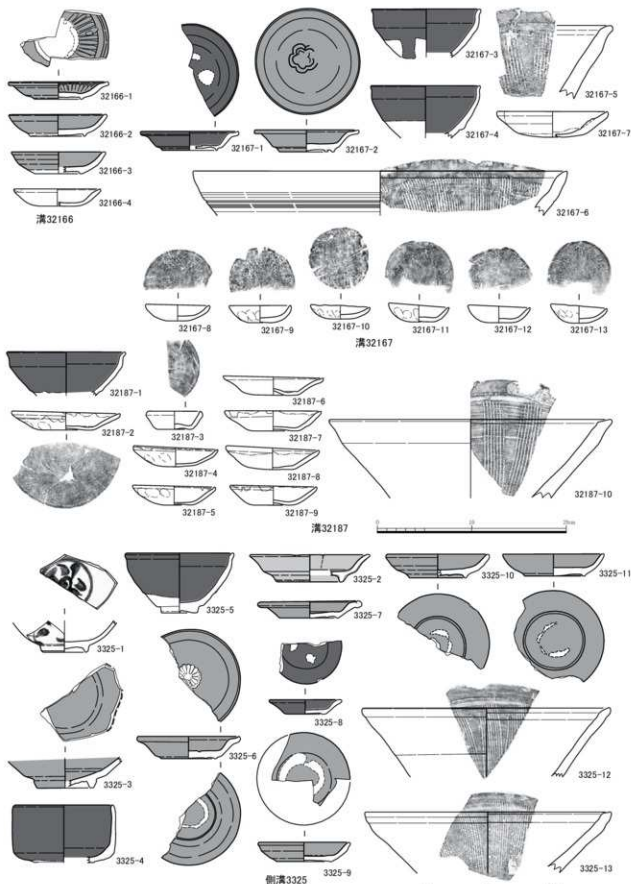
溝5355下層 (第104図) 道路4以北の東西溝からの出土遺物群である。上層は近世にも溝として使われている。

瀬戸・美濃焼 5355-1は高さが低くなり、腰部以下が露胎となった大窯Ⅲ期の天目茶碗である。釉色は暗灰茶色を呈する。

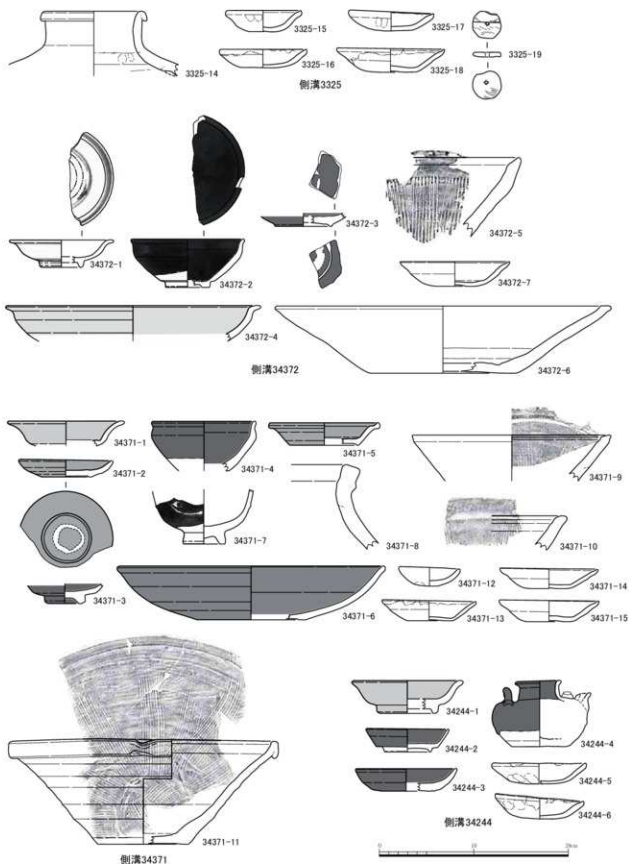
越前焼 5355-2はほぼ方形で、口縁下の沈線がしっかりと残るⅤ-1期の播鉢である。焼成が甘いため下半分の播目が摩滅している。

土師質皿 C系1(5355-3・4)とD系1(5355-5・6)があり、いずれも一乗谷朝倉氏遺跡の土師質皿の作成技術をほとんどそのまま受け継いでいる。

溝32179 (第104図) 朝倉氏滅亡以前の北庄期に遡る遺構で、出土遺物は瀬戸・美濃の鉄釉皿や灰



第102図 土器・陶磁器 北庄城期② (縮尺 1/4、3325-12・13は 1/6)



第103図 土器・陶磁器 北庄城期③ (縮尺1/4)

釉皿、土師質皿等である。

瀬戸・美濃焼 32179-2は碁笥底風の鉄釉皿、32179-3は見込にカタバミの印花がある灰釉皿で、いずれも大窯Ⅱ期の製品である。

土師質土器 32179-4・5は手握ねの土師質皿で、見込みに圈線があるD類である。青磁碗32179-1とともに一乗谷の後半の出土遺物と同じ組合せである。

小結 北庄城期の遺物について唐津と瀬戸・美濃焼・軟質施釉陶器について簡単にまとめてみよう。北庄城期は、天正3年(1575)の柴田勝家の北庄城築城から、慶長6年(1601)の結城秀康越前入国までの約26年間である。結城秀康の福井城(当時は北庄城)が一応の完成を見たのは慶長11年(1606)頃とされる。考古学的な観点からすれば、遺構のあり方や遺物出土状況によってはその頃までを北庄城期に入れてよいだろう。

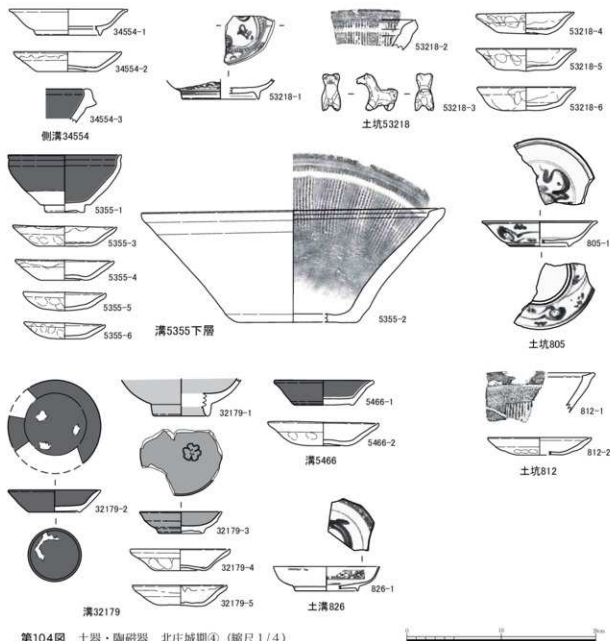
伊万里は生産が開始されたのが慶長年間の1610年頃と推定されているので、北庄城期の遺構からは出土していない。天正年間にあたる1580年代のある時期に生産が開始されたとされている唐津焼は、道路2の東側溝から1点(34371-7)出土した。この碗は17世紀初頭ごろに位置づけられよう。

瀬戸・美濃焼は大窯Ⅲ期～Ⅳ・Ⅴ期の天目茶碗や灰釉皿等が多く見られる。天目茶碗は腰部に鉄渋を塗ったものと露胎のものがあるが、前者のほうが多い。灰釉皿は見込を釉剥ぎした折縁皿が多く見られる。内側に丸ノミで縦に筋を入れた折縁皿もある。黄瀬戸大皿(34372-3)が道路2の西側溝から出土している。

京都産の軟質施釉陶器が屋敷地2の土坑から1点(31122-3)と、道路2の東側溝から2点出土している。前者は細片で器形はよく分からないが、外側は白土化粧痕がある。これは17世紀に下がる可能性がある。34371-3も底部片であり全体の器形は不明であるが、削出高台で畳付も含めて全体に濃く褐色の釉が施されている。34371-16は腰部にケズリが見られ、艶のある茶褐色の釉が施されている。後者2点の胎土はやや荒めで赤褐色を呈する。

唐津焼は、福井駅西口地下駐車場建設に伴う調査や国際交流会館建設に伴う調査では、北庄城期の遺構から出土していない。今回が初めてでそれも1点だけであり、非常に少ないといえる。この時期の堺や大坂では確認されていることから、北陸までは十分に流通していなかったと推定される。また瀬戸・美濃焼は隣国でもあり、中世から大量の瀬戸・美濃焼が越前に流入している。またⅣ・Ⅴ期と思える天目茶碗が出土していることや、17世紀前半の遺構からは志野や織部が一定量見られることから、志野が出土してもよいと考えられるが、志野も17世紀に下る1点しか見られない。志野や織部には、京都の三条通り界隈の「せと物や町」の商人が深く関わっていたと考えられている。とすれば同じ瀬戸・美濃焼であっても流行の最先端を行く志野・織部と、これまでの天目茶碗や灰釉皿とは流通経路が違ったことが示唆される。

こうした中、京都産の軟質施釉陶器碗が出土していることは注目される。白土化粧のあるものは17世紀に下る可能性もあるが、他の2点は確実に北庄城期の遺構から出土している。軟質施釉陶器碗は茶の湯と深く結び付いた焼物であり、茶の湯の先進地のひとつである大坂でも豊臣前期(16世紀末)から出現している。とすれば北庄城期の遺構から出土したことは、ほぼ同時期となり地方の出土例としては非常に早いものと言えよう。



第104図 土器・陶磁器 北庄城期④ (縮尺1/4)

参考文献

- 大橋康二 西田宏子 1988 『古伊万里』 平凡社
 永田信一 今井静夫 林 順一 1990 『洛中出土の桃山陶器』 土岐市美濃陶磁資料館
 大橋康二 1994 『古伊万里の文様』 理工学研
 大橋康二 2000 『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
 大橋康二 2001 『肥前陶磁』 ニューサイエンス社
 畑中英二 2003 『信楽焼の考古学的研究』 サンライズ出版
 青木 修ほか 2003 『江戸時代的美濃窯』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
 岡本直久ほか 2004 『江戸時代の瀬戸・美濃窯』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
 土岐市美濃陶磁歴史館 2005 『織部様式の成立と展開』
 愛知県史編纂委員会 2007 『愛知県史別冊窯業2中世・近世瀬戸系』
 木村孝一郎 2011 「越前焼の編年の研究と生産地の動向」 『第10回山陰中世土器検討会資料集』 山陰中世土器検討会編集
 岡 佳子 2011 『近世京焼の研究』 思文閣出版

第7節 北庄城期の土器・陶磁器

北庄城期 屋敷地境溝34372

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
34372-1	小皿	中国	11.0	4.2	2.9	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、口内面、高台部無縁。	大塚西側
34372-2	大皿・茶碗	瀬戸・京焼	12.0	4.6	3.1	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁、裾部下に無縁。	大塚西側
34372-3	皿	瀬戸・京焼	—	5.0	(1.4)	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34372-4	鉢	瀬戸・京焼	27.0	—	(3.8)	ロウロ成形。	青磁・黒釉。	大塚西側
34372-5	鉢	瀬戸・京焼	—	—	—	ロウロ成形・削出高台。	上野、緑釉。	大塚西側
34372-6	茶碗	京焼	—	—	(8.4)	ロウロ成形・削出高台、見附ノ目線ハ平。	—	大塚西側
34372-6	茶碗	京焼	35.6	15.6	7.1	ねじりて成形。	—	大塚西側、裾部下に無縁。
34372-7	土師皿	○	11.6	—	(2.7)	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色、口内面。	D系

北庄城期 屋敷地境溝34371・34244

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
34371-1	碗・茶碗	中国	13.4	—	(9.7)	ロウロ成形。	青磁。	大塚西側
34371-2	大皿	瀬戸・京焼	10.0	5.2	1.9	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、見附ハ平。	大塚西側
34371-3	茶碗	京焼	—	3.4	(5.1)	ロウロ成形・削出高台、見附ノ目線ハ平。	赤褐色。	大塚西側
34371-4	大皿・茶碗	瀬戸・京焼	10.8	—	(4.8)	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34371-5	茶碗	瀬戸・京焼	11.8	7.2	2.4	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、見附ハ平。	大塚西側
34371-6	大鉢	瀬戸・京焼	28.4	11.4	5.7	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	赤褐色(全面)。	大塚西側、裾部下に無縁。
34371-7	茶碗	京焼	—	—	(4.0)	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	—	大塚西側
34371-8	茶碗	京焼	—	—	(7.8)	ねじりて成形、ナツ・ケツナリ。	—	V-1期
34371-9	茶碗	京焼	21.0	—	(4.9)	ねじりて成形、裾部下に無縁。	—	V-2期
34371-10	茶碗	京焼	—	—	(3.6)	ねじりて成形。	—	V-3期
34371-11	片口茶碗	瀬戸・京焼	28.6	9.5	11.8	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34371-12	土師皿	×	6.5	—	2.1	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
34371-13	土師皿	×	10.0	—	2.2	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色(全面)。	C系
34371-14	土師皿	×	10.3	—	2.3	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色(全面)。	C系
34371-15	土師皿	×	10.6	—	2.3	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色(全面)。	D系
34371-16	土師皿	×	11.8	—	3.5	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34371-17	大皿	瀬戸・京焼	8.8	4.9	2.5	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34371-18	大皿	瀬戸・京焼	10.7	5.3	2.4	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34371-19	大皿	瀬戸・京焼	4.5	3.8	6.9	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁、裾部下に無縁。	大塚西側
34371-20	大皿	京焼	16.0	—	2.7	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
34371-21	大皿	京焼	9.4	—	2.7	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系

北庄城期 屋敷地5 道路3

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
34371-22	大皿	瀬戸・京焼	10.0	5.6	2.2	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付。	大塚西側
34371-23	大皿	瀬戸・京焼	11.2	4.4	5.1	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、裾部下に無縁。	大塚西側

北庄城期 道路5以北

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
5355-1	木口茶碗	瀬戸・京焼	12.0	4.2	6.1	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁、裾部下に無縁。	大塚西側
5355-2	茶碗	京焼	31.7	—	12.1	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	V-1期、裾部下に無縁。
5355-3	土師皿	○	11.9	—	2.2	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
5355-4	土師皿	○	10.4	—	2.2	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
5355-5	土師皿	×	8.8	—	2.0	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	C系
5355-6	土師皿	×	8.6	—	1.8	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	C系
5466-1	皿	瀬戸・京焼	10.6	6.2	2.6	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	D系
5466-2	土師皿	○	12.0	—	2.5	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
53218-1	皿	中国	—	8.0	(2.2)	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、外ノ縁部、見ノ字文。	一乗谷で ちいさいイデ。
53218-2	茶碗	京焼	—	—	—	ねじりて成形、ロウロ調整。	—	V-3期
53218-3	土師皿・大	京焼	10.4	—	3.9	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
53218-4	土師皿	○	10.4	—	2.4	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
53218-5	土師皿	○	10.6	—	2.4	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
53218-6	土師皿	○	10.4	—	2.5	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系

北庄期

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
32179-1	大皿	中国	—	—	(4.0)	ロウロ成形、削出高台。	青磁。	大塚西側
32179-2	碗・茶碗	瀬戸・京焼	9.6	5.1	2.3	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
32179-3	碗・茶碗	瀬戸・京焼	8.6	4.5	2.3	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
32179-4	土師皿	○	10.3	5.3	2.3	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
32179-5	土師皿	○	9.9	4.9	2.1	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
34556-1	碗・茶碗	瀬戸・京焼	10.2	6.8	2.3	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34556-2	大皿	瀬戸・京焼	7.9	4.1	2.3	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34556-3	大皿	京焼	10.6	6.2	2.6	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	青磁。	大塚西側
34556-4	土師皿	○	12	—	2.5	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系

北庄城期 三ノ丸地区

調査番号	経 緯	瓦割部・遺物 土層部・付着	測量 (cm)			成 形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
			口徑	底径	高さ			
805-1	皿	中国	12.3	6.2	2.7	ロウロ成形、削出高台。	染付、外ノ縁部、内ノ玉取部ナリ。	大塚西側
812-1	茶碗	京焼	—	—	(4.2)	ねじりて成形、ロウロ調整、ナデ。	—	V-1期
812-2	土師皿	×	(11.0)	—	1.9	子取ね、口・内ノ縁ハ平ナリ。裾部、外ノ指入ス。	赤褐色。	D系
828-1	皿	中国	11.25	6.7	2.6	ロウロ成形、削出高台、見附ノ目線ハ平。	染付、外ノ縁部、内ノ玉取部ナリ。	大塚西側

第8節 土師質皿

大量に出土した土師質皿について簡単なまとめをする。

福井城下から出土した土師質皿は、手捏ねのうち一乗谷朝倉氏遺跡出土の土師質皿の技法を受け継ぐB系・C系・D系と、一乗谷朝倉氏遺跡には見られない立ち上りが低く見込が広いK系、内型成形技法によるG系、G系の形を似せた手捏ねによるH系、口縁成形によるR系がある。

1 分類と各系の量的動向（第105図、第8表）

B系は手捏ねで皿状にしたもので、基本的にナデなどの調整は行わない。したがって形態的には不整形で手捏ね時の指痕などがそのまま残る。

C系は一乗谷朝倉氏遺跡出土の土師質皿C類の技法を引き継ぐもので、手捏ねで見込中心部まで親指を入れ、口縁部外側に曲げた人差指とで挟むように回しナデする。C系1は親指が見込中心部近くまで入れているが、だんだん親指を見込中心部まで入れなくなり、C系2では見込端までしか入れてないものもあるが、その際D系のように見込と立ち上りの境に圈線を入れようとする意識はない。広くなった見込に横ナデが見られるものもある。形態としては、その製作技法から口縁が外反し、底部が丸いのが特徴である。

D系も一乗谷朝倉氏遺跡出土の土師質皿D類の技法を引き継ぐもので、手捏ねで、見込を残して立ち上り部を内側に親指、外側に曲げた人差指とで挟んでナデ調整を施す。その際、見込と立ち上り部の境に意識的に圈線を入れる。平らな見込に横ナデを施すものもあり、形態的にはC系と比較して底部が平らである。D系2は立ち上り部と底の境の圈線が不明瞭なものと、圈線は明瞭なままで、やや器高が低く口縁部が大きく外反する2種類が見られる。D系3の場合、D系の圈線が不明瞭になり、形も崩れてきてC系3と見分けが付きにくいものも出てくる。

K系は一乗谷朝倉氏遺跡には見られなかったタイプである。手捏ねで、口縁部の内と外を内側に折り曲げるように強く挟みナデする。見込には広く横ナデ痕が見られる。出土量は少ない。

G系は内型に粘土を押し付けて成形し、口縁部を挟みナデ、見込を横ナデする。また、底部に板目痕の付くものが多い。H系はG系に似せて手捏ねしたもので、口縁部と見込に同様のナデを施す。

各型式の時期別の量的動向については、B系は16世紀末から18世紀中頃までであるが、18世紀に入ると減少し、18世紀後半以降はほとんど見られなくなる。C・D系1は17世紀中葉までは土師質皿の2/3近くを占めるが、その後減少し18世紀中葉には見られなくなる。C・D系2は16世紀末からあり、17世紀中葉以降増加して、17世紀後半～18世紀中葉には土師質皿の2/3近くを占める。その後減少するが幕末までのころ。C・D系3は17世紀前葉に出現して、17世紀後半～18世紀前半が最も多く、その後はC・D系2と似た動向をたどる。K系は量が少ないが17世紀前葉から18世紀中頃に多く、18世紀後半には見られなくなる。G系は17世紀後葉～18世紀前葉に出現し、18世紀後半にはC・D系にかわって土師質皿の主体を占める。H系は、量は少ないがG系と同じ動向をたどる。R系は数が少なく時期的な変動は不明である。

2 土師質皿の口径と用途（第9表）

B系の口径は2寸から2寸8分まで分布し、2寸1分と2寸4分～5分にピークがある。C系1は2寸5分から4寸まで分布し、3寸～3寸3分にピークがある。C系2は2寸7分～4寸まで分布し、3寸～3寸4分にピークがあるが、3寸6分にも小ピークがある。C系3は3寸～4寸まで分布する。3寸2分と3寸5分3寸8分にピークが見られるが、C系3は形が崩れてきているところから3寸2分～8分までをひとつのピ

ークと捉えることも可能であろう。D系1は3寸から5寸まであり、3寸3分、3寸5分、3寸7分、3寸9分と1寸おきに小ピークが見られる。D系2、D系3もほぼ同じような傾向がある。G系は内型成形という製法の制約から3寸3分と4寸と3寸8分～4寸に集中する。2寸9分のサイズも少数ではあるが作られているようである。

これは焼成時に縮むことを考慮すると、3寸、3寸5分、4寸用の型があったと推定される。なおC系はC系1からC系2、C系3と少しずつ大きくなっていく傾向が見られるが、D系についてはそうした傾向はC系ほど顕著ではない。H系、K系、R系については、数が少ないため有意な傾向を見出すことは出来ない。

灯芯油痕があって灯明皿として使用された割合は、B系－30.3%、C系1－60.7%、C系3－85.6%、D系1－62.0%、D系2－78.8%、D系3－77.3%、G系－68.4%、H系－93.3%、K系－70.0%、R系－70.0%であった。なお、灯芯痕の付き方は口縁全周に残っているものから一部分にだけ残るものまである。今回の分析では完形品だけを調べたわけではないので、灯芯痕が残る割合はもう少し高くなる可能性がある。C系とG系では最も大きい4寸まで、灯明皿として使用された痕跡を残すものがある。D系の場合4寸5分まではその痕跡があるが、5寸以上はその痕跡を持つ皿はない。なお、灯芯痕を持たない土師質皿の用途については、一乗谷では廃棄の状況から儀式や宴の酒盃としての用途が想定されているが、福井城下では現在のところ判断する材料を持たない。

第8表 土師質皿の各系出現時期

	B	C1+D1	C2+D2	C3+D3	K	G	H	R	備考
16C末～17C初	7	34	10					1	
17C初	6	40	10	1					
17C初～前	1	15	5	1					
17C前～中	11	18	10	4	2				
17C前～後	2	10	19	8				1	
17C中～後	3	4	17	11	4	1			
17C後	7	4	29	12	5				
17C後～18C前	6	6	42	22	1	2	2	1	
17C後～18C中	3	1	22	13	5	3	1	1	
18C中～後			11	13		5	1		
18C後～19C前			8	7		16	4		
19C前～中	1		6	1		16	2		

第9表 土師質皿各系別口径

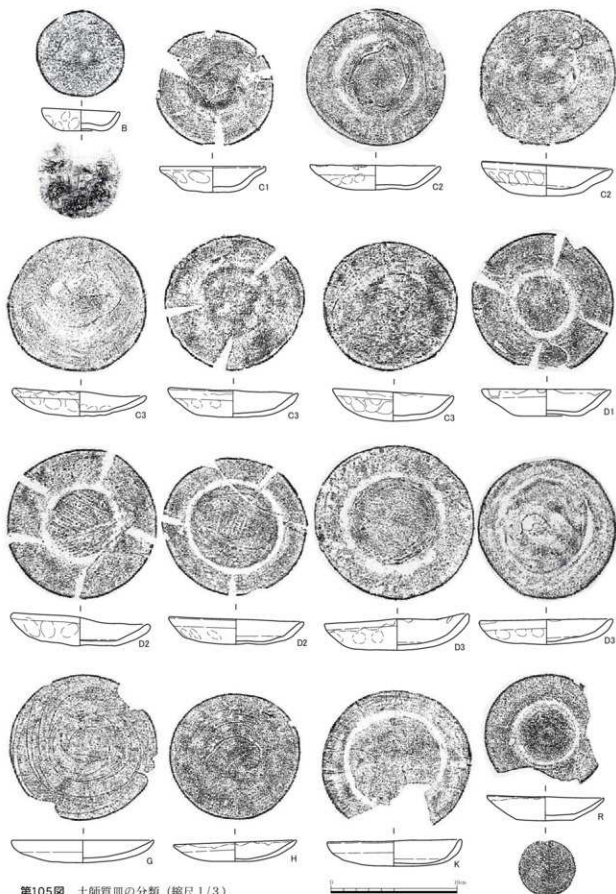
	B系	C系1	C系2	C系3	D系1	D系2	D系3	G系	H系	K系	R系
2寸	2										
2寸1分	4										
2寸2分	9										
2寸3分	6										
2寸4分	16										
2寸5分	11	1									
2寸6分	7	1									
2寸7分	2		1								
2寸8分	1	4						1			
2寸9分	14	3						1	2		
3寸	16	11	5		2		3	1	2	2	
3寸1分	25	23	8	1	1					4	1
3寸2分	24	18	9	3	1	1	2	2	1	1	
3寸3分	16	26	10	5	6	1	12	4	1	2	
3寸4分	8	18	4	8	4	4	14	3	1	1	
3寸5分	3	14	9	11	19	2	3	2	2	2	
3寸6分	4	8	5	7	14	2		2	3	2	
3寸7分	1	7	7	16	21	4	2	1	1	3	
3寸8分	2	3	4	11	15	9	3		1	2	
3寸9分	1		3	6	10	5	7	1			
4寸		2	1		10	4	10	8		3	
4寸1分					11	12	3				1
4寸2分					6	2					
4寸3分					2	2					
4寸4分					1					1	1
4寸5分					2		1	1			
4寸6分以上					3	2					
5寸以上					6	1	1				

※土師質の出土量はあまりにも膨大なため、実測したもののみを集計した。1寸＝3.03cm

注 B系は参考文献2)のA系とB系、C系は参考文献2)のC系とD系に相当し、D系は参考文献2)のE系とF系に相当する。また、C系3は参考文献3)のC d系に、D系3は参考文献3)のD c系に相当する。

参考文献

- 福井県教育委員会 1979 『特別史跡一乗谷倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ』
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2001 『福井城跡』水環境整備事業(光明寺用水地区)に伴う調査
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2011 『福井城跡』JR北陸線外2線連続立体交差事業(高架側道5号線)に伴う調査



第105図 土師質皿の分類 (縮尺 1/3)

第2章 瓦

福井城では、他地域の城郭に比べて多様な瓦が使われていた。まず、素材の面から見ると、笏谷石に代表される凝灰岩製の石瓦と通常の粘土瓦があるが、石瓦については第5章で触れることとし、本章では粘土瓦について見ていく。

粘土瓦は施釉や焼成方法の違いから、いぶし瓦と越前赤瓦(以下赤瓦と略す)に分類できる。いぶし瓦は外観が黒～灰色を呈する無施釉瓦である。近世では、だるま窯と呼ばれる窯で焼成され、冷却時に松葉等を投入して窯を密閉することで、表面に炭素被膜を生成させる。一方、赤瓦は鉄分を含む釉薬を塗って焼成され、外観が赤褐～赤紫色を呈し、いぶし瓦よりも硬質である。さらに、赤瓦は釉薬の外観等によって新・古の二段階に分けられる。古段階のものは釉薬が赤褐色を呈し、刷毛等で塗り付けた痕跡が残るものが多い。釉薬は厚みや光沢の有無などに個体差が大きい。また、一部には自然釉や窯内の降下物の付着も見られる。一方、新段階のものは釉薬が赤紫色を呈し、薄く均一に施釉されているほか、光沢を持つものは少なく、焼成状態の個体差があまり無い。

今回の調査では、約700点の軒瓦・道具瓦が出土し、うち342点の型式分類ができた。なお、丸・平・棧瓦については、量が多いため残りの良いものだけを保存することとした。

第1節 軒丸瓦(第106・107図、第11表)

軒丸瓦には、いぶし瓦と赤瓦があり、前者をA類、後者の古段階のものをB類、新段階のものをC類とする。すべて三巴と連珠文の文様を持つ。巴の尾が左巻きのものに「左」、右巻きのものに「右」、珠文が12個のものに「12」、16個のものに「16」の略号を付して区別する。さらに、巴の尾の先が長く伸び、他の巴に接して圏線状に見えるものに「a」、すべての尾が他の巴から離れているものに「c」、そのいずれでもないものに「b」の略号を付すこととする。

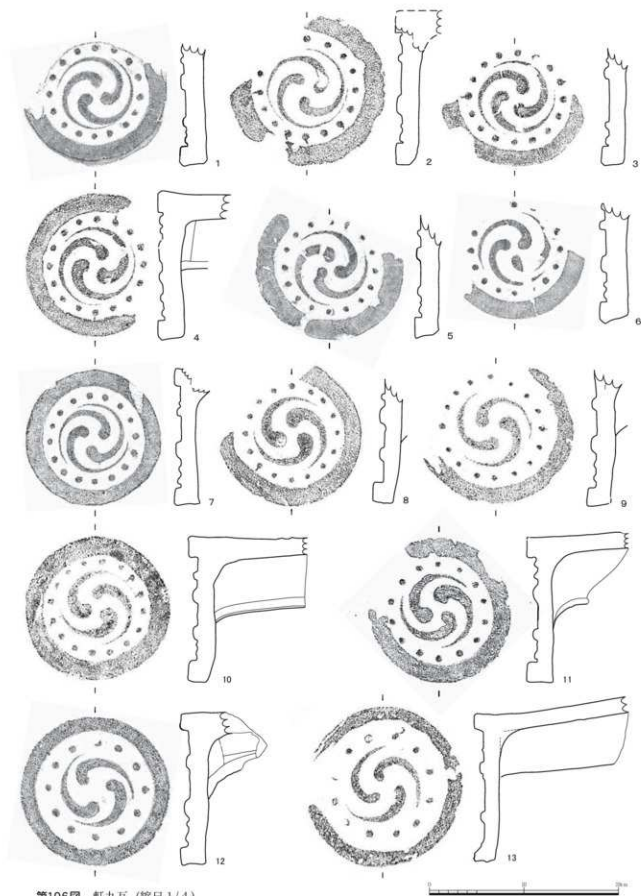
これらを組み合わせて軒丸瓦を分類すると、A左16a、A左16b、A左16c、B左16c、B右16c、B右14c、B右12c、C左14cの8つの型式に分けられる。

A左16aと確認できるものは10点出土しており、1点を図化した。106-1は巴の尾が長く伸びて次の巴に接し圏線状になる。外縁はナデ調整され、外側には幅4mm程の面取りが施される。

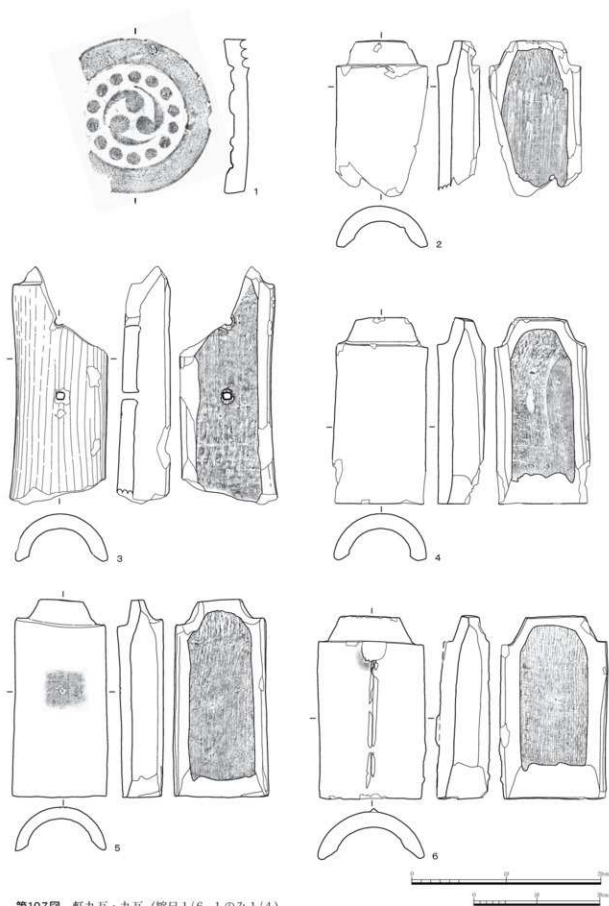
A左16bと確認できるものは12点出土しており、3点を図化した。106-2は巴の尾の一つが次の巴に接している。珠文のうち3カ所に范傷が見られる。外縁はナデ調整されるが、面取りはない。106-3は巴の尾の一つが次の巴に接している。珠文のうち2カ所に范傷が見られる。外縁はナデ調整され、外側には幅4mm程の面取りが施される。106-4は珠文の范傷の位置から、106-3と同范と考えられる。外縁の調整も同様である。A左16aとA左16bの区別はいまいな部分があり、A左16aの瓦范で製作されたものでも、粘土の充てん状態の違いや瓦范の劣化によって、A左16bと認識されたものがあると考えられる。A左16bに范傷を持つものが多いのも、それを反映している可能性がある。また、残存状態が悪く、A左16aかA左16bか判別できなかったものも12点ある。

A左16cと確認できるものは11点出土しており、2点を図化した。ともに巴の尾の先端と次の巴との間に5mm程の間隔がある。106-5は、巴の一部に布の圧痕が残る。外縁はナデ調整され、外側には幅2mm程の面取りが施される。106-6は、外縁がナデ調整され、外側には幅6mm程の面取りが施される。

B左16cと確認できるものは24点出土しており、1点を図化した。106-7は瓦当面前および側面に施釉



第106图 軒丸瓦 (縮尺1/4)



第107図 軒丸瓦・丸瓦（縮尺1/6、1のみ1/4）

されるが、塗りムラがあり、一部露胎の部分もある。釉薬は茶褐色を呈し、瓦当面には一部自然釉がかかる。外縁外側の下半分には、幅4mm程の面取りが施される。三巴文は、尾の先端が他の巴に接していないためcに分類したが、その間隔は1mmほどでbにかなり近い。釉薬により文様の細部が埋まっているため、b型式の瓦范が使われていた可能性がある。この型式の瓦には外縁外側の面取りを行わないものもある。

B右16cと確認できるものは54点出土しており、3点を図化した。どれも巴の尾の先端と次の巴との間に5mm程の間隔がある。106-8は瓦当面および側面に施釉されるが、塗りムラがあり、一部露胎の部分がある。釉薬は暗褐色を呈し、瓦当面には窯内の降下物が溶着する。珠文に1ヵ所范傷があり、外縁外側の一部に幅2mm程の面取りが施される。106-10は瓦当面・瓦当側面・丸瓦部凸面に施釉されるが、塗りムラがあり、一部露胎の部分がある。釉薬は茶褐色を呈し、特に瓦当面は釉薬がよく溶けて光沢がある。珠文に3ヵ所范傷が見られる。106-9は瓦当全体に施釉され、釉薬は暗褐色を呈し、特に瓦当面は釉薬がよく溶けて光沢がある。瓦当面全体に自然釉がかかる。珠文に1ヵ所范傷がある。他より瓦当径が大きく、その分連珠文帯の幅が広い。瓦当裏面には他の瓦が溶着した痕跡がある。

B右14cと確認できるものは10点出土しており、1点を図化した。106-11は巴の尾の先端と次の巴との間に4mm程の間隔がある。瓦当面・丸瓦部凸面に施釉されるが、瓦当側面は表面に近い部分のみ釉薬がかかる。釉薬は暗褐色に発色し、瓦当面は窯内の降下物でゴマ降り状を呈する。巴の釉薬が一部剥離しており、そこには瓦范の木目か、あるいは粘土塊切断時のコビキ痕と考えられる筋状の痕跡が見える。珠文には1ヵ所范傷がある。

B右12cと確認できるものは71点出土しており、2点を図化した。106-12は巴の尾の先端と次の巴との間に4mm程の間隔がある。瓦当面・側面は施釉され、釉薬は茶褐色を呈する。106-13は巴の尾の先端と次の巴との間に9mm程の間隔がある。瓦当面・丸瓦部凸面に施釉され、瓦当側面は瓦当面に近い部分のみ釉薬がかかる。釉薬は茶褐色を呈し、珠文には1ヵ所范傷が見られる。外縁は粘土の充填が不十分で形が乱れる。

C左14cと確認できるものは1点出土している。107-1の巴は頭が円く大きく、珠文の直径が大きいはほか、外縁の幅も広い。全面にわたって赤紫色の釉薬が薄くかかる。瓦当中心には針金留め用の孔が2つ開き、外縁には丸に「上」の刻印が見られる。

第2節 軒平瓦(第108図、第12表)

軒平瓦にも、いぶし瓦と赤瓦古段階のものがああり、前者をA類、後者をB類とした。軒平瓦には大きく二つの系統の文様が使われている。一つは、中心飾りに5枚の葉文を持ち、そこから左右に二つの唐草が反転して伸びるものである。これには「1」の略号を付した。もう一つは、中心飾りに鋭い突起を持つ葉文があり、そこから左右に第一・二唐草が下向きに巻き込むように伸び、その先に第3唐草が上向きに反転するものである。これには「2」の略号を付した。さらに「2」の文様は、細部の違いから「a」～「f」の5つに細分できる。

これらを組み合わせて軒平瓦を分類すると、A1、A2a、A2b、A2c、B2b、B2c、B2d、B2eの8つの型式に分けられる。

A1と確認できるものは58点出土しており、3点を図化した。108-1は、瓦当から平瓦端部まで残存する。瓦当外縁はナデ調整され、上側中央には幅広い面取りが施される。平瓦部も全面がナデ調整され

る。瓦当や平瓦部は全体に厚い。108-2・3も文様の細部や調整等は同様である。

A2aと確認できるものは1点出土している。108-5は中心飾りが一部しか残存しないが、葉文は上に向かって湾曲し、中心に葉脈が通る。中心飾りからは2枚の唐草が上方に伸び、下向きに反転する。下側の第一唐草は先端部だけがふくらみ丸くなる。上側の第二唐草は半ばから幅が大きく広がり、そこに2カ所の切れ込みを持つ。切れ込みによってできた2カ所の突起部はとがるが、唐草の先端部は丸くなる。第二唐草は断面を見ると、湾曲部の外側が高く、内側が低い、片彫り状になっているのが特徴である。第二唐草の肥大部から第三唐草が下向きに伸び、上に反転する。半ばから幅が広がり、先端は丸くなる。文様は、全体に彫りが深く立体的である。瓦当内区以外はナデ調整が行われ、瓦当上側の外縁には幅1～3mmの面取りが施される。

A2bと確認できるものは3点出土しており、1点を図化した。108-6は中心飾りが一部しか残存しないが、葉文はA2a程には湾曲しない。葉脈は外側の突起部にしかない。唐草はA2aと近いが、第二唐草の先端部が丸くならず、とがっている点が異なる。文様はA2aに比べて彫りが浅い。瓦当内区以外はナデ調整が行われ、瓦当上側の外縁には幅4mm程の面取りが施される。108-4は中心飾りの破片であるが、葉文の特徴からA2bに伴うものと考えられる。これには4つの突起全てに葉脈が通る。

A2cと確認できるものは1点出土している。108-7はA2bに見られた第二唐草の片彫り状の特徴が無く、全ての唐草が凸線状に表現されている。また、第二唐草の先端部が丸くなっている。中心飾りは表面が荒れているため、葉脈が確認できない。瓦当内区以外はナデ調整が行われ、瓦当上側の外縁には幅3mm程の面取りが施される。

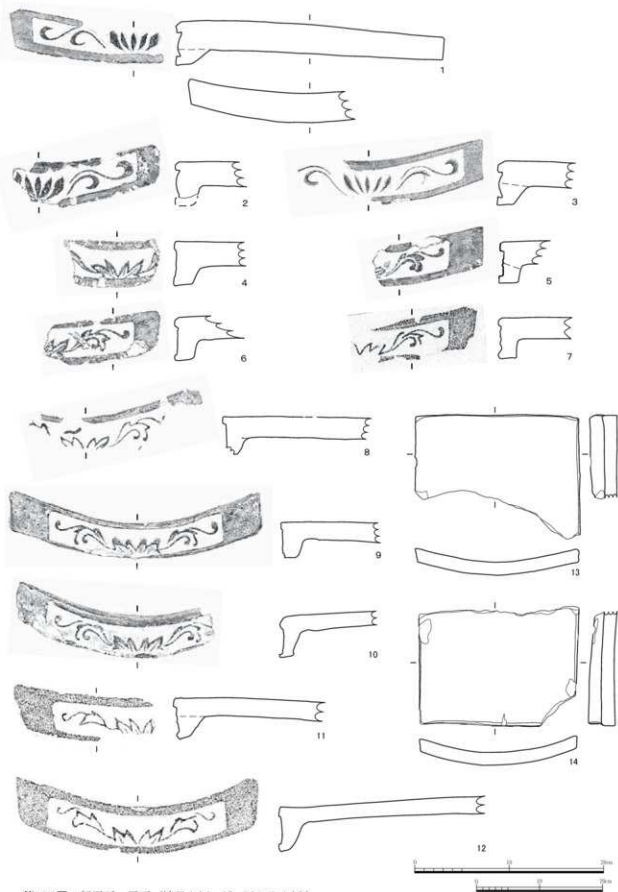
B2bと確認できるものは1点出土している。108-8は文様についてはA2bと同じである。瓦当表面と平瓦部凹面に施軸されるが、軸葉は淡赤褐色を呈し、あまり溶けていない。平瓦部凹面には、軸葉を塗りつけた痕跡が残る。瓦当上部外縁は、ナデによって若干丸く仕上げる。

B2cと確認できるものは33点出土しており、2点を図化した。文様についてはA2cと同じであるが、第二唐草の屈曲が少し緩やかになっている点と、中心飾りの全ての突起部に葉脈が通る点異なる。瓦当上部外縁は、未調整かナデによって若干丸く仕上げたものが多い。108-9は中心飾りの最も左の突起先端に范傷がある。瓦当面と平瓦部凹面に施軸され、軸葉は黒褐色を呈す。瓦当面を中心に自然軸が広くかかっていたようであるが、剥落した部分が多い。108-10は第二唐草と第三唐草がつながっていた部分がコブ状にふくらんでいる。施軸範囲は108-9と同様であるが、軸葉は褐色を呈し、軸葉を塗りつけた痕跡が残る。

B2dと確認できるものは28点出土しており、1点を図化した。108-12は中心飾りの葉脈が左右端の突起にのみ通る。第一唐草と第二唐草の先端部がつながり、これで一つの葉文のように見える。第三唐草は太さの変化が少ない。平瓦部凸面以外は施軸され、軸葉は褐色を呈す。軸葉を塗りつけた痕跡が残る、瓦当面には自然軸がかかる。瓦当上部外縁は、ナデによって若干丸く仕上げる。

B2eと確認できるものは1点出土している。108-11は中心飾りの葉脈が全ての突起に通る。第一唐草と第二唐草がつながった葉文状の部分には、B2dでは突起が2カ所あったが、この型式では突起が1カ所だけとなっている。瓦当面・瓦当側面・平瓦部凹面に施軸され、軸葉は暗褐色を呈す。瓦当上部の外縁は、ナデによって若干丸く仕上げる。

B2dかB2eの破片には、110-12の刻印を持つものがある。



第108図 軒平瓦・平瓦 (縮尺1/4, 13・14のみ1/6)

第3節 軒棧瓦(第109図、第13表)

軒棧瓦にも、いぶし瓦と赤瓦新段階のものがあり、前者をA類、後者をC類とした。軒棧瓦には大きく三つの系統の文様が使われている。一つ目は、中心飾りに橋文を持ち、その左右に唐草が反転して伸びるもので、これに「1」の略号を付した。これは、さらに橋文の茎の有無から、「a」「b」の2つに細分できる。二つ目は、中心飾りに円形文様とY字状の葉文を組み合わせたものを持ち、その左右に唐草が反転して伸びるもので、これに「2」の略号を付した。これは、さらに唐草の形状から「a」「b」の2つに細分できる。最後は波を表現したもので、これには「3」の略号を付した。

これらを組み合わせて軒棧瓦を分類すると、A1a、A2a、C1a、C1b、C2a、C2b、C3の7つの型式に分けられる。

A1aと確認できるものは2点出土しており、全点を図化した。109-4は中心飾りに3枚の子葉を配した橋文を持ち、その下から第一唐草が反転しながら左右に伸び、先端は大きく丸くなる。その先の第二唐草は太く短く、先端がY字状になる。橋文に茎の表現はない。瓦当面には雲母粉が残り、上部外縁には幅3mm程の面取りを施す。109-5も同様であるが、瓦当面に隅丸方形の刻印がある。

A2aと確認できるものは1点出土している。109-7は中心飾りとして円形文様の左右に、先端がY字形の葉文を配し、下には茎が伸びるものである。茎からは左右に第一唐草が伸びて、先端は深く巻き込む。唐草の下には2枚の葉文があり、第二唐草は先端がY字状に開く。瓦当面には雲母粉が残り、上部外縁には幅2mm程の面取りを施す。

C1aと確認できるものは1点出土している。109-2は109-4・5と同文である。赤紫色の釉葉が薄く全面にかかり、上部外縁には幅1mm程の面取りを施す。瓦当面には丸に「改」の刻印がある。

C1bと確認できるものは4点出土しており、2点を図化した。109-1が109-2と異なる点は、橋の下に茎が伸び、そこから左右に第一唐草が出ることと、第二唐草が長いことである。平瓦部凸面以外には、暗紫色の釉葉が薄く全面にかかり、瓦当面には丸に「上」の刻印がある。109-3は第二唐草の脇に2枚の葉文がある。小片のためはっきりしないが、釉葉の状態は109-1と同様である。

C2aと確認できるものは1点出土している。109-6は中心飾りの宝珠状の部分がより円形になっている点と、茎の部分が珠文状になっている点を除いては、109-7と同様である。全面に暗紫色の釉葉が薄くかかり、瓦当面には山に「二」の刻印がある。

C2bと確認できるものは1点出土している。109-8は中心飾りとして、上が少しとがった円形の文様の左右に、先端がY字形の葉文を配したものである。その下からは左右に2つの唐草が伸び、先端は太く丸くなる。全面に暗紫色の釉葉が薄くかかり、瓦当面には丸に「卜」か「上」の刻印がある。

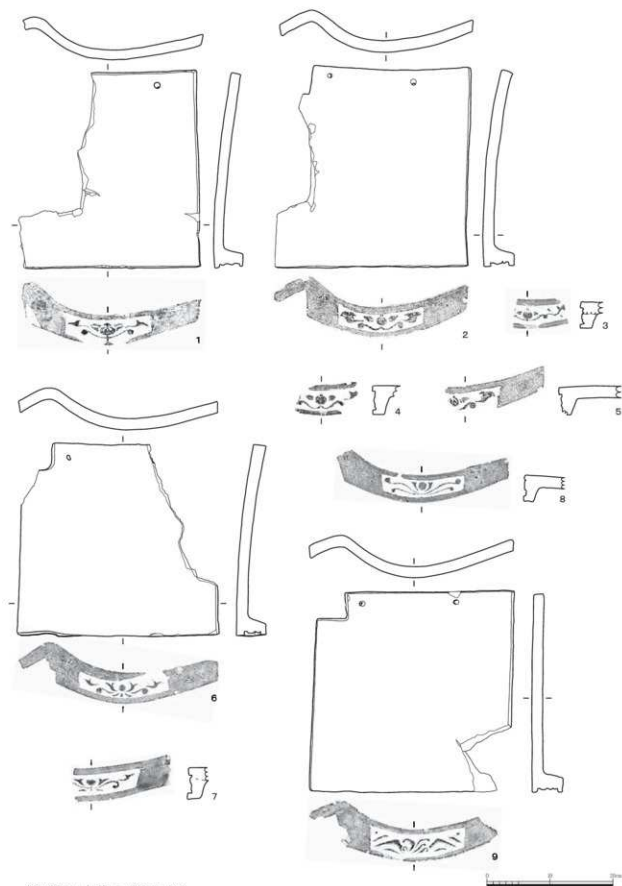
C3と確認できるものは1点出土している。109-9は波文を持ち、暗紫色の釉葉が全面にかかる。

第4節 丸・平・棧・道具瓦(第107・108・110図、第11・14～16表)

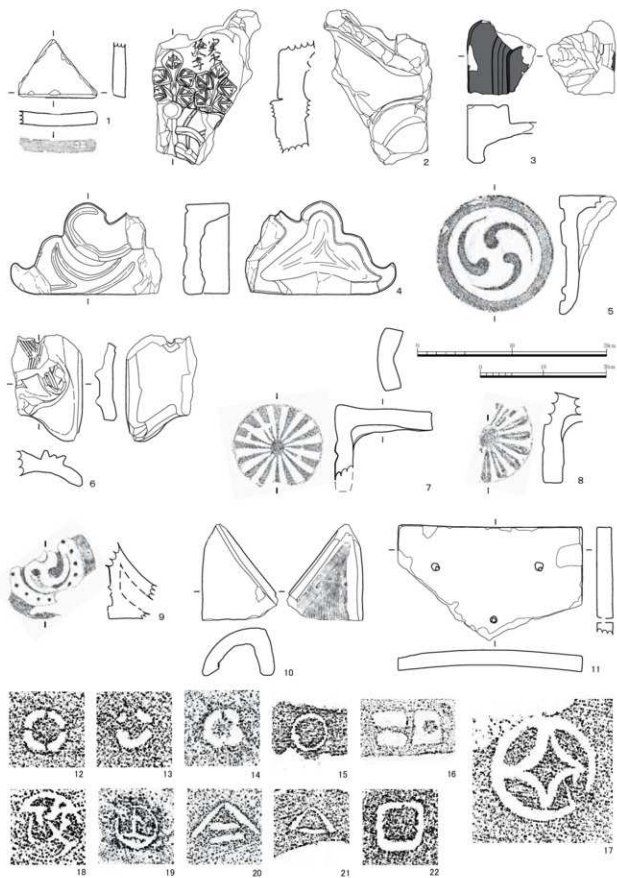
丸瓦には、いぶし瓦と赤瓦古段階のものがあり、前者をA類、後者をB類とした。

丸瓦A類は3点を図化した(107-2～4)。凹面にはコビキ痕(B)と布目があり、一部には棒状の工具による叩き調整の痕跡がある。凸面にはナデ調整が行われ、端面には面取りが施されている。107-3は釘孔を持ち、全長が長いことから、軒丸瓦の可能性が高い。

丸瓦B類は2点を図化した(107-5・6)。凹面にはコビキ痕(B)と布目があり、端面には面取りが施されている。凸面は玉縁部を除いて施釉されており、一部には丸の刻印が押されている。この刻印には、



第109图 軒伐瓦 (縮尺1/6)



第110圖 平瓦・道具瓦・刻印拓影（縮尺1/6、5・7～9は1/4、12～22は1/1）

切れ目の位置の違うものが複数ある(110-12~15)。全長はほとんどが、26~32cmの範囲に収まり、軒丸瓦と考えられるものには、丸瓦部が34cmを超えるものがある。

平瓦には、いぶし瓦と赤瓦古段階のものがあり、前者をA類、後者をB類とした。

平瓦A類は1点を図化した(108-14)。凹面や端面にはナデ調整が行われ、凸面は無調整に近い。端面には面取りが施される。

平瓦B類は2点を図化した(108-13・110-1)。ともに凹面のみ施軸され、凸面は無調整に近い。端面には面取りがない。110-1には、長方形の中に線を刻んだ刻印がある(110-16)。

棧瓦には、いぶし瓦と赤瓦新段階のものがあり、前者は110-22、後者は110-17~21の刻印を持つ。

上記以外の瓦を道具瓦としてまとめた。110-2は、いぶし瓦の鬼瓦で、桐文と「寛永十八年」の銘文を持つ。110-4は、いぶし瓦の鬼瓦の脚部である。110-6は、いぶし瓦の鬼瓦あるいは留め蓋と考えられる。110-3は赤瓦古段階の鬼瓦で、表面と側面に施軸されている。110-7・8は大きさや丸瓦部の形状から棟部の飾りに使われた菊丸瓦である。ともに、いぶし瓦で16葉の菊文を持つが、花卉に凹線を持つものと持たないものがある。110-9は赤瓦古段階の鳥倉で、左に尾が巻く三巴文と16個の連珠文を持ち、全面に施軸される。110-11は、いぶし瓦の熨斗瓦と考えられ、針金孔が3ヵ所ある。110-10は赤瓦古段階の谷丸瓦で、凸面にのみ施軸されている。これは、いぶし瓦のものも出土している。

第5節 軒瓦の年代および出土地点分布(第10表)

寛文の大火の被災遺物を埋めた、川42133・土坑3206・33245などから、軒丸瓦A左16a~c、B左16c、B右16c、B右12c、軒平瓦A1、B2c、B2dが出土しており、これらが寛文9年(1669)以前のものであることが分かる。また、北庄城期の遺構からは瓦が全く出土しないことから、これらの瓦が近世福井城に伴うものであることも明白である。瓦の製造過程で粘土板を切り離す際についた工具痕跡(コピキ痕B)も、これらが天正年間の北庄城築城期まで遡らないことを示している。

福井城築城当初に使用されたと考えられるものは、軒丸瓦A左16aと軒平瓦A1である。軒丸瓦A左16aは、巴の尾が長く伸びて圏線状になるという古い特徴を持っている。また、軒平瓦A1は、これに似た文様の瓦が京都の相国寺や淀城で出土しているほか、瓦当上部外縁を広く面取りするという古い特徴を持っているためである。軒丸瓦A左16bは、先に述べたようにA16aと同じ瓦范で作られたものの可能性がある。A16cは、巴の尾が他と接しないという特徴から、若干新しいと考える。軒平瓦A2a~cに伴うものの可能性が高い。

赤瓦は越前焼の技術を取り入れて生まれたもので、鉄分を含む釉薬を掛ける技法は、唐津焼あるいは瀬戸・美濃焼の影響下で16世紀末から越前焼で行われていた。また、焼成も越前焼と同じ窯室で行われている。越前町平等の上鍵谷窯跡では、軒丸瓦B右16c・B右12c、軒平瓦B2c・B2dが出土しており、共伴する越前焼の年代から17世紀中葉のものである。また、110-1と同じ刻印を持つ丸瓦も出土している。これらのことから、当時の赤瓦が福井城下を遠く離れた、越前焼の生産地で作られていたことが分かる。

赤瓦古段階の軒丸瓦は、A左16cに尾の向きや珠文の数が等しいB左16cから、B右16c・B右14c・B右12cというように変遷していったと考える。出土量を見るとB右12c・B右16cが多く、B左16cがこれに次ぎ、B右14cは少ない。上鍵谷窯跡の例から、B右16c・B右12cが17世紀中葉のものと考え、B左16cはそれを少しさかのぼる時期のものと推定できる。また、軒平瓦の文様は他地域に類例を見ない独特なもので、唐草の退化傾向からB2bからB2c・B2d・B2eへと変遷して

いったと考える。出土量を見るとB2cが最も多く、B2dがこれに次ぎ、他は少ない。これも上鍵谷窯跡の例から、軒平瓦B2c・B2dが17世紀中葉ということから考えると、B2eはこれより少し下る時期のものと推定できる。いぶし瓦の軒平瓦A2a・A2bは、唐草の片彫り状の立体的で鋭い表現などから、赤瓦の軒平瓦に先行するものと考えられる。

赤瓦新段階の瓦は、ほとんどが棧瓦で、これまでの調査により「だるま窯」で焼成されたものと考えられる。越前では、棧瓦の導入とともに赤瓦の焼成方法も変化したものと推定できる。軒棧瓦C2a・C2bは、関西で生まれ西日本に広く分布する「大坂式」と呼ばれる文様の系譜を引く。軒棧瓦C3は、越前では丹南地域の窯でしか作られていない。これらの軒棧瓦は19世紀の前葉から中葉のものである。また、いぶし瓦の軒棧瓦も同時期のものである。

瓦の大部分はⅠ～Ⅲ街区で出土し、焼土層や廃棄土坑出土のものが多い。また、廃棄された時期は、17世紀後葉の寛文大火後と19世紀中葉の幕末期に大別される。17世紀後葉に瓦が廃棄された主な遺構として、Ⅰ街区では屋敷地Ⅰ-3・4の焼土層、Ⅱ街区では屋敷地Ⅱ-2の土坑3206、屋敷地Ⅱ-3の土坑33245、Ⅲ街区では屋敷地Ⅲ-1の瓦溜34109がある。また、19世紀に瓦が廃棄された主な遺構としては、屋敷地Ⅱ-2の池3308、屋敷地Ⅲ-1の瓦溜3368、屋敷地Ⅲ-3の土坑3408がある。

瓦の型式の分布には、街区ごとの大きな違いはない。第10表は、Ⅲ街区でいぶし瓦の軒丸瓦が無く、Ⅰ街区で軒丸瓦B右16cと軒平瓦B2cの出土量がⅡ・Ⅲ街区に比べて少なく見えるが、型式の判別が難しい破片が多数あることから、それほどの差は無いと考える。これらの瓦が、それぞれの屋敷地で使われていたのか、それとも櫓や門・塀などの城郭建築に使われた後、瓦礫処理のために持ち込まれたものなのかは判断できない。ただし、幕末期の城下の姿を描いた絵図類には、武家屋敷に瓦が使われている描写がほとんど無く、これらの瓦の多くは屋敷外で使われていた可能性が高い。

第10表 軒瓦出土街区一覧

種別	型式	Ⅰ街区	Ⅱ街区	Ⅲ街区	Ⅳ街区	Ⅴ街区	三ノ丸	小計
軒丸瓦	A左16a	3	7	0	0	0	0	10
	A左16a あるいは A左16b	9	3	0	0	0	0	12
	A左16b	3	9	0	0	0	0	12
	A左16c	9	2	0	0	0	0	11
	B左16c	3	10	10	0	1	0	24
	B右16c	3	32	17	2	0	0	54
	B右14c	0	4	5	0	0	1	10
	B右12c	10	26	33	1	1	0	71
	C左14c	0	1	0	0	0	0	1
	A1	12	18	26	2	0	0	58
軒平瓦	A2a	0	1	0	0	0	0	1
	A2b	2	1	0	0	0	0	3
	A2c	1	0	0	0	0	0	1
	B2b	1	0	0	0	0	0	1
	B2c	1	14	16	1	0	1	33
	B2d	7	13	8	0	0	0	28
	B2e	0	1	0	0	0	0	1
	A1a	0	0	1	1	0	0	2
軒棧瓦	A2a	0	0	0	0	1	0	1
	C1a	0	0	0	0	1	0	1
	C1b	1	2	0	1	0	0	4
	C2a	1	0	0	0	0	0	1
	C2b	1	0	0	0	0	0	1
	C3	0	0	0	0	1	0	1
	主な瓦出土遺構	屋敷地 Ⅰ-3・4 焼土層	3206 3308 33245	3368 3408 34109				

参考文献

- 久保智康 1989 「近世中～後期越前における赤瓦の生産」『福井考古学会誌』第7号 福井考古学会
 久保智康・中原義史 2001 「福井県産瓦の変遷」『北陸の瓦の歩み』(社)日本セラミックス協会北陸支部
 山崎信二 2008 『近世瓦の研究』同成社
 木村茉莉 2009 「上鍵谷窯跡表面採集赤瓦の観察」『越前町織田文化歴史館報』第4号 越前町織田文化歴史館
 福井市立郷土歴史博物館 2010 『福井城と城下町のすがた』

第11表 軒丸瓦・鳥瓦・菊丸瓦観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)			文 様			成形・調整・その他	出土遺構	実測No.
			外 径	文様区径	法文径	瓦瓦部厚	瓦の長さ	瓦の幅			
100-1	いぶし瓦	—	15.0	11.1	0.9	—	左	16	外縁全面取り	焼土層	サ1
100-2	いぶし瓦	—	16.3	11.7	0.9~1.0	—	左	b	外縁3カ所	焼土層	サ13
100-3	いぶし瓦	—	(15.2)	(11.1)	0.9	—	左	b	外縁2カ所、外縁全面取り	4130	サ58
100-4	いぶし瓦	—	15.0	11.3	1.0	2.5	左	b	外縁2カ所、外縁全面取り	4242	サ30
100-5	いぶし瓦	—	15.4	—	1.0	—	左	c	外縁全面取り	サ14	サ14
100-6	いぶし瓦	—	(15.4)	(10.8)	0.9~1.0	—	左	c	外縁全面取り	焼土層	サ15
100-7	赤瓦古	瓦当面・側面	14.5	10.7	0.8~0.9	—	左	c	16 外縁一部全面取り	焼土層	サ4
100-8	赤瓦古	瓦当面・側面	14.6	10.9	0.8	—	右	c	16 外縁1カ所	3206	3206-14
100-9	赤瓦古	瓦当面・側面	15.9	12.3	0.7	—	右	c	16 外縁1カ所	3206	3206-10
100-10	赤瓦古	瓦当面・側面・ ・瓦瓦部全面	15.4	10.9	0.9	1.9	右	c	16 外縁3カ所	3206	3206-11
100-11	赤瓦古	瓦当面・側面・ ・瓦瓦部全面	15.3	11.1	0.9	1.7	右	c	16 外縁1カ所	3206	3206-16
100-12	赤瓦古	瓦当面・側面	15.9	12.2	1.2	2.2	右	c	12 法文径大平い。	焼瓦目(6)	サ44
100-13	赤瓦古	瓦当面・側面・ ・瓦瓦部全面	15.8	12.0	1.1	1.7	右	c	12 外縁1カ所	3325中層	M434
107-1	赤瓦新	瓦当全面	16.3	10.6	1.6	—	左	c	—	3325上層	33245-10
110-5	いぶし瓦	瓦当全面	12.3	9.7	—	1.2	右	c	—	4152	サ118
110-7	いぶし瓦	—	9.2	—	—	1.8	—	—	新瓦16弁	焼土層	サ11
110-8	いぶし瓦	—	9.6	—	—	—	—	—	新瓦16弁	3206	3206-3
110-9	赤瓦古	外面全体	8.5(9.5)	6.5(9.5)	0.8	—	左	c	16 鳥瓦瓦	3206	3206-20

第12表 軒平瓦観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)			文 様			成形・調整・その他	出土遺構	実測No.
			最大幅	瓦当高	文様区径	瓦瓦部厚	中心厚	唐草数			
108-1	いぶし瓦	—	18.0(9.0)	4.6	2.6	2.4~3.2	1類	2	上部外縁全面取り、 平瓦部全長残存	焼土層	サ10
108-2	いぶし瓦	—	15.8(9.0)	(4.7)	2.9	2.6	1類	2	上部外縁全面取り	3206	3206-28
108-3	いぶし瓦	—	19.8(9.0)	4.6	2.7	2.7	1類	2	上部外縁全面取り	焼土層	サ78
108-4	いぶし瓦	—	9.5(9.0)	4.7	2.7	2.5	2類	—	—	—	—
108-5	いぶし瓦	—	13.0(9.0)	4.3	2.5	2.4	2類	3	—	敷層上層(9-1)	1161
108-6	いぶし瓦	—	12.0(9.0)	4.6	2.8	2.6	2類	3	—	敷層上層(9-1)	1163
108-7	いぶし瓦	—	14.5(9.0)	4.2	2.5	2.1	2類	3	—	敷層上層(9-1)	1164
108-8	赤瓦古	瓦当面・平瓦部全面	19.0(9.0)	4.0	—	2.1~2.3	2類	3	—	焼土層	サ52
108-9	赤瓦古	瓦当面・平瓦部全面	26.0	3.7	2.6	1.9	2類	3	—	C-10	F49
108-10	赤瓦古	瓦当面・平瓦部全面	22.0(9.0)	4.2	2.6	1.7	2類	3	—	33245	33245-6
108-11	赤瓦古	瓦当面・側面・ ・平瓦部全面	15.0(9.0)	4.3	2.6	2.0	2類	2	—	3118	1166
108-12	赤瓦古	瓦当面・側面・ ・平瓦部全面	25.0	4.7	2.9	1.8	2類	2	—	3309	1165

第13表 軒丸瓦観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)			文 様			成形・調整・その他	出土遺構	実測No.
			最大幅	瓦当高	文様区径	瓦瓦部厚	中心厚	唐草数			
109-1	赤瓦新	全面	28.5(9.0)	4.4	3.2	1.6	横文	2	割印有り、針金穴有り。	3325	3325-2
109-2	赤瓦新	全面	30.6	4.8	3.0	1.8	横文	2	割印有り。	6304	6304-1
109-3	赤瓦新	瓦当面・側面・ ・平瓦部全面	8.6(9.0)	4.2	2.4	1.7	横文	2	—	敷層上層(9-1)	サ40
109-4	いぶし瓦	—	10.2(9.0)	4.5	3.0	1.6	横文	2	裏面粉残。	5346	5346-5
109-5	いぶし瓦	—	15.5(9.0)	4.3	2.8	2.0	横文	2	割印有り、裏面粉残。	3336	3336-1
109-6	赤瓦新	全面	32.1	4.7	2.6	1.8	大横文	2	割印有り、針金穴有り。	敷層上層(9-1)	サ41
109-7	いぶし瓦	—	15.5(9.0)	5.0	2.8	—	大横文	2	裏面粉残。	6343	6343-2
109-8	赤瓦新	全面	26.5(9.0)	4.1	2.5	1.8	大横文	2	割印有り。	敷層上層(9-1)	サ29
109-9	赤瓦新	全面	32.3	4.8	3.1	1.7	横文	—	6343	6343-4	

第14表 丸瓦・谷丸瓦観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)					刻 印	成形・調整・その他	出土遺構	実測No.	
			玉縁幅	玉縁高	瓦瓦部厚	瓦瓦部厚	全長					
107-2	いぶし瓦	—	11.3	3.7	6.5	2.4	14.4	24.7(9.0)	無し	凹面に布目・町孔刻	焼土層	イ6
107-3	いぶし瓦	—	—	2.0(9.0)	8.2	2.3	14.5	37.5(9.0)	無し	凹面に布目・町孔刻	33245	33245-1
107-4	いぶし瓦	—	12.0	4.4	7.4	2.3	14.6	29.5	無し	凹面に布目	焼土層	イ5
107-5	赤瓦古	凸面	11.1	3.8	6.9	1.8	14.9	31.5	有	凹面に布目	61042	61042-48
107-6	赤瓦古	凸面	14.1	3.9	7.9	2.4	16.8	29.0	有	凹面に布目	3206	3206-20
110-3	赤瓦古	凸面	—	—	7.55	2.0~2.2	12.4(9.0)	16.0(9.0)	無し	凹面に布目	3206	3206-21

第15表 平瓦・契斗瓦観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)			刻 印	面取り	成形・調整・その他	出土遺構	実測No.
			最大幅	契 深	全 長					
108-13	赤瓦古	凹面	25.8	2.2	19.5(9.0)	2.1	無し	—	3206	3206-19
108-14	いぶし瓦	—	25.3(9.0)	2.3	18.7(9.0)	2.0	無し	端部	焼土層	イ9
110-1	赤瓦古	凹面・端部	12.3(9.0)	0.9	9.0(9.0)	1.9	無し	無し	5388	5388-1
110-11	いぶし瓦	—	29.2	0.95	18.0(9.0)	2.3	無し	契斗瓦、針金孔3ヶ所	3206	3206-22

第16表 鬼瓦・留蓋観察表

図面No.	種 別	施釉箇所	法量 (cm)			文 様	成形・調整・その他	出土遺構	実測No.
			高 さ	幅	厚 度				
110-2	いぶし瓦	—	24.5(9.0)	16.2(9.0)	10.0(9.0)	—	鬼瓦、銘文「寛永拾八年」	34109	34109-31
110-3	赤瓦古	外面	11.6(9.0)	10.7(9.0)	9.6(9.0)	—	鬼瓦	3271	S006
110-4	いぶし瓦	—	14.5(9.0)	12.8(9.0)	7.9	—	留蓋	3103	M15
110-6	いぶし瓦	—	11.2(9.0)	18.9(9.0)	2.1~3.9	—	留蓋、刺孔1ヶ所	焼土層	サ20

[注] 第11~16表の「種別」欄で、「赤瓦古」は赤瓦段段を、「赤瓦新」は赤瓦段段を示す。「出土遺構」欄の「焼土層」は、屋敷地1-3、4にまたがって存在する。第12・13表の「唐草数」は、中心線から片側に伸びる唐草数を示す。

第3章 木製品

第1節 出土木製品の概要

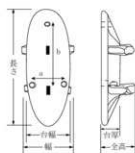
調査終了後に一定の選別を受け、保管されてきた木製品1,415点の概要を記載する。

下駄 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター(2009)に準じ、下駄を連歯、差歯(露卯・陰卯)、削り、無歯(板草履・雪下駄)に分け、更に本稿では連歯と差歯とをそれぞれ台部の平面形から角形と丸形とに細分する。また、差歯の形態を模倣した連歯を連歯(模倣形)と分類する。よって、本稿で用いる分類は、連歯(角)、連歯(丸)、連歯(模)、露卯(角)、露卯(丸)、陰卯(角)、陰卯(丸)、削り、板草履、雪の10類である。連歯(模倣形)が差歯の形態を模倣したものとする根拠は次の3点である。

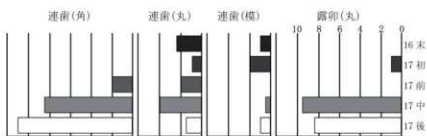
①台部の平面形が長卵形を呈する。②連歯(模倣形)の歯は裾拡がり、下駄の上面観において、歯が台部の側縁よりはみ出す。③歯の側面が丸く整形される。

下駄の出土総数は140点。このうち、帰属時期が明示できるものを主体に、75点の実測図(第113～116図)を掲載し、観察・計測・分類結果を呈示する(第18表)。計測部位を第111図に示す。また、遺構毎の各器種出土数量を第17表に示す。この両表から以下のことが読み取れる。

- 1) 16世紀代に確実に存在するものは、連歯(丸)、連歯(模)と雪下駄のみで、差歯は存在しない。
- 2) 露卯(丸)は17世紀初頭に1例(第115図1)が存在するけれども、閉じた内部に遺物を包含する遺構ではないから、その時期は不確実さを残す。露卯(丸)が確実に存在するのは17世紀中葉以降である。露卯(角)では17世紀前～中葉に1例(第115図12)が存在する。ここで留意すべきは差歯式の台部下面の横断面形である。断面三角形で中央に1本の稜線が走るものは、この例を除けば17世紀後葉～18世紀前半以降に限られる。第115図12は混入である可能性が高く、露卯(角)の出現もまた17世紀中葉以降である。なお、差歯式陰卯は19世紀になって存在する。以上により、16世紀末～17世紀初頭に当地に入部した武士集団には、差歯式下駄を用いる習慣がなかった可能性が高い。
- 3) 16世紀代に下駄の主体を占めた連歯(丸)は、17世紀後葉には衰微する。また、連歯(模)も17世紀前葉以降は衰退したかに見える。一方、連歯(角)は17世紀前葉に出現して、17世紀中葉以降は差歯式露卯(丸)とともに多数の出土例を見るようになる。
- 4) 第112図は、帰属年代が連続する2つの細分小期に納まる資料を用い、数量をグラフ化して上記3の器種の消長を示したものである。2小期にまたがる資料は各小期0.5と数えた。「男物」が連歯(丸)から連歯(角)へ、「女物」が連歯(模)から露卯(丸)へと変化したとみる。但し、連歯(模)が借用形態であるとする、17世紀初頭までは連歯(丸)が男女共用で、更に女性用に連歯(模)が補充されたとも考えられる。下駄の性差が確立したのは、17世紀中～後葉である。



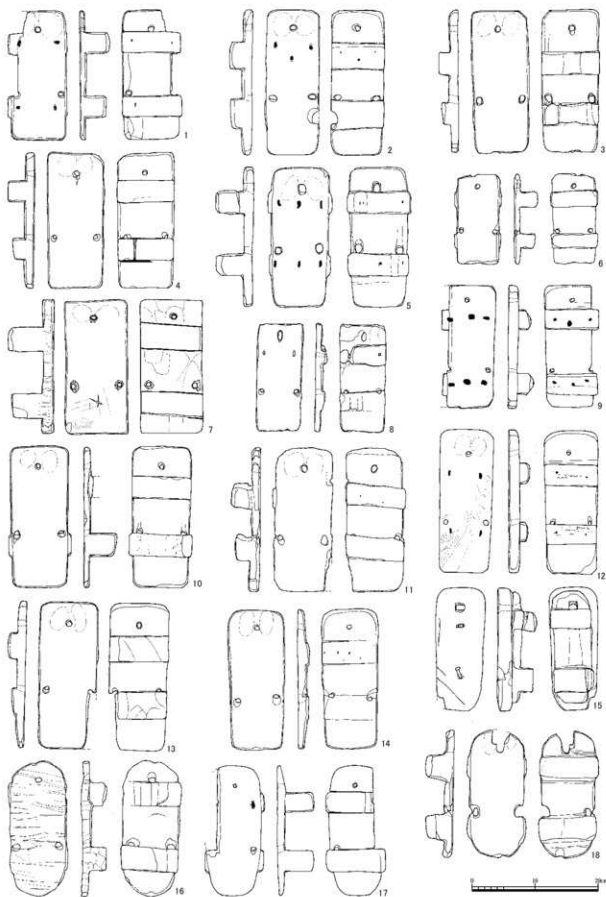
第111図 下駄の計測部位



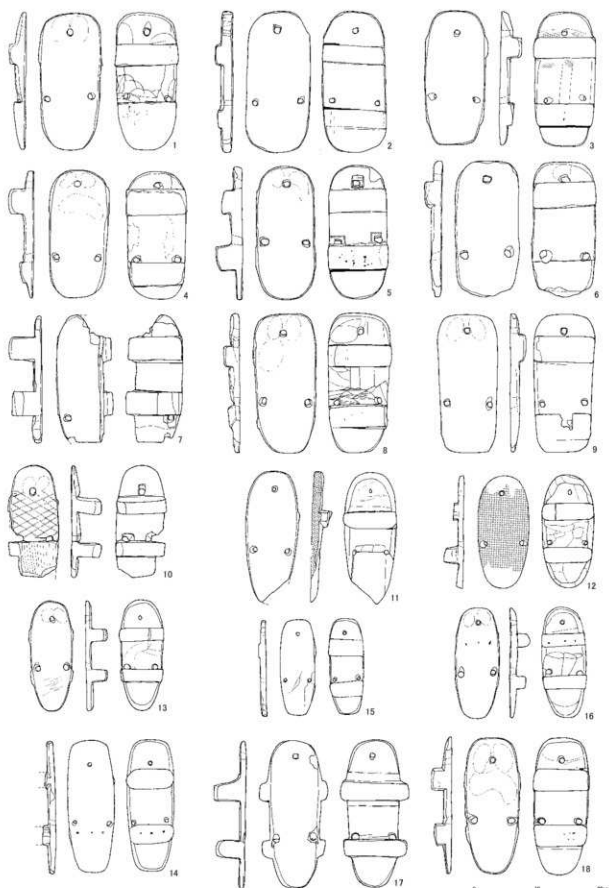
第112図 下駄の各時期数量組成

第17表 遺構別の下駄各器種出土数

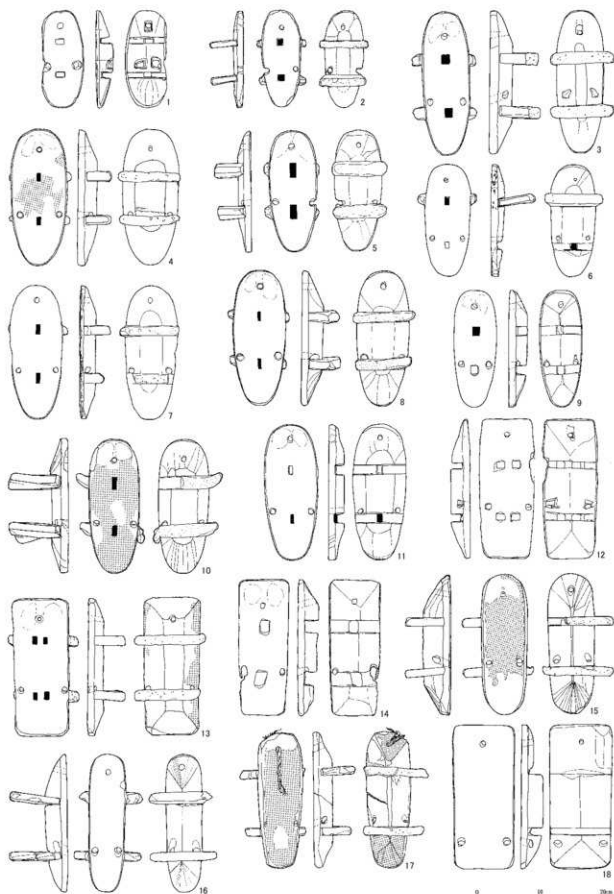
遺構 番号	遺構 種別	伴出陶磁器 の年代	下駄の種別										数量
			連曲 (角)	連曲 (丸)	連曲 (板)	露卯 (角)	露卯 (丸)	露卯 (角)	露卯 (丸)	明り	無曲 (草履)	雪	
31125	井戸	16後			1								1
31124		16後～末										1	1
31195	井戸	16末										1	1
31117	土坑	16末		1									1
32186	溝	16末		1									1
3572	土坑	16後～17初		1						1			2
34490		16末～17初										1	1
34331	土坑	16末～17中										1	1
3325	溝	16末～17後	1	2							1		4
5443	土坑	(16末～) 17初			1								1
5225	土坑	17初										1	1
32124	護岸石垣?	17初					1						1
34444	土坑	17初			1								1
35109	土坑	17初								1			1
3148	土坑	17初～後										1	1
32133	溝	17前	2										2
34701	土坑	17前～中				1							1
3206	土坑	17前～後					1						1
4220	原 敷 地 溝	石垣の間		1									1
		南側木製品区			3					1		1	5
		南側地土下	2	1			2			1		3	9
		木割層以下		1									1
		南側下層					1						1
										1		1	2
		旧石垣跡落部		1									1
		a 溝掘下げ中		1									1
		南コーナー上層								1			1
3201	池	17前～19中					1						1
3100	石垣	17前～明治								1			1
3295	溝	17中	2				2						4
32127	池	17中	1				3						4
3134	土坑	17中～後	5				2			1		1	9
3153	溝	17中～後	1										1
3172	土坑	17中～後	1			1							2
34126	土坑	17中～後					1						1
34702	土坑	17中～後			1								1
36205	土坑	17中～後					1						1
34137	土坑	17後	1										1
34203	井戸	17後	1								1		2
34476	土坑	17後	1				1						2
34703	土坑	17後	1				1						2
36054	土坑	17後					1						1
42133	溝	17後	2				1						3
51105		17後	1										1
3205	大溝	17後～18前	1		1	1	3						6
4135	桶下土坑	17後～18前					1						1
3308	園池	17後～19中	2				2				1		5
34109	瓦葺り	17後～19								1			1
4222	井戸	17末～明治						1	1				2
5196	土坑	17後～18後	1										1
3294	溝	17後～19	1										1
4133	土坑	18後								1			1
5202	土坑	18後～19	1				1						2
34105	土坑	18後～19									1	1	2
34167		～19						1					1
35150	土坑	19							1				1
3220	土坑?	19中				1							1
3408	土坑	19中							1				1
3424	土坑	19中	1										1
34110	土坑	19中							1				1
6304	大土坑?	19～近代		1									1
5401	土坑	19中～近代							1				1
三ノ丸堀	堀内近代層	近代	2						1	2			5
4236				1									1
36160					1		1						2
数 量			32	14	6	4	27	3	5	12	4	13	120



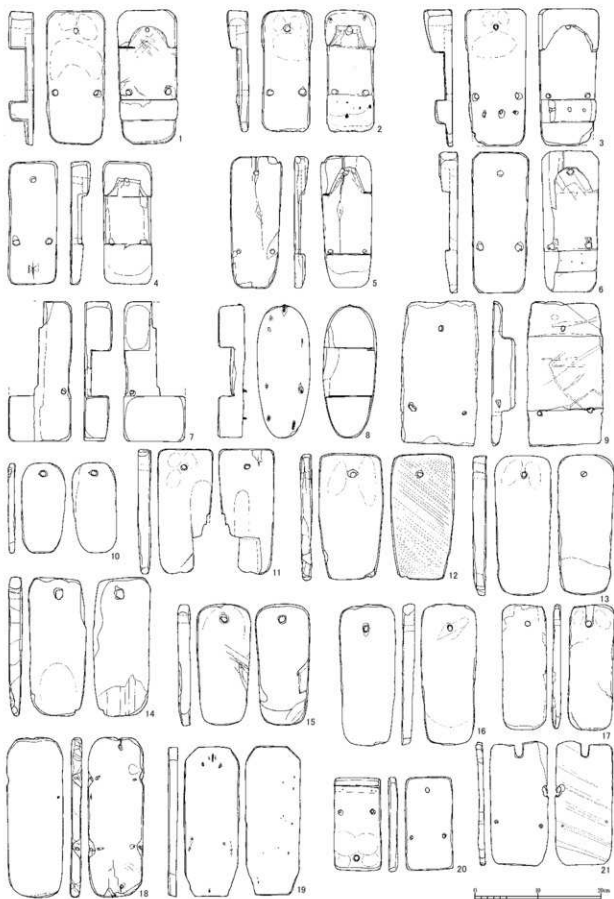
第113図 下駄① (縮尺1/6) 1~15: 連歯(角), 16~18: 連歯(丸)



第114図 下駄② (縮尺1/6) 1~9:連筒(丸)、10~18:連筒(模)



第115図 下駄③ (縮尺1/6) 1~11: 露卯(丸)、12~14: 露卯(角)、15~17: 陰卯(丸)、18: 陰卯(角)



第116図 下駄④ (縮尺1/6) 1～9：列り、10～17：雪、18～21：板草履

第18表 下駄観察表

番 号	押 号	実測 番号	遺構番号・種別・層位	伴出陶器の 年代	種類	長さ	幅	台幅	高さ	孔間 (cm)	材 種	木 取	備 考
1	113-1	32-12	溝	17c前	溝底(角)	20.7	9.5	8.8	1.1	4.8			側面に打2ヵ所ずつ存在。
2	113-2	32-16	溝	17c前	溝底(角)	23.2	8.6	8.5	1.7	3.7			側面に前後の打3ヵ所存在。後部部分には後継孔。
3	113-3	32-13	溝	17c前	溝底(角)	22.7	9.3	9.1	1.6	3.1			延長目。
4	113-4	32-19	溝	17c中	溝底(角)	21.7	9.2	9.0	1.6	4.2			延長目。
5	113-5	42-97	溝 南側(枕土下)	17c中	溝底(角)	22.2	10.2	9.1	1.6	6.2			側面に打3ヵ所存在。前面は横溝。後面は横溝。
6	113-6	42-98	溝 南側(枕土下)	17c中	溝底(角)	14.3	7.5	6.9	0.9	3.9			小型。
7	113-7	32-34	土坑 a層	17c中～後	溝底(角)	21.4	10.9	10.0	2.2	7.3			小型。前面部分に打2ヵ所。
8	113-8	31-4	土坑 b層	17c中～後	溝底(角)	17.2	7.3	7.2	1.2	1.8			側面にも打3ヵ所存在。後継孔。
9	113-9	32-21	土坑 h層	17c中～後	溝底(角)	19.6	8.6	8.1	1.7	4.1			側面にも打3ヵ所存在。後継孔。
10	113-10	31-7	土坑	17c中～後	溝底(角)	22.6	10.1	9.4	1.1	5.3			側面にも打3ヵ所存在。後継孔。
11	113-11	51-126	溝 黒色土粘着土	17c後	溝底(角)	22.9	9.6	9.3	1.7	4.7			側面にも打2ヵ所ずつ存在。後継孔。
12	113-12	42-32	溝 黒色土粘着土	17c後	溝底(角)	22.9	8.6	8.6	1.8	3.4			側面にも打2ヵ所ずつ存在。後継孔。
13	113-13	32-32	溝 大溝 c層	17c後～18c前	溝底(角)	23.4	9.5	9.3	1.4	2.8			側面にも打2ヵ所ずつ存在。後継孔。
14	113-14	32-44	溝	17c後～18c中	溝底(角)	22.3	9.0	9.0	1.5	1.9			側面にも打2ヵ所ずつ存在。後継孔。
15	113-15	52-129	土坑	18c後～19c	溝底(角)	19.6	7.9	7.9	4.4	6.2			側面の下部分に打1ヵ所。
16	113-16	32-12	溝	16c末	溝底(角)	21.6	9.2	9.1	1.7	4.0			側面の下部分に打1ヵ所。
17	113-17	35-77	土坑	16c末～17c初	溝底(角)	20.8	9.5	8.1	1.3	6.1			側面の下部分に打1ヵ所。
18	113-18	50-122	土坑	17c初	溝底(角)	20.2	9.3	8.7	1.5	4.5			側面の下部分に打1ヵ所。
19	114-1	63-120	石敷 最上層	17c初?	溝底(角)	22.0	10.0	9.7	1.5	2.7			側面の下部分に打1ヵ所。
20	114-2	43-119	石敷 最上層直下	17c初?	溝底(角)	22.7	10.0	10.0	2.1	2.7			側面の下部分に打1ヵ所。
21	114-3	42-89	溝 南側木製品区	17c前～中	溝底(角)	21.5	10.0	9.7	1.6	3.3			側面の下部分に打1ヵ所。
22	114-4	42-101	溝 南側木製品区	17c前～中	溝底(角)	20.3	9.6	9.3	1.7	4.0			側面の下部分に打1ヵ所。
23	114-5	42-90	溝 南側木製品区	17c前～中	溝底(角)	21.3	9.6	9.2	1.9	4.2			側面の下部分に打1ヵ所。
24	114-6	42-93	溝 南側(枕土下)	17c中	溝底(角)	21.6	10.1	10.0	1.8	3.0			側面の下部分に打1ヵ所。
25	114-7	43-121	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	21.6	9.3	9.3	1.7	3.0			側面の下部分に打1ヵ所。
26	114-8	42-92	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.4	10.1	9.7	1.8	2.5			側面の下部分に打1ヵ所。
27	114-9	43-118	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
28	114-10	31-11	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
29	114-11	62-108	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
30	114-12	54-132	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
31	114-13	34-56	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
32	114-14	34-62	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
33	114-15	34-63	溝 石面の下	17c中～後	溝底(角)	22.1	9.6	9.4	1.7	2.6			側面の下部分に打1ヵ所。
34	114-16	32-31	溝 大溝 c層	17c後～18c前	溝底(角)	23.4	10.7	8.1	1.0	5.2			側面の下部分に打1ヵ所。
35	114-17	52-104	溝 大溝 c層	17c後～18c前	溝底(角)	23.4	10.7	8.1	1.0	5.2			側面の下部分に打1ヵ所。
36	114-18	36-84	溝 大溝 c層	17c後～18c前	溝底(角)	23.4	10.7	8.1	1.0	5.2			側面の下部分に打1ヵ所。

番号	押印番号	実測番号	遺構番号・種別・層位	年代	種類	法量 (cm)				孔間 (cm)	木材		備考			
						長さ	幅	台幅	全高	a	b	断面の形状・厚さ	樹種	木取		
37	115-1	32-28	32124	17c初	炭印(灰)	15.4	6.6	2.8	4.5	6.5	4.5	6.5	広	板目	小型、炭部中央の段は斜め、炭部前・後部面は直化。	
38	115-2	42-110	4220	17c前～中	炭印(灰)	15.5	7.9	6.2	1.6	5.5	4.5	7.0	針	板目	小型、炭部の段は木目割。	
39	115-3	32-42	3295	17c中	炭印(灰)	22.7	10.3	7.6	3.4	8.2	5.0	10.0	台形	針	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
40	115-4	32-26	32127	17c中	炭印(灰)	21.7	9.5	8.9	3.5	5.4	6.0	10.5	台形	針	炭と側板は直化、炭部の段は直化。	
41	115-5	34-70	34476	17c後	炭印(灰)	19.2	8.9	7.6	2.0	5.7	5.5	9.0	針	板目	炭部の長い段は直化、炭部の短い段は斜め。	
42	115-6	34-74	34703	17c後	炭印(灰)	17.7	9.2	7.2	2.3	7.2	4.5	9.0	針・広	針	炭部後部の側面は直化、炭部前・後部の側面は斜め。	
43	115-7	41-123	41305	17c後～18c前	炭印(灰)	21.3	9.2	8.2	2.7	4.9	5.5	11.0	台形	針	炭部に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
44	115-8	32-24	3205	17c後～18c前	炭印(灰)	21.5	9.8	8.4	3.2	6.2	5.0	11.5	台形	針	炭部に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
45	115-9	32-23	3205	17c後～18c前	炭印(灰)	18.8	6.8	3.0	3.0	4.5	9.0	三角形	広	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。		
46	115-10	32-130	5202	18c後～19c	炭印(灰)	21.4	10.1	8.1	2.7	9.5	6.0	10.0	台形	針	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
47	115-11	32-127	35-212	19c	炭印(灰)	21.5	8.5	2.6	2.6	6.0	11.5	台形	針	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。	
48	115-12	34-55	34701	17c前～中	炭印(灰)	22.3	8.5	8.5	3.0	6.0	11.5	三角形	広	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。	
49	115-13	31-3	3172	17c中～後	炭印(灰)	22.0	10.7	9.1	2.7	6.1	7.0	11.0	針・広	針	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。	
50	115-14	33-49	3305	17c後～18c前	炭印(灰)	21.7	8.1	7.1	3.1	5.1	6.0	10.5	台形	針	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。	
51	115-15	35-81	35150	19c	炭印(灰)	22.2	10.2	7.2	4.5	7.3	5.0	10.5	三角形	広	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。
52	115-16	34-73	34110	19c中	炭印(灰)	22.0	10.7	5.8	3.5	9.3	3.5	12.5	三角形	針	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。
53	115-17	33-50	3408	19c中	炭印(灰)	21.2	9.8	6.6	3.4	7.0	4.5	12.0	三角形	針	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。
54	115-18	34-59	34467	～19c	炭印(灰)	22.8	10.0	10.0	3.3	3.3	6.5	12.5	三角形	針	板目	炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化、炭部の段は直化。
55	116-1	35-78	3572	16c後～17c初	銅	21.3	9.4	9.3	1.7	3.9	6.5	10.0	針	板目	銅板後部を打3本で固定、この外板部の内縁は半円形。	
56	116-2	43-115	04-35	17c初	銅	19.5	8.1	7.6	1.5	5.4	5.0	10.0	針	板目	銅板後部を打3本で固定、この外板部の内縁は半円形。	
57	116-3	35-79	35109	17c初	銅	21.8	9.7	9.2	1.3	4.5	6.5	11.0	針	板目	銅板後部を打3本で固定、この外板部の内縁は半円形。	
58	116-4	43-114	04-33	17c前	銅	19.8	7.7	7.5	1.9	3.1	5.0	9.5	針	板目	銅板後部を打3本で固定、この外板部の内縁は半円形。	
59	116-5	42-99	4220	17c中	銅	20.8	7.9	7.9	1.2	2.2	5.0	12.5	針	板目	この字状部分の内縁は台形→三角形。	
60	116-6	42-87	4220	17c中～後	銅	22.4	9.1	9.1	3.1	3.1	6.0	12.0	針	板目	表面の圧縮の形状から右用金。	
61	116-7	32-37	3134	17c中～後	銅	22.3	9.8	9.8	1.0	4.3			針	板目	この字状部分の表面は、炭部は炭部に広く傾斜、この字状部分に斜め、約3.7、条の固定以外に上面に傾斜を付与。	
62	116-8	41-124	4133	18c後	銅	21.1	8.3	2.0	4.1				針	板目	付着中央部に広く用金を付与する、側面に付着。	
63	116-9	34-58	34409	17c後～19c	銅	23.0	12.1	11.9	3.9	1.9	7.5	13.5	針	板目	付着中央部に広く用金を付与する、側面に付着。	
64	116-10	31-1	3124	16c後～17c初	銅	14.4	6.9	6.9	1.1	1.1			針	板目	小型、付着部分が側面に付着。	
65	116-11	31-10	3195	16c末	銅	19.8	8.8	8.8	2.1	2.1			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
66	116-12	34-57	34490	16c末～17c初	銅	20.6	10.2	10.2	1.8	1.8			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
67	116-13	32-128	5225	17c初	銅	22.2	9.8	9.8	2.1	2.1			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
68	116-14	42-102	4220	17c前～中	銅	22.0	9.3	9.3	2.1	2.1			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
69	116-15	42-91	4220	17c中	銅	19.3	8.6	8.6	2.0	2.0			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
70	116-16	31-6	3134	17c中～後	銅	22.2	8.7	8.7	1.9	1.9			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
71	116-17	42-88	4220	17c中～後	銅	19.8	7.1	7.1	1.4	1.4			針	板目	炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
72	116-18	34-68	34203	17c後	銅	25.4	9.0	9.0	1.7	1.7			針	板目	N字枠が側面に付着、約12.1から外縁に直化、N字枠が側面に付着、約12.1から外縁に直化。	
73	116-19	33-143	3308	17c後～18c中	銅	23.8	9.7	8.7	1.7	1.7			針	板目	銅板の長方形、付着にある炭部中央の長方形は傾斜。	
74	116-20	33-43	3325	16c後、17c後～19	銅	14.8	7.5	7.5	1.4	1.4	5.0	7.5	針	板目	表面、炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	
75	116-21	34-61	34105	18c後～19c	銅	19.8	9.2	9.2	1.1	1.1	7.0	10.5	針	板目	小型、炭部全面に黒色皮装束料、炭部の段は直化、炭部の前後部の側面は直化。	

箸

形態 長さ20～30cm、径(幅)0.7cm前後の割截した細棒を用い、中央部もしくは若干端に寄った部位を最大径(幅)として、両端に向かって削る。削りの程度には差があり、一端の径が他端より大きいことが一般的である。断面の基本形は、素材の割截角棒が方形断面の場合は隅切りにより断面8角に、扁平な場合は5角か6角になる。個体によっては、更に細部の削りが入って8角以上の多角形を呈する部位も生まれるが、円形になることはない(第120図1～10)。

僅かに1点ではあるが、漆塗り箸が17世紀後葉の土坑34703から出土した(第19表53)。中央に最大径をとり、両端に向かって均等に削り出された細身で断面円形の箸である。黒漆地の一端5cm幅に赤色漆を塗る。攪乱の所産とも思われるが、福井城跡北陸新幹線福井駅部地点(福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2009)でも1点の出土報告(年代記載なし)があり、攪乱による混入とは言い切れない。

出土状況 出土総数294本のうち、278本が34遺構より出土している。出土遺構存在比(箸出土遺構数/木製品出土遺構総数)は0.15で、漆桶類(288点・124遺構)の0.55や下駄(120点・65遺構)の0.29に比べて極めて低く、出土遺構は限られる。更には、土坑3134(106本、36%)、溝3271(31本、11%)、土坑33290(28本、10%)、屋敷境溝3205(19本、6%)、土坑3154(12本、4%)、園池3308(10本、3%)の6遺構で、出土総数の70%を占めるから、箸の偏在は一層著しい。

観察・計測の結果 全資料294本の観察・計測を行った。本稿ではそのうちの18%、53点に関してその結果を呈示し(第19表)、下記の事項を指摘する。

- 1) 欠損があるものは87本(29.6%)で、それも廃棄・埋没後の新しい欠損が多く、箸の大多数は無傷で廃棄されている。よって、出土した箸は、継続的に繰り返し使用された日常の箸ではなく、1回の使用で廃棄された可能性がある。すなわち儀式や宴会で用いられた箸と想定することができ、箸の偏在・集中といった出土状況とも合致するように思われる。以上が正しければ、ここで扱った箸が示す事象は、同時期の箸一般に普遍できるものではない。
- 2) 第117図は、帰属時期(伴出陶磁器の年代)が短期間に限定できる17遺構より出土した224本の箸に関して、遺構別に長さ(mm単位)毎の本数を示したものである。この図から以下の3点が導ける。
 - i) 16世紀末～17世紀中葉に属する箸の大多数は、長さが25～27.5cmにある。その後は短くなり、18世紀前半代を含む資料では、多数が20～22.5cmに収まる。
 - ii) 17世紀後葉及びそれを含む時期の3遺構(土坑3262、溝42133、土坑3266)の箸が示す長さ23～25cmを17世紀後葉の標準的なサイズとし、これを前後の時期に適用し、引き算して得たものをその時期の標準サイズとすると、16世紀末～17世紀中葉は25～27cm、18世紀前半は21～22cmとなる。これが正しければ、17世紀初～前葉とされる土坑33290や17世紀前～中葉とされる土坑3154には17世紀後葉の箸が含まれ、逆に17世紀中葉・17世紀後葉～18世紀前半とされた溝3271には18世紀前半の箸は含まれないことになる。

また、敢えて別の見方をすると、17世紀前葉に生じた長さの多様性が、17世紀後葉にはそのうちの短い部類(22.5～25cm)に収斂し、18世紀前半には更に一層短くなったとも考えられる。

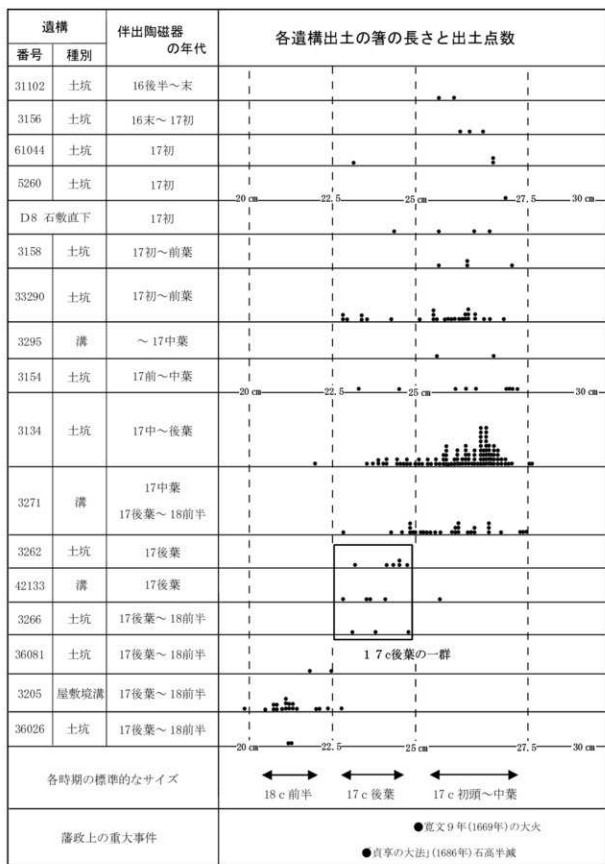
- iii) 出土量は17世紀前葉に漸増し、中葉には急増してピークを迎え、17世紀後葉に激減する。上記1)を是とし、更に箸の数量が儀式や宴会の頻度や規模を反映すると仮定すると、17世紀後葉はその種の行事が減退した可能性がある。寛文9年(1669)の大火、貞享2年(1686)の石高半減などに関連があるのかもしれない。

但し、大量出土した遺構資料を異常なノイズと判断して除外すれば、出土量に時期的な変化はないとも見える。

第19表 著観察表

番号	著番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	欠損状況	計測値 (cm)				最大径部位	断面形	挿図番号・備考	
					長さ	最大径	小口径	小口径				
1	031-16	31102	土坑	16後～末	欠損なし	25.8	0.7×0.5	0.4×0.4	0.4×0.2	1/2	8角	扁平 両側
2	031-21				両端微損	26.3	0.9×0.9	0.6×0.4	0.5×0.4	1/2	8角～円	両側
3	031-2	3156	土坑	16末～17初	欠損なし	26.5	0.6×0.4	0.5×0.4	0.4×0.4	1/3	8角	扁平
4	031-11				欠損なし	26.8	0.6×0.5	0.5×0.4	0.4×0.3	1/2	6～7角	両側
5	031-27				欠損なし	27.3	0.7×0.6	0.4×0.3	0.4×0.2	1/2	6角	両側
6	043-1	D8石散直下	土坑	17初頭	欠損なし	27.5	0.8×0.7	0.6×0.4	0.4×0.3	1/2	7～8角	
7	043-4				欠損なし	27.0	0.8×0.4	0.3×0.2	0.3×0.2	1/2	4角	扁平 両側
8	043-5				一端損	24.3	0.6×0.4	0.4×0.3	0.3×0.2	1/2	4～6角	扁平
9	043-6				欠損なし	25.8	0.6×0.5	0.5×0.5	0.4×0.3	1/2	6角	片側
10	031-17	3158	土坑	17初～前	一端微損	25.8	0.6×0.6	0.4×0.2	0.2×0.2	1/3	8角	両側
11	031-18				欠損なし	26.8	0.8×0.5	0.4×0.4	0.3×0.3	1/2	6角	両側
12	031-19				一端側面剥離	26.8	0.7×0.6	0.4×0.3	0.3×0.3	1/2	8角	両側
13	031-20				欠損なし	28.3	0.7×0.6	0.4×0.3	0.3×0.3	1/2	8角	両側
14	33-12				欠損なし	26.8	0.6×0.4	0.4×0.4	0.3×0.3	1/3	8角	
15	33-13	33290	土坑	17初～前	欠損なし	22.7	0.6×0.6	0.4×0.4	0.3×0.3	1/2	8角	両側
16	033-10				一端側面剥離	26.2	0.5×0.5	0.4×0.4	0.3×0.3	1/3	4～8角	離身
17	033-15				両端微損	22.6	0.5×0.5	0.4×0.4	0.4×0.3	1/2	8角	離身
18	033-16				一端側面剥離	27.0	0.7×0.5	0.5×0.4	0.4×0.2	1/2	6角	扁平 両側
19	031-1	3154	土坑	17前～中	欠損なし	28.0	0.7×0.5	0.6×0.5	0.4×0.3	1/2	8角	扁平 両側
20	031-23				両端微損	28.1	0.7×0.6	0.4×0.3	0.4×0.3	1/2	8角	両側
21	031-24				欠損なし	26.3	0.7×0.7	0.5×0.4	0.5×0.4	1/3	8角	
22	031-25				欠損なし	27.1	0.7×0.6	0.5×0.4	0.4×0.3	1/2	8角	
23	32-2				欠損なし	27.3	0.9×0.5	0.5×0.3	0.4×0.4	1/2	5～6角	扁平 第120図2
24	32-5	3134	土坑	17中～後	一端側面剥離	24.7	0.6×0.5	0.4×0.2	0.3×0.2	1/2	6角	両側 第120図6
25	32-6				一端側面剥離	26.4	0.7×0.6	0.5×0.5	0.5×0.4	1/2	8角	第120図4
26	32-10				欠損なし	27.6	0.6×0.6	0.5×0.5	0.5×0.5	1/2	8角	第120図1
27	032-1				欠損なし	27.3	0.7×0.7	0.6×0.6	0.5×0.5	1/3	8角	一端側面剥離上に4mm等間隔の刻み7本
28	032-2				欠損なし	27.1	0.6×0.5	0.5×0.4	0.5×0.4	1/2	8角	
29	032-6	3262	土坑	17後葉	欠損なし	25.7	0.7×0.6	0.5×0.5	0.5×0.5	1/3	8角	
31	032-95				中央側面剥離	23.0	0.6×0.5	0.5×0.4	0.4×0.4	1/2	6～8角	離身 断面円形に近い
32	032-96				一端微損	24.0	0.8×0.7	0.6×0.6	0.5×0.3	1/2	6角	側面切り
33	032-160				一端側面剥離	24.2	0.6×0.6	0.5×0.4	0.3×0.2	1/3	8角	片側
34	032-161				一端微損	24.7	0.7×0.5	0.5×0.4	0.4×0.3	1/2	6角	扁平
35	032-162				両端側面剥離	24.4	0.7×0.5	0.4×0.3	0.3×0.3	1/3	6～8角	
36	032-163				一端側面剥離	24.4	0.8×0.7	0.5×0.5	0.5×0.5	1/2	6～8角	
37	042-1				欠損なし	25.8	0.6×0.4	0.5×0.4	0.4×0.4	1/2	8角	扁平
38	042-2				欠損なし	23.5	0.6×0.5	0.6×0.5	0.6×0.5	1/3	8角	
39	042-4				42133	溝	17後葉	一端微損	23.4	0.6×0.6	0.5×0.4	0.3×0.3
40	042-6	欠損なし	24.0	0.7×0.5				0.5×0.4	0.5×0.3	1/2	4角	扁平 断面菱形
41	042-7	欠損なし	22.6	0.5×0.4				0.4×0.3	0.3×0.2	1/4	5角～円	離身 片側
42	032-15	3266	土坑	17後～18前半	両端欠損	22.9	0.7×0.5	0.5×0.5	0.5×0.4		4～6角	
43	032-16				欠損なし	24.8	0.7×0.6	0.5×0.5	0.5×0.4	1/2	4～6角	
44	032-17				保存不良	23.7	0.4×0.4	0.3×0.3	0.3×0.3	1/3		
45	32-3	3205	屋敷壇溝	17後～18前半	欠損なし	21.2	0.6×0.4	0.5×0.4	0.5×0.2	1/2	5～7角	第120図10
46	32-4				欠損なし	22.5	0.7×0.4	0.6×0.4	0.5×0.4	1/2	6角	扁平 第120図9
47	032-9				欠損なし	22.1	0.7×0.5	0.6×0.5	0.5×0.5	1/2	8角	
48	032-10				欠損なし	22.2	0.7×0.5	0.6×0.5	0.5×0.4	1/2	8角	
49	032-11				欠損なし	21.1	0.6×0.6	0.5×0.4	0.4×0.3	1/2	6～8角	
50	032-12				欠損なし	21.3	0.6×0.6	0.5×0.5	0.5×0.4	1/2	6～8角	
51	032-49				一端付近新損	20.7	0.6×0.5	0.6×0.5	0.5×0.5	1/2	6～8角	
52	032-50				欠損なし	20.8	0.6×0.5	0.5×0.5	0.5×0.4	1/3	6～8角	
53	034-10	34703	土坑	17後葉	一端小損	22.0	0.6×0.6	0.3×0.2	0.3×0.2	1/2	円	漆塗り？ 黒地の一端約5cm幅を赤く塗る

項目「最大径部位」は、おおよそ全長の何分の一に最大径があるかを示す。



第117図 17遺構出土の箸の長さとその点数

掬い具 匙4個体、杓文字6個体、桶柄杓1個体、指物柄杓5個体、曲物柄杓6個体の5種22個体が出土している。曲物柄杓は曲物の項で記載する。匙には掬い部の平面形態に2種ある。一方は円形(第120図19)、他方は矩形を呈する(第120図20)。前者例は17世紀初に属し、後者には16世紀中～後葉の1例と17世紀中葉～18世紀前半の2例がある。ともに掬い部の上面は平坦で、下面は僅かに凸面をなす。杓文字には掬い部の浅い飯杓文字(第120図26:近代)と掬い部のより深いものがある。後者は掬い部の平面形が楕円～長茄子形(第120図21～23)と幅の広い洋梨形(第120図24・25)とに分けられ、5点中4点が漆を塗る。帰属時期は、洋梨形の2例が17世紀中～後葉である。桶柄杓(17世紀後葉～19世紀中葉)は口径10.0cm、高さ9.8cmで、側板全周12枚のうちの11枚が遺存した。1枚の上部に方形孔(2.1×1.3cm)がある。おそらく欠失した1枚には円形孔があるものと思われる。上下に2条のタガ痕を残す。指物柄杓については、その観察・計測結果を第20表に示す。形態は倒立した截頭方錐の掬い部に柄を貫入させるもので、柄孔の形態等は曲物柄杓に類似する。掬い部は外側板(第123図16・17)2枚と内側板2枚を底板の上に置き、釘で連結する。木釘と鉄釘の双方が残るが、鉄釘は補修と思われる。柄は出土していないが、曲物柄杓を参照すると、対面する外側板もしくは内側板の一方に方形孔を他方に円形孔を開け、方形孔から挿入して円形孔で固定する。底辺からの高さは方形孔が高く、円形孔が低い。その高さの比は2:1である。概算最大容量は、個体番号1が3,500cc、個体番号2が1,450cc、個体番号4が750cc、個体番号5が3,000ccで、後3者の容積比は2:1:4になる。

第20表 指物柄杓観察表

番号	実測番号	遺構番号	種別	伴出陶磁器の年代	部位	上辺幅(cm)	底辺幅(cm)	板高(cm)	厚(cm)	木取	押図番号・備考
1	61-46	61044	土坑	17初	外側板	20.2 (18.0)	17.0 (15.0)	14.0	2.0	柱目	柄孔なし。内面斜辺沿いを削って、結合面とする。残存釘孔は斜辺で各3、底面で3。
	無番				外側板	20.0 (18.0)	17.0 (15.0)	13.0	2.0	柱目	柄孔なし。内面斜辺沿いを削って、結合面とする。残存釘孔は斜辺で各2、底面で3。
	61-47				内側板	[18.3]	15.2	<11.3>		柱目	底辺より10cm上の中央に長方形孔(幅2.5cm)。孔の中央より上部は欠失。この欠損後、欠損辺に磨蝕加工を施した形跡あり。斜辺側面の残存釘孔は3と1、底面は4で不規則。
	無番				底板	19.2×<11.0>			1.0	板目	1/2強が残存。形状と残存した釘孔の配置とから底板と判断した。外底面の周縁は丸く整形される。
2	32-6	3134	土坑	17中～後	外側板	16.6 (13.5)	13.7 (10.3)	13.8	1.8	板目	底辺より9cm上の中央に長方形孔(2.6×1.9cm)。内面斜辺沿いの結合面削りは内縁が深い。斜辺沿いの釘孔は各4、底面は3。第123図16
	32-4	3134	土坑	17中～後	外側板	<14.5>	<12.1>	10.5	1.5	板目	斜辺が損傷。結合面削りは32-6と同じ。底辺より4.5cm上の中央に円形孔(径1.1cm)。斜辺沿いの残存釘孔は各3、底面は2。
3	無番	3134	土坑	17中～後	外側板	18.8		<7.5>	1.2	板目	上部のみ残存。外面の形状と釘孔とから外側板と分かる。上辺から7.5cm下がっても柄孔は見えない。更に下がつて欠損部分に円形孔が存在するの、それとも柄孔は内側板か。
4	42-18	42133	溝	17後	外側板	11.8 (10.0)	8.5 (7.0)	10.4	0.8	柱目	斜辺の一方が損傷。結合面削りは段をなす。底辺より8.5cm上の中央に円形孔(径1.6cm)。斜辺沿いの釘孔は各3、底面の釘孔は2。第123図17
5	34-1	03-4包 D2大トレ		17後	外側板	20 (17.5)	[14.9] [11.5]	15.0	1.8	柱目	斜辺の一方と底辺に損傷。結合面削りは段をなす。底辺より5.5cm上の中央に円形孔(径1.5cm)。斜辺沿いの釘孔は各5、底面の釘孔痕は3。
	34-3	03-4包 D2大トレ		17後	外側板	19.5 (17.5)	[14.9] (11.5)	15.0	1.8	柱目	斜辺と底辺とが僅かに損傷。結合面削りの段は低い。底辺より11cm上に長方形孔(3.3×2.9cm)。斜辺沿いの釘孔は各5-7で、補修を含む。底面は3か。
	34-2	03-4包 D2大トレ		17後	内側板	17.4	11.7	14.8	1.5	柱目	斜辺側面の釘孔は各5で、その後補修の追加があった。底面には3個。
	無番	03-4包 D2大トレ		17後	内側板	17.4	10.8	15.2	1.5	柱目	斜辺側面の釘孔は各3で、その後追加があった。

(数字) は内法 <数字> は現況の計測値 [数値] は復原値

楊枝 長さ10～17cm、幅0.6～0.9cm、厚さ0.3～0.5cmの針葉樹材の一端を長軸に対して斜めに切断し、他端に向かって削り出し、尖らせたものである(第120図15～18)。平均サイズは長さ14.2cm、長軸と直交の広端幅0.7cm、広端厚0.4cmである。箸を長軸に直交で切断し、他端を尖らせて再加工したもの1点を含め、17点が出土した。

出土遺構は、土坑3134(17中～後)、溝3271(17中・17後～18前)、土坑3262(17後)、池3308(17後～19中)、溝31123(16後)の5遺構で、3134出土の12本が全体の71%を占め、次いで3271の2本である。これらの遺構は溝31123を除いて箸を出土した遺構であり、土坑3134が圧倒的多数を出土した点も著に近似する。また、欠損があるものは、埋没後の新しい損傷の可能性を含めて2点に過ぎず、この点も箸の出土状況に一致する。

次いで、土坑3134からの出土が大多数を占める他の木製品に、厚さ2mmの薄い針葉樹へぎ材を用いたヘラがある(第133図3・4)。総数7点のうち5点が3134より出土した。主軸に斜交して切断された広端部には漆が付着しており、主として下塗りに用いられる漆塗装具である。これが示すことは、第一に建物の新築や改築に伴う漆作業であり、第二にこの屋敷地内での漆器工房の存在である。前者の可能性が高いと思われ、箸や楊枝の大量出土の原因と関連があるかもしれない。

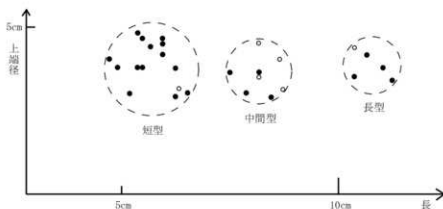
栓 樽の栓とみなしたものは、20遺構出土の29点を含め、33点が出土している(第121図1～13)。4点出土が2遺構(土坑3134・池3201)で、他の21点は18遺構より出土しているから、顕著な集中や偏在は認め難い。

円柱状の体部よりも大径の頭部の有無で、有頭と無頭とに分ける。

有頭は2点(第121図12・13)が出土している。無頭は長・上端径分布(第118図)により短型・中間型・長型の3類に分けられ、これに超短型に分類する1点加わる。観察・計測・分類結果を第21表に示す。形態やサイズの時系列上の変化は、特に見られない。

上部の貫通孔の存在を考慮に加えると、中間型と長型が注出口の栓、短型の多くが注入口の栓と思われる。但し、貫通孔の機能を特定する情報を欠く。

類品として、体部断面が多角形をなすものが2点ある。一つは有頭で体部断面が方形をなす。長さは4.8cmで短型の中でも小さい部類に相当する。体部幅3.5cmに対して、頭部径が8.2cmと頭部径が格段に大きい。もう1点は無頭の類品で、体部断面が8角形をなす。長さは7.8cmで中間型に類するが、上端径が1.8cmときわめて小さく、無頭類の未製品ではない。両者ともに栓とは機能を異にすると思われる。



第118図 無頭類栓の長・上端径分布

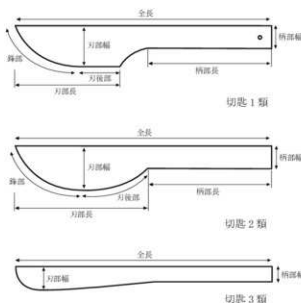
第21表 検視察表

番号	棟号 番号	実測 番号	遺構		伴出陶磁器 の年代	頭部	軸長 分類	法量			上部 孔	備 考
			番号	種別				長さ	上端径	下端径		
1		32-29	3134	土坑	17中～後	無頭	超短型	2.3	7.5	6.0		径が長より、はるかに大きい。注入口栓？
2		36-15	33137	井戸	17初～後	無頭	短型	6.3	2.3 ×1.9	1.2		下端から1.7cm上に貫通孔(径4mm、深さ約1cm)があるが、原形かどうか不明。
3	第121図10	34-13	34222	土坑	17前～中	無頭	短型	5.4	3.8	1.8		下部に貫通方形孔(1.1×0.8cm)、 圧迫痕不明。
4	第121図11	32-11	3134	土坑	17中～後	無頭	短型	5.4	3.0	1.8		側面圧迫痕(当りの)位置不明。
5		32-2	3201	池	17前～19中	無頭	短型	6.0	3.7	2.7		圧迫痕は下から3cm、その径3.4cm。
6		32-3	3201	池	17前～19中	無頭	短型	6.3	3.0	2.0		年輪に沿って一部破断。圧迫痕不明。
7		32-7	3201	池	17前～20中	無頭	短型	5.2	2.4	1.2		保存不良。
8		42-18	4223	井戸	17末～明治	無頭	短型	5.5	3.0	1.5		圧迫痕は下から2.4cm、その径2.4cm。
9	第121図7	42-17	4232	土坑	18後～19中	無頭	短型	6.0	3.3	2.5		圧迫痕不明。
10	第121図5	54-29	5409	土坑	18後～19	無頭	短型	6.4	2.5 ×2.2	1.4	○	上部の貫通孔は不整十字に交差。孔径4 ～6mm。中央部に圧迫痕か、その径は2cm。
11		32-9	3220	土坑	19中	無頭	短型	6.0	3.6	2.2		圧迫痕不明。
12	第121図9	32-10	3220	土坑	19中	無頭	短型	5.5	3.7	2.3		圧迫痕不明。
13	第121図8	36-32	3408	土坑	19中	無頭	短型	4.9	3.0	1.8		圧迫痕不明。
14	第121図6	32-8	03-2 包 F7	手掘		無頭	短型	5.7	3.5	2.4		不明瞭ながら、圧迫痕は下から3cm、そ の径3cm。
15		42-19	04-2包 B8			無頭	短型	4.7	3.2 ×2.6	2.1		保存不良。各年輪沿いにクラック。
16		8-30	C8 土橋東側堀			無頭	短型	6.6	2.4	2.1		木製品か。側面は不整7面体。
17		31-1	3195	井戸	16末	無頭	中間型	8.6	2.3	1.7		圧迫痕不明。
18		53-27	5376		16末	無頭	中間型	8.0	2.4	1.9		圧迫痕不明。
19		35-14	35109	土坑	17初	無頭	中間型	8.3	2.8	1.2	○	上端から1cm下の貫通孔は楕円形(1.4× 0.6cm)。下端から5cmに圧迫痕、その径 2.3cm。
20		43-24	4220と石垣の間		17中～後	無頭	中間型	8.9	2.5	2.0	○	上端から1.5cm下に貫通孔(径2mm)。下端 から3.5cm上に圧迫痕か、その径2.3cm。
21	第121図4	32-6	3134	土坑	17中～後	無頭	中間型	8.3	3.6	2.0	○	上端から2cm下に貫通孔(径4mm)。その1 cm下に貫通孔(深1.5cm)。下端から5cm あたりにかすかな圧迫痕、その径2.6cm。
22	第121図3	32-5	3134	土坑	17中～後	無頭	中間型	8.8	3.2	1.9	○	上端から2.4cm下に貫通孔(径2mm)。下端 から2.1cm上に軽微な段、その径2.3cm。
23		32-12	3205	溝	17後～18前	無頭	中間型	7.6	2.9	1.6		下端から上3.5cmに圧迫痕、その径2.4cm。
24		41-16	4135	榎下 土坑	17後～18前	無頭	中間型	8.3	2.9	1.6		圧迫痕不明。
25		53-28	5376		16末	無頭	長型	10.6	2.8	1.8		下端から上6.5cmに圧迫痕、その径2.4cm。 下端から上4cmに圧迫痕、その径2.1cm。
26	第121図2	42-20	42133	溝	17後	無頭	長型	11.5	2.7	1.7		下端から上4.2cmにかすかな圧迫痕、そ の径2.4cm。
27		52-26	5201		17後～近代	無頭	長型	10.9	3.3	2.1		下端から上3.3cmにかすかな圧迫痕。そ の径2.4cm。
28		43-25	C9 旧石垣崩落部 4220側			無頭	長型	11.3	3.0	2.0		下端から4cm上までの間が磨滅。その上 縁の径2.2cm。
29	第121図1	32-33	TR212	トレンチ		無頭	長型	10.6	3.5	1.7	○	上端から2cm下に貫通孔(径3mm)。下端 から6.7cm上に圧迫痕、その径2.6cm。
30	第121図13	42-22	4220 南側木製品 品区	屋敷境 溝	17前～中	有頭		5.3	4.6 ×4.3	1.6		側面キノコ形。体部長3.5cm。体部上端 径2.2cm。頭部平面形は円形～隅丸方形。 下端から2cmに圧迫痕か。
31	第121図12	42-21	4220 南側木製品 品区	屋敷境 溝	17前～中	有頭		7.0	4.3 ×3.7	2.9		側面全形ボルト形。頭部高3cm。 体部は同一径の円柱。 一般の栓ではないか。
32		32-4	3201	池	17前～19中			<6.0>	<2.0>	<1.1>		頭部欠損。先端部損傷。
33		32-31	3271	溝	17中、17後 ～18前	無頭		9.6	2.3	2.2 ×1.5		下端に縦に穿孔(径5mm、深1cm)。下端か ら1.6cmの間を若干扁平に削る。栓？

切匙 12遺構から19点が出土した(第121図14～25)。刃部の形態で3類に分け、観察と計測を行った。形態分類と部位名称、計測項目とを第119図に、個々の計測結果を第22表に示す。

観察・計測結果を以下に記す。

- 16世紀末から17世紀前半までの資料が比較的多いに対して、18世紀前半以降の資料は皆無で、形態の経時変化は認識しがたい。
- 3類は他の二つからの再調整加工により生成する可能性が考えられるが、出土した2点は17世紀中葉以前に限られ、限定された時期の独立した1形態となる可能性もある。
- 柄部端の穿孔は、全長30cm以上の1類の大型品に限られる。
- 木取りは17世紀中葉を境にして、板目・柃目の混在から、柃目のみに変化すると見える。
- 出土遺構は箸のそれに類似し、両者の廃棄行為には関連があるかもしれない。



第119図 切匙の形態分類と計測部位

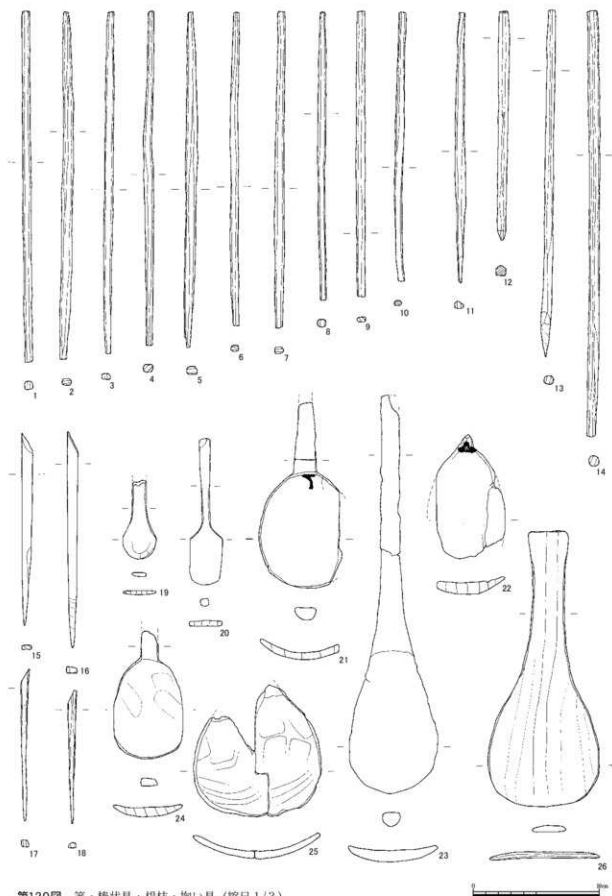
第22表 切匙観察表

番号	押印番号	実測番号	遺構		伴出陶磁器の年代	分類	全長	刃部		鋭利加工	棟厚	柄部			木取	備考
			番号	種別				長	幅			長	幅	穿孔		
1		35-23	3572	土坑	16世～17初	1類	(20.4)	9.4	4.3	○	0.4	(8.6)	2.4		板目	柄部折損
2	121-14	53-35	53170	土坑	16末～17初	1類	19.2	6.0	2.4	○	0.3	11.9	1.3	なし	板目	
3	121-15	53-36	53170	土坑	16末～17初	1類	21.8	6.8	3.1	○	0.3	13.0	1.7	なし	板目	柄部微損復元可
4		35-22	3569	土坑	17初	1類	(14.5)	8.2	2.6	○	0.3	(2.3)	1.4		板目	柄部折損
5	121-25	43-33	旧石垣崩落部裏込側		17初	3類	31.6		2.7	○	0.3		1.7	なし	板目	
6		33-18	33290	土坑	17初～前	1類	(18.8)	8.5	3.3	○	0.4	(6.8)	1.3		板目	柄部折損
7	121-21	33-16	33290	土坑	17初～前	1類	31.8	13.3	4.6	○	0.6	12.8	2.6	円孔径0.3	板目	
8	121-23	33-17	33290	土坑	17初～前	1類	31.2	9.0	3.2	○	0.6			三角孔辺1.2	板目	
9	121-22	42-32	4220 南側 屋敷境溝		17前～中	1類	37.4	13.6	5.5		0.7	20.0	3.1	円孔径0.4	板目	
10		42-31	4220 南側 木製品区		17前～中	3類	24.1		1.7	○	0.3		1.5	なし	板目	
11		31-2	3154	土坑	17前～中	2類	15.4	8.8	3.5	○	0.3	6.6	1.7	なし	板目	
12	121-16	32-37	3134	土坑	17中～後	1類	18.1	8.6	2.4	○	0.3	6.9	1.7	なし	板目	
13	121-24	32-39	3134	土坑	17中～後	1類	31.7	7.4	5.0	○	0.6	22.1	2.8	三角孔辺1.2	板目	
14	121-17	32-5	3271	溝	17中・17後～18前	1類	21.5	6.8	2.6	○	0.3	14.2	1.3	なし	板目	
15	121-20	32-38	3271	溝	17中・17後～18前	1類	26.9	11.5	2.6	○	0.5	12.9	1.9	なし	板目	刃部小欠損
16		32-12	3271	溝	17中・17後～18前	2類	(15.8)	14.4	(5.8)	(○)	0.6	(1.4)			板目	柄部はほぼ全損 刃部の棟も欠損
17		42-28	42133	溝	17後	2類	20.7	12.5	4.2	○	0.3	8.2	2.0	なし	板目	
18	121-19	33-13	3205	溝	17後～18前	1類	20.9	5.8	3.2	○	0.3	11.5	2.0	なし	板目	
19	121-18	33-14	33241		17後～18前	1類	23.1	6.5	2.5	○	0.2	14.6	1.7	なし	板目	柄部小欠損

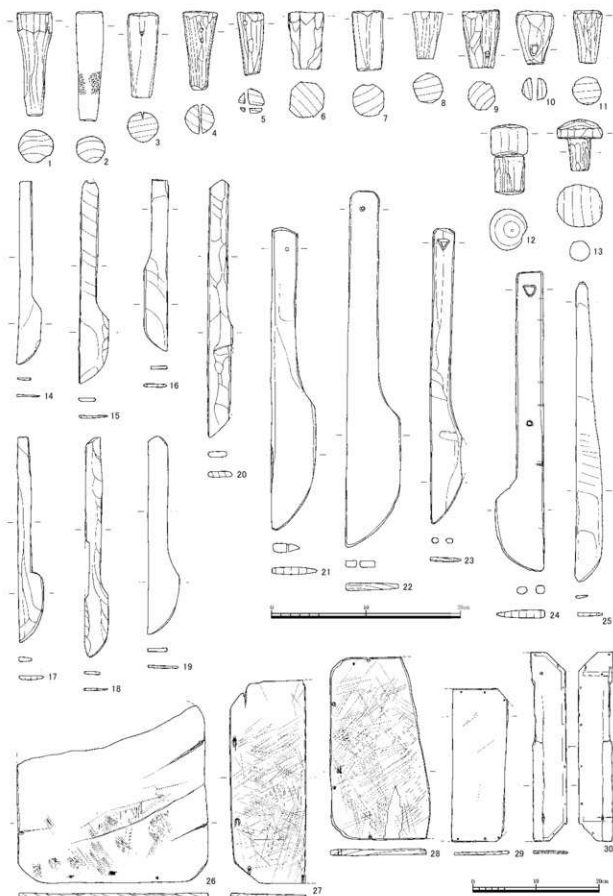
計測値の単位はcm

(○) は推定

(数字) は残存部分の計測値



第120図 箸・棒状具・楊枝・掬い具（縮尺1/3）



第121図 栓・切匙・折敷 (栓・切匙：縮尺1/4、折敷：縮尺1/6)

蓋板・底板 曲物や桶、樽の蓋板や底板で、側板より遊離したものが229点出土している。これらを1材か複数材の結合かで単材型と結合材型とに大区分し、更に蓋板・底板・蓋底板の3種に分け、それぞれを第23・24表に示す表徴で形態細分した。蓋板の抽出は摘みや把手、加飾、焼印・墨書による。底板は釘孔や脚で識別した。これら両者の残余を「蓋底板」とし、蓋板で多用される周縁や側面の加工を適用して形態細分した。蓋底板のうちa類が底板、他の類が蓋板である可能性が高い。観察・計測結果については、173点に関して第26～30表の観察表に記載する。

単材型蓋板の過半を占めるのが、樹皮紐を木目込みし、摘みや把手、別材による加飾の元締め等とした5～10類である(第123図7、第141図13～16・20)。柾目板を用い、2～3本の夏材を間において、春材に長さ0.5cm程度の平行のスリットを入れ、これに樹皮紐を通したものである。大多数は体部外に延びる紐両端を欠失し、コ字状の樹皮かがりが残存するのみである。そこで、この樹皮かがりの位置と個数を分類の指標とし、5～10類に細分した。樹皮利用の共通性から、その大部分は曲物の蓋と思われる。なお、8～10類に関しては側板に連絡する樹皮紐とみなし、底板となる可能性も考えられる。

結合材型では底板抽出の証拠がなく、蓋板と蓋底板の2種に分ける。蓋板のなかで出土量が多いのは、注入口をもつ3類樽蓋と1類杖状把手付き蓋である。後者は鉄鍋や甕の蓋としても機能したであろう。

第25表は伴出陶磁器により時期が判明している197点に関して、時系列に沿って遺構毎の各類出土数量を示したものである。単材型蓋板の樹皮紐併用(5～10類)の中では、5・9・10類の出現が古く、主体をなす6類は17世紀中葉以降と見える。単材型底板の釘使用は18世紀前半で終わるようである。

第122図は蓋板および底板の径とその数量を示すヒストグラムである。単材型は0.5cmで、結合材型は1cmで径を区分した。蓋底板はa類を底板に、他を蓋板に含めた。単材型蓋板では径1.3cm以下の小型が圧倒的に多く、これらの中には「海鼠腸」(このわた)の焼印や「納豆」の墨書も存在する。ある種の食品の販売容器として市中に多量に出回った可能性がある。また、蓋板、底板ともに14cm未満に3峰があり、第1峰(径7cm)と第2峰(径8.5cm)とは両者がよく一致する。このサイズでは曲物、桶に蓋が付くのが一般的であったと考える。第3峰(径12cm前後)も両者は概して一致するが、ピークがずれる。蓋の付かないものの存在が影響したか、一回り大きな上乗せの蓋が用いられたと推定する。径14.5cm以上では蓋板の量が底板を凌駕する。他の容器の蓋としての機能が主であったと思われる。結合材型では蓋板と底板のサイズ対応は不明瞭である。また、径24cm未満では蓋板の量が底板を上回る。これらの蓋板、特に径15cm未満に関しては、単材型が底板として対応する可能性もある。

第23表 単材型の形態分類と各類の出土数量

分 類			数量	分 類			数量
蓋 板	1類	中心に摘みを取り付ける小孔をもつもの	8	底 板	1類	側面全周に釘孔をもつもの	15
	2類	上面に1本または2本の杖状の把手を付すもの	4		2類	縁辺の円周沿いに釘孔をもつもの	1
	3類	下面の周縁に幅5mm程度の段を削り出すか、下面に2本の棧を渡して同様な機能をもたせたもの	3		3類	嵌め込み式の3脚をもつもの	2
	4類	注入口をもつもの(樽蓋)	2	合 計			18
	5類	中心に1点の樹皮かがり	1	蓋 底 板	分 類		数量
	6類	中心より偏した位置で、1点の樹皮かがりによる摘み及び加飾	25		a類	周縁に顕著な加工をもたない	72
	7類	6類と同じ樹皮かがりに加え、中心に小孔	4		b類	片面の周縁角を斜めに面取り	4
	8類	縁辺の、直径上の2ヶ所に樹皮かがり	2		c類	片面の周縁角を丸く整形	3
	9類	3等分の位置で、縁辺の3ヶ所に樹皮かがり	4		d類	片面周縁に段を削り出し、段面上で盤中心に向かって深い溝を入れたもの、蓋3類に含まれる可能性あり。	2
	10類	4等分の位置で、縁辺の4ヶ所に樹皮かがり	1		合 計		81
	11類	焼印をもつもの他	4				
合 計			58				

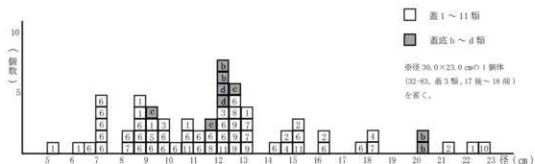
＜掲載した実測図＞ 蓋板1類：第123図5 蓋板2類：第123図1～3 蓋板3類：第123図6・8、第141図22 蓋板4類：第141図18
蓋板6類：第123図7、第141図13～16・20 蓋板11類：第141図12・13・17・24 底板3類：第123図11・12

第24表 結合材型の形態分類と各型の出土数量

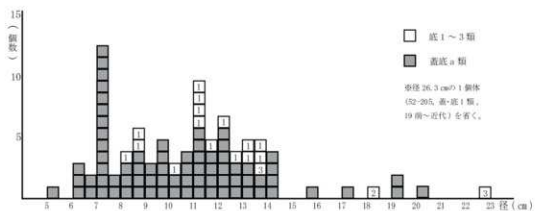
蓋板	分 類		数量
	1類	上面に棧状の把手を付すもの	
	2類	片面の周縁に幅5mm程度の段を削り出すもの	
	3類	注入口をもつもの(樽蓋)	
	4類	墨書をもつもの	
合 計			16

蓋底板	分 類		数量
	a類	周縁に顕著な加工をもたない	
	b類	片面の周縁角を斜めに面取り	
	c類	片面の周縁角を丸く整形	
合 計			59

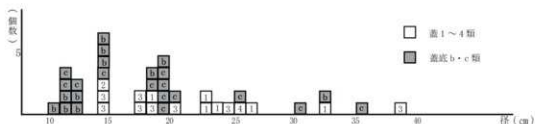
<掲載した実測図> 蓋板1類: 第123図4、第141図26 蓋板3類: 第123図9、第141図19・23 蓋板4類: 第141図25



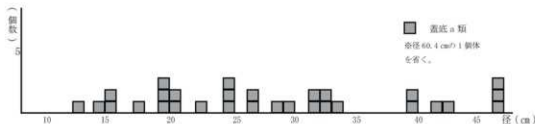
1. 単材型蓋板の径と数量



2. 単材型底板の径と数量



3. 結合材型蓋板の径と数量



4. 結合材型底板の径と数量

第122図 蓋板・底板の径と各数量

第25表 年代が判明する遺構から出土した蓋板・底板各類の時系列を考慮した出土数量表

遺構		伴出陶磁器 の年代	単 材 型											結合材型						合 計								
番号	種別		蓋 板					底 板						蓋底板			蓋 板				蓋底板							
			1 類	2 類	3 類	4 類	5 類	6 類	7 類	8 類	9 類	10 類	11 類	1 類	2 類	3 類	a 類	b 類	c 類	d 類	1 類	2 類	3 類	4 類	a 類	b 類	c 類	
31108	土坑	16中～後											1				1										2	
31122	土坑	16後											1														1	
31118	土坑	16末																						1			1	
34244	溝	16末	1														2							1			4	
32135	土坑	16末～17初															1										1	
42134	土坑	16末～17初															1										1	
3194	井戸	16末～17前					1																				1	
34331	土坑	16末～17中								1																	1	
3569	土坑	17初												1													1	
32123	土坑	17初										1															1	
34373	溝	17初	1																								1	
34444	土坑	17初																						1			1	
61044	土坑	17初	1																						1		2	
5260		17初 (19)																						1			1	
36159	土坑	17前 (～19)															1										1	
4220	木製品大塚区	17前～中											1				1										2	
34222	土坑	17前～中															3										3	
34701	土坑	17前～中	1																								1	
3295	溝	～17中															1										1	
4220	惣土王	17中	1																								3	
32127	溝	17中												1			1							1	1		4	
3148	土坑	17初～後		1													1										1	
34196	土坑	17初～後															1						1	2			4	
3134	土坑	17中～後	1	1			2						3	1	8					1		5	1	23			31	
3153	溝	17中～後																									1	
4220	a溝掘上17中	17中～後												1										1			1	
34126	土坑	17中～後						1																			1	
36205	土坑	17中～後																					2	1			3	
3373	埋方	17後	1																								1	
32104	土坑	17後						1																			1	
34203	井戸	17後															1										1	
36078	土坑	17後												1													1	
42133	溝	17後						1									2										3	
5428	土坑	17後								1																	2	
36178		17後																									1	
3271	溝	17中、17後～18前						3						2			1				1			1			8	
5283	右列下	17後～18前																									1	
3205	大溝	17後～18前	1													1	1	2					1	1			7	
4135	掘上土坑	17後～18前																					1				1	
5120	土坑	17後～18前																							1		1	
36084	土坑	17後～18前																									1	
3267	溝	18前																									1	
36117	土坑	18後 (～19)	1																								1	
5408	土坑	18後～19前															1										1	
33171	土坑	18後～19前																									1	
4150	土坑	19前																									1	
3291	溝	17前～19中						3									1	11				1	2	1	1	20		
3308	掘地	17後～19中																				1	1				9	
4232	土坑	18後～19中															2								1		3	
3138	土坑	～19中																									2	
3352	土坑	～19中																							1		2	
34111	土坑	～19中	1					1									2								1		5	
35149	埋方	～19中																									1	
3196	土坑	19中																									1	
3220	土坑	19中																						1			1	
3408	土坑	19中	1					1		2							3	1						3	2		15	
34110	土坑	19中																						1			2	
3325	屋敷境溝	16後、17後～19																									1	
5270		(17初)～19																									1	
34112	土坑	(17～) 19															1										1	
4220	屋敷境溝	17～19									1																1	
4282		17～19																							1	1	3	
34109	瓦葺り	17後～19															1										1	
4281	土坑	17後、18末～19																									1	
3108	溝	18後～19															1										1	
5320	溝	18後～19																									1	
36073	ピット	18後～19						1																	1		1	
5202	土坑	18後～19																							1		1	
3390	溝	19															1										1	
5109	土坑	19																						1	1		3	
35150	土坑	19																									1	
4222	井戸底	17前～明治																							1	2	3	
4238	屋敷境石列	17～明治															1										2	
4222	井戸内	17末～明治																									1	
3309	土坑	19中～明治						1																			1	
3362	土坑	19中～明治																									1	
6301	土坑	～19 (～古代)																							1		1	
5201	土坑	17後～古代															1										1	
62004	溝	17後～古代																									1	
62002	井戸	19～近代											1														1	
3360	土坑	19中～近代																									1	
9401	土坑	19中～近代																							1		3	
数量合計			8	3	2	2	1	21	3	2	2	1	4	12	1	2	41	3	3	1	3	1	8	1	30	12	11	19

第1節 出土木製品の概要

第26表 単材型蓋板観察表

番号	分類	実測番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	法量cm 寸 法	木 厚	押図番号・備考
1	1類	34-115	34284	16末	13.2	0.8	板目 中心孔径10mm、1/2残
2	1類	34-125	34373	17期	22.0	0.5	板目 中心孔径7mm、中心孔の周囲に3小孔、1/2残
3	1類	34-126	34791	17前～中	8.7	0.7	板目 小径面の中心孔の周囲に方形配置の4小孔あり
4	1類	42-229	4220	17中	5.4	0.6	板目 南側縁上2、八角形、中心孔径5mm
5	1類	32-28	3134	17中～後	10.8	0.2	板目 中心孔径2mm、3/4残、縁辺部矩形0.1
6	1類	33-100	3373	17後	6.0	0.5	板目 中心孔5mm、孔周側変形
7	1類	33-111	3408	19中	9.2	0.5	板目 中心孔径2mm、3/4残
8	2類	61-222	61044	17初	14.6	0.9	板目 中央の杖状把手部(幅1.4cm)に3釘孔、全体に磨滅、4/5残
9	2類	31-11	3148	17初～後	16.0	0.7	板目 中央の杖状把手部(幅1.4cm)に4小孔、下面縁辺に丸み、1/3残
10	2類	32-66	3134	17中～後	15.3	0.7	板目 杖状把手(高1.9cm、幅1.1)は下面から釘留め、
11	2類	43-194	04-35	17中	21.0	0.7	板目 2条の釘留め杖状把手は薄針形断面(高0.5、幅1.3cm)、1/2残
12	3類	32-83	3205	17後～18前	30.0	0.7	板目 楕円形30×23cm、4/5残
13	3類	36-159	36117	18後(～19)	9.6	0.7	板目 小径面にある方形配置の4釘孔が羽材を固定、
14	3類	33-93	P1		12.4	1.5	板目 周縁幅5mm、
15	4類	36-43	3408	19中	18.0	1.5	板目 注入孔径2.5cm、楕円「□□」/大きなミヤノ松本、下面周縁角に削り面あり、
16	4類	33-107	3309	19中～明治	14.8	1.7	板目 注入孔径2.5cm、中央に不明瞭な楕円、下面周縁に面取り、
17	5類	動物31-1	3194	16末～17前	9.0	0.6	板目 底板に転用された蓋板、中心部において、樹皮は材中で断面コ字状に残、
18	6類	43-197	目石堀	17期	12.4		板目 目石堀遺跡、1個が面上に少く延びて折損、断面に釘孔5、底板から垂へる転用が、3/4残
19	6類	32-45	3291	17前～19中	16.3	0.4	板目 樹皮縁を通るへきが5輪の花弁状の装飾をなす、
20	6類	32-25	3291	17前～19中	11.4	0.3	板目 樹皮縁の下方に墨書「□□」
21	6類	32-21	3291	17前～19中	9.5	0.7	板目 樹皮は断面コ字状に残、大径面に墨書「江州…」、楕円「江州…」、
22	6類	32-21	3271	17中～18前半	8.8	0.3	板目 樹皮は材中で断面コ字状に残、
23	6類	32-86	3271	17中～18前半	10.9	0.5	板目 大径面に上へ樹皮面がやや延びて折損、
24	6類	32-71	3134	17中～後	7.0	0.7	板目 樹皮が材中に残、1/2残
25	6類	32-24	3134	17中～後	9.5	0.4	板目 大径面に上へ墨書「上」
26	6類	34-132	34126	17中～後	11.0	0.4	板目 大径面に上へ一方の樹皮面がやや延びて折損、1/2強残
27	6類	36-160	36178	17後	11.5	0.6	板目 面上に樹皮面が延びて折損、
28	6類	42-164	42133	17後	8.6	0.4	板目 樹皮は材中で断面コ字状に残、
29	6類	32-18	32104	17後	14.2	0.5	板目 中央の割面のみ残、大径面に上へ墨書「面上○○○○砂糖付」
30	6類	52-209	5293	17後～18後	17.6	0.3	板目 1端が面上を延びて再び材中に入る、1/3残
31	6類	33-99	3308	17後～19中	9.0	0.4	板目 大径面に上へ樹皮面がやや延びて折損、
32	6類	32-40	3267	18前	7.0	0.4	板目 樹皮は材中で断面コ字状に残、
33	6類	53-219	5320	18後～19	15.0	0.5	板目 樹皮が面上で、ノ字状に残存した羽材を巻き込、
34	6類	32-41	4150	19前	12.5	0.4	板目 樹皮は断面コ字状に残、墨書2行「濱納豆」「淨得寺」
35	6類	34-128	34111	～19中	7.2	0.6	板目 樹皮縁の一方が輪をなす、
36	6類	34-123	34110	19中	7.1	0.6	板目 樹皮縁の一方が輪をなす、他方がそれに残って折損、
37	6類		3408	19中	12.4	0.4	板目 墨書2行「納豆」「重泉」
38	6類	32-32	3408	19中	7.0	0.7	板目 大径面に上へ片側に寄って折損、
39	7類	33-110	3408	19中	13.4	0.5	板目 中心にも同様な樹皮の巻き込みが残り、1/2残
40	7類	33-225	3408	19中	8.0	0.4	板目 中心に本釘が残存、面上に樹皮面が延びて折損、
41	7類	54-211	5401	19中～近代	13.0	0.5	板目 中心に径4mmの、中心孔を通って小さな丸い溝、樹皮は材中で断面三角形状に残、
42	8類	54-215	5428	17後	12.8	0.7	板目 樹皮は両面ともに材中に残、断面コ字状、4/5残
43	8類	42-172	4220	17～19	11.5	0.6	板目 一方は面上に延びて折損、他方は材中にのみ残、
44	9類	34-139	34331	16末～17中	13.2	0.7	板目 樹皮は2ヶ所で材中に残、断面コ字状、1/2残
45	9類	43-198	目石堀	17期	12.6		板目 目石堀遺跡、樹皮は3ヶ所も材中に残、断面コ字状、
46	9類	52-208	5270	～19	12.8	0.5	板目 樹皮1個は面上に若干延びて折損、他は材中で残、3/4残
47	10類	32-82	32123	17期	22.8	0.8	板目 4ヶ所中2ヶ所は樹皮取付け部分が僅かに欠損、
48	11類	31-235	31108	16中～後		0.6	板目 周縁部に2孔(径4mm)、部分残
49	11類	36-42	4232	18後～19中	10.8	0.6	板目 大径面中央に楕円「□□」/南品瀬ノ吉田、
50	11類	36-43	34111	～19中	12.0	0.7	板目 大径面に上へ中央に分銅形跡、中の文字不明、
51	11類	62-216	62002	19～近代	15.4	1.5	板目 大径面周縁に狭り1個、大径面に墨書7小径面に楕円印「吉村」、周縁を加工し大径面入り

第27表 単材型底板観察表

番号	分類	実測番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	法量cm 寸 法	木 厚	押図番号・備考
1	1類	31-8	31122	16後	11.8	1.1	板目 側面4ヶ所に釘孔を均等配置、中心及び中心と周縁との中間位置に孔、蓋への転用が、
2	1類	35-145	3569	17期	13.8	0.7	板目 均等配置の6ヶ所に釘孔、
3	1類	42-228	4220	17前～中	13.6	0.7	板目 釘孔2ヶ所残、墨印「木製品大塚区」、2/3残
4	1類	32-29	3271	17中～18前半	8.6	0.7	板目 不均等配置の4ヶ所に釘孔、片面の周縁角に丸み、
5	1類	32-88	3271	17中～18前半	12.2	0.7	板目 均等配置の6ヶ所に釘孔、
6	1類	32-30	32127	17中	13.0	1.0	板目 釘孔3ヶ所が偏在、
7	1類	32-26	3134	17中～後	8.7	0.4	板目 不均等配置の4ヶ所に釘孔、
8	1類	32-55	3134	17中～後	12.9	0.7	板目 側面8ヶ所に釘孔、
9	1類	32-58	3134	17中～後	11.2	0.6	板目 釘孔3ヶ所残、2/3残
10	1類	42-183	4220	17中～後	13.0	0.7	板目 釘孔4ヶ所残、墨印「清瀬下中」
11	1類	36-156	36076	17後	11.4	0.5	板目 釘孔1ヶ所残、4/5残
12	1類	32-74	3205	17後～18前	10.4	0.4	板目 釘孔1ヶ所残、3/4残
13	2類	32-65	3134	17中～後	18.0	0.3	板目 円周に沿って7個の釘孔、本来10個が、蓋の上に側板を固定が、3/4残
14	3類	32-51	3291	17前～19中	13.7	0.7	板目 片面周縁3ヶ所に、底が広がる溝を中心に向って彫り、これに片板断面の脚を挿入、
15	3類	32-61	3205	17後～18前	22.6	0.7	板目 32-51と同様か、脚は釘で固定か、位置が不規則な4孔あり、

第28表 単材型蓋底板観察表

番号	分類	実測番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	法量cm 径 厚	木取	備考
1	Ⅱ類	03-15C	31108	16世紀後半	11.6	0.7	板目 発掘番号No6
2	Ⅱ類	32-68	3235	16世紀後半～17世紀初	19.5	0.7	板目 1/2板目
3	Ⅱ類	34-130	34244	16世紀後半	10.5	0.4	板目
4	Ⅱ類	34-143	34244	16世紀後半	12.6	0.5	板目
5	Ⅱ類	32-19	32135	16世紀後半～17世紀初	8.0	0.5	板目
6	Ⅱ類	42-134	42134	16世紀後半～17世紀初	12.0	0.7	板目 2/3板目 片面に切割痕
7	Ⅱ類	43-196	43196	17世紀初	7.2	0.3	板目 磨損(凹み)痕跡あり
8	Ⅱ類	34-141	34196	17世紀後半	11.2	0.6	板目
9	Ⅱ類	42-184	4220	17世紀後半	7.8	0.5	板目 磨損(木製品大量区)
10	Ⅱ類	34-122	34222	17世紀後半	6.9	0.3	板目 3/4板目
11	Ⅱ類	32-78	3295	17世紀後半	13.7	0.6	板目
12	Ⅱ類	32-87	3271	17世紀後半	9.6	0.6	板目
13	Ⅱ類	32-33	32122	17世紀後半	5.4	0.4	板目 1/4板目
14	Ⅱ類	32-25	3134	17世紀後半	6.0	0.5	板目 1/2板目
15	Ⅱ類	32-27	3134	17世紀後半	11.4	0.7	板目
16	Ⅱ類	32-46	3134	17世紀後半	7.0	0.4	板目 3/4板目
17	Ⅱ類	32-60	3134	17世紀後半	17.2	0.6	板目
18	Ⅱ類	32-70	3134	17世紀後半	11.5	0.5	板目 4/5板目
19	Ⅱ類	32-90	3134	17世紀後半	14.1	0.5	板目
20	Ⅱ類	34-112	34203	17世紀後半	20.0	1.8	板目 磨損(欠損)
21	Ⅱ類	42-178	42133	17世紀後半	11.5	0.7	板目
22	Ⅱ類	42-174	42133	17世紀後半	12.6	0.3	板目 1/2板目
23	Ⅱ類	32-37	3205	17世紀後半	12.3	0.6	板目

第29表 結合材型蓋底板観察表

番号	分類	実測番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	法量cm 径 厚	木取	備考
1	Ⅱ類	32-80	3134	17世紀後半	18.6	0.7	板目 把手当りに釘孔2ヶ所。両面縁辺角を丸く彫る。蓋材材の接合部に釘孔もみ。1/2板目
2	Ⅱ類	32-65	3271	17世紀後半～18世紀初	23.2	0.8	板目 把手当り縁1.3cm。釘孔あり。両面縁辺角を丸く彫る。1/2板目
3	Ⅱ類	24-212	5401	19世紀～近代	32.4	0.6	板目 直徑上の3ヶ所から乾把を手を推す。黒色塗装。1/2板目
4	Ⅱ類	8-219	8219		22.2	1.1	板目 2材結合・釘2ヶ所。釘4本で結合の台形残手(高さ8mm、厚10mm)。両面縁辺角は丸い。
5	Ⅱ類	32-19	69-2		22.8	0.6	板目 把手部装飾(幅1.4cm、厚0.3cm)。磨損(表面)。下「文政七年三月上旬」。1/4板目
6	Ⅱ類	0031-2019	7812		26.0	0.9	板目 両面に把手当り。釘孔3ヶ所。下両面縁角に丸み。3/4板目
7	Ⅱ類	32-617	62004	17世紀後半	14.2	1.4	板目 全周の縁角5mm。深さ4mm。2材結合。
8	Ⅱ類	34-140	34196	17世紀後半	38.4	1.6	板目 径入口径2.5cm。結合釘孔2。1/4板目
9	Ⅱ類	32-18	3201	17世紀後半	14.2	1.3	板・板 径入口径2.6cm。結合釘孔2。片面縁角7mm幅が斜線。
10	Ⅱ類	34-214	5428	17世紀後半	20.3	1.1	板目 径入口径1.8cm。4材結合。釘孔は各2。平角指形部20.3×19.3cm。全周縁角が斜線。
11	Ⅱ類	32-46	4281	17世紀後半	17.5	1.5	板・板 径入口径2.4×2.2cm。2材結合。指形「こめ」の。片面縁角を斜めに面取り。
12	Ⅱ類	32-62	3308	17世紀後半	24.4	2.0	板・板 径入口径2.8cm。3～4材結合。釘孔各2。片面縁角を斜めに面取り。
13	Ⅱ類	32-618	6301	17世紀後半	14.8	1.5	板・板 径入口径2.6cm。2材結合。指形「こめ」なし。
14	Ⅱ類	32-102	3408	19世紀	18.0	1.6	板・板 径入口径2.4cm。2材結合。結合釘2。片面縁角に丸み。主軸3/16(1/4)は3/16(1/4)に同じ
15	Ⅱ類	33-101	3362	19世紀～近代	17.2	1.3	板目 径入口径2.5cm。2～3材結合。結合釘孔2。片面縁角を斜めに面取り。1/2板目
16	Ⅱ類	33-334	3308	17世紀後半	25.6	0.6	板目 縁材部可能性もあり。磨損(開口)。全周縁角が斜線。1/4板目

第30表 結合材型蓋底板観察表

番号	分類	実測番号	遺構番号	伴出陶磁器の年代	法量cm 径 厚	木取	備考
1	Ⅱ類	31-6	31118	16世紀後半	17.5	1	板目 2材結合 結合釘孔2
2	Ⅱ類	34-129	34244	16世紀後半	19.6	1.3	板目 1/2板目 結合釘孔2
3	Ⅱ類	52-206	5260	17世紀(190)	46.0	1.2	板目 1/3板目 結合釘孔2
4	Ⅱ類	34-113	34444	17世紀後半	39.4	0.8	板目 1/4板目 推定結合材型
5	Ⅱ類	61-221	61044	17世紀後半	31.6	1.1	板目 1/4板目 結合釘孔2
6	Ⅱ類	34-116	34196	17世紀後半	36.2	1.6	板目 1/3板目 結合釘孔2
7	Ⅱ類	34-117	34196	17世紀後半	29.0	1.2	板目 径入口径 1/3板目 角付
8	Ⅱ類	42-174	4220	17世紀後半	24.6	0.9	板目 1/2板目 磨損(土下)
9	Ⅱ類	32-22	32127	17世紀後半	28.5	1.1	板目 1/2板目 結合釘孔2
10	Ⅱ類	32-54	3134	17世紀後半	32.0	1.1	板目 1/4板目
11	Ⅱ類	32-56	3134	17世紀後半	46.0	2.3	板目 1/4板目 推定結合材型
12	Ⅱ類	32-59	3134	17世紀後半	42.8	1	板目 1/3板目 結合釘孔2
13	Ⅱ類	32-64	3134	17世紀後半	41.0	1.4	板目 1/4板目 結合釘孔2
14	Ⅱ類	32-89	3134	17世紀後半	33.4	2.0	板目 1/2板目 結合釘孔2
15	Ⅱ類	36-231	36205	17世紀後半	60.4	1.3	板目 1/4板目 結合釘孔2
16	Ⅱ類	32-73	3205	17世紀後半	31.4	1.0	板目 1/6板目 結合釘孔2
17	Ⅱ類	41-167	4135	17世紀後半	32.0	1.0	板目 3材結合側面黒色彫
18	Ⅱ類	32-38	3201	17世紀後半	22.4	1.0	板目 3/4板目 釘孔4は磨損
19	Ⅱ類	32-234	3201	17世紀後半	12.2	1.4	板目 やや傾斜 結合釘孔2
20	Ⅱ類	42-170	4222	17世紀後半	19.2	0.9	板目 4材結合 結合釘孔2
21	Ⅱ類	34-134	34173	18世紀後半	15.0	1.5	通板 4/5板目 2材結合 釘2
22	Ⅱ類	32-203	3202	18世紀後半	46.0	1.2	板目 1/3板目 結合釘孔2
23	Ⅱ類	36-183	36072	18世紀後半	29.4	1.2	板目 1/4板目 結合釘孔2
24	Ⅱ類	34-124	34110	19世紀	29.4	1.3	板目 1/2板目 結合釘孔2
25	Ⅱ類	32-23	3220	19世紀	24.2	2.0	板目 磨損(平文) 材転用

曲物・桶 曲物は出土総数19個体で、うち18個体が12遺構より出土している(第123図18～24)。顕著な偏在は認められないが、なかでは溝3205の4個体出土が目立つ存在である。器内内訳は柄杓が6個体、筒形容器が13個体である。ともに黒色塗装されたものを含む。柄杓3個体には柄の断片が遺存していた。観察・計測結果を第31表に示す。

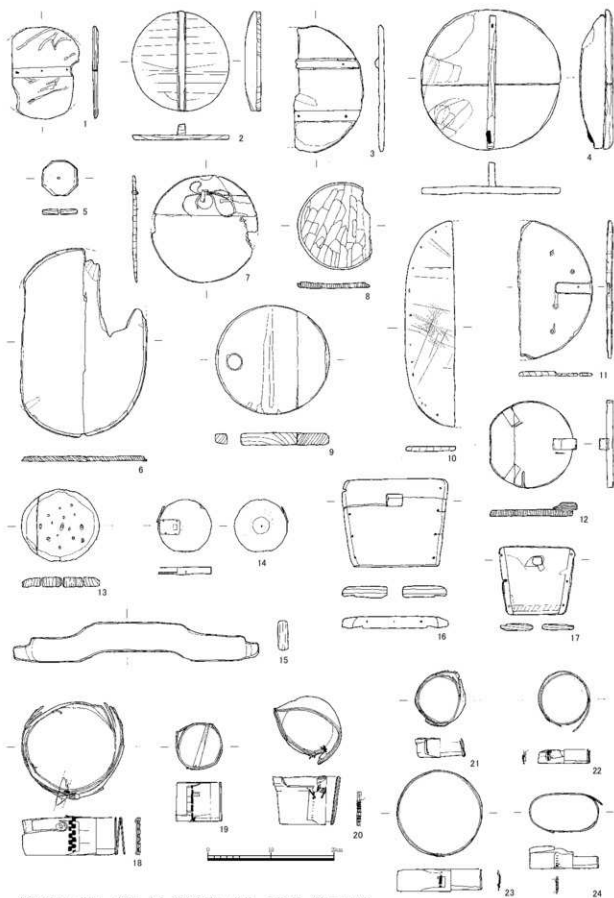
桶は出土数14個体で、単独出土の把手5個体を含む。桶は識別できなかった。第32表の観察表には3個体を記載する。把手には3種ある。観察表中番号1の把手と同形が3点で、長さは23～27cmである。他に合せ弓形のもの(第123図15)と直線・板状のものとがあり、ともに長さ約39cmを測る。なお、墨書された側板が2点ある。

第31表 曲物観察表

番号	実測番号	遺構番号	出土陶磁器の年代	形態	側材 (mm)				総幅 (mm)	底板 (mm)			備考
					径	高	材質	厚・重		径	厚	木取	
1	34.13	34136	土坑	17期～前	柄杓	135	<110	1～2	2重巻	5			側材と柄の一部。下縁から75mm上に長方形柄孔(幅18mm)、35mm上に円孔(径7mm)、幹葉柄の柄が5孔にまたがる。柄の断面サイズは最大18×9mm。長方形柄は側部縫いの横に、もう一方の縁にも部分縫い。円孔の両端は山形縫い。
2	32.6	3205	溝	17後～18前	柄杓	120	37	1～2	1重巻	2.5			側材のみ。下縁から33mm上に長方形柄孔(16×8mm)。その対面の下縁から20mm上に円孔(径4mm)。巻きの重なる部分の外縁縫いを生じ、内側面も部分縫い。主観に縁に長方形柄を施す。もう一方の縁には山形に縫い。
3	32.9	3205	溝	17後～18前	柄杓	145	60	1～2	1重巻・2重巻	4～5	136	8	側材は半ば以上欠損。下縁より45cmに円孔(径12mm)。その中に丸棒の小片が残存。柄の一部。材は竹か。外巻きは両の側縁縫いで結合。2例の縫い・巻は千鳥状。 第123図18
4	36.18	36084	土坑	17後～18前	柄杓	73	64	1～2	1重巻	3	70	5	下縁から47mm上に長方形柄孔(20×10mm)。対面の下から20mm上に円孔(径4mm)。残存柄(長77mm)は長方形断面(5×9mm)で、先が尖って円孔に入る。内外黒色塗装。 第123図19
5	32.8	3201	溝	17前～19中	柄杓	<120	70	1	2重巻	4			側材の損傷大。長方形柄孔の一部残存。孔縁の縫いは外面で三角形を結ぶ。同様の底板(径71mm、厚6mm)は別個体。
6	42.20	94.3型 黄褐色土			柄杓	145	83	1～2	2重巻	5			側材は欠損。円孔は縫いの縁。柄は部分縫い。
7	31.1	3184	井戸	16末～17前	筒形			1	1重巻		90	6	側材は部分残存。底板は巻きの断面。中心に横縁縫い十字形。
8	34.13	34136	土坑	17前～中	筒形	<130	<40	1	2重巻	5	136	7	底板の断面のみ。中に付着。一部木取。3ヶ所で縫い。
9	32.11	3201	溝	17後～19中	筒形	80	>29	1	2重巻	3	75	5	柄に内面に巻きの形跡。 第123図20
10	32.10	3134	土坑	17中～後	筒形	126	70	1	2重巻	4	122	6	縫い縫い保存。底縁に幅1mmの側材を付加。
11	32.4	4134	土坑	17中～後	筒形	90	75	2	2重巻	2	83	4	縫い縫い断面。外面で底材1本縫い。内面で1～2本縫い。 第123図21
12	42.18	4220	黄褐色土 表面1層	17中～後	筒形	<143	>6.4	1	2重巻	5	135	7	底板側面に円孔。縦に縫いは2例で接し。巻・巻が千鳥状。側材内面塗装。
13	42.19	42133	溝	17後	筒形	140	>70	1～2	1重巻・2重巻	4			側材のみ。各々縫い結したものの2枚重なる。 第123図22
14	32～5	3205	溝	17後～18前	筒形	78	>33	1	2重巻	3	74	4	外面に黒色塗装。
15	32～7	3205	溝	17後～18前	筒形	<70	<60	1	2重巻	5	71	5	側材は部分残存。底板側面の直径上の対称位置に円孔。 第123図23
16	41.17	4135	黄褐色土	17後～18前	筒形	<82		1	2重巻	3	77	8	側材は僅かに残。底板内面に塗装。
17	32～3	3308	溝	17後～19中	筒形	134	>3.2	1	1重巻	4	129	5	口縁欠損。縫いの縫いは横。 第123図24
18	32～2	3308	溝	17後～19中	筒形	110 ×61	>2.5	1	1重巻	3	107 ×58	5	底面が側材底面と同一面。巻の可能性。縫いは外面が底材1本縫い。内面が3～5本縫い。内側面に黒色付(シーリング)。 第123図25
19	34.14	34110	土坑	19中	筒形	92	>72	1～2	2重巻	7			側材のみ。縦に縫い。その対面や他にも部分縫い。

第32表 桶観察表

番号	実測番号	遺構番号	出土陶磁器の年代	形態	部位	計測値 (cm)				木取	備考
						長	内面下縁幅	径	厚		
1	無番	3194 井戸	16末～17前	桶	長側板	24.4	5.5		1.3	根目	2材。上端幅は17cm。上部に把手を挿入する横筋付孔(4.5×3.0cm)。孔の下縁が側板の上端の高さ。中段と下部にタガ付。中段は下縁から13.5cmあたりで、タガ幅は3cm。下部のタガ付は下縁から1cmおいて2.5cm幅。
					短側板	18.5	2.6 ～6.4		1.3	根目	12材残存。下縁から5mmおいて底板の当り。内面による張り。側板は横。長側板2枚と短側板3枚とが縫い。残りの短側板が1枚。
					底板			19.8	1.8	根目	結合材型(1枚)。単材であったのを。破断後に修理して連結した可能性あり。
					把手	28.5		幅 4.4	2.5	根目	両端を縫い。端部近くは円孔(径4mm)。把手は把手の固定用。両孔間は25.6cm。中央にも円孔。径は外面で5.5cm。内面で5.0cm。
2	底板	31.13	溝	桶	側板	12.4	2.8	0.7	根目	2材残存。外面上下端角を丸く成形。上端角近くと中段にタガ付。	結合材型(1枚)。
					底板			11.6	0.9	根目	結合材型(1枚)。
3	33.239	3325 扇形	16後 17後～19	桶	側板	20.9	2.5 ～3.7	0.6	根目	15材残存。1材不足。下端幅は3.5cm×8枚で。口縁付と底面付にタガ付。底面付は1cm上った位置から1.2cm幅で存在。上面の上部と下部は浅く削られた上を無が。タガ下の湯気の硬化のため。	結合材型(1枚)。側板は斜めに縫い。
					底板			15.6	0.7	根目	結合材型(1枚)。

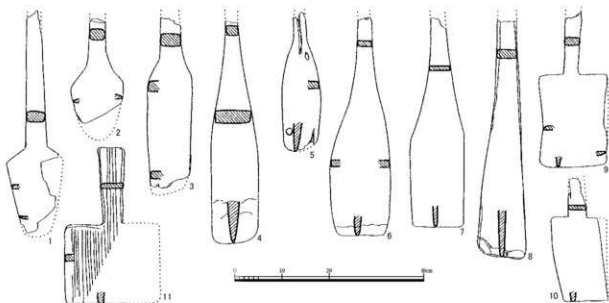


第123図 蓋板・底板・桶・指物柄杓・曲物・その他（縮尺1/6）

折敷 折敷の底板(第121図26～30)が9点あり、うち黒漆塗り(第121図29・30)が3点ある。底板の対辺距離は、24.3cmの1例(第121図29)以外は30～32.5cmを測る。側板との結合は、保存不良の1例を除き、樹皮紐綴じが3例(第121図27)で、木釘が5例である。後者の2例には、1辺の中央付近にコ字形に残存した樹皮紐がある(第121図26)。側板材の両端を綴じ合わせ、更に底板と結合させたものとする。第121図30は脚付きで、厚さ0.7cmの材2枚を木釘で底板に結合した痕跡がある。塗装のない5点のうち4点には多数の切創痕があり(第121図26～28)、俎板に転用されたものとする。

鍔と鍔頭部形 鍔の台部の出土数量は4点(第126図18～21)。柄はない。使用材は広葉樹の板目材と見える。舟形の平面形は柄孔の位置に最大幅がある。長さは25.5～30.5cm、最大幅は10cm前後である。柄孔は台形状で、おおそ上底幅3cm、下底幅4cm、高さ5cmである。両側縁から先端にかけての端部は、尖り気味に丸く整形される。第126図21の帰属時期は19世紀中葉で、他は時期を限定できない。

鍔頭部形と分類したものには、柄の延長上に幅広部(掬い部)を削り出したものを一括した(第133図12・13、第124図)。出土数量13点で、幅広部の形態から5類に分ける。第124図の略測図によって分類を示す。1類(1・2)は剣先スコップ形の幅広部をもち、鉄製鍔先を装着する鍔である。2類(3～8)は、幅広部がほぼ同幅で比較的长度、先端部に向かって薄く削られ、先端断面は尖り気味に丸く加工される。先端部が主軸に対して斜めに磨耗した例が多く、攪拌用具の可能性もある。3類(第133図13)は2類に類似した形態だが、柄から幅広部の先端まで同じ厚みを呈する。また、柄の欠損も僅かと見て、短い柄を想定する。4類(9・10)は方形の幅広部をもち、端部をやや薄く加工する。小型の木製除雪具(パンバ)の可能性もある。5類(11、第133図12)は塵取り形を呈する。11は柄の端部が丸く加工され、把手としての機能を果たしたと思われるが、第133図12にはその種の調整加工が見られない。未製品か、もしくは機能を異にするものの可能性がある。以下に伴出陶磁器による年代を列記する。1: 17～19、2: 19中葉、3: 16後葉、4: 17前～中、5～7: 17中～後、8: 17後、9: 不明、10: 17後～18前、11: 17後、第133図12: 17前～明治、第133図13: 17中。

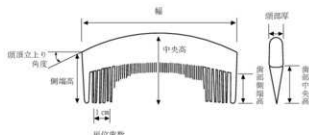


第124図 鍔頭部形略測図(縮尺1/8) 1・2: 1類、3～8: 2類、9・10: 4類、11: 5類

櫛 5遺構から9点、包含層から1点の計10点が出土した(第126図1～10)。19世紀中葉の土坑3408出土の4点以外は、帰属時期を細分小期に限定できない。計測項目と部位とを第125図に示し、その計測値を第33表に記載する。

観察・計測の結果は以下の通りである。

- 1) 19世紀中葉の4点は、頭頂立ち上り角度が35度をなし、頭頂形状が強い弧状を呈する。それ以前に帰属する5点とは異なる。
- 2) 19世紀中葉には単位歯数が9本の細密な歯を持つものが存在する。
- 3) 19世紀前半に形態や製作技術に変化があったように見える。

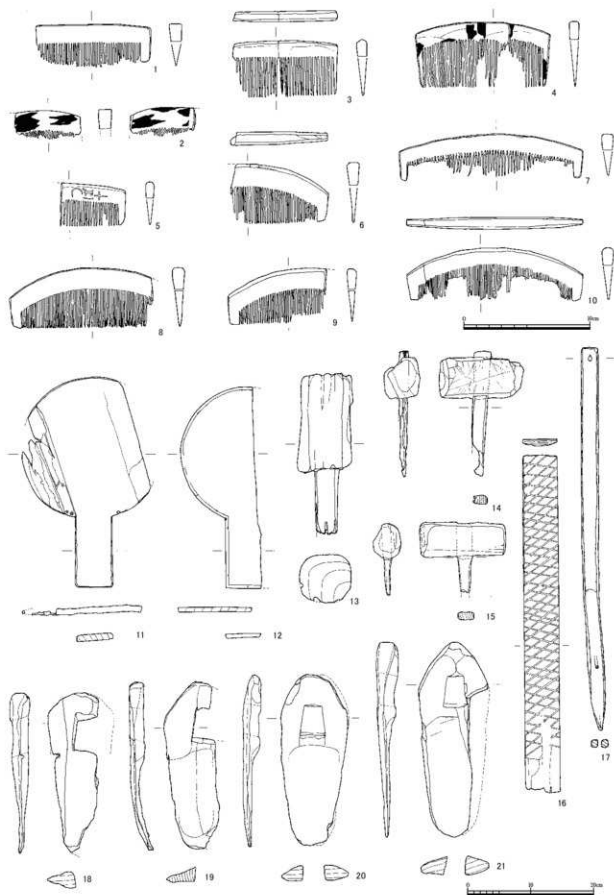


第125図 櫛計測部位

第33表 櫛観察表

番号	捧回 番号	実測 番号	遺 構		伴出陶磁 器の年代	全体形 計測値	頭頂形状		歯 部			備 考
			番号	種別			頭頂立上り 角度	歯基線 形状	計測値	単位 歯数		
1	第126図1	32-2	3201	池	17前～19中	幅 (8.9) 中央高 3.3 側端高 2.8 頭部厚 1.0	微弧状 5°	直線	幅 (8.0) 中央高 1.9 側端高 1.6	5本/cm	2/3程度残存	
2	第126図2	32-8	3201	池	17前～19中	幅 (5.0) 中央高 (1.7) 側端高 (1.2) 頭部厚 1.0	緩弧状 15°～20°	緩弧状	幅 (4.0)	7本/cm	頭部の一部が残存 黄色下地に黒漆塗り	
3	第126図3	32-1	3205	大溝	17後～18前	幅 (8.0) 中央高 4.2 側端高 3.8 頭部厚 0.8	緩弧状 10°	直線	幅 (7.7) 中央高 3.0 側端高 3.0	5本/cm	3/4程度残存	
4	第126図4	36-5	36008	土坑	17後～18後	幅 10.5 中央高 4.8 側端高 4.1 頭部厚 0.8	緩弧状 15°	緩弧状	幅 9.6 中央高 3.5 側端高 3.1	5本/cm	歯の一部を欠損 漆膜残存	
5	第126図5	42-7	4232	土坑	18後～19中	幅 (5.0) 中央高 (3.2) 側端高 2.6 頭部厚 0.7	緩弧状 10°	緩弧状	幅 (4.4) 中央高 1.8 側端高 1.5	5本/cm	1/3程度の残存 帽子「つば」	
6	第126図6	36-4	3408	土坑	19中	幅 (7.5) 中央高 4.5 側端高 2.2 頭部厚 1.0	弧状 35°	弧状	幅 (6.5) 中央高 2.5 側端高 1.0	5.5本/cm	1/2程度残存	
8	第126図8	33-2	3408 (3361)	土坑	19中	幅 (11.3) 中央高 4.7 側端高 2.3 頭部厚 0.9	弧状 35°	弧状	幅 (10.2) 中央高 2.8 側端高 1.3	9本/cm	1側端を欠損 変装はないように見える	
9	第126図9	33-1	3408 (3361)	土坑	19中	幅 (7.6) 中央高 3.5 側端高 2.1 頭部厚 0.8	弧状 35°	弧状	幅 (6.6) 中央高 1.8 側端高 1.0	6本/cm	1/2程度残存	
7	第126図10	36-6	3408	土坑	19中	幅 13.7 中央高 4.0 側端高 2.0 頭部厚 0.8	弧状 35°	弧状	幅 11.8 中央高 2.7 側端高 1.1	9本/cm	歯の大部分を欠損 歯の密度高	
10	第126図7	33-3	0359F1 イ層			幅 14.4 中央高 4.7 側端高 (2.0) 頭部厚 0.9	緩弧状 15°	緩弧状	幅 13.0 中央高 (1.0) 側端高 (1.0)	4.5本/cm	下部欠損 頭頂の上面観は緩弧状 黒漆皮膜残存	

(数字)は残存部分の計測値



第126図 櫛・柄鏡箱・横櫛・木槌・叩き板・棒状具・銀（櫛：縮尺1/3、他：縮尺1/6）

漆器椀類 出土総数340点。これらを椀、皿、蓋、平椀、一文字腰椀、壺椀、腰高、盃、合子、鉢、不明の11類に分け、更に口縁部の形状から端反椀と玉縁椀皿とを分離した。椀は、口径や見込の深さにおいて多様なものを含む。また、皿との識別は感覚的な区分にとどまる。

原形を保つものを主に194点を選び、その実測図(第127～132図)と漆の塗彩状況を記載した観察表(第35表)とを掲載した。また、遺構出土の288点に関して、各器種の存在状況を示すべく第34表を作成した。漆器椀類の出土遺構数は124で、木製品出土遺構総数224の55%を占める。

椀と皿とが全時期を通じて存在する普遍的器種で、全出土数のそれぞれ54%(183点)、15%(52点)を占める。次いで蓋(21点、6%)と平椀(18点、5%)とがある。

第34表に基づく、腰椀・平椀・壺椀の存在時期が限定的に見える。平椀、壺椀は確実に17世紀後葉以降、腰椀は19世紀である。また、盃、腰高の存在も17世紀中葉以前は不確実である。端反椀は17世紀後葉に限られるかもしれない。

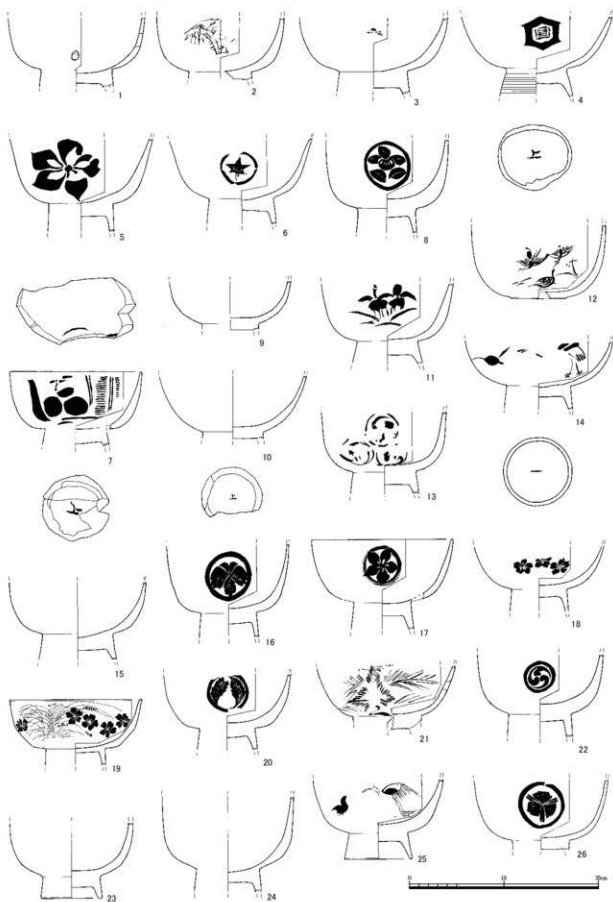
漆絵に関しては、次節で詳述する。

第34表 遺構別の漆器椀類各器種の出土数量

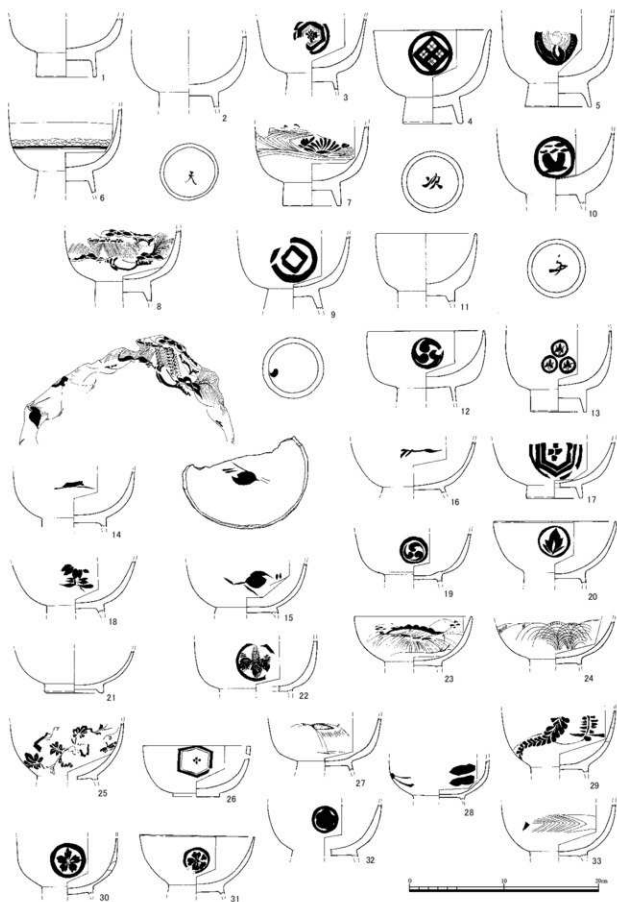
遺構番号	遺構種類	層位ほか	伴出陶磁器の年代	漆器椀類の種別と数量										合計
				椀	腰椀	平椀	壺椀	皿	蓋	腰高	盃	合子	鉢他	
801	溝		16中～末	1										1
3136	土坑	下層	16末	2										2
3373	土坑		16末～17初	1										1
32161	大溝		16末	1										1
31128			16末～末	1										1
3325	庭敷地溝	下層	16末、17初～19					1	1					2
31117	土坑		16末	1										1
31126	溝		16末					1						1
32186	溝		16末	1										1
34244	溝	下層	16末	1										1
34371	溝		16末	1										1
34555	溝		16末	1										1
33218	土坑	下層	16末									1		1
812	土坑		16末(17初)							1				1
32135	土坑		16末～17初	2										2
33349	溝	中層以下	16末～17初									1		1
33395	土坑	下層	16末～17初	1										1
34054	溝	下層	16末～17初	1										1
53170	土坑		16末～17初	3				1						4
53182	土坑		16末～17初	1										1
61042	庭敷地溝	中層	16末～17初	3										3
62028		中・下層	16末～17初	3										3
31394	井戸		16末～17初	2										2
34377	土坑		16末～17初	1		1		1					1	4
62003	庭敷地溝	上～中層	16末～19中	1										1
3569	土坑		17初	3										3
6360	土坑		17初	1										1
34138			17初	1										1
34373	溝	中層	17初	1										1
34444	土坑		17初	1										1
35109	土坑		17初					1						1
61044	土坑	3層スミト	17初	3										3
63144	土坑	下層	17初	1										1
5394	井戸		17初～前	1										1
32127	池	木桶棚下	17初～前	1										1
33290	土坑	壁土一括	17初～前					1						1
34136	土坑		17初～前	2					1					3
34451	土坑	下層	17初～前					1						1
3535A	土坑		17初(～19)	1										1
36142	土坑		17初(～19)	1										1
62005	庭敷地溝	最終面	17初～前	1										1
3535B・3559			17初～前(～19)	1										1
34197	土坑	下層	17初～19	5				3						7
4294	石版溝	レキ層	17初～中	1				1						2
34701	土坑	下層	17初～中	2										2
36106	ビット		17初～中	1										1

第1節 出土土製品の概要

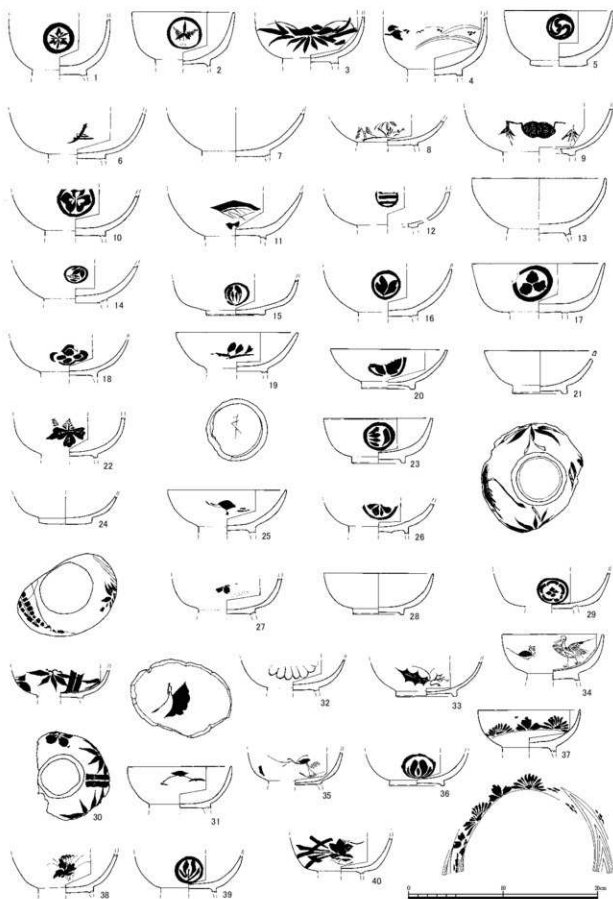
遺構 番号	遺構 種別	層位 ほか	伴出陶磁器 の年代	漆器税額の種別と数量										合計
				税	腰税	平税	煮税	皿	蓋	腰高	蓋	合子	鉢他	
4220	埋 込 溝	4220と石垣の間	17中～後	1				1						21
		4220と侵入石垣の間に	17期						1					
		石垣裏込め		2										
		溝側木製品区	17前～中	5				1						
		溝側	17前～中					1						
		溝側路上下	17中	3										
		木製階段下	17中(～後)						1					
		溝側下壁	17中～後	2										
		a溝側の下げ中	17中～後	1										
		溝側	～17後					1						
		c溝側コーナー上壁	18後～19		1									
6337	土坑	下壁	17後～後	3									3	
3201	溝	a～c壁	17前～19中	7	1	4			1	4		1	18	
3100	石垣	堀	17前～明治			1	1						2	
3265	溝		～17中	1									1	
3140	土坑		17～中				1						2	
6338	土坑		17中	3									3	
32127	溝	木製壁	17中	2									2	
3271	溝		17中～後	4				1					5	
3134	土坑	b～f溝	17中～後	28					6	1		1	37	
3153	溝		17中～後					1					1	
6348	井戸		17中～後	1									1	
34126	土坑		17中～後	1								1	2	
34126・34344				17中～後		1							2	
34133	土坑		17中～後	1									1	
34702	土坑	中壁	17中～後	1									1	
3262	土坑		17後	2							1		3	
3285	土坑		17後						1				1	
5428	土坑		17後					1					1	
34134	土坑		17後								1		1	
34137	土坑		17後	1									1	
34198	土坑		17後	1						1			2	
34203	井戸		17後	1									1	
34348	土坑		17後	1					1		1		3	
34703	土坑	中壁	17後	3									3	
36004	土坑		17後	1								1	2	
36076	土坑	下壁3	17後	1					1				2	
36161	土坑	下壁	17後							1			1	
42133	溝	黒陶粘着層	17後	13					3			1	17	
6355	土坑		17後(～19)					1					1	
3205	大溝	d～f壁	17後～18前	4						1			5	
4135	壁下土坑	下壁	17後～18前	1					1			1	3	
33241			17後～18前	1									1	
36026	土坑		17後～18前	1					1				2	
36084	土坑		17後～18前	1									1	
3539	溝		17後～18	1									1	
5186	土坑		17後～18後	2									2	
5257	土坑	下壁	17後～18後	1									1	
3132	土坑		17後～19中	1									1	
3308	間溝		17後～19中	1		1			2			1	5	
4284	土坑		17後, 18後～19	1					1				2	
4281	土坑		17後, 18後～19						1				1	
5201			17後～19	1		1			1				3	
3315	溝	堀方	17～19						1				1	
4289			17～19	1									1	
3325	土坑?		(17～19)							1			1	
34112	土坑		(17～19)	1									1	
4242	土坑		(17)～19		1								1	
34335	土坑		～18前	3									3	
3418	土坑		18前～後	1									1	
36008	土坑		(17後～) 18後									1	1	
3408	土坑		18後～19前	3									3	
33171	土坑		18後～19前	1									1	
4232 (土坑)			18後～19中	3	1								4	
5202	土坑	下壁ビート	18後～19	1									1	
3320	溝		18後～19						1				1	
3328	土坑		～19中							1			1	
34107	埋溝?	堀方	～19	1									1	
3220	土坑か	b壁	19中							1			1	
3408	土坑		19中		2	1			1	4			8	
3422	土坑	TR418溝	19中										1	
4208	井戸	井戸内	19			1							1	
5109	土坑		19	1	1								2	
3309	土坑	下壁	19中～明治					1				1	2	
4164	土坑	下壁	19中～明治	1									1	
5401	土坑	下壁	19中～近代						1	2		2	5	
5196・5197										1			1	
34100・34161				1									1	
数量合計				183	8	14	3	40	18	5	5	4	8	288



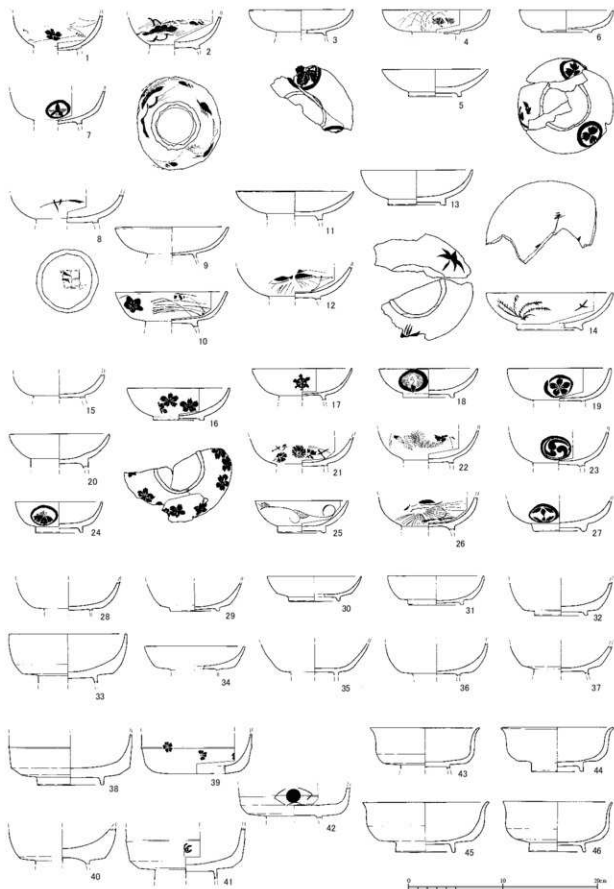
第127図 漆器碗類① (縮尺 1/4)



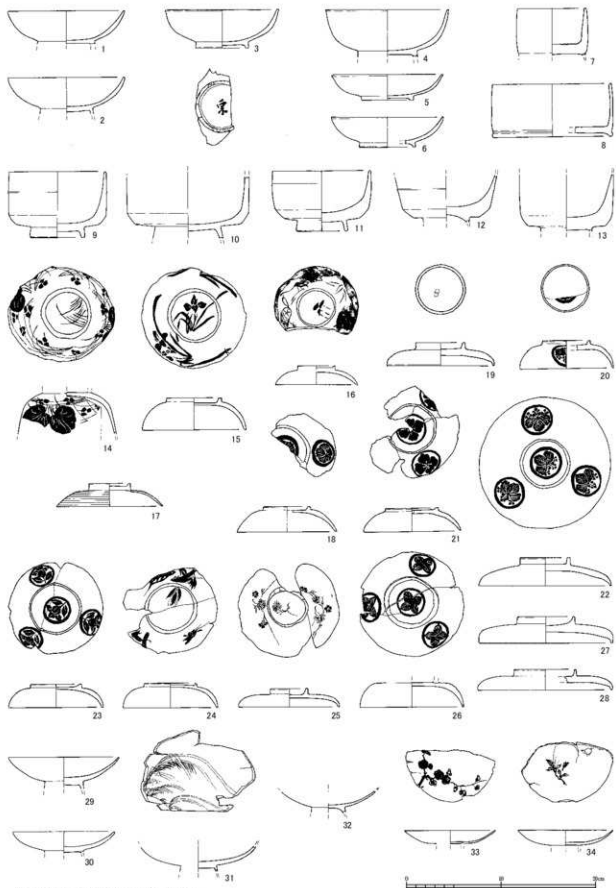
第128図 漆器碗類② (縮尺1/4)



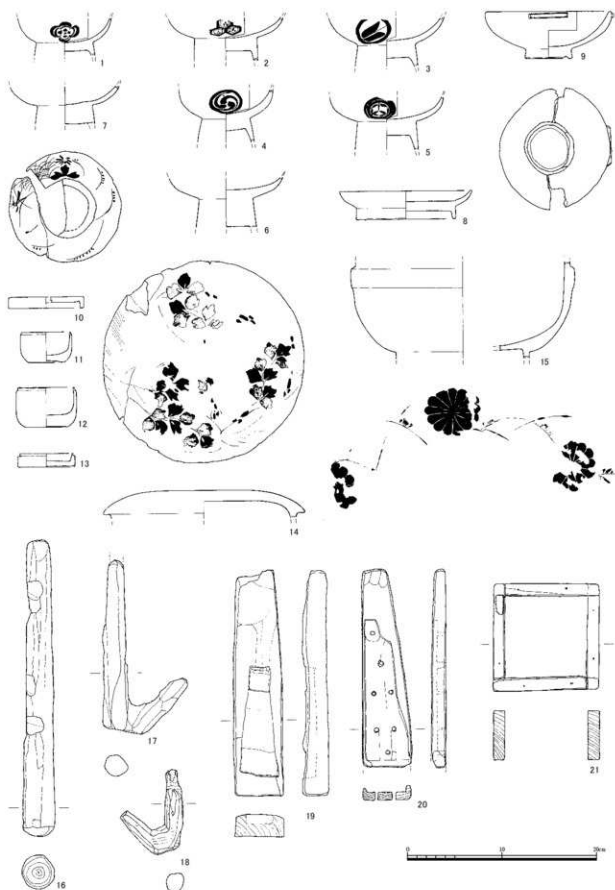
第129図 漆器碗類③ (縮尺 1/4)



第130図 漆器碗類④ (縮尺 1/4)



第131図 漆器碗類⑤ (縮尺 1/4)



第132図 漆器碗類⑥・搗粉木・自在鉤・砥石台・指物箱(二合併) (縮尺1/4)

第35表 漆器検視観察表

検出 番号	実測 番号	通儀 番号	伴出陶磁器の 年代	器種	漆 装					高台		備 考	
					内面	外面	漆 装			漆文字・記号	色		種類
							位置	色	種類				
127-1	3-4	3198	16後	陶	赤	黒	外	赤	×			【無検大】	
127-2	3-37	32186	16末	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(竹)			【無検大】	
127-3	3-157	34371	16末	陶	赤	黒	外	赤	×			【無検大】	
127-4	5-16	53170	16末～17初	陶	赤	黒	外	赤	亀甲(一重亀甲に角四つ引)	赤	[上]	【無検大】 高台に浅い条線	
127-5	3-132	33395	16末～17初	陶	赤	黒	外	2?	結核(中絶結核)			【無検大】	
127-6	5-15	53170	16末～17初	陶	赤	黒	外	3	沢瀉(丸に立ち沢瀉)			【無検大】	
127-7	6-10	62028	16末～17初	陶	赤	黒	内外	赤	不明文様	赤	[上]	【無検大】	
127-8	3-22	3194	16末～17前	陶	赤	黒	外	3	赤	橘(丸に光琳様)			【無検大】
127-9	6-8	62003	16末～19中	陶	赤	赤	無					【無検大】	
127-10	6-21	63144	17初	陶	赤	赤	無			赤	[上]	【無検大】	
127-11	3-183	34197	17初	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(橘)			【無検大】 変形強	
127-12	6-6	61044	17初	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松・竹)			【無検大】 高台部削平?	
127-13	3-186	34136	17初～前	陶	赤	黒	外	2	赤	巴(丸に右三つ巴)			【無検大】 変形強
127-14	3-181	34197	17初～19	陶	赤	黒	外	2	赤	蓮葉文(亀・亀)	赤	[一]	【無検大】
127-15	4-30	4220	17前～中	陶	赤	黒	不明		×			【無検大】 南朝木製品区(無検大)	
127-16	6-20	6348	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤	高(丸に大割り鬼島)			【無検大】
127-17	3-103	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	2	赤・黄	結核(中絶に結核)			【無検大】
127-18	3-44	3295	17中～後	陶	赤	黒	外	5	赤	桜(散らし文様)			【無検大】
127-19	3-52	3134	17中～後	陶	赤	赤	全面	黒	秋草(薄に露・散子)			【無検大】 外口部削平、玉縁	
127-20	4-51	4220	17中～後	陶	赤	黒	外	黒	柳(丸に短縮柳)			【無検大】 南朝下層(無検大)	
127-21	3-49	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	全面?	赤・黄	蓮葉文(蓮前若松)			【無検大】
127-22	3-175	34126	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤	巴(丸に右三つ巴)			【無検大】
127-23	4-15	4220	17中～後	陶	赤	黒	無					a 溝(無検大)	
127-24	3-43	3271	17中～後	陶	黒	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松)			【無検大】	
127-25	3-216	36054	17後	陶	赤	黒	外	赤・金	蓮葉文(亀・松・竹)			【無検大】	
127-26	3-221	36026	17後～18前	陶	赤	黒	外	3	赤	牡丹(丸に三つ牡丹)			【無検大】
128-1	3-3	3194	16末～17前	陶	赤	黒	無					【無検小】	
128-2	3-213	3569	17初	陶	赤	黒	無			赤	[天]	【無検小】	
128-3	3-217	36106	17前～中	陶	赤	黒	外	3	黄・赤・緑	亀甲(丸に亀甲花菱)			【無検小】
128-4	3-30	32127	17中	陶	赤	黒	外	3	赤	目結(丸に隅立て四つ目)	赤	[次]	【無検小】 変形
128-5	3-120	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤	鶴(鶴の丸)			【無検小】
128-6	3-91	3262	17後	陶	赤	茶	外	全面	赤	芝(二重線に芝文様)			【無検小】 変形強
128-7	3-159	34703	17後	陶	赤	黒	外	赤	秋草(半菊に信文文様)			【無検小】	
128-8	4-46	42133	17後	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松)			【無検小】	
128-9	3-107	3205	17後～18前	陶	赤	黒	外	3	赤	目結(丸に隅立て四つ目)	赤	?	【無検小】
128-10	3-69	3201	17前～19中	陶	赤	黒	外	3	赤	丁子(丸に違い丁子)	赤	[?]	【無検小】
128-11	4-23	4289	17～19	陶	赤	黒	無					赤?	【無検小】
128-12	4-29	4232	18後～19中	陶	赤	黒	外	3	赤	巴(右三つ巴)			【無検小】
128-13	3-168	03-405	～19中	陶	赤	茶	外	3	黄	沢瀉(丸に立ち沢瀉)			T8401(無検小)
128-14	3-35	32135	16末～17初	陶	赤	黒	外	赤	×				【無検大】
128-15	3-19	16末～17前	陶	黒	黒	内外	外2内1	赤	不明文様			ブミフ6(無検大)	
128-16	3-208	3569	17初	陶	赤	黒	外	赤	×			【無検1】	
128-17	3-189	34138	17初	陶	赤	黒	外	赤・黄	亀甲(丸に亀甲に四つ星)			【無検1】	
128-18	3-127	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	2	赤・黄	不明文(重付き菊?)			【無検1】
128-19	3-48	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤	巴(丸に右三つ巴)			【無検1】
128-20	3-129	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	赤	不明文様			【無検1】	
128-21	4-47	42133	17後	陶	赤	黒	無						【無検1】
128-22	4-45	42133	17後	陶	赤	黒	外	2?	赤・黄	柳(丸に短縮柳)			【無検1】
128-23	4-8	42133	17後	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松)			【無検1】	
128-24	4-42	42133	17後	陶	赤	黒	外	黄	秋草(草)			【無検1】	
128-25	3-26	31117	16末	陶	赤	赤	全面	黒	楓(茂・能扶揚柳・能扶柳)			【無検2】	
128-26	6-13	6360	17初	陶	赤	黒	外	赤	亀甲(細亀甲に四つ星)			【無検2】 口縁・高台部削平	
128-27	4-35	4220	17前～中	陶	赤	黒	外	赤・黄	蓮葉文(亀)			【無検2】 南朝木製品区(無検2)	
128-28	3-166	34133	17中～後	陶	赤	黒	外	赤	依(依・耀)			【無検2】 別文?	
128-29	3-114	3271	17中～後	陶	赤	黒	外	全面?	赤・黄	藤(下がり藤・立ち藤)			【無検2】
128-30	3-68	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤・黄	唐花(丸に五つ唐花)			【無検2】 変形
128-31	3-121	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤・黄	桜(丸に桜)			【無検2】
128-32	3-50	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	3	赤・黄	梅(丸に梅)			【無検2】
128-33	3-63	3134	17中～後	陶	赤	黒	外	赤	芋蓐			【無検2】	
129-1	3-196	34203	17後	陶	赤	黒	外	3	黒	藤(丸に内藤藤前し)			【無検2】
129-2	3-8	8	17後	陶	赤	黒	外	3	赤	沢瀉(丸に立ち沢瀉)			【無検2】
129-3	3-198	34335	～18前	陶	赤	黒	外	全面?	赤・黄	蓮葉文(亀)			【無検2】
129-4	3-199	34335	～18前	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松・薄に露)			【無検2】	
129-5	3-64	3205	17後～18前	陶	赤	黒	外	2	赤・黄	巴(丸に右三つ巴)			【無検2】
129-6	8-5	801	16中～後	陶	黒	黒	内外	赤	蓮葉文(亀・亀)			【無検3】	
129-7	3-70	32161	16後	陶	赤	黒	不明		×			【無検3】	
129-8	3-210	3572	16後～17初	陶	赤	黒	外	赤	蓮葉文(亀・松・竹)			【無検3】	
129-9	5-13	53182	16末～17初	陶	赤	黒	外	赤	依(依・耀)			【無検3】	

第1節 出土木製品の概要

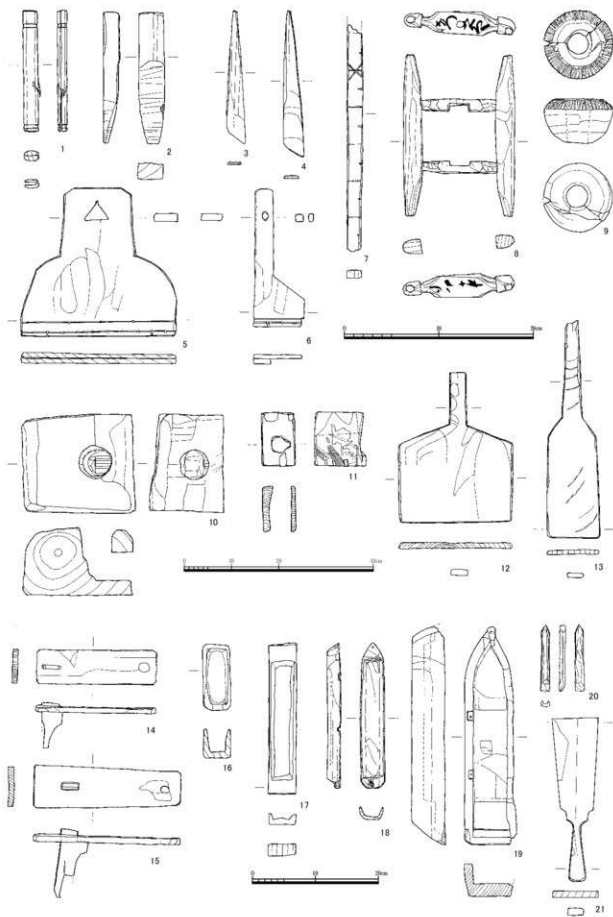
発掘 番号	実測 番号	遺構 番号	伴出陶磁器の 年代	器種	漆 塗 装							高台		備 考	
					内面	外面	漆					漆文字・記号	色		種類
							位置	色	種 類						
129-10	3-177	34377	16末～17後	杓	赤	黒	外 2	赤、黄	片喰(丸に片喰)					[梅3]	
129-11	3-156	34373	17初	杓	赤	黒	外	赤	縦縞(細縞・二つ引)					[梅3]	
129-12	6-2	61044	17初	杓	赤	黒	外	赤	引(丸に三つ引)					[梅3]	
129-13	3-164	34444	17初	杓	黒	黒	内	赤	不明文様					[梅3]	
129-14	4-11	4220	17前～中	杓	赤	黒	外 4	赤、黄、緑	桔梗(丸に一文字割結縞+α)					赤銅木製品区 [梅3]	
129-15	3-162	34702	17中～後	杓	赤	黒	外 3	赤、黄、緑	若狭(古葉か丸丸に松名若狭)					[梅3] 高台削平	
129-16	3-129	3134	17中～後	杓	赤	黒	外 2	赤、黄	若狭(古葉か丸丸に松名若狭)					[梅3]	
129-17	3-134	33171	18後～19前	杓	赤	黒	外 3	金	絞丸に牡丹栴					[梅3]	
129-18	3-31	32135	16末～17初	杓	赤	黒	外 2	赤	木瓜(木瓜・松)					[梅4]	
129-19	4-14	4220	17前～中	杓	赤	黒	外 3	赤	不明文様					赤銅木製品区 [梅4] 刻文?	
129-20	6-18	6337	17前～後	杓	赤	黒	外	赤、黄	片喰(丸に片喰)					[梅4] 変形	
129-21	6-14	6338	17中	杓	黒	黒	外 全面	赤、黄、緑	蓮葉文(松・竹)					[梅4] 口縁付近に小孔2	
129-22	6-16	6338	17中	杓	赤	黒	外 3	赤	桐		赤	?		[梅4]	
129-23	3-38	3201	17前～19中	杓	赤	黒	外 2	赤	不明文(丸に蟹一文字割半引?)					[梅4]	
129-24	3-193	34126 34344	17中～後	杓	赤	黒	外 全面	赤、黄	藤(下がり藤・笹文様)					[梅4] 高台削平、変形強	
129-25	3-104	3134	17中～後	杓	赤	黒	外 3	赤、黄	陰陽縞					[梅4]	
129-26	4-6	42133	17後	杓	赤	黒	外 3	赤	片喰(丸に割片喰)					[梅4]	
129-27	4-20	42133	17後	杓	赤	黒	外	黒	×					[梅4]	
129-28	3-135	33241	17後～18前	杓	赤	黒	無							[梅4]	
129-29	5-25	5408	18後～19前	杓	赤	黒	外 3	赤	木瓜(丸に五瓜に武田番)					[梅4]	
129-30	3-185	34136	17初～前	杓	赤	黒	外 全面	赤、黄	季節文(桔梗に竹)					[梅5]	
129-31	3-58	03-25C	17初～中	杓	黒	黒	内外	赤	陰陽縞					TR213 [梅5]	
129-32	3-124	03-25C	17初～中	杓	黒	黒	外	赤	菊					TR213 [梅5]	
129-33	4-13	4220	17初～中	杓	赤	黒	外 2	赤	松(陰陽縞)					赤銅木製品区 [梅5]	
129-34	6-15	6338	17中	杓	赤	黒	外	赤	蓮葉文(松・鶴・亀)					[梅5]	
129-35	4-44	42133	17後	杓	赤	黒	外	赤	蓮葉文(鶴・亀)					[梅5]	
129-36	4-52	42133	17後	杓	赤	黒	外 2	赤	楓(南天か桜か丸丸に楓の葉)					[梅5]	
129-37	3-174	34198	17後	杓	赤	黒	外 全面	赤	春秋文(平松・平菊・薄に露)					[梅5]	
129-38	3-170	03-45C	17後	杓	赤	黒	外 2	黒	×					大トレ [梅5]	
129-39	3-169	3418	18前～後	杓	赤	黒	外 2	赤、黄	楓(南天か桜か丸丸に楓の葉)					[梅5]	
129-40	5-26	5408	18後～19前	杓	赤	黒	外 全面	赤	季節文(桔梗に竹)					[梅5] 変形	
130-1	4-17	4294	17初～中	皿	赤	黒	外 全面	赤	春秋文(桜・薄に露)					[皿1]	
130-2	3-125	3134	17中～後	皿	赤	黒	外	黒	蓮葉文(鶴・亀)					[皿1]	
130-3	4-66	4220	17中(～後)	皿	赤	黒	外 3	赤	絞丸に五七の縞					石垣の関本割厨下 [皿1]	
130-4	3-228	36076	17後	皿	赤	黒	外	黄	秋草文(薄に菊)					[皿1]	
130-5	3-11	03-15C	17後	皿	赤	赤	無							TR18 [皿1] 高台内黒	
130-6	3-144	3315	17～19	皿	赤	黒	外 3	黒	牡丹? (丸に三つ葉牡丹)					[皿1]	
130-7	3-85	03-25C	18後	皿	赤	黒	外 3	赤	沢蘭(丸に沢蘭)					1-4a [皿1]	
130-8	3-211	35109	17初	皿	黒	黒	外 2	赤	沢蘭と不明文様		赤	?		[皿2] 高台内刻文「田」	
130-9	4-67	04-35C	17初	皿	赤	赤	無							4220? 押え石垣の関本割厨下 [皿2]	
130-10	3-158	34451	17初～前	皿	赤	黒	外 全面	赤、黄	秋草文(薄に露に桔梗)					[皿2]	
130-11	3-98	3134	17中～後	皿	赤	赤	無							[皿2] 高台内黒	
130-12	3-24	3153	17中～後	皿	赤	黒	外	赤	蓮葉文(松・亀)					[皿2]	
130-13	3-205	34197	17初～19	皿	赤	黒	外	赤	沢蘭					[皿2]	
130-14	8-4	08C		皿	黒	黒	内外	赤	蓮葉文(松・鶴)					[皿2]	
130-15	5-17	53179	16末～17初	皿	赤	赤	無							[皿3]	
130-16	3-137	33290	17初～前	皿	赤	黒	外 全面	赤	桜散(散らし)					[皿3]	
130-17	4-12	4220	17初～中	皿	赤	黒	外 3	赤	輪文(変わり六つ輪文)					赤銅木製品区 [皿3]	
130-18	3-122	3134	17中～後	皿	赤	赤	外 3	黄	絞丸に鶴の丸					[皿3]	
130-19	3-6	3134	17中～後	皿	赤	黒	外 3	赤、黄	桔梗(丸に桔梗)					[皿3]	
130-20	3-67	3134	17中～後	皿	赤	黒	無							[皿3]	
130-21	3-55	3285	17後	皿	赤	黒	外 2	黒	×					[皿3]	
130-22	4-7	42133	17後	皿	赤	黒	外	赤	秋草文(薄に黄に撫子)					[皿3]	
130-23	4-22	42133	17後	皿	赤	黒	外 3	赤	巴(丸に右三つ巴)					[皿3]	
130-24	3-152	34348	17後	皿	赤	赤	外 3	赤、黄、黒	絞丸に鶴					[皿3]	
130-25	3-231	36026	17後～18前	皿	赤	黒	外 全面	赤	藤(散らし文様)					[皿3]	
130-26	3-61	3308	17後～19中	皿	赤	黒	外 全面	赤、黄、緑	蓮葉文(松)					[皿3]	
130-27	3-9	03-15C		皿	赤	黒	外 2	黒	絞丸に六枚苎					TR7 [皿3]	
130-28	3-101	3201	17前～19中	腰桶	黒	黒	無							[一文字腰桶]	
130-29	4-50	4220	18後～19	腰桶	黒	黒	無							赤銅コーナー上[一文字腰桶]	
130-30	4-25	4232	18後～19中	腰桶	赤	黒	無							[一文字腰桶]	
130-31	3-223	3408	19中	腰桶	黒	黒	無							[一文字腰桶]	
130-32	3-140	3408	19中	腰桶	黒	黒	無							[一文字腰桶]	
130-33	4-16	4242	～19	腰桶	黒	黒	無							[一文字腰桶]	
130-34	5-3	5109	19	腰桶	黒	黒	無				赤	「ヤ」		[一文字腰桶]	
130-35	3-16	3100	17前～明治	腰桶	黒	黒	無							[一文字腰桶]	
130-36	4-34	04-25C		腰桶	黒	黒	無							下駄箱 [一文字腰桶]	
130-37	4-33	04-25C	18後～19中	腰桶	赤	赤	無							大トレ西下側[一文字腰桶]	

第3章 木製品

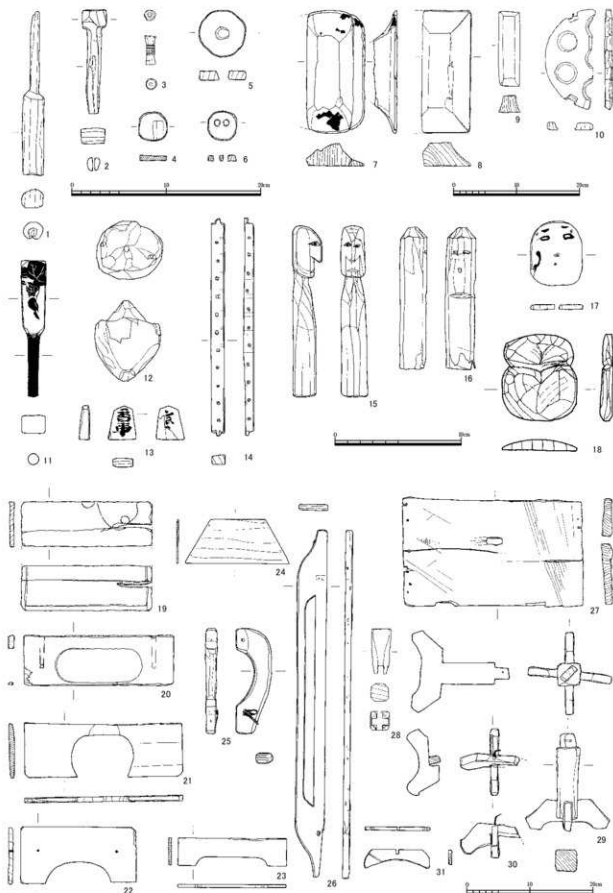
博覧 番号	実測 番号	通稱 番号	作出陶磁器の 年代	器種	漆 装				高台		備 考
					内 面	外 面	漆 装		漆文字・記号	色 種類	
							位 置	色			
130-38	3-88	3201	17前～19中	平碗	黒	黒					平碗「カツラ」
130-39	3-84	3201	17前～19中	平碗	赤	黒	外 全面	金	桜(散らし文様)		平碗「カツラ」 高台欠
130-40	3-41	3201	17前～19中	平碗	黒	黒					平碗
130-41	4-57	4284	17後、18後～19	平碗	赤	黒		赤			平碗「カツラ」
130-42	3-220	3408	19中	平碗	赤	黒	外 3	赤	福(丸に目の丸地紙)		平碗「カツラ」
130-43	3-195	34126、 34344	17中～後	碗反碗	黒	黒					碗反
130-44	3-116	03-2区	17後	碗反碗	黒	黒					TR225「碗反」
130-45	3-167	03-4区	17後	碗反碗	黒	黒					B-10大トレ「碗反」
130-46	3-155	34377	16末～17後	碗反碗	黒	黒					碗反
131-1	3-5	03-1区	16末	玉縁陶皿	赤	赤					TR3124「玉縁」
131-2	3-15	31126	16末	玉縁陶皿	赤	赤					玉縁
131-3	4-9	4220	17前～中	玉縁陶皿	赤	赤			黒「宗」	南側「玉縁」	玉縁
131-4	3-131	3134	17中～後	玉縁陶皿	黒	黒					玉縁
131-5	3-113	3271	17中～後	玉縁陶皿	黒	黒					玉縁
131-6	4-26	42133	17後	玉縁陶皿	赤	赤					玉縁
131-7	3-74	3201	17前～19中	不明	黒	黒					
131-8	3-59	3308	17後～19中	不明	黒	黒					
131-9	4-71	04-3区	17中～後	赤碗	黒	黒					4220石川間島丹赤碗「カツラ」
131-10	5-14	5428	17後	赤碗	黒	黒					赤碗 黒は裏?
131-11	4-41	04-2区	18～19	赤碗	黒	黒					TR218上赤碗「カツラ」
131-12	5-18	5320	18後～19	赤碗	黒	黒					赤碗「カツラ」
131-13	4-37	04-2区	19中	赤碗	黒	黒					赤碗 カクラ一括
131-14	3-184	34136	17初～前	蓋	赤	黒	外 全面	赤、黄、紺	春秋文(双葉・薄に漆)	赤 薄	
131-15	3-39	3134	17中～後	蓋	赤	黒	外 全面?	紺	杜若	紺 杜若	
131-16	3-218	26161	17後	蓋	赤	黒	外	赤、金、漆	雲(会津絵)	黄 植物	
131-17	3-147	3325	16末～17後	蓋	赤	黒					青下層3-2「蓋」
131-18	3-146	3358	～19中	蓋	赤	黒	外 3	紺	鳥(丸に鳥)	紺 鳥	
131-19	3-123	3201	17前～19中	蓋	黒	黒				赤 菊(蓋)	
131-20	3-80	3201	17前～19中	蓋	赤	黒	外	紺	柳(丸に五三の柳)	紺 柳	
131-21	3-71	3201	17前～19中	蓋	赤	黒	外 3	赤、紺	花意(丸に花意)	赤、紺 花意	
131-22	3-102	3201	17前～19中	蓋	赤	黒	外 3	赤	柳(丸に五三の柳)	赤 柳	
131-23	3-32	3220	19中	蓋	赤	黒	外 3	紺	橘(丸に橘)	紺 橘	
131-24	3-225	3408	19中	蓋	赤	黒	外	紺	連葉文(竹・竹・鶴・亀)	紺 竹	
131-25	3-149	3408	19中	蓋	赤	緑	外 全面	金箔	秋草文(菊に横子)	金 菊	
131-26	5-24	5401	19中～近代	蓋	赤	黒	外 3	赤	雲の羽丸に右重ぬい雲の羽	赤 雲の羽	
131-27	3-141	3326	19	蓋	黒	黒					TR307「蓋」
131-28	3-202	3408	19中	蓋	黒	黒					「蓋」
131-29	3-118	3134	17中～後	蓋	赤	赤					「蓋」
131-30	4-21	42133	17後	蓋	赤	赤					「蓋」
131-31	3-201	34134	17後	蓋	赤	赤	内 全面	金	秋草文(丘に薄)	「蓋」	
131-32	3-96	03-2区	18後～19	蓋	赤	赤					TR202「蓋」
131-33	5-22	5401	19中～近代	蓋	赤	赤	内	金	梅(枝梅)	「蓋」	
131-34	5-21	5401	19中～近代	蓋	赤	赤	内	金	不明植物	「蓋」	
132-1	8-1	812	16末(17初)	腰高	赤	赤	外 3	黒	木瓜	腰高	
132-2	3-171	03-4区	17後	腰高	黒	黒	外 3	赤	亀甲(三つ盛亀甲に三つ星)	大トレ「腰高」	
132-3	3-151	34348	17後	腰高	赤	黒	外 3	黄	矢(丸に一つ矢)	腰高	
132-4	3-173	34198	17後	腰高	赤	黒	外 2	赤、黄	巴(丸に右三つ巴)	腰高	
132-5	3-90	3262	17後	腰高	赤	黒	外 3	赤	雲(二重丸に九枚雲)	腰高	
132-6	3-94	3205	17後～18前	腰高	赤	黒					腰高
132-7	3-191	03-4区	17後～19	腰高	赤	黒	外	金	秋草文(薄)	TR401北方「腰高」	
132-8	3-92	03-2区	17初	皿	赤	赤					TR219横子「口唇と内底 明線黒、高台内黒、内面に黄」
132-9	3-179	34377	16末～17後	不明	赤	黒					「合子」
132-10	3-145	33349	16末～17初	合子蓋	黒	黒					「合子」
132-11	3-224	36008	18後	合子	?	?			×		「合子」 心持ち 縦木取り
132-12	3-143	3309	19中	合子	黒	赤					「合子」 底面黒
132-13	6-12	06-2区		合子	黒	赤					TR6203「合子」 底面黒
132-14	3-222	36054	17後	鉢蓋	赤	黒	外 全面	赤、黄	秋草文(十三菊・薄に黄)	鉢蓋	
132-15	3-62	3134	17中～後	鉢	赤	黒	外 全面	赤、黄	秋草文(芭蕉花・薄に黄)	鉢	

*漆絵種類欄の×は、文様があることは分かるが、経年劣化・保存不良により判別が不可能な個体。

*※備考欄の(器種名)は本多達哉氏(福井県教育庁生涯学習・文化財課)による分類。



第133図 刃物柄・楔・ヘラ・刷毛・物差し・糸巻・傘軸・上水道継手・鋤頭部形・肘掛・箱形列物・舟形・羽子板 (1～9:縮尺1/4, 10～13:縮尺1/8, 14～21:縮尺1/6)



第134図 木釘・有孔円盤・玩具・人形・板状部材・把手・燭台・支脚・十字組物・その他
(1～6：縮尺1/4、7～10・19～31：縮尺1/6、11～18：縮尺1/3)

玩具・呪具 舟形4(第133図18:16末、第133図19:17前～19中、第133図20:16末～17初、他1:19)、羽子板2(第133図21:17前～中、第134図11:ミニチュア)、独楽1(第134図12)、将棋駒1(第134図13:17前～中)、烏籠1(第134図14:17中～後)、薙刀1(ミニチュア:17前～中)、人形2(第134図15:17初、第134図16:17後～18)、人面1(第134図17:17中～後)、烏形2(水鳥?、第134図18:フクロウ)、陽物?1(17前～19中)、護符?3(長卵形1:16中～後、分銅形2:17中～後)

漆工品 桶側1、曲物・桶の蓋もしくは底8(17初～18前)、指物箱の蓋3(第134図19内面赤・外面黒地金線:時期不明、短軸方向彎曲:19中、他は17初～後)、蓋1(楕円形・内外黒)、折敷?側板2(内外赤:16末～17初、内外黒:～19中)、容器口縁突起?1(19中)、衣桁?1(黒地金梅:時期不明)、台縁飾り?1(第134図26:17中～後)、肘木?2(棒状・黒:近代、雲形:19中～明治)

棒状具 箸や楊枝を除き、細い割載棒が単体で機能を果たしたと考えられるもの23点を一括する。先端に鉄製品を装着する可能性はある。時期が判明しているものの多数は17世紀中葉～後葉に属し、17世紀前葉以前のものではない。横断面形と一端を尖らすかどうか及び他の細部加工で4類に分ける。

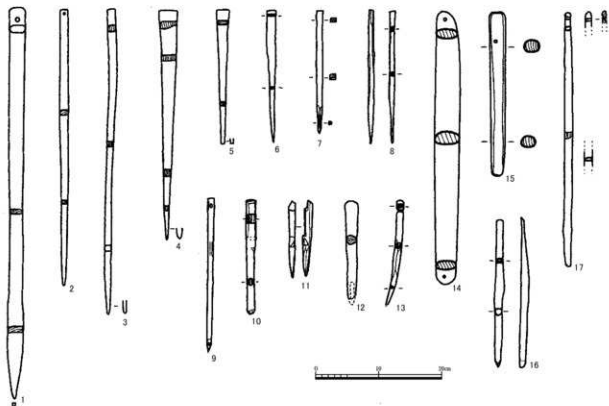
1類(第120図11、第126図17、第141図11、第135図1～8):断面が扁平な長方形で一端を尖らす。

長さは大(60cm)と小(21cm)及びその中間に分かれる。墨書をもつものがある。

2類(第120図12・13、第135図9～13):断面が多角形～不整形形を呈し、一端が尖る。

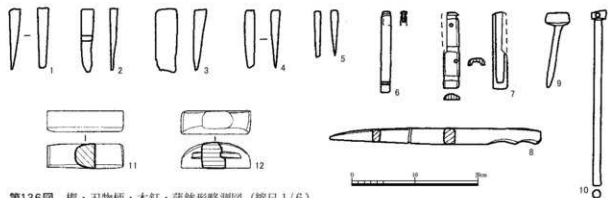
3類(第135図14・15):両端を主頭状に整形したもの。横断面形は丸みのある矩形。

4類(第120図14、第135図16・17):1～3類以外。円棒(第120図14)、一端は片刃、他端は両刃に削り出したもの(第135図16)、一端近くと中央部に溝をもつもの(第135図17)。

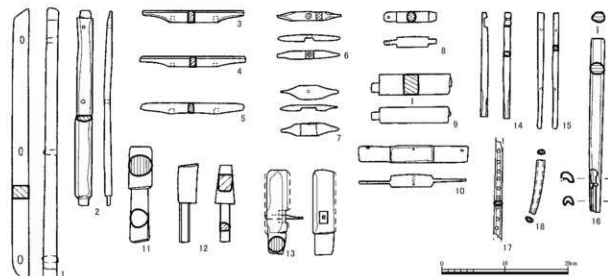


第135図 棒状具略図(縮尺1/6) 1～8:1類、9～13:2類、14・15:3類、16・17:4類

その他の道具・器具・設備 第4(第37表)、布1(17前～19中)、播粉木1(第132図16:17初～19)、自在鉤2(第132図17:16末～17初、第132図18:17初～19)、砥石台2(第132図19:17、第132図20:17中～後)、陶製鍋把手1(18後～19中)、上水道継手2(第133図10、第133図11:17後)、刳物箱2(第133図16:17初～19、第133図17:16末～17初)、指物箱〔二合枘〕1(第132図21:17前～19中)、黒漆塗柄簞箱2(第126図11:17後～18前、第126図12:19中～近代)、横槌1(第126図13:17前～19中)、木槌2(第126図14木製タガネ入り:17前、第126図15:18後～明治)、叩き板?1(第126図16)、糸巻き1(第133図8:17中～後)、刷毛2(第133図5:17中～後、第133図6:19中)、漆塗り用ヘラ7(第133図3・4:17中～後、他の5点は17初を含む)、プラスチック平面形ヘラ1(時期不明)、棒状先端両刃ヘラ?1(17前～中)、楔6(第133図2:17後～19中、第136図1～5:片刃1、片刃様両刃2、両刃2、長9cm前後、17中～19中)、刃物柄3(第133図1〔第136図6〕:17中～後、第136図7:17初、第136図8:鉋様着装、17中～後)、木釘?3(第134図2、第136図9:17後～18前、第136図10:17中～後)、鯨尺物差1(第133図7:17初～後)、千枚通形1(第134図1:17中～後)、傘轆轤1(第133図9:17後)、提灯1(第123図14:19中)、燭台1(第134図30)、開き戸縦把手2(第134図25:17～19、他は17後～19中)、支脚1(第134図29:17前～中)、肘掛2(第133図14:17中～後、第133図15:17後)、筆軸3(うち2点は17前～中と17中～後)、多孔円盤2(第123図13:17後～19中、第134図10:17前～19中)、円周均等挟り入り円盤3(6カ所挟り2:17初と18後、3カ所挟り1:17後～19中)、有孔円盤7(第134図4:17中～後、第134図5:17前～中、第134図6:17中～後)、有孔隅丸方形板1(17初～前)、



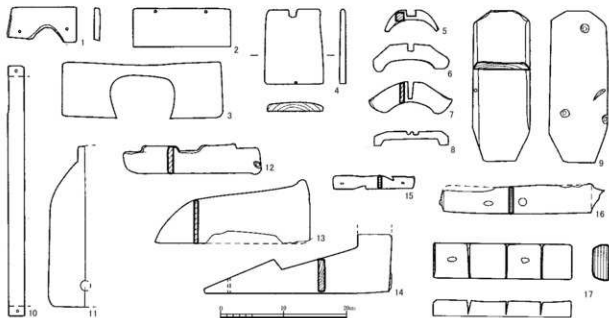
第136図 楔・刃物柄・木釘・蒲鉾形略測図(縮尺1/6)



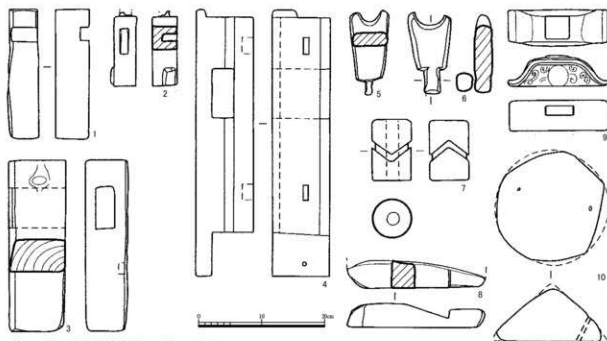
第137図 棒状部材略測図(縮尺1/6)

金延棒形3(第134図7～9:時期不明)、蒲鉾型2(第136図11:16末～17、第136図12:不明)、筒形小型彫刻品1(第134図3:17後(～19))、形容し難い不明木製品7、柱3(束柱?:17初～前、柱根:15後～16中、貫穴付き:不明)、杭4(広葉樹、1点:17中～後、他は17～明治)、胴木6(広葉樹)。

棒状部材 蓋棧把手1(第137図1:鉄釘付16末～17初)、桶把手?1(第137図2)、下面2孔付き細棒3(第137図3:17後～18前、第137図4:17初～前)、十字組物2(第137図6:19中、第137図7:17初～前)、十字組物支柱1(第134図28:17初)、両端仕口・柄3(第137図9:17後、第137図10:17前～19中)、栓・レバー?3(第137図11:17前～19中、第137図12:17後、第137図13:17中～後)、その他5(第137図14:17後、第137図15:17前～19中、第137図16:17中～後、第137図17:19、第137図18:近代)。



第138図 板状部材略測図 (縮尺1/6)



第139図 塊状部材略測図 (縮尺1/6)

板状部材 台脚板(弧状挟りまたは楕円形孔)5(第134図20:黒漆塗、第134図21:17中～後、第134図22:17前～19中、第134図23:19中～明治、第138図1:17前～中)、台板1(第134図27:17前～中)、箱枕?1(第134図24:17後～19中)、指物箱?2(第138図2:17後～19中、第138図4:17初～前)、十字組物5(第134図31:17前～中、第138図5:17中～19前、第138図6:17初、第138図7:17前～中、第138図8:17中～後)、下駄材?1(第138図9)、窓格子?1組(第138図10:17～19)、肘木?3(第138図12、第138図13:17前～19中、第138図14:17初)、方形タイル様削り出し板1(第138図17:17末～明治)、他3(第138図11:17中～後、第138図15:17初、第138図16:17後)。

塊状部材 柱状材3(第139図1:17前～19中、第139図2:17初～中、第139図3:17前～19中) 敷居?1(第139図4)、Y字形2(第139図5:17中、第139図6:17後～前)、山形溝刻み円柱1(第139図7)、台?1(第139図8:19)、唐破風1(第139図9:19中～明治)、笠形1(第139図10:～19)。

墨書木製品 曲物・桶・樽の蓋を除き、墨書のあるもの及び墨書は確認できないがそれと同形のもの墨書木製品としてまとめて記載する。総数63点。木製品本体の形態で4類に大区分する。

1類:付け札木簡の形態を呈するもの(第140図、第141図1～4)。楔形平面形の広端近くの両側縁に刻みを入れる(A類)、A類から刻みを省略したもの(B類)、上下同幅の長方形板で側縁に刻みを入れる(C類)の3種がある。出土点数はA類7点、B類14点、C類10点。A・B類の出土例は17世紀中葉以降のものであるが、C類には16世紀末～17世紀初頭の3点が含まれる。

2類:短冊形を呈するもの(第141図6～8)。比較的厚い。17点。サイズにより4類に分ける。

A類:小型。長さ・幅が約6.0×1.6cm、9.0×2.7cm、12.0×6.0cmの各1点。厚0.2～0.4cm。

B類:長さ に 比して幅が狭く、比較的厚い短冊3点(第141図6～8)。長さ19.3cm、幅2.7～3.6cm。

C類:長さはB類に類似して18～20cm。幅はB類より広く4.8～6.7cm。概してB類より薄い。6点。

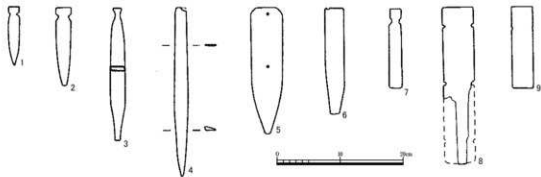
D類:長さが27cmを越えると思われる5点。27cmと33cmが確認できる。

3類:護符・呪具の類(第141図9・10)。2点。第141図9は焼印。

4類:道具類。13点。楔1(第133図2)、卒塔婆1(第141図5、16末～17初)、棒状具1(第141図11)、

指物箱材片2、桶側板片2、漆器片1、文鎮形棒材1、板状材片5。

墨書の遺存状態は決して良くない。現時点では大部分が判読不能である。遑って、平成17年度の実測・製図作業時には、現在よりも状況はかなり良かったと思われるが、文字を判読しないまま、残存した墨痕が実測図に転記された。そこで改めて少量でも正確な字句を拾い上げるべく、困難な翻字作業を佐藤圭氏(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)にお願いした。その結果を第36表に示す。



第140図 墨書木製品1類(付け札)略測図(縮尺1/6) 1～3:A類、4～6:B類、7～9:C類



第141図 墨書木製品と墨書や焼印のある蓋類（墨書木製品：縮尺1/3、蓋類：縮尺1/6）

第36表 墨書・焼印一覧

器種分類	押印 番号	遺物 番号	遺構 番号	伴出陶磁器 の年代	翻 字
1 蓋・単材型6類	第141図15	墨32-25	3201	17前～19中	「□□寺」
2 蓋・単材型6類	第141図13	墨32-21	3201	17前～19中	墨書「江州」、焼印「江州」。
3 蓋・単材型6類	第141図21	墨32-24	3134	17中～後	「上」
4 蓋・単材型11類	第141図12	墨42-45	4232	18後～19中	焼印「□□/海鼠輪/吉田」
5 蓋・単材型6類	第141図16	墨41-44	4150	19前	「濱納豆/淨得寺」
6 蓋・単材型6類			3408	19中	「納豆□□/雀巢□□」
7 蓋・単材型4類	第141図18	墨36-43	3408	19中	焼印「□□/たきなミヤ/松本」
8 蓋・結合材型3類	第141図19	墨42-46	4281	17後。18末～19	焼印「こめや」
9 蓋・結合材型3類	第141図23	63-218	6301	～19	焼印「改正」
10 蓋・結合材型4類	第141図25	墨33-34	3308	17後～19中	「酢□□」
11 墨書木製品1類		34-16	34197	17初～19	「身□□□□片」
12 墨書木製品4類	第141図5	52-22	5273	17初～19	「□□院宗廟堂」「□□□□」
13 墨書木製品1類	第141図3	32-5	3201	17前～19中	「□□字□□」
14 墨書木製品1類		42-19	4220南側 桃土下	17中	「□□□衛門」
15 墨書木製品1類		31-4	3134	17中～後	「三升」
16 墨書木製品3類	第141図9	32-7	3134	17中～後	「水 家□□」
17 墨書木製品3類	第141図10	31-1	3111	17中～後。19前	「七宝」
18 墨書木製品4類		31-7	3163	17後	「山川□□□ 桶？」
19 墨書木製品1類		31-1	3165	18後	「□身六郎衛門」
20 墨書木製品4類	第141図11	34-39	34111	～19中	「文数□□□七助 廿□□」
21 墨書木製品2類B	第141図7	33-28	3361	19中	「□□岡部長十郎」「岡部長十郎」
22 墨書木製品4類		51-47	5109	19	「九百□□」 桶
23 墨書木製品2類B	第141図6	33-33	3309	19中～明治	「□□中原左衛門 □□□□」
24 墨書木製品1類	第141図1	52-21	5293		「草や□□□」「所廿四」
25 墨書木製品1類	第141図2	52-20	複乱		「□□□□□ さ□□□□□まいる」 「□□□□□ 六□□□□」
26 墨書木製品2類A		33-15	複乱		「倉庫附」「物品掛附」
27 墨書木製品2類C		32-7	複乱		「福井□□□□□」「教賀五□□殿」
28 墨書木製品2類C		32-8	T R 210		「一●塙雀屋庄左衛門 □□□」
29 墨書木製品2類C		32-10	T R 212		「ほしはむ十五・ほしはむ□□□□入 さかゝ すゝめや 庄左衛門」
30 墨書木製品2類C		34-38	複乱		「一● ほしはむ 塙 雀屋庄左衛門 □□□」 「福井 □□□」「鉄□□□□出張所」

第37表 詳細観察表

番号	実測番号	遺構番号	構種別	伴出陶磁器の年代	残存状況	計測値 (cm)	形態上の特徴
1	無番	33171	土坑	18後～19前	柄は消失。 体部(シュロ材部)はほぼ完全 先端部は斜めに消失	縦長 40 幅 22 厚 3.5	シュロ材は現在の標榜部に比べてきわめて細い。 柄との連結部である元端部分に、縦(径3mm、コヨリ2本右打ち)を少なくとも18重に螺旋巻きする。 元端め下端の2cm下から6cm下にかけて横に4条のかがり縦じ、縦じ組はコヨリ2本右打ちで、径1～2mm。
2	番 No.1	3134	土坑	17中～後	柄は消失。 元端め部分を欠失して体部両端開放	縦長 (29) 幅 21 厚 2.2	シュロ材はきわめて細い。 かがり縦じ5条。その間隔は1.2～2.0cm。縦じ組はコヨリ2本右打ち。
3	番 No.2	3134	土坑	17中～後	柄は消失。 元端め部分を欠失して体部両端開放	縦長 (28) 幅 22 厚 2.3	シュロ材はきわめて細い。 かがり縦じ4条。その間隔は2.0cm。縦じ組はコヨリ2本右打ち。
4	無番	36081	土坑	17後～18前	柄は消失。 元端め部分を欠失して体部両端開放	縦長 (29) 幅 22 厚 2.0	シュロ材はきわめて細い。 かがり縦じ4条。その間隔は1.6～2.4cm。縦じ組はコヨリ2本右打ち。

第2節 漆器種類の漆絵

1 資料と分類

出土総数340点のうち無文は79点である。文様のあることは認められるが、劣化により文様の内容が判別不可能なものが25点ある。これらを除き、漆絵(高台裏の刻文・漆描き文字除く)として識別したものは186点である⁽¹⁾。これらは家紋と文様状の家紋、絵画風の文様を含む。下記の6群に大別し記載する。

第1群 蓬萊文：空想的動植物文としては蓬萊文のみ。35点。

第2群 植物文：花卉を中心に描く花文、葉や実を中心に植物の全体の姿を写した植物文、四季の植物を単体もしくは季節を織り交ぜて表現する季節文がある。

・花…桔梗・藤・桜・梅・菊・杜若・牡丹・竜胆。32点。

・植物文…^{おもだか}沢瀉・桐・片喰・笹・橘・蔦・柏・松・茗荷・柊・柳・羊歯・芝・蕪。45点。

・季節文…秋草文・春秋文。18点。

第3群 天然文：天象文と波や山等の自然文の総称。1点。

第4群 動物文：実在の動物を題材とした文様。鶴・鷹の羽・雁金・蝶。6点。

第5群 幾何学文：家紋に用いられる以前から図案化されていた文様。巴・亀甲・引両・木瓜・菱・目結・唐花。30点。

第6群 器物文：物の形を文様化したもの。扇・俵・分銅・丁子・輪宝・矢羽根・花籠。19点。

漆の色については、観察表(第35表)中で赤・茶・黒・黄・緑・金・銀を使用した。赤は基準を設けて細分することが困難なため、そのうちの赤系統は赤、褐色系統は茶として一括した。黄と金は、劣化により不分明なものが多い。明確に識別できたもののみとした。

地の色は、内・外面黒39点(20%)、内・外面赤29点(15%)、内面赤・外面黒115点(60%)、内面黒・外面赤2点(1%)、内面赤・外面茶4点(2%)、不明4点(2%)である。外面黒が8割を占め、漆絵の地の色は黒が一般的である。外面赤を漆絵の地としたものは、16世紀末に比較的多く見られた。

該当資料の例示は、図版第92～99中の写真番号を用いる。実測図を掲載した資料に関しては、図版キャプションに実測図掲載番号を付記する。実測図を掲載しないものは遺物番号を併記する。

2 各文様の説明

蓬萊文(図版第92・93 鶴亀1～18・松竹1～23) 蓬萊文はこれまで福井城跡や一乗谷朝倉氏遺跡等に出土例があり、県下では珍しくない。今回の資料中の割合は21%である。蓬萊文の用途は茶会席等の「ハレ」の日の慶事用とされる。次に、文様の構成要素である鶴・亀・松・竹について記す。

鶴は蓬萊文の一要素として平安時代後期に確立していたとされ、原型は空を飛び交う数羽の松嶋鳥であった。16世紀の一乗谷朝倉氏遺跡出土資料の鶴は、頭と体、2枚の羽をそれぞれ1本の線で表し、「X」[※]と著しく簡素化されるものの、2羽以上で空中に配される。本資料でも、17世紀初頭には鶴は2羽で飛翔して描かれる(図版第92蓬萊文 鶴亀1。以下、図版写真の例示は鶴亀1、花文3等と表記する)。17世紀前葉から鶴は1羽になり、さらに地に脚が着くようになる(鶴亀2～4)。17世紀中葉には鶴に目を入れる(鶴亀4・5)。鶴亀6は、上半身を欠くが、構図が鶴亀5と類似する。鶴亀7のみ鶴と亀の配置が左右逆である。17世紀後葉にはより簡略化した描き方になり、鶴亀10は亀の右方に鶴と思われる線が入る。鶴亀11は2本の脚の先を明確に描かない。鶴を描く際の画数も減る傾向にある(鶴亀13・14)。鶴亀12は鳳凰の可能性もある。17世紀後半までの鶴12点中8点は脚が地面に着く。18世紀は不明だが19世紀に入ると、鶴は再び空を舞い、表現も巧緻になる(鶴亀15・16)。この変化は、越前唯一の漆器

産地・河和田に、京都から蒔絵師、輪島から沈金師を招来した時期(嘉永年間・1848～53)と重なる⁽²⁾。おそらく地域外の技法が入ることで、簡略化した鶴が原型に戻ったのであろう。鶴亀17の鶴の脚の右方には、松の幹が描かれている。鶴亀18は亀の右方に鶴の脚が1本確認できた。

亀の原型は、角と牙を持ち尻尾には養のような毛束が生える、霊獸の養亀である。17世紀初頭には、甲羅は、亀甲ではなく5本の横線で描かれる(鶴亀1)。鶴亀5(17世紀中葉)には、2本の角と5本の牙とが見てとれる表現があり、尾も長く描かれる。17世紀中頃を過ぎると、鶴に比べて亀は極端に省略され記号化する(鶴亀8～11・13・14)。鶴亀8は背部と頭・胴部が二筆で描かれ、鶴亀9にはその二筆に脚が4本つく。鶴亀10では、牙と角の表現が変質し斜線となる。鶴亀11は左方に亀と思われる筆描きが見え、鶴亀8と類似する。鶴亀13・14では形態の変化が著しい。牙・尾はもちろん亀の甲羅・足すら省略され、一筆で描くような表現になる。その後19世紀中頃に鶴同様、亀の形態も写実的になる(鶴亀15・16)。鶴亀とも空を飛翔するような描き方である。亀の尾は長く伸びる表現になる。

松は21点で、笠松が主体である。蓬葉文における松は本来若松であるが、本資料では5点に過ぎない(松竹10・14・19・21・23)。时期的なまとまりは見られない。松竹19は同じ若松でも「根引きの松」⁽³⁾の可能性がある。松竹15(18世紀後葉～19世紀前葉)は、一乗谷朝倉氏遺跡出土の15～16世紀末の蓬葉文の松に近似する。これは2本のX状に交った幹から左右対称に3つずつ計6つの笠が付くもので、「越前若松」と地域を限定する呼称をする研究者もいる(四柳2009)。これまでの福井城下の発掘調査⁽⁴⁾でも、近似の漆絵が4点出土しており、16世紀または16世紀中～後葉とされている。したがって、松竹15は遺構の年代が動かなければ、15～16世紀の漆器柄が19世紀前後まで伝世されたが、職人集団において脈々とその表現方法が引き継がれたかである。松竹1(16世紀後葉～17世紀初頭)は、縦の直線で描かれた幹の左右に松枝の表現が見え、その右方には竹が描かれる。松竹4(16世紀末～17世紀初頭)は、幹がS字状にうねり、老松の表現に近い。松竹6(17世紀前葉)は口縁部欠損のため、放射状に見える9本の線描きで、笠松の下部につく松葉が竹か判別できない。松竹5(～17世紀前葉)は、笠が黄、その下の松葉が赤で太く表される。松竹7(17世紀中葉)は、幹が細く立ち上がり、簡略化された笠松がつく。同じ17世紀中葉の松竹8では、筆致自体は粗いが、笠松の文様としては細密に描かれる。松竹9(17世紀中葉)も細片ではあるが、同様に表現される。松竹8・9共に文様化された笠の上部の膨らみは5つある。松竹10(17世紀後葉)は笠上部の5つの膨らみが分離して描かれる。松竹11・12は17世紀後葉のものであるが、松竹11は笠松の笠内部の斜線の省略、松竹12は笠内部の塗り省略される。松竹13(17世紀後葉～19世紀)は、口縁部欠損のため笠松か竹か判別できない。松竹16～18(19世紀中葉)は、地面の表現・幹の傾きなどが写実的表現であるが、17世紀に見られた笠上部の膨らみは曖昧になる。以下は年代不明の漆絵で、松竹20は、6本の幹に松枝(松葉)表現が、短い交線で描き込まれ簡略化が著しい。右方の「X」は一乗谷朝倉氏遺跡出土の漆絵にも見られた鶴の表現と推測する。松竹22は小片のため、笠松上部が不明瞭である。

竹(笹)は10点で、松と竹が配されている構図が確認できたものは8点。うち5点が松の右方に竹を配する。竹の表現は3種に分けられる。竹を写生風に文様化したもの(松竹16～18)、さらに簡略化し文様化したもの(松竹1～3・7)、葉部だけを円形に配し枝幹を省略したもの(松竹19)である。19世紀中葉以前の竹は、長く伸びた竹の幹の上部に葉が集中する。19世紀中葉の3点は葉が左右や上下に写実的に配され、竹の節に線が2本入る。松竹19は、そのどちらの範疇にも属さない。

以上、蓬葉文を構成する4つの構成要素について、それぞれの特徴を挙げた。それらをまとめると以

下の3つの構成パターンであることが分かる。

中世継承蓬菜文…朝倉期の文様要素を用いる。越前特有の笠松、「X」で極端に簡素化された鶴、楕円の左右に頭と尾を1本ずつ加え楕円の下部に2本の脚が付く亀⁽⁵⁾が特徴。これに簡略化した竹や橘が入る。

量産型蓬菜文…上記の蓬菜文より文様要素が簡略化されている。その巧拙の多様さは、近世の漆器模様の量産化の影響によるものと考えられる。

原型回帰蓬菜文…19世紀中葉に入り河和田は加飾職人を招致し、漆絵にも大きな変化が現れる。京都より蒔絵師を、輪島より沈金師を呼び寄せ、下地の堅牢さや工程の簡素さが特徴であった河和田漆器の転換を図っている。それまで簡略化一辺倒だった鶴亀松竹の意匠は、同時期から文様の表現が巧緻になる。

花文 (図版第93・94 1～27) 桜8点・桔梗6点・藤6点・梅4点・菊3点・杜若2点・牡丹2点・竜胆1点がある。桜は8点中5点が家紋で、3点は外面に描かれた散らし文様である(花文1～8)。花文1は二重に圏線が描かれる。花文1(17世紀中葉)・3(17世紀後葉)は単色の花卉だが、花文2(17世紀中～後葉)は赤の花卉の中心部に黄で点を打ち、花芯を表現している。花文4は花芯の表現はないが、花卉は上方から右回りに、赤赤黄赤黄の順に塗り分けられる。家紋は単色での表現が原則であるため、これらの塗り分けは漆絵独自のものである。花文5は圏線内の上部の花卉が3枚であるけれども、花卉先端の形態から桜の表現とした。圏線内の下部には、家紋の左に払う丁子や大根のような表現を充填している。花文6(17世紀初頭～前葉)・7(17世紀中～後葉)は、楕円の外面に単色で、花芯表現のない同じ形の桜を繰り返して描いている。この2点は出土遺構の年代も、文様の配置も異なるが、文様の筆致が非常によく似ている。花文8(17世紀前葉～19世紀中葉)は楕円の体部に高い技術を要する突線(かつら)がある。桜に次いで多いのが桔梗で、6点全て家紋である(花文9～14)。花文11・12(17世紀中～後葉)の形態は、家紋における桔梗の定型通りであるが、花文12は右下の花卉と花芯の点が赤、その他の花卉と圏線は黄で塗り分けられる。花文9(16世紀末～17世紀後葉)は中抜き桔梗で、家紋の「中陰桔梗」と呼ばれる。花文10(17世紀前～後葉)は、圏線内上部に半分の桔梗が覗く「一文字割桔梗」であるが、下部には一文字より短い線が足されており、家紋として決まった呼称がない。構図は天地に対して不均衡に傾く。圏線・割桔梗・短い線は黄、一文字は赤に塗り分けられる。花文13(17世紀後葉～18世紀前葉)は家紋の割方法に忠実である。「光琳桔梗」と思われるが、花卉の中抜きを原型より小さく描いている。花文14は、花卉の中抜きが塗りつぶされているが、桔梗に分類した。中抜きを省略した桔梗は桜や梅と区別しづらいが、花卉の先端を鋭く尖らせることで見分けた。なお、過去の福井城跡の報告⁽⁶⁾では、花卉の中抜きが省略された16世紀後葉～末の漆絵を、「植物(花?)」と記載している。藤は6点中、家紋が3点(花文15～17)と、外面全周に巡らせた文様3点(花文18・19)とがある。本資料では、家紋としては珍しい「軸付き藤輪」(花文15; 17世紀中～後葉)、「内藤藤崩し」(花文16; 17世紀後葉)、「四つ葉立藤」(花文17)がある。これは越前で信仰の厚い浄土真宗本願寺派に見られる「下がり藤」・「四つ藤」⁽⁷⁾等一般的な藤紋からの派生型である。巡らせ文様3点は、外面に花・蔓・葉を絵画風に描く。花文19(17世紀中～後葉)は、藤の花と葉の組合せであるが、葉の先端が細く尖ることから、葉は笹の可能性もある。梅は4点中1点が家紋で(花文20)、1点が外面全周に巡らせた文様(花文21)、2点が見込に写生風に描かれた蒔絵の梅枝である(花文22・23)。家紋の花文20(17世紀前～後葉)は花卉と花卉の隙間がなく、円型に近い形に描かれた「梅餅」。花文21(17世紀初頭～前葉)は黄で描かれた梅と、赤

で描かれた薄状の線描きを取合せる。花文22(19世紀中葉～近代)は、前述の蒔絵技術の導入年代と合致する。花文23の蒔絵も同時期かと思われる。菊3点は全て細片である。杜若の花文24は家紋の定型通りである。花文25(17世紀中～後葉)の椀蓋に巡らせた文様は単色で精巧に描かれる。牡丹(花文26: 17～19世紀)・竜胆(花文27)は家紋の図線がコンパスを用いたように機械的で、中の絵が本来の家紋から著しく簡略化されることから、量産型の可能性が高い。

植物文(図版第95・96 1～43) 沢瀉9点・桐7点・片喰4点・笹4点・橘3点・菖蒲3点・柏3点・松3点・茗荷2点・柊2点・柳2点・羊歯1点・芝1点・蕪1点がある。沢瀉(植物文1～9)は植物文の中で最も変化に富み、9点中家紋の原型に忠実なのは植物文8のみである。植物文1・9は特に変異が著しいが、植物文3を介在させることにより沢瀉と推定した。その他、茎が2本や太く1本に減るもの、葉と花が混同され15枚の葉に見えるもの等が17～18世紀の遺構出土のものに多く描かれる(植物文2・3・9)。植物文4(17世紀前葉～明治)は茎の本数が9本以上ある。原型では茎が3本、葉は3枚、その上部の左右に小さく花が5つずつ配される。沢瀉の花を確認できる8点のうち、7点は丸い花ではなく横線で代用される(植物文5～7)。桐は6点あり、全て17世紀前葉以降のものである。家紋では3枚の葉の上に3本の茎があり、中心の茎と両側の茎につく花の数で「五三の桐」「五七の桐」等区別する。しかし、漆絵では簡略化され特定できないため、植物文13・15を除き、桐とした(植物文10～12・14)。植物文14(17世紀後葉)は、桐の葉を左から緑黄赤の3色に塗り分け、図線と中央の葉とは同色である。片喰は家紋の定型に近い植物文16・17と、「剣片喰」と推測した植物文18・19とがある。植物文17の葉の中抜きが、通常の短い剣状であるのに対して、植物文16(16世紀末～17世紀後葉)は葉の中抜きがハート型で、紋帖⁽⁸⁾には掲載のない希少家紋が、漆絵独自の変質と考えられる。笹は4点あり、3点が図版掲載の家紋で、他の1点は花文19の藤との組み合わせとした。笹の家紋は、葉の枚数で呼称される。植物文20は「六枚笹」、植物文21は「十枚笹」、植物文22(17世紀後葉)は二重の図線を持つ「九枚笹」である。植物文21・22の笹の葉の3枚の付け根、葉の描き始めの部分に小さな点を確認した。漆絵を描く場合の目印の可能性はある。橘は全て単色で、家紋では「光琳橘」の植物文23(16世紀末～17世紀前葉)と定型の植物文24(19世紀中葉)とがある。植物文25(18世紀後葉～19世紀前葉)は絵画風で、橘の他に装飾的な文様が描かれる。菖蒲は家紋が2点、外周に巡る文様のものが1点ある。全て単色で描かれるが、葉脈の表現がそれぞれ異なる。葉脈が縦方向のみ(植物文28)、葉脈が横方向のみ(植物文26)、葉脈がなく葉は塗り潰される(植物文27)ものがある。葉の刻みや葉脈から植物文28は定型通りの菖蒲で、植物文26は葉の刻みが粗い「大割菖蒲」である。植物文27は唐草風の蔓に付く葉の内側を斜線で埋めるという特徴がある。柏は3点あり、全て単色の家紋である。植物文29(17世紀中～後葉)・31(19世紀中葉)は共に「抱き柏」で、植物文29は「細抱き柏」の可能性もある。植物文30は「牧野柏⁽⁹⁾」に近い。松は3点ある。植物文32(17世紀後葉～19世紀中葉)は松の笠が二段に重なる「二階松」で、松の幹の部分赤、それ以外は黄で塗り分ける。通常の家紋の松は、ユーモラスに文様化し、目と鼻孔が2つずつ幹に付いて顔にも見える。しかし本資料の松の家紋は、蓬萊文の笠松と同じく写実的な表現が見られる。植物文33(17世紀後葉)は、単色で描かれた「三階松」である。植物文34は、家紋の「中陰櫛松」である。図線がなく、櫛は幅や長さが一定で、精緻な描き方である。植物文35・36はともに「抱き茗荷」とする。植物文36は、ほぼ家紋の原型通りであるが、植物文35の形態は原型から遠い。柊は家紋・文様1点ずつがある。植物文37は銀単色の「抱き柊」である。植物文38は小さく地面表現のある幹を中軸に、その両側につく葉の塗り分け「陰陽枝柊」である。植物文39・40は該当家紋がなく、近似の「櫛

とした。植物文40は圓線を黄、中の櫛を赤で描く。植物文41は、羊歯の葉の模様だけを取り出して文様化している。植物文42は小袖等の文様にも見られる芝文様である。植物文43は蕪で、中でも「ひとつ蕪」に近い。

季節文(図版第97 1～18) 菊や薄、秋の七草等の草花を単体もしくは組み合わせる秋草文11点と、春と秋の草花を取合わせた春秋文7点とがある。秋草文は主に薄が主体である(季節文2～4・6)。季節文5(17世紀中～後葉)は少なくとも3種の植物が確認でき、それらを「女郎花・薄に萩」と推定した。季節文10(19世紀中葉)は、蒔絵もしくは金泥の技法が用いられる。取合せは「菊に撫子である」。椀蓋外面に菊枝を巡らせ、撫子の花弁を散らす構成である。季節文7・11は薄と撫子の取合せである。春秋文には2枚の葉を銀と黄で塗り分けた双葉葵に、赤い薄に黄の露が乗った「双葉葵・薄に露」(季節文12)と、1条の線上に桜と菊を半分ずつ覗かせた「半桜に半菊」(季節文16・17世紀後葉)がある。

天然文(図版98 天象文1) 天象文1(18世紀後葉～19世紀)は、赤い円の下部に地抜きで小円を描いており、最も形態に近いと思われる「月」とした。「扇の地紙」の可能性もある。

動物文(図版第98 動物文1～6) 鶴3点・鷹の羽1点・雁金1点・蝶1点がある。鶴は3点全て家紋で、頭部は左を向く(動物文1～3)。赤(動物文1)、黄(動物文2)、銀(動物文3)の単色で描かれる。17世紀中～後葉の2点は、鶴の口が開く動物文1と、口が閉じる動物文2である。動物文3は、頭部と羽の先端部が欠損しており、前述の2点よりも羽の模様表現が粗い。動物文4(19世紀中葉～近代)は「右重ね違い鷹の羽」で、割方法に忠実である。動物文5は、北之庄城主柴田勝家の家紋「二つ雁金」から派生した「結び雁金」とみなした。雁金の頭部を点で表している。さらに胸部は「結び雁金」の結び目を完全には結ばず、下端に隙間を空ける。動物文6(16世紀末)は、半分欠損した椀の外面に、「地抜き揚羽蝶・筏・梶の木」が配される(梶の木の幹に見える部分は漆膜が木胎ごと抉れている)。出土品の中では少ない朱塗りの面に、黒色漆で描かれる。

幾何学文(図版第98・99 幾何学文1～30) 巴7点・亀甲7点・引両4点・木瓜4点・菱4点・目結2点・唐花2点がある。巴は全て右巻き「右三つ巴」(幾何学文1～7)である。亀甲文(幾何学文8～14)は、亀甲の枠内の紋が、紋帖にない不明なものも含め3種ある。最も家紋の原型に近いものは、幾何学文9(16世紀末～19世紀)で「亀甲花菱」である。幾何学文11(17世紀初頭～前葉)は「亀甲に豆花菱」で、内部の花菱は点で省略される。亀甲の枠自体の変化は、通常の亀甲文の他に一重・丸紋・三つ盛がある。通常の亀甲は六角形の外側を太い線で描き、内側を細い線で描く二重構造である。一重亀甲はその内側の細線がないものを指す。幾何学文8(16世紀末～17世紀初頭)は「一重亀甲」であり、中に描かれた文様は四角内部に横線が4本以上入る。この家紋は紋帖にない。丸紋に属する幾何学文12(17世紀前～中葉)は「丸に亀甲花菱」である。内部の花菱の上下の菱を赤、左右を緑で塗る。幾何学文10も「丸に亀甲花菱」で、圓線を赤、亀甲を黄、内側の細線は赤で塗り分け、簡略化された黄の花菱が入る。三つ盛は、幾何学文13(17世紀後葉)が「三つ盛亀甲に三つ星」である。亀甲の細線と中の星が乱れている。幾何学文14は朱塗りの外面に、三つ盛と思われる亀甲と内部の花菱が確認できる。朝倉氏の家紋でもある木瓜は4点(幾何学文19～22)ある。引両は変形のない3点(幾何学文15～17)と、二重圓線ではなく一重の圓線内に紋帖に記載のない紋を入れたもの(幾何学文18)がある。幾何学文25(17世紀後葉)の菱は、黄の漆絵と金箔で会津塗の伝統的な文様が描かれる。目結は幾何学文27(17世紀中葉)の「隅立て四つ目」の変形紋と、幾何学文28(17世紀後半～18世紀前半)の「隅立て一つ目」がある。幾何学文29(17世紀中～後葉)は想像上の花の「五つ唐花」、幾何学文30は蔓唐花を蝶に見立てた「唐花蝶」である。

器物文(図版第99 1～16) 扇11点・俵3点・分銅1点・丁子1点・輪宝1点・矢羽根1点・花籠1点がある。過去に出土した福井城下の漆器椀類において、扇文様は非常に多い。扇文は楡扇と蝙蝠扇に分かれる。後者は5本程度の骨に両面もしくは片面に紙を貼ったもので、現代の扇子より骨の数が少ない。11点の扇文のうち、楡扇と判別できたものは5点(器物文1・2)で、蝙蝠扇は6点(器物文3～8)である。器物文10(16世紀末～17世紀初頭)は「宝尽くし」の構成要素である俵と鍵、もしくは俵と稲穂の組合せである。器物文9(16世紀末)は、器物文10と筆致が酷似している。なお器物文11は、簡略化された2つの楕円と僅かに残る先折れが見られるが、文様として通常「宝尽くし」の俵は2俵で描かれることから、前者を俵、後者を鍵とした。器物文12(17～19世紀)は分銅で、斜めに描いている。器物文13(17世紀前～後葉)は香料の丁子を簡略化して描いた「違い丁子」、器物文14(17世紀前～中葉)は「変わり六つ輪宝」である。中心部の円は省略される。器物文15(17世紀後葉)は矢全体を模した矢羽紋から矢羽だけを抽出した紋である。これも斜めに変化する。器物文16は「花籠」である。本来籠目文様に描くものを簡便に格子にしている。加賀五代藩主前田綱紀が集めた「百工比照」の中の釘隠しを参照し、籠に脚が付いている点、把手が付いている点などから「花籠」と推定した。

3 まとめ

全体を通してみると16世紀の漆絵は単色で簡素だが、文様自体は大きく、自由裁量に描かれる。17世紀前葉からは2色以上のものも見られる。17～18世紀には文様の表現が徐々に簡便化され、家紋にはコンパスが用いられる。家紋を正確に描く際の決まりである割方法が確立するのも同時期である。これらの変化は、江戸時代に食膳具として普及した漆器椀の、量産化に対応していく過程によるものと考えられる。また大多数の漆絵の家紋は、紋帖に記載される原型通りではなく、一定の省略や色の塗り分けなど漆絵特有の変化を見せる。19世紀には蒔絵や精緻な漆絵も見られ、藩外の技術導入の影響と推測する。

註

- 1 出土資料については、全形を保つものはほとんどない。よって蓬葉文においては全周の文様構成が不明である。
- 2 沢口悟一 1967『日本漆工の研究』
- 3 初春の宮中行事で女子の「若菜摘み」と対を成す。男子が浅く根の張った若松を根ごと引き抜く。別名「小松引き」
- 4 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008『福井城跡-福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査-』第151図8・第152図12・第154図32・36の蓬葉文。
- 5 註4の152図12に見られる。他に福井県教育委員会 1980『一乗谷朝倉氏遺跡X1』挿図-3も挙げられる。
- 6 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008『福井城跡-福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査-』第153図23
- 7 本願寺第13代良如上人(1613～62年)が宗祖親鸞聖人の家紋「鶴の丸」から「四つ藤」に家紋を改めた。
- 8 京都紋章工芸協同組合 1996『平安紋鑑』森崎信堂
- 9 通常の紋帖に記載なし。福井藩牧野家に伝わる家紋で通常の柏の2倍の太さの葉が三方向につき、葉の刻みが丸く大きい。

参考文献

- 北野信彦 2002 『近世遺跡出土の松鶴竜時絵漆器椀にみられる一性格』『もの・モノ・物の世界-新たな日本文化論-』雄山閣
- 富山市教育委員会 2006 『富山城跡発掘調査報告書』
- 福井県教育委員会 1979 『特別史跡一乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ』-朝倉館の調査-
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『福井城跡-国際交流会館建設工事に伴う調査-』
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009 『福井城跡-北陸新幹線福井駅部建設事業に伴う発掘調査-』
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012 『福井城跡-JR北陸線外2線連続立体交差事業(福井駅仮跨線橋工事)に伴う調査-』
- 溝口三郎 1968 『文様』『日本の美術29』至文堂
- 四柳嘉章 1995 『16世紀の漆器-能登・七尾城跡シッケ地区遺跡出土漆器第2次報告-』『石川考古学研究会誌38』石川考古学研究会
- 四柳嘉章 1997 『出土漆器の塗膜分析』『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ』新発田市教育委員会
- 四柳嘉章 1998 『北陸の中世漆器』『中・近世の北陸-考古学が語る社会史-』桂書房
- 四柳嘉章 2009 『漆の文化史』

第3節 漆器椀類の樹種同定

1 試料

福井城跡出土漆器椀類107点について樹種同定を行った。試料は福井城跡出土の漆器椀類の中から、木胎部分の残存率が60%以上の保存状態の良いものに限った。漆器椀類の年代は共伴する土器・陶磁器から推定されたものによる。その時期は16世紀後葉から19世紀中葉まで広く分布しており、17世紀に属するものが最も多い。

2 観察方法

標本は安全カミソリに用いる両刃カミソリを用いて、木口(横断面)、柁目(放射断面)、板目(接線断面)の3断面からの切片を作成した。作製した切片をガム・クロラール(抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物)で封入し、永久プレパラートを作成した。作成したプレパラートを光学顕微鏡で観察し、樹種の同定を行った。対物レンズは4倍、10倍、20倍、40倍のもの、接眼レンズは10倍のものを用いて観察した。

3 結果(第142図、第39表)

1) ブナ属 *Fagus* (ブナ科 *Fagaceae*)

散孔材。小型で丸い道管が密度高く均一に分布するが、年輪界に向けて径を減じる。道管は単穿孔と階段穿孔を有し、道管組織間壁孔は階段状である。放射組織には同性で、1～2列のものと複合放射組織とが存在する。ブナ属にはブナとイヌブナが分布するが、材構造での区別は困難である。ブナは北海道南部、本州、四国、九州の温帯に分布する落葉高木。肥沃な土壌にしばしば群生する。材は堅硬、緻密で靱性があるが、耐朽・保存性は低い。

2) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino (ニレ科 *Ulmaceae*)

環孔材。年輪のはじめに大きい道管が単独で1列に並び、孔圏外では薄壁多角形の小道管が多数集合して接線状に連なる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔はやや大形のふるい状となる。放射組織は異性で1～8細胞幅で、上下縁辺にしばしば大形の結晶細胞がみられる。ケヤキの分布範囲は温帯から暖帯下部で本州、四国、九州に分布する。山中に群生し、川岸に点在する。材はやや重く、狂いや割れが少ない。概して硬く、強靱。心材の耐朽・保存性は高く、水湿にもよく耐える。

3) カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. (カツラ科 *Cercidiphyllaceae*)

散孔材。小型で薄壁のやや角張った道管が単独または2～3個複合して密に散在する。道管は階段穿孔を有し、階段数は20～30本である。道管放射組織間壁孔は階段状となる。放射組織は異性で、1～2細胞幅。カツラは北海道から九州の亜寒帯から暖帯に分布する。水湿のある溪谷林に生える落葉高木で、材は軽軟均質で加工性にすぐれる。

4) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume (トチノキ科 *Hippocastanaceae*)

散孔材。やや小型の丸い道管が単独ないし2～3個複合して散在する。年輪界が近づくにつれて道管の直径は減少する傾向がある。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が見られる。放射組織は単列同性で層階状に配列する。トチノキは北海道から九州の深山の谷間に多く生育する。材は軟らかく緻密であるが、耐朽・保存性が良い。

4 分析

漆器椀107点の樹種同定の結果、以上の4種が認められた。これらの中ではブナ属が最も多く、73点

で全体の68%を占めた(第38表)。次に多いのはトチノキの29点で全体の27%を占める。これらの他はケヤキが3点で3%、カツラが2点で2%となった。

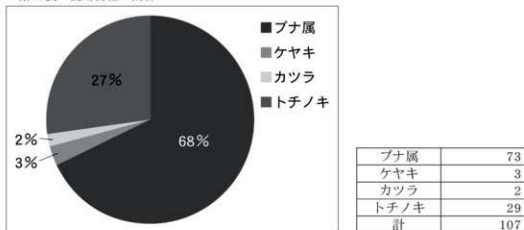
ブナ属の利用は16世紀後葉から19世紀中葉までと4種の中で最も広く、全ての時期において最も高率で出現している。また、トチノキの利用は17世紀以降に限られているものの、一定の割合で出現している。一方、ケヤキの使用は3点と全体的に点数が少ないものの、17世紀初頭までに限られている。カツラの利用は17世紀に見られるが、少数であり使用時期等に傾向はみられなかった。

近世漆器の樹種に関する研究としては、北野信彦の漆器用材の研究が挙げられる。同氏は近世遺跡出土の漆器の樹種を分析し、トチノキ、ブナ、ケヤキ材の利用頻度が高いことを示した。また、用材と漆塗り構造についての相関関係について考察しており、優品にはケヤキ材、廉価資料にはブナ材、その中間にトチノキ、カツラ材が選択されていると述べた(北野1999, 2005)。

確認した4種の樹種は、近世漆器の用材としてはいずれも多くみられる樹種である。ブナ属、トチノキ、カツラといった材は江戸時代の漆器材料として一般的であり、全国的に資料が多い。これらの樹種が90%以上を占めることから、福井城跡で使用された漆器碗は大部分が比較的安価な品であったと考えられる。またケヤキは高級品に使用される傾向があることから、出土点数が少ないこともこれに関係している可能性がある。

本分析では、福井城跡出土漆器の樹種から使用材の傾向を明らかにした。試料点数が107点と限定的であったため可能性を示すに留まったが、今後の資料の増加に期待したい。

第38表 使用樹種の割合



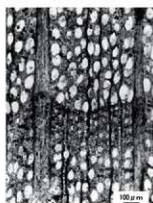
末文ではあるが、本稿の作成にあたり、以下の方々の協力・助言を賜った。心より感謝申し上げます。
(五十音順、敬称略) 上中央子・大山幹成・鈴木三男・寺田和雄・星野安治

引用・参考文献

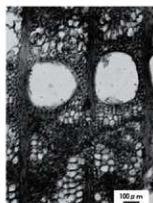
- 伊東隆夫 1997 『日本産広葉樹木材の解剖学的記載』 I～V
 北野信彦 1999 『近世出土漆器碗の用材に関する一考察』 『考古学と自然科学』 38
 北野信彦 2005 『近世漆器の研究』
 島地謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』
 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本遺跡出土木製品総覧』

第39表 漆器樹種同定表

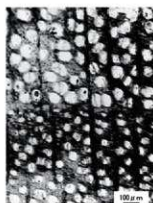
採図 番号	実測 番号	遺構	時期	樹種	木取り	採図 番号	実測 番号	遺構	時期	樹種	木取り
—	3-45	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E29-34	6-15	6338	17c中	トチノキ	榎木取り
—	3-128	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E27-28	3-221	36926	17c後～18c前	ブナ属	榎木取り
—	3-130	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-9	3-107	3205	17c後～18c前	ブナ属	榎木取り
—	3-54	3134	17c中～後	トチノキ	榎木取り	—	3-40	3205	17c後～18c前	ブナ属	榎木取り
E27-17	3-103	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E29-5	3-64	3205	17c後～18c前	ブナ属	榎木取り
—	3-93	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E29-28	3-135	33241	17c後～18c前	トチノキ	榎木取り
E27-19	3-52	3134	17c中～後	トチノキ	榎木取り	—	4-54	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E27-21	3-49	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	—	4-43	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E27-20	4-51	4220	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-6	3-91	3262	17c後	トチノキ	榎木取り
—	3-36	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-7	3-159	34703	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-20	3-129	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	—	3-230	36976	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-18	3-127	3134	17c中～後	トチノキ	榎木取り	E28-8	4-46	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-19	3-48	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-23	4-8	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-31	3-121	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-24	4-42	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-30	3-68	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	—	4-38	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-32	3-50	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-22	4-45	42133	17c後	トチノキ	榎木取り
E28-33	3-63	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E28-21	4-47	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E28-28	3-166	34133	17c中～後	ブナ属	榎木取り	—	4-53	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E29-15	3-162	34702	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E29-1	3-196	34203	17c後	ブナ属	榎木取り
E29-37	3-174	34198	17c後	ブナ属	榎木取り	E29-2	3-8	榎	17c後	トチノキ	榎木取り
—	3-17	—	17c中～後	ブナ属	榎木取り	E29-27	4-20	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E29-38	3-170	03-4区	17c後	ブナ属	榎木取り	E29-26	4-6	42133	17c後	トチノキ	榎木取り
E27-14	3-181	34197	17c初～19	ブナ属	榎木取り	E29-35	4-44	42133	17c後	ブナ属	榎木取り
E27-11	3-183	34197	17c初	ブナ属	榎木取り	E29-36	4-52	42133	17c後	トチノキ	榎木取り
E27-12	6-6	61044	17c初	トチノキ	榎木取り	E27-23	4-15	4220	17c中～後	ブナ属	榎木取り
E27-7	6-10	62023	16c末～17c初	トチノキ	榎木取り	E27-22	3-175	34126	17c中～後	ブナ属	榎木取り
—	6-7	61042	17c後	カツラ	榎木取り	E27-16	6-20	6348	17c中～後	ブナ属	榎木取り
E28-2	3-213	3569	17c初	ブナ属	榎木取り	E29-16	3-126	3134	17c中～後	トチノキ	榎木取り
E28-17	3-189	34138	17c初	トチノキ	榎木取り	E29-25	3-104	3134	17c中～後	ブナ属	榎木取り
E28-16	3-208	3569	17c初	トチノキ	榎木取り	—	3-110	3134	17c中～後	トチノキ	榎木取り
E28-26	6-13	6360	17c初	トチノキ	榎木取り	E29-24	3-193	34126+34344	17c中～後	トチノキ	榎木取り
E29-13	3-164	34444	17c初	ブナ属	榎木取り	E29-17	3-134	33171	18c後～19c前	ブナ属	榎木取り
E29-11	3-156	34373	17c初	ブナ属	榎木取り	E29-29	5-25	5408	18c後～19c前	ブナ属	榎木取り
E29-12	6-2	61044	17c初	ブナ属	榎木取り	E29-40	5-26	5408	18c後～19c前	ブナ属	榎木取り
—	3-204	61044	17c初	ブナ属	榎木取り	E28-12	4-29	4232	18c後～19c中	トチノキ	榎木取り
—	3-203	34197	17c初	ブナ属	榎木取り	—	4-24	4232	18c後～19c中	トチノキ	榎木取り
—	6-9	62028	17c初	ケヤキ	榎木取り	—	4-28	4232	18c後～19c中	トチノキ	榎木取り
—	6-5	61042	17c初	トチノキ	榎木取り						
E27-4	5-16	53170	16c末～17c初	ブナ属	榎木取り						
E27-6	5-15	53170	16c末～17c初	ブナ属	榎木取り						
E28-14	3-35	32135	16c末～17c初	ブナ属	榎木取り						
E29-9	5-13	53182	16c末～17c初	ブナ属	榎木取り						
E29-18	3-31	32135	16c末～17c初	ブナ属	榎木取り						
E27-13	3-186	34136	17c初～17c前	ブナ属	榎木取り						
E27-10	6-21	63144	17c初	トチノキ	榎木取り						
E28-4	3-30	32127	17c中	ブナ属	榎木取り						
—	5-7	5257	17c前	ブナ属	榎木取り						
—	3-47	32127-B	17c初～17c前	ブナ属	榎木取り						
—	5-27	5294	17c初～17c前	カツラ	榎木取り						
E29-30	3-185	34136	17c初～17c前	ブナ属	榎木取り						
—	3-12	3198	16c後～17c初	ケヤキ	榎木取り						
E27-1	3-4	3198	16c後	ブナ属	榎木取り						
E27-2	3-37	32186	16c末	ブナ属	榎木取り						
—	3-18	31128	16c後～末	ブナ属	榎木取り						
E28-25	3-26	31117	16c末	ケヤキ	榎木取り						
E29-7	3-70	32161	16c後	ブナ属	榎木取り						
E29-6	8-5	801	16c中～後	ブナ属	榎木取り						
E27-15	4-30	4220	17c前～中	ブナ属	榎木取り						
E28-3	3-217	36106	17c前～中	トチノキ	榎木取り						
E28-27	4-35	4220	17c前～中	トチノキ	榎木取り						
—	3-161	34701	17c前～中	ブナ属	榎木取り						
E29-14	4-11	4220	17c前～中	ブナ属	榎木取り						
E29-19	4-14	4220	17c前～中	ブナ属	榎木取り						
E29-31	3-58	03-2区	17c前～中	ブナ属	榎木取り						
E29-32	3-124	03-2区	17c前～中	トチノキ	榎木取り						
—	4-18	4220	17c中	トチノキ	榎木取り						
E27-18	3-44	3295	17c中～後	トチノキ	榎木取り						
—	4-19	4220	17c中	ブナ属	榎木取り						
E29-21	6-14	6338	17c中	ブナ属	榎木取り						
E29-22	6-16	6338	17c中	トチノキ	榎木取り						



ブナ属 実測番号 3-35(C×100, T×100, R×200)



ケヤキ 実測番号 6-9(C×100, T×100, R×100)



カツラ 実測番号 5-27(C×100, T×100, R×200)



トチノキ 実測番号 3-54(C×100, T×100, R×400)

第142図 漆器椀類の樹種顕微鏡写真

第4章 金属製品

金属製品は、発掘調査で確認したもののうち1,002点を採取した。そのうち図化し得たのは519点であり、より状態の良いもの等341点を提示した。以下、金属製品を武器・武具、農具、調度品(日用品・その他)、煙管、銭貨の5項目に分ける。その他、製造関連遺物も節を分けてここで扱う。

第1節 金属製品

1 武器・武具(第143・144図、第40～43表)

刀装具(頭(143-1・2)、縁(143-3・4)、切羽(143-5～10)、鐙(143-11～13)、鐙(143-14)、石突(143-15・16)、筭(143-17)、小柄小刀(143-18～41))、刀(144-4～6)、鐙(144-1～3)、甲冑金具(小札(143-42～44)、笠袴(143-45))、彈丸(144-8～28)のほか、不明品(144-7・29)を図示した。

刀装具(143-1～41) 頭(1)は正面に線刻で松の木のような模様が描かれる。頭(2)は無紋だが表面に鍍金が施される。縁(3・4)は薄いため残存状況が悪いが、4の周縁部については分厚く残存状況が良好である。切羽は9の周縁が花卉状の連弧にて形成される以外は、周縁に「こきざみ」が施される。鐙(11～13)はいずれも無紋である。鐙・石突はともに鞘尻金具であるが、鐙は打刀拵、石突は太刀拵の金具である。筭(17)には直線の中央に3つの車輪状の図形が並び、空隙を魚々子で埋める模様が施される。小柄小刀(18～41)は、大半が刀身を失い小柄のみとなるが、39～41は小柄を失い刀身のみとなる。小柄には様々な模様が施されている。18は植物の生えた島と空を飛び鳥が線刻される。19は蚯蚓状の浮彫である。刀身には銘が刻まれるが判読困難である。20は卍形を基調とする幾何学模様の線刻に銀線を象嵌する。23は鳥がとまる梅の木の浮彫であり、空隙に魚々子模様を施す。26は蔓植物の浮彫、27は羽根状の模様、30は花や直線、曲線等で構成された模様である。28は琵琶を抱えた僧形の浮彫で、周囲を魚々子模様で充填する。31は金象嵌の九曜紋を6つ並べる。32の九曜紋はおそらく鉛ガラスを嵌めたものとみられる。33・34は無紋であるが、州浜形もしくは木瓜形の透かしがある。

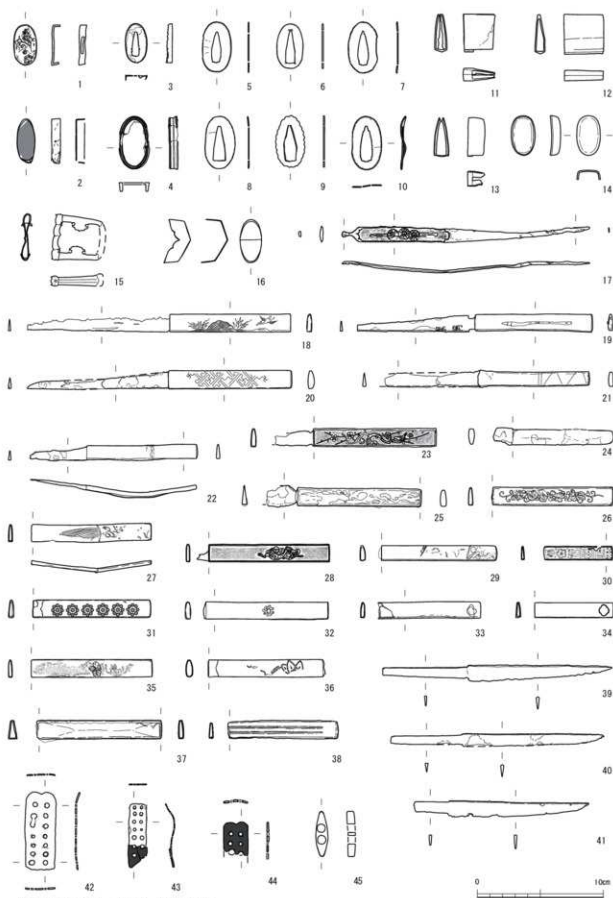
刀(144-4～6) 4・5は大きく折り曲がる。6は茎部を欠くが、関部に鐙が残存する。

鐙(144-1～3) 定角型(1)と尖矢と呼ばれる細長い円錐状(2・3)の鐙がある。

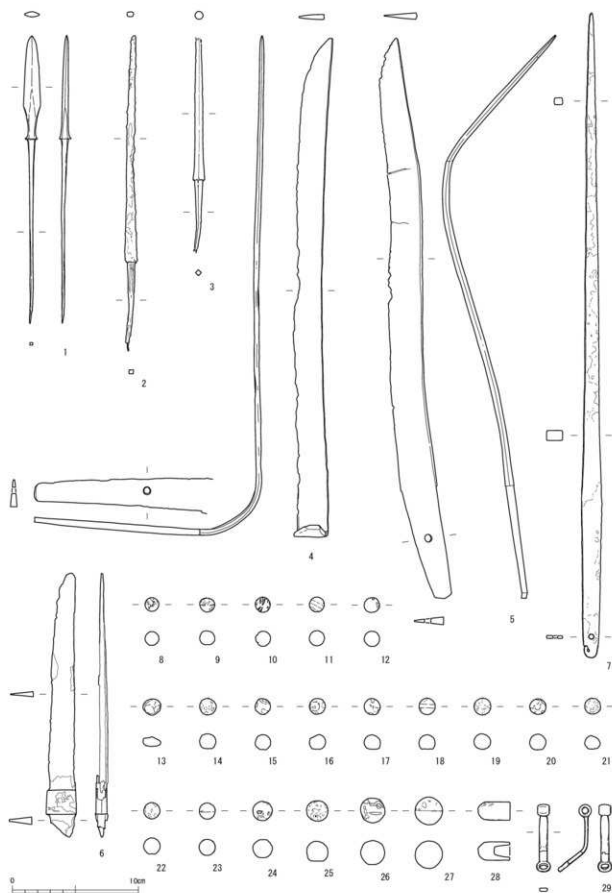
甲冑金具(143-42～45) 小札(42～44)はそれぞれ規格寸法が異なる。43・44は表面に黒漆が残存する。笠袴(45)は紡錘形で2孔を穿つ。なお、第146図38・39は釘隠としたが、甲冑の据文金具とも考えられる。

彈丸(144-8～28) 球形(8～27)のほか、砲弾形(28)がある。素材は13が銅製、27が鉄製である以外はいずれも鉛製である。球形彈丸の径は12mmまでのものが多く、口径としては小筒の四匁、三匁銃の彈丸に該当するが、重さはともに2.7～2.9匁に収まる。最大の27は径22mmであり、中筒のうち土筒等と呼ばれる口径12匁程度の銃に使用されたようであるが、鉄製であるためやや軽い。なお、銅製の13は彈丸ではなく、鑄造素材であるとも考えられる。

不明品(144-7・29) 7は図上部側が細長い四角錐で尖り、反対側は扁平で目釘穴のある茎状となるため、柄を装着して槍等のように使用したことが考えられるが、用途不明である。29も用途不明品であるが、銃器類の部品であることが考えられる。



第143図 武器・武具① (縮尺1/3)



第144図 武器・武具② (縮尺1/3)

2 農工具(第145～147図、第44・45表)

農具の鎌(145-1～3)、鋤先金具(145-4)、根鋤(145-5・6)、手鋤(145-7～9)、鉋(145-10・11)と、工具の釘(146-1～34)、鋏(146-35～37)、釘隠(146-38・39)、鋸(146-40～46)、錐(147-1・2)、鉋(147-3)、鋸(147-4)、小刀(147-5)、鑿(147-6)、鑿(147-7)、鎖(147-8)を図示した。

農具(145-1～11) 鎌(1～3)は、2・3に柄を固定した金輪が残存し、3に一部木質が認められる。鋤先金具(4)は、木製の柄も出土したが、破損した状況で復元できなかった。根鋤(5・6)は、一本爪(5)と三本爪(6)があるが、ともに柄は残存しない。手鋤(7～9)は、9にのみ柄の一部の木質と目釘、金輪が残存する。鉋(10・11)は残存状況が悪く、10は表面の剥離が進行しており、11は先端部が欠損する。しかし11には柄の木質と金輪の一部が残存する。

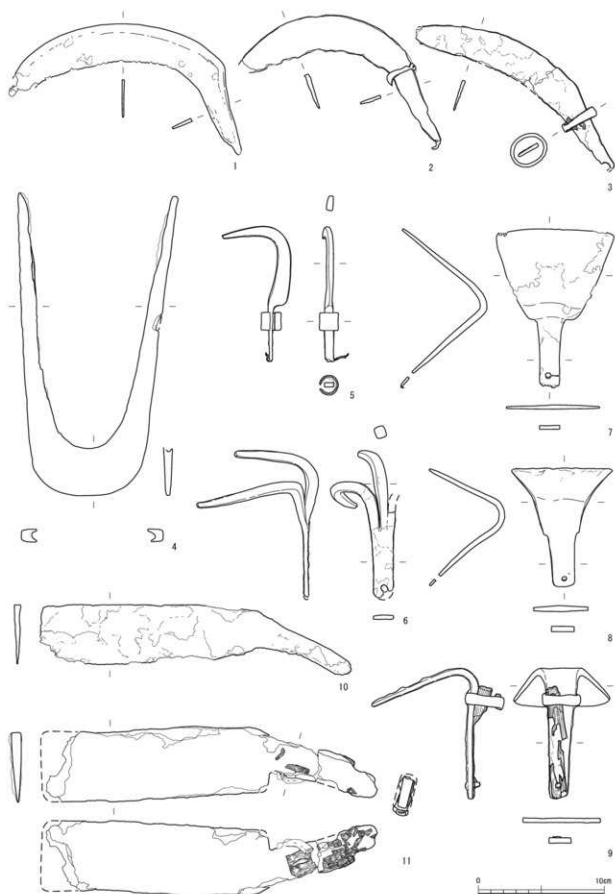
工具(146-1～46・147-1～8) 釘(146-1～34)は、巻頭釘(大巻)(146-2～25)、頭巻釘(小巻)(146-26～30)、皆折釘(146-31・32)、環状釘(146-33・34)がある。なお、巻頭釘と頭巻釘は、頭幅と身幅の比率が2.5:1以下のものを頭巻釘とする。146-1は頭を欠き、大巻・小巻の区別がつかない。巻頭釘・頭巻釘は頭が団扇状に薄く平らに成形されるのに対し、皆折釘(貝折釘・替折釘)は身の上端部を大きく折り曲げて頭とする。環状釘は、素材の鉄を折り曲げて合わせて身とし、折り曲げた部分を頭として環状に成形する。鋏は、頭の形態差等から、平丸頭鋏(146-35)、飾り鋏(146-36)、丸頭鋏(146-37)に分かれる。釘隠(146-38・39)は、鶴や松の線刻画が施されるもの(146-38)、菊花弁様の凹凸があるもの(146-39)がある。なお、これらは甲冑の据文金具とも考えられる。鋸(146-40～46)は、両釘部の向きが異なる手違鋸(146-40)、扁平な身部の板鋸(146-41～44)、身部断面形が四角い角鋸(146-45)、断面の円い丸鋸(146-46)がある。錐(147-1・2)はともに木製の柄が良好に残存する。鉋(147-3)は台部が失われ刃部のみとなる。鋸(147-4)は、残存状態が悪く、刃部の一部が残存する。小刀(147-5)は度重なる研ぎ直しが窺える。柄等は残存しない。鑿(147-6)も刃部のみが残存である。鑿(147-7)は、身部断面形が長方形で、刃部との区別が不明瞭である。なお、鑿は木工用、鑿は岩石・金属用の加工作具である。鎖(147-8)は、1単位が輪の中央を潰して両端に連結輪を造り出した特殊な形をしており、11単位が残存する。

3 調度品(日用品・その他)(第147～152図、第46～53表)

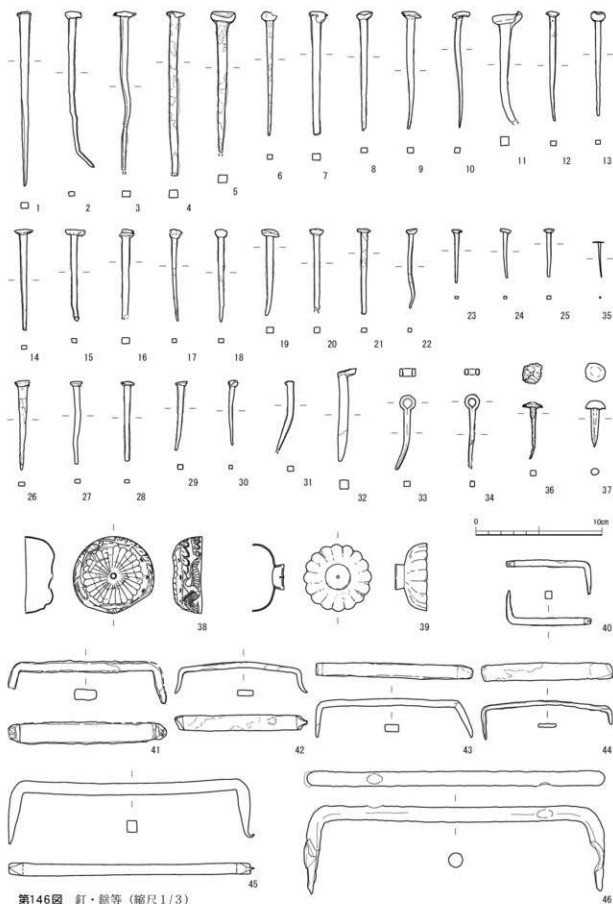
引手金具類(148-1～21)、蝶番(148-22)、肘壺状金具(148-23)、煽止め金具(148-24～29)、錠前(148-30)、錠(148-31)、測定用品(147-16～29)、吊鉤(147-9～15)、台所用品等(149-1～11)、匙(150-1～7)、吊灯明皿(150-8～12)、皿(150-13・14)、文房具(151-1～7)、裁縫用具(152-20～25、151-12)、鋸金具(151-16～24)、簪・笄(152-1～18)等を図示した。

引手金具類(148-1～21) 引手金具(1～11)、鎖状金具(12～15)、襖引手金具(16～19)、鎖引手金具(20・21)がある。さらに引手金具は、鋳型成形の鉛製のもの(1～7)と、銅や鉄製の素材を曲げて作ったもの(8～11)がある。8のみ固定式で、他は可倒式である。鎖状金具は、148-12～14は鎖が可倒式であり、148-13は菊花弁様の座金が残存する。襖引手金具は長方形(148-16)、楕円形(148-18)のほか、双円形(148-17)や木の葉状の装飾を持つもの(148-19)がある。鎖引手金具はどちらも白鳥とみられる模様が施される。

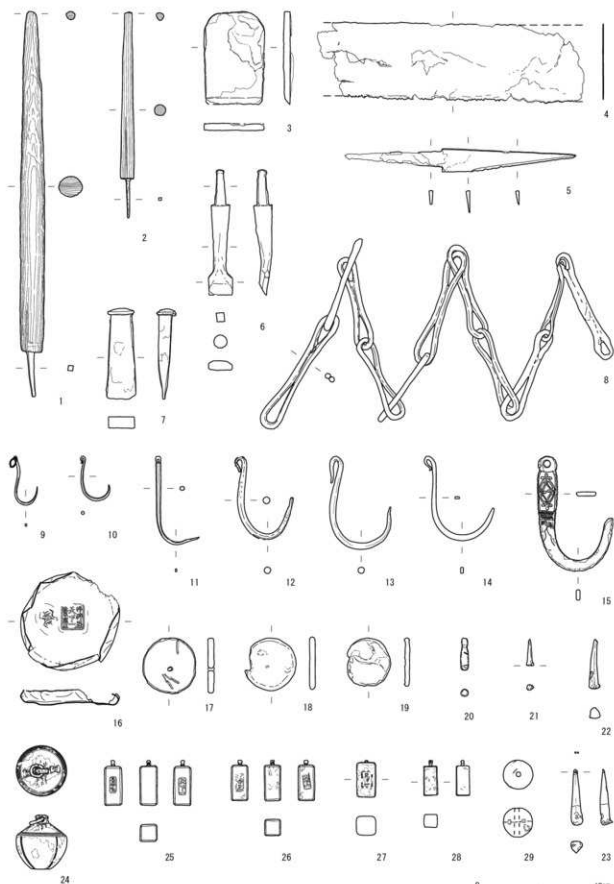
測定用品(147-16～29) 秤皿(16)と分銅・錘(17～28)等がある。分銅・錘は、円盤形(17～19)、棒状(20)、円錐形(21～23)、竿秤の錘(24)、定型化した直方体の分銅(25～28)、錘の可能性のある球形で円孔のあるもの(29)がある。16・24～27には「天下」等の銘がある。



第145図 農工具 (縮尺1/3)



第146図 釘・鋸等 (縮尺1/3)



第147圖 工具・吊金具・分銅等（縮尺1/3）

吊鉤(147-9~15) 11~14等は工具や秤用品として使われたとみられるが、9・10のように小型のものは装飾等に使用されたことが考えられる。15は御簾吊金具である。

台所用品等(149-1~11) 鍋(1・4~6)、葉缶(2)、椀(3)、包丁(7~9)、火打金(10)、甕型五徳(11)がある。鍋は、5が銅板叩き出しである以外は、いずれも鉄製の鋳造品である。葉缶(2)は、はずれた注口のみ残存する。包丁はいずれも菜切包丁である。8・9には木製の柄が残存する。8は欠失した刃部のかわりに別素材を鉋止めて使用したようである。火打金(10)は、銭帯状に連ねた銅銭24枚とともに、中之馬場南石垣下層の隙間から出土した。

匙(150-1~7) 灰匙(1~3・7)、葉匙(4~6)がある。7は柄がはずれた灰匙である。1の柄には円孔が、3の柄には心葉形の孔がある。葉匙は涙滴形の匙であるが、5は柄に円形の匙が付く。

文房具(151-1~7) 矢立(1~3)、水滴(4~7)がある。矢立は、それぞれ構造は共通するが、大きさや形状が異なる。2・3は、内部に筆の軸が残存した。水滴は、平面形が長方形のもの(4・5)、角丸菱形のもの(6)、立体動物形のもの(7)がある。7は、おそらくカワウソを模したものとみられ、口から水を注ぎ出す構造である。

裁縫用具(152-20・21・24・25) 紐通し(20)、鏡(21)、鉄(24・25)のほか、紡錘車(151-12)がある。鏡(21)は長方形で、裏面に花模様と「天下一」の銘がある。

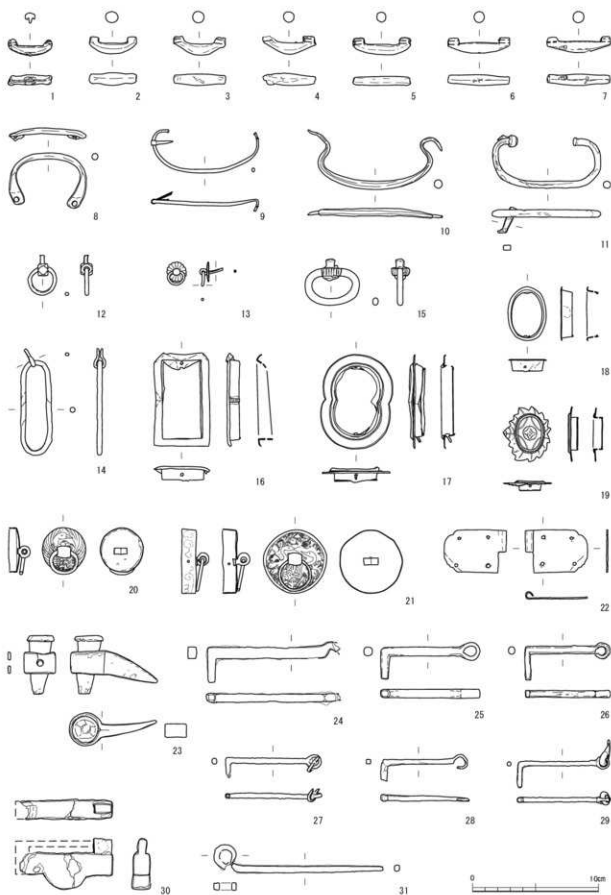
鋳金具(151-16~24) 唐草模様の空隙を魚々子模様で埋めるものなど(21~24)のほか、円筒形で心葉形の透かし等があるもの(16・17)、円孔や切込みのある鍍金された円盤状のもの(18)、宝珠形に切り出した銅板(20)、人形をした金具(19)がある。

簪(152-1~15・18) 多くが玉簪であるが(1~8・11・12・14)、ほとんどが飾り玉を失っている。廃棄の際に玉のみ回収したのだろうか。7は、全体が松葉の形を模しており、もともと玉はなかったものかもしれない。なお、11・12・14の玉は一体型ではずれない。扁平な円形等の飾りのある9・10・13・15は、平打簪に分類される。なお、18は一本足で先端が尖り、反対側が耳搔きとなる。飾り玉がないために、玉簪であったか耳搔きなのか不明である。

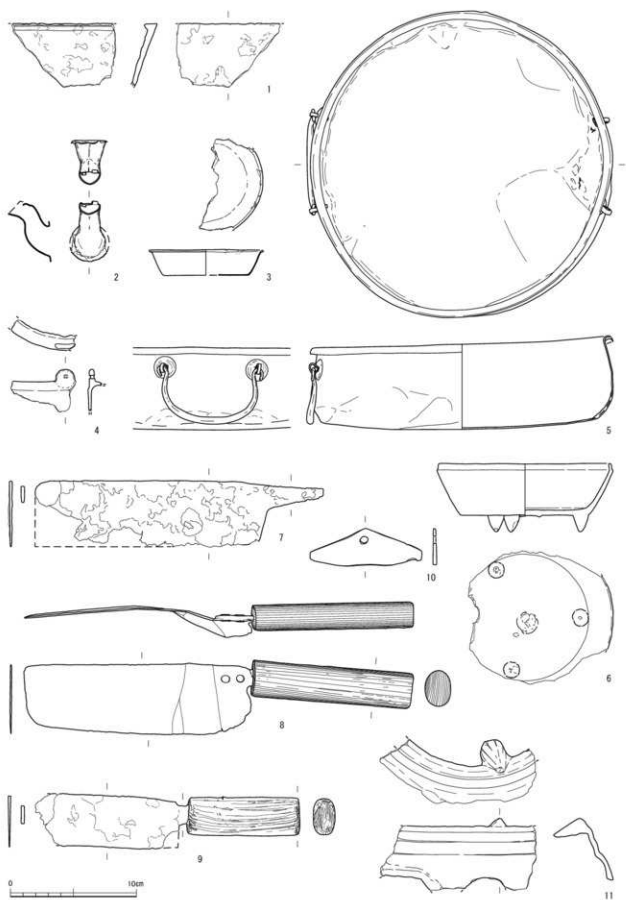
簪(152-16・17) これらは、金属製ではなくガラス製であるがここで扱う。16は破損するが全容がわかる。形状は一本足の平打簪を模したものであるが、桜花弁形装飾の上に付く耳搔きは巨大化し、実用的ではなくなっている。17は上半が欠失しており、残存部分も表面が劣化している。

その他(151-8~11・13~15、152-19・22・23・26・27) その他のものとして、道中湯沸吊手(151-13)、針金状製品(151-8・9)、火箸(151-10・11)、袖罽(簾)(151-14)、容器(151-15、152-26・27)、毛抜き(152-22・23)、針状製品(152-19)がある。

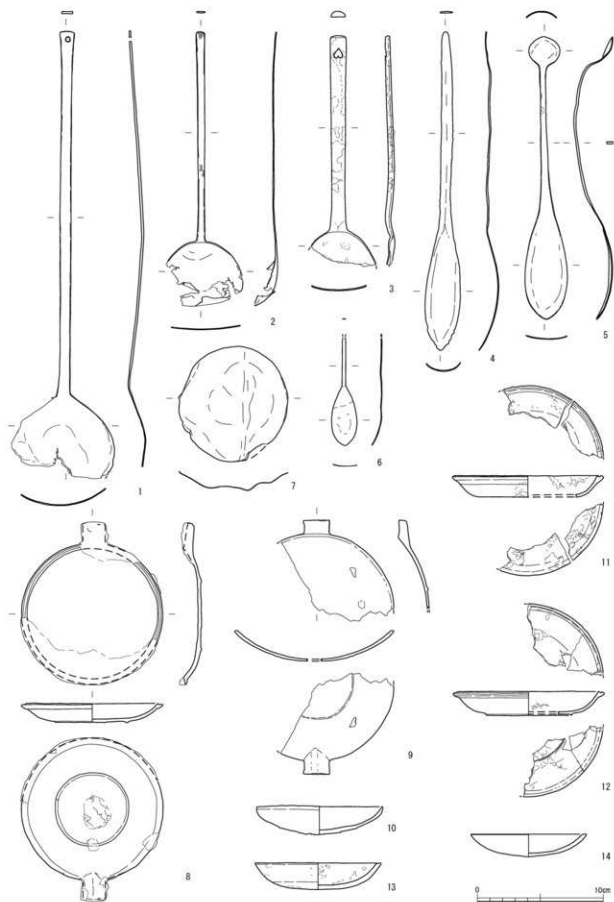
道中湯沸は移動携帯用の簡易湯沸器具である。担棒等を通す吊手金具(151-13)のみが残存した。針金状製品(151-8・9)は、ともに先端が尖り気味で、反対側を環状にするが、性格不明である。火箸は、断面形が六角形で上部に球形の飾りがつくもの(151-10)と、断面形が四角形で上部に半球形の飾りがつくもの(151-11)がある。袖罽(151-14)は、刺又・突棒とともに捕物の三つ道具と呼ばれる捕縛具であり、そのうち先端の棘の部分のみが残存する。容器は、天井がやや丸く膨らみ、口に螺旋状の溝がある蓋(151-15)、小形で長方形の蓋(152-26)、小形で円形の身(152-27)がある。152-27は、内面に薄紅色の内容物が付着する。毛抜きは、先端が尖るもの(152-22)と、先端がやや広く、菊花弁状の意匠の固定具を持つもの(152-23)がある。針状製品(152-19)は、針状に尖る反対側が方角柱状に延びて先端が四角錐となる。糸を通すような穴がなく、用途不明品である。



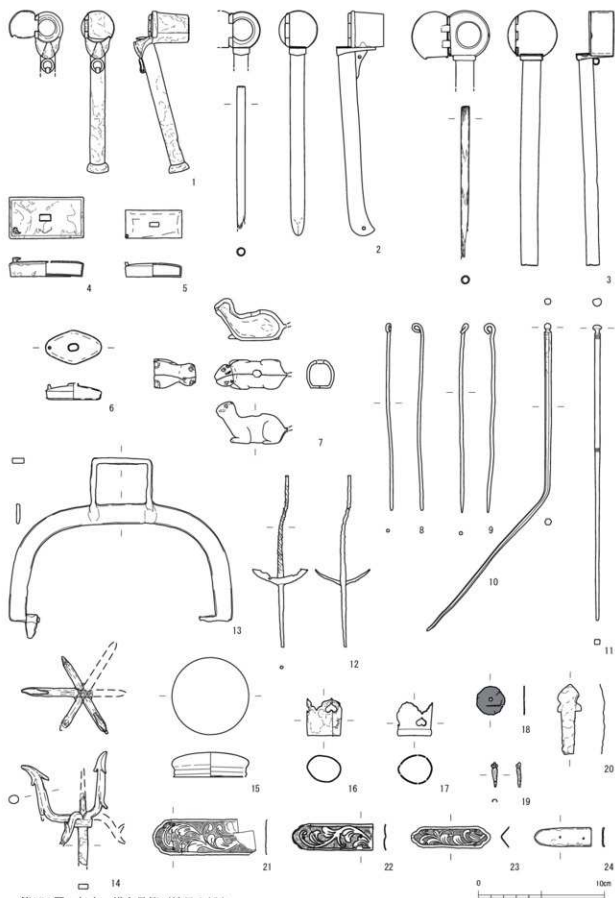
第148図 引手金具・煽止金具等（縮尺1/3）



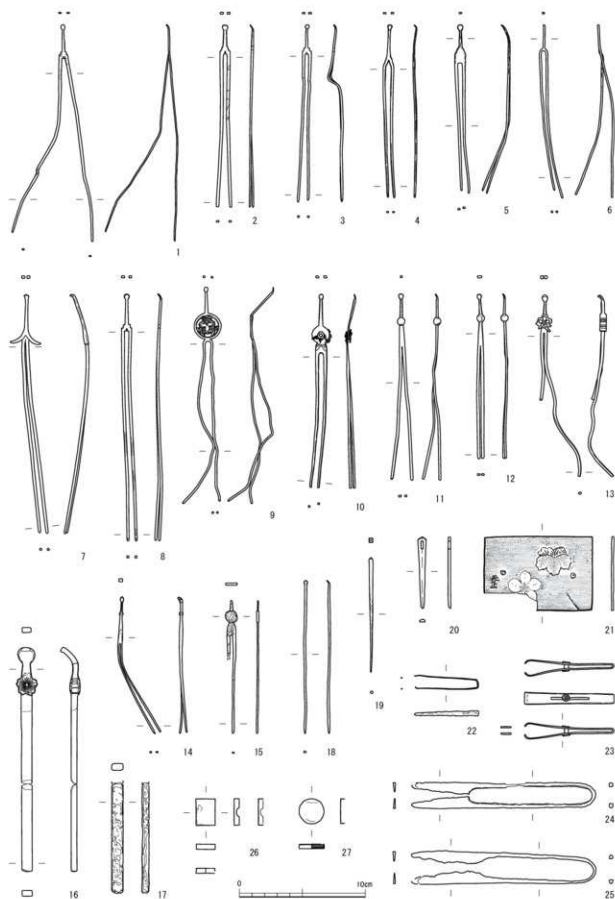
第149図 鍋・包丁等(縮尺1/3)



第150圖 匙・吊灯明皿等 (縮尺1/3)



第151図 矢立・鍔金具等（縮尺1/3）



第152圖 簪等 (縮尺1/3)

4 煙管(第153・154図、第54表)

煙管の多くが、雁首と吸口に分かれて出土している。雁首と吸口がともに出土したのは、154-33～38の6セットである。これらの雁首と吸口の径は、34の径の差が大きい、それ以外はほぼ等しいか吸口の径が若干小さい。また、38は雁首に肩が付くが吸口には胴がつかない。雁首と吸口の様相が異なるものがあるが、いずれも一個体を成した可能性が高いとみられる出土状況であるため、破損等の理由により別個体のものを装着して使用したことが考えられる。33は雁首・吸口がともに短く、どちらも鍍金が施される。35は吸口がやや細長い。36は両者の長さも径も揃う。なお、単独出土の雁首・吸口のうち153-12・154-21は、ともに断面六角形の特徴的な意匠であるが、出土地点がかけ離れているため、同一個体を形成したものではない。

雁首(153-1～33) 単独出土の雁首は33点あり、火皿接合の補強帯のあるもの(25・29～31)、肩部の明瞭なもの(26・28・33)、やや不明瞭ながら肩部を形成するもの(10・16・32)、補強帯と肩の両者を備えるもの(29～31)があるが、大半は両者を欠く。脂返し部分の形状は、大きく湾曲するもの(17・22～25・29～33)、直線的に伸びて火皿につながるもの(1～12・16・18～20・26～27)、火皿付近で屈曲するもの(13～15・21・28)に分かれる。また、8・9・12・15・16・27・31には、線刻や打刻による模様がある。なお、16内部には、吸口と連結した羅字の一部が残存していた。

吸口(154-1～32) 単独出土の吸口は32点あり、胴部の明瞭なもの(21・25・26・29～32)、圏線で胴部を表現するもの(27・28)があるが、大半には付かない。狭義の吸口部分の形状は、先端の膨らむもの(3・4・6・10・12・15・21・25)以外は、先に向かいすばまる。また、4・8・12・25には、線刻等で模様が描かれる。なお、21の内部には、雁首と連結した羅字の一部が残存していた。

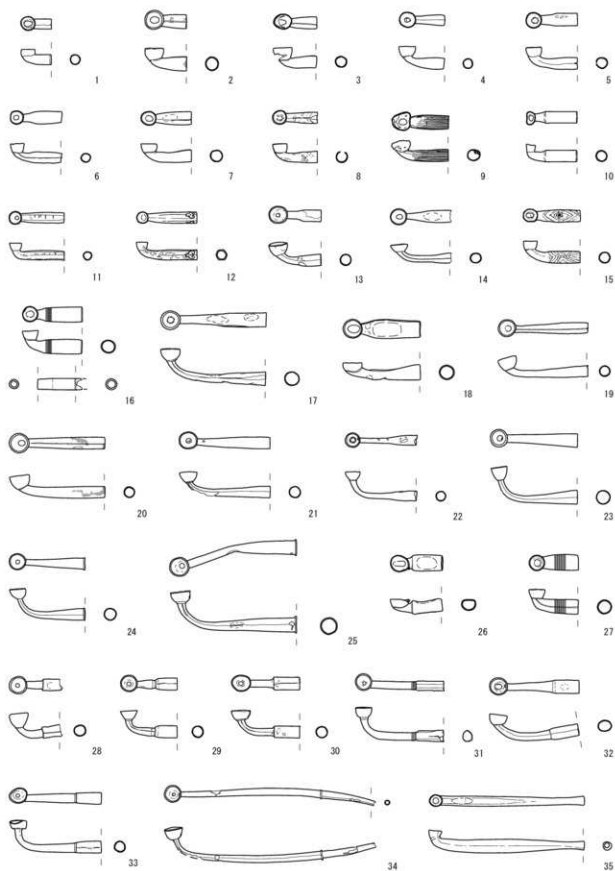
羅字(154-39) 多くが竹等の有機物製であるため、一部が雁首・吸口内に残存することがあるが、ほとんどの場合失われている。しかし、真鍮製の羅字とみられる部品(154-39)が出土した。

一体型煙管(153-34・35) 雁首・羅字・吸口からなる煙管を羅字煙管というのに対し、金属による一体型の煙管を延べ煙管という。35は一般的な延べ煙管である。34は首の長い雁首に、別作りの吸口を接続して一体としている。

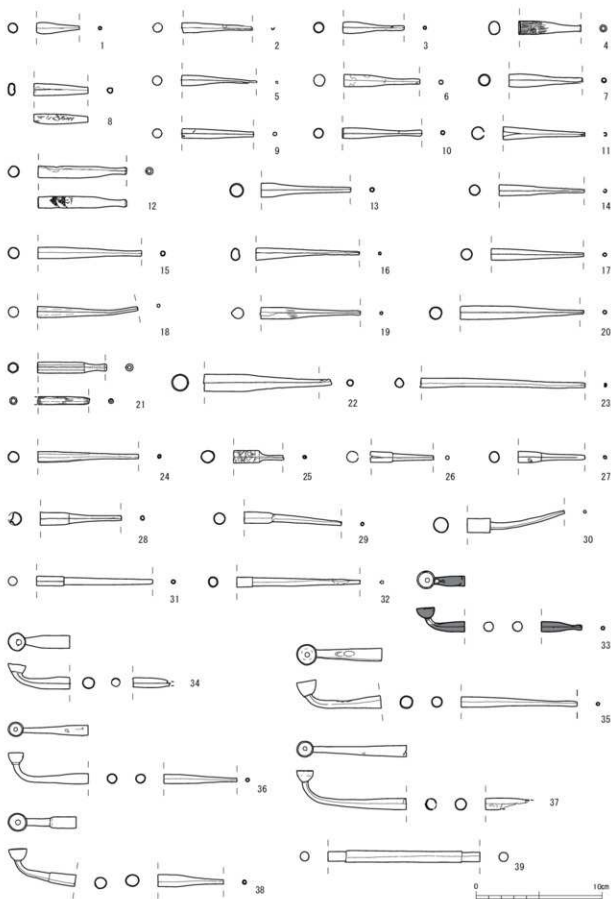
5 銭貨(第155・156図、第55表)

銭貨は、563点を採取したが、より残存状況の良いもの等を選択して181点を提示した。いずれも銅銭である。銭文の内訳は、開元通寶(155-1～4)、咸平元寶(155-5・6)、景德元寶(155-7)、祥符元寶(155-8～10)、祥符通寶(155-11)、天禧通寶(155-12～15)、天聖元寶(155-16～18)、景祐元寶(155-19)、皇宋通寶(155-20)、至和元寶(155-21～23)、嘉祐元寶(155-24)、治平元寶(155-25～28)、熙寧元寶(155-29～35)、元豐通寶(155-36～45)、元祐通寶(155-46～50)、紹聖元寶(155-51～53)、元符通寶(155-54・55)、聖宋元寶(155-56・57)、大觀通寶(155-58～61)、淳熙通寶(155-62)、慶元通寶(155-63)、政和通寶(155-64～66)、宣和通寶(155-67)、洪武通寶(155-68・69)、永樂通寶(155-70～78)、宣徳通寶(155-79)、弘治通寶(155-80)、康熙通寶(155-81)、紹平通寶(155-82)、慶長通寶(155-83)、寛永通寶(155-84～109・156-1～49)、文久永寶(156-50～54)の32種があり、その他に無文銭(156-55～60)、雁首銭(156-61・62)と、2枚以上が踏み固まったもの(156-63～72)がある。

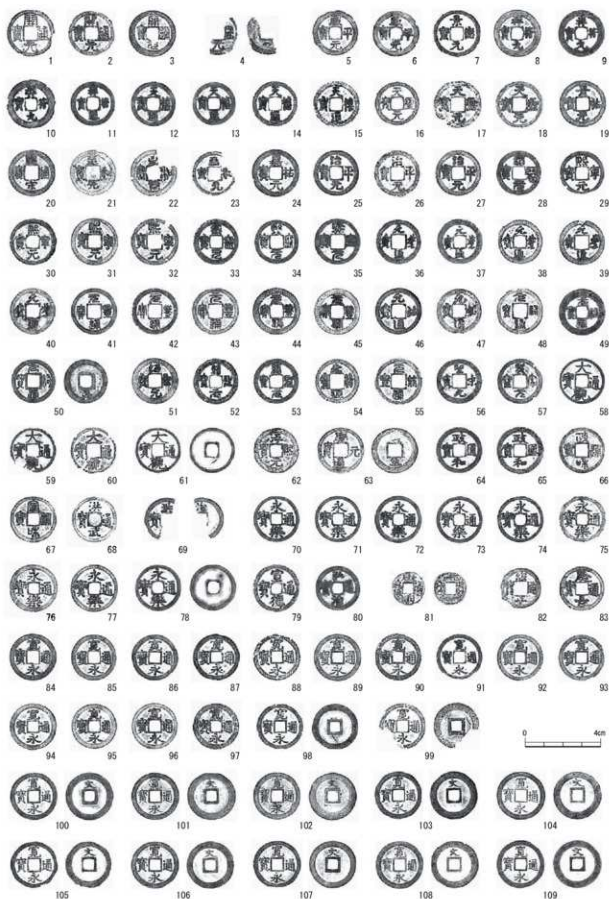
渡来銭は北宋等の中国銭にほぼ占められるが、後黎(ベトナム)の紹平通寶(155-82)がある。また、洪武通寶のうち背文「治」のあるもの(155-69)は、加治木銭と呼ばれる島津氏鑄造の銭貨とされる。



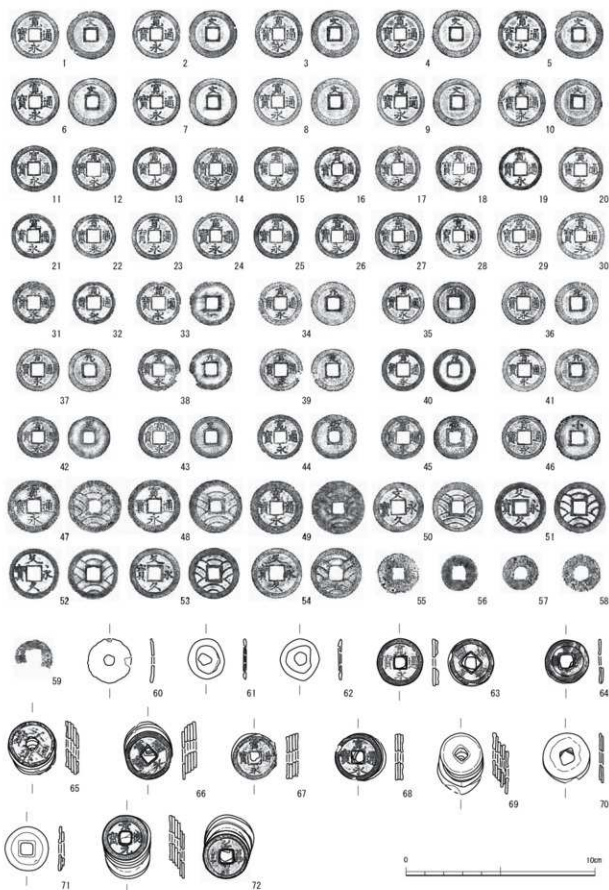
第153圖 煙管① (縮尺1/3)



第154図 煙管② (縮尺1/3)



第155圖 錢貨① (縮尺1/2)



第156図 錢貨② (縮尺1/2)

寛永通寶の内訳は、古寛永16点(155-84~99)、文銭20点(155-100~109・156-1~10)、新寛永36点(156-11~46)、四文銭3点(156-47~49)である。新寛永は13点に背文があり、「元」(156-34~41)、「足」(156-42・43)、「佐」(156-44・45)、「小」(156-46)がある。文久永寶は、156-50が真文である以外いずれも草文である。寛永通寶四文銭と文久永寶の背の波紋はいずれも11波である。

また、錆び固まった銭貨を提示した。報告までの過程で多くがはずれたが、もとは概ね10枚前後の塊だった。中之馬場南石垣の隙間からは、銭貨24枚が繻状に纏まった状態で火打金とともに出土した。

第2節 鋳造関連遺物

鋳造関連遺物は、発掘調査で115点采取了。そのうち図化し得たものは86点であり、より状態の良いもの等82点を提示した。これらは、取鍋・増塙(第158図、第57表)、羽口(第159図、第58表)、鋳型(第159図、第58表)のほか、鋳造素材とみられる金属片、鋳滓もしくは溶け固まった金属である(第157図、第56表)。

取鍋・増塙(158-1~43) 小型品を取鍋(1~35・41・42)、大型品を増塙(36~40・43)としたが、小型でも増塙として使用したものも多いようである。また、手握ねの土製がほとんどであるが、40のように染付碗を転用したものもある。取鍋は、体部立ち上がり斜めに直線的に伸びて、やや尖底気味のもの、体部が緩く湾曲して立ち上がり、より見込が広く丸底気味になるものがある。どちらも、口径4cm前後、5cm前後、6cm前後、7cm前後、8cm前後のものがある。41・42には把手状の突起がある。なお、これらには様々な溶着物が見られるが、1・11・26の内面にはわずかな金小粒が見える。増塙は、丸底気味の底部から体部がやや強く屈曲して直線的に立ち上がる。最も大型の43は底部から体部にかけて残存しないが、緩く外反する口縁部を有する。

羽口(159-7~13) 輪の羽口に關わる遺物として、笏谷石とみられる凝灰岩製のもの(7~12)と土製のもの(13)があるが、土製の13は同規模の円孔があるものの、石製のものと異なる扁平な製品であるため同一の性格ではないことが考えられる。石製羽口の大きさ・形は不揃いで一定しないが、円孔径は2.0cm前後、2.5cm、3.5cm前後の三つにまとまる。

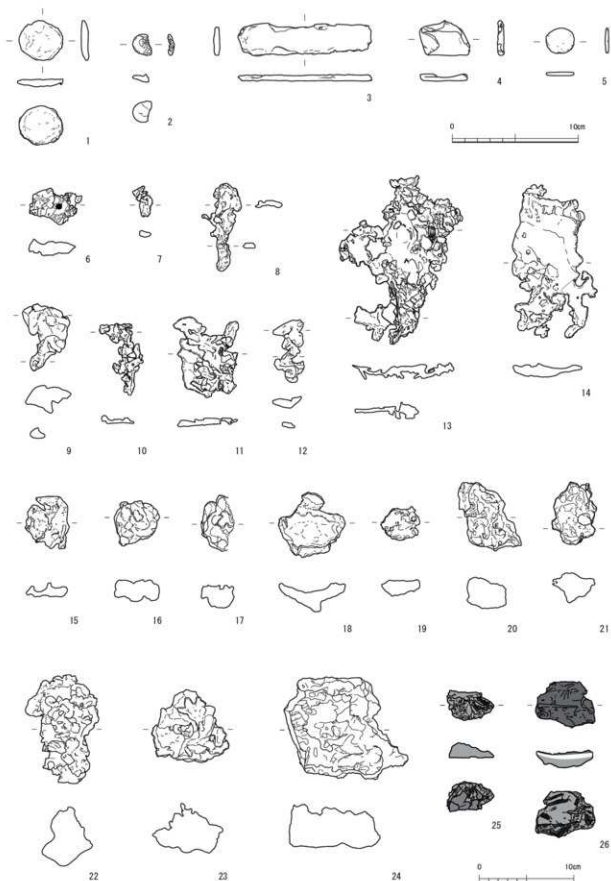
鋳型(159-1~6) 引手金具(1~5)と銭貨踏み返しの鋳型(6)がある。1は一面に2個の引手金具の型がある。2は砥石に転用されているため、鋳型としての残存状況はよくない。1~4は笏谷石とみられる凝灰岩製である。大半を欠失する5は粘板岩製であり、砥石からの転用とみられる。

6は、鉛玉に寛永通寶を押し付けて范を造ったものであり、型からははずすために使用する小孔が穿たれている。もちろん非公式な私鋳銭用の鋳型である。

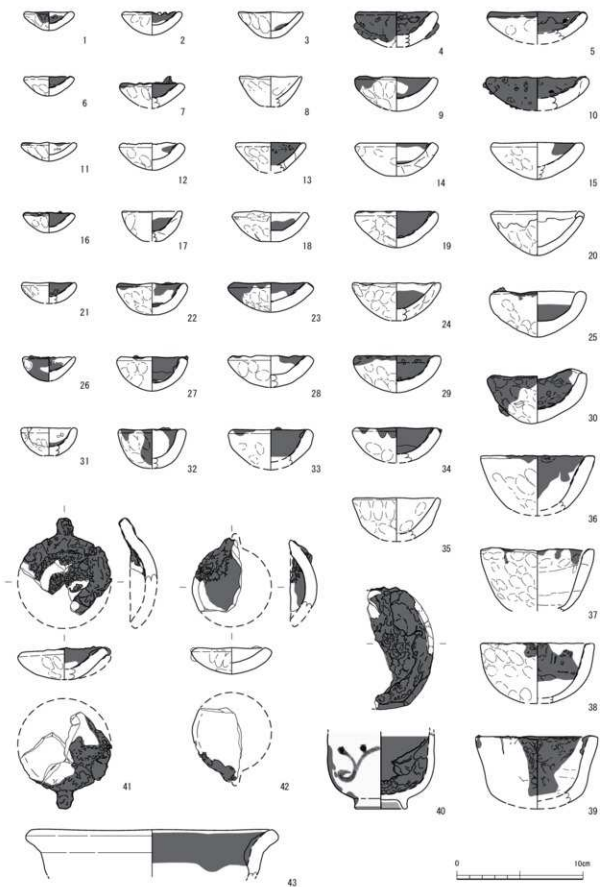
鋳造素材(157-1~5) 板状(3・4)あるいは円盤状・粒状(1・2・5)の鉛の塊であり、鋳造に具する素材である可能性を考えた。なお、弾丸とした144-13は、銅の鋳造素材とも考えられる。

鋳滓等(157-6~26) 鋳滓とは金属精錬時に廃棄される不純物であるが、ここでは溶かした鋳造素材の残余・廃棄分も含めている。内部に炭化物が溶け込むもの(6・13等)が、本来の鋳滓と言えるのかもしれない。残余素材としては、鉛、鉄、銅が認められる。

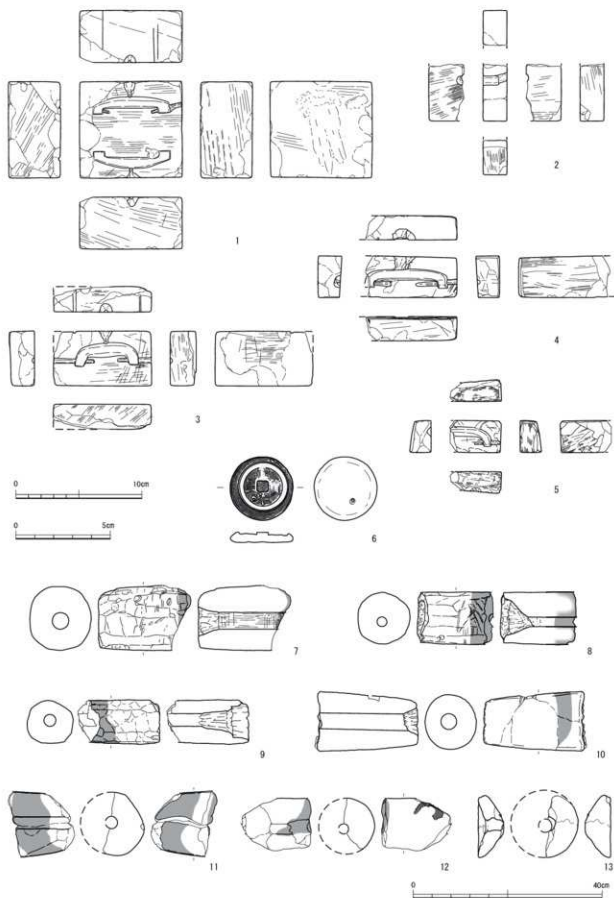
また、25・26は、藁切の含まれる焼土塊である。被熱により全体が著しく変色しているが、断面に被熱具合が層状に変化して認められ、炉壁の破片である可能性が考えられる。なお、鋳造関連遺物の出土数が比較的多いI街区のうち屋敷地I-6には、4基の炉からなる炉跡群が確認されている。



第157図 鋳造関連遺物 素材・鋳滓等 (縮尺1/3: 1~5、1/4: 6~26)



第158図 鑄造関連遺物 取鍋・埴塼 (縮尺 1/3)



第159図 铸造関連遺物 鋳型・羽口 (縮尺1/3 : 1~5、1/2 : 6、1/8 : 7~13)

第40表 刀装具・武器観察表

博覧 番号	種別	属性	出土地点		計測値 (cm, g)						備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	高	幅	奥行	厚	重さ			
143-1	鋸	銅	Ⅱ-1・2	C5	3302	3.2	1.8	0.35	0.15	6.0	鍍金(松)	17C後	M683
143-2	鋸	銅	Ⅱ-1	C2	34197	3.5	1.4	0.4	0.05	4.0	鍍金	17C初～19C	M1482
143-3	鋸	銅	Ⅱ-2	B4	5109 3層	3.1	1.7	0.4	0.05	2.5		19C	M2570
143-4	鋸	銅	V-1	C3・D3・4・E4	61042上層	4.2	2.4	0.7	0.2	2.0		17C後	M2929
143-5	切刃	銅	Ⅱ-2・3	G2	2層	4	2.3	-	0.08	5.0			M226
143-6	切刃	銅	I-4・5	36	黒褐色砂礫層 4205上層	3.5	2.05	-	0.1	5.0		18C後～19C前	M1929
143-7	切刃	銅	I-4・5	E9	褐色最上層	4.0	2.3	-	0.1	5.0			M1963
143-8	切刃	銅	I-4・5	D9	褐色最上層	4.1	2.4	-	0.08	3.0			M2106
143-9	切刃	銅	Ⅱ-1・2	D6	32186	4.1	2.3	-	0.1	8.0		16C末	M3079
143-10	切刃	銅	Ⅱ-2	A5		4.2	2.3	-	0.1	5.0			M2609
143-11	鋸	銅	Ⅱ-1	A4	T719	3.0	1.0	2.5	0.1	11.0			M878
143-12	鋸	銅	Ⅱ-1	G2	3100層	3.1	0.8	3.1	0.1	12.0		17C前～近代	M3004
143-13	鋸	銅	Ⅱ-5・6	A1	5401下層	3.1	1.2	1.4	0.1	7.0		19C中～近代	M3171
143-14	鋸	銅	I-4・5	C8	4220前層	3.2	1.9	0.7	0.1	8.5		17C～19C	M2199
143-15	石突	銅	Ⅱ-1	B4	3194	3.8	0.8	3.9	0.5	9.0		16C末～17C前	M602
143-16	石突	銅	Ⅱ-1・2	A3	T7210 3196	3.45	1.7	2.2	0.05	7.0		19C中	M517
143-17	斧	銅	I-4・5	C8	黒2・3層	19.7	1.2	0.25		19.5			M47
143-42	小札	鉄	Ⅱ-1	B4	31102	5.1	2.5	0.1		9.0		16C後～末	M359
143-43	小札	鉄	I-4・5	B8	T7201南側	5.05	1.4	0.08		4.0	黒漆塗		M2052-1
143-44	小札	鉄	I-4・5	B8	T7201南側	2.6	1.9	0.15		3.0	黒漆塗		M2052-2
143-45	笠鈔	銅	Ⅱ-1	B4	3198	3.6	0.9	0.06		9.0		16C後	M614

第41表 小柄小刀観察表

博覧 番号	種別	属性	出土地点		計測値 (cm, g)							備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	小柄長	小柄厚	重さ		
143-18	小柄小刀	鉄・銅	Ⅱ-1・2	I2	31344層	20.9	11.3	0.9	0.2	9.6	1.4	0.4	43.0	M1073
143-19	小柄小刀	鉄・銅	Ⅱ-1・2	I2・I2	31343層	18.6	8.8	0.8	0.2	9.4	1.3	0.35	39.0	M1007
143-20	小柄小刀	鉄・銅	I-4・5	C8	4220南側	21.0	11.2	0.8	0.2	9.8	1.4	0.5	39	M1934
143-21	小柄小刀	鉄・銅	Ⅱ-4・5	J1	53182	16.3	7.4	1.1	0.3	8.9	1.1	0.35	22.0	M2367
143-22	小柄小刀	鉄・銅	I-6	C9	4220～右側 最下層	13.3	4.5	0.4	0.2	9.0	1.1	0.25	20.0	M2282
143-23	小柄小刀	鉄・銅	Ⅱ-1	A10	34378	12.8	4.0	1.1	0.2	9.7	1.4	0.45	40.0	M1806
143-24	小柄小刀	鉄・銅	Ⅱ-4	I3・G9	3251	9.5	1.6	1.4	0.2	8.0	1.2	0.45	16.0	M2690
143-25	小柄小刀	鉄・銅	V-4・5	I5	6305	12.3	2.5	1.5	0.4	9.8	1.4	0.5	33.0	M3216
143-26	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1	I3	T718					9.5	1.4	0.35	21.0	M868
143-27	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1	D1	34198					9.5	1.35	0.3	18.0	M3038
143-28	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-4	H7	5201 4層					10.5	1.4	0.3	27.0	M2834
143-29	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-3	G3	36205					9.4	1.2	0.4	20.0	M1549
143-30	小柄小刀 (小柄)	銅	I-1～3	H3	T74103 2層					1.05	5.5	0.2	4.0	M1656
143-31	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1・3	B7	A・褐色層					9.4	1.4	0.4	20.0	M1222
143-32	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1	C1-2	T7409(2)					9.9	1.3	0.3	21.0	M796
143-33	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1	J9	36205上層直上					8.1	1.3	0.35	20.0	M3045
143-34	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1・2	E6	32150					6.3	1.1	0.4	17.0	M1707
143-35	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-1	I2	T718					9.6	1.4	0.3	15.0	M920
143-36	小柄小刀 (小柄)	真鍮	I-4・5	C9	4220北側 褐色					9.3	1.3	0.55	19.0	M2131
143-37	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-3	H3	36085					10	1.4	0.4	30.0	M1453
143-38	小柄小刀 (小柄)	銅	Ⅱ-3	H4	2層					8.8	1.4	0.3	10.0	M1304
143-39	小柄小刀 (刀身)	鉄	Ⅱ-2・3	H8	3325下層	18.2	11.4	1.2	0.25	6.7	0.8	0.2	16.0	M1912
143-40	小柄小刀 (刀身)	鉄	I-4・5	C8	4220南側 最下層	16.9	11.3	0.9	0.2	5.7	0.65	0.2	12.0	M1368
143-41	小柄小刀 (刀身)	鉄	Ⅱ-1	A4	3197上層	13.9	11.2	1.1	0.8	2.6	0.8	0.2	11.0	M564

第42表 武器観察表

探出 番号	種別	属性	出土地点		遺構・層位	計測値(cm, g)									備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
			屋敷	地区		A	B	C	D	E	F	G	重さ				
144-4	刀	鉄	Ⅱ-1	-	3100層	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	295.0	目釘穴1孔	17C前～古代	M1840	
144-5	刀	鉄	Ⅱ-1	Ⅱ12	掘込	48.7	39.2	2.7	0.5	9.0	2.5	0.6	297.0	目釘穴1孔		M1861	
144-6	刀	鉄・銅	Ⅱ-1	Ⅱ13	掘込	20.9	17.2	2.1	0.4	1.9	2.4	0.9	91.0	銅残存		M861	
144-7	不明	鉄	Ⅰ-4・5	A-7	42133 黒色粘質土	51.2	38.7	0.3	0.3	12.5	1.1	0.25	234.0	目釘穴1孔	17C後	M1933	
144-1	鐏	鉄	Ⅱ-1・2	Ⅱ2	3134a層	22.8	8.2	1.2	0.5	14.5	0.25	0.2	29.0	定角式	17C中～後	M967	
144-2	鐏	鉄	Ⅳ-4	F8	5280	25.0	18.0	0.9	-	7.0	0.35	0.3	35.0		17C初	M2743	
144-3	鐏	鉄	Ⅳ-2	E6・F6・7	5196 5197	16.9	11.3	0.6	-	5.6	0.3	-	21.0		17C後～18C後	M2528	
144-29	不明	銅	V-4・5	Ⅱ6	6302	全長	幅	厚	上端径	下端径	重さ				19C～古代	M2988	

第43表 弾丸観察表

探出 番号	種別	属性	出土地点		遺構・層位	計測値(cm, g)			備考	出土遺構の 主な遺物の時期	遺物 番号
			屋敷	地区		長さ(長)	直径(径)	重さ			
144-8	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	F6	包舎側1-1b	1.1	1.05	9.5			M1003
144-9	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	E5	Tr211	1.2	1.09	10.0			M1435
144-10	弾丸	鉛	Ⅳ-4	G8	5237	1.2	1.2	12.0			M2847
144-11	弾丸	鉛	Ⅱ-1	B4	31103	1.2	1.15	10.0			M352
144-12	弾丸	鉛	Ⅱ-2・3	Ⅱ9	33245	1.2	1.2	10.0			M2434
144-13	弾丸	銅	Ⅱ-1	A4	3197	1.4	0.75	6.0	銅造素材か		M363
144-14	弾丸	鉛	Ⅱ-2・3	Ⅱ8	3325東側(Ⅱb)層	1.3	1.2	10.0			M2427
144-15	弾丸	鉛	V-1	E3	61044 2層底直上	1.3	1.2	9.0			M2838
144-16	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	F6	包舎側1-1a	1.25	1.1	12.0			M3061
144-17	弾丸	鉛	Ⅳ-1・3	C7	A褐色層	1.3	1.2	10.0			M1282
144-18	弾丸	鉛	Ⅱ-1	J4	3170	1.3	1.1	11.0			M829
144-19	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	B3	掘込最上層	1.3	1.2	12.0			M1725
144-20	弾丸	鉛	V-1	D3	橋土直上層	1.3	1.2	10.0			M2824
144-21	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	D4	包舎側1-2a	1.2	1.1	10.0			M408
144-22	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	Ⅱ2	3207a層	1.3	1.25	12.0			M385
144-23	弾丸	鉛	Ⅱ-1	A4	3182上層	1.3	1.3	11.0			M1863
144-24	弾丸	鉛	V-4・5	Ⅱ6	6301	1.5	1.4	19.0			M2990
144-25	弾丸	鉛	Ⅱ-1・2	-	掘込最上層	1.7	1.6	30.0			M401
144-26	弾丸	鉛	V-1・3	G4	62002	1.9	1.9	42.0			M2950
144-27	弾丸	鉄	Ⅱ-1	B10	掘込	2.2	2.2	43.0			M767
144-28	弾丸	鉛	Ⅱ-2・3	A10	ツ上層(掘込包)	2.5	1.45	33.0			M243

第44表 農具観察表

探出 番号	種別	属性	出土地点		遺構・層位	計測値 (cm, g)								備考	出土遺構の主な遺 物の時期	遺物 番号
			屋敷	地区		全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	重さ			
145-1	鎌	鉄	Ⅱ-1	D1	Tr403	19.2	13.5	2.95	0.3	6.0	1.7		80.0			M771
145-2	鎌	鉄	Ⅱ-2・3	Ⅱ7・Ⅱ8	ツ層	17.2	11.0	3.0	0.35	7.5	1.6	2.4	68.0			M60
145-3	鎌	鉄	V-1・3	G5	62003最上層	19.0	13.0	2.8	0.25	6.0	1.8	3.0 2.5	44.0	柄木残存	16C末～17C後 ～19C中	M2953
						高			幅	刀身幅						
145-4	鎌先金具	鉄	Ⅱ-1	Ⅱ3	3133No.1	24.0	12.8	3.7	0.7				306.0		19C前	M1831
						全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚				
145-5	根掘	鉄	Ⅰ-4・5	B8	4286下層井戸砂内	10.7	6.5	1.4	0.5	4.2	0.7	0.3	33.0	一本爪 金輪残存	17C?	M2189
145-6	根掘	鉄	Ⅱ-3	E・F1	3408	11.6	8.5	0.8	0.9	5.5	1.6	0.35	90.0	二本爪	19C中	M11
						全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚				
145-7	手鋸	鉄	Ⅱ-1・2	D6	3201d層	12.2	8.3	9.3	0.3	7.5	1.6	0.4	156.0		17C前～19C中	M742
145-8	手鋸	鉄	Ⅱ-1・2	E5	3201c層	9.4	6.5	8.0	0.45	6.0	1.9	0.4	151.0		17C前～19C中	M1783
145-9	手鋸	鉄	Ⅳ-2	B4	5109 3層	10.3	8.5	7.6	0.3	10.3	1.8	0.4	177.0	金輪残存 柄木残存	19C	M2567
						全長	刀身長	最大幅	厚	茎長	茎幅	茎厚				
145-10	鉋	鉄	Ⅰ-6	D10	-	24.6	16.5	4.6	0.45	7.0	1.5	0.5	191.0			M2286
145-11	鉋	鉄	Ⅰ-4・5	E9	石列焼土層	26.3	17.6	5.4	1.0	8.7	3.0	1.2	390.0	金輪残存 柄木残存		M179
						全長	鉋身長	鉋太さ	鉋高	鉋底	重さ					
147-1	鎌	鉄	三ノ丸	E10	812	30.5	3.6	0.4	20.9	0.9 2.0			55.0	木製柄残存	16C末(～17C初)	M3220
147-2	鎌	鉄	Ⅳ-1・3	C6	3535(A)	16.4	3.2	0.2	13.3	0.6 1.1			2.0	木製柄残存	17C～19C近代	M1155
						高			幅	厚						
147-3	鉋	鉄	Ⅰ-4・5	A8	Tr4022北1F層	7.4	4.7	0.5					78.0	刀部のみ		M147
147-4	鉋	鉄	Ⅰ-1・3	Ⅱ5	4109下層	21.2	6.0	0.05					42.0	刀部の一部	18C後～19C	M1609
						全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚				
147-5	小刀	鉄	Ⅰ-4・5	D9	4222底面	18.4	10.7	1.7	0.3	7.7	1.1	0.3	20.0		17C末～近代	M191
						全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚				
147-6	鉋	鉄	Ⅰ-4・5	B8	焼土直下	9.9	1.0	7.0	1.9	2.9	0.6		60.0			M1578
						高	幅	刀身幅	刀身厚							
147-7	鉋	鉄	Ⅱ-1・2	A2	3271	7.2	2.0	0.9	2.1	0.5			79.0		17C後～18C前	M1745
						全長			幅							
147-8	鉋	鉄	Ⅱ-1・2	A3	3266	83.2	0.35						156.0		17C後～18C前 ～19C初	M1414

第45表 釘・鋸・吊金具等観察表

博覧 番号	種別	属性	出土地点		遺構・層位	計測値(cm, g)						備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
			屋敷	J2		長	幅	厚	頭高	頭幅	重さ			
146-1	釘	鉄	Ⅱ-1・2	J2	3271a層	13.9	6.0	4.8	-	-	20.0	頭欠損 巻頭釘か	17C中～18C前	M1425
146-2	巻頭釘	鉄	Ⅱ-1・2	E6	3201f層	12.3	4.0	3.5	0.5	1.25	12.0		17C前～19C中	M1014
146-3	巻頭釘	鉄	Ⅱ-1	D10	3446より上層	12.5	0.7	0.5	0.45	1.8	18.0		18C後～19C前	M1475
146-4	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	D9	4222f下層	13	0.7	0.6	0.5	1.4	30.0		17C末～近代	M22
146-5	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C8	4220南側 (機土下)	11.2	0.7	0.6	0.9	2.0	25.0		17C～19C	M1360
146-6	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C7	北東砂利下層	9.8	0.4	0.4	0.7	1.2	8.0			M2007
146-7	巻頭釘	鉄	Ⅱ-2	F7	5177	9.8	0.6	0.5	0.9	1.5	20.0		17C前～後	M2579
146-8	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C8	4220南側	9.4	0.5	0.4	0.6	1.3	10.0		17C～19C	M2031
146-9	巻頭釘	鉄	Ⅱ-1・2	J2	3271a層	9.3	0.45	0.45	0.5	1.5	12.0		17C中～18C前	M1426
146-10	巻頭釘	鉄	Ⅱ-2・3	J8	3319f	9.2	0.4	0.4	0.25	1.4	9.0		17C	M2446
146-11	巻頭釘	鉄	Ⅱ-1	B1	34134	8.75	0.65	0.65	0.7	2.3	38.0		17C後	M1795
146-12	巻頭釘	鉄	Ⅱ-4	G～I・ 7～9	5201 4層	8.7	0.45	0.35	0.45	1	7.0		(17C後～) 19C前～近代	M2702
146-13	巻頭釘	鉄	三ノ丸	C7	823土橋跡土中	8.35	0.4	0.3	0.8	1.1	3.0		16C後～末	M3200
146-14	巻頭釘	鉄	Ⅱ-4	G～I・ 7～9	5201 4層	8	0.4	0.3	0.4	1.5	8.0		(17C後～) 19C前～近代	M2701
146-15	巻頭釘	鉄	Ⅱ-3	H3	36197	7.2	0.4	0.35	0.5	1.5	6.0		17C前	M1979
146-16	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C8	4220機土下	7.1	0.6	0.5	0.6	1.2	9.0		17C中～後	M2178
146-17	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C8	4220	7.2	0.3	0.3	0.7	1.0	3.0		17C～19C	M2017
146-18	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	A7	42133 黒褐色粘質土	7.3	0.4	0.3	0.6	1.0	3.0		17C後	M3036
146-19	巻頭釘	鉄	V-1	D2	61005	6.8	0.5	0.45	0.5	1.4	8.0		17C後	M2823
146-20	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	D9	4263 S-2	6.4	0.4	0.4	0.5	1.1	5.0		17C後～18C	M2224
146-21	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C8	機土直上	6.7	0.4	0.3	0.3	1.0	3.0			M2029
146-22	巻頭釘	鉄	Ⅰ-1～3	H5	4140下層	6.3	0.3	0.3	0.45	0.8	3.0			M3230
146-23	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	C9	72114	4.2	0.5	0.2	0.3	0.8	1.0			M2233
146-24	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	A7	大7611下層西側	3.9	0.25	0.2	0.3	0.8	1.0			M2095
146-25	巻頭釘	鉄	Ⅰ-4・5	I7・I7・ 16・16	4229	3.8	0.3	0.25	0.3	0.8	1.5		～近代	M2208
146-26	頭巻釘	鉄	百聞堀	26・7	6355	7.1	1.2	0.3	0.5	1.2	7.0		17C後～19C	M3098
146-27	頭巻釘	鉄	Ⅱ-1	A9	3445f	6.5	0.4	0.95	0.3	0.45	2.0		17C前～前	M2874
146-28	頭巻釘	鉄	Ⅱ-1	A4	31113下層	6.3	0.4	0.3	0.32	1.0	5.0		16C後～末	M560
146-29	頭巻釘	鉄	Ⅱ-4・5	B4	53170	5.4	0.4	0.4	0.3	0.9	2.0		16C末～17C初	M3026
146-30	頭巻釘	鉄	Ⅱ-1	B4	31108	5.1	0.25	0.3	0.5	0.75	2.0		16C中～後	M641
146-31	替釘	鉄	Ⅱ-4・5	A9	5301	5.5	0.5	0.4	0.2	0.35	4.0		17C後	M3022
146-32	替釘	鉄	Ⅱ-1	A1	1面造成土中 暗緑灰粘質土	7.3	0.7	0.7	0.65	1.5	32.0			M3072
146-33	電状釘	鉄	Ⅱ-2・3	J9	3303西側	5.9	0.5	0.4	1.2	0.6	9.0		16C後～19C	M38
146-34	電状釘	鉄	Ⅱ-2・3	H8	33359	5.9	0.55	0.4	1.2	0.5	5.0		17C初	M1903
146-35	平丸頭釘	鋼	Ⅰ-1～3	H5	4104上層	2.8	0.1	0.05	0.8	1.0			19C中～近代	M1486
146-36	飾り釘	鋼	Ⅱ-1・3	A5・B5	35114	4.5	0.45	0.45	0.5	1.8	2.5		～19C	M1235
146-37	丸頭釘	鋼	Ⅰ-4・5	B8	Tv217西側3	3.6	0.6	0.5	0.7	1.5	7.0			M1945
146-38	釘隠	鋼	Ⅱ-1・2	F6	包含層1-1b	6.4	2.3	0.5			12.0	模刻模様 (魚・鶴・松) 魚々子模様		M4000
146-39	釘隠	鋼	Ⅱ-1・2	G7	3295	5.4	2.5	0.01			25.0		～17C中	M1730
146-40	手巻釘	鉄	Ⅱ-5・6	A1	5401下層上	6.7	2.7	0.6			12.0		19C中～	M2853
146-41	板鋸	鉄	Ⅱ-1・3	A5・6	33149	12.6	3.3	-	1.75		62.0		～19C中	M1120
146-42	板鋸	鉄	Ⅰ-4・5	A6	大7・西側(1) 層下層	11.5	2.5	-	0.4		29.0			M2070
146-43	板鋸	鉄	Ⅱ-1	B1	34134	12.4	3.1	1.1	0.55		60.0		17C後	M1793
146-44	板鋸	鉄	Ⅱ-2・3	A8・B8	3389	10.4	3.1	-	0.3		28.0		18C後～近代	M216
146-45	角鋸	鉄	Ⅱ-1	H2・G2	3100 1層目	19.5	0.8	0.9	-		152.0		17C前～近代	M873
146-46	丸鋸	鉄	Ⅱ-2・3	A10	7層	23.8	7	1.15	-		238.0			M88
147-9	吊鉤	鋼	Ⅱ-1・2	F7	3308	3.9	1.8	0.2	0.2		1.0	鍍金	17C後～19C中	M532
147-10	吊鉤	鋼	Ⅰ-4・5	C8	4220南側	3.5	2.1	0.25	0.2		1.5		17C中～後	M1371
147-11	吊鉤	鋼	Ⅱ-1・2	E6	3201上層	7.0	3.4	0.45	0.3		7.0		17C前～19C中	M559
147-12	吊鉤	鋼	Ⅱ-1・3	D6	A・褐色層	6.5	4.4	0.6	0.5		11.0			M1255
147-13	吊鉤	鋼	百聞堀	A6	19C灰泥層	7.4	4.9	0.5	0.5		22.0		19C	M3138
147-14	吊鉤	鋼	Ⅱ-1	I3	3134	6.8	5.5	0.3	0.5	0.25	9.0		17C中～後	M645
147-15	鋼製吊金具	鋼	Ⅱ-2・3	H9	トレンチ 302B南側	9.1	6.0	0.7	1.6	0.3	40.0			M2435

第46表 分銅・錘等観察表

押出 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)				備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号	
			屋敷 地区	遺構・層位	最大径 長さ	幅 厚	重さ					
147-16	秤(籠)	真鍮	Ⅱ-1・2	J3	3267	8.9	1.9	0.03	12.0	「銅秤(籠)下二重壺(花押)」	18C前	M1059
147-17	分銅	鉛	Ⅲ-3	G・F2	8面に刻する面	4.4	0.5		70.0	内鑄形 孔あり 約18.7g = 約0.12斤		M3034
147-18	分銅	鉛	Ⅲ-1	D2	34072上層	4.15	0.45		54.0	内鑄形 約14.4g = 約0.09斤	19C中～近代	M2875
147-19	分銅	鉛	Ⅱ-1・2	D5	32127B	3.8	3.5		33.0	内鑄形 約8.8g = 約0.055斤	17C後(17C中)	M3071
147-20	分銅	鉛	V-4・5	J6・7	6301	2.5	0.6		6.0	棒状 約1.6g	～19C・近代	M2966
147-21	分銅	鉄	Ⅳ-4	H9	5240	2.1	0.5		2.0	内鑄形 約0.53g	18C後～19C	M4001
147-22	分銅	鉛	V-1・3	H5	62901	3.9	0.85		7.0	内鑄形 約1.87g	～19C・近代	M3100
147-23	分銅	鉛	Ⅱ-1・2	D6	3201a・b層	4.4	0.9		13.0	内鑄形 約3.46g = 約0.022斤	17C前～19C中	M679
147-24	錘	銅	Ⅱ-1・2	J2	31344層	4.3	4.1		250.0	「天下」 約66.67g = 約0.42斤	17C中～後	M1009
147-25	分銅	真鍮	I-4・5	A9	42133	3.55	1.4		53.0	「天下」 「長四角」 約14.1g = 約0.09斤	17C後	M1955
147-26	分銅	真鍮	I-4・5	A7	42133	3.2	1.3		48.0	「天下」 「長四角」 約12g = 約0.075斤	17C後	M2085
147-27	分銅	銅	Ⅱ-1・2	A3	第一直型地層	2.9	1.5		30.0	「天下」 約8g = 約0.05斤		M414
147-28	分銅	鉛	I-1～3	H5	Tt41026層	2.75	1.05		28.0	約7.5g = 約0.05斤		M1526
147-29	不明	鉛	I-4・5	B8	黒1層	2.3	2.3		70.0	鎌? 球形 内孔あり 約18.7g = 約0.12斤		M1876

第47表 引手金具・鍵等観察表

押出 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)				備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号		
			屋敷 地区	遺構・層位	横 縦	長さ	重さ						
148-1	引手金具	鉛	Ⅳ-1・3	B6・C6	35151	3.5	1.3	0.8	10.0	通まり悪い	18C前	M1113	
148-2	引手金具	鉛	Ⅳ-4・5	J1	造成土	3.7	1.3	1.0	19.0		M2984		
148-3	引手金具	鉛	Ⅱ-1・2	B3	第一直型地層	4.1	1.5	0.9	22.0	M1079			
148-4	引手金具	鉛	Ⅱ-1・2	B3	第一直型地層	4.1	1.5	0.9	21.0	M1078			
148-5	引手金具	鉛	Ⅲ-3	14	8層	4.6	1.3	0.8	18.0	M3039			
148-6	引手金具	鉛	I-4・5	C9	Tt208の隣2層	4.9	1.25	0.85	25.0	M188			
148-7	引手金具	鉛	I-4・5	C8	Tt4217第3層西	5.05	1.2	0.9	23.0	M2065			
148-8	引手金具	銅	Ⅱ-2・3	B8・9	3372A層下	6.1	4.1	0.5	14.0	～19C	M105		
148-9	引手金具	真鍮	Ⅱ-1	14	3171	8.5	3.4	0.3	3.0	19C前	M1533		
148-10	引手金具	銅	Ⅱ-1・2	F1	3361下層	10.65	4.7	0.65	23.0	M537			
148-11	引手金具	鉄	Ⅱ-1・2	A4	3107	8.6	4.1	0.6	23.0	明治	M916		
					横(公)寸	本体長	横太さ						
148-12	鎖状金具	銅	Ⅱ-1・2	F5	3205層	1.3	1.6	0.28	7.0		17C後～18C前	M1010	
148-13	鎖状金具	真鍮	Ⅱ-1	B5	3195上層	1.35	1.85	0.15	1.0		16C末	M2407	
148-14	鎖状金具	鉄	Ⅱ-1・2	G7	3308	7.5	1.6	0.4	12.0		17C後～19C中	M963	
148-15	鎖状金具	鉄	Ⅱ-1	B4	31117	4.3	1.8	0.45	20.0		16C末	M353	
					縦	横	奥行						
148-16	鎖引手金具	銅	Ⅱ-2・3	F1	3361下層	7.4	4.4	1.1	19.0			M2466	
148-17	鎖引手金具	銅	Ⅱ-2・3	F1	3361上層	7.5	5.5	1.3	22.0			M2459	
148-18	鎖引手金具	銅	Ⅱ-1・2	F7	3205層	4.2	3	0.9	8.0		17C後～18C前	M1069	
148-19	鎖引手金具	銅	Ⅱ-1・2	F5	3205層	4.4	3.8	0.8	10.0		17C後～18C前	M1011	
					横	厚	縦深						
148-20	鎖引手金具	銅	I-4・5	A9	42133	5.0	0.05	2.6	19.0	鍍金。双鳥。 隙間に魚々子模 様。	17C後	M1956	
148-21	鎖引手金具	銅	I-4・5	C8	4220南植土下	3.5	0.05	2.25	12.0	鳥。隙間に魚々 子模様。	17C中～後	M1370	
					横	厚	縦深						
148-22	鎖番	鉄	I-1～3	H5	4140下層	3.4	4.9	0.1	11.0			M3229	
					全長	本体高	全高						
148-23	針状金具	鉄	Ⅱ-1・2	J2	31344層	6.9	2.0	4.6	2.5	115.0		17C中～後	M996
					長	高	径	隙深					
148-24	鎖止め金具	鉄	V-1・3	H5	62001	16	3.1	0.9	30.0		～19C・近代	M2922	
148-25	鎖止め金具	鉄	Ⅱ-1	B4・5	31102上層	7.9	2.5	0.7	1.4	27.0		16C後～末	M609
148-26	鎖止め金具	鉄	Ⅱ-1・2	J3	3267中層	6.8	3.0	0.5	1.3	11.0		18C前	M1733
148-27	鎖止め金具	鉄	Ⅱ-2・3	F1	3361上層	7.6	1.6	0.45	1.1	9.5			M2448
148-28	鎖止め金具	鉄	I-1～3	H5	Tt4103(2)層	7.1	1.7	0.4	1.2	7.0		18C後	M1657
148-29	鎖止め金具	銅	Ⅳ-2	F7	褐色土	7.3	2.1	0.35	1.0	9.5			M2615
					横	高	厚						
148-30	錠前	鉄	Ⅱ-2・3	J8	河川	7.3	2.3	1.6	32.0			M66	
					横	高	厚	縦深					
148-31	錠	鉄	Ⅱ-2・3	F1	3361上層	13.4	0.4	0.5	1.8	19.0		M2517	

第48表 鍋・包丁等観察表

標記 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)										備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	径	高	厚						重さ			
149-1	鍋	鉄	Ⅱ-1	B8	34489	8.0	5.05	0.4						59.0		18C末～17C初 (～18C後)	M2971
149-4	鍋	鉄	Ⅰ-4-5	B7	4232	14.1	3.3	0.3						12.0	吊金具基部	18C後～19C中	M2243
149-5	鍋	銅	Ⅱ-2-3	19	3315	24	7.4	0.1						470.0		17C～19C	M37
						径	高	厚	脚長								
149-6	鍋	鉄	Ⅱ-1-2	E6	3201a-b層	14.0	5.4	0.4	1.3					183.0	底部に歯口痕	17C前～19C中	M741
						高	最大幅	厚									
149-2	茶臼	銅	Ⅰ-4-5	C8	4220南 焼土下層	4.8	5.0	0.07						16.0	注口のみ	17C中～後	M2256
149-3	銅	銅	Ⅱ-1-2	E6	3201d層	9.1	2.0	0.2						25.0		17C前～19C中	M694
						長	刀部長	最大幅	厚	釜(柄) 長	釜(柄) 幅	釜(柄) 厚					
149-7	菜切 包丁	鉄	Ⅰ-4-5	C8	4220南 焼土下層	22.9	18.5	5.2	0.2	4.4	1.3	0.3	85.0			17C中～後	M1359
149-8	菜切 包丁	鉄	Ⅱ-1	G2	3100東壁	30.7	18.1	5.5	0.1	12.6	2.8	2.0	112.0		木製柄 基部痕	17C前～近代	M1839
149-9	菜切 包丁	鉄・木	Ⅱ-1-2	J3・2-12	3134a層	21.0	12.0	4.05	0.2	9.0	3.0	1.7	59.0		木製柄	17C中～後	M3196
						長	高	厚									
149-10	火打金	鉄	中之馬場 南石垣	G2	石垣隙間	8.8	2.9	0.3						29.0		17C前～近代	M643
						復元径	高	厚	爪長	爪幅							
149-11	石磨	鉄	Ⅰ-4-5	C8	4220南 焼土下層	18.5	5.0	0.4	2.8	2.0				168.0	磨型	17C中～後	M1367

第49表 匙・皿等観察表

標記 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)										備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	全長	最大幅	厚	柄長	柄幅	柄厚	重さ					
150-1	匙	銅	Ⅱ-1-2	I2	Tv210	35.5	8.2	0.05	28.9	0.9	0.18	60.0					M953
150-2	匙	銅	Ⅱ-1-2	J2	3134c層	21.7	5.5	0.05	16.6	0.6	0.1	11.0			鍍金	17C中～後	M1050
150-3	匙	銅	Ⅱ-2-3	19	焼土 (井戸底)	18.3	4.4	0.5	15.5	1.1	0.5	59.0			柄に心象形 透かし		M1899
150-4	茶匙	銅	Ⅱ-1	C9	34242	25.2	2.8	0.1	15.5	0.9	0.15	20.0					M1808
150-5	茶匙	真鍮	Ⅱ-1-2	F7	3308	22.4	3.3	0.08	11.9	0.55	0.15	29.0				17C後～19C中	M535
150-6	茶匙	真鍮	Ⅱ-1-2	E6	Tv204	8.5	2.0	0.05	3.7	0.25	0.15	3.0					M712
						径	厚										
150-7	皿状製品	銅	Ⅱ-1	G2	3100 中之馬場南壁	9.1		0.01					22.0		柄がはずれた 底か	17C前～近代	M650
						口径	高	厚									
150-13	皿	鉄	Ⅳ-4	H7	5201 4層	10	2.1	0.4					70.0		(17C後～) 19C前～近代		M2659
150-14	皿	鉄	Ⅳ-5-6	A1	5401 1層	9.0	1.8	0.3					21.0			19C中～近代	M3166

第50表 吊灯皿観察表

標記 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)										備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	口径	高	厚	把手長	重さ							
150-8	吊灯明皿	鉄	Ⅱ-2-3	I3	下層	11.2	1.5	0.25	17	50.5							M57
150-9	吊灯明皿	鉄	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層	12.6	2.4	0.1	1.1	49.0						17C前～19C中	M318
150-10	吊灯明皿	鉄	Ⅰ-4-5	C9	42206	10	2.2	0.4	0.6	81.0							M2041
150-11	吊灯明皿	鉄	Ⅳ-4	G8	5201 2層	12	1.7	0.2	-	39.0						19C前～近代	M2836
150-12	吊灯明皿	鉄	Ⅳ-4	G8	5201 1層	12	1.8	0.2	-	43.0						19C前～近代	M2837

第51表 矢立・水滴観察表

標記 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)										備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位	全長	軸長	蓋径	蓋底長	蓋底幅	蓋底厚	重さ					
151-1	矢立	銅	Ⅱ-1-2	J2	Tv213	12.9	1.1	2.6	3.2	-	-	80.0					M499
151-2	矢立	銅	中之馬場南		3100層	17.8	1.1	2.9	2.8	11.2	0.65	52.0			筆筒残存	17C前～近代	M1843
151-3	矢立	真鍮	三ノ丸	B8	土橋東	20.2	1.4	3.6	2.0	11.9	0.65	120.0					M2991
						長	幅	高	厚								
151-4	水滴	銅	Ⅱ-1-2	F7	3205e層	5.9	3.3	1.5	0.1			39.0			長方形	17C後～18C前	M984
151-5	水滴	銅	Ⅰ-4-5	B8	黒層	2.2	4.5	1.1	0.1			12.0			長方形		M2117
151-6	水滴	銅	Ⅱ-2-3	G4	下層	4.4	2.7	1.3	-			17.0			角丸菱形		M2482
151-7	水滴	銅	Ⅱ-1	E10	第2焼土面下 黄褐色土	5.7	2.1	3.3	0.4			83.0			假形 (ゆわうそ)		M3082

第52表 火箸・鋳金具等観察表

検出 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm g)							備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号	
			屋敷 地区	通称・層位	全長	幅	厚	脚長	脚幅	重さ					
151-8	鋳金具 製品	銅	I-4-5	B7	4232	14.8	0.2	0.2	0.7			5.0	18C後～19C中	M2236	
151-9	鋳金具 製品	銅	I-4-5	B7	4232	15	0.25	0.25	0.8			6.0	18C後～19C中	M2237	
151-10	火箸	鉄	I-4-5	B8	右側付近2層	全長	径	脚高	脚幅			37.0		M177	
151-11	火箸	鉄	II-1	A4	T419	23.4	0.4	0.7	0.7			25.0		M591	
151-12	紡錘車	鉄	II-1-2	F7	3205c層	高	軸径	受環径	受環厚			11.0	17C後～18C前	M1008	
						脚 長	脚 厚								
151-13	道中道端 出子	鉄	II-2-3	F1	3361上層	14.3	17.7	0.3				114.0		M69	
						全長	底長	刃径	底厚	重さ	量値	量厚			
151-14	地掘	鉄	III-4	G4	地上層	9	5.8	0.7	3.1	0.75	0.38	50.0		M225	
						最大径	高	口径	厚						
151-15	容器(蓋)	真鍮	II-1	G2	3100層	6.1	1.95	0.7	0.02			10.0	17C前～近代	M3067	
						長径	短径	長	厚						
151-16	鋳金具	銅	II-2-3	J8	3325下層	3	2.1	2.6	0.05			9.5	16C後	M1791	
151-17	鋳金具	銅	II-1	G2	3100層	2.65	2.3	2.73	0.07			14.0	17C前～近代	M3066	
						厚									
151-18	鋳金具	銅	I-4-5	C8	4220C上層	2.2	0.1					1.0	鍍金 内底切込	17C～19C近代	M1962
						高	幅	厚							
151-19	鋳金具	真鍮	III-1	A9	焼土上面	2.0	0.45	0.05				1.0		M1312	
151-20	鋳金具	銅	II-1	B4	31102	5.5	1.85	0.02				0.3	16C後～末	M360	
						長	幅	厚							
151-21	鋳金具	銅	I-4-5	A7	42133	8.1	2.8	0.05				5.0	唐草・ 魚々子模様	17C後	M1561
151-22	鋳金具	銅	II-2-3	G7	T307	6.4	2.1	0.05	-			5.0	鍍金 唐草・ 魚々子模様		M82
151-23	鋳金具	真鍮	I-4-5	A8	4213	6.2	1.7	0.05				2.0	唐草・ 魚々子模様	17C中～18C	M2174
151-24	鋳金具	鉄	IV-4	G8	5201 1層	4.5	1.5	0.1	-			9.0	(17C後～) 19C前～近代	M2714	

第53表 簪・毛拔等観察表

検出 番号	種別	属性	出土地点		計測値(cm, g)							備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号	
			屋敷	地区	通称・層位	全長	肩幅	厚	脚長	脚幅	脚厚				重さ
152-1	簪	銅	V-4-5	J4-15・ H4-5	6303	17.2	0.8	0.1	14.7	0.2	0.1	5.0		19C中～近代	M3152
152-2	簪	真鍮	I-4-5	A7	4242	14.5	0.8	0.18	12.4	0.2	0.12	7.0		(17C)～19C	M1374
152-3	簪	真鍮	II-1-2	E6	T7上層	14.1	0.7	0.15	12.3	0.22	0.15	3.0			M1027
152-4	簪	銅	III-3	E-F1	3408	13.2	0.9	0.18	11.0	0.15	0.12	2.0		19C中	M14
152-5	簪	銅	II-2-3	H4	3360	13.3	0.85	0.18	11.2	-	-	3.0		19C中～近代	M222
152-6	簪	真鍮	III-1	B10	34113下層	12.7	0.15	0.15	-	-	-	4.0		(17C～18C後) 19C	M1471
152-7	簪	銅	I-4-5	B8	焼土	18.9	2.5	0.35	15.7	0.25	0.2	12.0			M2049
152-8	簪	真鍮	I-4-5	C9-8	4220A上層	19.6	0.8	0.2	17.1	0.18	0.18	10.0		17C～19C近代	M150
152-9	簪	銅	II-1-2	E5	3301b層	17.1	2.15	1.5	13	0.15	0.15	9.0		17C前～19C中	M344
152-10	簪	銅	II-1-2	F7	3205d層	15.4	1.5	0.5	11.5	0.2	0.15	5.0	右肩付遺物	17C後～18C前	M1068
152-11	簪	真鍮	II-2-3	G7	3308上層	14.7	0.6	0.55	12.3	0.18	0.19	7.0		17C後～19C中	M95
152-12	簪	真鍮	I-4-5	A7	4242	13.1	0.6	0.6	10.9	0.2	0.15	7.0		(17C)～19C	M28
152-13	簪	銅	II-1-2	F8	焼土	14.4	1.3	0.5	11.8	0.2	0.25	9.0			M561
152-14	簪	銅	III-1	A10	34102	10.8	0.2	0.2	-	-	-	3.0		19C～近代	M1308
152-15	簪	銅	III-1	B9	1面焼土上	10.4	0.7	0.1	-	-	-	6.0			M2973
						全 長	脚 幅	脚 長	脚 幅	脚 厚					
152-16	簪	ガラス	I-4-5	D9	4222	17.8	1.7	0.8	14.0	0.8	0.5	28.0		17C末～近代	M20
152-17	簪	ガラス	II-2-3	A10	T304	8.7	-	0.55	-	0.9	-	10.5			M238
152-18	不明	銅	I-4-5	B7	4232	12.1	-	0.13	-	0.15	-	1.0	耳掻きか	18C後～19C中	M1942
						全 長	頭 幅	先端幅							
152-19	針状製品	銅	IV-4	H8	焼土層	9.1	0.3	0.1				2.5			M2759
152-20	紐通し	銅	I-4-5	B8	焼土層	5.65	0.6	0.2				4.0			M1343
						全 長	脚 幅	脚 厚							
152-21	鏡	銅	III-1	D10	34245	8.6	5.9	0.2				51.0	天下一度	(17C初～)後	M1802
						全 長	脚 幅	脚 厚							
152-22	毛抜き	銅	I-6	D9	砂路下層	5.1	1.1	0.05				2.0			M1688
152-23	毛抜き	銅	V-4-5	I6	6302	7.1	0.95	0.1				11.0		19C～近代	M3108
						全 長	刃部厚	握部厚							
152-24	はさみ	鉄	II-1-2	I2	3134d層	14.6	0.2	0.3				19.0		17C中～後	M972
152-25	はさみ	鉄	II-1-2	I2	3134d層	14.6	0.2	0.3				15.0		17C中～後	M1715
						全 長	全 厚	刃 厚							
152-26	容器(蓋)	銅	I-4-5	B8	焼土層上層	2.1	1.6	0.4	0.2			2.0	方形		M2115
						全 長									
152-27	容器(身)	銅	I-4-5	E9	焼土下層	2.0	0.35	0.2				2.0	円盤蓋 円形 内面に紅付着		M2102

第54表 煙管観察表

煙管 番号	種別	属性	出土地点	遺構・層位	全長	全高	計測値(cm)				備考	出土遺物の主な 遺物の時期	通 号		
			遺地	遺構・層位	全長	全高	胴径	火道径	火道高	胴部長	重さ				
153-1	煙管	銅	1-4-5	B8 黒1層	2.4	1.2	0.8	1.1	0.6	3.0				M1331	
153-2	煙管	銅	3	F1 3408	3.3	1.8	1.1	1.5	0.9	6.0				M12	
153-3	煙管	真鍮	1-2-3	F1 3365	3.48	1.75	0.9	1.5	1.0	4.0				M64	
153-4	煙管	真鍮	1-4-5	C9 白銅上層	3.6	1.8	0.8	1.3	0.9	8.5				M3134	
153-5	煙管	銅	1-4-5	D10 段下大堀込	4.1	1.75	1.0	1.3	0.7	9.0				M2105	
153-6	煙管	銅	1-2-3	F1 3361上層	4.1	1.6	0.7	1.1	0.8	9.0				M2511	
153-7	煙管	銅	1-2-3	G1-2 子堀	4.0	1.45	0.9	1.2	0.5	4.0				M2497	
153-8	煙管	銅	1-4	H8 5201 1-2層	3.6	1.4	0.9	1.1	0.6	7.0				M2826	
153-9	煙管	銅	1-1-2	E5 T201(3201)	4.5	1.7	0.9	1.5	0.9	7.0				M376	
153-10	煙管	真鍮	1-4-5	A6 19C成層部	4.0	1.4	0.9	0.7	0.6	2.6			19C前	M3137	
153-11	煙管	銅	1-4-5	B8 T421(成層部)	4.4	1.4	1.35	0.7	1.0	10.0			大堀込着角	M2073	
153-12	煙管	銅	1-4-5	B8 段下最上層	4.8	1.4	0.8	0.9	0.6	10.0			隅接あり 六角形	M2114	
153-13	煙管	銅	1-4-5	E9 4241A・B層上	4.1	1.9	0.9	1.5	0.8	5.0			17C中～後	M2012	
153-14	煙管	銅	1-1-2	B6 3201上層	4.8	1.5	0.8	1.3	0.5	3.0			17C前～19C中	M557	
153-15	煙管	銅	1-4-5	B8 黒1層	4.5	1.7	0.5	1.1	0.7	10.0			隅接 縁接あり	M1332	
153-16	煙管	銅	1-1-2	E5 3201a-b層	4.7	1.8	1.1	1.25	0.75	10.0			隅接 前段形成	M3068	
153-17	煙管	銅	3	G2-3 36236	8.4	2.9	1.1	1.5	0.9	9.0			縁子一部残存	M2976	
153-18	煙管	銅	V-4-5	B6 6302	6.1	1.4	1.2	0.7	1.5	11.0			19C～近代	M2967	
153-19	煙管	銅	1-2-3	H7 T306・3309	7.13	-	0.85	1.4	-	8.0			19C中～近代	M217	
153-20	煙管	銅	1-1-2	E5 T203	7.6	1.8	0.9	1.6	1.1	18.0			鍍金	M221	
153-21	煙管	銅	1-1	A4 T47	大入層	8.2	0.9	1.2	0.8	9.0				M275	
153-22	煙管	銅	1-2-3	G2-3 8層	5.7	2.3	0.8	1.2	0.6	2.0			火皿孔	M1980	
153-23	煙管	銅	1-1	B3 3134	6.9	1.1	-	-	-	8.0			17C中～後	M651	
153-24	煙管	銅	1-1	B1 34136	6.0	2.5	0.95	1.3	0.8	3.0			17C初～初	M1469	
153-25	煙管	銅	1-4-5	B9 段下	9.8	4.1	1.3	1.5	0.9	11.0			火皿孔 補強部付	M147	
153-26	煙管	銅	V-1-3	F4 表下大堀込	4.2	1.2	1.1	0.6	1.4	2.3			肩付	M2828	
153-27	煙管	銅	1-4-5	A1 5401 3層	3.9	2.0	1.1	1.2	0.8	9.0			19C中～近代	M213	
153-28	煙管	銅	1-2-3	A9 3304	4.2	2.2	0.9	1.5	1.1	1.6			肩付	M70	
153-29	煙管	銅	1-4-5	C8 T421(7層)	4.5	2.15	0.95	1.3	0.8	1.8			補強部付 肩付	M2182	
153-30	煙管	銅	1-4-5	A6 19C成層部	5.4	2.0	1.0	1.5	0.7	2.0			補強部付 肩付	M3139	
153-31	煙管	真鍮	1-4-5	C9 南側4220	7.0	2.7	0.9	1.3	0.8	2.2			補強部付 肩付	M1595	
153-32	煙管	銅	1-4-5	C8 大Tr下層	7.1	2.6	0.95	1.4	0.9	2.1			火皿孔 前段形成	M2125	
153-33	煙管	真鍮	1-6	D10	-	7.4	2.5	0.9	1.4	0.5	2.1		肩付	M2287	
						全長	胴部長	口部径	胴部長						
154-1	吸口	真鍮	1-4-5	C9 白銅上層	3.4	0.8	0.25			4.0				近代	M3135
154-2	吸口	銅	1-1	G2-F2 赤褐色土層	5.6	0.8	0.3			2.0					M818
154-3	吸口	銅	1-1-2	E5 3201a-b層	4.9	0.85	0.2			3.0				17C前～19C中	M482
154-4	吸口	真鍮	1-1-3		最上層	1.05	4.95	0.5		5.0					M1666
154-5	吸口	銅	3	E-F1 3408	6.0	0.75	0.2			1.2				19C中	M13
154-6	吸口	銅	1-4-5	C8 4220南側下土	6.0	0.9	0.35			3.0				鍍金	M1325
154-7	吸口	銅	1-1-2	E5 3201a-b層	5.85	0.95	0.4			7.0				17C前～19C中	M336
154-8	吸口	真鍮	V-4-5	F5 6302	4.3	0.95	0.45			9.0				側面に文様あり	M3114
154-9	吸口	銅	1-4	G8		5.7	0.7	0.3		6.0				～近代	M2753
154-10	吸口	銅	1-2-3	F1 3361上層	6.3	0.75	0.3			9.0					M2453
154-11	吸口	銅	1-1	B3 3134	6.5	0.25	-			2.0				17C中～後	M653
154-12	吸口	銅	V-4-5	1-77 6301	7.1	0.9	0.6			7.0				松接縁あり	M3904
154-13	吸口	銅	1-1-2	D5 3201(下層)	7.1	1.1	0.35			9.0				17C前～19C中	M968
154-14	吸口	銅	1-2-3	H7 T306・3309	5.8	0.9	0.2			6.0				19C中～近代	M218
154-15	吸口	銅	1-4-5	1-77 4229	8.2	0.9	0.4			8.5				～近代	M30
154-16	吸口	真鍮	1-2-3	G7 33241	7.2	0.95	0.2			3.0				17C後～18C前	M83
154-17	吸口	銅	1-1-2	F7 子堀	7.3	0.9	0.3			4.0					M688
154-18	吸口	銅	3	F3 36026	8	0.8	0.2			4.0				17C後～18C前	M1995
154-19	吸口	銅	1-4	H8	-	7.9	0.9	0.3		6.5					M2709
154-20	吸口	銅	1-2-3	G3 3353	9.8	1.0	0.25			10.0				～19C前	M2498
154-21	煙子	竹	V-4-5	B6 3601	4.1	0.65	0.4			0.5				側部六角形	M2986
154-22	吸口	銅	3	F2 36048	10.1	13.0	0.5			15.0				18C後～19C前	M3055
154-23	吸口	真鍮	1-4-5	C8 4293	13.0	0.7	0.3			10.0				17C後～18C末	M52
154-24	吸口	真鍮	1-4-5	C8 4220	8.0	0.85	0.35			5.0				17C～19C近代	M1582
154-25	吸口	銅	1-4	H4		4	0.3	0.3		2.0				銅板補綴部	M2742
154-26	吸口	銅	1-1-2	F6 T216	5.0	0.9	0.3			1.7				銅板表裏	M473
154-27	吸口	銅	1-1-2	J2 T2120	5.3	0.9	0.25			1.9				銅板表裏	M527
154-28	吸口	銅	1-1-2	J2 T2120	6.4	1.05	0.4			2.3				銅板表裏	M526
154-29	吸口	銅	1-4-5	C9 42206	7.7	0.9	0.3			2.3				肩付	M2043
154-30	吸口	銅	1-1	A10 3427	7.7	0.1	0.25	1.8		1.9				17C前	M1679
154-31	吸口	銅	1-1-2	B4 32134	9.2	0.75	0.35	2.2		4.0				銅板 銅は別造力	M1746
154-32	吸口	銅	1-1	C1 34138	9.8	0.75	0.25	1.25		1.35				銅板	M1805
154-33	煙子	真鍮	1-1	- 大Tr	12.0	0.85				18.0					M919
						胴部長	全高	胴径	火道径	火道高					
154-33	煙管	銅	1-4-5	A8 4213	3.8	1.9	0.8	1.4	0.8	7.5				鍍金	
	吸口	銅	1-4-5	A8 4213	3.2	0.8	0.3	0.5	1.5	1.5				鍍金	17～18C
154-34	煙管	銅	1-4-5	C9 4220上層	4.9	0.9	1.4	0.6	5.0	1.0					M2072
154-35	煙管	真鍮	1-1	- 石垣段間	6.75	2.3	1.0	1.55	1.1	10.0				17C前～近代	M1851
154-36	煙管	真鍮	1-4-5	C8 4220	9.2	0.8	0.3			5.0					
	吸口	銅	1-4-5	C8 4220	6.35	2.45	1.2	0.8		2.0				補強部付	17C～19C近代
154-37	煙管	銅	1-4-5	E9 4241A・B	8.7	3.1	0.9	1.3	0.8	9.0					
	吸口	銅	1-4-5	E9 42133	3.5	0.9	-			1.0				17C中～後	M1640
154-38	煙管	真鍮	1-4-5	A9 42133	5.4	3.0	0.9	1.5	0.9	2.1				補強部付 肩付	17C後
	吸口	銅	1-4	E9-10 4302	16.8	3.0	0.6	1.4	0.9	0.4				火皿孔	M1689
153-34	煙管	銅	1-1-2	J2 段下最上層	12.3	1.8	1.1	1.0	0.5	0.7				鍍金	M496

第55表 銭貨観察表

標記 番号	面数	地区	出土地点	通儀・層位	銭文	初鋳	径	流量 (mm・g)	孔径	厚さ	備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
155-1	1-1~3	H6	空堀	開元通寶	唐621	25.0	20.5	7.0	7.0	2.4	真書		M1508
155-2	1-2~3	H8	最終空堀面下土	開元通寶	唐845	24.0	21.0	6.0	6.0	2.2	真書		M2424
155-3	IV-5~6	G10-1 H10-1	5428	開元通寶	南唐960	24.5	19.0	6.5	6.5	2.8	篆書 一部欠損	17C後	M3153
155-4	1-1~2	C6	T2-1a東側	開元通寶	(唐621)	(20.0)	(18.0)	(6.0)	0.5		開元通寶? 背下月		M1728
155-5	1-2~3	C8	3325	咸平元寶	北宋998	25.0	18.5	6.0	6.0	2.3		17C後~19C	M0236
155-6	1-3	H3	36125	咸平元寶	北宋998	24.5	19.0	6.0	6.0	1.9		17C初~中	M3044
155-7	1-1	H4	31116	景德元寶	北宋1004	25.0	20.0	6.5	6.5	3.3		16C末	M0595
155-8	1-2~3	G6-H8	3309上層	祥符元寶	北宋1009	25.0	17.0	6.0	6.0	3.0		19C中~近代	M1792
155-9	1-6	E9-10	T4302整地層	祥符元寶	北宋1009	24.5	18.0	6.0	6.0	2.9	銭文不鮮明		M2262
155-10	1-1~2	A3	第4面(上)整地層	祥符元寶	北宋1009	25.5	19.5	5.5	6.0	3.0			M1868
155-11	1-4	G7	5293	祥符通寶	北宋1009	23.0	17.5	6.0	6.0	2.8	銭文不鮮明		M2738
155-12	1-4	G7	5293	天禧通寶	北宋1017	23.0	18.5	6.5	6.5	2.4			M2739
155-13	1-4	G7	5293	天禧通寶	北宋1017	22.5	17.5	6.0	6.0	2.1			M2735
155-14	1-4	G7~H9	5201 4層	天禧通寶	北宋1017	23.5	19.0	6.5	6.5	2.3	銭文不鮮明	19C前~近代	M2836
155-15	1-4~5	C8	橋土下層	天禧通寶	北宋1017	24.0	19.0	6.5	6.5	2.5	銭文不鮮明		M1358
155-16	1-3	E10	811	天聖元寶	北宋1023	23.0	18.0	6.0	6.0	2.6	真書	17C	M3504
155-17	1-4~5	E10	4263	天聖元寶	北宋1023	24.5	20.0	7.0	7.0	3.0	真書 銭文不鮮明	17C後~18C	M0182
155-18	1-2~3	H8	最終空堀面下土	天聖元寶	北宋1023	25.0	21.0	6.5	6.5	3.0	真書		M2417
155-19	1-1	A4	31102	景祐元寶	北宋1034	25.0	19.5	6.5	6.5	2.7	真書		M0599
155-20	1-1	B4	31102	景祐元寶	北宋1038	25.0	20.0	6.5	6.5	4.2	真書	16C後~末	M0370
155-21	1-4~5	H8	9	景祐元寶	北宋1038	24.5	20.0	6.5	6.5	2.8	銭文不鮮明 真書		M2417
155-22	V-1,3	G3	62018中層	景祐元寶	北宋1054	24.0	19.0	7.0	7.0	2.9	篆書 一部欠損	~17C後	M2949
155-23	1-1~2	D4	3201d層南側	景祐元寶	北宋1054	23.5	20.0	6.0	6.0	1.9	真書	17C前~19C中	M0463
155-24	1-1	A4	31102	景祐元寶	北宋1056	25.0	20.0	6.0	6.0	3.2	真書		M0369
155-25	1-1	B4	31102	治平元寶	北宋1064	24.0	19.0	6.0	6.0	3.7	真書	16C後~末	M0594
155-26	1-2~3	H7	3325	治平元寶	北宋1064	24.0	19.0	6.5	6.5	2.6	真書	17C後~19C	M1898
155-27	1-3	H3	36106	治平元寶	北宋1064	24.5	18.0	6.5	6.5	2.1	真書	17C前~中	M3227
155-28	1-4	H10	5234上層	治平元寶	北宋1064	23.5	18.5	6.5	6.5	3.7	真書	18C後~19C前	M2792
155-29	1-1	A9	34554	熙寧元寶	北宋1069	24.0	19.0	6.5	6.5	2.5	真書	16C末~17C初	M1814
155-30	1-1	A4	31190	熙寧元寶	北宋1069	25.0	20.0	6.0	6.0	2.6	化文 真書		M1821
155-31	1-4~5	C8	4220	熙寧元寶	北宋1069	25.0	20.5	7.0	7.0	3.8	真書	17C中~後	M2169
155-32	V-1	D2	61078	熙寧元寶	北宋1068	24.5	20.5	7.0	7.0	1.6	真書		M2975
155-33	1-6	E9-10	H302整地層	熙寧元寶	北宋1068	23.5	18.5	6.0	6.0	3.5	篆書		M2257
155-34	1-6	C9	4422-1石垣最下層	熙寧元寶	北宋1068	23.0	18.5	6.5	6.5	3.4	篆書		M2260
155-35	1-3	F7	31102	熙寧元寶	北宋1068	24.0	20.0	7.0	7.0	3.4	篆書		M3129
155-36	1-1	B4	31119	熙寧元寶	北宋1078	23.5	19.0	6.5	6.5	3.7	行書	16C中~後	M0182
155-37	1-6	D9	4263直下	元豐通寶	北宋1078	23.5	18.0	6.5	6.5	3.4	行書	17C後~18C	M2772
155-38	1-4~5	C8	42130	元豐通寶	北宋1078	23.0	18.5	6.5	6.5	3.0	行書	17C前	M1560
155-39	1-3	C3	T7328	元豐通寶	北宋1078	24.0	19.0	6.5	6.5	2.2	行書		M1560
155-40	1-4~5	C8	4220	元豐通寶	北宋1078	24.0	19.0	7.0	7.0	3.0	行書	17C中~後	M2024
155-41	1-4	G7~H9	5201馬場色土	元豐通寶	北宋1078	24.0	20.0	7.0	7.0	3.3	篆書	19C前~近代	M2748
155-42	1-3	F7	31102	元豐通寶	北宋1078	24.0	19.5	6.5	6.5	2.8	篆書		M3128
155-43	1-4~5	E10	4261	元豐通寶	北宋1078	24.0	20.0	7.5	7.5	2.7	篆書	17C前~後	M0236
155-44	1-1~3	C6	3535(A)	元豐通寶	北宋1078	23.0	18.0	6.0	6.0	3.4	真書 銭文不鮮明	17C~19C近代	M0114
155-45	1-4~5	C8	4220南側	元豐通寶	北宋1078	24.0	18.0	6.5	6.5	3.8	篆書 銭文不鮮明	17C中~後	M1556
155-46	1-1	F3	31100	元祐通寶	北宋1086	24.5	19.0	6.5	6.5	3.1	行書	17C前	M0598
155-47	1-2~3	H8	最終空堀面下土	元祐通寶	北宋1086 (24.0)	19.0	6.0	3.0	3.0	行書 銭文不鮮明		M2422	
155-48	1-1~3	H6	Gd第4面下土	元祐通寶	北宋1086	24.5	20.0	6.5	6.5	2.8	篆書		M1089
155-49	1-6	C9	4421-1石垣最下層	元祐通寶	北宋1086	24.0	17.5	6.0	6.0	3.7	篆書		M2259
155-50	1-1~2	F3	3272	元祐通寶	北宋1086	23.5	19.0	6.0	6.0	1.7	篆書 背下(背最不能)	17C中~後	M1070
155-51	1-4~5	H6	947	紹聖元寶	北宋1094	24.0	17.5	6.5	6.5	3.2	行書		M0124
155-52	1-1	B4	31198	紹聖元寶	北宋1094	24.0	19.0	6.0	6.0	3.4	篆書 銭文不鮮明	16C後	M0596
155-53	1-6	D9	赤褐色土層	紹聖元寶	北宋1094	23.5	18.5	6.5	6.5	2.4	篆書 155-65から割離		M3502
155-54	1-3	F2	3408	元符通寶	北宋1098	23.0	19.0	7.0	7.0	1.7	行書 銭文不鮮明	19C中	M3019
155-55	V-1	E3	61044 3層級下	元符通寶	北宋1098	24.0	20.5	7.5	7.5	2.5	篆書 156-70から割離	17C初~後	M2822
155-56	1-1~2	B6	3201 d層	聖宗元寶	北宋1101	24.0	19.0	6.0	6.0	3.2	行書	17C前~19C中	M0421
155-57	1-1	J4	31102	聖宗元寶	北宋1101	24.0	20.0	6.0	6.0	2.4	篆書 面まわり不良		M1824
155-58	1-4	G7	5293	大觀通寶	北宋1107	23.5	21.0	6.0	6.0	2.8			M2730
155-59	1-1~2	F6	321上層	大觀通寶	北宋1107	24.5	21.5	6.0	6.0	2.2		17C初	M0145
155-60	1-1~2	B6	橋土上層	大觀通寶	北宋1107	24.0	21.5	7.0	7.0	1.8			M0415
155-61	1-6	D9	T7403	大觀通寶	北宋1107	24.0	21.0	6.5	6.5	3.0			M2951
155-62	1-2~3	B9	橋土層	淳熙元寶	南宋1174	24.0	21.0	6.0	6.0	2.7	真書		M0235
155-63	V-4~5	A5	6360北側河部	寧宗元寶	南宋1195	24.0	20.0	7.0	7.0	2.5	背「三」 背土直 156-64から割離	17C初	M3233
155-64	1-4	G7	5293	政和通寶	北宋1111	24.0	19.0	6.5	6.5	3.0	分簡		M2731
155-65	1-6	D9	赤褐色土層	政和通寶	北宋1111	24.5	19.0	6.0	6.0	2.4	篆書 155-53から割離		M2929
155-66	1-2~3	F7	33339	政和通寶	北宋1111	24.0	20.0	6.0	6.0	2.9	篆書 銭文不鮮明	17C初	M1900
155-67	1-4~5	C9	4220a溝下層	政和通寶	北宋1119	24.0	20.5	6.0	6.0	3.8	篆書	17C中~後	M0142
155-68	1-3	F2	八層	洪武通寶	明1368	24.0	19.0	6.0	6.0	2.5	口面單点通		M0004
155-69	1-1~2	D2~3	3134d層	洪武通寶	洪武(明1368)	(23.0)	(18.0)	(6.0)	(6.0)	(0.8)	背「治」	17C中~後	M1075
155-70	1-4	G7	5293	永樂通寶	明1408	24.0	20.5	6.5	6.5	3.6			M2727
155-71	1-4	G7	5293	永樂通寶	明1408	24.0	21.0	6.0	6.0	2.9			M2724
155-72	1-4	G7	5293	永樂通寶	明1408	24.5	20.5	6.0	6.0	3.1			M2726
155-73	1-4	G7	5293	永樂通寶	明1408	24.0	21.0	6.0	6.0	2.8			M2723
155-74	1-6	D8	4420(底)	永樂通寶	明1408	24.0	20.5	6.0	6.0	2.9			M1694
155-75	1-2~3	H8	33249上層	永樂通寶	明1408 (24.0)	20.5	5.5	5.5	5.5	2.5		19C前	M0075
155-76	1-2~3	H8	33249上層	永樂通寶	明1408	25.0	22.0	5.5	5.5	2.8		19C前	M0073
155-77	1-4~5	C8	4220b(南側橋土下)	永樂通寶	明1408	24.0	21.0	6.0	6.0	3.5		17C~19C近代	M1316
155-78	1-4	G7	5293	永樂通寶	明1408	24.0	20.5	6.0	6.0	2.6			M2729
155-79	1-6	C9	4420-1石垣最下層	宣德通寶	明1433	24.5	20.5	5.5	5.5	2.9			M2258

第2節 製造関連遺物

発掘 番号	出土地点			銭文	初鋳	重量 (mm・g)					備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物 番号
	層数	地区	通称・層位			径	内径	孔径	厚さ				
155-80	Ⅳ-4	G7	5293	弘治通寶	明1503	23.5	18.0	5.5	2.0				M2732
155-81	Ⅱ-12	E6	3201上層	康照通寶	清1662	(23.0)	15.0	5.0	1.2		背「宣」?と漢文 磨蝕	17C前～19C中	M0656
155-82	Ⅳ-4-5	F9	53170	紹平通寶	後魏1434	21.0	17.0	6.0	1.5		バットナミ銭	16C末～17C初	M2291
155-83	V-4-5	A5	6360北朝新部	慶長通寶	日本 1596-1615	23.0	19.5	6.5	2.7		156-64から新鋳	17C前	M3209
155-84	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1636	25.0	18.5	6.0	3.0		古寛永 太字 もとの24枚一連	17C前～近代	M0631
155-85	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1636	24.5	20.0	6.0	3.7		古寛永 太字 もとの24枚一連	17C前～近代	M0622
155-86	Ⅱ-1	I2	Ty118	寛永通寶	日本1636	25.0	19.0	5.5	3.5		古寛永		M0593
155-87	Ⅱ-1	I2	3134	寛永通寶	日本1636	24.0	20.0	5.0	2.5		古寛永	17C中～後	M0364
155-88	Ⅱ-1	J4	Ty8	寛永通寶	日本1636	25.0	20.0	6.0	2.5		古寛永		M0877
155-89	Ⅱ-12	D5	Ty222	寛永通寶	日本1636	25.5	20.0	5.0	3.3		古寛永		M0959
155-90	Ⅱ-12	A3	3265	寛永通寶	日本1636	25.0	19.0	5.0	2.1		古寛永	17C後～18C前	M0412
155-91	Ⅳ-2	B6・ F6-7	5196・5197	寛永通寶	日本1636	24.0	20.0	6.0	2.4		古寛永 厚い	17C後～18C後	M2548
155-92	Ⅱ-2-3	G2	下層	寛永通寶	日本1636	24.5	20.0	5.0	2.6		古寛永 厚い		M0117
155-93	Ⅱ-1	C2	Ty418	寛永通寶	日本1636	24.5	19.0	6.0	2.5		古寛永 太字		M0797
155-94	Ⅲ-3	I33	36106	寛永通寶	日本1636	25.0	19.0	5.5	3.2		古寛永	17C前～中	M1542
155-95	Ⅱ-4-5	A7	C層	寛永通寶	日本1636	23.0	18.5	5.5	3.2		古寛永 太字		M1971
155-96	Ⅱ-4-5	B7・C7	4245	寛永通寶	日本1636	24.0	20.0	6.0	2.9		古寛永	18C後～19C中	M2196
155-97	Ⅱ-4-5	D10	段見焼土下	寛永通寶	日本1636	24.0	19.0	5.5	3.5		古寛永 太字		M2219
155-98	Ⅱ-12	I2	3134f層	寛永通寶	日本1636	25.0	19.0	5.0	2.6		古寛永 背下月?	17C中～後	M1016
155-99	Ⅱ-12	F6	段見焼土1-16	寛永通寶	日本1636	24.0	19.0	5.5	1.7		古寛永 面だまり		M0459
155-100	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	3.0		文銭 背「文」 もとの24枚一連	17C前～近代	M0626
155-101	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1668	25.5	20.5	5.5	3.9		文銭 背「文」 もとの24枚一連	17C前～近代	M0632
155-102	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1668	25.0	20.0	6.0	3.4		文銭 背「文」 もとの24枚一連	17C前～近代	M0616
155-103	Ⅱ-1	J4	3126	寛永通寶	日本1668	25.5	20.5	6.0	2.8		文銭 背「文」	18C中～19C前	M0838
155-104	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1668	25.5	18.0	6.0	3.5		文銭 背「文」 もとの24枚一連	17C前～近代	M0625
155-105	Ⅱ-12	I8	Ty310北朝(2)層	寛永通寶	日本1668	24.5	20.0	6.0	2.6		文銭 背「文」		M0991
155-106	Ⅱ-12	I8	Ty310北朝(2)層	寛永通寶	日本1668	25.0	20.0	5.5	2.9		文銭 背「文」		M0989
155-107	Ⅱ-12	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1668	25.0	21.0	6.0	3.1		文銭 背「文」	17C前～19C中	M0456
155-108	Ⅱ-12	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1668	25.5	19.5	6.0	2.7		文銭 背「文」	17C前～19C中	M0467
155-109	Ⅱ-12	J2	3134c層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	3.1		文銭 背「文」	17C中～後	M1064
156-1	Ⅱ-2-3	A8	3390上層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	5.5	3.1		文銭 背「文」 厚い	19C	M2454
156-2	Ⅱ-2-3	H4	下層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	2.7		文銭 背「文」		M3501
156-3	Ⅱ-2-3	H4	下層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	5.5	2.2		文銭 背「文」		M0112
156-4	Ⅱ-2-3	C9	3367f層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	3.2		文銭 背「文」	17C～18C後	M0114
156-5	Ⅱ-2-3	J7	B-ツ層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	3.1		文銭 背「文」		M1407
156-6	Ⅱ-1-3	I36	2層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	6.0	2.9		文銭 背「文」		M1507
156-7	Ⅱ-1-3	I35	41032層	寛永通寶	日本1668	25.5	20.0	5.5	3.2		文銭 背「文」	18C後	M1626
156-8	Ⅱ-4-5	B8	Ty201東朝黒2層	寛永通寶	日本1668	25.0	20.5	6.0	2.6		文銭 背「文」		M3224
156-9	Ⅱ-4-5	A6	大Ty11下層西側	寛永通寶	日本1668	24.5	20.0	6.0	3.7		文銭 背「文」		M2150
156-10	Ⅱ-4-5	J7	背灰色粘土層	寛永通寶	日本1668	24.5	18.0	5.5	3.3		文銭 背「文」		M0127
156-11	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1697	24.0	20.0	6.0	2.8		新寛永 磨子 もとの24枚一連	17C前～近代	M0618
156-12	Ⅱ-1	G2	Ty14	寛永通寶	日本1697	23.0	18.5	7.0	2.5		新寛永 磨子		M0917
156-13	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1697	23.5	20.0	6.0	2.9		新寛永 磨子 もとの24枚一連	17C前～近代	M0623
156-14	中之馬場 南	G2	石垣期間	寛永通寶	日本1697	23.5	18.5	6.0	2.7		新寛永 磨子 もとの24枚一連	17C前～近代	M0620
156-15	Ⅱ-12	D5	Ty222	寛永通寶	日本1697	23.5	19.0	6.0	2.0		新寛永		M0958
156-16	Ⅱ-12	F6	段見焼土上層	寛永通寶	日本1697	24.0	19.0	5.5	2.1		新寛永		M0424
156-17	Ⅱ-12	E5	3201d層	寛永通寶	日本1697	24.0	18.5	6.0	2.6		新寛永 磨子	17C前～19C中	M0975
156-18	Ⅱ-12	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1697	24.5	19.5	6.0	2.9		新寛永 磨子	17C前～19C中	M2402
156-19	Ⅱ-12	A3	段見焼土上層	寛永通寶	日本1697	23.0	21.0	6.5	2.8		新寛永		M0462
156-20	Ⅱ-12	E5	3201c層	寛永通寶	日本1697	24.0	20.0	6.0	2.4		新寛永 磨子	17C前～19C中	M0460
156-21	Ⅱ-12	A2	3320b層	寛永通寶	日本1697	24.0	19.0	6.0	2.8		新寛永 磨子		M0418
156-22	Ⅱ-2-3	I9-I19	ツ層	寛永通寶	日本1697	23.5	18.0	6.5	2.6		新寛永 磨子 輪に○の中に十打刻		M0094
156-23	Ⅱ-2-3	F1	最上層	寛永通寶	日本1697	24.5	19.0	6.0	3.7		新寛永		M2473
156-24	Ⅱ-2-3	A8	3390上層	寛永通寶	日本1697	24.5	19.0	5.5	2.7		新寛永 太字	17C～19C	M2455
156-25	Ⅱ-1	E2	3415	寛永通寶	日本1697	24.0	23.5	6.0	3.0		新寛永 磨子		M0202
156-26	Ⅱ-1	E2	3415	寛永通寶	日本1697	24.0	18.5	6.0	2.6		新寛永		M0200
156-27	Ⅱ-1	F2-3	Ty411東平分	寛永通寶	日本1697	25.0	19.0	6.0	3.8		新寛永		M0207
156-28	Ⅲ-3	F9	3406	寛永通寶	日本1697	24.5	19.0	6.0	2.8		新寛永	19C中	M0087
156-29	Ⅱ-4-5	B7・C7	4245	寛永通寶	日本1697	23.0	18.5	6.0	2.9		新寛永 磨子	18C後～19C中	M2197
156-30	Ⅱ-4-5	B9	3色色	寛永通寶	日本1697	24.5	19.5	6.0	2.8		新寛永 磨子		M1914
156-31	Ⅱ-12	E5	3201c層	寛永通寶	日本1697	22.5	17.0	6.0	1.9		新寛永 銭文不鮮明	17C前～19C中	M0457
156-32	Ⅳ-2	B4	51093層	寛永通寶	日本1697	22.5	18.5	6.5	2.3		新寛永 磨子	19C	M2553
156-33	Ⅱ-12	E6	3201c層	寛永通寶	日本1697	24.0	19.0	6.0	2.3		新寛永 面だまり	17C前～19C中	M0458
156-34	Ⅱ-4-5	A7	大Ty11下層西側	寛永通寶	日本1697	22.5	17.5	6.0	2.5		新寛永 背「元」		M2092
156-35	Ⅱ-4-5	B8	4245	寛永通寶	日本1697	22.0	16.5	6.0	2.3		新寛永 背「元」		M0171
156-36	Ⅱ-4-5	B8	4245	寛永通寶	日本1697	23.0	17.0	6.5	1.9		新寛永 背「元」		M0026
156-37	Ⅱ-4-5	B6	4205	寛永通寶	日本1697	22.5	17.0	6.5	2.6		新寛永 背「元」	18C後～19C中	M0132
156-38	Ⅱ-12	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1697	22.5	17.0	6.0	1.4		新寛永 背「元」	17C前～19C中	M0425
156-39	Ⅲ-3	G3	ハ層	寛永通寶	日本1697	23.0	17.0	6.5	1.3		新寛永 背「元」		M0943

探出 番号	出土地点			銭文	初鋳	計測値 (mm・g)				備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
	層数	地区	遺構・層位			横	縦	厚	重さ			
156-40	Ⅱ-1	A10	34110	寛永通寶	日本1697	23.0	17.0	6.0	2.0	新貨水 背「元」	19C中	M1470
156-41	Ⅰ-4-5	E9	34110	寛永通寶	日本1697	22.5	17.0	6.5	2.0	新貨水 背「元」		M1916
156-42	Ⅱ-1	G2	T415	寛永通寶	日本1697	22.5	18.0	6.0	2.4	新貨水 小形 背「足」 欄字		M0874
156-43	Ⅰ-4-5	D9	4222井戸底部	寛永通寶	日本1697	22.5	17.0	6.0	1.9	新貨水 背「足」	17C前～中	M0024
156-44	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層	寛永通寶	日本1697	24.0	19.5	6.0	2.2	新貨水 背「足」	17C前～19C中	M0677
156-45	Ⅱ-1-2	D6	3201c層	寛永通寶	日本1697	23.5	18.0	6.0	2.2	新貨水 背「足」	17C前～19C中	M0663
156-46	Ⅰ-4-5	C8	覆瓦基上層	寛永通寶	日本1697	23.0	18.5	6.5	2.1	新貨水 背「元」		M0194
156-47	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1769	27.0	21.0	6.0	4.1	四文銭 背十一波	17C前～19C中	M0427
156-48	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層	寛永通寶	日本1769	27.0	21.1	6.5	4.7	四文銭 背十一波	17C前～19C中	M0426
156-49	-	-	-	寛永通寶	日本1769	28.0	19.0	6.0	3.8	四文銭 背十一波 銭文不鮮明		M3235
156-50	Ⅱ-2-3	J9	3393	文久水寶	日本1863	26.0	20.0	6.5	3.4	銭文	16C後～19C	M0091
156-51	Ⅱ-1	E2	3415	文久水寶	日本1863	27.0	20.0	6.5	3.4	銭文		M0208
156-52	Ⅱ-1	E2	3415	文久水寶	日本1863	27.0	21.0	7.0	3.3	銭文		M0197
156-53	Ⅱ-1	E2	3415	文久水寶	日本1863	27.0	20.0	6.0	3.6	銭文		M0204
156-54	Ⅱ-2-3	C10	覆瓦	文久水寶	日本1863	27.0	23.0	7.0	3.6	銭文		M0109
156-55	Ⅱ-2-3	I4	3354	無文銭		(21.0)	(19.0)	5.5	1.6		19C中	M0121
156-56	Ⅱ-1	A9	34554	無文銭		(19.0)	-	(7.0)	0.6		16C末～17C初	M1815
156-57	Ⅱ-1	A1/B1	34331	無文銭		(19.0)	-	(6.0)	1.0		16C末～17C中	M2872
156-58	Ⅱ-1	A9/B10	34371	無文銭		(21.0)	-	(7.5)	1.7		16C末	M3086
156-59	Ⅱ-1-2	D4	32162	無文銭		(19.0)	-	(8.0)	0.7		17C初	M3063
156-60	V-1	E1	61177	無文銭?		23.5	-	0.5	-	距離 中央に円孔あり	17C後	M3088
						縦	横	厚	孔徑			
156-61	Ⅰ-4-5	D9	集石	寛政銭		21.5	19.5	5～7.0				M2156
156-62	Ⅱ-2-3	I9	33446	寛政銭		22.5	20.5	6.5			16C末	M3502
						縦	横	厚				
156-63	Ⅰ-4-5	B7-C7	4245	錆付銭貨		25.0	24.5	3.5		2枚 ともに寛永通寶 156-67から割断	18C後～19C中	M2194
156-64	V-4-5	A5	6360北側部	錆付銭貨		23.0	23.5	2.5		2枚 判読不能 155-63・83 156-69から割断	17C初	M3221
156-65	Ⅱ-4	I10	5262	錆付銭貨		28.5	25.5	7.0		5枚 1枚は本朝通寶 156-68から割断	17C初～前	M3102
156-66	Ⅱ-2-3	J7	B-7層	錆付銭貨		31.0	26.0	7.5		5枚 1枚は寛永通寶 156-68から割断		M1408
156-67	Ⅰ-4-5	B7-C7	4245	錆付銭貨		25.0	24.5	6.5		4枚 1枚は寛永通寶 156-63から割断	18C後～19C中	M2192
156-68	Ⅱ-2-3	J7	B-7層	錆付銭貨		25.5	27.5	4.5		3枚 1枚は寛永通寶 156-66から割断		M1409
156-69	V-4-5	A-5	6360北側部	錆付銭貨		32.5	24.5	8.5		7枚 銭銭不明 156-64から割断	17C初	M3203
156-70	V-1	E-3	61044 3層底	錆付銭貨		26.5	25.0	2.5		2枚 銭銭不明 155-55から割断	17C初	M2820
156-71	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層	錆付銭貨		23.5	23.0	3.0		3枚 銭銭不明	17C前～19C中	M0485
156-72	Ⅱ-2-3	I-8	最終空堀面覆土	錆付銭貨		34.0	26.0	7.5		6枚 景徳元寶・聖元元寶		M2414

第56表 鋳造関連遺物観察表 鋳造素材・鋳洋等

探出 番号	種別	属性	出土地点		銭文	初鋳	計測値(mm・g)				備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号
			層数	地区	遺構・層位		横	縦	厚	重さ			
157-1	鋳造素材	鋳	Ⅱ-1	A4	T122		3.6	3.1	0.6	35.0			M1858
157-2	鋳造素材	鋳	Ⅱ-1-2	D4	3201d新南側		1.4	1.6	0.5	9.0	つぶれた準丸か	17C前～19C中	M1767
157-3	鋳造素材	鋳	Ⅱ-1-2	B8	覆瓦基上層		10.5	2.5	0.5	71.0			M1395
157-4	鋳造素材	鋳	Ⅱ-1-2	I7	A層		3.7	2.8	0.6	31.0			M2505
157-5	鋳造素材	鋳	Ⅱ-1-2	A10	覆瓦基上層		2.2	2.0	0.3	10.0			M3333
157-6	鋳洋	鋳	Ⅱ-1	B1			5.6	3.8		19.0			M3454
157-7	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	F7	3308		3.4	1.8	1.55	11.0		17C～19C中	M32079
157-8	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層		9.3	2.8	0.85	70.0		17C前～19C中	M3297
157-9	鋳洋	鋳	V-4-5	-	-		7.0	4.7	2.3	68.0			M63
157-10	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層		7.6	3.4	0.9	59.0		17C前～19C中	M32097-4
157-11	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層		8.5	6.35	0.9	170.0		17C前～19C中	M32097-3
157-12	鋳洋	鋳	Ⅰ-4-5	A7	4242		6.6	3.1	0.8	40.0		(17C)～19C	M2035
157-13	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層		17.8	11.4	2.0	600.0	段が所々にぼろぼろ。 箱門形状の鋳あり。	17C前～19C中	M32097-1
157-14	鋳洋	鋳	Ⅱ-1-2	D6	3201a-b層		16.2	7.4	1.4	645.0		17C前～19C中	M32097-2
157-15	鋳洋	鉄	Ⅰ-4-5	A7	G層		5.5	4.7	1.4	72.0			M1349
157-16	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層		4.7	4.8	2.1	66.0		17C前～19C中	M320395
157-17	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層		5.9	3.5	2.4	68.0		17C前～19C中	M320413-1
157-18	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層		6.9	7.1	2.2	93.0		17C前～19C中	M320413-2
157-19	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	F-6	3214下層底		4.2	3.7	1.7	30.0		18C後	M331297
157-20	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	F7	3308		8.3	5.5	3.5	169.0		17C前～19C中	M36572
157-21	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	E5	3201a-b層		6.6	4.5	3.2	90.0		17C前～19C中	M320413-3
157-22	鋳洋	鋳	Ⅰ-4-5	C8	4220南側		11.5	7.6	6.2	368.0		17C～19C前代	M1568
157-23	鋳洋	鉄	Ⅱ-1-2	F7	包含層2-1a		7.7	7.9	5.2	226.0			M321201
157-24	鋳洋	鋳	Ⅱ-4	H7	5201 4層		10.8	10.1	4.4	700.0		(17C後～) 19C前～前代	M52223
157-25	焼土塊		Ⅱ-4	-	-		4.7	3	1.6	18.0	鋳物入りの かみゆき		M52-4
157-26	焼土塊		Ⅱ-4	-	-		5.9	4.9	1.6	28.0	鋳物入りの かみゆき		M52-1

第57表 製造関連遺物観察表 取鍋・埴塼

博覧 番号	種別	出土地点			計測値 (cm)			備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号	
		層数	地区	通溝・層位	口径	高	厚				
158-1	取瓶	1-4-5	C8	4220南側	4.0	1.5	0.6	残存率1/4。金粒付着。 被熱変色。	17C～19C近代	M42931	
158-2	取瓶	1-4-5	C8	黒2-3層	4.8	1.8	0.8	完形。被熱変色。		M42790-3	
158-3	取瓶	1-4-5	C9	Tr4218内側 黒3層	5.2	2.1	0.6	残存率1/2～2/3。 内面着物付着。		M42504-2	
158-4	取瓶	II-1	B4	31108	6.2	2.8	1.0	面着物付着。	16C中～後	M31888-2	
158-5	取瓶	1-4-5	C8	4294	8.0	2.6	8.5	残存率1/5。着物。被熱変色。	17C前～17C中	M42857	
158-6	取瓶	II-1	B4	31108	3.8	1.5	0.7	内面着物。指押さえ痕。	16C中～後	M31888-4	
158-7	取瓶	1-4-5	C9	4220南側	5.2	2.0	0.8	残存率1/2。着物。被熱変色。	17C～19C近代	M42849	
158-8	取瓶	II-1-2	-	-	4.9	2.4	0.7	指押さえ痕。被熱変色。		M32453	
158-9	取瓶	1-4-5	C9	Tr4214	6.6	2.7	1.05	残存率2/3。内面着物。		M42888-1	
158-10	取瓶	II-1	G2	31008	7.8	2.5	1	面着物。	17C前～近代	M31457-2	
158-11	取瓶	1-4-5	C8	Tr4218	4.4	1.8	0.5	内面に金小粒。		M42892-2	
158-12	取瓶	1-4-5	C8	Tr4218	5.2	2.1	0.9	完形。被熱変色。		M42892-1	
158-13	取瓶	II-1	B4	遠近1	5.4	2.2	0.6	指押さえ痕。外面割り痕。		M31806-1	
158-14	取瓶	II-1	H2	堀2層目	6.0	2.6	1.0	口縁部着物。底面被熱変色。		M31763	
158-15	取瓶	1-4-5	C8	石割層	7.4	2.9	1.0	残存率1/4。		M42400	
158-16	取瓶	1-4-5	C9	Tr4214	4.1	1.6	0.6	完形。面着物。外面被熱変色。		M42888-4	
158-17	取瓶	II-1	B4	31101上層	4.8	2.4	0.8	指押さえ痕。面着物。	16C末～17C初	M31833-3	
158-18	取瓶	II-1-2	P6	風呂船上層	5.8	2.3	0.9	面着物。		M32337	
158-19	取瓶	1-4-5	C9	Tr4214	6.6	2.9	0.7	残存率1/3。内面着物。		M42888-2	
158-20	取瓶	1-4-5	J7	4242	7.4	3.5	0.7	残存率1/2～2/3。	(17C)～19C	M42516	
158-21	取瓶	1-4-5	C8	黒2-3層	4.2	1.7	0.68	残存率1/3～1/4。 内面着物。底に焼付着。		M42790-4	
158-22	取瓶	1-4-5	C8	黒2-3層	5.6	2.5	0.7	残存率2/3。内面着物。 被熱変色。		M42790-1	
158-23	取瓶	1-4-5	B8	4249櫓内	6.8	2.3	0.9	残存率1/2。内面着物。 被熱変色。	17C	M42832-1	
158-24	取瓶	II-1	B4	31101上層	6.8	3.0	1.0	内面被熱変色。	16C末～17C初	M31833-1	
158-25	取瓶	II-1	H2	堀1層目	7.7	3.6	1.2	完形。被熱変色。内面着物。		M31761	
158-26	取瓶	1-4-5	B8	4249櫓内	4.2	1.9	0.8	完形。内面ごく少量金粒付着。	17C	M42832-2	
158-27	取瓶	1-4-5	C8	4220南側	5.6	2.7	0.9	面着物(剥が)。外面被熱変色。	17C～19C近代	M42924-2	
158-28	取瓶	1-4-5	C9	Tr4214	6.8	2.5	1.0	残存率1/3。面着物。		M42888-3	
158-29	取瓶	II-1	B4	31102上層 4249櫓内	6.6	2.9	1.0	被熱変色。指押さえ痕。 内面着物。	17C	M31861	
158-30	取瓶	II-1	G2	31008	7.9	4	1.1	M42832-3と同一般体。			
158-31	取瓶	II-1	B4	31108	4.3	2.2	0.7	面着物。被熱変色。	17C前～近代	M31457-1	
158-32	取瓶	1-4-5	B8	Tr217内側 黒3層	5.4	3.1	0.9	被熱変色。指押さえ痕。面着物。 残存率1/2。被熱変色。	16C中～後	M31888-3	
158-33	取瓶	1-4-5	C9	42206	6.8	3.2	0.9	残存率1/4～1/3。面着物。 被熱変色。		M42284	
158-34	取瓶	1-4-5	C8	4220南側	7.0	2.8	0.9	被熱変色。面着物。	17C～19C近代	M42924-1	
158-35	取瓶	1-4-5	B7	4252	7.0	3.5	0.9	残存率1/4。被熱変色。	18C後～19C中	M42437	
158-36	埴塼	II-1-2	D6	3201a・b層	9.0	4.2	1.1	面着物。被熱変色。指押さえ痕。	17C前～19C中	M32298	
158-37	埴塼	IV-5-6	C1	5404	8.8	4.9	0.9		19C中	M5432	
158-38	埴塼	II-1-2	E5	3201a・b層	8.8	4.7	1	指押さえ痕。被熱変色。面着物。	17C前～19C中	M32383	
158-39	埴塼	II-1-2	E5	3201a・b層	9.7	5.2	1.1	被熱変色。面着物。	17C前～19C中	M32407	
158-40	埴塼	1-4-5	C9	Tr4218内側 黒3層	8.4	6.0	7.0	残存率1/2。面着物。染付陶板用。		M42504-1	
158-43	埴塼	1-4-5	C8-9	Tr208北側 黒2層	20.0	3.5	1.1	面着物。被熱変色。		M42441	
					口径	高	厚	総身長			
158-41	取瓶	1-4-5	C8	4220南側	7.4	2.1	0.9	1.2	面着物。被熱変色。	17C～19C近代	M42833
158-42	取瓶	1-4-5	C8	黒2-3層	6.3	2.1	0.9	0.7	被熱変色。面着物。		M42790-2

第58表 製造関連遺物観察表 鋳型・羽口

博覧 番号	種別	属性	出土地点			計測値(cm)			備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物 番号	
			層数	地区	遺構・層位	横	縦	厚				
159-1	鋳型(引手金具)	凝灰岩	Ⅱ-1	C-D2	77417	8.1	7.6	4.1			34277	
159-2	鋳型(引手金具)	凝灰岩	Ⅱ-1-2	E5	3201b層	19	4.5	2.8	砥石へ転用。	17C前～19C中	32543	
159-3	鋳型(引手金具)	凝灰岩	Ⅱ-1-2	D6	3201	7.8	4.3	2.0		17C前～19C中	32188	
159-4	鋳型(引手金具)	凝灰岩	Ⅲ-3	E2	3408	7.25	3.3	1.9		19C中	36002	
159-5	鋳型(引手金具)	板灰岩	IV-2	A4	最上層 型地層	4.1	2.55	1.7			51023	
159-6	鋳型(鋳造)	胎	Ⅱ-1-2	F5	3205e層	口径	高	厚	踏み返し。新置木	17C後～18C前	1012	
						外径	内径					
159-7	羽口	凝灰岩	1-4-5	J7	4228	13.7	3.5	19.6	5.7	18C後～近代	42368	
159-8	羽口	凝灰岩	1-4-5	16	4205	11.1	2.0	16	5.3	被熱変色。	18C後～19C前	42301
159-9	羽口	凝灰岩	IV-4	F9	5211	9	2.5	17.3	4	被熱変色。	(17C後)～19C	52277
159-10	羽口	凝灰岩	Ⅱ-1-2	E5	3201a・b層	12.6	3.3	21.3	4.8	被熱変色。	17C前～19C中	32446
159-11	羽口	凝灰岩	IV-1-3	B-C6	35112	13.2	2.5	12.4	6.0	被熱変色。	19C	35404
159-12	羽口	凝灰岩	Ⅱ-1-2	E5	3201a・b層	11.8	2.1	14.6	5.45	被熱変色。 欠損後溶着物。	17C前～19C中	32395
159-13	不明	土製	IV-4	-	-	14.3	2.8	5.4	3.9	被熱変色。 羽口へ挿に開わる 部品か。		52207

第5章 石製品

石製品は、発掘調査で確認したもののうち3,000点前後を採取した。しかし、図化し得たものは467点であり、そのうちのより状態の良好なもの等446点を提示した。おもに笏谷石とみられる凝灰岩により多種多様の製品が作られているが、多くはないもののその他の石材も適所に使用されている。

以下、容器類、暖房・調理具等、石臼、硯、砥石、石瓦・建材、灯籠・石塔類、その他の8項目に分けて詳述する。

1 容器類(第160～168図、第59・60表)

容器類は、表面を平滑・精細に仕上げるものと、全体に粗い成形のものや歪なものに分けられる。前者は、体部が緩やかに湾曲して立ち上がるものを鉢(第167図)、体部立ち上がりが直線的なもののうち、体部長が底部の短辺や(短)径の半分程度までのものを盤(第161～164図)、体部長が底部短辺の半分以上を超えるものを槽(第160図)として3つに分けた。ただし、盤と槽の多くは破片となり、区別の困難なものが多い。また、盤・槽ともに中仕切りがあるものや様々な平面形態のものがある(第165図)。後者は容器状製品として括った(第166図)。なお、これら容器類の多くは、一様に煤の付着や被熱痕が認められることから、廃棄直前段階にはいずれも火容器として使用されたことが窺える。

槽(第160図1～10、第165図4・5) 平面形が長方形または方形である。160-1・9は体部の立ち上がりがほぼ垂直である。160-1の口縁端面は内傾するが、他はいずれも水平である。160-3～9、165-4・5は底面四隅に脚が付く。いずれの脚も小さく、体部側面と一体的に作られる。

盤(第161～164図、第165図3・13・14) 平面形が方形のものと円形等のものがあり、それぞれ体部が平滑に仕上げられるものと、体部外面に簾加工が施されるものとに分かれる。

平面形が方形で体部を平滑に仕上げるもの(161-1～11、162-1・2、165-3)は、脚の付くものと付かないもの(161-3、165-3)があり、脚は小さなものの他に、円柱状の脚(161-11)や、底面両短辺が隆起して脚になるもの(162-1・2)がある。なお、162-2には短側面上部に把手が削り出される。

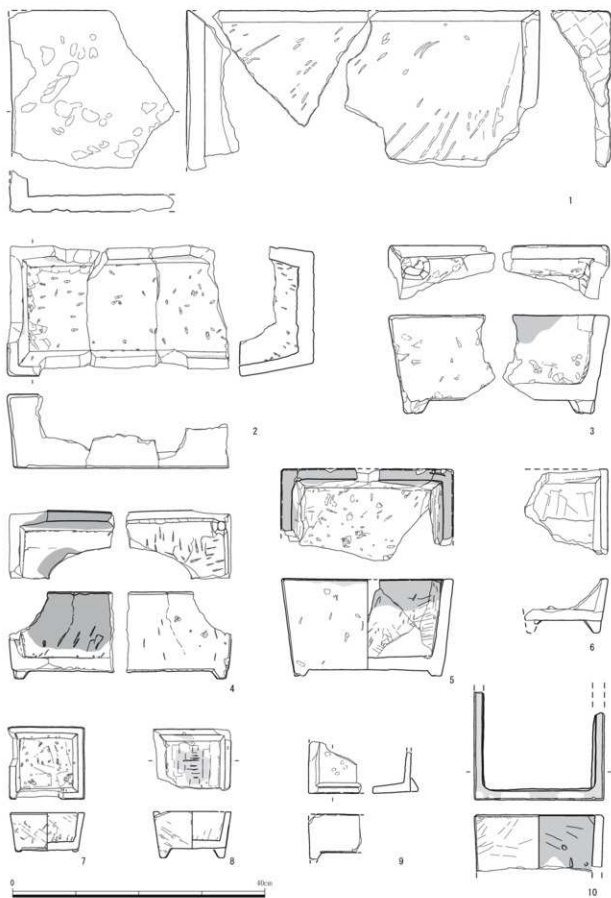
平面形が方形で体部外面が簾加工のもの(162-3～8、163-1～5)は、体部が直線的なもの(162-7・8、163-1・4)と、体部外面がやや湾曲して立ち上がるもの(162-3～6、163-2・3・5)があるが、いずれにも脚が付く。162-7・8の脚が底面より広がらずに下にのびるのみで、それ以外は底面よりも外側へ広がる大きな脚が付く。その底面より広がる大きな脚も、扁平で低い脚(162-3～6)と、下にのびる高い脚(163-1～5)とに分かれる。この下にのびる高い脚には、線刻等により雲の意匠を施すものがある(163-1・4・5)。

円形等で体部を平滑に仕上げるもの(163-6～14、165-13・14・19)は、ほとんどの平面形が真円に近いが、舟形になるもの(165-13)、本来の平面形が不明なもの(165-14・19)がある。163-13・14以外には脚が付く、いずれも小さな脚が底面の三方に付くようである。

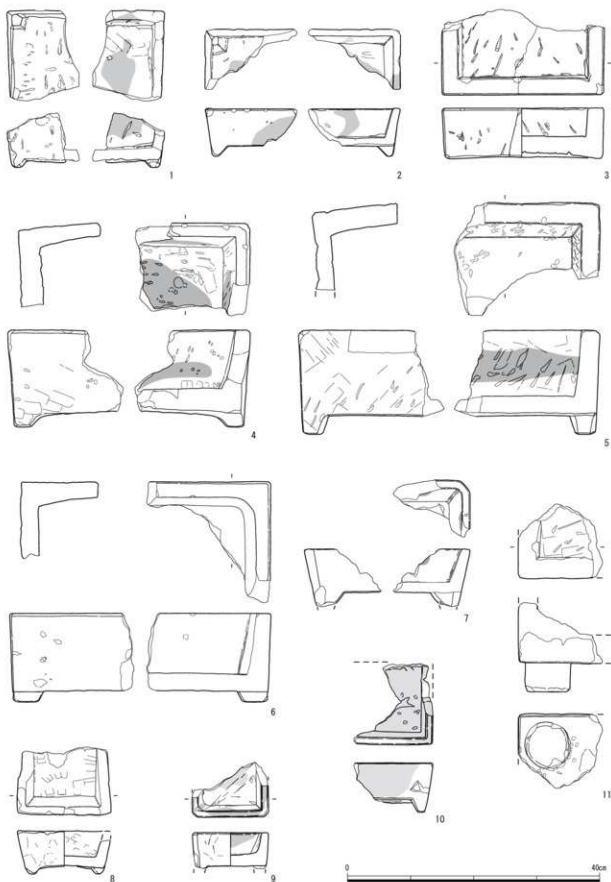
外面に簾加工を施すもの(164-1～8)は、平面形が州浜形あるいは空豆形(1・3・5・6)、円形(4・7)、楕円形(8)、隅丸長方形(2)のものがある。2・8が四脚である以外は三脚であり、脚は小さなものが多いが、5・6のように大きいものや7のように長いものもある。

外面に簾加工を施すものは、総じて詳細を造りこむ手の込んだ製品であり、水盤として使用されたものと考えられる。

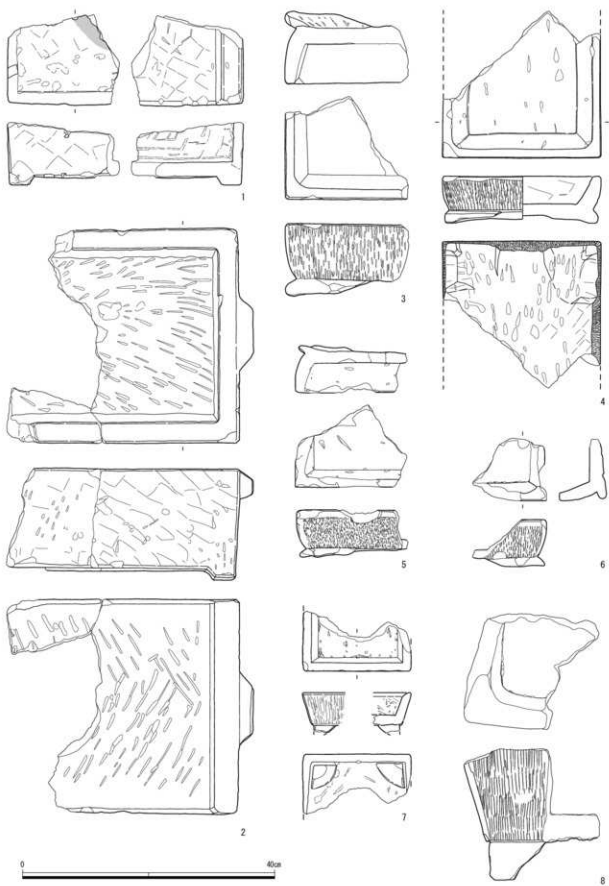
中仕切りのあるもの等(第165図1・2・6～12・15～18) 概ね中仕切りが付くのは、平面形が長方



第160図 容器類① 槽 (縮尺1/6)



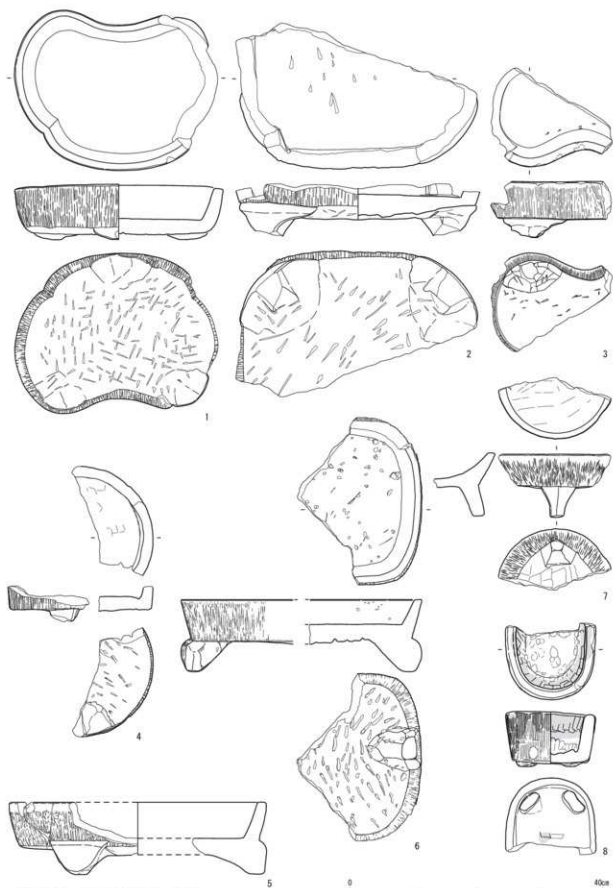
第161図 容器類② 甃 (縮尺1/6)



第162図 容器類③ 甕 (縮尺1/6)



第163図 容器類④ 盤 (縮尺1/6)



第164図 容器類⑤ 甕 (縮尺1/6)

形の槽もしくは盤型の製品であり、広さの異なる二槽式で、一隅の内側が扇形に肥厚するものが多い。ただし、仕切りがないものでも肥厚するものはある。このような二層式の場合、片側のみに被熱することが多い。そのため、煙草盆として二槽をそれぞれ火入れと灰落しとした可能性を考えている。

1・2は一隅内部の肥厚部が残る。6は隅の肥厚部のみであるが、多くは隅内側の底部から口縁部までを扇形に削り残すのであり、このように口縁端部のみ内外に肥厚するものは希少である。仕切りは装飾のないものが多いが、7～9のように食い違いや雲様の線刻表現等のあるものもある。12は、全容は不明であるが、長方形と涙滴形の二層式のようにあり、涙滴形の方に竹製の灰落しを立てるかそのまま灰落しとしたことが考えられる。15～17も全形は不明であるが、仕切りや脚の位置から複数の槽に分かれることがわかる。18は扇面形の大小二槽式で小さな脚が3つ付く。

鉢(第167図) 体部が緩やかに湾曲して立ち上がるもの(1～13)のほか、深鉢もしくは甕と言えるような大型品(14・15)がある。1～13は、外面に簾加工を施すもの(1～7)と、小鉢と言える小型品(8)、内外面を平滑に仕上げるもの(9～13)に分かれる。1～7は、7の平面形が略方形になる以外いずれも円形であり、底部に残るものはどれも平底である。8は、体部が波打つような独特の形態の小鉢であり、見込が広く浅い。平底の底面には「天正十 五月 / 三日」「吉」が刻まれている。9～13は、平面形がいずれも円形であり、小型の碗形で器壁が薄い9と、径40cmを超える盥形で器壁の厚い10、10を二回り小さくしたような11、内面に掘り目がある12・13がある。大型品の14・15は同一個体とみられるが接合しない。口径は38cmで、体部は直線的に直立気味にのびる。

容器状製品(第165図20・21、第166図、第198図10・11) 全体に粗い成形であるが、165-20・21、166-5・7等のように比較的器壁の平滑なものもあり、別製品の再加工品であることが考えられる。これらは歪ながら方形と円形のものがあがり、脚を削り出すもの(166-4・6・8・9・14)もある。また、底面中央に穴を穿つもの(166-9～11)は植木鉢等として使用されたものと考えられる。166-14は四脚円形二槽式で、片側の槽のみ強く被熱し、煤が付着する。

把手・その他(第168図) 器種不明ながら把手部分のみ残存するもの(1～5)、不明製品(6・7)がある。1・2・4・5は水平方向に長く、3は垂直方向に長い把手である。1・5は円形の直立気味の器壁に、2は方形で直立する槽・盤等に、4は波打つ口縁部の鉢等に付いていた。3は、円形で臼状に内傾する口縁部の外面に付く。把手には円孔があり、把手両側の器壁にも円孔がある。

6は盤と呼べる形態であるが、一短側面の器壁がなく、コ字状の器壁と底面の身から成る不明製品である。7は角を面取りする三角錐の一平面に大きな割り込みがあるものであるが、容器として使用されたものではない可能性がある。

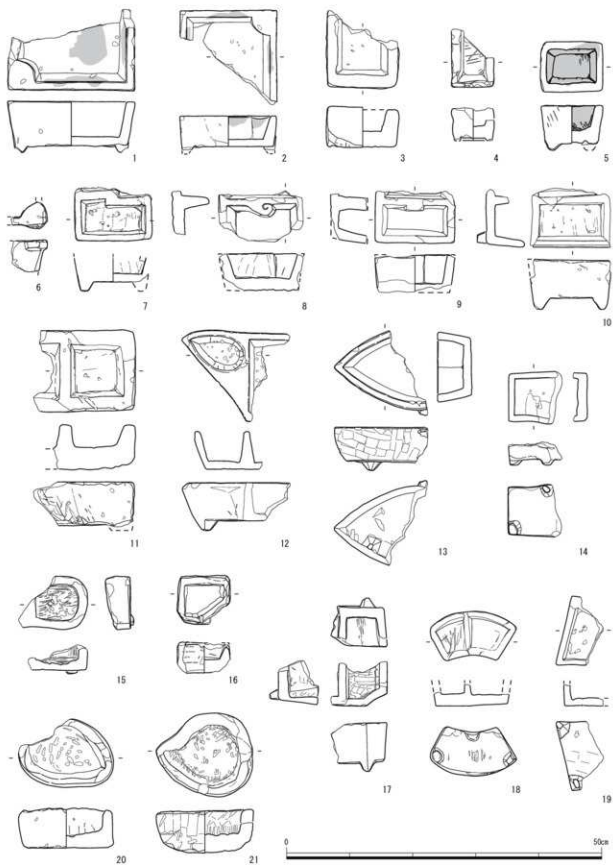
2 暖房・調理具等(第169～178図、第61～63表)

暖房・調理具等として、温石、火打石、行火、風炉、七輪、焔炉、竈等の火に関わる道具と、井戸関連遺物、手水鉢、臼等を挙げた。

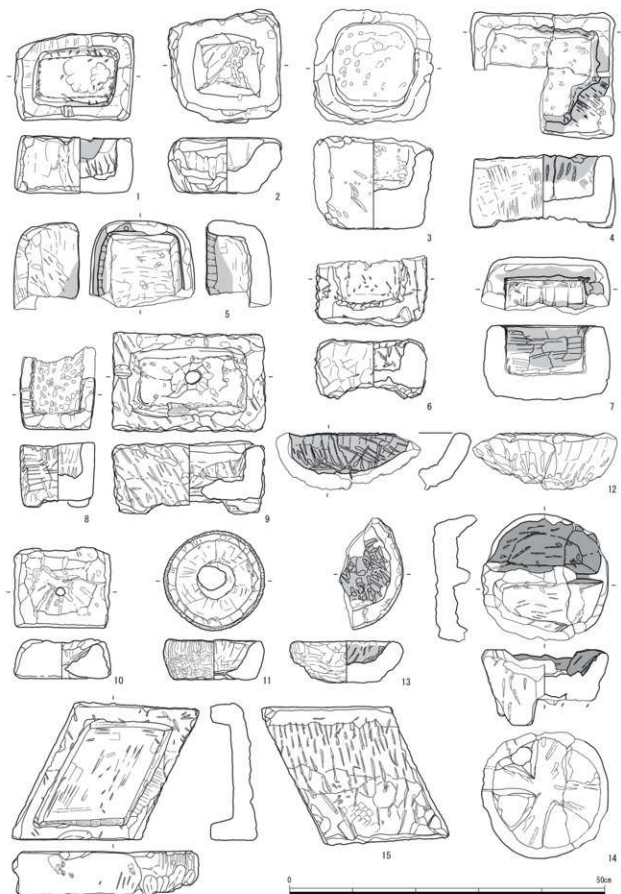
温石(第169図1～6) いずれも被熱により変色している。1～3は粘板岩製、4は蛇紋岩製、5・6は砂岩製である。1・2は硯からの転用品である。1は分厚いものの、硯の痕跡が不明瞭になるまで両面を再加工しているが、2は硯の形態を残したままである。3は、被熱により表面が著しく剝離している。4～6はおもに上部のみが残存する。上部を欠く3以外、いずれも上部に円孔が穿たれる。

火打石(第169図7) 三角柱に近い形の石英の塊であり、おもに二つの角に使用痕が認められる。

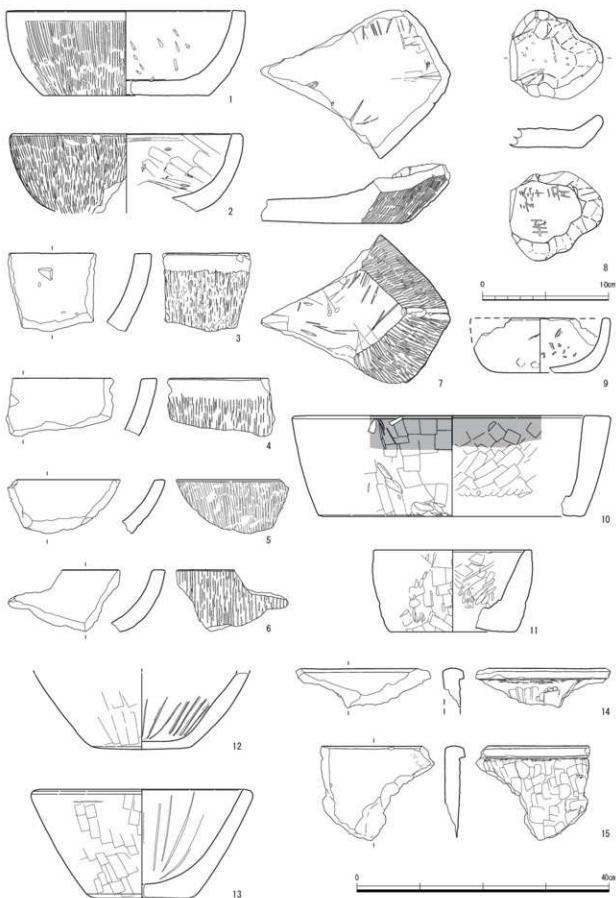
行火(第170～173図) バンドコと呼ばれる、おもに身と蓋からなる暖房具である。バンドコは形状



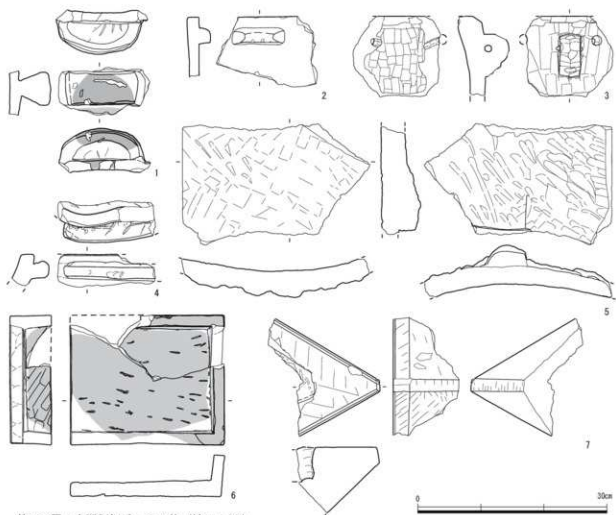
第165図 容器類⑥ (縮尺1/6)



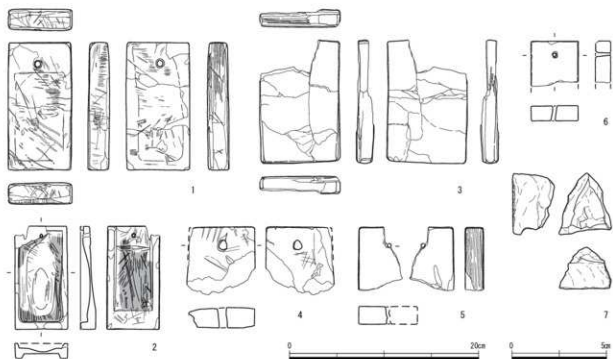
第166図 容器類⑦ (縮尺1/6)



第167図 容器類⑧ 鉢 (縮尺1/6、8のみ1/3)



第168図 容器類把手・その他（縮尺1/6）



第169図 温石・火打石（縮尺1/4、7のみ1/2）

から手焙り型、楕円型、D型に分けられ、これらの出現時期は手焙り型→D型→楕円型と考えられるが、それぞれ並行して使用されていたようである。今回手焙り型は確認されていない。

楕円型は、平面形が楕円形で、体部が内側に湾曲気味に直立する。D型は、平面形がD形で、体部正面のみが平面となる。どちらも体部には長方形や方形の煙出し孔が窓のように並び、ときには円孔もある。また、ともに上部は開放しており、返しを削り出した蓋が付属する。蓋は、体部平面形に合わせた形で、やや膨らんだドーム状の天井を形成する。楕円型・D型ともそれぞれ個体差があり、全く同じ形状のものはないが、定型化した製品である。

それらとは別に172-12は、歪な直方体の石材を削り抜き、一側面に三つの煙出し孔を穿つもので、全体の造作や煙出し孔の形が非常に歪で雑である。そのため、職人による製品ではない可能性がある。

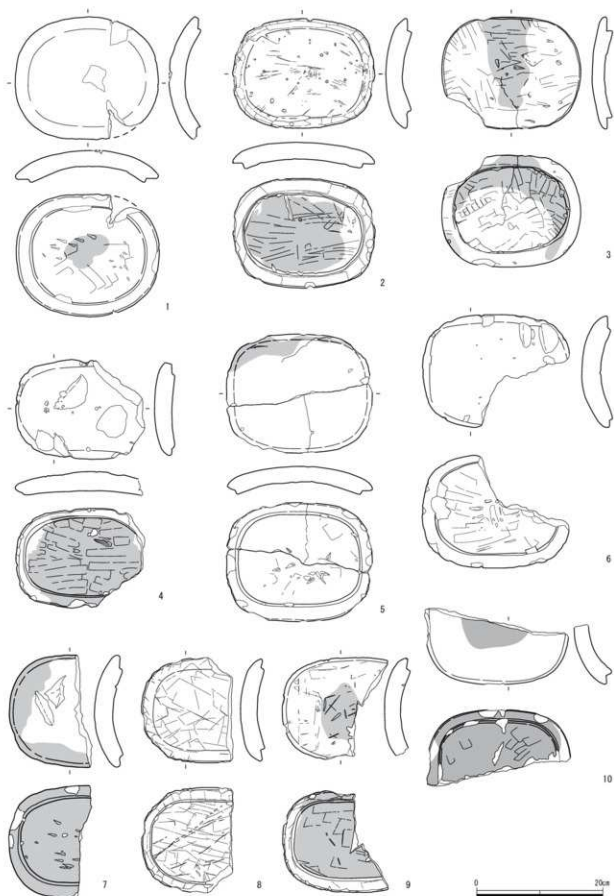
その他に、精緻な造作の小型品(173-1～6)と、特殊な形態の蓋(173-7～19)がある。小型品の1・3～5は通常の楕円型の身をそのまま縮小した形態である。2は楕円型の身に類似するが、煙出し孔の痕跡がある部分を正面と捉えると平面形が円形に復元される。6は楕円型の蓋を縮小した形態に近いが、周縁に面が削り出される。上面には「三つ鱗紋形」の削り込みがあり、それに合わせて三つの煙出し孔が穿たれている。このような精緻な小形品は、淡青緑色の良質な笥谷石によるものが多いようであり、日用品のバンドコとは性格の異なる可能性がある。

特殊な蓋として、小型品(7・8)、直線的にのびる大型品(12・13)、大きな煙出し孔のある蓋(9～11)、円形の蓋(14～19)がある。7は扇形もしくは扇面形の蓋であり、上面に花卉状の模様を削り出し、その中央に煙出し孔が穿たれる。8は長方形の蓋であり、上面の煙出し孔の周囲を菊花弁状の浮彫とする。なお、7・8と対になる身は、バンドコのように側面に煙出し孔のあるものではなく、小型の槽や盤のようなものが想定される。12・13は同一個体とみられるが接合しない。四角い盤状の置火鉢等の蓋と考えられる。9は円形になるとみられるが、中央の棒状の支柱を挟んで両側に長楕円形の煙出し孔がある。10・11は楕円型もしくは隅丸長方形の蓋であるが、10は「二つ巴形」の煙出し孔、11は円形内に2本の支柱が付く煙出し孔がある。

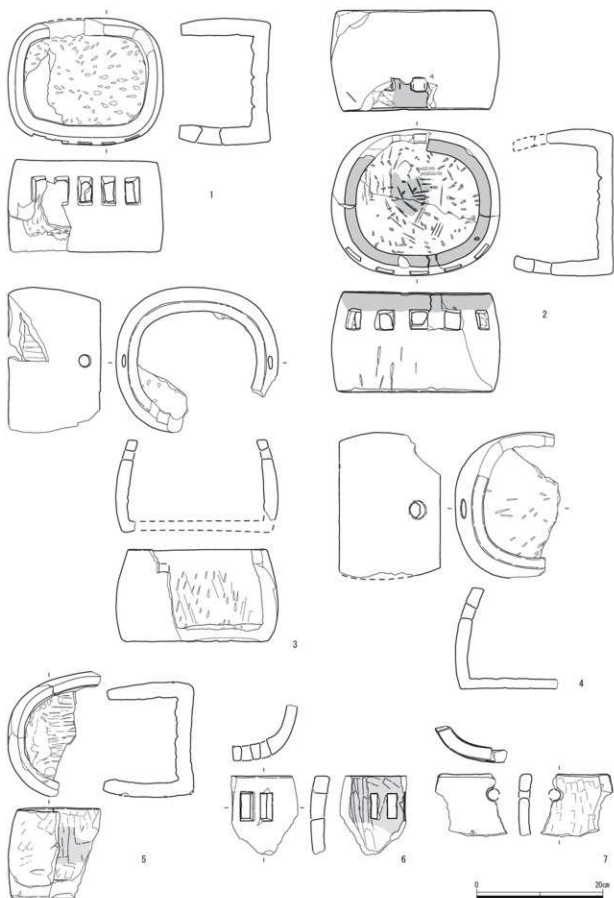
円形の蓋(14～19)には、中央に円孔のないもの(14・15・20)と円孔のあるもの(16～19)がある。ただし、14・15は他より径がやや大きめであり、中心付近まで残存しないため孔の有無は確認できない。そのため、唯一粗い成形である20のみ中央に円孔のない可能性はある。20以外いずれも表面を平滑に仕上げている。また、19の外縁部分が欠失して不明である以外は、いずれも周縁部下面に返し削り出されている。中央の円孔は、小蓋等を受ける突起が削り出されるもの(16・17)と、突起のないもの(18・19)がある。このうち、16の円孔と18の外縁を重ねると、16の突起と18の返しが印籠継のようにうまく重なること、両者の出土位置が近いことから、同一品の蓋を構成したことが考えられる。

風炉(第174図1～5) 1は平成14・15年に調査を実施した福井駅西口地下駐車場地点出土の風炉である。完形に復元されながら報告書から遺漏していたため、参考としてここで掲載した。体部はやや湾曲しつつ立ち上がり、火口は正面の口縁から体部中位まで大きく開口する。脚は短い円筒形のものが三つ削り出され、正面に一つ、後ろに二つの脚がほぼ正三角に配置される。前欠風炉や、道安風炉等と呼ばれる形状である。2～5は破片であるが、1と同じ形状の風炉であったとみられる。2は口縁部、3は口縁部から火口部分、4は底部と脚、5は底部・脚と火口部分である。出土地点はそれぞれ異なり、同一個体ではないが、これらは同じ形状の風炉になるものと思われる。

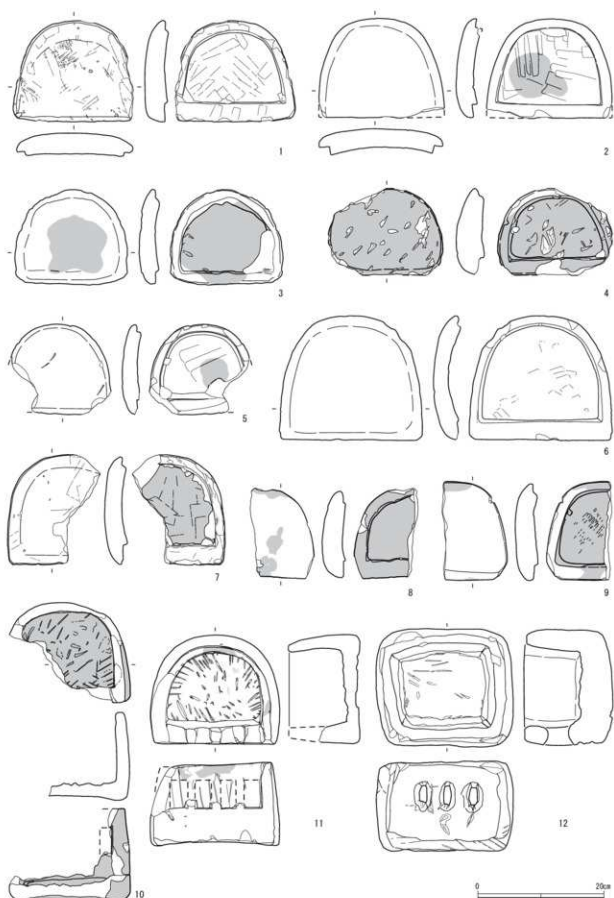
七輪(第174図6・7) 焔炉の一種。通有の円筒形で七輪として認識できたものをあげた。6は口縁部



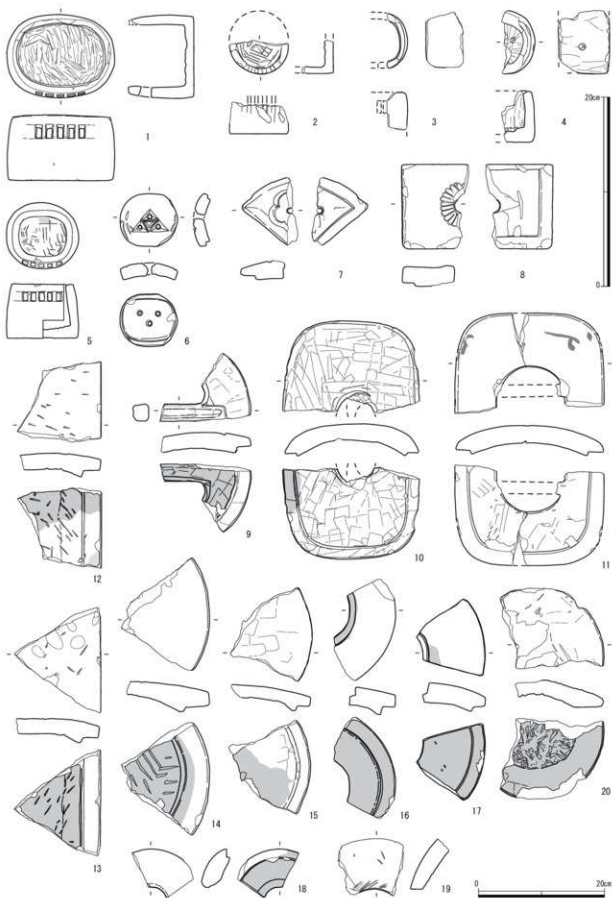
第170図 行火① (縮尺1/6)



第171図 行火② (縮尺1/6)



第172図 行火③ (縮尺 1/6)



第173図 行火等 (縮尺1/4: 1~8, 1/6: 9~20)

の破片である。口縁端部から7～11cmの部分で内面が大きく肥厚するが、その部分を箱堀状の筋彫りが縦断する。肥厚部分を釜輪として利用した場合に、密封しないための工夫であろう。7は上半を欠くが、詳細が良好に残存し、全容を窺うことができる。体部はやや外傾し直線的のび、内面には段が削り出される。正面下部に楕円形の火口が開く。底面には四脚が削り出される。

焔炉(第175図1・2) 大きな円孔を穿つ方形板状の製品である。下面の縁2～3cm程度をより平滑に磨いており、その内側は広く被熱している。また、上面には円孔を跨いで複数の筋彫りがあり、その内側には鉄錆が付着する部分がある。それらのことから、この板状製品は、箱状の身に被せて中で火を焚くものであり、上面の筋彫り部分には鉄の棒等を渡して鍋や薬缶をのせたことが考えられる。ただし、鉄の棒は残存しないため、すべての筋彫り部分に鉄の棒を嵌め込んでいたものか、透木のように鍋等の大きさに合わせて位置を調整したものかは不明である。

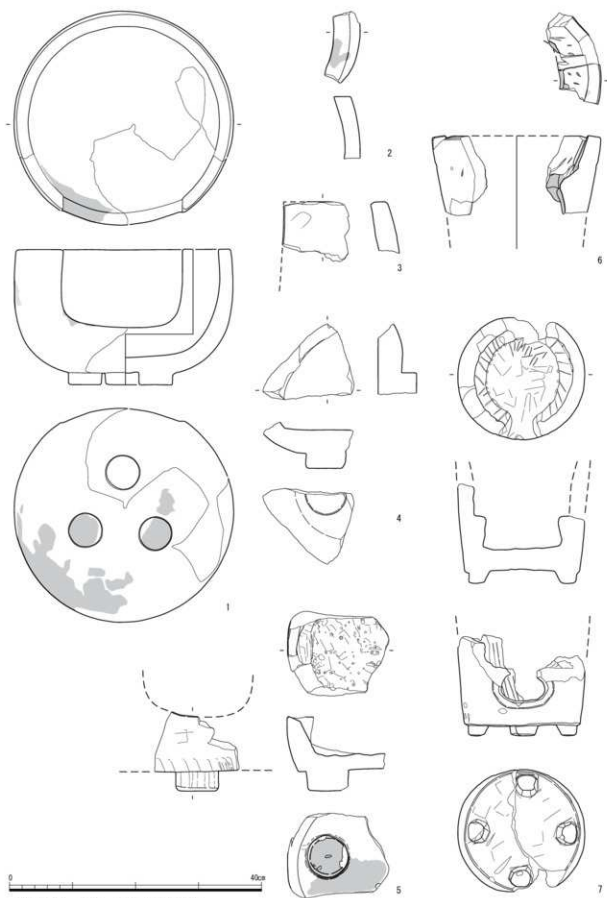
竈(第175図3～5) 本来ならば、移動可能な小形の調理用炉は焔炉と総称されるが、ここでは大小問わず竈形の製品を竈とした。3は、いわゆる竈の形状をよく模した製品である。本体に比して大きな釜輪を備えるため、本体が釜輪に沿うように丸みを帯び、円筒形を呈する。正面は円筒形の本体からやや突出し、そこに形成される面は下方が前方へ傾斜する。正面の中央には釣鐘形の火口が開く。内外面とも平滑に仕上げている。4は、僅かな部分が残存するに過ぎないが、復元される釜輪の径から大型品であることがわかる。上面は、縁辺に沿って幅4～5cmの部分が、釜輪部分よりも2cm程度削り下げられる。火口部分は残存しない。内面は丸撃痕の残る粗い仕上げであるが、外面は平滑に仕上げられる。5は、釜輪と火口の一部が残る小型品の破片である。火口が下端まで達するものと推測され、底部が存在しない可能性が高い。そのため、卓上型と言える大きさではあるが、そのままでは室内で使用できない。外面は平滑に仕上げられるが、内面は撃痕の残る粗い仕上げである。

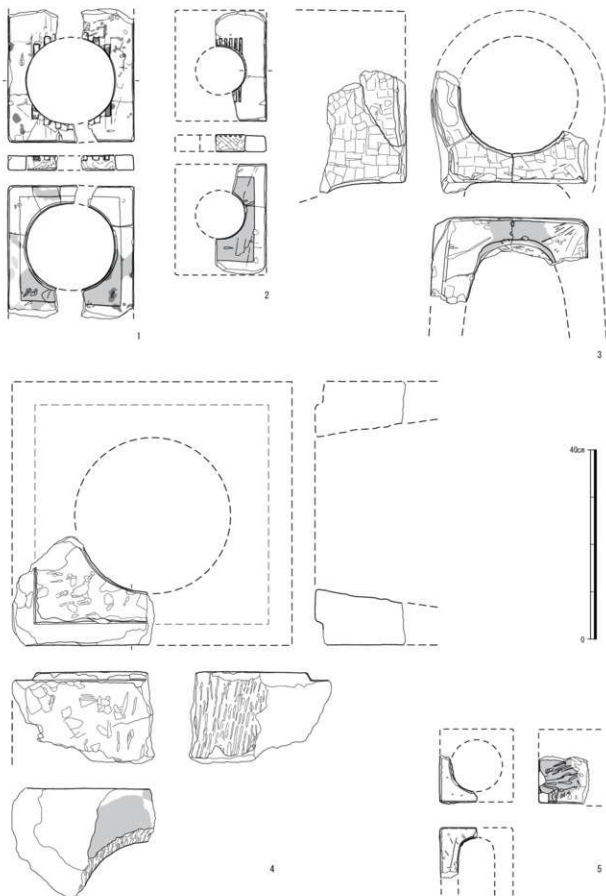
囲炉裏(第176図4・5) ともに小片であるが、その大きさ・厚さから囲炉裏石の口縁部と考えた。ただし、炉壇石の可能性もある。4の口縁端部外縁には突起がめぐり、囲炉裏端の炉縁材もしくは囲炉裏裏上面を覆う木蓋等を受ける構造であったことが推測される。

井戸関連遺物(第176図1～3) 1は組合式の井戸蓋とみられる。福井駅西口地下駐車場地点出土であるが、報告書から遺漏したものであり、参考としてここに掲載した。2は、屋敷地Ⅱ-1の井戸3242として使用された井戸側である。最上段がすでに抜かれたような状態で埋め戻されており、木製桶側の上に設置された状態で二段分が残存した。上段は、内外とも撃痕の残る粗い調整であり、上下に印籠継となる突起が削り出される。下段は、上段よりもやや低く、上に印籠継の突起が削り出されるが、下端は下に向かい薄く尖る。下段の調整は、外面が撃痕の残る粗い調整で、内面は撃痕が消えるように削られている。これらの連結部分の外面には、上下段に渡る撃跡があり(写真図版第118)、目印として付けられたことが考えられる。3は、井戸上部構造の井桁の一部である。四隅の上部にある井桁に組み合わせた木材を表現した突起の部分に当たる。

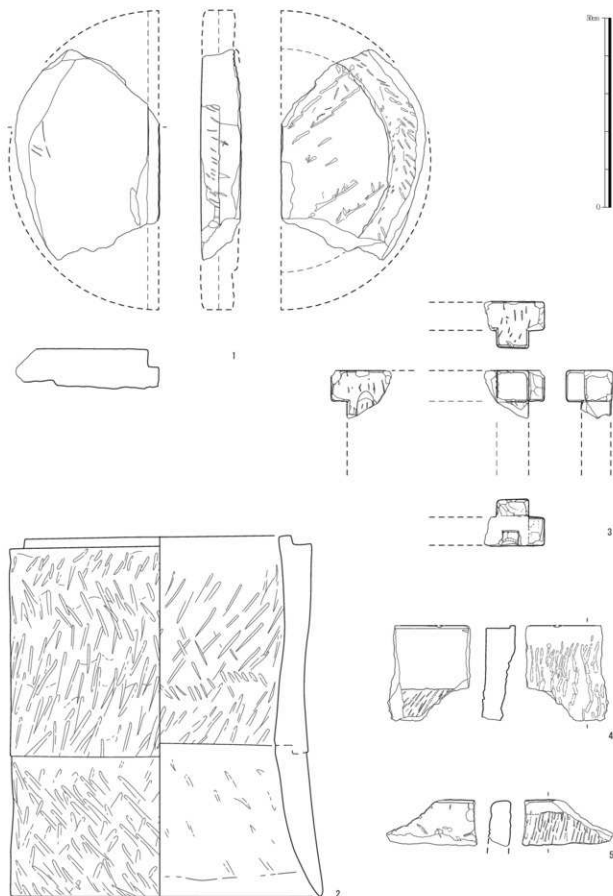
手水鉢(第177図) 鉄鉢形の手水鉢の破片2点である。ともに屋敷地Ⅲ-1の瓦溜り34109から出土しており、大きさと断面形状が似ることから、接合はしないものの同一個体の可能性がある。

搗臼・搗棒(第178図) 搗臼は約半分が残存する。両側面に指掛け状の把手が削り込まれており、現代の木製の小形品と同形状である。内径・深さは、現代の1.5升用の木製餅臼に相当する。搗棒(もしくは搗粉木)は、上半を欠く。丸く加工された先端が、使用によりさらに摩耗している。

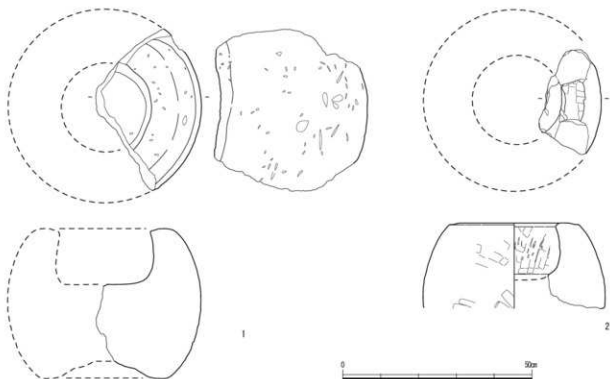




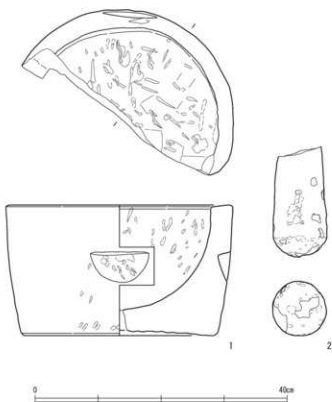
第175図 焔炉・甕 (縮尺1/8)



第176図 井戸他 (縮尺 1/10)



第177図 手水鉢 (縮尺1/10)



第178図 白・搦棒 (縮尺1/6)

3 石臼 (第179・180図、第64表)

粉挽臼・茶臼を石臼として挙げた。粉挽臼は主に笏谷石とみられる凝灰岩製であるのに対し、茶臼は主に斑綱岩製である。いずれも8分画を基本とする。また、いずれも左回り用の溝が彫られている。

粉挽臼 (第179図、第180図9・10) 179-1～3は上臼である。大きさは様々だが、いずれも挽手の差し込み孔が2つある。物落とし孔は1・2では歪な円形であり、3では方形である。また、1・2の一分画は6溝を基本とするが、分画の位置により不揃いであり一定しない。これらの溝が必ずしも平行な直線でないため、職人以外の手により目立てされた可能性を窺うことができる。なお、1の溝は浅く、消失しつつある状態となる。対して、3の一分画は7溝で一定しており、平行な直線状に彫られている。

179-4～6、180-9・10は下臼である。4については7分画となっており、一分画6

溝を基本とするが、分画の位置によって5～7溝となる。5は一分画5溝、6は一分画6溝を基本とするが、どちらも分画により不揃いで一定しない。6の一分画内の溝は、いずれも平行しつつ湾曲するため、もともと大麦用の目立てが施されたことが考えられる。9・10は溝が確認できない。9は非常に薄くなるため、目立てを施さなかったのではなく、目立てしつつ繰り返し使用した結果、溝が消失し破損したため廃棄されたと考えられる。目立てがされていなかった可能性もあるが、10も同様であろう。

茶臼(第180図1～8) 1～5は上臼であるが、5はミニチュア品であり、これのみ良質な笏谷石製である。1～4は、どれも半分以下の破片となっており、一分画の溝数の把握が困難である。1・3は一分画10溝のようであり、溝は臼の周縁部では浅くなり途切れる。2は一分画9溝で一定するが、溝が歪み、臼の縁まで抜ける。4は小片のため、5は下面を欠失するため不明である。2～5には挽手の差し込み孔が確認でき、周囲に菱形の意匠が削り出される。5のみ両側面に確認できる。

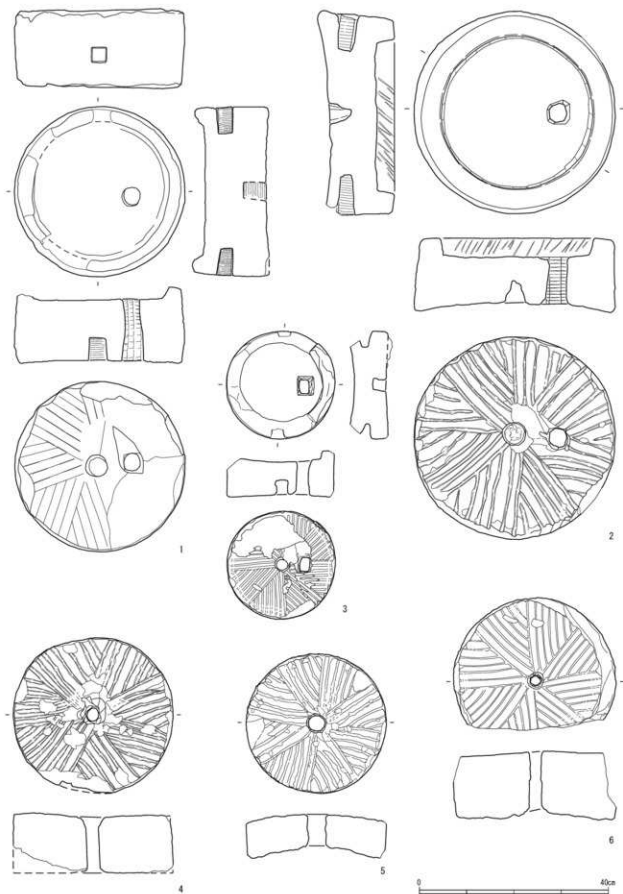
6～8は、受皿の付く下臼である。6は凝灰岩製、7・8は斑縞岩製である。6はおおまかに全容が窺える。下臼本体は受け皿の中央から片側に偏在し、偏る方へ向かいすり面が傾斜する。すり面の溝はほぼ消失しており、おそらく8分画と思われるものの溝数は不明である。芯棒孔は円形で、底面まで達しない。底面は平底である。7は全体の4分の一近くが残存し、8は受け皿の口縁部の一部のみが残存する。同じ石材製であり、出土地点が比較的近いものの、同一個体となるか否かは不明である。7は一分画9溝である。芯棒孔は方形で、底面まで突き抜ける。底面には浅いが広い列り込みがある。

4 硯(第181・182図、第65表)

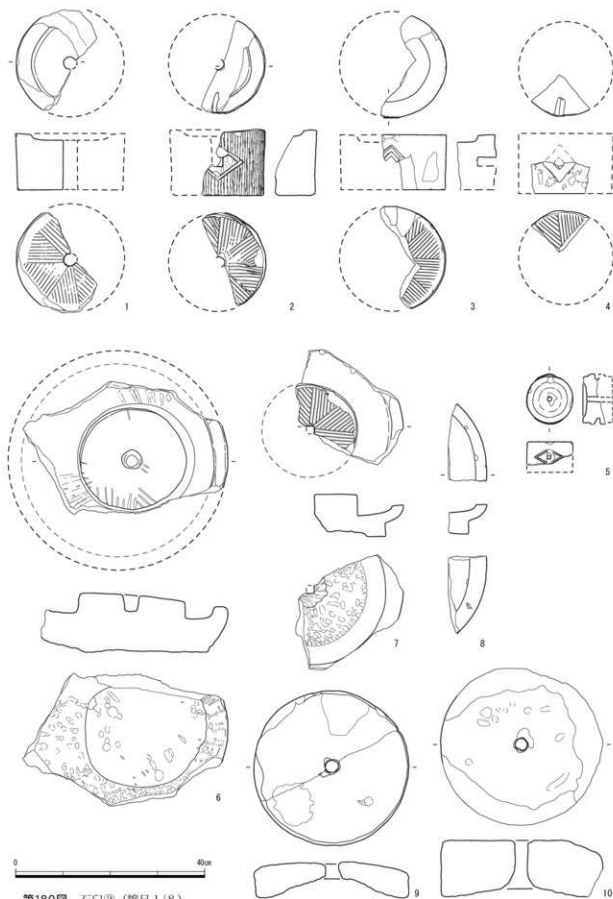
硯は破片となっているものが多かったため、より残存状態の良好なもの、文字や模様等が線刻されているものを選択して提示した。いずれも長方硯であるが、長さ20cmに及ぶ大型品(181-1～3)、長さ8cm以下の小型品(182-5～10)、幅の狭いもの(181-8・9・10・12・13)、隅の丸いもの(181-6、182-1)、縁に花卉浮彫があるもの(182-20)等、多様である。これらのうち人名が刻まれるのは、181-1(永見氏)、181-4(出淵彦兵衛)、181-5(本多 倫)、181-10(山田代)、181-13(宗泉)、182-2(堤口(正か)(鏡文字))、182-8(江川岳作)、182-12(城見)、182-16(永見安次口)がある。年号が刻まれるのは、181-1(寛政十一己未年:1829)、181-10(文政二巳年:1819)、181-13(天正五年:1577)、182-10(天口(正か)十二年:1582)、182-13(大永七年:1527)、182-15(口(明か)和六年丑年:1769?)があり、人名とともに刻まれることが多い。その他、181-9、182-11・14・22のように産地名(高嶋石)や、181-14のように2～36の偶数と3～37の奇数の漢数字をそれぞれ羅列したようなものもある。

5 砥石(第183～186図、第66表)

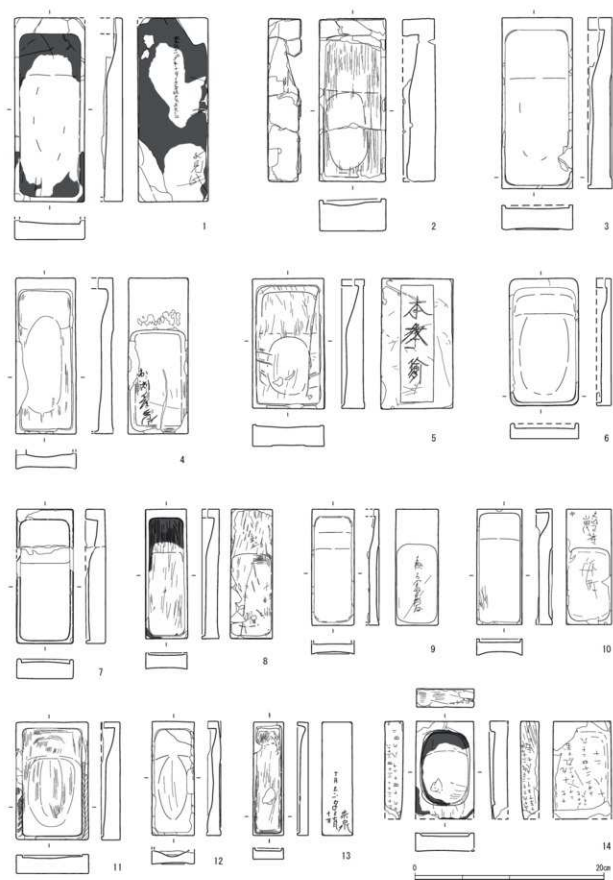
砥石は、断面形が方形に近いもの(183-1～10)、断面形の短辺と長辺の長さの比が1:1.5以上のもの(183-11・12、184-1～7)、断面形の辺長比が1:2以上の扁平なもの(184-8～12、185図)、その他の形状のもの(第186図)がある。その他の形状のものを除き、いずれも棒状の砥石であるが、使用により変形したものが多い。その他の形状は、平面形が正方形に近いもの(186-1・2)、使用により不定形となるもの(186-3～5)、六角柱形(6)、扁平な楕円柱形(7)、三角錐形(8)、他製品からの転用(186-9・10・15)、小型扁平品(186-11・12)、小型棒状品(186-13・14)、扁平な円形のもの(186-16～21)がある。転用品は、9は砂岩製粉挽臼の上臼からの転用であり、15は硯の一部を転用したようである。10は、使用して変形した砥石の形状をしており、その形状のために砥石として使用されたことが考えられる。なお、183-6・10、184-5、186-2には筋状の研ぎ跡が付いており、棒状あるいは彫刻刀のような湾曲した刃の道具に使用したことがわかる。



第179図 石臼① (縮尺1/8)



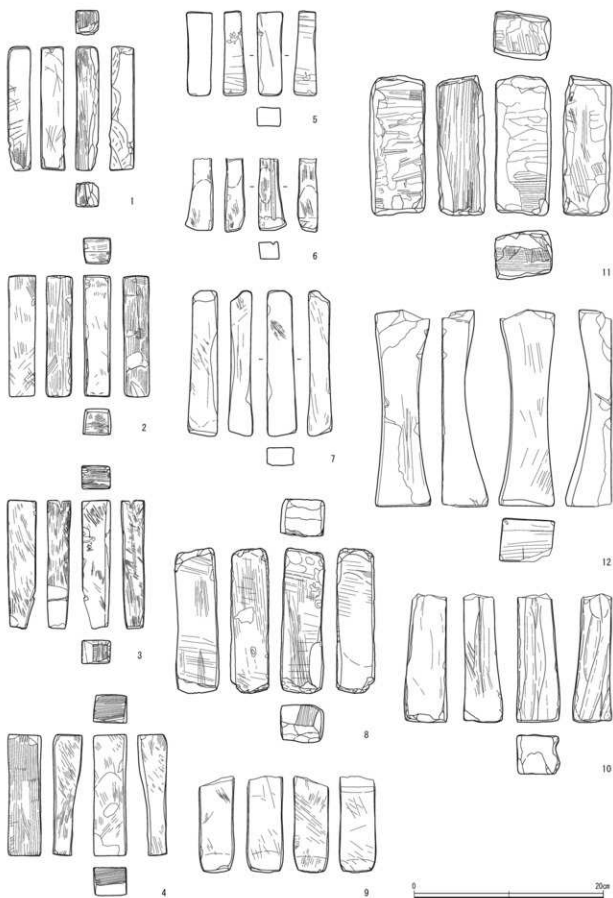
第180図 石臼② (縮尺1/8)



第181図 鏡① (縮尺1/4)



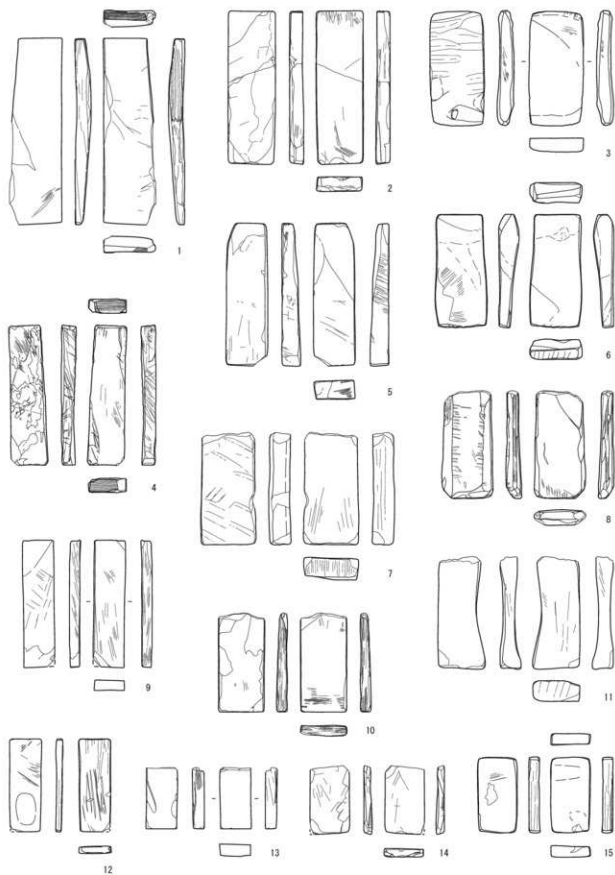
第182図 硯② (縮尺1/4)



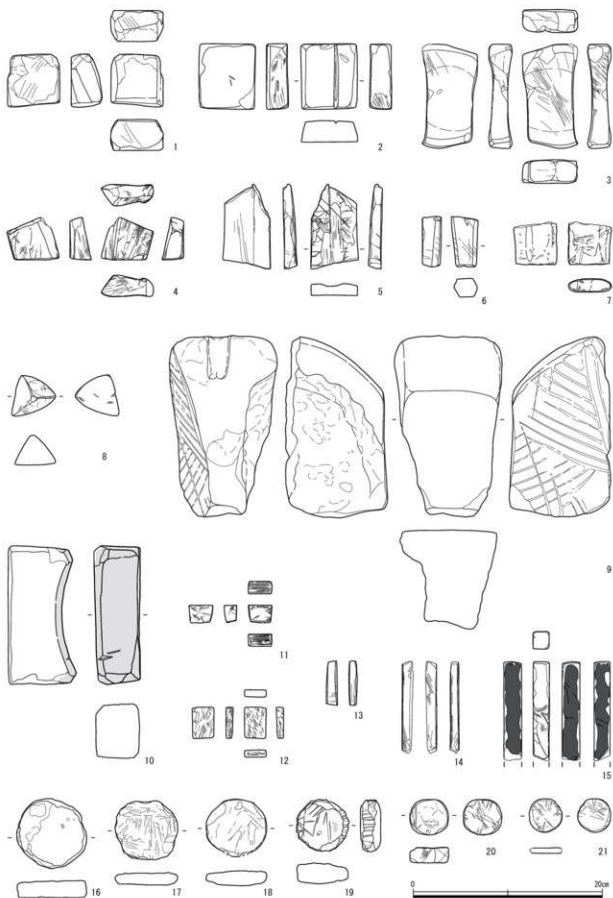
第183図 砥石① (縮尺1/4)



第184図 砥石② (縮1/4)



第185図 砥石③ (縮尺1/4)



第186図 砥石④ (縮尺 1/4)

6 石瓦・建材(第187～194図、第68・69表)

石瓦(第187～193図) 軒丸瓦(187-1～11)、丸瓦(第188・189図)、軒平瓦(第190図)、平瓦(191-1～9)、箕甲瓦(191-10～13)、棟瓦(第192図・193-1・2・4)、鳥衾(187-12、193-3)、鬼瓦(193-6)、屋根石(193-5)がある。

軒丸瓦と丸瓦、軒平瓦と平瓦は、瓦当以外の形状はそれぞれ共通である。そのため、瓦当を切除して丸瓦・平瓦として使用することがあったようである。瓦当はいずれも無紋である。丸瓦は、下面に2つ程度の釘掛穴を持つものがあり、その中には穴の貫通するものもある。189-4は上面に口の刻印がある。189-13は全長が短く、前後両側に連結面と連結突起がある。丸瓦列の長さを調整するために使用されたものとみられる。平瓦は、他地点の調査では棟側の二隅に釘掛穴のあるものが出土したが、今回は191-3の棟側端中央に一孔のものがある。190-1は瓦当付近の下面に口の刻印がある。191-8・9は平瓦の破片であるが、被熱して表面が発泡しており、火災等にあったことが考えられる。

箕甲瓦は、丸瓦と平瓦が結合した棧瓦状の形状であるが、出土したのは瓦当付近の小片である。

棟瓦は、両側面と上面の境が丸みを帯びる丸型(192-5～8)と、境が角張る角型に分かれ、角型は上面の稜の有無で有稜式(192-1・2)と無稜式(192-3・4)に分かれる。丸型は、大型の棟瓦に見られ、連結面には突起等がない。角型には連結面の上もしくは下に互い違いに連結突起が付く。193-1・2は、有稜式棟瓦に無文の瓦当が付くものであり、石龜や石刷等に使用されたことが考えられる。193-4は、扁平な石材から棟周辺の形状を削り出したものであり、塀等の棟に使用されたことが考えられる。

鳥衾は、連結部を欠くもののほぼ全形のわかるもの(187-12)と瓦当部のみ残存するもの(193-3)がある。残存範囲が異なるため比較は困難だが、前者が大きく反るのに対し、後者は直線的に延びる。

鬼瓦(193-6)は無紋であり、降棟等の先端に付くものとみられる。上部に鋸穴は認められない。

屋根石(193-5)は、祠等の屋根としたものとみられる。屋根の各部を一石から削り出している。

建材(第194図) 樋(1～6)、礎石(7)、門柱(8)がある。樋は、内法幅により、大(6)・中(1～4)・小(5)に分かれる。5のみ連結部に削り込みがあるが、他はいずれも連結部は平滑に仕上げるのみである。6は、片側の連結部が側面端にあり、流れの方向を直角に曲げる。礎石(7)上面には片側が側面に抜ける納穴がある。門柱(8)は四角柱の頂部が四角錐になる。側面の一面にのみ納があり、櫓等の端に当たる柱となることから、門柱とした。

7 灯籠・石塔類(第195・196図、第67・70表)

灯籠(第195図1～12) いずれも各部が単独で出土している。1～4は宝珠である。1の伏鉢部分には返花の表現が施される。5～8は笠である。いずれも平面形が円形で、雪見燈籠等のものとみられる。5の削り出しの擬宝珠は宝珠形にならない。8以外は表面に撃跡を残す加工が施されるが、8の表面は平滑に仕上げられる。9は火袋である。少なくとも正面と向かって右側面に円形を基調とする火口が開く。正面・側面には細かく撃跡を残す丁寧な加工が施される。10は中台である。平面形は方形で、表面は撃跡を残す加工が施されるのみで他の装飾はない。11・12は棒状の不明製品であるが、表面に丁寧な細かい撃跡の残る加工が施されており、雪見燈籠等の脚になる可能性を考えた。11は、灯籠の竿に見られる節と呼ばれる装飾に類似するものが削り出される。ただし、小形であるため、一つで竿として使用されたのではなく、複数で中台を支える脚の一つであったものと考えた。12は、やや捻りながら湾曲してのびており、表面には松の樹皮に似せたような加工が施される。

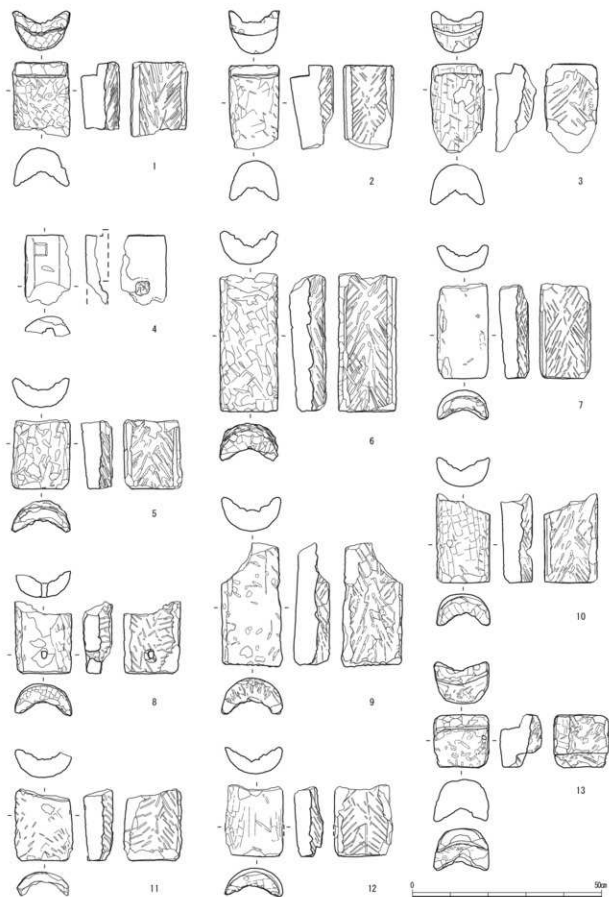
石塔類(第196図1～11)として、宝篋印塔各部、五輪塔各部、板碑状製品、建物状製品を括った。



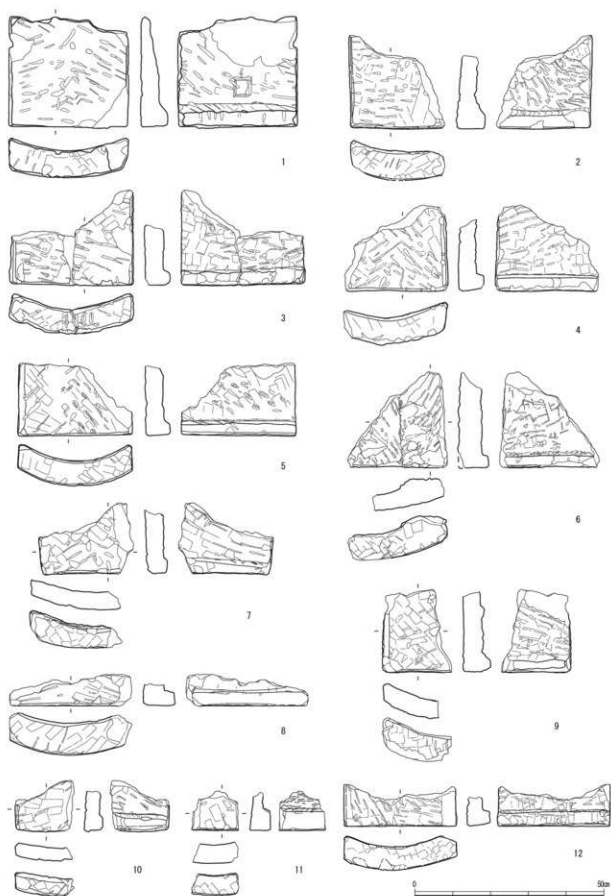
第187図 石瓦① (縮尺1/10)



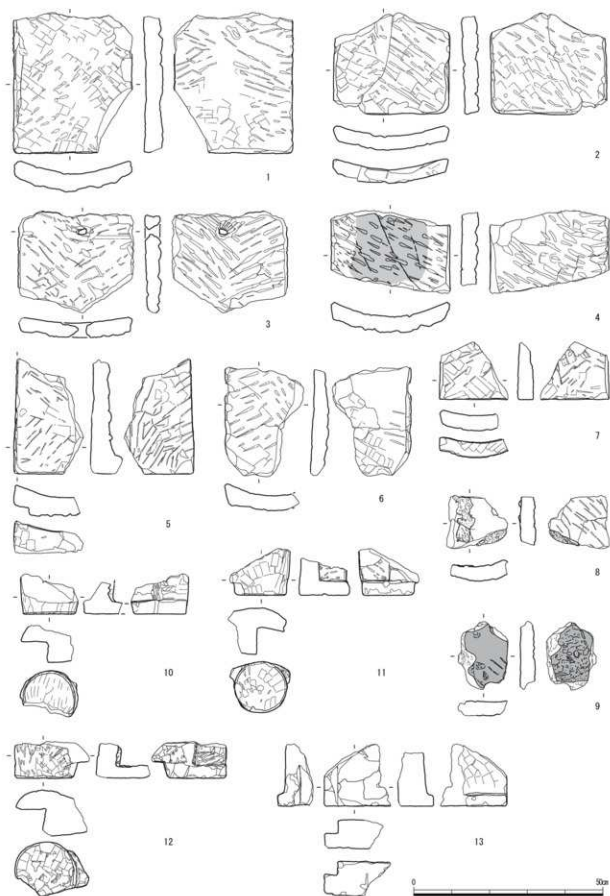
第188図 石瓦② (縮尺 1/10)



第189図 石瓦③ (縮尺1/10)



第190図 石瓦④ (縮尺1/10)



第191図 石瓦⑤ (縮尺1/10)



第192図 石瓦⑥ (縮尺1/10)



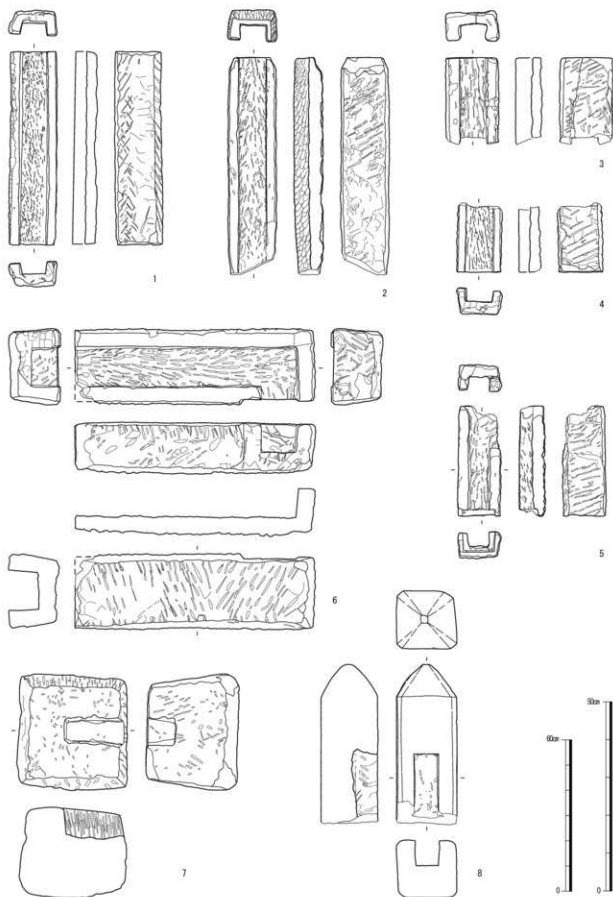
第193図 石瓦⑦ (縮尺1/10)

宝篋印塔(1～4) 1・2は屋根(笠)である。1は上半を大きく欠いており、上の段が二段分のみ残存し、下には二段が付く。相輪と塔身とを接続したとみられる柄穴が繋がり、上下に貫通する。残存する隅飾は二弧で輪郭を巻く。傾斜は大きい、大きくは伸びない。2は上の段が五段分残存するが、上面の柄穴の残存状況から六段であったことが窺え、下に二段が付く定形式段となるようである。下面には柄穴等はない。隅飾は無紋でほぼ直立する。3は基礎である。上部を欠くが、二つずつ並ぶ堅連子と格狭間を上下に配置する越前式装飾である。4は基壇の反花座である。

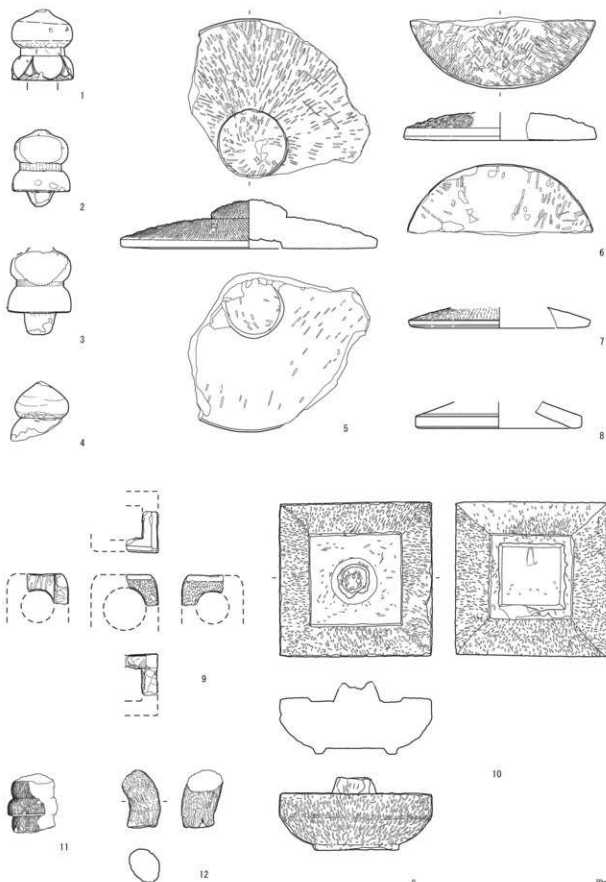
五輪塔(5～8) 5・6は空風輪である。7は球形ではなく立方体に近い形状であるが、正面に梵字「バン」が刻まれ、水輪であることがわかる。一石五輪塔の潰れたような形状の水輪の影響を受けたものと考えられる。8は一石五輪塔の地輪部分である。百間堀の造成に際して埋め込まれた。

板碑状製品(9) 9は下部および向かって左半分を欠く。正面には線刻による方形の区画内に、線刻により塔のようなものが刻まれる。

建物状製品(10・11) 不明品であるが、10には簀股や庇が削り出されているのが確認されることが

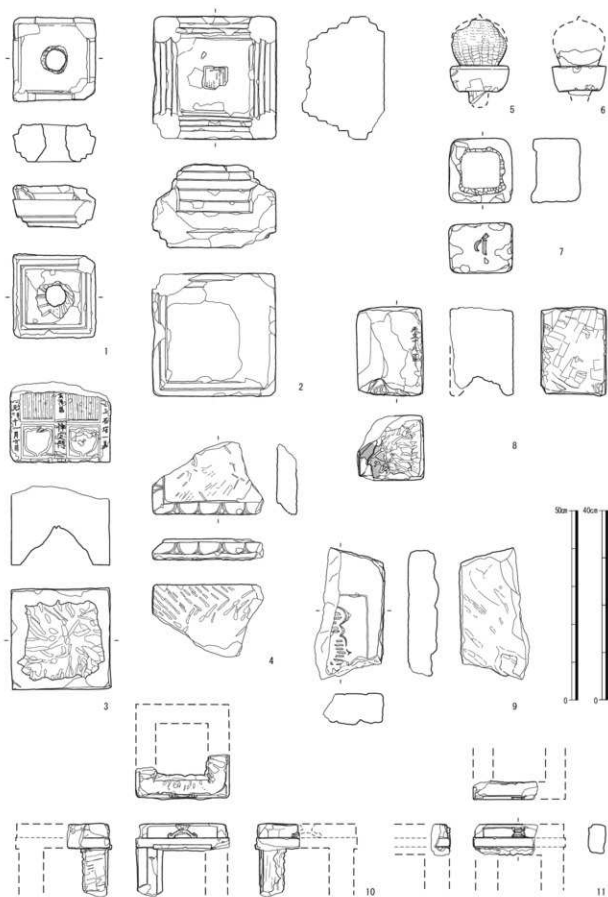


第194図 礎・建材 (縮尺1/15、7・8のみ1/10)



第195図 灯籠 (縮尺1/10)

0 30cm



第196図 石塔等 (縮尺 1/10、10・11は 1/8)

ら、御堂や祠等の建物を模したものと考えられる。11は間斗束状の表現がなされる。10・11は同一個体になると見られ、正面と両側面には藁股、背後に間斗束が表現されたようである。

8 その他(第197・198図、第71・72表)

重石・錘類、軽石、将棋盤、狛犬、人形、印鑑、弾丸、不明品等を、その他の製品として括る。

重石・錘類(197-1~23) 扁平な円形で中央に孔を穿つもの等(1~15)を重石とした。表面の平滑なものと粗い加工のものが有り、別製品の再加工品も多いようである。14・15は石瓦の破片を再加工したものと考えられる。14は中央に穴を穿ち、15は縄等を掛け易いように筋彫りが施される。

16~19は、サル(猿)と呼ぶ、鉤に吊った鍋の傾きを調整する錘である。16・17は全面を平滑に調整する定型化したものである。18・19は全面が粗い調整で、鉤爪の部分に欠損している。20・21は、ツチノコ等と呼ぶ編物の錘のようである。22・23は、上部に紐等を結べる突起や紐孔のある錘である。

軽石(197-24~27) 火山砕屑物を扁平な円形等に加工したものである。25~27には紐等を通した円孔がある。垢すりの他、脱毛用具や脱毛剤として使われたものとみられる。

将棋盤(198-1) 卓状製品の一角部分である。脚は下方が内側に反るが、先端は欠損する。卓上面には格子状に筋彫りがあり、筋彫りの一区画が長方形になることから将棋盤と判断した。脚内側と盤下面を除いて赤漆が塗られる。

狛犬(198-2) 上顎から頭の部分である。頭は中空で、眼には円孔が開けられる。口内に歯牙が削り出されており、阿形であったことがわかる。

人形(198-3~6) 3は、顔に目や口が付けられる等、手が増えられたようであるが、もとは4・5のように猿を模した人形だったと思われる。両手とも膝に伸ばすが、左手首を欠損していることから、左手首を持ち上げて何らかの道具を持っていたことが窺える。4は、両手を口へ伸ばすすぐさであるが、口が嘴状に延びて尖っているため、口を塞ぐのではなく、笛等を吹くしぐさを模したようである。5は、右肩に何かを担ぐ姿である。手の表現はおかしいが、鼓を打つ姿のように見える。

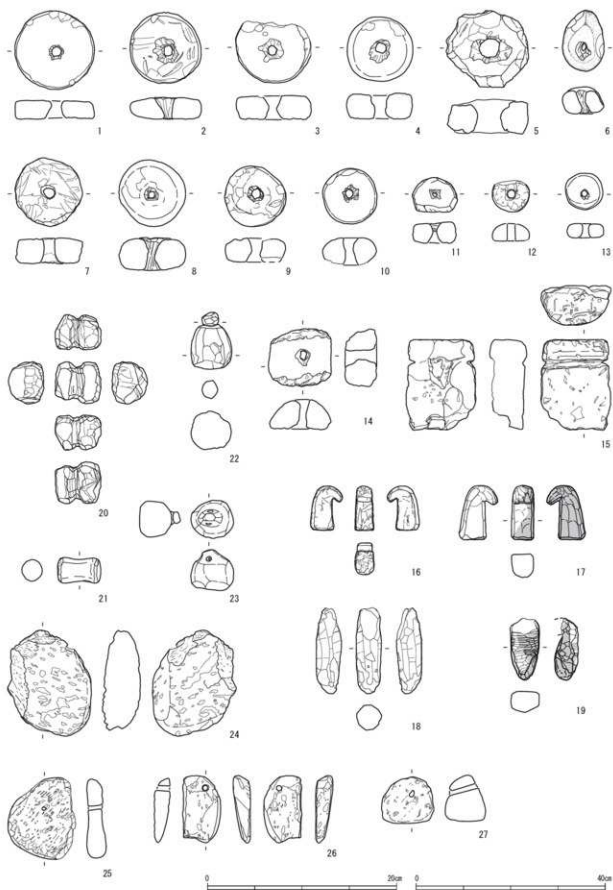
6は、自然の河原石を人の頭に見立てて、髷を結った髷面の顔を墨書した人面石である。

印鑑(198-14) 篆書の「鍼」を刻む判子。蛸石製。

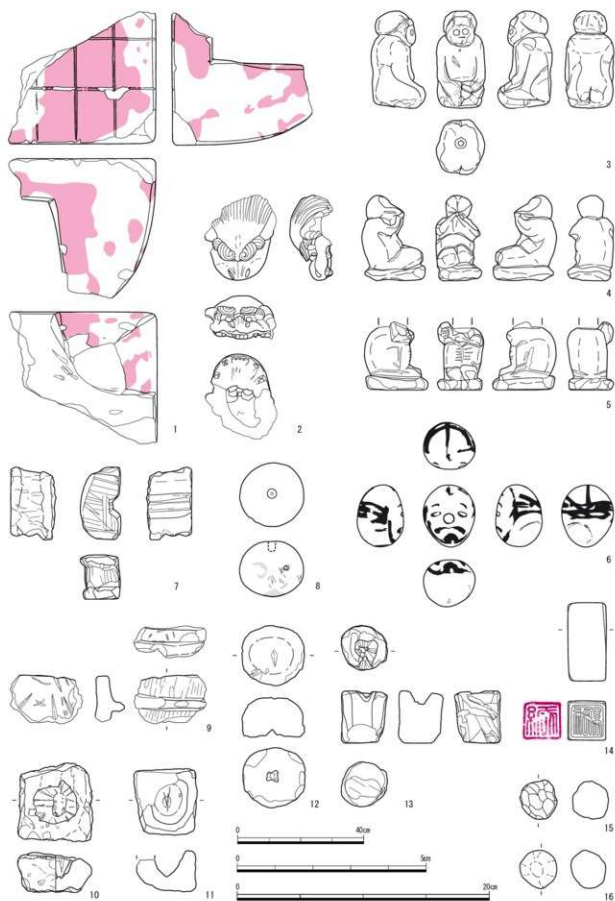
碁石(図版第130-1~80) 碁石は、百間堀と三ノ丸の調査区以外のすべての屋敷地から少しずつ出土した。その内訳は、黒石71枚・白石1枚であり、他に白石として使用したとみられるもの7枚(13・22・32・38・41・58・70)、黒石としたもの1枚(44)である。黒石・白石はいずれも粘板岩であり、白石は本来蛤貝製であるので正式なものではない。白石として使用したとみられるものは、粘板岩製の鼠色(13・70)や灰色(32)、淡黄灰色(21)、黄灰色のもの(41)や、泥岩製の黄灰色のもの(58)、土製の薄橙色のもの(38)がある。黒石とした44は、粘板岩製であり、片面が黒灰色でその裏が灰色である。黒石には黒灰色のものもあるので、これも黒石とした。なお、真円に近付けて加工したものは47点である。それらの直径は概ね2.2cm前後であり、現代と同規模であるが、厚さは6mm未満のものが多く、現代のものより薄い。

弾丸(198-15・16) ともに直径1cm前後であり、今回報告の最小の鉛製弾丸とほぼ同規模である。

不明品(198-7~9・12・13) 7は、2つの同形品を組み合わせて使用したものと思われ、紡績に関わる製品かもしれない。8は、球形の石材の上部に、円形の浅い小孔を穿つものである。9は、黒色の滑石製とみられる器状の製品であり、石鍋のようなものかと思われる。12は、半球形の上下に小さな刳り込みがある。13は、円筒形の片側端面に刳り込みがある。



第197図 重石・錘・軽石（縮尺1/8、20・23～27は1/4）



第198図 将棋盤・人形・その他（縮尺1/3、10～13は1/6、14～16は原寸）

第59表 容器類観察表

標記番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・短	幅・横	高さ			
160-1	槽	凝灰岩	IV-2	D6	5105	(54.5)	(26.1)	2.75	-	17C～	05135
160-2	槽	凝灰岩	Ⅲ-1	A-B10	34111	(35.2)	(20.6)	-	11.8	方形、 内面被熱灰付着	0345156
160-3	槽	凝灰岩	Ⅱ-1	A4	3162下層	(8.5)	(15.4)	15.5	-	方形、 内面被付着	031517
160-4	槽	凝灰岩	Ⅱ-1	A4	複屈最上層	(10.9)	(16.7)	13.75	-	方形、 内面被付着	031556
160-5	槽	凝灰岩	Ⅱ-2・3	F1	3361 (3408)上層	(14.1)	27.35	15.5	-	方形、 内面被付着	0335358
160-6	槽	凝灰岩	Ⅱ-4・5	D9	複屈最上層	(13.5)	(13.2)	-	-	方形、 内面被付着	0425103
160-7	槽	凝灰岩	Ⅱ-4・5	B8	黒1層	11.4	(12.1)	6.3	底面1.4 側面1.1	方形、 側面被付着	0425522
160-8	槽	凝灰岩	V-4・5	I5	6337	(9.7)	(12.3)	7.35	1.3	方形、 側面被付着	063545
160-9	槽	凝灰岩	V-1	E1	61165	(8.2)	(8.35)	(7.2)	-	方形、 側面被付着	061526
160-10	槽	凝灰岩	IV-5・6	A2	5409	(17.1)	20.5	(9.0)	1.55	方形	054594
160-11	型	凝灰岩	Ⅱ-1	A4	Ty3104上層	(14.4)	(11.4)	(7.8)	-	方形、 側面被付着	031543
161-1	型	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	34370	(9.6)	(14.6)	7.6	-	方形、 側面被付着	0345198
161-2	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	B3	第1面壁地	(13.5)	25.75	8.0	-	方形、 底面被付着	032569
161-4	型	凝灰岩	V-4・5	H・14	6303	(18.3)	(14.7)	15.4	3.5	方形、 側面被付着	063573
161-5	型	凝灰岩	IV-2	B4・5	5109・3層	(17.4)	(23.1)	16.5	3.2	方形、 側面被付着	051584
161-6	型	凝灰岩	Ⅲ-3	F3	36026	(19.2)	(19.7)	14.1	2.8	方形、 側面被付着	036524
161-7	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E5	3201a上層	(9.0)	(12.25)	(9.15)	-	方形、 側面被付着	0325276
161-8	型	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	34124	(10.8)	14.8	6.9	-	方形、 側面被付着	0345127
161-9	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E5	包含層2-1a	(8.7)	12.1	(5.75)	-	方形、 側面被付着	0325244
161-10	型	凝灰岩	Ⅱ-4・5	A7	42133	(12.9)	(12.55)	(7.85)	-	方形、 側面被付着	0425117
161-11	型	凝灰岩	V-1	E2	61064	(11.85)	(13.35)	14.15	-	方形、 側面被付着	061535
162-1	型	凝灰岩	IV-2	B4	5109上層	(14.4)	(17.8)	9.9	2.1	方形、 側面被付着	051562
162-2	型	凝灰岩	Ⅲ-1	B10	34117	34.2	(39.15)	17.0	2.6	方形、 側面被付着	0345335
162-3	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	B3	複屈	14.9	17.8	-	10.5	方形、 側面被付着	032563
162-4	型	凝灰岩	IV-5・6	A1	Ty5401	(23.3)	25.2	8.5	2.5	方形、 側面被付着	054532
162-5	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	G8	3325	(13.0)	(17.7)	7.5	-	方形、 側面被付着	033524
162-6	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	I9	3315	(11.8)	(9.9)	7.5	-	方形、 側面被付着	033529
162-7	型	凝灰岩	Ⅱ-4・5	B8	Ty4218 機土下	17.2	(9.5)	7.3	底面1.6 側面1.5	方形、 側面被付着	0425445
162-8	型	凝灰岩	Ⅲ-1	C1	34199群	18.35	21.4	-	20.8	方形、 側面被付着	0345149
163-1	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	H3	Ty328	(12.4)	33.0	12.15	-	方形、 側面被付着	0335361
163-2	型	凝灰岩	Ⅱ-1	A4	Ty3104上層	(11.9)	(24.2)	13.6	-	方形、 側面被付着	031541
163-3	型	凝灰岩	Ⅱ-1	J4	石列下	-	-	-	-	方形、 側面被付着	031542
163-4	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E6	複屈最上層	21.5	31.3	(16.1)	(5.0)	方形、 側面被付着	0325218
163-5	型	凝灰岩	Ⅲ-1	E2	大Ty	(11.7)	(9.5)	13.1	-	方形、 側面被付着	0345140
163-6	型	凝灰岩	Ⅲ-1	-	包含層	(12.5)	(14.1)	9.6	-	方形、 側面被付着	0345126
163-7	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	D6	3201	8.9	10.6	8.45	2.7	横丸方形、 側面被付着	03251
163-8	型	凝灰岩	Ⅱ-1	A8	33198	(20.5)	(16.5)	(8.6)	-	方形、 側面被付着	0345134
163-9	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E5	3201a上層 (Ty201)	(12.2)	-	9.6	-	方形、 側面被付着	032543
163-10	型	凝灰岩	Ⅱ-4・5	A8	42133	(底径 15.4)	(10.3)	(6.5)	底面1.5 側面2.1	方形、 側面被付着	0425527
163-11	型	凝灰岩	IV-1・2	B7	35163532	(15.0)	(14.1)	6.7	2.4	方形、 側面被付着	035541
163-12	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	D5	包含層2-1b Ty217北側	口径15.8	底径14.0	7.4	-	方形、 側面被付着	0325461
163-13	型	凝灰岩	Ⅱ-4	E9	4312	19.0	(11.9)	7.0	2.1	方形、 側面被付着	04359
163-14	型	凝灰岩	Ⅱ-4	D10	4331上層埋土	口径11.8	12.3	6.9	2.8	方形、 側面被付着	043510
163-15	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E6	3201a上層	(12.45)	(18.3)	8.5	-	方形、 側面被付着	0325202
164-1	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	H7	Ty306上層	25.5	32.4	8.8	-	横丸方形、 側面被付着	0335107
164-2	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	F7・8	3325 Ty305上層	23.1	38.4	8.25	-	横丸方形、 側面被付着	0335689
164-3	型	凝灰岩	Ⅱ-2・3	H3	Ty328	(19.3)	(15.7)	-	8.8	横丸方形、 側面被付着	0335360
164-4	型	凝灰岩	Ⅱ-1	H-G2	中之馬場南側	口径23.0	-	(5.7)	2.2～1.5	方形、 側面被付着	031518
164-5	型	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E6	3201a上層	口径40.8	-	11.5	-	方形、 側面被付着	0325212
164-6	型	凝灰岩	Ⅱ-4・5	D9	4222	26.5	(19.8)	11.4	底面3.1 側面2.2	横丸方形、 側面被付着	0425304

第5章 石製品

押印番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			屋敷	地区	遺構・層位	長・短	幅・厚	高さ	厚さ			
164-7	盤	凝灰岩	I-4-5	I-36	棺堀	(9.7)	(17.8)	10.0	3.4	円形(7)、脚付、外面磨光		042518
164-8	盤	凝灰岩	V-4-5	I5	6305	(12.15)	14.4	8.75	2.1	横門形、脚付、外面磨光	17C初	063563
165-1	楕	凝灰岩	Ⅲ-3	G4	36110	20.2	(12.9)	8.15	1.5	方形、脚付、一面磨り残し	～19C前	036528
165-2	盤	凝灰岩	Ⅱ-1-2	A2-3	T225	(15.0)	15.35	(5.4)	-	方形、脚付、一面磨り残し、内面磨付着		0325134
165-3	盤	凝灰岩	Ⅱ-1	A4	3182下層	(12.5)	11.6	-	6.45	方形	18C後	031527
165-4	楕	凝灰岩	Ⅲ-3	H4	36053	(9.25)	6.8	5.2	2.0	方形、脚付	17C前～後	036519
165-5	楕	凝灰岩	Ⅱ-1-2	J3	31343層	7.0	9.9	-	7.1	方形、脚付、僅付着	17C中～後	0325343
165-6	楕(7)	凝灰岩	I-4-5	D9	4216・4217	(4.3)	(5.7)	-	5.0	一面外側磨	18C末～19C	0425526
165-7	盤(7)	凝灰岩	I-4-5	D10	4257灰層	(8.5)	12.3	(5.1)	底面1.35、側面1.35	方形、脚付、仕切付	17C前～中	042589
165-8	盤	凝灰岩	Ⅱ-1-2	A3	3266	(8.2)	13.4	6.25	-	方形、仕切付、被熱・底付着	17C後～18C前(19C前)	0325316
165-9	盤	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	34607	(8.3)	12.7	(6.0)	-	方形、仕切付		0345113
165-10	楕	凝灰岩	Ⅱ-1-2	A2	第3面磨地層	(12.7)	(9.4)	8.0	-	方形、脚付、仕切付		0325500
165-11	盤	凝灰岩	Ⅱ-1-2	F6	32054層	13.0	(16.1)	7.2	-	方形、脚付、仕切付	17C後～18C前	0325169
165-12	盤	凝灰岩	V-1	E2	61028	(14.5)	(17.1)	7.6	-	三角形(7)、脚付、仕切付	17C中	061524
165-13	盤	凝灰岩	V-4-5	I-35	6353	(14.8)	(13.45)	6.9	1.5	長方形、脚付	17C中～後	063547
165-14	盤	凝灰岩	Ⅱ-1-3	D8	下層	8.35	(8.5)	(3.7)	1.7	略方形、脚3(7)		035525
165-15	寄籠状	凝灰岩	I-4-5	B8-9	第3・4層	(8.45)	(10.9)	(4.6)	1.6	略長方形、脚3(7)、被熱	0425449	
165-16	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	3面磨地層	7.7	8.4	4.9	-	再加工品?		0345116
165-17	楕(7)	凝灰岩	Ⅲ-1	C10	34109a群	(7.0)	(6.9)	7.7	-	略方形、脚付、仕切付	17C後～19C	0345117
165-18	盤(7)	凝灰岩	Ⅲ-1	D2	腹瓦最上層	7.8	13.6	(5.3)	-	略長方形、脚3・仕切付		0345122
165-19	楕(7)	凝灰岩	Ⅲ-3	H4	33105	(10.95)	(7.5)	5.55	1.2	長方形、脚付	17C後	036530
165-20	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-2-3	I9	33331	(10.8)	15.1	6.35	-	略長方形、脚3	17C後	0335536
165-21	寄籠状	凝灰岩	I-4-5	C8	最終面磨地層	13.3	(15.3)	6.9	2.9	被熱面		0425261
166-1	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	B1		18.6	13.7	9.2	-	方形、内面僅付着		0345110
166-2	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-3	B1	36158	18.0	18.0	8.9	3.6	略方形	17C前～中	036521
166-3	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-2	B5	5109 3層	18.3	19.0	14.8	6.7	略長方形	19C	051512
166-4	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	34452	20.0	23.0	(12.7)	-	方形、脚付、一面磨り残し、僅付着	17C初～前	0345111
166-5	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-1	J4	造成土	16.7	(13.8)	10.3	-	略長方形、内面僅付着		031530
166-6	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-2-3	I19	T23350西側(1b)層	(11.4)	17.8	9.5	-	略方形、脚付		0335538
166-7	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-1-2	J2	T210	9.1	20.3	11.9	-	略長方形、内面僅付着		0325365
166-8	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-3	H3	ハ層	(13.2)	12.0	10.5	4.2	方形、脚付、内面被熱		036518
166-9	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	C1	34109a群	15.8	24.0	11.5	-	方形、脚付、底面中央孔	17C後～19C	0345166
166-10	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-2-3	I9	3315	12.8	15.3	6.3	-	方形、底面割込み浅い、底面中央孔	17C～19C	0335491
166-11	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	D+C1	34206	15.7	16.0	6.5	-	円形、底面中央孔	17C後	0345162
166-12	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-3	H3	36052	(9.0)	(22.9)	9.0	3.2	円形、底面僅付着	17C初～前	036522
166-13	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	C2	T1409	(17.6)	(10.2)	6.6	-	円形、鉢形、内面僅付着		0345121
166-14	寄籠状	凝灰岩	Ⅲ-1	J3	造成土	20.0	20.1	12.0	-	円形、脚付、仕切、内面僅付着		031561
166-15	寄籠状	凝灰岩	Ⅱ-1-2	J2	3207b層	21.9	20.7	7.5	-	平行四辺形(蓋形)、配付材利用	(17C後～)19C	0325411
167-1	鉢	凝灰岩	I-4-5	J7	焼土堆積	(口径37.6)	底径26.2	13.5	-	外面磨光		042582
167-2	鉢	凝灰岩	Ⅱ-1-2	F6	32161	(口径36.8)	-	(12.3)	-	外面磨光、口縁外端部面取	16C末	0325470
167-3	鉢	凝灰岩	Ⅱ-2-3	G・H4	T2329	(口径46.0)	-	(12.4)	-	外面磨光		0335517
167-4	鉢	凝灰岩	Ⅱ-2-3	H4	手堀	(口径40.0)	-	(9.1)	-	外面磨光、面熱		0335512
167-5	鉢	凝灰岩	I-1～3	H5	4155	(17.8)	(8.5)	-	2.1	外面磨光		041514
167-6	鉢	凝灰岩	Ⅲ-1	B10	4面上造成土	(口径38.0)	(17.8)	(9.8)	2.0～2.5	外面磨光		0345161
167-7	鉢	凝灰岩	Ⅱ-4-5	J9	5310	(23.5)	(30.0)	(9.5)	4.0	方形、外面磨光	17C後	053525
167-8	小鉢	凝灰岩	Ⅲ-1	A4	造成土	(6.9)	(6.4)	(2.6)	-	「大正十五(三)日」(1582)		031545
167-9	鉢	凝灰岩	Ⅱ-1-2	E6	3201 a+b層	(口径26.0)	-	10.2	-		17C前～19C中	0325214
167-10	鉢	凝灰岩	Ⅱ-5-6	C1	5404	(口径49.6)	底径40.6	16.0	3.1	体部直立気味、口縁部被熱	19C中	054534
167-11	鉢	凝灰岩	Ⅱ-5-6	C1+10	5428	(口径24.7)	底径19.4	13.0	5.0	体部直立気味	17C後	054535
167-12	鉢	凝灰岩	Ⅱ-1-3	C7	35109	-	底径9.85	(12.1)	-	内面僅付付、僅付着	17C初	035552
167-13	鉢	凝灰岩	I-4-5	C8	最終面磨地層	(口径32.2)	底径14.4	17.3	-	内面僅付付、僅付着		042565
167-14	深鉢状	凝灰岩	Ⅲ-1	B9	34373a	(口径38.0)	(21.14)	(6.2)	-	口縁部外側へ面曲・面磨り被熱	17C初	0345163
167-15	深鉢状	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	34377	(口径38.0)	(18.0)	(14.9)	(2.4)	口縁部外側へ面曲・面磨り被熱	16C末～17C初、17C前～後	0345164

第60表 容器類把手・その他観察表

標記番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位等	長・縦	幅・横	高さ	厚さ			
168-1	把手	凝灰岩	I-1+3	H5	褐色土	(7.6)	(14.5)	6.6	1.9	略円形? 棒? 被熱		04157
168-2	把手	凝灰岩	II-1	B5	3103上層砂利層	(11.1)	(16.1)	-	3.6 (把手)	方形、被熱	19C前～中	031534
168-3	把手	凝灰岩	IV-3	B-C6	35151	(12.8)	(13.9)	-	8.05	円形、内縁、円孔	18C前	035539
168-4	把手	凝灰岩	II-1+2	E6	3201 a+b層	(15.5)	(6.6)	(5.0)	-	両面? 口縁外縁	17C前～19C中	0325189
168-5	把手	凝灰岩	三ノ丸	D8	掘土	(19.2)	(29.7)	-	8.3	略円形?		08312
168-6	不明	凝灰岩	III-1	C1	-	24.5	20.6	6.6	-	雙穴製品、 一切消失、 底面・側面埋付着		0345130
168-7	不明	凝灰岩	三ノ丸	A6-7	土壌南東	(14.2)	(15.1)	-	(10.4)	各角面取		08516

第61表 温石・火打石観察表

標記番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・縦	幅・横	高さ	厚さ			
169-1	温石	粘板岩	III-3	G3	36205	13.55	6.75	2.3	-	根から転用、 円孔	17C前～中～後	036580
169-2	温石	粘板岩	I-4+5	C8	4220南境土下	10.9	5.1	1.6	-	根から転用、 円孔	17C中～後	0425599
169-3	温石	粘板岩	III-3	F1	3408	13.05	8.5	1.85	-	-	19C中	036581
169-4	温石	粘板岩	III-1	F3	7421	(7.2)	(7.2)	2.15	-	円孔		0345217
169-5	温石	砂岩	IV-5+6	A1	5401下層	(6.7)	(4.7)	1.9	-	円孔痕跡	19C中～近代	054524
169-6	温石	砂岩	IV-2	E7	-	(4.8)	5.0	1.6	-	円孔		051517
169-7	火打石	石英	III-1+2	E4	3201d層	2.75	3.25	2.2	-	使用痕跡	17C前～19C中	0325533

第62表 調理具等観察表

標記番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・縦	幅・横	高さ	厚さ			
174-1	風が	凝灰岩	-	-	※地下(西)・参考掲載	口径 34.8	-	21.6	2.2	大意周辺一部欠失		02458
174-2	風が	凝灰岩	II-1+2	A3	3266 第1面整地層	-	-	(9.85)	2.6	口縁部片、埋付着	17C後～18C前 (19C前)	0325312
174-3	風が	凝灰岩	II-2+3	A1	3336	-	-	(8.5)	(3.2)	口縁部片、被熱	18C後～19C中	0335496
174-4	風が	凝灰岩	II-1	J4	31126	(14.4)	(12.0)	(7.3)	最大6.1	脚部付着破片、被熱	16C末	031589
174-5	風が	凝灰岩	V-4+5	A7	6369	(16.1)	(13.4)	12.6	2.7	火堂の一部、脚1残存	17C後	063539
174-6	七輪	凝灰岩	II-1+2	B3	第1面整地層	(12.0)	-	(12.65)	-	口縁付着破片、被熱		032574
174-7	七輪	凝灰岩	IV-1+3	C7	35109	口径 20.2 底径 18.4	16.1	最大 4.1	-	円筒形、脚付、 側面に火窓1、被熱	17C初	035551
175-1	甕が	凝灰岩	II-1+2	B3	第1面整地層	(28.2)	26.7	3.3	-	上面に釜輪状の筋部7条分、筋部内縁付着、 下面同縁部から削る、被熱・埋付着		032579
175-2	甕が	凝灰岩	II-1+2	A3	3266	(23.3)	(10.8)	3.6	-	上面に釜輪状の筋部6条以上、筋部内縁付着、 下面同縁部から削る、被熱・埋付着	17C後～18C前 (19C前)	032556
175-3	甕	凝灰岩	II-1	J3	3111	25.85	33.35	-	18.3	釜輪・焚口残存	19C前	0315107
175-4	甕	凝灰岩	II-1	G2	3100	(23.1)	(30.15)	-	19.5	釜輪・焚口残存、 上面同縁部を削る、 被熱・内面埋付着	17C前～近代	0315108
175-5	甕	凝灰岩	II-1+2	C5	掘土	(10.2)	(8.0)	(10.6)	-	釜輪・焚口残存、 内面埋付着		0325102
176-1	蓋	凝灰岩	-	-	※地下(西)・参考掲載	(38.3)	(53.7)	-	10.8	組合せ式、 井がや大甕等の蓋		
176-2	井桁	凝灰岩	II-1+2	-	-	口径 63.5 最大径 79.5 下底径 62.0	最大径 95.2 107.5 下底径 80.0	最大 8.5	-	印線跡、 破損した三段目の破片 で封をした。		
176-3	井桁	凝灰岩	III-1	C1	34109a群	12.4	(15.9)	(12.7)	-	掛け合せ部分 内面に削り	17C後～19C	0345203
176-4	圓形蓋	凝灰岩	三ノ丸	-	三ノ丸南石垣 下脚土層周囲	(25.2)	(21.95)	-	7.9	-		08519
176-5	圓形蓋	凝灰岩	III-1	E2	74413	(23.9)	(12.2)	6.2	-	外面の加工が比較的 丁寧なため、異なる製 品の可能性あり。		0345173
177-1	手水鉢	凝灰岩	III-1	C10	34109b群	最大径 (51.0)	(42.5)	40.0	厚部最大 14.5	-	17C後～19C	0345368
177-2	手水鉢	凝灰岩	III-1	C1	34109a群	最大径 (48.0)	(27.7)	(22.5)	厚部最大 14.0	-	17C後～19C	0345171
178-1	鍋口	凝灰岩	III-1	F3	整地層	口径 35.6 底径 30.0	20.7	-	-	側面に取っ手	18C	0345182
178-2	鍋柄	凝灰岩	I-4+5	C8+9	42115	(17.6)	8.5	-	8.6	上部欠失	16C末～17C初	042588

第63表 行火観察表

採回番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・幅	幅・横	高さ	厚さ		
170-1	蓋	凝灰岩	IV-5-6	A1	5346上層	19.45	22.7	5.05	-	横円型	054593
170-2	蓋	凝灰岩	I-6	D9		17.4	22.5	-	3.3	横円型、内面保付着	04353
170-3	蓋	凝灰岩	II-1-2	I2	3134a層	17.7	22.1	3.2	-	横円型	17C中～後 0328295
170-4	蓋	凝灰岩	V-4-5	I6	63165	(20.3)	15.8	3.2	2.7	横円型	16C後～末 063567
170-5	蓋	凝灰岩	III-1	C1	34109a群	18.9	23.1	4.4	-	横円型、被熱、外面保付着	17C後～19C 034583
170-6	蓋	凝灰岩	II-1-2	J2	3134b層	(23.3)	(17.9)	4.9	3.0	横円型	17C中～後 032565
170-7	蓋	凝灰岩	II-1	I3	A-1層	(17.9)	(13.2)	-	2.9	横円型、被熱、内面保付着	031552
170-8	蓋	凝灰岩	III-3	I13	36150	(16.7)	(14.5)	-	3.9	横円型	17C後 036817
170-9	蓋	凝灰岩	III-3	G3	36205	(16.1)	(16.8)	-	2.9	横円型	17C期・中～後 036815
170-10	蓋	凝灰岩	I-4-5	D9	4213	22.8	(12.65)	-	5.95	横円型、被熱、内面保付着	17C中～18C 0425323
171-1	炊(身)	凝灰岩	I-4-5	D10	覆瓦	21.0	24.6	-	14.7	横円型、正面長方孔5	042871
171-2	炊(身)	凝灰岩	II-1-2	A-B3	Ti210	23.2	26.7	16.0	-	横円型、正面長方孔5、背面方向?	0325155
171-3	炊(身)	凝灰岩	IV-5-6	A1	5406	(23.05)	25.7	-	14.65	横円型、正面長方孔1以上、両側面孔各1	17C後～19C 054592
171-4	炊(身)	凝灰岩	IV-2	B4	5109上層	(23.0)	(16.6)	-	16.0	横円型、側面孔1	19C 05151
171-5	炊(身)	凝灰岩	III-1	A9	34126	(19.8)	(14.7)	14.4	-	横円型、内面保付着	17C中～後 034564
171-6	炊(身)	凝灰岩	I-4-5	E10	覆瓦	(12.5)	(10.6)	2.95	2.3	横円型、正面長方孔3以上、内面保付着	0425166
171-7	炊(身)	凝灰岩	IV-1-3	A5	Tr508	(9.95)	(11.4)	2.1	2.0	横円型、背面孔、内面保付着	035840
172-1	蓋	凝灰岩	I-6	E9	-	19.0	16.9	-	3.5	D型、全体保付着	04382
172-2	蓋	凝灰岩	IV-5-6	A2	5466	19.85	15.8	-	4.15	D型	16C前～後 054580
172-3	蓋	凝灰岩	II-2-3	I-19	33422	15.1	17.9	3.3	2.5～2.8	D型	0335607
172-4	蓋	凝灰岩	II-1-2	D5	3212	13.9	18.4	-	4.5	D型、被熱・内側保付着	18C後～19C 032542
172-5	蓋	凝灰岩	III-1	B1	34111下層	(14.3)	(14.8)	-	(2.6)	D型、全体保付着	～19C中 0345100
172-6	蓋	凝灰岩	II-2-3	J9	試掘地	19.7	22.7	4.4	2.5～3.0	D型	0335602
172-7	蓋	凝灰岩	III-3	F3	36626	(14.7)	(17.5)	-	3.1	D型、内面保付着	17C後～18C前 036511
172-8	蓋	凝灰岩	II-1	B4	Tr3131	(14.35)	(10.15)	-	(3.0)	D型、内面保付着	031549
172-9	蓋	凝灰岩	II-2-3	H-18	Tr3355北側	16.1	(10.0)	-	3.3	D型	0335539
172-10	炊(身)	凝灰岩	II-1	B4	31116	15.8	19.2	14.5	-	D型、長方孔1以上、被熱・保付着	16C末 031558
172-11	炊(身)	凝灰岩	II-1-2	F6	第4層下 青灰色粘質土	17.25	20.45	12.7	-	D型、長方孔4	0325219
172-12	炊(身)	凝灰岩	III-1	B10	34117	18.7	21.5	14.2	-	長方形、長短面に長方孔3、手摺?肌型	17C後 034579
173-1	炊(身)	凝灰岩	III-1	D10	34244下層	8.8	11.5	6.95	-	小型品、円形、正面長方孔5、被熱	16C末 034582
173-2	炊(身)	凝灰岩	IV-1-3	E7	A褐色層	(3.55)	6.2	3.35	0.95	小型品、円形、正面長方孔5	035845
173-3	炊(身)	凝灰岩	IV-4	G9	5270上層	(5.8)	4.0	0.8	0.8	小型品、横円型、正面長方孔	(17C前)～19C 052518
173-4	炊(身)	凝灰岩	III-1	A9	34554 北面壁石出中	(6.7)	(3.6)	5.45	-	小型品、円形?	16C末～17C期 034577
173-5	炊(身)	凝灰岩	III-1	C2	Tr430	7.0	7.7	5.8	-	小型品、横円型、正面長方孔5	034581
173-6	蓋	凝灰岩	IV-5-6	B2	54109	5.6	6.1	1.75	1.3	小型品、横円型、上面の三つ竅に円孔	17C初～前 054527
173-7	蓋	凝灰岩	IV-4	G8	5237	7.1	5.9	-	2.1	小型品、扇形?上面に花弁状彫刻、円孔	17C～19C中 052549
173-8	蓋	凝灰岩	IV-5-6	A1	5401中層	8.95	(7.1)	-	2.2	小型品、方形、上面の菊花形彫刻に円孔	19C中～近代 054581
173-9	蓋	凝灰岩	III-3	F3	36680	(10.8)	(14.4)	-	2.9	円形?大型樽出孔2	18C後～19C前 03655
173-10	蓋	凝灰岩	III-3	G4	36654	21.7	(14.6)	-	3.6	楕圓長方形、凹形孔1	17C後 03653
173-11	蓋	凝灰岩	II-2-3	E1	イ層最上層	23.4	(16.0)	4.8	-	楕圓長方形、大型樽出孔(円孔を区画)	0335571
173-12	蓋	凝灰岩	III-1	D1	黒褐色粘質土 最上層	(13.3)	(12.2)	-	(3.3)	大型品、長方形?内面保付着 13と同一個体	0345104
173-13	蓋	凝灰岩	III-1	I9	3390 1面砂利中	(13.7)	(16.7)	-	(3.4)	大型品、長方形?内面保付着 12と同一個体	17C～19C 0345103
173-14	蓋	凝灰岩	I-4-5	E9	覆瓦	(17.8)	(14.0)	-	4.75	大型品、円形?内面保付着	0425299
173-15	蓋	凝灰岩	I-1～3	I15	覆瓦	(13.0)	(14.8)	-	2.0	大型品、円形?	04156
173-16	蓋	凝灰岩	II-2-3	A9	33171	(16.1)	(9.8)	4.3	-	円形、大型樽出孔 (孔縁が面を受けるよう削られる)、保付着	18C後～19C前 0335618
173-17	蓋	凝灰岩	II-2-3	A8	33225	(11.5)	10.0	-	4.5	円形、大型樽出孔 (孔縁が面を受けるよう削られる)、保付着	19C 0335617
173-18	蓋	凝灰岩	II-2-3	E1	イ層最上層	(9.7)	(7.7)	4.4	-	円形、中央樽出孔、内面保付着 16の樽出孔用蓋か	0335570
173-19	蓋	凝灰岩	II-2-3	I18	Tr310附近 3325 下層土-1	(8.0)	(10.1)	-	(2.6)	円形、口縁部欠損、中央に樽出孔	0335544
173-20	蓋	凝灰岩	III-3	E2	3408	(16.5)	(12.8)	-	3.2	円形、粗加工、内面保付着	19C中 036513

第64表 石臼觀察表

採掘番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			屋敷	地区	遺構・層位	礎	基元石	高さ		
179-1	粉砕石	龍灰岩	I-6	-	-	36.0	-	16.1	上白	043S19
179-2	粉砕石	龍灰岩	II-1+2	B3	3216	34.2	-	13.0	上白	032S41
179-3	粉砕石	龍灰岩	-	-	-	22.9	-	9.75	上白	0X57
179-4	粉砕石	龍灰岩	-	-	-	32.8	-	12.2	下白	0X56
179-5	粉砕石	龍灰岩	I-4+5	C8	4220南側	29.7	-	9.3	下白	042S190
179-6	粉砕石	龍灰岩	III-1	D10	34371	34.4	-	14.6	下白	043S281
180-1	茶臼	斑レイ岩	II-1	B4	斑丘	(21.4)	23.2	11.8	上白	031S106
180-2	茶臼	斑レイ岩	-	-	-	19.65	20.8	14.0	上白	0X54
180-3	茶臼	斑レイ岩	III-1	B8	34489	(21.6)	22.3	11.7	上白	16C米～17C初(～18C後)
180-4	茶臼	斑レイ岩	III-1	C1	34478	(12.5)	22.0	(6.8)	上白	17C初
180-5	茶臼	龍灰岩	V-1	E4	61046上層	9.75	-	(4.9)	下白、 小部品	17C初、19C中
180-6	茶臼	龍灰岩	-	-	-	(43.4)	51.3	12.5	下白、 受部付	0X55
180-7	茶臼	斑レイ岩	III-1	C1	-	(24.4)	39.0	8.95	下白、 受部付	034S195
180-8	茶臼	斑レイ岩	III-1	J10	39904直	(8.1)	-	6.2	下白、 受部のみ	17C～19C
180-9	粉砕石	龍灰岩	III-1	C1	-	32.8	-	7.4	下白、 焼き目摩滅	034S180
180-10	粉砕石	龍灰岩	III-1	-	-	34.3	-	12.0	下白、 焼き目摩滅	034S185

第65表 硯觀察表

探跡番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物番号	
			屋敷	遺構・遺位	長・幅	縦・横	高・厚				
181-1	硯	粘板岩	B-1	E4	320土層	19.4	7.4	(2.05)	寛政十一年未詳十月十九日□□求之□□・木見氏 (1829)	17C前～19C中	0325570
181-2	硯	粘板岩	V-4-5	H5	6301・6302	17.25	7.1	3.5		19C～近代	06356
181-3	硯	粘板岩	B-1-2	D4	320土層南側	18.1	7.5	2.6		17C前～19C中	0325529
181-4	硯	粘板岩	B-3	F3	36027	16.5	6.3	2.05	〔出所倉庫見〕	19C～近代	0305106
181-5	硯	粘板岩	-	-	-	13.8	7.6	2.4	〔木多〕→〔木多 備〕		0X513
181-6	硯	粘板岩	B-1	H+G2	3100	13.45	7.35	1.55		17C前～近代	031811
181-7	硯	粘板岩	B-2-3	H7+8	Ty303土層	14.2	6.0	2.16	全体に被熱燻		0335698
181-8	硯	粘板岩	I-4-5	C8	覆丸	13.7	4.5	1.8			0425508
181-9	硯	粘板岩	B-1-2	E6	Ty204	12.2	4.5	0.8	〔□□高島石〕		0325569
181-10	硯	粘板岩	B-1	H3	調査区東側覆丸	12.2	4.8	1.7	〔文政二己年・山田代 (1819)〕	0315122	
181-11	硯	粘板岩	I-1-3	H5	覆丸	12.4	7.65	2.0	縁上面に粘板石材の縦刺模様	041517	
181-12	硯	粘板岩	B-1-2	D4	第2池敷地	12.5	4.5	6.5		0325581	
181-13	硯	粘板岩	I-V-5	A9	5316	12.0	3.25	1.2	〔京永〕十月天正五年閏七月／十一日 (1577)	17C後	053530
181-14	硯	粘板岩	B-2-3	A8	覆丸	10.3	6.2	-	2～36、3～35まで、それぞれはずつ加算した度数を記録		0335743
182-1	硯	粘板岩	B-1-2	E6	320土層・b層	12.5	6.4	1.45	縦刺模様	17C前～19C中	0325530
182-2	硯	粘板岩	B-1-2	E6	Ty202土層	9.6	4.4	0.9	〔□□〕→〔□□高島石〕		0325527
182-3	硯	粘板岩	B-1	D10	Ty222土1面造成土	(9.0)	4.4	1.45	〔坂口〕 龍文字		0345370
182-4	硯	粘板岩	B-1-2	J2	Ty210	8.9	4.6	1.15	空形		0325526
182-5	硯	粘板岩	B-1-2	E6	320土層・b層	4.9	3.95	0.55		17C前～19C中	0325525
182-6	硯	粘板岩	B-1	H2	覆丸	5.2	3.5	0.4	縁上面に縦刺模様	0315114	
182-7	硯	粘板岩	I-4-5	B8	2層	4.9	3.2	0.55	朱墨付着	0425597	
182-8	硯	粘板岩	B-1	I4	3171	7.4	2.9	0.7	〔□□〕→〔□□高島石〕→〔正川造作〕	19C前	0315121
182-9	硯	粘板岩	B-1	C-D1 →D10	Ty415	7.0	4.6	0.9			0345359
182-10	硯	粘板岩	B-3	H3	Ty328	6.65	3.3	1.05	〔大正(正) 十二年 丁〕 (1923)		0308105
182-11	硯	粘板岩	B-1-2	E5	320土層	(15.9)	7.9	1.2	〔上口高島石 □〕 墨書付	17C前～19C中	0325528
182-12	硯	粘板岩	V-4-5	H5	6303	(15.6)	7.7	2.7	〔白之下下町 城見〕	19C中～近代	063556
182-13	硯	粘板岩	B-1-2	B4	覆丸	(11.8)	6.2	1.65	〔大永七年 節口〕 (1527)		0325568
182-14	硯	粘板岩	I-4-5	C8	4220土層上覆丸	10.7	7.5	1.65	〔表面〕 高島石 (□) 〔裏面〕 四角 百十 高島石 (□) 〔口端〕 □(舞々) □ など	17C～19C中	0425604
182-15	硯	粘板岩	I-V-3	B7	3525	(11.1)	4.4	1.3	〔□(明々) 和六年丑年 天下太平〕 (1769?)	17C中	035557
182-16	硯	粘板岩	B-1	I4	3171	(7.2)	6.4	(1.25)	〔成藏 口〕 木見安次 木見安次部→寛政2年 (1820) から木見沢次 (王殿)	19C前	0315112
182-17	硯	粘板岩	B-2	D6	5110土層	(7.7)	(4.75)	1.65	〔高口〕 丁	19C～近代	051839
182-18	硯	粘板岩	B-1	C-G12	3424	(5.9)	5.3	1.4	〔□□〕	16C末	0345371
182-19	硯	粘板岩	B-1-2	E6	320土層・b層	(6.5)	6.0	(1.0)		17C前～19C中	0325510
182-20	硯	粘板岩	B-1	B9	土層上土層	(6.6)	(4.7)	1.5	花模様の浮彫		0435369
182-21	硯	粘板岩	B-1	H2	覆丸	(3.3)	4.6	1.2			0315110
182-22	硯	粘板岩	B-2-3	G7	3308土層	(7.0)	(6.5)	(1.2)	〔□高島石〕	17C後～19C中	033557

第66表 砥石観察表

持回番号	種類	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	通儀・層位	長・短	幅・横	高さ・厚			
183-1	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	C9	第2機土面上 第3機直上	13.1	2.4	2.55			0345230
183-2	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	D1	34203	13.9	2.9	2.8	複数面使用	17C後	0348231
183-3	砥石	粘板岩	Ⅳ-5-6	B10	5444	(13.55)	3.05	2.45		17C後～19C	054529
183-4	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	H3	八層	12.8	3.5	3.0			036554
183-5	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	J3	Tv3107	9.0	2.8	2.0			031576
183-6	砥石	粘板岩	Ⅳ-4	G8	-	7.8	2.9	1.8	細い溝アリ		052563
183-7	砥石	粘板岩	V-1	E3	61044中層	15.4	3.1	2.5	仕上げ砥	17C前	061513
183-8	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-3	H5	Tv4103 2層	15.35	4.6	4.0			041524
183-9	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	I3	口層	(10.2)	3.8	2.7			036537
183-10	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	G6	口層	14.8	5.1	5.9			0425189
183-11	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-2	E7	3201a+b層	19.8	5.8	4.6		17C前～19C中	032590
183-12	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	F2	3408 Tv401	(13.6)	4.6	4.15	複数面使用	19C中	0345229
184-1	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-6	R9-10	4502壁面層	13.3	4.1	2.5		16C末～17C初	043513
184-2	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-2	E5	3201a+b層	10.5	4.9	2.65		17C前～19C中	032560
184-3	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	D9	4217	9.8	4.2	2.7		17C後(19C前)	0425250
184-4	砥石	粘板岩	Ⅳ-5-6	C1	5426	(9.75)	4.0	2.75		17C～19C中	054528
184-5	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	E9	掘基	10.1	6.0	4.2			0425423
184-6	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	A4	Tv3119	10.7	4.35	3.9			031571
184-7	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-5	D9	4219西側掘基	13.3	6.05	7.65			0425415
184-8	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36209	12.55	5.2	3.05		16C後～末	036537
184-9	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-2	F6	3205層	12.5	5.2～4.7	2.9		17C後～18C前	032557
184-10	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-2	J2	3134a層	15.5	14.9	2.3		17C中～後	032537
184-11	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	E10	3362	(8.3)	6.0	2.15		19C中～前代	0348235
184-12	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	B8	Tv4201黒3層	10.2	7.5	3.7			0425422
185-1	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	A9	33171	19.6	(5.5)	(1.8)		18C後～19C前	0345228
185-2	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-5	B3	3270	15.8	5.0	1.5	中央部に亀裂あり	(17C～18C前)	0325300
185-3	砥石	粘板岩	V-1	D4	61042	12.1	5.7	1.5		16C後～17C後	061554
185-4	砥石	粘板岩	V-1-3	H4	62037	14.8	4.0	1.7		16C末～17C初	062532
185-5	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	A10	掘基	15.1	4.4	2.0			0335105
185-6	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	F1	3361(3408)上層	12.0	5.5	2.15		19C中	0335648
185-7	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	E1	イ層最上層	11.9	5.85	2.4			0335610
185-8	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	C8	掘基	11.4	5.45	1.7			0425452
185-9	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	A4	3104	13.5	3.3	1.1	刃部微跡アリ	19C～中	031570
185-10	砥石	粘板岩	Ⅲ-4-5	-	掘基	10.4	4.9	1.15			042595
185-11	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	J4	Tv119	5.0	5.0	2.2			0335645
185-12	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36053	9.4	3.35	0.7		17C前～後	036535
185-13	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	H-13	3199	6.5	3.3	1.2		16C末	031578
185-14	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	J9	Tv西側	(7.3)	4.2	0.9			0335667
185-15	砥石	粘板岩	Ⅲ-1	C9	34372	8.0	4.2	1.2		16C末	0345265
186-1	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	G4	大T	5.8	5.5	3.25			0335682
186-2	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-2	E5	3201a+b層	6.9	6.0	2.25	ほぼ完形	17C前～19C中	032559
186-3	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	I9	33354	11.0	5.8	2.5		17C中	0335546
186-4	砥石	粘板岩	Ⅲ-5-6	B2	(4.45)	(5.3)	2.25		縦から転用		054530
186-5	砥石	粘板岩	Ⅲ-5-6	A1	5409土層	(4.95)	5.05	1.5	縦から転用	18C後～19C前	034533
186-6	砥石	凝灰岩	Ⅲ-1	J10	3390 西側砂利中	5.2	2.8	2.0	六角柱、全面平滑	17C～	0345220
186-7	砥石	粘板岩	V-1-3	J6	62002	(4.5)	4.6	1.45		19C～前代	062542
186-8	砥石	砂岩	Ⅲ-1-2	F8	手掘	4.2	4.3	3.1	三角磨		0325450
186-9	砥石	砂岩	Ⅲ-1	J4	3153	19.2	11.4	11.5	横口上臼転用	17C中～後	031562
186-10	砥石	凝灰岩	Ⅲ-1	J3	Tv3118西側掘基	14.7	7.2	4.9	転用品		031563
186-11	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	I3	卜層	1.85	2.5	1.3			0335631
186-12	砥石	粘板岩	Ⅲ-1-3	C7	A層	3.3	2.3	0.75			035519
186-13	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	H2-3	36175	4.65	(1.15)	0.9		16C末～17C初	036551
186-14	砥石	粘板岩	Ⅲ-3	P2	36037掘基(1層最上)	(9.7)	(1.2)	0.9	体部片		036541
186-15	砥石	粘板岩	Ⅲ-2-3	H8	112層	(10.5)	1.7	1.85			0335294
186-16	砥石	凝灰岩	Ⅲ-4	H8	5層	7.4	7.35	1.8			052590
186-17	砥石	凝灰岩	Ⅲ-2-3	I8	3325Tv311	5.2	6.6	1.3	円盤形	16C後・ 17C後～19C	0335659
186-18	砥石	凝灰岩	Ⅲ-2-3	I9	2層	6.1	6.3	1.55	円盤形		033588
186-19	砥石	凝灰岩	Ⅲ-1	E10	-	5.5	5.5	2.2	円盤		0345219
186-20	砥石	凝灰岩	V-1	E4	61042	3.75	4.1	1.5	円盤形	17C前～後	061515
186-21	砥石	凝灰岩	Ⅲ-4-5	C8	C層(横土直上)	(3.6)	(5.3)	0.6	円盤形		042510

第67表 灯籠観察表

持回番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な 遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	通儀・層位	奥行	幅・横	高さ・厚さ			
195-1	宝珠	凝灰岩	Ⅲ-1	-	-	-	径16.2	(18.8)	-	-	0348214
195-2	宝珠	凝灰岩	Ⅲ-1	F10	1通儀成土	-	径15.2	25.0	-	-	0348212
195-3	宝珠	凝灰岩	Ⅲ-4	D2	5241	-	径16.65	(21.2)	-	18C後～19C	032524
195-4	宝珠	凝灰岩	Ⅲ-2-3	F8	Tr	-	径14.15	(15.8)	-	溝底部欠損	033568
195-5	灯籠蓋	凝灰岩	Ⅲ-2-3	-	庵土中	47.0	42.0	12.9	-	元元径67.5	0325451
195-6	灯籠蓋	凝灰岩	Ⅲ-4-5	J2	3207a層	49.05	19.0	(7.2)	-	元元径51.0	(17C後～19C中) 0425194
195-7	灯籠蓋	凝灰岩	Ⅲ-1	D8	Tv4217側倒～ Tv4201南側基層	-	(11.7)	(5.45)	-	元元径48.0	0348215
195-8	灯籠蓋	凝灰岩	Ⅲ-1	D1	Tv414最上層	-	(12.3)	(7.0)	-	元元径44.0	0345213
195-9	水鏡	凝灰岩	Ⅲ-1-3	H1	4157	(11.0)	(8.1)	(8.5)	4.35	元元径17.5/16.5	19C 041539
195-10	中台	凝灰岩	Ⅲ-3	H4	36008	49.0	40.9	19.1	15.1	鑿加工	(17C後～18C後) 0365104
195-11	不明	凝灰岩	Ⅲ-2-3	J9	33245	-	径13.1	(15.7)	-	鑿加工、磨最等の跡が	17C後 0335351
195-12	不明	凝灰岩	Ⅲ-4-5	J1	5346	径径7.0	短径7.0	(15.3)	-	鑿加工、磨最等の跡が	～19C中 05357

第68表 石瓦観察表

採出番号	種別	石材	出土地点	計測値 (cm)	備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号				
層数	地区	遺構・層位	長・短	幅・厚	高・厚						
187-1	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	G6	3206	(46.5)	13.4	12.9	瓦当内縁 内面穴六2	17C前～後	0325482
187-2	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	A7	焼土堆積	(33.5)	16.15	13.2	瓦当内縁 内面穴六		0425544
187-3	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	-	-	(22.8)	15.0	14.9			0425629
187-4	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(22.2)	15.3	14.8	瓦当内縁 反り大きい	被熱	0425513
187-5	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(22.1)	17.3	17.5	瓦当内縁 反り大きい		0425211
187-6	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1	-	34109a群	(20.3)	15.1	11.9	瓦当内縁	17C後～19C	03452
187-7	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	J9	33245	(16.5)	15.2	15.4		17C後	0335350
187-8	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	G+H8	33509	(14.7)	16.5	15.6	被熱	19C中～近代	0335389
187-9	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	J9-10	33245	(16.5)	14.3	14.4	瓦当内縁	17C後	0335877
187-10	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-3	D6	35106A層	(8.3)	14.1	14.2		17C前～後	0335251
187-11	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-3	B-F3	36191	(16.15)	14.8	8.25	瓦当内縁	17C後	033562
187-12	丸瓦	殿瓦	Ⅲ-1	-	三ノ丸北石垣	(41.3)	14.7	18.7	反り大きい 隅田川?		085_222
188-1	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	J3	3196b層	35.8	13.3	10.4	瓦当側低	19C中	0325367
188-2	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	F1	イ原土層	(34.4)	14.2	10.4	瓦当側低		0335231
188-3	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	B4-5	5109 3層	(32.9)	14.0	8.1	瓦当側低	19C	051529
188-4	丸瓦	殿瓦	Ⅲ-1	A6-7	三ノ丸土橋 石垣南東付	(33.3)	15.8	11.5	瓦当側低		08518
188-5	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	E5	4205	(53.7)	16.3	12.4	内面穴六が上面へ抜ける	18C後～19C前	0425216
188-6	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	-	-	(30.4)	13.8	12.7	内面穴六		0335733
188-7	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	J9	ツ瀬土下	(25.8)	(14.8)	10.9	瓦当側低		0335348
188-8	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A7	焼土堆積	(26.3)	(15.5)	11.6	内面穴六		0425217
188-9	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	E5	32109	(18.5)	(14.9)	12.6	瓦当側低	17C	0325331
188-10	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2	B4	5109 3層	(13.7)	(14.2)	5.4		19C	051527
188-11	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	4228	(15.25)	(14.3)	(10.15)	連結面に割目「」	18C後～近代	0425318
188-12	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	B8	T7311土層	(10.8)	(13.2)	(8.1)	土縁短い	被熱	0335563
189-1	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	B8	土層	(19.8)	15.2	10.4			0425190
189-2	丸瓦	殿瓦	Ⅲ-1	C5	西門堀内	(22.3)	13.3	10.45	瓦当側低		0852
189-3	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A7	C層	(23.6)	(14.1)	10.7	被熱	土面に割目「口」 内面穴六	0425289
189-4	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	B6	4205	(18.4)	(12.0)	(5.3)		18C後～19C前	0425163
189-5	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	4228	(18.35)	15.5	8.3	被熱	18C後～近代	0425199
189-6	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A7	焼土堆積	(36.7)	15.4	9.8	被熱		0425197
189-7	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	E6	32011層	(25.3)	13.5	7.05		17C前～19C中	0325160
189-8	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	G6	3206	(19.15)	15.0	7.55	先端付面に吊穴	被熱	0325165
189-9	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-3	C8	覆瓦	(32.7)	16.15	9.5			0335563
189-10	新丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	J8	覆瓦	(23.6)	(14.1)	8.3			0335550
189-11	丸瓦	殿瓦	Ⅲ-1	B6	三ノ丸土橋南西 旁石割内	(19.05)	(15.45)	7.35	瓦当側低		0856
189-12	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	G7	覆瓦	(19.0)	(15.3)	7.6	瓦当側低		0325342
189-13	丸瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	-	-	14.0	14.6	11.0	隅が縁に割目		0335737
190-1	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(29.6)	31.7	10.5	下面に割目「口」		0425467
190-2	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(22.8)	(27.35)	6.75			0425208
190-3	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(25.25)	32.9	10.6	被熱		0425533
190-4	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(24.8)	(25.35)	8.6			0425205
190-5	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A8	T74218土層中	(19.35)	30.4	10.9			0425223
190-6	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	G6	3206	(25.4)	(26.3)	11.7	被熱	17C前～後	0325183
190-7	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	C1	34109a群	(25.0)	(19.05)	9.9	被熱	17C後～19C	034533
190-8	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	北堀溝底土層	(8.3)	(52.2)	(8.45)			0425226
190-9	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	D6	3201	(21.9)	(18.3)	11.9		17C前～19C中	0325243
190-10	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	D10	3368	(15.6)	(13.6)	6.55	被熱	19C～近代	034534
190-11	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	P-E2	T7401	(10.5)	(12.5)	5.9			034537
190-12	新平瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	-	-	(11.1)	(29.9)	9.1			0335518
191-1	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(38.3)	(31.6)	7.6	被熱		0425555
191-2	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	D10	3368	(26.8)	31.0	6.4		19C～近代	034547
191-3	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(25.85)	30.1	4.4	吊穴		0425307
191-4	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A7	焼土堆積	(19.4)	31.4	4.0	被熱		0425196
191-5	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	C1	34109a群	(30.5)	(18.5)	(8.5)		17C後～19C	034535
191-6	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	D10	3368	(28.9)	(20.8)	6.1	被熱	19C～近代	034543
191-7	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	F7	T7土層	(15.2)	(18.2)	4.0			0325111
191-8	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1	D10	3368	(16.1)	(14.1)	(5.5)	著しく美熟 空室・留離	19C～近代	034553
191-9	平瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	A8	T74218土層中	(13.2)	(18.0)	3.8	著しく美熟 空室・留離		0425218
191-10	黄甲瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	3206	(10.7)	15.2	11.2	瓦当部分のみ	17C前～後	0425216
191-11	黄甲瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(12.35)	(16.0)	13.45	瓦当部分のみ		0425462
191-12	黄甲瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	焼土堆積	(9.8)	(19.75)	(14.6)	瓦当部分のみ		0425542
191-13	黄甲瓦	殿瓦	Ⅱ-1	-	-	17.6	16.4	9.4	瓦当部分のみ		034554
192-1	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	C8	T74217	(41.5)	15.4	13.0	角形有様式		042555
192-2	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1	A4	造瓦土	(3806)	15.5	11.3	角形有様式		0351
192-3	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1	A4	造瓦土	(17.9)	13.2	8.5	角形無様式		031510
192-4	棟瓦?	殿瓦	Ⅱ-1-5	D10	セクションベルト 216棟土最下面	(38.6)	13.3	8.3	角形無様式		0425286
192-5	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	B8-9	3372S-2	36.6	21.7	15.9	角形無様式	～19C	0335264
192-6	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1-2	F6	32054層	(35.1)	18.3	11.5	角形無様式	17C後～18C前	0325171
192-7	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1	G2	3100 中之馬場南端	34.5	25.7	15.1	角形無様式	17C前～近代	0315109
192-8	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	B8-9	3372S-1	57.2	21.6	17.3	角形無様式 上面に95% 転用?	～19C	0335712
193-1	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-2-3	G7	3308土層	25.8	12.05	11.85	角形有様式 瓦当内縁	17C後～19C中	0335493
193-2	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1-5	J7	4228	(23.5)	12.9	11.3	角形有様式 瓦当内縁	18C後～近代	0425513
193-3	馬券	殿瓦	Ⅱ-1	-	-	(15.55)	15.55	16.65	無様式 被熱		0345199
193-4	棟瓦	殿瓦	Ⅱ-1	-	-	(33.6)	24.6	10.9	細などの様式		0352
193-5	馬券	殿瓦	Ⅱ-2-3	J9	3315	(44.5)	(33.8)	22.2	細などの様式	17C～19C	0335713
193-6	馬券	殿瓦	Ⅱ-2-3	J9	33245	(19.0)	(23.4)	15.9	被熱 保存着	17C後	0335353

第69表 桶・建材観察表

探洞番号	種類	石材	出土地点		計測値 (cm)			備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・短	幅・厚			
194-1	桶	凝灰岩	IV-2	A-4	石列側壁	76.7	19.3	10.2	完形	051587
194-2	桶	凝灰岩	I-4-5	D-9	T4215南側壁	(66.2)	21.4	12.6	～19C中	0285103
194-3	桶	凝灰岩	I-4-5	D-9	T4215南側壁	(34.5)	21.3	12.1		0425469
194-4	桶	凝灰岩	IV-2	A-4	石列側壁	27.6	18.1	10.6		051511
194-5	桶	凝灰岩	V-4-5	I-7	6302	43.8	17.3	5.2	継手を削り出す	063574
194-6	桶	凝灰岩	I-4-6	-	-	95.6	30.2	20.1	片側は側面に開口	043520
194-7	建材	凝灰岩	Ⅲ-1	D-1	最上層	29.2	30.8	24.0	上面に穴	0345366
194-8	柱	凝灰岩	Ⅲ-1	S-1	341090群	15.1	16.0	(42.4)	矢張り 側面に納穴 門柱小	0345211

第70表 石塔類観察表

探洞番号	種類	石材	出土地点		計測値 (cm)			備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	奥行・短	幅・厚			
196-1	宝篋印塔 笠	凝灰岩	三ノ丸	-	南右組下	21.8	21.8	11.2	地盤面 上部欠損	085709
196-2	宝篋印塔 笠	凝灰岩	V-1-3	H5- (55-6)	62003中層	32.6	32.7	21.7	短輪郭 下面勢なし	062545
196-3	宝篋印塔 基礎	凝灰岩	Ⅱ-1・2	F5	3面直下	26.03	26.9	(20.9)	超前式 内側大きい □(建ち) □(口) 石塔一基 ノ字口(直ぐ) □(口) 押定門 □(口) 元口□字本一ノ月十 日(宝篋元一1751年)	0325871
196-4	石塔等の基礎	凝灰岩	Ⅱ-1・2	A3	32139	(19.3)	(29.4)	5.4	灰灰層 竪割	0325220
196-5	五輪塔 空風輪	凝灰岩	Ⅱ-2・3	H7	A13脚 黄色焼土	-	底輪径 15.5	(22.2)		0335537
196-6	五輪塔 空風輪	凝灰岩	中之馬 堀	-	北石組下	-	底輪径 14.3	(12.0)		085323
196-7	五輪塔 水輪	凝灰岩	V-5	B8	近代造成土	17.1	16.8	12.7	梵字「アム」 建立立方体 上部に方形列り込み	085322
196-8	一石五輪塔 (地輪)	凝灰岩	-	-	百閑堀下層	16.7	17.2	(23.3)	「天文十九年」(1550)	075324
196-9	碑	凝灰岩	Ⅱ-1	-	-	(34.8)	(18.2)	8.3	縮刻(宝篋元)	0315105
196-10	不明	凝灰岩	I-4-5	D9	4222	9.5	19.7	5.7	網? 墓陪	0425307
196-11	不明	凝灰岩	I-4-5	D9	4222	(13.6)	(6.6)	4.0	網? 中腹(開土)	0425307

第71表 その他の石製品観察表

探洞番号	種類	石材	出土地点		計測値 (cm)			備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長・短	幅・厚			
197-1	重石	凝灰岩	I-4-5	B5	7428	16.6	16.8	3.95	円筒形、中央孔	0425116
197-2	重石	凝灰岩	Ⅲ-1	A10	7428	15.0	14.6	-	円筒形、中央孔	0345201
197-3	重石	凝灰岩	Ⅲ-3	H4	3352	(13.1)	16.0	5.1	円筒形、中央孔	～19C中 036584
197-4	重石	凝灰岩	I-4-5	C8	4271東2層	13.6	13.9	5.46	円筒形、中央孔	0425283
197-5	重石	凝灰岩	Ⅲ-1	B1	3339石列	16.2	17.4	6.8	円筒形、中央孔	～19C～近代 0425202
197-6	重石	凝灰岩	Ⅱ-2・3	F-7	3205東2層	10.4	8.8	5.7	楕円形、中央孔	19C中～近代 0335598
197-7	重石	凝灰岩	I-4-5	G-H18	3309	15.4	14.3	5.5	円筒形、中央孔	0335218
197-8	重石	凝灰岩	I-2-3	F1	3361(3408)	14.1	14.1	6.7	円筒形、中央孔	19C中 0335329
197-9	重石	凝灰岩	V-4-5	B7	覆瓦	12.8	13.0	5.1	円筒形、中央孔	063526
197-10	重石	凝灰岩	V-5-6	C1・10	5428	11.7	11.5	5.8	円筒形、中央孔	17C後 054531
197-11	重石	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E6	3201層	7.4	9.25	4.5	円筒形、中央孔	17C前～19C中 0425405
197-12	重石	凝灰岩	V-1-3	G3	62009	7.85	(6.7)	3.7	円筒形、中央孔	17C後～19C中 062543
197-13	重石	凝灰岩	Ⅳ-4	F9	5211	7.7	7.9	3.05	円筒形、中央孔	17C後～19C 052572
197-14	重石	凝灰岩	I-4-5	C8	4220層	12.2	13.3	6.35	丸丸形。中央孔	17C～19C直代 0425136
197-15	不明	凝灰岩	I-4-5	B8	4273東3層	19.2	14.7	8.35	丸丸形。横? 横?	0425283
197-16	サ丸	凝灰岩	Ⅳ-4	F9	5212	9.55	6.0	4.0	被焼	17C前～後 0212-1
197-17	サ丸	凝灰岩	I-4-5	E9	4275壁土内	11.5	5.7	4.6	被焼、横付着	0425410
197-18	サ丸	凝灰岩	Ⅳ-5-6	C1	5443	(18.1)	5.3	5.3	粗成形、胸部欠損、被焼	16C末～17C初 0545100
197-19	サ丸	凝灰岩	Ⅲ-1	C10	34346側方	(13.1)	6.0	5.0	粗成形、胸部欠損、被焼、横付着	16C末 0345206
197-20	網の子	凝灰岩	Ⅲ-3	E1	3408	9.7	8.9	7.5	縮刻具粗成形	19C中 036585
197-21	網の子	凝灰岩	V-5	E3	6144	9.15	5.4	4.3	縮刻具粗成形	17C初～後 0415243
197-22	網	凝灰岩	I-4-5	B5	74214	8.7	12.0	8.0	縮刻交差状	0415243
197-23	網	凝灰岩	V-4-5	A9	5344	4.05	4.5	4.35	縮刻	17C中 05359
197-24	軽石 火砂物	凝灰岩	Ⅱ-3	H5	62002	11.2	8.85	4.0	孔痕残る	19C～近代 062544
197-25	軽石 火砂物	凝灰岩	Ⅱ-1	J3	造成土	7.1	8.6	2.1	円孔	031590
197-26	軽石 火砂物	凝灰岩	Ⅲ-3	F3	36026	7.1	4.05	1.85	円孔	036579
197-27	軽石 火砂物	凝灰岩	Ⅱ-1	J3	3111	5.5	4.9	4.9	円孔	031594
198-1	付録板	凝灰岩	Ⅱ-1・2	E5	3201a・b層	10.45	11.6	11.05	上面・側面に朱漆	17C前～19C中 0325121
198-2	短穴	凝灰岩	Ⅱ-2・3	J9	上層	6.75	5.6	3.4	中空、側面の一部	0335223
198-3	人形	凝灰岩	Ⅲ-3	F-3 7-8	3325	7.7	3.8	-	猫形?	16C後・ 17C後～19C 0335744
198-4	人形	凝灰岩	I-4-5	A6	T7西側下層	6.8	5.0	3.5	猫形? 猫形? 猫形?	0425525
198-5	人形	凝灰岩	I-4-5	C9	T74214	5.4	3.55	5.0	猫形? 猫形?	0425444
198-6	人形	凝灰岩	Ⅳ-5-6	B2	5401下層	4.95	4.1	3.7	竹の淵、川原石	19C中～近代 05454
198-7	不明	凝灰岩	Ⅱ-2・3	B1	T71177・3層	3.2	5.3	3.6	赤土、縮刻?	0325147
198-8	不明	凝灰岩	Ⅲ-3	H4	36210	5.05	5.05	4.4	被焼、横付着、納穴	16C後～末 036586
198-9	石塔	凝灰岩	Ⅳ-2	G7	5142	(4.0)	(5.8)	1.2	小片	17C中～18C前 051544
198-10	石塔	凝灰岩	Ⅱ-1	J4	3163	12.5	11.95	5.9	被焼、一部横付着	17C後 031548
198-11	石塔	凝灰岩	Ⅱ-1・2	A3	3265第1面	10.5	9.9	7.4	円孔、一部横付着	0325436
198-12	不明	凝灰岩	Ⅱ-1・2	I2	T7212	9.5	9.9	6.4	重石?	0325153
198-13	不明	凝灰岩	Ⅲ-3	E-F8	網付不明	8.3	7.3	7.1	木製品?	055511
198-14	同底	凝灰岩	Ⅳ-4	I17	5201 4層	2.05	1.0	1.0	同底	19C前～近代 0525106
198-15	彈丸	凝灰岩	V-1-3	F8	35134	1.0	1.05	0.95	同底	17C～19C中 035559
198-16	彈丸	凝灰岩	Ⅲ-1	D2	最上層	0.95	1.0			0345221

第72表 基石観察表

碑番号	種別	素材	屋敷	地区	土地地点	遺長・幅	高さ	厚さ	備考	出土遺物の主な 遺物の時期	遺物番号
第130-1	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	J9	Ⅷ	2.3	2.25	0.5	円形		031588
第130-2	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	J3	3111	2.2	2.2	0.4		19C前	031597
第130-3	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	B4	31102	2.1	1.6	0.5		16C後～末	031598
第130-4	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.3	2.1	0.5			031599
第130-5	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.4	1.85	0.5			0315100
第130-6	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.4	2.0	0.6			0315101
第130-7	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.25	1.8	0.8			0315102
第130-8	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.4	1.65	0.45			0315103
第130-9	黒石	粘板岩	Ⅱ-1	A5	造成土	2.4	2.0	0.8			0315104
第130-10	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	E6	3201a+b層	2.35	2.2	0.5	円形	17C前～19C中	0325258
第130-11	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	E6	3201a+b層	2.2	(2.0)	0.3	円形	17C前～19C中	0325274
第130-12	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	J2	3271	2.25	2.15	0.55		17C後～18C前	0325218
第130-13	白石灰	粘板岩	Ⅱ-1+2	B3	3211	2.3	2.25	0.45	円形 灰色		0325413
第130-14	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	B3	7210	2.5	1.8	0.45		18C後	0325519
第130-15	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	B3	7210	2.4	2.15	0.6			0325520
第130-16	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	J2,3	第1面敷地	2.1	2.05	0.5	円形		0325521
第130-17	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	D4	3201d層	2.2	2.1	0.35	円形	17C前～19C中	0325522
第130-18	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2	J3	3134c下層	2.2	2.15	0.4	円形	17C中～後	0325523
第130-19	黒石	粘板岩	Ⅱ-1+2		Ⅷ	2.2	(2.2)	0.5			0325524
第130-20	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	H3	7339	2.2	2.2	0.5	円形		0335613
第130-21	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	H2	跡土上面	2.2	(2.1)	0.5	円形		0335614
第130-22	白石灰	粘板岩	Ⅱ-2-3	H4	跡土上面	2.25	2.25	0.5	円形 淡黄灰色		0335615
第130-23	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	G7	T363跡土層内	2.25	2.25	0.45	円形		0335628
第130-24	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	G4	二層	2.2	2.2	0.4	円形		0335632
第130-25	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	H2	ハ層跡土面	2.2	2.2	0.5	円形		0335634
第130-26	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	H1-G3	33137	2.2	2.2	0.45	円形	17C初～後	0335635
第130-27	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	H7	7342	2.2	2.1	0.45	円形		0335636
第130-28	黒石	粘板岩	Ⅱ-2-3	J8	33255・3325	2.2	2.2	0.45	円形	16C末～17C前 17C後	0335657
第130-29	黒石	粘板岩	Ⅲ-1	A1	34107	2.0	1.98	0.73	円形	19C	0435223
第130-30	黒石	粘板岩	Ⅲ-1	C1	34157	2.1	1.7	0.32	円形	(16C末～)17C初	0435225
第130-31	黒石	粘板岩	Ⅲ-1	D1-2	34702下層	2.15	1.7	0.8	円形	17C中～後	0435226
第130-32	白石灰	粘板岩	Ⅲ-1-3	B7	3516(3532)	2.15	2.1	0.45	円形 灰色	19C	03558
第130-33	黒石	粘板岩	Ⅲ-1-3	D7	3516	2.1	2.1	0.4	円形		035515
第130-34	黒石	粘板岩	Ⅲ-1-3	D7	Tr	2.05	2.05	0.4	円形		035517
第130-35	黒石	粘板岩	Ⅲ-1-3	D7-8	A層色層	2.1	1.9	0.38	円形		035534
第130-36	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H2	36176	2.2	1.9	0.5	円形	17C初	036565
第130-37	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	G3	ハ層	2.1	2.1	0.45	円形		036566
第130-38	白石灰	土製	Ⅲ-3	E2	3408	1.83	1.8	0.7	円形 薄褐色	19C中	036567
第130-39	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	E2	3408	2.2	2.18	0.5	円形	19C中	036568
第130-40	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	J3	ハ層	2.3	1.95	0.7	円形		036569
第130-41	白石灰	粘板岩	Ⅲ-3	G3	ハ層	2.1	2.05	0.45	円形 黄灰色		036570
第130-42	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	G-P2	ハ層	2.1	2.05	0.42	円形		036571
第130-43	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	G2-3	ハ層	2.1	2.05	0.45	円形		036572
第130-44	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	J3	33110	2.45	2.15	0.85	表:黒灰色 裏:灰色	17C～19C	036573
第130-45	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36087	2.6	2.1	0.65	円形	18C後～19C前	036574
第130-46	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36139跡土中	2.5	2.2	0.58	円形	17C初	036575
第130-47	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36139跡土中	2.05	1.7	0.5	円形	17C初	036576
第130-48	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H3	二層	2.1	2.1	0.5	円形		036577
第130-49	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H3	36220	1.7	1.6	0.55	円形	17C中～後	036578
第130-50	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	E2-1	36076下層1	2.2	1.5	0.6	円形	17C後	036598
第130-51	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H3	ハ層	2.2	2.2	0.4	円形		036599
第130-52	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36007	1.75	1.7	0.55	円形	18C後	0365100
第130-53	白石灰	粘板岩	Ⅲ-3	H4	36053	2.05	1.5	0.45	円形	17C前～後	0365101
第130-54	黒石	粘板岩	Ⅲ-3	F2	ハ層	2.2	2.2	0.42	円形		0365102
第130-55	黒石	粘板岩	Ⅲ-3-1	C2	4131	2.0	2.05	0.48	円形	17C後玉体	041536
第130-56	黒石	粘板岩	Ⅲ-3-1	G5	褐色粘板岩	2.3	1.7	0.6	円形		041537
第130-57	黒石	粘板岩	Ⅲ-3-1	H5	大1.75層	2.2	2.15	0.5	円形		041538
第130-58	白石灰	灰岩	Ⅲ-4-5	C9	G層	2.5	2.2	0.7	黄灰色		042548
第130-59	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	C8	二層	2.1	2.0	0.45	円形		0425385
第130-60	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	C9	Ⅷ3-4層	2.15	2.1	0.41	円形		0425386
第130-61	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	C8	T4217Ⅷ3層	2.1	2.1	0.5	円形		0425387
第130-62	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	B7	Ⅷ2層上層	2.2	2.1	0.45	円形		0425388
第130-63	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	B8	T4202Ⅷ2層	2.3	1.7	0.36	円形		0425389
第130-64	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	B8	T4217	2.15	2.1	0.5	円形		0425390
第130-65	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	J6	D・E層	2.15	2.05	0.36	円形		0425391
第130-66	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	D10	跡土中	2.5	1.85	0.55	円形		0425392
第130-67	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	D9	Ⅷ2層	2.15	2.1	0.45	円形		0425393
第130-68	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	1-36-7	4229	2.2	2.1	0.6	円形	～近代	0425394
第130-69	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	B7	4232	2.1	2.05	0.46	円形	18C後～19C中	0425395
第130-70	白石灰	粘板岩	Ⅲ-4-5	B8	Ⅷ3層	2.1	2.1	0.51	円形 灰色		0425396
第130-71	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	C9	G層	2.15	2.15	0.5	円形		0425397
第130-72	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	J7	跡土層	2.2	2.2	0.53	円形		0425398
第130-73	黒石	粘板岩	Ⅲ-4-5	H7	42123	2.2	2.15	0.35	円形	17C後	0425610
第130-74	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	B5	跡土層	2.6	2.0	0.5	円形		051586
第130-75	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	G9	5202上層	2.13	2.1	0.45	円形	18C後～19C	0525277
第130-76	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	J8	5201.1-2層	2.3	2.1	0.58	円形	(17C後～)19C前	0525880
第130-77	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	H8	-	2.1	2.0	0.4	円形		0525106
第130-78	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	G9	5252	2.38	2.35	0.52	円形	17C後～19C	0525107
第130-79	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	E3	61044	2.4	2.1	0.58	円形	17C初～後	061560
第130-80	黒石	粘板岩	Ⅲ-4	E3	1層	1.7	1.6	0.38	円形		061574

第6章 その他の調査地点の遺物

その他の調査地点とは、第1分冊第6章で「城の橋通地点の調査」として報告した高架排水路設置工事立会地点(04-2)・街路整備工事立会地点(04-3・4)と、2004年に報告書を刊行した「JR北陸線外2線連続立体交差事業および高架側道4号線街路工事地点(以下、4号線地点)」である。

工事立会(04-2～4)の出土遺物を城の橋通地点の遺物とし、種別ごとに報告する。また、4号線地点の既刊報告書では石製品の掲載が一部に限定されたため、ここで未掲載の石製品を報告する。

第1節 城の橋通地点の土器・陶磁器(第119・200図)

04-2・3地点の出土遺物を掲載した。04-3地点は、城下絵図によると「城ノ橋町」にあたり、町屋3軒と道路が見つかった。遺構は4面確認されたが、ここでは2・3層目の出土遺物を中心に紹介する。

伊万里 草花文の腰張碗(1)や見込の地を藍染にした草花文皿(2)、秋草文皿(3)、素描の鳳凰文杯(5)など17世紀後葉～18世紀前半までの製品が多い。細片ではあるが、高台部が小さく見込に草花文と蝶を描く皿(4)のように17世紀中葉に遡るものもある。

唐津焼 高台部のケズリがやや荒い灰釉系の端反碗(7・8)、透明釉が施された丸碗(6)のほか、一部に緑釉をかけ、さらに上から透明釉を施した碗(9)がある。また、灰釉段皿は腰部以下が露胎で畳付に回転系切跡を残す。これらは、いずれも17世紀後半頃を中心とする製品であろう。10は、断面三角形の口縁にのみ鉄泥を施したⅡ期の(描)鉢である。

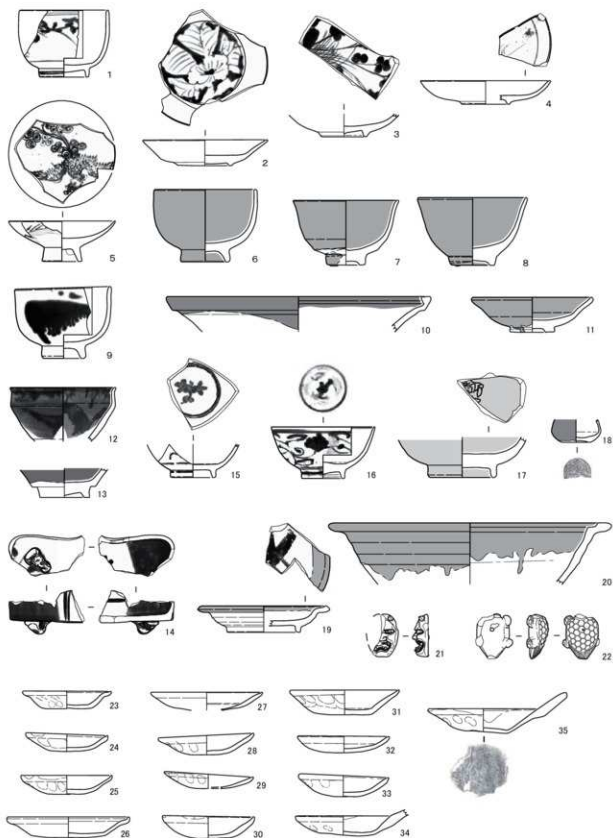
瀬戸・美濃焼 褐釉にやや粘度の低い鉄釉を二重がけした天目茶碗(12)は大窯Ⅳ期の製品で、13は高台部が露胎で大きく高いところから、連房Ⅰ～Ⅱ期の製品であろう。14は板作りの織部向付で、脚を貼り付ける。19は緑釉の皿で、見込には鉄絵を描くが軸は施されていない。薄い作りで底部に回転系切跡を残す小壺(18)は茶入と推定される。20は口縁部に灰釉が施された古瀬戸後期様式の折縁鉢で、15世紀中頃に遡る製品である。

中国製陶磁器 17は15世紀後半～16世紀前半の遺跡から多数出土する龍泉窯系の青磁碗で、見込に印花文がある。16は外面が崩れた唐草文、見込が雲文の漳州窯系の染付碗で、畳付が露胎となっている。15も同じく漳州窯系の碗で、いずれも16世紀後葉～17世紀初めにかけての製品である。

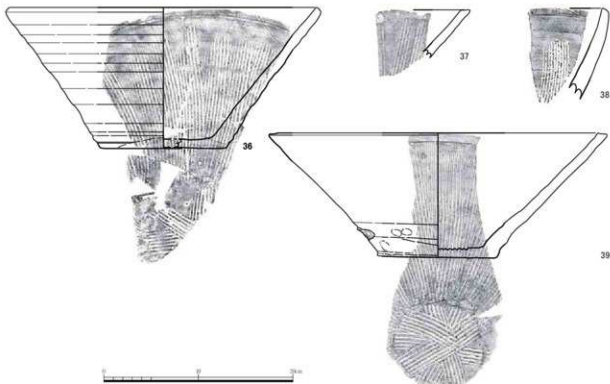
越前焼 37・39は口縁端部を水平にカットした擂鉢で、36・38は口縁部が丸みを持つ擂鉢である。口縁の形態は異なるが、ねじたて成形後に外面に回転ナデ調整を施す。鉄泥は塗られていないことから、いずれもⅥ～Ⅶ期の製品であろう。

土師質皿 手捏ね成形後、見込まで親指を入れ、曲げた人差し指を口縁部に当てて回しナデ調整するC系(24・25・28～30・32・33)、同じく手捏ね成形後、見込端まで入れた親指と口縁部に当てた曲げた人差し指とで挟みナデしたD系(23・26・27)がある。なお、34はC系に把手を付けたもので、35はD系に把手を付けたものである。

その他 21は縦の長さが4.5cmほどの般若面のミニチュアである。表面には黒銀色に光る交趾釉が施される。おそらく京焼もしくはその影響を受けた国焼であろう。22は亀のミニチュアで固めに焼いた素焼きの上に銀粉を塗ったような痕がある。



第199図 城の橋通地点出土土器・陶磁器① (縮尺1/4)



第200図 城の橋通地点出土土器・陶磁器②(縮尺1/4)

第73表 城の橋通地点(04・2・3)出土土器・陶磁器観察表

図面 番号	器 種	陶磁器・産地 土師器・白土	出土遺構等	寸法 (cm)			成形・調整	胎土・装飾・その他	備 考
				口径	底径	高さ			
1	甕	伊万里	B家 井戸敷方	(9.4)	(5.0)	2.1	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	染付。外1筋露出。	遺物
2	甕	伊万里	B家 2 册	(13.2)	5.8	2.75	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	染付。見1筋露出。	遺物
3	甕	伊万里	B家 上面結束	—	4.6	2.4	ロウロ成形。削出高台。	染付。見1筋露出。全周露出後、各行露出。	遺物
4	甕	伊万里	A家 2 册	(13.8)	(5.0)	2.5	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	染付。見1筋露出。	遺物
5	甕	伊万里	A家 2 册	(11.3)	4.2	4.5	ロウロ成形。削出高台。高台内無飾。	染付。見1筋露出。	遺物
6	甕	唐津	B家 2 册	10.7	5.0	7.7	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	灰被土。高台内無飾。	遺物
7	甕	唐津	A家 土器部B	11.2	4.0	6.9	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	灰被土。高台内無飾。	遺物
8	甕	唐津	A家 土器部B	(11.6)	4.6	7.3	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	灰被土。高台内無飾。	遺物
9	甕	唐津	B家 2 册	10.2	4.25	7.6	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	灰被土。高台内無飾。	遺物
10	甕	唐津	A家 2 册	(12.0)	—	(3.9)	ロウロ成形。	灰被土。高台内無飾。	遺物
11	甕	唐津	C家 集石5	12.9	4.7	3.7	ロウロ成形。削出高台。帯1筋露出。	灰被土。高台内無飾。	遺物
12	天目系陶	唐津	B家 2 册	11.2	—	(5.7)	ロウロ成形。	灰被土。高台内無飾。	遺物
13	天目系陶	唐津	A家 2 册	—	5.2	3.0	ロウロ成形。削出高台。	灰被土。高台内無飾。	遺物
14	天目系陶	唐津	A家 1 册	(14.0)	(4.6)	(4.6)	削出高台。	灰被土。高台内無飾。	遺物
15	甕	中国	A家 2 册	—	4.8	(3.6)	ロウロ成形。削出高台。	灰被土。高台内無飾。	遺物
16	甕	中国	B家 2 册	10.9	4.6	5.5	ロウロ成形。削出高台。高台内(帯)無飾。	染付。外1筋露出。見1筋露出。	遺物
17	甕	中国	04・2 右横下	—	(6.9)	(4.3)	ロウロ成形。削出高台。	青磁。見1筋露出。	遺物
18	茶入	唐津	B家 2 册	—	2.9	3.8(残)	ロウロ成形。	灰被土。高台内無飾。	遺物
19	茶入	唐津	B家 2 册	(14.0)	(7.6)	2.8	ロウロ成形。削出高台。	灰被土。高台内無飾。	遺物
20	茶入	唐津	04・2 右横下	(20.0)	—	(6.5)	ロウロ成形。	灰被土。高台内無飾。	遺物
21	人形(磁)	—	A家 2 册	長4.5	幅2.7	高1.8	型押し。	灰被土。高台内無飾。	遺物
22	人形(磁)	—	A家 2 册	長4.2	幅3.9	高2.3	型押し。	灰被土。高台内無飾。	遺物
23	土師器	○	B家 上面結束	(9.4)	—	1.85	手捏ね。口内1筋みず。見1筋みず。	明褐色。	D系2
24	土師器	○	A家 土器部B	8.7	—	2.0	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系1。内外面に灰被土。
25	土師器	○	A家 土器部B	9.7	—	2.05	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系1
26	土師器	×	B家 2 册	(13.0)	—	2.2	手捏ね。口内1筋みず。見1筋みず。	明褐色。	D系1。面被土。
27	土師器	○	B家 2 册	11.8	—	(1.9)	手捏ね。口内1筋みず。見1筋みず。	明褐色。	D系2
28	土師器	○	A家 土器部B	9.1	—	2.45	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系1。金属系の付着物。
29	土師器	○	B家 2 册	9.5	—	1.8	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系1。
30	土師器	○	B家 2 册	9.8	—	2.5	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系1。面被土。
31	土師器	×	B家 2 册	21.8	—	2.2	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	D系1
32	土師器	○	A家 3 面被土上	9.7	—	1.8	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系2
33	土師器	○	C家 集石5	9.6	—	2.4	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系2
34	土師器	○	A家 3 面被土上	(12.0)	10.2	3.0	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	C系2
35	土師器	○	B家 2 面被土上	長14.6	径11.4	4.7	手捏ね。口内1筋みず。外1筋みず。	明褐色。	D系1
36	土師器	唐津	B家 集石6	32.8	12.7	13.2	ねじり成形。外1筋みず。縁付12条。	—	遺物
37	土師器	唐津	B家 上面結束	—	—	(5.0)	ねじり成形。縁付10条。	—	遺物
38	土師器	唐津	A家 2 册	—	—	(7.2)	ねじり成形。	—	遺物
39	土師器	唐津	A家 1 册	135.3	12.4	13.0	ねじり成形。外1筋みず。縁付8条。	—	遺物

※17・29のみ4・2地区出土。他は04・3地区出土。

第2節 城の橋通地点の金属製品(第201・202図)

工事立会時に50点を採取し、そのうち残存状態の良好な21点を提示した(第201・202図、第74・75表)。内訳は、煙管9点(雁首3点・吸口6点)、工具等3点、銭貨9点である。

煙管(201-1～9) 雁首は、脂返しと胴部を綫線で表現するもの(1)と、脂返しを区別されず直線的に延びるもの(2・3)がある。2には双葉状の線刻模様がある。3は羅字側に数条の綫線がある。吸口は、羅字側に数条の綫線があるもの(4)、無文のもの(5～8)、隅丸方形の模様があるもの(9)がある。無文のものは、吸口孔のすばまるもの(5・8)と、すばまらないもの(6・7)がある。9の内部には羅字の一部が残存する。なお、雁首3と吸口4は、同一製品を構成したもののようである。

工具等(201-10～12) 鋸(10)は大型の丸鋸である。釘(11)は、頭部を屈曲して形成する皆折釘である。針金状製品(12)は、全体に少しずつ曲がり、当初の姿を留めるか否か不明な製品である。

銭貨(202-1～9) 景德元寶(1)、天聖元寶(2)、聖宋元寶(3)、寛永通寶(古寛永:4～8、新寛永:9)がある。8は中央の方形孔を円形に磨いて広げている。9は「元」の背文がある。

第3節 城の橋通地点の石製品(第203～205図)

工事立会時に約30点を採取し、残存状態の良好なもの21点を提示した(第203～205図、第76表)。その内訳は、容器類4点、暖房具4点、井桁3点、硯2点、砥石4点、錘1点、石瓦4点である。

容器類(203-1～4) いずれも小片であるが、槽型とみられる平面形が長方形のもの(1～3)と水盤とみられる丸みを帯びたもの(4)がある。1～3は、3の外縁が鑿痕の残る粗い調整である以外、内外面が平滑に仕上げられている。4は、外面に廉加工が施され、内面は平滑に仕上げられる。

暖房具(203-5～8) 6～8はバンドコ(行火)である。6はD型のやや扁平な蓋、7は楕円型の蓋である。8は、楕円型の身の正面下部の破片であり、方形の煙出し孔痕が3つある。5は、平面形が長方形だが、バンドコの蓋と同様なやや膨らんだ天井部を形成し、周縁部下面に返しを削り出しており、被熱し煤が付着する。バンドコよりも大きく、置火鉢のようなものの蓋になることが考えられる。

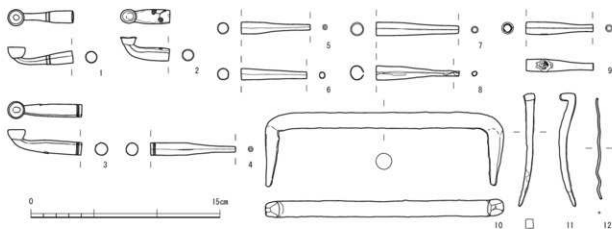
井桁(204-1～3) 1～3は一つの井戸(FKJ04-3井戸01)の上部構造(井桁)を構成していた。1・2は内面の両端付近に縦長の柄穴が穿たれる。3は片側しか残存しないが、端に縦に長い柄が削り出される。2・3は、外面縁の9cm前後の幅が数cm高く削り残される意匠で共通する。2は外面四周に、3は外面の上下縁に削り出されていたようである。1のみ異なるのは追補品であるからかもしれない。なお、1・2の柄穴間の幅は一致する。

硯(205-1・2) 長さ数十cmの一般的な規格のもの(1)と、長さ20cmにおよぶとみられる大型のもの(2)がある。1は縁が部分的に欠損する。2は、全体が破片となった状態で出土しており、海部分を欠失する。また、2は使用により硯面が著しく変形する。

砥石(205-4～7) 扁平だが幅の広いもの(4)、扁平で幅の狭いもの(5・7)、自然のままの形状を残す扁平なもの(6)がある。いずれも破損して小片となり、本来の長さは不明である。

錘(205-3) サルと呼ばれる鉤に吊った鍋の傾きを調整する錘である。全面を平滑に仕上げる。

石瓦(205-8～11) 軒丸瓦(8)は、瓦当下部と棟側連結部を欠くが、下面に釘掛け孔痕が残る。丸瓦(9)は軒側を大きく欠く。連結面は半円形よりやや狭く、連結突起の上面は緩く膨らむのみで稜が付かない。軒平瓦(10)は、瓦当を部分的に欠き、棟側を大きく欠く。平瓦(11)は、軒側先端と棟側の大半を欠く。下面には先端から15cmまでの部分が連結面として削り込んで平滑に仕上げられる。



第201図 城の橋通地点出土金属製品 (縮尺1/3)



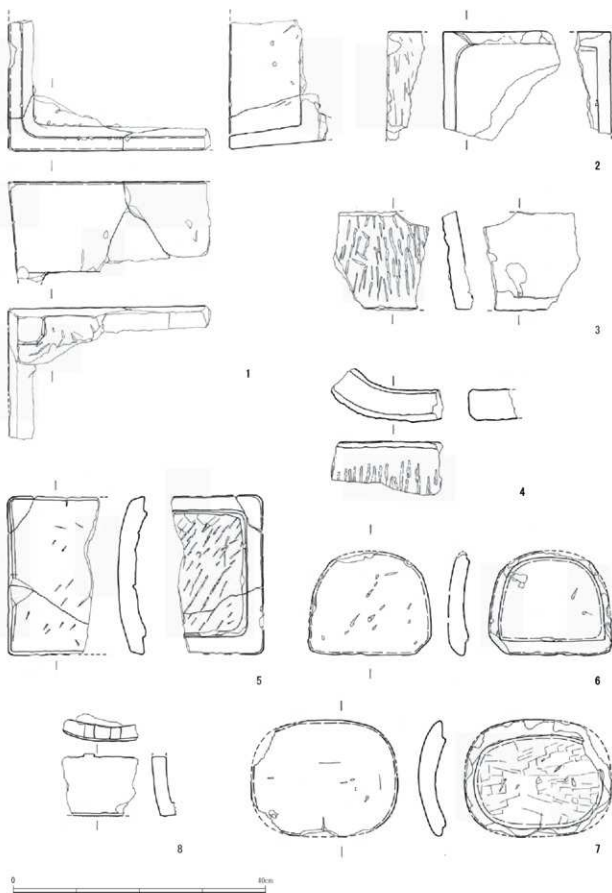
第202図 城の橋通地点出土銭貨 (縮尺1/2)

第74表 城の橋通地点出土金属製品観察表

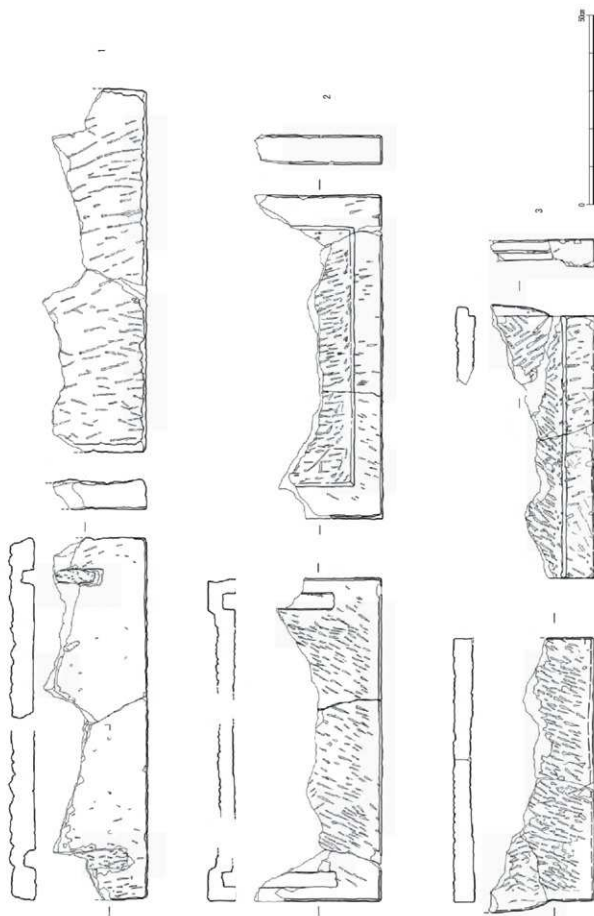
発掘番号	種別	材質	出土地点		計測値 (mm, g)						備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			地区	遺構・層位	全長	全高	最大径	穴径	穴間高	重量			
201-1	棒管 (棒首)	銅	04-3	B家 2層(焼土層)	5.2	1.4	1.0	1.3	0.9	7.0	棒管部なし、類似耐付	17C	M43020
201-2	棒管 (棒首)	銅	04-3	B家 2層(焼土層)	3.9	1.9	0.9	1.25 [1.1]	0.6	9.0	棒管部・耐なし、 線刻模様あり	17C	M43019
201-3	棒管 (棒首)	銅	04-3	A家 南北溝01	5.9	2.0	1.0	1.3	0.8	5.0	棒管部・耐なし 4 (M43001) と対	17~19C後	M43007
201-4	棒管 (棒口)	銅	04-3	A家 南北溝01	6.7	1.0	0.4			7.0	耐なし 3 (M43007) と対	17~19C後	M43001
201-5	棒管 (棒口)	銅	04-3	A家 南北溝01	5.5	0.9	0.4			9.0	耐なし	17~19C後	M43002
201-6	棒管 (棒口)	銅	04-3	A家 南北溝01	5.2	0.9	0.5			7.0	耐なし、吸口孔広い	17~19C後	M43003
201-7	棒管 (棒口)	銅	04-3	A家 南北溝01	6.55	1.0	0.5			8.0	耐なし、吸口孔広い	17~19C後	M43005
201-8	棒管 (棒口)	銅	04-3	B家 2面下	6.6	1.1	0.4			5.0	耐なし	17C後~18C前	M43022
201-9	棒管 (棒口)	銅	04-4-2	南側列96	5.3	0.9	0.55			10.0	耐なし、棒管あり 継ぎ一部残る		M442003
201-10	丸鋸	鉄	04-3	A-B境 (1尺遺構)	全長 18.9	幅 5.9	厚 1.3			200.0	丸鋸		M43038
201-11	管折釘	鉄	04-3	最上層	全長 9.0	幅 0.6	厚 0.7	穴径 0.6	穴間高 0.9 1.3	18.0	管折釘	17~19C	M43032
201-12	針金状 製品	銅	04-3	A家 南北溝01	8.0	1.0				1.0		17~19C後	M43012

第75表 城の橋通地点出土銭貨観察表

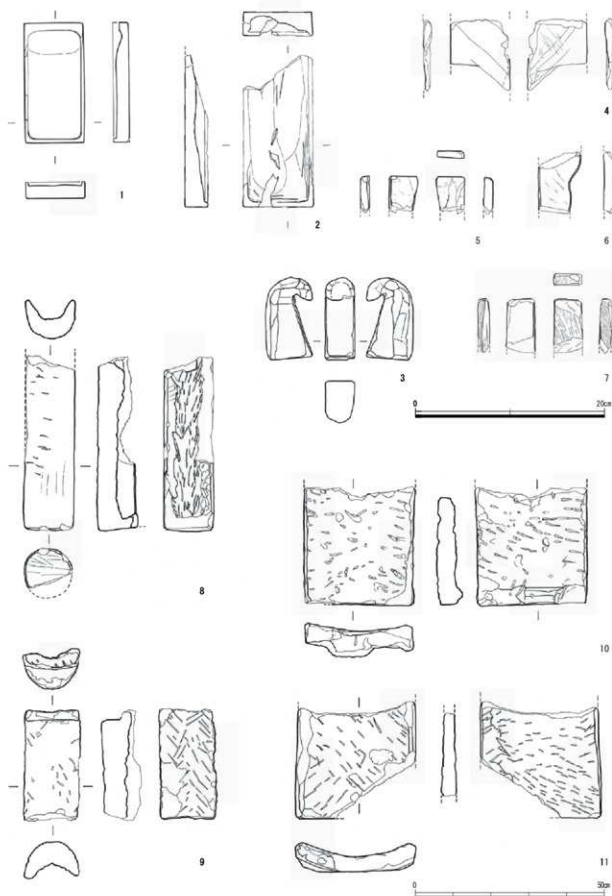
発掘番号	地区	層位	遺構・層位	銭文	初鋳	計測値 (mm, g)				備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
						径	内径	孔径	重量			
202-1	04-4	遺跡	円筒層下	景徳元寶	北宋1094	24.5	20.5	6.5	2.4	真鍮	17~19C	043M001
202-2	04-3	B家	2層(焼土層)東側	大聖元寶	北宋1023	24.7	19.7	6.5	3.0	真鍮 銭文不鮮明	17C	043M016
202-3	04-3	C家	集石05	聖宋元寶	北宋1101	24.5	19.0	6.2	3.0	真鍮 面まわり不良	17C中~後	043M017
202-4	04-2b	西井外記	石樋上ゴミ層内	寛永通寶	日本1636	24.0	20.5	6.0	3.6	古寛永	17C中~	043M001
202-5	04-3	A家	2層(焼土層)	寛永通寶	日本1636	24.5	19.5	6.0	3.6	古寛永	17C	043M015
202-6	04-3	C家	集石05	寛永通寶	日本1636	24.5	19.5	5.6	3.4	古寛永	17C中~後	043M018
202-7	04-3	B家	2層(焼土層)東側	寛永通寶	日本1636	24.5	19.5	4.5	3.0	古寛永	17C	043M024
202-8	04-3	A家	南北溝01	寛永通寶	日本1636	24.0	20.5	8.0	2.8	古寛永 孔を円く磨く	17~19C後	043M010
202-9	04-2b	西井外記	石樋上ゴミ層内	寛永通寶	日本1697	22.6	18.2	6.5	1.9	新寛永 背1元 継ぎ	17C中~	042M002



第203図 城の橋通地点出土石製品 容器類・行火(バンドコ) (縮尺1/6)



第204図 城の橋通地点出土石製品 井桁 (縮尺 1/10)



第205図 城の橋通地点出土石製品 碗・砥石・石瓦等（縮尺1/4・1/10）

第76表 城の橋通地点出土石製品観察表

発掘番号	種別	石材	地区	建物	遺構・部位	計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
						長・短	幅・厚	高さ	厚さ			
203-1	容器類	凝灰岩	04-3	B家	上面井戸付近	(32.2)	(18.9)	-	-	方形 脚付 横か	-	043521
203-2	容器類	凝灰岩	04-3	A家	1層	(18.7)	(17.1)	(5.9)	-	方形 横か	～19C	043510
203-3	容器類	凝灰岩	04-3			(15.2)	(15.8)	-	3.0	方形 横か	-	043522
203-4	容器類	凝灰岩	04-3		上層(覆瓦付)	-	(17.7)	(8.6)	5.0	盤 外面磨面型	-	043515
203-5	圓火鉢蓋	凝灰岩	04-3	B家	上面井戸付近	25.5	(14.4)	4.55	-	方形 保存者 修理による磨面痕	-	043520
203-6	行火身	凝灰岩	04-4-1		石垣周辺	(9.95)	(12.0)	-	2.3	楕円型	-	044152
203-7	行火蓋	凝灰岩	04-3			16.4	19.8	3.5	-	匚型	-	043511
203-8	行火蓋	凝灰岩	04-3	A家	2・3層 (覆瓦付)	18.3	23.5	4.5	-	楕円型	17C	043514
204-1	井戸枠	凝灰岩	04-3	B家		-	95.8	(27.0)	8.0	板状 縁厚約1.5cm	-	043531
204-2	井戸枠	凝灰岩	04-3	B家		-	85.6	(33.5)	7.6	板状 厚縁約9cm分厚	-	043531
204-3	井戸枠	凝灰岩	04-3	B家		-	(73.0)	(28.3)	5.5	板状 厚縁約9cm分厚	-	043532
205-1	硯	粘板岩	04-3			12.65	6.4	1.7	-	使用により大きく摩耗	-	04354
205-2	硯	粘板岩	04-4-2			(15.5)	7.5	2.45	-	使用により大きく摩耗	-	044252
205-3	平瓦	凝灰岩	04-3	B家	貼床	4.9	3.0	3.5	-	ほぼ全面に保存者	17C中～後	043518
205-4	砥石	粘板岩	04-3	B家	重石	(7.6)	6.3	-	0.85	-	17C後	04356
205-5	砥石	粘板岩	04-3	B家	2層(横土割)	3.9	3.0	-	1.0	-	17C	04357
205-6	砥石	粘板岩	04-3	A家	2層(横土割)	(6.6)	3.5 / 4.2	-	1.0	田原石の一面を使用	17C	04358
205-7	砥石	粘板岩	04-3	A家	2層(横土割)	(5.6)	3.0	-	1.2	-	17C	04355
205-8	軒丸瓦	凝灰岩	04-10	西井外記	石垣にぎす溝内	(45.5)	13.3	10.1	-	-	17C中～	04351
205-9	丸瓦	凝灰岩	04-4-1		石垣周辺	(29.8)	14.7	10.5	-	-	-	044151
205-11	平瓦	凝灰岩	04-4-1			溝底長さ2.6	溝底幅4.5	-	-	-	-	044153
205-10	軒平瓦	凝灰岩	04-4-1			(30.3)	31.8	7.6	-	-	-	044154
						溝底長さ3.3	溝底幅4.8	-	-	-	-	
						(51.0)	29.1	7.5	-	-	-	
						瓦当厚4.0	瓦当高8.3	-	-	-	-	

第4節 高架側道4号線地点の石製品

調査で採取した285点のうち85点を図化し得た。ここでは既報告分(第72集第100図)を除く82点を提示した(第206～212図、第77～82表)。以下、容器類、行火、硯、砥石、石瓦、その他とする。

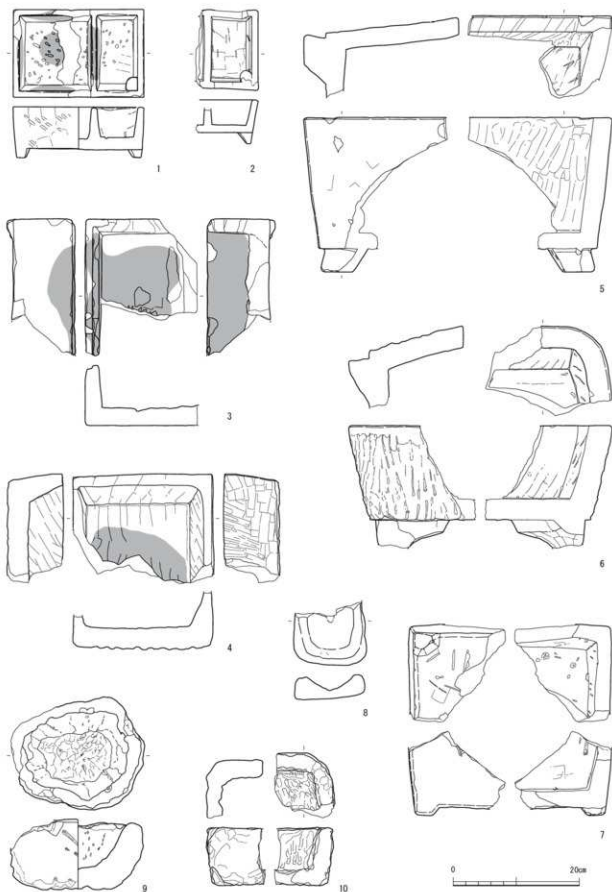
容器類(第206図、第207図1～7) 206-1・2は、四脚の付く盤型で中仕切りがあり、煙草盆として使用したものと考えられる。206-3・4はともに底面が被熱し煤が付着する。3は四脚が付く。206-5～7は、大型品の一部の破片であり、全容が把握し難い。いずれも四脚が付くが、6のみ隅が丸みを帯び、外面に簾加工が施される。206-8～10・207-5は転用材を加工した粗製の容器状製品である。207-5は内面が被熱し煤が付着する。207-1～3は鉢型で外面に簾加工が施される。207-3のみ煤が付着するが、形状から本来は水盤であったとみられる。207-4は深鉢もしくは甕形の大型品である。207-6・7は、内側に烏や立石を削り出した水盤である。6は粗製であり、7は周囲を平滑に仕上げている。

行火(バンドコ)(第208図) 1・2は楕円型、3～7はD型の蓋である。8は円形の大型品の蓋である。9は楕円型、10・11はD型の身である。12・13は楕円型の小型品である。12は蓋で、上面に梅木や沢瀉の葉状の線刻画があり、花の中央や模様の間隙に煙出し孔が穿たれる。13は身小片である。

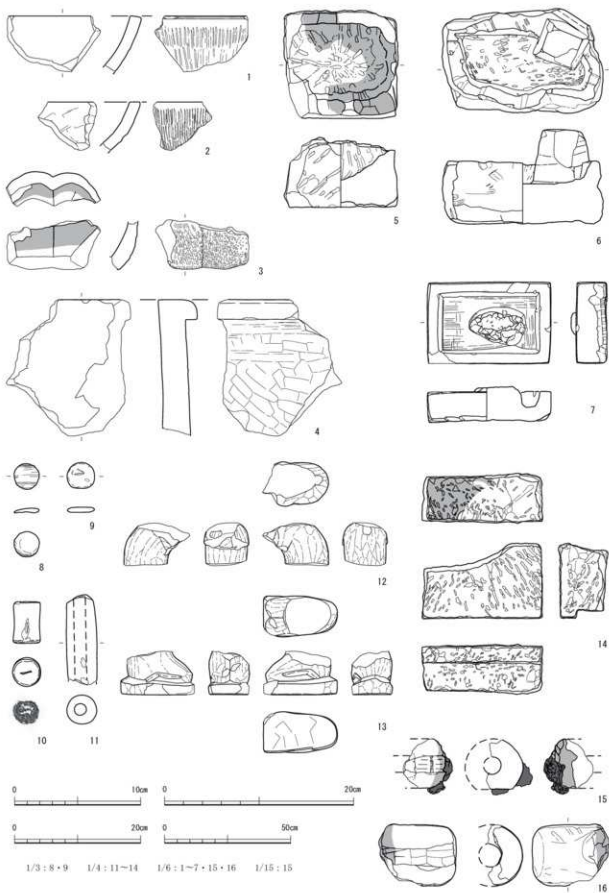
硯(第209図5～11) 5～7は小型品であるが、6は他製品から切り離して海を掘り産めた自家製である。8は破片であり、硯背に「尾石」と刻まれるが、その前の文字を欠く。9～11は、使用により墨堂から落潮にかけて産む。とくに著しい10は、破損したものの硯側等を再加工しているようである。

砥石(第210図1～12) 棒状のもの(1～5)と太さに比して短い塊状のもの(6～8)、扁平なもの(9～12)がある。6～8は、破損した棒状のものを使い続けたものとみられる。8はほぼ全面に使用痕が残る。9～12も多くが破損するが、9は形を整えつつ使用したようである。

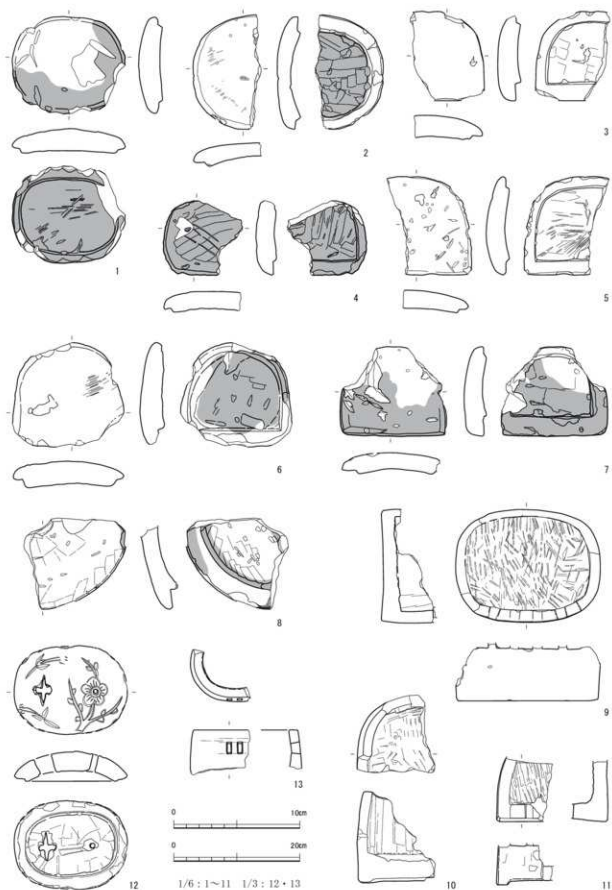
石瓦(第211図、第212図1～6) 軒丸瓦(211-1・2)、丸瓦(211-3～8)、軒平瓦(211-9・10)、平瓦(211-11)、棟瓦(212-1～6)である。軒丸瓦は瓦当のみ残存する。2は破損部分に筋彫りがあり、



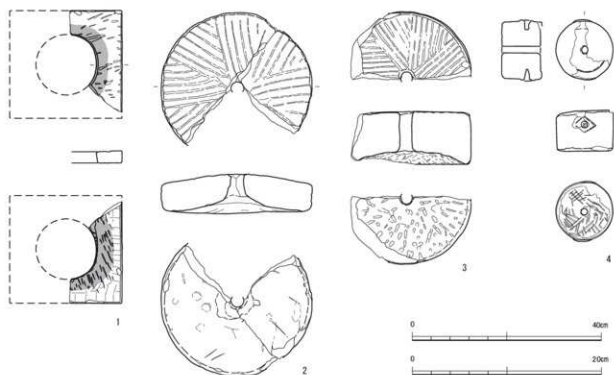
第206図 4号線地点出土石製品 容器類 (縮尺1/6)



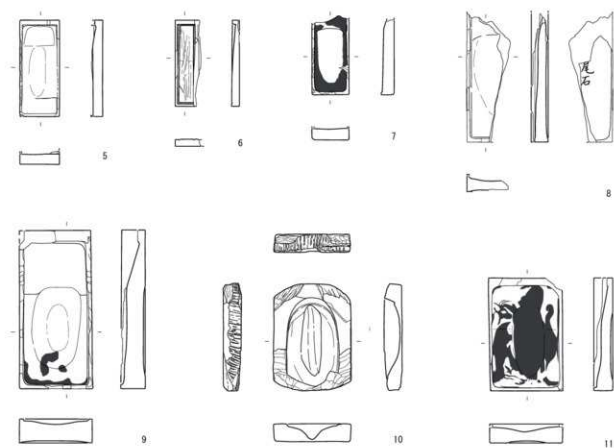
第207図 4号線地点出土石製品 容器類・その他 (縮尺1/3・1/4・1/6・1/15)



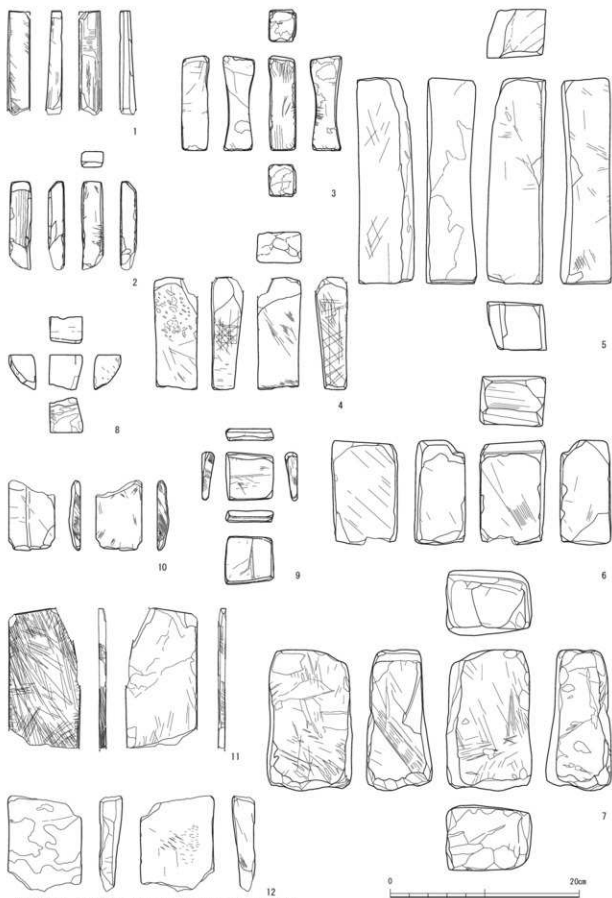
第208図 4号線地点出土石製品 行火(バンドコ) (縮尺1/3・1/6)



1/8: 1~3 1/4: 4~11



第209図 4号線地点出土石製品 石臼・硯等 (縮尺1/8・1/4)



第210図 4号線地点出土石製品 砥石 (縮尺1/4)



第211図 4号線地点出土石製品 石瓦 (縮尺1/10)



第212図 4号線地点出土石製品 石瓦・石塔類等(縮尺1/10)

これを境に切断したものとみられる。丸瓦の幅は10数cmと約15cmである。3は下面に釘掛け孔が穿たれる。4は連結突起がやや破損するが、ほぼ完形である。6は連結面・連結突起とも左右に段差があり、通常と異なる部位に使用されたようである。釘掛け孔が上面へ突き抜ける。8は連結突起を欠くが、連結面と軒側先端が残る、特徴的に短いことがわかる。軒平瓦9の瓦当には井桁状の刻印がある。10・11とも幅約30cmである。棟瓦は212-1・2が有稜式、3・6が無稜式で、4・5が丸型である。また4～6は大型品で連結突起を持たないが、小型品の1～3には連結突起がある。

その他(第207図8～16、第209図1～4、第212図7～10) 基石(207-8・9)、鍾(207-10・11)、猿を模したとみられる人形(207-12・13)、轆羽口(207-15・16)、焔炬(209-1)、石臼(209-2～4)、建材(207-14、212-7・8)、五輪塔各部(212-9・10)がある。

基石(8)は貝殻製で、蛤かと思われる。鍾はいわゆるツチノコ(10)と円筒形の石鍾(11)がある。ツチノコの側面に漢数字の「一」が刻まれる。猿人形は、上半身(12)と下半身(13)があるが、別個体である。焔炬(209-1)は釜輪を持つ方形板状の製品で、槽あるいは盤状の身と組み合わせて使用する。石臼は、8分画の粉挽臼白臼(6溝:209-2、7溝:209-3)と、ミニチュアの茶臼白臼(209-4)である。建材は、組合せ式の不明品(207-14)、樋(212-7)、祠の扉かと思われる板状の製品(212-8)がある。五輪塔各部として、空風輪の空輪部分(212-9)、水輪(212-10)がある。

第77表 4号線地点出土石製品観察表 容器類

採回番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺構の 主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	縦・奥行	幅・横	高さ			
206-1	甕	凝灰岩	松原B2・3	I7	808	13.9	20.8	8.1	方形、脚付、仕切付	17C中～後	89
206-2	甕	凝灰岩	松原B1	G6	535下層	12.8	(9.9)	7.0	方形、脚付、仕切付	17C中 (1629～80代)	78
206-3	甕	凝灰岩	松原B1	D2	573	18.8	21.7	10.9		15～17C初頭	88
206-4	容器状 石製品	凝灰岩	-	-	-	(17.4)	(22.4)	9.0	未整形		192
206-5	甕	凝灰岩	松原B2	H・G7	375(石敷内)	13.0	(22.7)	24.4	方形、脚付	17C初頭	48
206-6	甕	凝灰岩	松原BC境	H7	377	(20.0)	(19.5)	(14.3)	脚付	17C初頭・17C後?	49
206-7	甕	凝灰岩	松原E1・2	C3	-	15.4	15.5	13.4	方形、脚付		96-253
206-8	容器状 製品	凝灰岩	松原B1	E2・3	553	(10.0)	11.6	4.0			131
206-9	容器状 製品	凝灰岩	松原E1・2	C2	130	20.1	17.9	11.2	楕円形 粗成形	17C初頭	96-252
206-10	容器状 製品	凝灰岩	-	-	-	(10.3)	(8.6)	3.5			211
207-1	鉢	凝灰岩	松原B1	G5	523	-	(14.8)	(8.9)	外面磨加工	19C～	76
207-2	鉢	凝灰岩	松原B1	G5	523	-	(9.2)	(7.6)	外面磨加工	19C～	72
207-3	不明	凝灰岩	松原E1・2	D3	石F209	(5.5)	(14.9)	(7.9)	外面磨加工 煤付着 州底部の水盤か	18C後～19C	14
207-4	甕	凝灰岩	松原B1	G5	523	-	(18.9)	(21.6)	甕形石製品の口縁か	19C～	73
207-5	容器状 製品	凝灰岩	松原B1・2	H6	-	18.0	17.2	11.1	方形 未整形 煤付着		183
207-6	容器状 製品	凝灰岩	-	-	-	16.6	25.5	15.0	方形 未整形 内側に方形の水受け 箱底状の水盤か		180
207-7	容器状 製品	凝灰岩	松原B1	E2・3	545	12.9	19.6	5.7	方形 未整形 内側に島状彫り残し 箱底状の水盤か		136

第78表 4号線地点出土石製品観察表 行火

採回番号	種別	石材	出土地点		計測値 (cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	縦・奥行	幅・横	高さ			
208-1	蓋	凝灰岩	松原B1	G4・5・6	833	15.4	(17.9)	3.9	楕円型	17～19C	93
208-2	蓋	凝灰岩	-	-	-	7.1	(18.1)	(10.8)	楕円型		62
208-3	蓋	凝灰岩	松原B1	G4・5・6	833	14.2	(11.0)	3.5	D型	17～19C	92
208-4	蓋	凝灰岩	-	-	-	(11.8)	(12.6)	3.2	D型		54
208-5	蓋	凝灰岩	-	-	-	15.6	(10.8)	3.6	D型		193
208-6	蓋	凝灰岩	松原B1	C1	124	17.5	16.1	4.1	D型	19C	3
208-7	蓋	凝灰岩	松原B1	G4	谷渚はしめ	14.2	(17.0)	3.3	D型		128
208-8	蓋	凝灰岩	松原B1	G5	523	(14.4)	(16.1)	(5.4)	大型 別種製品か	19C～	77
208-9	身	凝灰岩	松原B2	16	縦面立面上層	17.8	(21.0)	(8.3)	楕円型		154
208-10	身	凝灰岩	-	-	-	(12.4)	(12.3)	14.2	D型		152
208-11	身	凝灰岩	松原E1・2	D3	209	(10.0)	(8.9)	(6.2)	D型	18C後～19C	13
208-12	蓋	凝灰岩	松原B2	17	801	7.0	9.0	2.4	楕円型 小型 上面に縦刻痕	香炉か 17C中 (1639～40)	96
208-13	身	凝灰岩	松原B1・2	H5	-	(4.8)	(4.1)	(3.6)	楕円型 小型 上面に縦刻痕	香炉か 17C中 (1639～40)	153

第79表 4号線地点出土石製品観察表 硯

探検番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	縦・奥行	幅・横	高さ			
209-5	硯	粘板岩	C2	135	-	8.4	4.2	(1.4)	-	17C初期	26
209-6	硯	粘板岩	松原B1-2	116	粉谷まじり	9.1	(2.7)	0.8	内加工品	-	168
209-7	硯	粘板岩	松原B1-2	13	暗灰色土層	8.3	4.0	1.5	-	-	4
209-8	硯	粘板岩	-	-	-	(13.6)	(4.6)	1.8	□尾石	-	244
209-9	硯	粘板岩	松原B1-2	17	801	16.8	7.8	2.6	-	17C中 (1630~40代)	108
209-10	硯	粘板岩	松原BC境	-	川	(11.3)	8.2	1.9	川縁箱加工	-	5
209-11	硯	粘板岩	松原B1	D3	包含層	11.9	7.8	2.0	ほぼ定形	-	140

第80表 4号線地点出土石製品観察表 砥石

探検番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	縦	横	厚さ			
210-1	砥石	粘板岩	松原B1	E2	720(541)	8.17	(2.3)	(1.6)	細型	17C後(19C)	126
210-2	砥石	粘板岩	松原B1	E2	597	8.12	7.3	1.7	細型	17C中～後	112
210-3	砥石	粘板岩	-	-	-	8.19	2.4	3.4	-	-	171
210-4	砥石	粘板岩	松原B2-3	17	813	8.16	(4.6)	(3.3)	-	-	125
210-5	砥石	粘板岩	松原B1-2	116	1層	8.8	6.3	5.1	-	-	173
210-6	砥石	粘板岩	松原B2-3	17	812	8.15	7.0	5.3	-	-	116
210-7	砥石	粘板岩	松原B1	F5	330	8.11	9.0	6.9	-	17C初～中	53
210-8	砥石	粘板岩	松原B2-3	17	812	8.14	2.8	3.5	全面使用	-	110
210-9	砥石	粘板岩	-	-	表土中	8.18	5.2	1.3	薄型	-	8
210-10	砥石	粘板岩	松原BC境	川	-	8.6	4.9	1.2	薄型	-	12
210-11	砥石	粘板岩	松原B1-2	116	チョコ色層	8.10	7.5	0.8	薄型	-	160
210-12	砥石	粘板岩	松原C	J9	75	8.7	7.8	2.4	薄型	17C後～18C前	10

第81表 4号線地点出土石製品観察表 石瓦

探検番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	長	幅	高			
211-1	軒丸瓦	凝灰岩	-	-	-	(15.9)	15.0	15.0	-	-	-
						瓦当	幅14.6	横14.8	厚5.0	-	-
211-2	軒丸瓦	凝灰岩	松原B1	C1	-	(13.2)	15.2	(10.2)	-	-	-
						瓦当	幅(8.7)	横14.5	厚5.2	-	-
211-3	丸瓦	凝灰岩	松原B1-2	C3-4	152	40.2	12.5	8.0	-	-	-
211-4	丸瓦	凝灰岩	松原B1-2	116	-	50.3	15.0	11.0	2.0	3.7	-
211-5	丸瓦	凝灰岩	松原B1	C1	順数破石列	(8.1)	12.7	(4.0)	-	-	-
211-6	丸瓦	凝灰岩	-	-	-	(24.7)	15.0	6.3	2.0～2.5	4.0～4.5	-
211-7	丸瓦	凝灰岩	-	-	-	(21.5)	13.3	(8.2)	-	(4.5)	-
211-8	丸瓦	凝灰岩	-	-	-	31.2	13.3	7.9	5.5	-	-
						瓦	幅	厚	瓦当縁高	瓦当縁高	-
211-9	軒平瓦	凝灰岩	-	-	-	(17.0)	(18.4)	3.6	2.4	-	-
						瓦当	幅6.0	幅18.9	厚3.0	-	-
211-10	軒平瓦	凝灰岩	-	-	-	32.0	31.7	3.4	2.7	-	-
						瓦当	幅5.0	幅31.7	厚3.0	-	-
211-11	平瓦	凝灰岩	-	-	-	(33.5)	29.8	3.7	2.5	10.5	-
						瓦	幅	高	瓦当縁高	瓦当縁高	-
212-1	棟瓦	凝灰岩	松原B1	F2-3	660	(18.6)	13.1	8.8	2.5	6	-
212-2	棟瓦	凝灰岩	-	-	-	(17.1)	12.1	8.7	2.8	3.2	-
212-3	棟瓦	凝灰岩	C2	135	-	(14.6)	13.3	8.5	2.3	3.6	-
212-4	棟瓦	凝灰岩	松原B1	C-D2	池付付近	(44.3)	23.0	16.8	-	-	-
212-5	棟瓦	凝灰岩	-	-	-	(30.5)	22.0	6.7	-	-	-
212-6	棟瓦	凝灰岩	-	-	-	32.7	21.3	15.6	-	-	-

第82表 4号線地点出土石製品観察表 その他

探検番号	種別	石材	出土地点			計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号
			層数	地区	遺構・層位	縦・奥行	幅・横	高さ			
207-8	葺石	蛇	-	-	-	2.0	2.0	0.3	白	-	6
207-9	葺石	粘板岩	元朝地A1	J7	-	2.0	2.2	0.4	黒	-	242
207-10	礎の子	凝灰岩	-	-	-	4.4	2.5	2.8	端面に縦刻「一」	-	27
207-11	礎	凝灰岩	松原BC境	J7-J8	830	(9.5)	2.2	3.0	-	17C初期	90
207-12	石人形	凝灰岩	-	-	-	7.0	4.7	4.5	頭・胸を欠く上半身 12・13は別個体。	-	56
207-13	石人形	凝灰岩	松原B2-3	17	801	4.6	4.4	7.8	下半身 12・13は別個体。	17C中 (1630～40代)	95
207-14	木目	凝灰岩	松原BC境	J8	281	(47.8)	(30.6)	19.8	雄材?	-	281
207-15	井口	凝灰岩	-	-	-	長(7.0)	横(9.3)	孔徑(2.8)	被熱変色。滑石粉。	-	-
207-16	井口	凝灰岩	-	-	-	長(12.3)	横(9.7)	孔徑(3.7)	被熱変色。	-	179
209-1	破口	凝灰岩	松原B1-2	116・7・17	Tr1層	(21.5)	(11.1)	2.6	底輪部分。被熱変色。	-	138
209-2	粉地白	凝灰岩	C2	135	-	横22	8.3	-	下白	17C初期	96-251
209-3	粉地白	凝灰岩	松原C	A10	-	横(27.0)	11.2	-	下白	-	96-252
209-4	黒白	凝灰岩	-	-	-	横6.25	4.3	-	上白	-	177
212-7	輪	凝灰岩	松原BC境	J8	-	(32.2)	16	7.5	-	-	167
212-8	木目	凝灰岩	松原C	A1	136	34.2	(14.4)	(4.8)	網の羅	17～19C	96-255
212-9	五輪塔	凝灰岩	三ノ丸東堀	堀内	-	16.8	16.8	(14.5)	空輪	-	212
212-10	五輪塔	凝灰岩	松原BC境	J8	石列	23.7	24.2	(13.6)	木輪	-	282

第7章 まとめ

1 屋敷地の変遷

福井県教育庁埋蔵文化財調査センターは、今回報告したJR福井駅周辺の連続立体交差事業に伴う発掘調査に続いて、福井駅西口地下駐車場整備、北陸新幹線福井駅建設等の大規模事業に伴う発掘調査や、小規模な工事立会等を実施してきた。また、これまで福井市文化財保護センターによる発掘調査も数多く実施されており、県と市の成果をあわせると、福井城の全体像からはまだ程遠いものの、福井駅周辺を中心とする福井城を縦断する路線部分の状況を広範囲にわたり窺えるようになった。

今回の調査地は、福井城南東の外曲輪の一つである中之馬場を中心として、百間堀を挟み北に位置する三ノ丸とそこへ至る土橋、中之馬場の南に位置する城ノ橋へと及ぶ。中之馬場は、福井藩士のうち士分と呼ばれる中級以上の武士の屋敷地が展開する⁽¹⁾。城ノ橋は中級の武家屋敷が占める東光寺町と上級武士の屋敷を含む小道貝町からなり、北に城ノ橋町組の城ノ橋町と泉町が接する。三ノ丸は居住域に当たらなかったが、中之馬場・城ノ橋の広い範囲で多くの武家屋敷と一部の町家が調査対象となった。

ところが、調査では石垣や堀、道路、溝等の曲輪や屋敷の区画をある程度確認できたが、個々の屋敷については、一部で池や水道設備等が確認されたものの建物構成する礎石等の残存状況が悪く、詳細を把握するまでは至らなかった。そのため、確認した石垣や道路、屋敷地の位置関係と当時の城下絵図を比較し、屋敷地の変遷状況を復元して、現段階の総括とする。なお、遺構編で便宜的に呼称した「街区」はそのまま使用するが、屋敷番号は周辺の調査で確認された屋敷を加え、改めて振り直した。

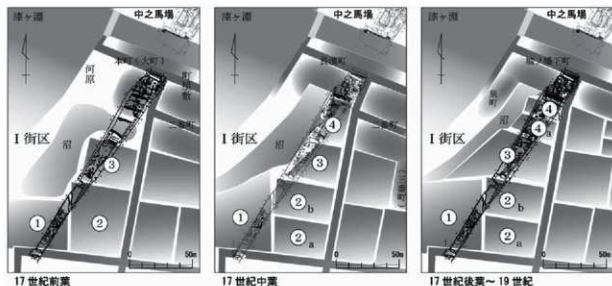
屋敷境 屋敷境は、多くの場合、素掘りの溝として検出されたが、柱穴列や土塀の基礎とみられる石列等も確認されている。素掘り溝は、柱穴列等を伴ったり、土塀の基礎固めのために掘られたりと、それ自身が区画ではないものもあるが、溝または石組溝だけを区画とするものも存在する。

また、今回の調査により、隣り合う屋敷地がともに土塀等を持ち、その間に空閑地を設ける例を確認した(Ⅲ街区)。遺構編ではこの空閑地を「路地」として報告したが、砂利敷き舗装等の道路としての整備はなされず、城下絵図にも道路の表現はない。しかし、同じ状況が西に隣接する市の調査地でも確認されており(『福井城跡Ⅶ』)、Ⅲ街区の屋敷地間には城下絵図に現れない路地裏が展開していたことが明らかになった。その他、周りに区画構造を備える屋敷が隣接するような場合、表の道路に面した部分以外に区画を持たない屋敷もある。このように屋敷境の区画の状況は様々ではない。

以下、遺構編の屋敷地割に従い、南から屋敷地の変遷状況を確認する。

城ノ橋屋敷地の変遷(第213図、第83表) 調査区の北および北東端と南端の道路間がⅠ街区である。17世紀前葉には、調査地中央よりやや北に川42133とした旧河道あるいは沼(湿地)があり、北の町屋地と南の武家地を分断したが、17世紀中葉になると沼が埋め立てにより調査区西端に後退し、町屋地と武家地の境界は石組溝4220となり、以降固定化する。17世紀後葉にはさらに沼が小さくなるが、その分の面積は武家地へ還元され、屋敷数も増える。町家地は石材が多く残存しており、確認した複数の石列により細分されるものとみられるが、軒数や棟数の認識は困難である。

武家地のうち屋敷①②③の境は、城郭存続期間を通してほぼ変化しない。①②境は溝4101、②③境は溝4102・4152付近であり、屋敷③北境は溝42123や土坑4229付近である。屋敷④は、17世紀前葉には沼と屋敷地であったが、同中葉に全城が町屋地となり、寛文の大火後の復興計画と目される寛文10年(1670)の「御城下絵図」では南半分が武家地となり、以降は石列4266を挟み2軒の屋敷地となる。



第213図 城ノ橋屋敷地の変遷 (縮尺 1/3000)

城ノ橋の発掘調査地点 (縮尺 1/5000)

- 44 中之馬場・城ノ橋 福井駅付近連続立体交差 2000～02
 63 中之馬場御門外 福井駅周辺土地開発管理 (東口都心環状線) 2009
 76 城ノ橋 保育園建設 1995
 77 城ノ橋 J R北陸線外2線連続立体交差及び
 高架橋道5号幹路路整備 1998・99
 福井駅付近連続立体交差 (橋梁部) 1999
 78 城ノ橋 足羽川右岸線整備 2004・06
 79 城ノ橋 福井駅周辺土地開発管理 (豊島木田線) 2004
 82 城ノ橋 N T T 足羽橋・ガス管地設等 (城の橋通り) 1998
 城の橋通り街路整備 2006
 83 城ノ橋・大野街道 福井駅付近連続立体交差 (豊島地下道) 1998・99
 84 城ノ橋・下馬御門前 高架排水路敷設 (城の橋通り) 2004
 85 城ノ橋 城の橋通り道路改良 2004

第83表 城ノ橋(調査地周辺)の屋敷地名義の変遷

	1 街区①	1 街区② a	1 街区② b	1 街区③	1 街区④ a	1 街区④ b	1 街区の北～北西
慶長18年頃 (1613)	松本	板本助之丞		落合社七	(沼)	(町家)	(町家) (河原)
万治2年以前 (1659)	二 〇 七人	本多十郎兵衛	加藤所左衛門	()	二番町 (町家)		長濱町 (町家)
寛文年間 (1661～69)	()	本多十郎兵衛	加藤所左衛門		(町家)		(町家)
寛文10年 (1670)	三寺与右衛門	本多十郎兵衛	加藤所左衛門	堀庄右衛門	原	上ノ橋下町 (町家)	(町家)
貞享2年 (1685)	三寺与右衛門	本多十郎兵衛	寒江様平	堀長太夫	堀辺次右衛門	堀辺治兵衛	上ノ橋下町 (町家)
正徳4年 (1714)	堀川助右衛門	本多十郎兵衛	堀屋半右衛門	堀豊左衛門	小堀庄右衛門	村田平太夫	上ノ橋下町 (町家)
安永4年 (1775)	渋谷五郎右衛門	本多十郎兵衛	飯沼十郎太夫	望月八郎右衛門	小堀傳右衛門	栗崎庄兵衛	上ノ橋町 (町家)
享和3年 (1803)	樋口	下山	飯沼	望月	小堀	栗崎	上ノ橋泉町 (町家)
文化8年 (1811)	樋口	横太	飯沼	望月	本山	有沢	城橋下町 (町家)
慶応年間 (1865～68)	樋口喜左衛門	横田宗七	飯沼鉄治	望月八郎右衛門	本山城口	有沢路	城ノ橋下町 (町家)

なお、Ⅰ街区の屋敷境は、それを示すとみられる遺構が確認されるが、区画の構造を窺うことはできない。

中之馬場屋敷地の変遷(第214～217図、第84表) 中之馬場の3条の東西道路で区画された屋敷地を南側からⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ街区とした。

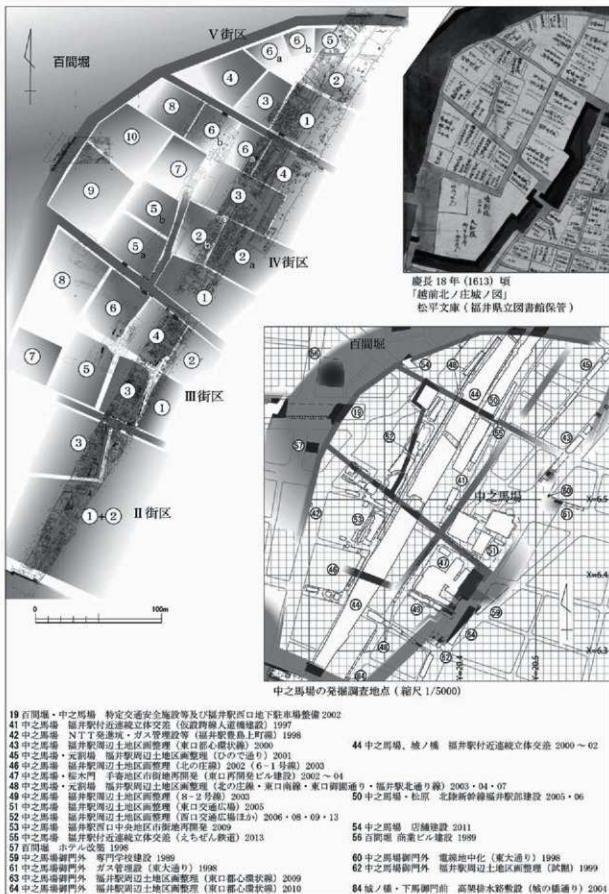
Ⅱ街区は、17世紀前葉には二つの屋敷地だったが、同中葉以降に屋敷①が分割されて三つの屋敷地となり、以降変化しない。①③境は溝3205・3325であるが、南北溝3325は福井城以前から存在し、幕末まで存続した。17世紀中葉以降、調査区外へ延びるこの3325が東に屈曲して①②境となると考えられる。17世紀前葉に溝3325が調査区外で屈曲したか直進したか現段階では不明であるが、この溝は晴房屋敷内に存在したことになる。なお、この溝は安永4年(1775)の「御城下絵図」では水をたたえた水路状の表現である(第216図)。屋敷②の池3315は、短い導水路・排水路によって溝3325に接続するため、屋敷②の西側には区画構造がない可能性がある。しかし、屋敷③の東には、溝3325に平行する溝や池が改修されつつ長く存続しているものの、溝3325から一定間隔の空地を保持し続けており、その北側に土塀基礎とみられる石列33249が確認されることから、その空地の部分に土塀が延びていたことが考えられる。この他、Ⅱ街区北側の道路に面して土塀が続いていた。

Ⅲ街区は、西端の屋敷地のみ変化するようであるが、そこは発掘調査が及んでいない。それ以外の部分は屋敷境がほとんど変化せずに存続する。今回の調査区内に屋敷①②の西端部分と③④の東半部が、西隣の市調査区内に屋敷③④の西端と屋敷⑤⑥の一部があり、これらの屋敷間に「路地」が形成されている。なお、Ⅲ街区の南北の道路に沿って土塀が続くため、路地は道路から見通せないようである。ただし、これらの屋敷は官公舎的なものなので、城下絵図に現れないとしても、その存在は公然だったと思われる。屋敷境がほぼ変化しないため、この路地の規模や形状もほぼ固定的である。

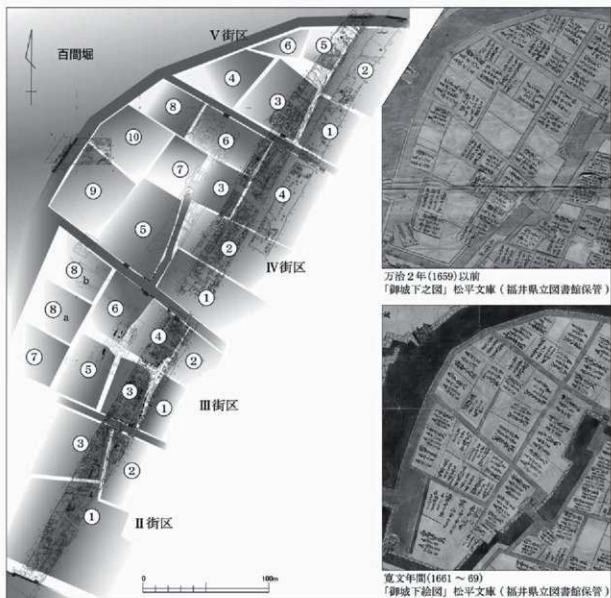
屋敷①の周縁には素掘りの溝3336・3425・36049が確認される。屋敷②は区画が確認できない。屋敷③は、東から北にかけて複数の溝が重複し、上層に石列や礫の堆積があることから、土塀が継続的に整えられたようである。屋敷③の西には素掘り溝があり、堆積状況に再掘削の痕跡が窺える。屋敷④は、南が土塀とみられるが、東は溝3412しか確認できない。屋敷④の西は屋敷⑥との境に石組を伴う溝があるが、18世紀代の城下絵図中の屋敷⑥の東から南を画する水をたたえた水路状の表現に該当するのだろう(第216図)。ただし、屋敷⑥の南に沿って延びるはずの石組溝は確認されていない。屋敷⑤は、北東隅にて重複する複数の溝と、その溝の上層に石列や礫の堆積が確認され、屋敷③と同じような土塀による区画と考えられる。なお、屋敷③④⑥の道路に面して確認された柱穴や石列は、土塀に備えられた門に関わるとみられるが、その検出位置は19世紀代の城下絵図に示される屋敷の入口の位置と合致する。

Ⅳ街区は、屋敷数が多く、屋敷地の統廃合による変化も多い。屋敷①は、北境がやや変化するようである。屋敷②は、17世紀前葉には東西に2軒が並んでいたが、同中葉には統合され、同後葉以降は屋敷地北東がやや拡張される。屋敷③は、17世紀中葉に面積が半減するが、同後葉には当初の規模に戻る。19世紀になると分割された屋敷⑥aが南に張り出し、屋敷③が狭くなる。屋敷④は、17世紀中葉に一時的に屋敷③の東半分を統合し拡張した以外、南境の位置がやや変化するだけで形状はほぼ変化しない。

屋敷①②境は、遺構編では溝5127としたが、絵図に記入された屋敷寸法によると土坑3550付近から5184・5178・5190・5128や5186・5170・5133等の土坑列の位置が該当するようである。屋敷②③境は溝5254、屋敷②ab境は溝5122・5175・5151とその西に平行して並ぶ土坑列である。屋敷④⑥境は、17世紀前葉から18世紀には溝5311であり、溝の北半部には東側に柱穴列が沿い、南半部には西側に土



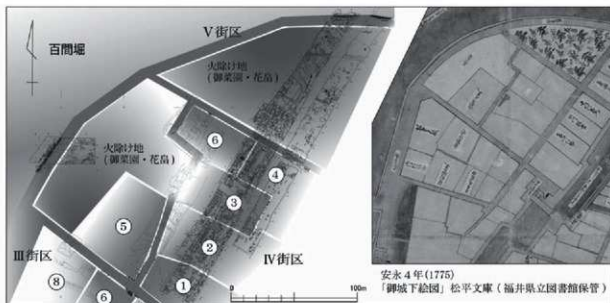
第214図 中之馬場屋敷地の変遷①（17世紀前葉）（縮尺 1/3000）



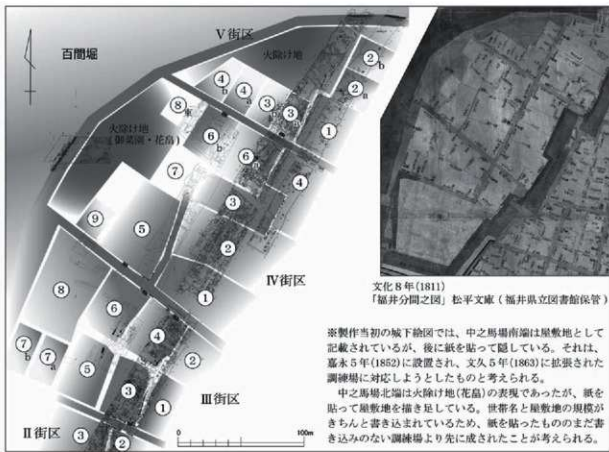
第215図 中之馬場屋敷地の変遷②（17世紀中葉）（縮尺1/3000）

坑に沿って並ぶ。19世紀の④⑥境は東に移動しており、溝5346や土坑5234・5367が該当する。屋敷③の北境は、17世紀前葉には溝5355であり、北の屋敷④側に柱六列がある。同中葉には屋敷③が縮小し、東境が絵図によると屋敷④⑥境（溝5311）の南延長線上に当たることになるが、それに相応しい道構は確認されない。19世紀前葉には、屋敷⑥aが南に張り出すため、北境は土坑5367付近から西へ延びると推測されるが、著しい境乱のため道構は確認できない。街区南の道路脇には希薄ながら礫の集積が認められ、土塀の存在が窺える。街区北の道路には溝・石組溝が確認されるのみであるが、道路を閉ざす木戸の柱穴を検出していることから、その道路両側に塀等の区画構造が存在したはずである。

この他、屋敷①②③と屋敷⑤⑦の間に南北に延びる小道がある。絵図によると、17世紀前半代の小道は南の道路から屋敷③⑦間までだったが（第214・215図）、火除け地を設けた17世紀後葉～18世紀には屋敷⑥を巻くように屈曲して北の道路へ接続した（第216図）。しかし、19世紀初頭に屋敷⑥⑦と⑩東半分を一屋敷とした際、小道は当初の状況に戻り、屋敷再分割後もそのままとなる（第217図）。なお、慶応年間の状況を描くとされる明治14年（1881）の復元図（『御城下之図』）は、安永4年（1775）の絵図を写



第216図 中之馬場屋敷地の変遷③ (17世紀後葉～18世紀) (縮尺1/3000)



第217図 中之馬場屋敷地の変遷④ (19世紀代) (縮尺1/3000)

して改変したものに慶応の情報を書き込んだものらしく、小道が北の道路に接続して描かれるが、誤りである⁽²⁾。この小道は市の調査で検出されており、両側に塀や土塀の痕跡が確認されている。

V街区は、寛文の大火(1669)までは屋敷地であったが、その後は御菜園や花島と呼ばれる火除け地となる。文化8年(1811)の「福井分間之図」では、そこに貼紙をして屋敷地が描き込まれる。同絵図の

第84表 中之馬場(調査地周辺)の屋敷地名義の変遷

	Ⅱ街区①	Ⅱ街区②	Ⅱ街区③	Ⅱ街区④	Ⅱ街区⑤	Ⅱ街区⑥	Ⅱ街区⑦
慶長18年頃 (1613)	結城晴朝		林九郎右衛門	雲山伝八	飯嶋任右衛門	長谷川宗右衛門	相沢善右衛門
万治2年以前 (1659)	西尾屋太右衛門	西尾屋太右衛門 与力	酒井十之丞	牧野留右衛門	南福屋左衛門	()	竹村八郎右衛門
寛文年間 (1661~69)	西尾屋太右衛門	堀助左衛門	酒井十之丞	牧野留右衛門	牧野九郎左衛門	()	竹村八郎右衛門
寛文10年 (1670)	西尾十左衛門	堀助左衛門	多賀谷様太夫	牧野留右衛門	牧野九郎左衛門	長谷川仁兵衛	出淵七兵衛
貞享2年 (1685)	西尾十之丞	堀平兵衛	多賀谷様太夫	石川七之助	牧野九郎左衛門	長谷川仁兵衛	出淵七(平)兵衛
正徳4年 (1714)	西尾屋太右衛門	()	水野善左衛門	岡田留左衛門	大崎左太夫	長野八太夫	出淵平兵衛
安永4年 (1775)	()	()	()	()	()	上月九郎左衛門	()
享和3年 (1803)	水見	彦坂	水野	岩城	小栗	上月	出淵
文化8年 (1811)	水見	阿美 (安政以降、丹羽)	水野	岩城 (昭和後、三寺)	小栗	上月	出淵
慶応年間 (1865~68)	調練場 ①は嘉永5年(1852)、②③は文久5年(1863)から			三等堀右衛門 (安政以降、井原)	小栗治右衛門	上月久右衛門	出淵伝之丞

	Ⅲ街区①	Ⅲ街区②	Ⅲ街区③	Ⅲ街区④	Ⅳ街区①	Ⅳ街区②	Ⅳ街区③
慶長18年頃 (1613)	藤田大学	藤田屋五右衛門	御馬屋	原平人	水戸三七	a 内田経 b 堀城勘平	横倉七兵衛
万治2年以前 (1659)	()	()	藤田与兵衛	a () b 小倉新五右衛門	()	()	仙石様右衛門
寛文年間 (1661~69)	藤田市郎右衛門	仙石勘十郎	藤田与兵衛	a 小倉庄右衛門 b 小倉新五右衛門	堤安右衛門	松原角左衛門	仙石様右衛門
寛文10年 (1670)	(藤田市郎右衛門)	仙石	浅田	()	堤安右衛門	松原角左衛門	松原角左衛門
貞享2年 (1685)	南福市藏	仙石益右衛門	浅田左内	牧野主殿	堤基三郎	松原三郎兵衛	水見様左衛門
正徳4年 (1714)	横井庄八	仙石光作	奈良左近右衛門	岡部右京	照田兵庫	松原角左衛門	牧野清兵衛 下屋敷
安永4年 (1775)	野村拾太夫	仙石進平	御預役所	牧野主殿	()	()	()
享和3年 (1803)	野村	仙石	郡役所	牧野	松原	大岡	牧野下屋敷
文化8年 (1811)	野村	仙石	a 萩野 b (昭和後、小林)	牧野	中川	大岡 (昭和後、船垣)	牧野下屋敷
慶応年間 (1865~68)	野村重太夫	仙石喜左衛門	a 萩野葉 b 小林八右衛門	牧野貞	中川源	船垣治部	牧野下屋敷

	Ⅳ街区④	Ⅳ街区⑤	Ⅳ街区⑥	Ⅳ街区⑦	Ⅳ街区⑧	Ⅳ街区⑨	Ⅳ街区⑩
慶長18年頃 (1613)	乙部九郎兵衛	a 日下部左馬助 b 柳下右衛門	a 祐祐小平次 b 岡部次次郎	野本	柳村因藏	都筑三郎左衛門	近藤靖藏
万治2年以前 (1659)	御原十郎左衛門	山田伊織	比企左左衛門	田代美山	井河平右衛門	大宮彦右衛門	萩野小膳
寛文年間 (1661~69)	御原十郎左衛門	山田伊織	比企左左衛門	田代美山	井河平右衛門	大宮彦右衛門	萩野小膳
寛文10年 (1670)	御原十郎左衛門	()	比企左左衛門	松原安之丞	井河平右衛門	大宮彦右衛門	()
貞享2年 (1685)	御原十郎左衛門	山田伊織	比企左左衛門	松原安之丞	御菜園		
正徳4年 (1714)	御原十郎左衛門	山田多仲	比企五郎右衛門 小木重右衛門	御菜園			
安永4年 (1775)	()	山田次郎太夫	()	花晶			
享和3年 (1803)	宮北	山田	青木 (※の東半分も含む)	御花晶 東: 青木	御花晶		
文化8年 (1811)	宮北 (昭和後、花木)	山田	a 坂井 b 清田	()	花晶 東: ()	花晶 (昭和後、一部長井)	
慶応年間 (1865~68)	花木太夫	山田多仲	a 坂井様左衛門 b 清田基	多賀谷 下屋敷			

	V街区①	V街区②	V街区③	V街区④	V街区⑤	V街区⑥
慶長18年頃 (1613)	土屋市兵衛	牧野右衛門太郎	朝比奈利兵衛	小池平兵衛	吉田与兵衛	a 堀田五左衛門 b 永井清左衛門
万治2年以前 (1659)	石川太右衛門	堀田清左衛門	土屋十郎右衛門	山本五郎左衛門	水井清三郎	一色長左衛門
寛文年間 (1661~69)	石川太右衛門	堀田清左衛門	土屋十郎右衛門	山本五郎左衛門	()	一色長左衛門
寛文10年 (1670)	()	堀田清左衛門	土屋十郎右衛門	山本五郎左衛門	()	水井
貞享2年 (1685)	御菜園					
正徳4年 (1714)	御菜園					
安永4年 (1775)	花晶					
享和3年 (1803)	御花晶					
文化8年 (1811)	花晶					
慶応年間 (1865~68)	飯田	a 大造寺 b 神尾	a 江川 b 出淵	a 矢崎 b 後藤	花晶 (船越は文在寛期の昭和による)	

Ⅱ街区には、嘉永5年(1852)に造成され、文久5年(1863)に拡張された訓練場が、貼紙をするものの何も書き込まれない状態で残存する。V街区の屋敷はすでに名義や屋敷寸法まで書き込んである。貼紙による追加処理の状況が時間差を表すならば、文久5年以前には屋敷が存在したことが考えられる。17世紀前葉の屋敷地配置は南と東の道路に沿って4軒を配置し、その北側に小さな3軒を詰めるような変則的な配置であり、屋敷地間に空地が生じたようである(第214図)。17世紀中葉には、北の小さな3軒を2軒に編成し直しており、絵図では屋敷境が整然と描かれるが、絵図に記入された屋敷寸法によると空地が解消されたとは言えないようである(第215図)。屋敷境の遺構はあまり明瞭でない。

17世紀前葉には、屋敷①北境が溝62101・土坑62021付近とみられるが、調査区内の他の屋敷に区画設備の痕跡は確認できない。17世紀中葉には、屋敷①③境の溝62003、①②境の溝62004、屋敷③北境の溝63005があり、土坑63121・6365は屋敷②⑤境に当たるようである。火除け地の段階を経た19世紀には、屋敷①の区画として再利用した溝62003・62004のほか、屋敷③a北境の溝62009がある。

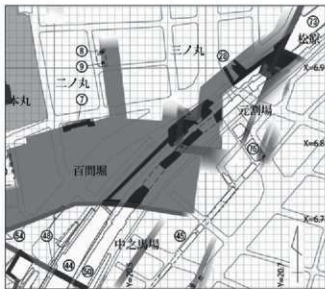
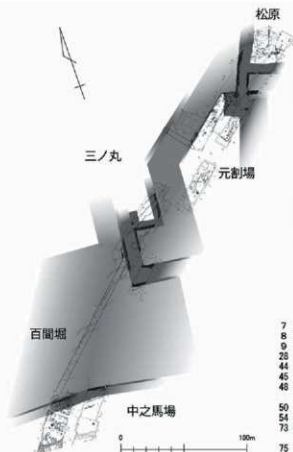
三ノ丸土橋周辺の復元(第218図) これまでの調査成果により、三ノ丸へ至る土橋とその周囲の状況がだまかながら復元可能となった。以前、元割場北側の北人分門周辺を復元したが、そこから中之馬場までを図示した。土橋は、三ノ丸から約45m伸び、東へ90°方向を変えて伸びる。東へ方向を変えた土橋と三ノ丸南石垣の間は約28mである。三ノ丸東石垣から元割場までは、元割場の石垣が失われていたが、25m程度とみられる。百間堀のうち中之馬場北石垣の東側延長線上と土橋との間を直交する距離は70mを越える。今回の調査では、中之馬場北石垣から土橋西石垣まで幅5m・長さ120mに及び矢板に囲まれた中で百間堀の堆積状況を確認したが、湾曲する堀に対して斜めに横断するものであり、実際の幅を示すものではない。しかし、百間堀の最大幅が100mを超えることは間違いなさそうである。

なお、百間堀下層の吉野川旧流路内に3条程のより深い流路が確認できた。南流路は小規模な流路の集合体のように明瞭でないが、中央流路は最も深く、北流路は最も幅が広い。中央流路は百間堀のほぼ中央に当たる。北流路は土橋屈曲部付近に当たり、そこで大きく南東へ方向を変えるようである。中央流路には認められなかったが、北流路には百間堀造成時に埋め込まれた笏谷石の集積があり、その中に天文十九年(1550)銘の一石五輪塔地輪部分が含まれていた。

土橋はほぼすべて盛土により形成される。土層断面図によると、北側から伸ばすように造成したことが確認され、土橋南辺付近の内部に土壌積み痕跡が確認される。土橋の両側には、4～5段の石材による石垣と道路側に面を揃える縁石状延石列がある。石垣とその石列の幅は1.5m前後であり、間に裏込めの栗石が露出する。土堀の基礎のようであるが、安永4年(1775)の「御城下絵図」に石垣のない土居として色表示されており、寛政年間(1789～1801)の「福井城下眺望図」や、土堀等を描き加えた明治期の復元図等にも土堀等の表記はない。また、土橋周辺からまとまった量の瓦の出土はない。そのため、この土橋には土堀基礎のような構造があるものの、土堀はなかったようである。有事の際、門へ続く土橋を渡る敵兵の進攻を防ぐための鉄砲や弓による射撃を容易にするため、通常このような土橋に堀等は備えない。なお、中之馬場の堂形から漆門へ至る土橋が、福井城で唯一の土堀を備える土橋である。

以上、城下絵図で屋敷地の変遷状況を確認し、屋敷境とみられる遺構の中から位置や時期が変遷に伴う屋敷境の変化に対応する遺構を屋敷境に比定して、屋敷地の形状・規模と変遷状況を復元した。その過程で各屋敷の区画構造を確認し、Ⅲ街区の「路地」のような空地の存在が明らかになった。

ほとんどの場合、絵図上の屋敷境は1条の直線で描かれており、遺構としても1条の溝や柱六列として検出される場合が多い。すなわち、街区内の屋敷境は、隣接する屋敷のどちらかに区画構造の設定を



三ノ丸土橋周辺の発掘調査地点 (1/5000)

- 7 三ノ丸元作事 福井市三ノ丸地区第一種市街地再開発 2001
 8 三ノ丸元作事 住宅建設 2008
 9 三ノ丸元作事 住宅建設 2010
 28 下馬御門前庭敷地 地下道改修 2001
 44 中之馬場・城ノ橋屋敷地・百聞堀・三ノ丸 福井駅付近連続立体交差 2009～02
 45 中之馬場・元割場屋敷地 福井駅周辺土地区画整理(ひので通り) 2001
 48 中之馬場・元割場屋敷地 福井駅周辺土地区画整理(北の庄線・東口南線・東口御園通り・福井駅北通り線) 2003・04・07
 50 中之馬場・松原屋敷地 北陸新幹線福井駅駅建設 2005・06
 54 中之馬場屋敷地 店舗建設 2011
 73 松原・元割場屋敷地 JR北陸線外立橋連続立体交差及び高架側道4号線街路整備 1995～98
 75 元割場屋敷地 福井駅周辺土地区画整理(東口都心環状線)2006



慶長18年(1613)頃
 「越前北ノ庄城ノ図」松平文庫(福井県立図書館保管)



正保年間(1644～48)
 「御城下之図」松平文庫(福井県立図書館保管)

松城下絵図の記載の変化から、概ね17世紀第2四半期のうちに松原の南西部を堀で分割して「(元)割場」を整備したことがわかる。なお、大坂の陣の部隊編成をした場所に当たるため割場と呼ばれたとの伝承があるが、おそらく松原の一部を分割・整備したことによる呼称であろう。安永4年(1778)、文化8年(1811)の絵図には「元割場」と記載される。

第218図 百聞堀・三ノ丸・元割場の復元(縮尺1/3000)

依存するが、相互に共有したということである。Ⅲ街区の「路地」は、街区内の各屋敷の境を共有させないことで、相互に抽出した空閑地であり、おそらくは共有地として扱ったのであろう。絵図に現れる街区内の空閑地は、当初のⅤ街区の屋敷間や、城ノ橋(Ⅰ街区)の沼や松原(Ⅱ街区)の自然流路に面した区画の不明瞭な部分であり、普遍的でない。絵図に現れない空閑地は、今のところⅢ街区の「路地」のみであるが、おそらく他にもこのような空閑地を保持する街区があるものと想像される。

2 名前の記された遺物

今回の調査で検出した硯は、小片を含めると201点である。そのうちの23点に線刻による模様や文字が刻まれており、年号や人名を記すものもある。そして、記された人名の中には、出土地点周辺に当たる城下絵図の屋敷に記された姓と一致するものが確認され、居住者の所有物であることが考えられた。

これまで、必ずしも残存状況の良い屋敷の痕跡の中に大量に廃棄物を包含する土坑を見出し、人の生活の姿を想像していたのであるが、この居住者の名前が記された遺物は、個々の人物をより身近に感じさせる存在だと思われる。これにより、調査地あるいはその周辺に居住する人物の名前が記された遺物を確認することを思い立ち、これまでに報告された福井城跡の出土遺物について、人名あるいは人名と思われる文字の記された遺物を集めた(第85表)。ただし、4号線地点で多量に検出したような周辺集落からの進上品に付したとみられる荷付札等は除外した。

以下、記された名前と出土地点周辺の屋敷地名義との関係等を屋敷地ごとに確認する。

中之馬場Ⅱ②屋敷 当初、初代藩主結城秀康の義父である結城晴朝の下屋敷の一部だったが、その後北東の一角(Ⅱ②屋敷)を分割した。17世紀中葉～18世紀後葉には西尾氏名義であり、その後に永見氏名義となる(第214～217図、第84表)。名の記された遺物は第85表1・4・7・9の4点がある。

1・9は、19世紀半ば以前の遺構から出土した硯であり、ともに記される「永見」は居住者の永見氏を指す。ただし、1の年号等と名前は筆跡等が異なり、名前は後刻のようである。また、1は「永見氏」

第85表 名前の記された遺物

探検番号	種別	釈文等	屋敷地区分	屋敷	遺物・量	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号	備考
1	181-1	硯	寛政十一己未年十月十九日□□□□永見氏(1799)	中之馬場Ⅱ①	遺320遺箱	17C前～19C中	0325570	本書
2	181-4	硯	山崎源兵衛	中之馬場Ⅱ②	遺36027	19C～近代	0365106	本書
3	181-5	硯	「本多」→「本多(能)」 姓のみから姓名へ通じている。	中之馬場Ⅱ①	-	-	03513	本書
4	181-10	硯	文政二己卯/山田門(1819)	中之馬場Ⅱ①	Ⅱ①	Ⅱ①	0313122	本書
5	181-13	硯	宝永十甲子正月五年閏七月十一日(1577)	中之馬場Ⅱ②	Ⅱ②	17C後	053530	本書
6	182-3	硯	「尾」(尾) 縦文字になっている。	中之馬場Ⅱ③	Ⅱ③	Ⅱ③	0348370	本書
7	182-8	硯	「一」七年/□□□□(江川彦作)	中之馬場Ⅱ①	3171	19C前	0315121	本書
8	182-12	硯	日之出下町/城見 明治7年改定 新屋敷→二番町・中之馬場→日之出下町 「一」成通/永見家次(主)	中之馬場Ⅱ②・③	6303	19C中～近代	063581	本書
9	182-16	硯	永見安太郎→寛政2年(1790)から永見洪次(主)	中之馬場Ⅱ①	3171	19C前	0315112	本書
10	141-6	漆器 木製品	「□□/中願左衛門 □□□□」	中之馬場Ⅱ②	3309	19C中～近代	33-33	本書
11	141-7	漆器 木製品	(表)「岡部長十郎」 (裏)「□□/岡部長十郎」	中之馬場Ⅱ③	3408 (3361)	19C? Ⅱ	33-27	本書
12	90-281	漆器 木製品	(表)「越前守相内 矢嶋七右衛門」(内はあるいは門) (裏)「十二月十三日江戸」	中之馬場Ⅱ①	3165	18C後	33-1	本書
13	90-281	漆器 木製品	「□(前) 川五郎兵衛(主)」	B②	801	17C中	90-281	1
14	90-282	漆器 木製品	「□(前) 川五郎兵衛(主)」	B①	604	17C後半	90-282	1
15	90-283	漆器 木製品	「相州住正宗」あるいは「相州傳正宗」	B②	808	17C中～後	90-283	1
16	90-284	漆器 木製品	「相 傳右衛門」	B②	375	17C前	90-284	1
17	90-286	漆器 木製品	「□ □ □ □/山田五右衛門/□(い) 〇(す) □(て)」	C②	200	17～19C	90-286	1
18	172-9	硯	「□(古) 吉田吉五 □ □ □ □」	中之馬場Ⅱ③	63002	19C中	63522	3
19	163-46	漆器 木製品	「天章町/柳下助七郎/久々之」 裏面に北の隅を走る路の線刻	中之馬場Ⅱ③	64002	18C後～19C	M64002-4	3
20	85-369	漆器 木製品	(表)「□(前)田久右衛門殿」 (裏)「家相百人」	三ノ丸 下馬門内	10-1006A	17C中～後	85-369	2
21	85-379	漆器 木製品	「本多七左衛門」	三ノ丸 下馬門内	9-04	17C前	85-379	2
22	写真12	漆器 土器	「福野」	神明前	吉人門内 (北側)	18C後～19C? Ⅱ	「福野」土器	4

1 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2004「福井城跡」J北陸院外2線連続立体交差事業および各駅周辺4号線沿道工事に伴う調査。P150

2 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008「福井城跡」福井駅西口地下1号車場整備事業に伴う発掘調査。P130

3 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2009「福井城跡」北陸新幹線福井駅建設事業に伴う発掘調査。P208・221

4 福井県教育委員会2012「福井城跡」福井市立郷土歴史博物館移転新築に伴う発掘調査報告書 P14

※ 図版番号は各報告書による。図版・図説番号は報告書のものをもとに改めて直した。

と記されることから、所有者自身が記したものではないと考えられる。なお、享和3年(1803)の「福井分間之図」では屋敷名義が永見氏となるが、1に記された「寛政十一己未年(以下略)」は1799年であり、その時すでに永見氏がこの屋敷に居住したか否かは判断し難い。9は、上下を欠損するが「永見安次」と見え、おそらく永見安次郎を指すと思われる。彼は、寛政2年(1790)より永見主殿洪次となり、文政3～天保7年(1820～1837)には藩の側用人を務める。なお、天保3年頃(1832)の「斉承公御代給帳」(15代藩主)には高六百石と記される。この永見氏は寄合席に名を連ねる上級武士である。

4は、攪乱出土の硯であり、「文政二己年(1819)／山田代」と記される。この屋敷から北へ離れたIV街区の⑤屋敷が、17世紀中葉から幕末まで山田氏の屋敷であり、これとの関連が想像される。

7は、19世紀前葉の遺物とともに出土した硯であり、「江川崑作」等と記される。文化8年(1811)の「福井分間之図」のV街区部分に紙を貼って描き加えた③a屋敷に江川と見える。江川氏は転々と移動するが、19世紀中葉頃にはこの地にあったようである。先の給帳に載る江川姓は江川吉之助があり、中川六左衛門を大番頭とする大番組に配される。ただし、藩士の履歴等を記す「剝札」「士族」等に崑作の名はないようであり、続柄等は不明である。なお、中川氏邸は17～18世紀後葉には小桜門の南西にあったが、19世紀初頭頃一時的に下馬門内東の屋敷へ移り、19世紀前葉以降は中之馬場IV①屋敷へ入る。

12は、18世紀後葉の遺物とともに土坑から出土した墨書木製品である。短冊形の上部左側を挟っており、その部分に緊縛痕が残る。荷付札と考えられる。両面に墨書が残るが、ともに残存状況が悪く、とくに裏面の判読は不可能である。表面は「口身六郎衛門」と報告したが、「口見六郎右衛門」と読むことも可能かと考える。緊縛痕により不明となる文字は一文字であり、二文字目が「見」の姓は限定的で、この屋敷地名義の永見くらいである。そこで「永」を当てはめると、永見六郎右衛門となる。この名は文政期(1818～1830)の給帳に記載があり、高三百石とされる。その後天保3年頃の給帳には永見一学(高三百石)の名が、幕末には永見準人(高三百石)の名⁽³⁾が見え、代々定坐番外席に名を連ねている。文化8年絵図の城ノ橋(小道具町)にこの永見氏名義の屋敷があるが、もとの名を消して書き込んでいるため、その屋敷に移ったのはこの絵図の完成後である。そして、天保年間(1830～1844)の絵図には最初から姓が書き込まれているので、1810・20年代のうちにその屋敷に移ったことがわかる。それ以前の屋敷は各城下絵図からは不明である。なお、万治2年(1659)以前および寛文期(1661～1669)の絵図には、中之馬場の桜木門内に永見六郎右衛門名義の屋敷地がある。しかし、その屋敷地は12の出土位置と直線距離で約200m離れており、年代も12に共存する遺物の時期と大きく異なるため、17世紀中葉の永見六右衛門に関する遺物が混入したとは考え難い。そのため12は、18世紀後葉において、この後に小道具町に屋敷が移る永見六郎右衛門と、中之馬場の永見主殿との間で遣り取りされた物の荷付札であったことが想像される。

中之馬場Ⅱ②屋敷 II①屋敷から分割され、17世紀中葉に西尾源太右衛門の与力屋敷とされるが、同後半には堀氏の屋敷地となり、19世紀前葉に彦坂氏、渥美氏、同中葉に丹羽氏と名義が変遷する(第214～217図、第84表)。19世紀半以降の遺物とともに廃棄土坑から出土した短冊形の木製品に、「口口／中原左衛門 口口口」と墨書される(第85表10)。城下絵図や給帳に認められない姓のようであり、城外の人物であることが考えられる。荷付札であろうか。

中之馬場Ⅲ③屋敷 17世紀には長谷川氏、18世紀前葉に長野氏、18世紀後葉以降は上月氏名義となる(第214～217図、第84表)。名の記された遺物は6・11があるが、ともに居住者名ではない。

6は、上層の造成土から出土した硯であり、鏡文字で「堤口(正弘)」と記される。鏡文字であるこ

とに違和感があるが、人名であれば、堤安右衛門正成の次代、堤安右衛門正を指すのであろう。この屋敷から北へ離れたIV①屋敷の17世紀後半代の名義が堤氏である。なお、造成土からの出土であり、二次的な移動が考えられるため、必ずしも居住者の長谷川氏との交流の中でたらされたとは言えない。

11は、19世紀とみられる土坑から出土した短冊形の墨書木製品であり、「岡部長十郎」と見える。彼は、文化9年(1812)より岡部左膳長直となり、文政8～弘化3年(1825～47)には藩の家老を務める。福井藩士のうち高知席に名を連ねる上級武士であり、先の給帳には高千五百石とある。屋敷は下馬門前にある。この遺物の性格が明らかでないが、天保11年(1840)に彼が江戸へ奉書組頭になることと、天保13年(1842)にこの屋敷の家督を継いだ上月久右衛門が奥小姓に任じられ、以降江戸福井間を頻繁に往復するようになることに関連するものかもしれない。なお、上月久右衛門は、高百五十石の中級武士であり、明治2年(1869)より上月久尾と改め、同3年に隠居すると上月湖舟と号した。

中之馬場Ⅲ④屋敷 17世紀後葉以降、出淵氏名義である(第214～217図、第84表)。19世紀以前の遺物とともに井戸から出土した硯(第85表2)に「出淵彦兵衛」と記される。彼は寛政8年(1796)に養子として出淵家を継ぐ。初代出淵平兵衛盛次は柳生但馬守宗矩の門弟で、寛永9年(1632)に福井藩の師範役として召し出された。以降、代々柳生新陰流師範を務めることとなり、流儀の兵法を断絶させないため養子相続が多い。彦兵衛は寛政12年(1800)に師役に付くが、文化2年(1805)に病死する。

中之馬場のその他の人物名 5は、IV⑥屋敷の土坑から17世紀後葉の遺物とともに出土した硯であり、天正5年(1577)の年号とともに「宗泉」と記される。IV街区の④⑥屋敷部分は、僅かながら北庄城期の遺構と遺物が検出された部分であるため、この硯も福井城期の遺構内に混入したことが考えられる。これにより、北庄城期のこの地点に「宗泉」を名のる人物の屋敷があった可能性が出てきた。

3は、廃土中出土の硯である。「本多」と刻んだ後に「本多 倫」と彫り直しているため文字が重複する。おそらく所有者を示すのであろうが、中之馬場には本多氏名義の屋敷は認められない。

8は、V街区の土坑から近代以前の遺物とともに出土した硯であり、「日之下出町／城見」と記される。中之馬場が新屋敷一番町・二番町と合わせて日之下出町となるのは、明治7年(1874)からである。

松原B①・②屋敷 B①屋敷は17世紀前葉に石川対馬、同中葉以降には石川宗左衛門名義となり、B②屋敷は17世紀前葉に石川宗左衛門、同中葉に有賀織部、同後葉に太谷次郎作と変遷する。18世紀には両屋敷が統合されて酒井十之丞の名義となり幕末へ至る(第219図、第86表)。B①屋敷内から14が、B②屋敷裏から13・15・16が出土した。いずれも荷付札のようだが居住者を示すものはない。

13は、17世紀中葉の遺物とともに出土しており、表に「越前宰相内 矢嶋七右衛門」、裏に「十二月十三日江戸」と記される。越前宰相とは結城秀康あるいは松平忠直・忠昌を指すようである。ところが、「源秀康公御家中給帳」「源忠直公御家中給帳」には名が見えず、忠昌の「隆芳院様御代給帳」に高五百石、4代光通の「源光通公御家中給帳」に高六百石とあり、忠昌に随伴して越後高田から来た17世紀中葉頃の人物であると思われる。その後、矢嶋氏は、六代綱昌の「清浄院様御代給帳」では矢嶋左太夫の名で記され、知行高が百石と減少する。しかし、矢嶋氏は、藩主継嗣問題による貞享の大法(あるいは貞享の半知)と呼ばれる事件(1686)により藩士のほぼ全員の知行高が半減するが、七代吉品の「探源院様御再勤後給帳」に矢嶋与兵衛の名で百石、11代宗矩の「徳正院様御代御家中帳」では矢嶋左太夫の名で百石とされ、例外的に半減しなかったようである。なお、17世紀中葉の屋敷主である有賀織部の知行高は五百石だったが、貞享の大法により半減した。元禄9年(1696)に跡を継いだ有賀清右衛門は高二百五十石である。さらに、正徳2年(1712)に有賀彦八郎が継ぐ際は二十五人扶持に激減している。

15は「相州傳(あるいは住か)正宗」と記されており、日本刀の五箇伝のうち相模国を拠点とした代表的な刀工を指す。17世紀後半の遺物とともに出土したことから、時間的には初代正宗から数えて11代目に当たる伊勢大掾綱廣を指す。しかし、7代目に北条氏綱に召し出され、綱廣と号して以降は「相州住綱廣」を名乗るようであり、伊勢大掾綱廣はその5代目に当たる。そのため、同時代の人物を指すのではなく、伝世される正宗の作刀を納めた容器等に付けられた札であったことが考えられる。17世紀後葉の屋敷名義が大谷次郎作であり、彼が名刀の所有者なのかかもしれない。

14は、17世紀後半の遺物とともに出土し、「□(前)川五郎兵衛様」と記される。16は、17世紀初頭の遺物とともに出土し、「治傳右衛門」と記される。これらの出土した屋敷は異なるが、どちらも同じ石川氏名義の際に廃棄された遺物である。14は、名前に敬称が付くため宛名のようなものである。16は、はじめの一字がやや離れて書かれており、姓を示すのか、あるいは別のことを示すのか不明である。

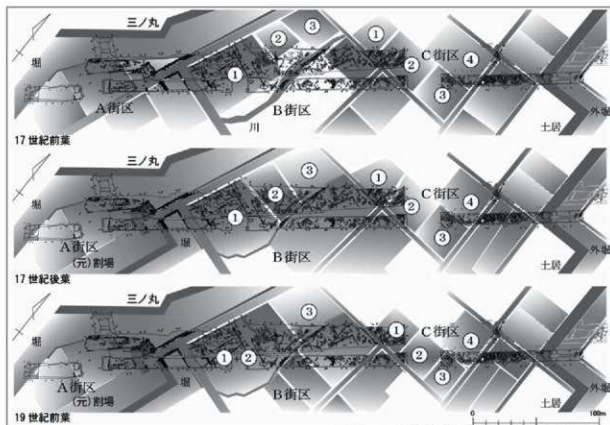
松原C②屋敷 17世紀前葉には羽中田縫殿之助、同中葉に石黒源五左衛門、18世紀前葉には河合茂左衛門、同後葉以降は梁氏邸と名義が変遷する(第219図、第86表)。17の「山田五右衛門」等と墨書のある木製品と、18の「□(吉) 吉田吉五 □」と刻まれた硯が、19世紀半ばまでの遺物とともに出土した。

17に記された山田五右衛門は、高十五石三人扶持の中級武士であり、屋敷の変遷は不明瞭であるが、幕末期以降には松原の滝ヶ鼻にあったようである。

18は状態が悪く、名前の下半が不明瞭である。名前の上に一字分けて「吉」のような文字があり、そのため「吉」がほぼ等間隔に三つ並んで見える。そして「田」「五」はやや潰れた形で「吉」より横に広い。そのため、並んだ「吉」の間を後から埋めて人名としたように見える。示そうとした可能性のある19世紀前半の人物は、吉田喜左衛門もしくは吉田五左衛門がいる。彼らの当時の屋敷は、喜左衛門が松原の観音町、五左衛門が城ノ橋の小道具町にある。ただし、「吉」の間にたんに思い付いた文字を加えたようでもあり、必ずしも実在の人物や所有者を示すのではないとも考えられる。

松原C③屋敷 途中、屋敷地の形状や面積が変更されるが、17世紀中葉から19世紀前葉まで柳下氏の名義で存続する(第219図、第86表)。屋敷北西隅付近の境溝から、18世紀後葉から19世紀の遺物とともに迷子札(第85表19)が出土した。迷子札は小判形の銅板によるもので、上部に楕円形の孔が開く。札の表に記された「天草町／柳下勘七 忒／久之丞」は住所と親・本人の名であるが、裏の線刻画は本人が亥年生まれであることを示している可能性がある。柳下久之丞の名は、安政5年(1858)以降に使用された「戊午屋鋪絵図(福井藩家中屋鋪絵図)」の神明前鷹匠町にも確認できる。一方、柳下勘七は、福井城下きっての武芸の達人であり、剣術は新影幕屋流、柔術は柔気流、槍術は宝蔵院流および大内流、居合は竹内流を究めたという。この勘七は安永7年(1778)に家督を継いでおり、「戊午屋鋪絵図」に現れる久之丞とはやや年代的に開きがあるように思われる。ただし、正徳4年(1714)の「御城下之絵図」にも柳下勘七と記されるので、名前の勘七や久之丞が屋号のように使われたことが考えられ、必ずしも同一人物の久之丞ではないのかもしれない。なお、文政5年(1822)に、処分はなかったが、勘七の息子兵吉が松原傳五右衛門の息子傳次郎とともに芝原上水で水浴びをして、上水奉行に摘発される事件が起きた。兵吉は迷子札の久之丞の兄弟だろうか。

下馬門内屋敷(第220図) 17世紀前葉には本多七左衛門、同後半は酒井与三左衛門、飯田主米、稲垣安右衛門、18世紀前葉には天方五郎左衛門、同後葉に嶋田清左衛門、19世紀初頭には中川氏、同前葉に松原氏、同中葉に北川亘之介と頻繁に変遷しており、17世紀中葉以降は松原氏の他は寄合席の人員で



第219図 松原屋敷地の変遷 (縮尺1/3000)

※便宜上、2009年報告書の第185図の街区・垣数番号を振り直した。

「本多七左衛門」邸 慶長18年(1613)頃
「越前北ノ庄城ノ図」松平文庫(福井県立図書館保管)「磯野」邸 文化8年(1811)
「福井分間之図」松平文庫(福井県立図書館保管)

第220図 「本多七左衛門」邸・「磯野」邸の位置

第286表 松原(調査地周辺)の屋敷地名義の変遷

	B街区①	B街区②	B街区③	C街区①	C街区②	C街区③	C街区④
慶長18年頃 (1613)	石川対馬	石川宗左衛門	林忠左衛門		羽中田縫殿之助		山上右近
万治2年以前 (1659)	石川宗左衛門	()	山上十左衛門	杉田主水与力	石黒左衛門	柳下六之丞	多賀谷与力
寛文年間 (1661~69)	石川義左衛門	有賀織部	山上十左衛門	杉田主水与力	石黒左衛門	柳下六之丞	周美路左衛門 (貼紙が剥落)
寛文10年 (1670)	石川平兵衛	有賀織部	山上十左衛門	()	()	()	()
貞享2年 (1685)	石川宗左衛門	太谷次郎作	織田勢治平	杉田主水与力	石黒左衛門	柳下喜左衛門	成瀬嘉右衛門
正徳4年 (1714)		酒井十之丞	溝口権四郎	愛治八市郎	河合茂左衛門	柳下勘七	成瀬平左衛門
安永4年 (1775)		酒井十之丞	溝口四右衛門	()	梁兵右衛門	()	()
享和3年 (1803)		酒井	溝口	田中	梁	柳下	成瀬
文化8年 (1811)		酒井	溝口	矢野	梁	柳下 (貼紙剥、輪印)	成瀬
慶応年間 (1865~68)		酒井十之丞	溝口兵三郎	矢野九兵衛	梁十左衛門	脇田久右衛門	成瀬幸右衛門

占められている。この屋敷は城の大手に当たる位置にあるため、寄合席から役職としての城代は輩出されないが、ここに住まい城の入口を固めるようなことが藩の重役の一つとして交替でなされたのかも知れない。三ノ丸の清水門内と切手門前に寄合席の屋敷が配されるのも同じ理由であろう。この屋敷から人名のように見える墨書のある木製品がいくつか出土したが、そのうち2点(20・21)をあげる。

20は、表に「口(酒もしくは嶋)田久右衛門殿 〇」裏に「蜜柑百入」と記された荷付札である。17世紀後半の遺物とともに出土しており、概ね稲葉氏名義の頃に該当する。ただし、この稲垣安右衛門は、貞享の大法後の元禄元年(1688)に養子が安右衛門、高四百石を継いでいる。その際に屋敷の移動等があったか否かは不明であり、この荷付札は次の居住者による廃棄物の可能性もある。

21は、17世紀初頭の遺物とともに出土しており、「本多七左衛門」と記される。慶長18年頃(1613)福井藩の城代を務めていた本多七左衛門を示す。彼は、三河国出身で秀康の代から仕えており、「源秀康公御家中給帳」に六百石、「源忠直公御家中給帳」に千石とある。寛永元年(1624)忠直の嫡男仙千代(光長)が、忠直実弟の松平忠昌と領知換えとなり越後高田へ移封された際、同行して北ノ庄を去った。

倉人門内屋敷(北側)(第220図) 神明前御泉水町北西端に当たる。17世紀前葉に永見右衛門邸であったが、同中葉には屋敷が南北に二分され、北屋敷は浅川弥左衛門邸となる。そして同後葉には堀新左衛門邸となる。18世紀初頭には南北の屋敷とも御泉水屋敷に含まれるが、同後葉に再び分割され、北屋敷は磯野氏邸となり幕末まで存続する。22は、屋敷西側の北辺付近の溝から出土した瀬戸皿で、底部に「磯野」の墨書がある。磯野氏は、松岡藩併合の調整等により18世紀第2四半期のうちに知行が三度加増して高五百石となり、寄合席を仰せ付かっている。

名前の記された遺物と出土地点の傾向 以上、硯10点、墨書木製品10点、墨書土器1点、銅板製迷子札1点の計22点を確認した。それらに記された名前は、出土した屋敷の居住者(1・2・9・19・21・22)、近隣の居住者(4・6・7・17)、別の曲輪の居住者(11・12・13)、詳細不明の人物(10・14・16・18・20)、居住者の所有物の製作者(15)、異なる時期の人物(3・5・8)のものがある。

名の記された遺物は、出土した屋敷の居住者名である場合すなわち自宅出土の例が最も多く、その内訳は硯3と迷子札、皿(墨書土器)、墨書木製品各1である。これに次ぐ、近隣の居住者名の場合の内訳は硯3、墨書木製品1であり、別の曲輪の居住者名や詳細不明の人物の場合は、いずれも墨書木製品のみである。墨書木製品は、詳細不明者がやや多いが、自宅・近隣の屋敷・別の曲輪の一通りの居住者名を記すものが出土しており、硯や皿等のような製品は、自宅あるいは近隣の屋敷から出土している。

硯は、屋敷の居住者名(1・2・9)、近隣の居住者名(4・6・7)の記されたものがともに3点であり、この他に悲戯書きだと思われる18と、近世以外の人物名(3・5・8)がある。1は、「永見氏」と記された硯が永見邸から出土していることから、贈られた物であることが推測され、永見氏の所有物として問題はない。近隣の居住者名の記された硯はⅡ①屋敷からの出土であり、各自宅からⅡ①屋敷までは200mや300m以上離れている。硯は持ち運びが容易であるため、この距離は所有者による移動も考えられる。ただし、近隣の居住者名を記す3点は、二次的な移動が考えられる出土状況であるので、必ずしもⅡ①屋敷へ持ち込んだものとは言えない。なお、近世以外の人物名はいずれも硯に記されており、近世での傾向を当てはめるなら、出土地付近が自宅あるいは近隣の屋敷となる。

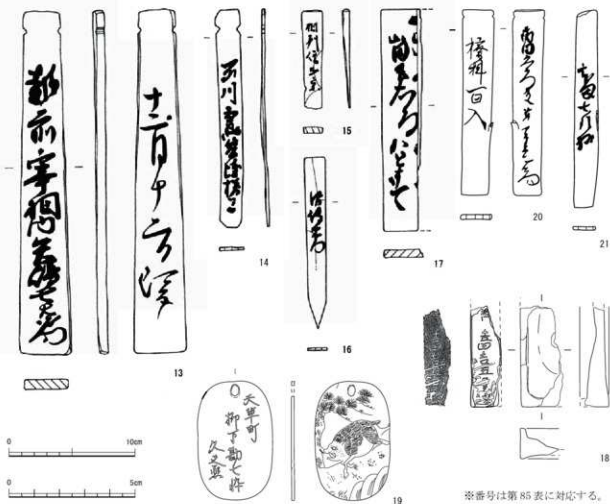
墨書木製品は、屋敷の居住者名(21)、近隣の居住者名(17)が各1点、別の曲輪の居住者名3点(11・12・13)、詳細不明者4点(10・14・16・20)、居住者の所有物の製作者1点(15)である。詳細不明者は、管見で福井藩士中に見つけられなかった人物であり、城外の人物の可能性もある。そのため、屋敷の居

住者を示すものは1点と少なく、出土地から離れた住者を示すもの程多くなるという傾向が認められる。

墨書土器(22)、迷子札(19)は1点ずつであり、ともに屋敷の居住者の名が記される。普段自宅で使用する皿に記名することには疑問を感じるが、引越や法事等の他者と混入するような特殊な場面に対応したのかもしれない。迷子札は、製品の性格上、個人に付属するものであり、所有物と見做すことができ、札とはいっても荷付札等の墨書木製品とは性格が異なる。

今回確認した名の記された遺物は、碗や皿等の所有物と荷付札等墨書木製品の二者に大別することができる。所有物は、基本的に所有者以外の名前が記されることはなく、出土位置は自宅か近隣の屋敷であった。これに対して、主に荷付札とみられる墨書木製品は、記される名前の対象は特定できないものが多いが、自宅や近隣の居住者を示すものは少なく、出土地点から離れた屋敷の居住者の名を記すものが多い。両遺物の性格の違いがそのまま出土する位置の違いとして現れている。

また、今回確認した名前は、藩政に深くかわわる高知席の岡部氏や、寄合席の永見氏、磯野氏らの他に結城秀康・忠直の旧臣本多七左衛門、福井藩お抱えの柳生新陰流師範出淵彦兵衛、武芸達者として勇名を馳せた柳下勘七とその倅久之丞といった、城下では名を知らない人がいなかったような人物たちである。このような名前の記された遺物を目の当たりにするだけでなく、名前から来歴を調べて明らかにすることで、彼らのかつての活躍の様子が想像され、一層身近に感じられるようになる。



第221図 名前の記された遺物 (縮尺1/3、19のみ2/3)

※番号は第85表に対応する。
各報告書より転載。一部改定。

3 おわりに

J R福井駅周辺の連続立体交差事業に伴う発掘調査終了後12年の時を経て、平成25年度末に遺構編を刊行し、13年目にしようやく遺物編の報告を終える。調査の開始から15年になる。この間に、福井駅西口地下駐車場整備、北陸新幹線福井駅部建設等の事業に伴う大規模な発掘調査を実施しており、これらの施設の完成とともに報告を成すことが義務付けられたため、福井駅周辺の最初の大規模事業に伴う発掘調査の報告すなわち本報告の刊行が先送りされたのである。しかし、この間に県と市によって福井城に関する調査が数多くなされたことにより、それまで点的な調査成果を推定線をつないで城郭のおおまかな位置関係を想定していたものが、隣接する調査区の成果をつないで比較的広範囲にわたる面的な成果として把握されるようになってきた。とくに福井駅周辺に当たる中之馬場については、曲輪の形状や道路・街区の位置を、現在の市街地図上に表し得る状況となった。その状況を受け、これまで実施された県と市による福井城に関わる調査や工事立会のうち主に石垣、堀、道路等を検出したものを中心に集成して市街地図上に位置を表し、現段階で復元可能な福井城の城郭平面復元図を公表できたのは幸いであつた(遺構編付図1)。ただし、これまでに多くの屋敷を調査したが、屋敷境溝の他に苑池や水道施設、井戸等を確認したもの、建物の配置やその詳細等が不明瞭なものが多いのは残念である。

遺物は、土器・陶磁器をはじめ、木製品、金属製品、石製品等多数出土したが、いずれも多量により報告できたのは出土総数の半数に満たない。種別ごとに状態の良好なものや特徴的なものを選択して掲載したため、掲載内容がやや偏向的と思われる。なお、石製品のうち硯に名前を記したものが割と多いことに気が付いたことをきっかけに、これまで報告された遺物の中から個人名が記された遺物を集成した。周辺集落からの荷付札等を除くと22例と意外に少なかったのであるが、藩の要職を務める人物や武芸者等の当時有名であったであろう人物の名があることに、驚きとともに親しみが感じられた。

また、福井城の遺構の下層から、北庄城期の遺構・遺物がこれほどまとまって検出されたのは初めてのことである。一条の道路の両側に屋敷が並び、屋敷正面の堀(溝)と石垣や土橋、門址、土塀跡等が確認された。そして、多くの遺構が福井城として築城される際に消滅しているが、一部の道路と溝は、そのまま道路および屋敷境溝として幕末まで存続したことを確認した。貴重な調査例である。

本報告書の完成により、大規模開発に伴う一連の福井城の調査および報告は、ひとたび終了となるはずであった。しかし、北陸新幹線建設事業、えちぜん鉄道の高架化事業が本格的に開始されることになり、それに伴う福井城関連の発掘調査も実施される。いずれも本調査区に隣接するものであり、本成果を補完することになる。そして、中之馬場の東側で実施された市の調査成果等との間を埋める位置に当たり、中之馬場でのこれまでの成果を一体的に理解するうえで不可欠な調査である。

注

- 1 土分は、高知席(17家)、高家(2家)、寄合席(39家)、定坐番外席(12家)の上級武士(約70家)と、番組(約730家)の中級武士に分かれる。残りの藩士が下級武士となる。
- 2 明治14年の復元図と安永4年の絵図を比較すると、多くの部分が共通することがわかる。各櫓・門の向きや角度、松林・竹林と空地の表現、二ノ丸蓮池の形等が共通であり、写したことは明らかである。ただし、明治図は石垣に石材表現や土塀の表現を追加している。安永4年から幕末までに屋敷境が頻繁に変化した箇所と変化しない箇所があるが、明治図では変化した箇所について、安永図の屋敷境に線を追加して屋敷の数を合わせようとしたため、屋敷地の位置や形状が実際とは異なる。
- 3 鈴木半造著 舟澤茂樹校訂1977『福井藩史事典』の「二身分・格式 5定坐番外席」による。また、永見半人の名は、戊午鎮撫図や慶応年間の城下絵図等の城ノ橋に認められる。

追記 入稿後、別の名前が記されたと思われる遺物を確認した。国際交流会館建設に伴う調査で出土しており、出土地は神明前の天王町南側西端の屋敷に当たる。池状遺構の19世紀中頃の遺物を含む埋土中から「中」（村、以下欠）と記された硯が出土している。その屋敷は19世紀初頭には松原氏名義となり、以降明治まで存続する。その3軒東の屋敷が18世紀後葉に中村氏名義となるが、同時期の中村家はほかに神明前の鷹匠町に2軒、松原の天草町に1軒、江戸町の下江戸町に1軒、新屋敷あたりに4軒が確認され、いずれも明治まで存続する。所有者の特定は困難だが、松原邸から新屋敷や江戸町の中村家は直線距離で800m程度離れ、それ以外は350mにおさまる距離である。硯は自宅が近隣の屋敷から出土する傾向が高いため、より近隣からの持ち込みと考えられる。この硯は、近隣のいずれかの中村家の人物が松原邸へ持ち込み、そこで破損したために廃棄されたものと考えられる。

引用・参考文献

- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2004 『福井城跡』—J R 北陸線外2線連続立体交差事業および高架側道4号線街路工事に伴う調査—
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『福井城跡』—国際交流会館建設に伴う発掘調査—
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『福井城跡』—福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査—
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009 『福井城跡』—北陸新幹線福井駅部建設事業に伴う発掘調査—
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2014 『福井城跡』—J R 北陸線外2線連続立体交差事業に伴う調査—第1分冊—遺構編—
- 福井市教育委員会・福井市文化財保護センター 2011 『福井城跡Ⅶ』福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書
- 福井市教育委員会 2012 『福井城跡Ⅷ』福井市立郷土歴史博物館移転新築に伴う発掘調査報告書
- 福井市教育委員会・福井市文化財保護センター 2012 『福井城跡Ⅸ』福井駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ
- 福井県文書館 2013 『福井藩土版歴1』あへえ 福井県文書館資料叢書9
- 福井県文書館 2014 『福井藩土版歴2』おへえ 福井県文書館資料叢書10
- 福井市 1988 『福井市史』資料編4 近世二
- 伊豆蔵庫喜 2008 「中ノ馬場における武家屋敷地の変遷—福井城下の武家地の研究その10—」『福井工業大学研究紀要』第38号 福井工業大学
- 伊豆蔵庫喜 2011 「天草町、永平寺町と観音町における武家屋敷地の変遷—福井城下の武家地の研究その18—」『福井工業大学研究紀要』第41号 福井工業大学
- 伊豆蔵庫喜 吉田純一 2013 「城ノ橋地区における武家屋敷地の変遷その2—福井城下の武家地の研究その23—」『福井工業大学研究紀要』第43号 福井工業大学
- 大石学監修 太田尚宏・中村大介編 1998 『古文書解説事典』文書館へいこう 株式会社東京堂出版
- 鈴木準道著 舟澤茂樹校訂 1977 『福井藩史』歴史図書社
- 藤村聡 2004 「福井藩芝原上水における利用違反の処罰—近世都市における家臣団の位置づけ—」『Image and Identity—Rethinking Japanese Cultural History—』MODERN ECONOMIC & BUSINESS SERIES No1 The Research Institute for Economics and Business Administration Kobe University
- 舟澤茂樹 1976 『福井城下ものがたり』福井PRセンター出版事業部
- 舟澤茂樹 2010 『福井藩』株式会社現代書店
- 舟澤茂樹・松原信之・吉田純一・白崎卓 2001 『福井城下町名ガイドブック』財団法人歴史の見えるまちづくり協会事務局
- 森恒教 1975 『福井藩史話』（上下）福井城の今昔 歴史図書社
- 吉川喜代江 2006 「貞享の半知における家臣団—福井藩政史研究ノート」『福井県文書館研究紀要』第3号 福井県文書館

※掲載した福井城下絵図は、いずれも松本文庫所蔵（福井県立図書館保管）のものである。また、福井城下絵図の確認については、福井県立図書館・文書館HP「福井県立図書館・文書館へようこそ」の「福井県文書館・図書館デジタルアーカイブ」(<http://www.archives.pref.fukui.jp/archive/>)にて、松本文庫の高精細画像を閲覧した。

福井県埋蔵文化財調査報告 第146集

福井城跡

—J R 北陸線外2線連続立体交差事業に伴う調査—

第2分冊 一遺物編一

印刷 平成27年3月6日

発行 平成27年3月13日

発行 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印刷 白崎印刷株式会社

〒910-0843 福井市西園苑3-715
